

IBM

@server

iSeries

OS/400 コマンド

CHGPTR (ポインター変更) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド

CHGPTR (ポインター変更) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、661 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with CHGPTR (Change Pointer)
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

ポインター変更 (CHGPTR)	1	Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	24
パラメーター	1	CHGQSTDBの例	24
変更するポインター (PTR)	2	エラー・メッセージ: CHGQSTDB	24
システム・オブジェクト (SYSOBJ)	2		
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	3	アクセス・パスの回復の変更	
指すアドレス (ADR)	3	(CHGRCYAP)	25
空間中の新しいオフセット (OFFSET)	4	パラメーター	25
プログラム (PGM)	4	システム回復時間 (SYSRCYTIME)	26
ポインター・タイプ (PTRTYPE)	4	ASP回復時間 (ASPRCYTIME)	27
反復レベル (RCRLVL)	5	ASP装置回復時間 (ASPDEVRCY)	27
CHGPTRの例	5	アクセス・パスの組み込み (INCACCPH)	28
エラー・メッセージ: CHGPTR	5	CHGRCYAPの例	28
		エラー・メッセージ: CHGRCYAP	29
パスワード変更 (CHGPWD)	7	RDBディレクトリー項目の変更	
パラメーター	7	(CHGRDBDIRE)	31
CHGPWDの例	7	パラメーター	31
エラー・メッセージ: CHGPWD	7	項目 (RDB)	32
		リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	32
電源オン/オフ・スケジュールの変更		テキスト (TEXT)	33
(CHGPWRSCD)	9	ポート番号またはサービス・プログラム (PORT)	34
パラメーター	9	リモート認証方式 (RMTAUTMTH)	34
CHGPWRSCDの例	9	装置 (DEV)	35
エラー・メッセージ: CHGPWRSCD	9	ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	36
		リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	36
電源スケジュール項目の変更		モード (MODE)	37
(CHGPWRSCDE)	11	トランザクション・プログラム (TNSPGM)	37
パラメーター	11	アプリケーション・リクエスト・ドライバ	
日 (DAY)	11	(ARDPGM)	38
電源オン時刻 (PWRONTIME)	12	CHGRDBDIREの例	38
電源オフ時刻 (PWROFFTIME)	12	エラー・メッセージ: CHGRDBDIRE	38
日付記述 (DAYDESC)	13		
電源オフ前の分数 (MSGITV)	13	リモート定義の変更 (CHGRMTDFN)	41
CHGPWRSCDEの例	13	パラメーター	41
エラー・メッセージ: CHGPWRSCDE	14	システム名 (SYSTEM)	41
		テキスト (TEXT)	42
QUERY属性の変更 (CHGQRYA)	15	会議の案内文書タイプ (MTGNTCDC)	42
パラメーター	15	予定表データ・ストリーム (CALDTASTM)	42
ジョブ名 (JOB)	15	予定表パスワード (RMTCALPWD)	43
QUERY処理時間制限 (QRYTIMLMT)	16	リモート・ユーザー権限 (RMTUSRAUT)	43
並列処理度数 (DEGREE)	16	リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	44
非同期ジョブの使用法 (ASYN CJ)	18	ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	44
CHGQRYAをリモートに適用 (APYRMT)	19	リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	44
QUERY オプション・ファイル・ライブラリー		モード (MODE)	45
(QRYOPTLIB)	19	CHGRMTDFNの例	45
CHGQRYAの例	20	エラー・メッセージ: CHGRMTDFN	46
エラー・メッセージ: CHGQRYA	22		
		リモート・ジャーナルの変更	
Q/Aデータベース変更 (CHGQSTDB)	23	(CHGRMTJRN)	47
パラメーター	23	パラメーター	48
Q/Aデータベース (QSTDB)	23		

リレーショナル・データベース (RDB)	48
ソース・ジャーナル (SRCJRN)	49
ターゲット・ジャーナル (TGJRN)	49
ジャーナル状態 (JRNSTATE)	49
配布 (DELIVERY)	50
開始ジャーナル・レシーバー (STRJRNRCV)	50
送信タスク優先順位 (SNDTSKPTY)	51
非活動状態にする方法 (INACTOPT)	52
CHGRMTJRNの例	52
エラー・メッセージ: CHGRMTJRN	52

システム応答リスト項目変更 (CHGRPYLE) 57

パラメーター	57
順序番号 (SEQNBR)	58
メッセージ識別コード (MSGID)	58
比較データ (CMPDTA)	58
メッセージ応答 (RPY)	59
送信元ジョブのダンプ (DUMP)	59
コード化文字セットID (CCSID)	60
CHGRPYLEの例	60
エラー・メッセージ: CHGRPYLE	61

ROUTED属性の変更 (CHGRTDA) 63

パラメーター	63
自動開始 (AUTOSTART)	63
提供 (SUPPLY)	64
CHGRTDAの例	64
エラー・メッセージ: CHGRTDA	64

経路指定項目変更 (CHGRTGE) 67

パラメーター	67
サブシステム記述 (SBSD)	68
経路指定項目の順序番号 (SEQNBR)	68
比較データ (CMPVAL)	68
呼び出すプログラム (PGM)	69
クラス (CLS)	70
活動経路指定ステップの最大数 (MAXACT)	70
記憶域プール識別コード (POOLID)	71
スレッド資源の類縁性 (THDRSCAFN)	71
資源の類縁性グループ (RSCAFNGRP)	72
CHGRTGEの例	72
エラー・メッセージ: CHGRTGE	72

RWS制御装置パスワードの変更 (CHGRWSPWD) 75

パラメーター	75
制御装置記述 (CTLD)	75
リモート・パスワード (RMTPWD)	75
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	76
モード (MODE)	76
CHGRWSPWDの例	76
エラー・メッセージ: CHGRWSPWD	77

S/36構成の変更 (CHGS36) 79

パラメーター	79
--------	----

CHGS36の例	79
エラー・メッセージ: CHGS36	79

S/36環境属性の変更 (CHGS36A) 81

パラメーター	81
省略時のセッション・ライブラリー (SLIB)	82
省略時のファイル・ライブラリー (FLIB)	82
ファイルのライブラリー・リストの使用 (LIBL)	82
日付区分ファイル (DATDIFF)	83
S/36のファイルの共用オープン (S36ESHARE)	83
共用ファイル・レコードのブロック化 (RCDBLK)	83
キャッシュへの削除ファイルの記憶 (CACHEDLTF)	83
省略時のページ当たり行数 (LPPAGE)	84
用紙タイプ (FORMTYPE)	84
省略時のメッセージの処置 (DFTMSGACN)	84
停止オプション (HALTOPT)	85
呼び出しジョブの開始 (EVKJOBINIT)	85
呼び出し記憶域プール (EVKJOBPOL)	86
呼び出しジョブ優先順位 (EVKJOBPTY)	86
ソース・ファイル・レコード長 (SRCRCLEN)	86
活動時にCHGS36使用可能(CHGACT)	86
S/36ユーザーのみの追加(ADDS36ONLY)	87
ICFプロシージャー・データの置換(ICFSUBST)	87
MRTユーザー・プロファイル (MRTUSRPRF)	87
ファイルに対する権限検査 (MRTAUT)	88
MRT遅延値 (MRTDLY)	88
MRTジョブ開始 (MRTJOBINIT)	88
MRT記憶域プール (MRTJOBPOL)	88
MRTジョブ優先順位 (MRTJOBPTY)	89
CHGS36Aの例	89
エラー・メッセージ: CHGS36A	89

S/36メッセージ・リストの変更 (CHGS36MSGL) 91

パラメーター	91
メッセージ・リスト (MSGL)	92
省略時の処置 (DFTACN)	93
有効範囲 (SCOPE)	93
CHGS36MSGLの例	94
エラー・メッセージ: CHGS36MSGL	95

S/36プログラム属性変更 (CHGS36PGMA) 97

パラメーター	97
S/36プログラム (PGM)	97
最大MRT (MRTMAX)	97
非終了プログラム (NEP)	98
CHGS36PGMAの例	98
エラー・メッセージ: CHGS36PGMA	98

S/36プロシージャー属性変更 (CHGS36PRCA) 101

パラメーター	101
S/36 プロシージャー・メンバー (MBR)	101
ソース・ファイル (FILE)	101

MRTプロシージャー (MRT)	102
MRT遅延 (MRTDLY)	102
ログOCLステートメント (LOG)	102
プログラム・データを含む (PGMDTA)	103
論理レコード長 (RCDLEN)	103
参照番号 (REFNBR)	103
CHGS36PRCAの例	103
エラー・メッセージ: CHGS36PRCA	104

S/36ソース属性変更 (CHGS36SRCA) 105

パラメーター	105
S/36ソース・メンバー (MBR)	105
ソース・ファイル (FILE)	105
ソース仕様タイプ (SRCTYPE)	106
参照番号 (REFNBR)	107
論理レコード長 (RCDLEN)	107
装置の最大数 (MAXDEV)	108
書き出し据え置き (DFRWRT)	108
CHGS36SRCAの例	108
エラー・メッセージ: CHGS36SRCA	109

保管ファイル変更 (CHGSAVF) 111

パラメーター	111
保管ファイル (FILE)	111
最大レコード数 (MAXRCDS)	112
テキスト'記述' (TEXT)	112
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	112
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	113
CHGSAVFの例	113
エラー・メッセージ: CHGSAVF	113

サブシステム記述変更 (CHGSBSD) 115

パラメーター	115
サブシステム記述 (SBSD)	116
記憶域プール (POOLS)	117
ジョブの最大数 (MAXJOBS)	118
テキスト'記述' (TEXT)	118
サインオン表示ファイル (SGNDSPF)	118
サブシステム・ライブラリー (SYSLIBL)	119
CHGSBSDの例	120
エラー・メッセージ: CHGSBSD	120

検索見出しの変更 (CHGSCHIDX) 121

パラメーター	121
検索見出し (SCHIDX)	121
画面タイトル (TITLE)	122
テキスト'記述' (TEXT)	122
文字識別コード (CHRID)	122
CHGSCHIDXの例	123
エラー・メッセージ: CHGSCHIDX	123

機密保護属性の変更 (CHGSECA) 125

パラメーター	125
ユーザーID番号 (UID)	126
グループID番号 (GID)	126
CHGSECAの例	126

エラー・メッセージ: CHGSECA	126
--------------------	-----

機密保護監査の変更 (CHGSECAUD) 127

パラメーター	127
QAUDCTLシステム値 (QAUDCTL)	127
監査値 (QAUDLVL)	128
初期ジャーナル・レシーバー (INLJRNRCV)	134
CHGSECAUDの例	134
エラー・メッセージ: CHGSECAUD	135

共用記憶域プールの変更

(CHGSHRPOOL) 137

パラメーター	137
プール識別コード (POOL)	138
記憶域サイズ (SIZE)	138
活動レベル (ACTLVL)	139
ページ送りオプション (PAGING)	139
テキスト'記述' (TEXT)	139
最小ページ不在数 (MINFAULT)	139
スレッド・ページ不在当たり (JOBFAULT)	140
最大ページ不在数 (MAXFAULT)	140
優先順位 (PTY)	140
最小サイズ% (MINPCT)	141
最大サイズ% (MAXPCT)	141
CHGSHRPOOLの例	141
エラー・メッセージ: CHGSHRPOOL	141

SNMP属性の変更 (CHGSNMPA) 143

パラメーター	143
システム連絡先 (SYSCONTACT)	144
システム場所 (SYSLOC)	144
承認トラップの送信 (SNDAUTTRP)	145
自動開始 (AUTOSTART)	145
オブジェクト・アクセス (OBJACC)	145
SET要求のログ (LOGSET)	146
GET要求のログ (LOGGET)	146
トラップのログ (LOGTRP)	146
トラップ管理機能 (TRPMGR)	147
CHGSNMPAの例	147
エラー・メッセージ: CHGSNMPA	148

スプール・ファイル属性変更

(CHGSPLFA) 149

パラメーター	150
スプール・ファイル (FILE)	152
ジョブ名 (JOB)	152
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	152
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	153
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	153
ファイル選択 (SELECT)	154
ASP装置 (ASPDEV)	155
印刷装置 (DEV)	155
印刷順序 (PRTSEQ)	156
用紙タイプ (FORMTYPE)	156
コピー枚数 (COPIES)	156
印刷の再始動 (RESTART)	157

ボリューム (VOL)	157
ファイル・ラベル (LABEL)	158
出力待ち行列 (OUTQ)	158
ファイル区切り (FILESEP)	159
印刷ページ範囲 (PAGERANGE)	159
スプール出力スケジュール (SCHEDULE)	159
保管ファイル (SAVE)	160
出力優先順位 (OUTPTY)	160
ユーザー・データ (USRDTA)	160
ページの位置合わせ (ALIGN)	161
印刷品質 (PRTQLTY)	161
用紙送り (FORMFEED)	161
ソース用紙入れ (DRAWER)	162
印刷精度 (FIDELITY)	162
両面印刷 (DUPLEX)	163
面当たりページ数 (MULTIUP)	163
ページ定義 (PAGDFN)	163
用紙定義 (FORMDF)	164
AFP文字 (AFPCHARS)	165
前面オーバーレイ (FRONTOVL)	165
背面オーバーレイ (BACKOVL)	166
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	167
ユーザー定義データ (USRDFNDTA)	168
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	168
IPDSパススルー (IPDSPASTHR)	169
形式設定用フォント解像度 (FNTRSL)	170
ディスク・ファイル交換タイプ (EXCHTYPE)	170
コード (CODE)	171
CHGSPLFAの例	171
エラー・メッセージ: CHGSPLFA	172

ソース物理ファイル変更 (CHGSRCPF) 175

パラメーター	175
物理ファイル (FILE)	176
システム (SYSTEM)	176
メンバーの満了日 (EXPDATE)	177
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	177
アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	177
アクセス・パスの保守 (MAINT)	178
アクセス・パス回復 (RECOVER)	179
強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)	179
メンバー・サイズ (SIZE)	179
記憶域割り振り (ALLOCATE)	180
入れたい記憶装置 (UNIT)	181
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	181
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	181
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	182
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	182
許される削除レコードの最大% (DLTPCT)	182
テキスト'記述' (TEXT)	183
コード化文字セットID (CCSID)	183
CHGSRCPFの例	183
エラー・メッセージ: CHGSRCPF	184

サービス属性の変更 (CHGSRVA) 185

パラメーター	185
--------	-----

システム使用不可報告 (SYSDSBRPT)	186
システム使用不可コールバック (SYSDSBCB)	186
問題の自動分析 (ANZPRBAUTO)	186
問題の自動報告 (RPTPRBAUTO)	187
問題の報告先 (RPTSRVPVD)	187
サービス提供元接続 (SRVPVDCNN)	188
PTF導入タイプ (PTFINSTYP)	188
データ・パケットの送信 (SNDDTAPKT)	188
ユーザーへの重要メッセージ (CRITMSGUSR)	189
CHGSRVAの例	190
エラー・メッセージ: CHGSRVA	190

サービス・エージェントの変更

(CHGSRVAGT) 191

パラメーター	191
タイプ(TYPE)	192
報告のブロック(BLKPRBRPT)	194
ブロック期間(PERIOD)	194
無視(IGNPRB)	194
ジョブ・ログの作成(CRTJOBLOG)	195
即時分析(ANZIMMED)	195
分析開始日(ANZSTRDATE)	195
分析開始時刻(ANZSTRTIME)	196
使用可能範囲(ENBCVG)	196
範囲開始時刻(CVGSTRTIME)	196
範囲終了時刻(CVGENDTIME)	196
コールオーバーの週末(WEEKEND)	197
データ(DATA)	197
現行パスワード(CURPWD)	197
新しいパスワード(NEWPWD)	197
確認パスワード(VFYPWD)	198
サブタイプ(SUBTYPE)	198
処置(ACTION)	198
装置(DEVICE)	198
カテゴリ(CATEGORY)	199
センス・バイトの形式(SENSEFMT)	199
エラー・クラス(RPTERRCLS)	199
システム参照コード(SYSREFCDE)	201
活動状態(ADDACTIVE)	202
しきい値(ADDTHRESH)	202
グループ(ADDGROUP)	202
テキスト(ADDTEXT)	202
活動状態(CHGACTIVE)	202
しきい値(CHGTHRESH)	203
グループ(CHGGROUP)	203
テキスト(CHGTEXT)	203
システム参照コードの範囲(RANGE)	204
CHGSRVAGTの例	204
エラー・メッセージ: CHGSRVAGT	204

サービス・エージェント属性の変更

(CHGSRVAGTA) 205

パラメーター	205
タイプ(TYPE)	206
情報収集(COLINF)	206
接続タイプ(CNNTYPE)	206

収集時刻(COLSCD TIME)	207
送信時刻(SNDSCD TIME)	207
自動報告(AUTORPT)	207
プロダクト活動ログ分析(PALANZ)	208
実行優先順位(RUNPTY)	209
通知ユーザーID(NOTIFYUSR)	209
自動PTF(AUTOPTF)	210
自動テスト(AUTOTEST)	211
回線制御(LINECTL)	212
リモート問題の報告(RPTRMTPRB)	213
活性化パスワード(ACTPWD)	214
問題の報告先(SRPVVDID)	214
CHGSRVAGTAの例	214
エラー・メッセージ：CHGSRVAGTA	215

サービス構成の変更 (CHGSRVCFG) 217

パラメーター	217
接続タイプ (CNNTYPE)	218
2地点間タイプ (PTPTYPE)	218
仮想プライベート・ネットワーク・タイプ (VPNTYPE)	218
サービス (SERVICE)	219
非活動タイマー (INACTTMR)	219
国別または地域ID (CNTRYID)	219
都道府県コード (STATE)	220
PRIMARY TELEPHONE NUMBER (TELNBR1)	220
ALTERNATE TELEPHONE NUMBER (TELNBR2)	220
資源名 (RSRCNAME)	221
モデム情報名 (MODEM)	221
リモート・システム (RMTSYS)	222
ISPプロファイル名 (ISPPRF)	222
他への接続性 (CNNPNT)	222
CHGSRVCFGの例	223
エラー・メッセージ：CHGSRVCFG	223

サービス・プログラムの変更 (CHGSRVPGM) 225

パラメーター	225
サービス・プログラム (SRVPGM)	226
サービス・プログラムの最適化 (OPTIMIZE)	226
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	227
借用権限の使用 (USEADPAUT)	228
識別情報の除去 (RMVOBS)	228
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)	229
プロファイリング・データ (PRFDTA)	230
テラスペース (TERASPACE)	230
強制再作成 (FRCCRT)	231
テキスト'記述' (TEXT)	231
LICオプション (LICOPT)	231
CHGSRVPGMの例	232
エラー・メッセージ：CHGSRVPGM	233

セッション最大数の変更 (CHGSSNMAX) 235

パラメーター	236
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	236

最大セッション (MAXSSN)	236
装置 (DEV)	236
モード (MODE)	237
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	237
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	237
CHGSSNMAXの例	238
エラー・メッセージ：CHGSSNMAX	238

サーバー権限項目の変更 (CHGSVRAUTE) 239

パラメーター	239
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	239
サーバー (SERVER)	239
ユーザー識別コード (USRID)	240
ユーザー・パスワード (PWD)	240
CHGSVRAUTEの例	240
エラー・メッセージ：CHGSVRAUTE	241

システム・ディレクトリー属性の変更 (CHGSYSDIRA) 243

パラメーター	243
検索のタイプ (SCHTYPE)	244
検索プログラム (SCHPGM)	244
妥当性検査プログラム (VRFPGM)	245
供給元プログラム (SUPPGM)	246
再試行間隔 (RTYITV)	246
再試行限界 (RTYLMT)	247
ネットワーク・ユーザーIDの表示 (ALWDSPNUI)	247
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	247
リモート・ユーザーのシャドウ化 (RMTSHD)	248
シャドーイング・ジョブ・ログの除去 (RMVJOBLOG)	248
検索可能 (ALWSCH)	248
ユーザー定義フィールド(USRDFNFLD)	249
CHGSYSDIRAの例	250
エラー・メッセージ：CHGSYSDIRA	250

システム・ジョブの変更 (CHGSYSJOB) 251

パラメーター	251
ジョブ名 (JOB)	251
実行優先順位 (RUNPTY)	251
CHGSYSJOBの例	252
エラー・メッセージ：CHGSYSJOB	252

システム・ライブラリー・リスト変更 (CHGSYSLIBL) 253

パラメーター	253
ライブラリー (LIB)	253
オプション (OPTION)	253
CHGSYSLIBLの例	254
エラー・メッセージ：CHGSYSLIBL	254

システム値変更 (CHGSYSVAL) 255

パラメーター	258
システム値 (SYSVAL)	258

新しい値 (VALUE)	285
CHGSYSVALの例	285
エラー・メッセージ: CHGSYSVAL	286

テープ・カートリッジの変更 (CHGTAPCTG) 289

パラメーター	289
ライブラリー装置 (DEV)	289
カートリッジID (CTG)	289
カテゴリー (CGY)	290
CHGTAPCTGの例	291
エラー・メッセージ: CHGTAPCTG	291

テープ・ファイル変更 (CHGTAPF) . . . 293

パラメーター	293
ファイル (FILE)	294
装置 (DEV)	294
ボリューム識別コード (VOL)	295
テープ・リール仕様 (REELS)	295
順序番号 (SEQNBR)	296
テープ・ラベル (LABEL)	297
テキスト'記述' (TEXT)	297
レコード長 (RCDLEN)	297
ブロックの長さ (BLKLEN)	298
バッファー・オフセット (BUFOFSET)	299
レコードのブロック形式 (RCDBLKFM)	299
ファイル拡張 (EXTEND)	301
テープ密度 (DENSITY)	301
データ短縮 (COMPACT)	305
コード (CODE)	305
作成日 (CRTDATE)	306
ファイル満了日 (EXPDATE)	306
テープ終了オプション (ENDOPT)	306
ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)	307
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	307
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	308
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	308
例	308
エラー・メッセージ	309

TCP/IP属性の変更 (CHGTCPA) 311

パラメーター	312
TCP活動保存 (TCPKEEPALV)	313
TCP緊急ポインター (TCPURGPTR)	313
TCP受信バッファー・サイズ (TCPRCVBUF)	314
TCP送信バッファー・サイズ (TCPSNDBUF)	315
TCP R1 RETRANSMISSION COUNT (TCPR1CNT)	315
TCP R2 RETRANSMISSION COUNT (TCPR2CNT)	315
TCP最小再伝送時間 (TCPMINRTM)	316
TCP クローズ待ち時間タイムアウト (TCPCLOTIMO)	316
TCP接続クローズ・メッセージ (TCPNNMSG)	316
UDPチェックサム (UDPCKS)	317
パスMTUディスカバリー (IPPATHMTU)	317
IPデータグラムの転送 (IPDTGFWD)	318
IPソース経路指定 (IPSRCRTG)	318

IP再組み立てタイムアウト (IPRSBTIMO)	319
IP有効時間 (ホップ限界) (IPTTL)	319
IP QOS使用可能化 (IPQOSEN)	319
IP非活動ゲートウェイの検出 (IPDEADGATE)	320
ARPキャッシュ・タイムアウト (ARPTIMO)	320
ECNを使用可能にする (ECN)	320
ネットワーク・ファイル・キャッシュ (NFC)	321
プロトコル・エラーのログ (LOGPCLERR)	322
IP QOSデータグラムのバッチ化 (IPQOSBCH)	322
IP QOSタイマーの解像度 (IPQOSTMR)	322
CHGTCPAの例	323
エラー・メッセージ: CHGTCPA	323

TCP/IPドメインの変更 (CHGTCPDMN) 325

ローカル・ドメインおよびリモートDNS情報の変更	325
パラメーター	325
ホスト名 (HOSTNAME)	325
ドメイン名 (DMNNAME)	326
ドメイン検索リスト (DMNSCHLIST)	326
ホスト名検索優先順位 (HOSTSCHPTY)	327
IPアドレス (INTNETADR)	327
ポート (PORT)	327
プロトコル (PROTOCOL)	328
初期ドメイン・ネーム・サーバー (INLDMNSVR)	328
ドメイン・ネーム・サーバー再試行 (DMNSVRRTY)	329
CHGTCPDMNの例	329
エラー・メッセージ	330

TCP/IP ホスト・テーブル項目の変更 (CHGTCPHTE) 331

TCP/IPを使用したAPPCの関連情報	331
パラメーター	332
IPアドレス (INTNETADR)	332
ホスト名 (HOSTNAME)	332
テキスト'記述' (TEXT)	334
CHGTCPHTEの例	334
エラー・メッセージ: CHGTCPHTE	335

TCP/IPインターフェースの変更 (CHGTCPIFC) 337

パラメーター	338
IPアドレス (INTNETADR)	338
回線記述 (LIND)	338
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	340
関連したローカル・インターフェース (LCLIFC)	340
TYPE OF SERVICE (TOS)	341
最大送信単位 (MTU)	341
自動開始 (AUTOSTART)	343
PVC論理チャネル識別コード (PVCLGLCHLI)	343
X.25アイドル回線タイムアウト (IDLVCTIMO)	344
X.25最大回線接続 (MAXSVC)	344
X.25 DDNインターフェース (DDN)	344
TRLANビット順序づけ (BITSEQ)	345
CHGTCPIFCの例	345
エラー・メッセージ: CHGTCPIFC	346

TCP/IP経路の変更 (CHGTCPRTE) 347

パラメーター	347
経路宛先 (RTEDEST)	348
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	348
TYPE OF SERVICE (TOS)	349
次のホップ (NEXTHOP)	349
優先バインド・インターフェース (BINDIFC)	350
最大送信単位 (MTU)	350
経路メトリック (METRIC)	351
経路再配分 (REDST)	351
重複経路優先順位 (DUPRTEPTY)	352
CHGTCPRTEの例	352
エラー・メッセージ: CHGTCPRTE	352

TCP/IPサーバーの変更 (CHGTCPSVR) 355

パラメーター	355
サーバー特殊値 (SVRSPCVL)	355
呼び出すプログラム (PGM)	356
サーバー名 (SVRNAME)	356
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	356
自動開始 (AUTOSTART)	357
テキスト'記述' (TEXT)	357
エラー・メッセージ: CHGTCPSVR	357

TFTP属性の変更 (CHGTFTPA) 359

パラメーター	359
自動開始サーバー (AUTOSTART)	359
サブネット・ブロードキャスト使用可能化 (ENBBICAST)	360
サーバー・ジョブ数 (NBRSVR)	360
サーバー非活動タイマー (INACTTMR)	361
ASCII SINGLE BYTE CCSID (CCSID)	362
最大ブロック・サイズ (MAXBLKSIZE)	362
接続応答タイムアウト (RSPTIMO)	362
ファイル書き込み可能 (ALWVRT)	363
割り当てられたディレクトリー (ALTSRCDIR)	363
代替ターゲット・ディレクトリー (ALTTGDIR)	364
CHGTFTPAの例	364
エラー・メッセージ	365

時間帯記述変更 (CHGTIMZON) 367

パラメーター	367
時間帯記述 (TIMZON)	368
オフセット (OFFSET)	368
標準時間 (STDNAME)	368
夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)	369
標準時間メッセージ (STDMMSG)	369
夏時間調整時間メッセージ (DSTMSG)	370
メッセージ・ファイル (MSGF)	370
夏時間調整時間開始 (DSTSTR)	370
夏時間調整時間終了 (DSTEND)	372
テキスト'記述' (TEXT)	373
CHGTIMZONの例	374
エラー・メッセージ: CHGTIMZON	374

ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD) 375

パラメーター	375
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	375
オブジェクト監査値 (OBJAUD)	375
ユーザー処置の監査 (AUDLVL)	376
CHGUSRAUDの例	377
エラー・メッセージ: CHGUSRAUD	378

ユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF) 379

パラメーター	379
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	381
ユーザー・パスワード (PASSWORD)	381
パスワードを満了にセット (PWDEXP)	382
状況 (STATUS)	382
ユーザー・クラス (USRCLS)	383
援助レベル (ASTLVL)	384
現行ライブラリー (CURLIB)	384
呼び出す初期プログラム (INLPGM)	385
初期メニュー (INLMNU)	385
制限機能 (LMTCPB)	386
テキスト'記述' (TEXT)	387
特殊権限 (SPCAUT)	387
特殊環境 (SPCENV)	389
サインオン情報の表示 (DSPSGNINF)	389
パスワード満了間隔 (PWDEXPITV)	389
ローカル・パスワード管理 (LCLPWDGMT)	390
装置セッション限界 (LMTDEVSSN)	390
キーボード・バッファー方式 (KBDBUF)	390
最大許容記憶域 (MAXSTG)	391
最高スケジュール優先順位 (PTYLMT)	392
ジョブ記述 (JOBID)	392
グループ・プロファイル (GRPPRF)	392
所有者 (OWNER)	393
グループ権限 (GRPAUT)	393
グループ権限タイプ (GRPAUTTYP)	394
補足グループ (SUPGRPPRF)	394
会計コード (ACGCDE)	395
文書パスワード (DOCPWD)	395
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	396
配布 (DLVRY)	396
重大度コード・フィルター (SEV)	397
印刷装置 (PRTDEV)	397
出力待ち行列 (OUTQ)	397
アテンション・プログラム (ATNPGM)	398
分類順序 (SRTSEQ)	399
言語識別コード (LANGID)	400
国別または地域ID (CNTRYID)	400
コード化文字セットID (CCSID)	400
文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)	401
ロケール・ジョブ属性 (SETJOBATR)	401
ロケール (LOCALE)	402
ユーザー・オプション (USROPT)	402
ユーザーID番号 (UID)	403
グループID番号 (GID)	403
ホーム・ディレクトリー (HOMEDIR)	404
EIM関連 (EIMASSOC)	404

CHGUSRPRFの例	406
エラー・メッセージ： CHGUSRPRF	406

ユーザー印刷情報の変更 (CHGUSRPRTI) 409

パラメーター	409
ユーザー (USER)	409
ユーザー定義のテキスト (TEXT)	409
CHGUSRPRTIの例	410
エラー・メッセージ： CHGUSRPRTI	410

ユーザー追跡の変更 (CHGUSRTRC) 411

パラメーター	411
ジョブ名 (JOB)	411
追跡バッファの消去 (CLEAR)	412
使用最大記憶域 (MAXSTG)	412
追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)	412
CHGUSRTRCの例	413
エラー・メッセージ： CHGUSRTRC	413

変数変更 (CHGVAR) 415

パラメーター	418
CL変数名 (VAR)	418
新しい値 (VALUE)	418
CHGVARの例	419
エラー・メッセージ： CHGVAR	420

ワークステーション項目変更 (CHGWSE) 421

パラメーター	421
サブシステム記述 (SBSD)	422
ワークステーション名の処理 (WRKSTN)	422
ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYPE)	423
ジョブ記述 (JOB)	424
活動ジョブの最大数 (MAXACT)	424
割り振り (AT)	425
CHGWSEの例	425
エラー・メッセージ： CHGWSE	425

書き出しプログラム変更 (CHGWTR) 427

パラメーター	427
書き出しプログラム (WTR)	428
出力待ち行列 (OUTQ)	428
用紙タイプ・オプション (FORMTYPE)	428
ファイル区切り (FILESEP)	430
分離ページの用紙入れ (SEPDRAWER)	430
書き出しプログラム変更時点 (OPTION)	430
CHGWTRの例	431
エラー・メッセージ： CHGWTR	431

ASPバランス化検査 (CHKASPBAL) 433

パラメーター	433
CHKASPBALの例	433
エラー・メッセージ： CHKASPBAL	433

通信追跡の検査 (CHKCMNTRC) 435

パラメーター	435
構成オブジェクト (CFGOBJ)	435
タイプ (CFGTYPE)	436
CHKCMNTRCの例	436
エラー・メッセージ： CHKCMNTRC	436

ディスク検査 (CHKDKT) 439

パラメーター	440
ディスク装置 (DEV)	440
ボリューム識別コード (VOL)	440
ファイル・ラベル (LABEL)	440
作成日 (CRTDATE)	441
CHKDKTの例	441
エラー・メッセージ： CHKDKT	441

文書ライブラリー・オブジェクトの検査 (CHKDLO) 443

パラメーター	443
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	443
フォルダー (FLR)	444
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	444
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	444
権限 (AUT)	444
ユーザー識別コード (USRID)	445
CHKDLOの例	446
エラー・メッセージ： CHKDLO	446

DBCSフォント・テーブルの検査 (CHKIGCTBL) 447

パラメーター	447
DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)	447
CHKIGCTBLの例	448
エラー・メッセージ： CHKIGCTBL	448

オブジェクトのチェックイン (CHKIN) 449

パラメーター	449
オブジェクト (OBJ)	449
CHKINの例	450
エラー・メッセージ： CHKIN	450

オブジェクト検査 (CHKOBJ) 453

パラメーター	453
オブジェクト (OBJ)	454
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	454
データベース・ファイルの場合にメンバー (MBR)	455
権限 (AUT)	455
CHKOBJの例	457
エラー・メッセージ： CHKOBJ	457

オブジェクト保全性の検査 (CHKOBJITG) 459

パラメーター	460
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	460
オブジェクト (OBJ)	461
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	461

出力メンバー・オプション (OUTMBR)	462
ドメインの検査 (CHKDMN)	462
プログラムとモジュールの検査 (CHKPGMMOD)	463
検査コマンド (CHKCMD)	463
署名の検査 (CHKSIG)	463
ライブラリーの検査 (CHKLIB)	463
ファイル・システムのスキャン (SCANFS)	464
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	464
CHKOBJITGの例	464
エラー・メッセージ: CHKOBJITG	465

光ディスク・ボリュームの検査 (CHKOPTVOL) 467

パラメーター	467
ボリューム識別コード (VOL)	467
出力 (OUTPUT)	467
光ディスク装置 (DEV)	468
CHKOPTVOLの例	468
エラー・メッセージ: CHKOPTVOL	468

オブジェクトのチェックアウト (CHKOUT) 471

パラメーター	471
オブジェクト (OBJ)	471
CHKOUTの例	472
エラー・メッセージ: CHKOUT	472

パフォーマンス収集の検査 (CHKPFCOL) 475

パラメーター	475
CHKPFCOLの例	475
エラー・メッセージ: CHKPFCOL	475

プロダクト・オプションの検査 (CHKPRDOPT) 477

パラメーター	477
プロダクト識別コード (PRDID)	477
リリース (RLS)	477
プロダクト・オプション (OPTION)	478
ロード識別コード (LODID)	478
署名の検査 (CHKSIG)	478
詳細 (DETAIL)	479
CHKPRDOPTの例	479
エラー・メッセージ: CHKPRDOPT	479

パスワード検査 (CHKPWD) 481

パラメーター	481
ユーザー・パスワード (PASSWORD)	481
CHKPWDの例	481
エラー・メッセージ: CHKPWD	481

レコード・ロック検査 (CHKRCDLCK) 483

パラメーター	483
CHKRCDLCKの例	483
エラー・メッセージ: CHKRCDLCK	483

テープ検査 (CHKTAP) 485

パラメーター	485
装置 (DEV)	485
ボリューム識別コード (VOL)	485
順序番号 (SEQNBR)	486
ファイル・ラベル (LABEL)	486
作成日 (CRTDATE)	487
テープ終了オプション (ENDOPT)	487
CHKTAPの例	487
エラー・メッセージ: CHKTAP	488

ファイルのクローズ (CLOF) 491

パラメーター	491
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	491
CLOFの例	491
エラー・メッセージ: CLOF	492

ディスキット消去 (CLRDKT) 493

パラメーター	493
ディスキット装置 (DEV)	494
ボリューム識別コード (VOL)	494
活動ファイルの検査 (CHECK)	494
CLRDKTの例	494
エラー・メッセージ: CLRDKT	495

ジョブ待ち行列消去 (CLRJOBQ) 497

パラメーター	497
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	497
ログ (LOG)	498
CLRJOBQの例	498
エラー・メッセージ: CLRJOBQ	498

ライブラリー消去 (CLRLIB) 499

パラメーター	499
ライブラリー (LIB)	499
ASP装置 (ASPDEV)	500
CLRLIBの例	500
エラー・メッセージ: CLRLIB	501

メッセージ待ち行列消去 (CLRMSGQ) 503

パラメーター	503
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	503
消去 (CLEAR)	504
CLRMSGQの例	504
エラー・メッセージ: CLRMSGQ	504

出力待ち行列消去 (CLROUTQ) 505

パラメーター	505
出力待ち行列 (OUTQ)	505
CLROUTQの例	506
エラー・メッセージ: CLROUTQ	506

物理ファイル・メンバー消去 (CLRPFM) 507

パラメーター	507
物理ファイル (FILE)	507
メンバー (MBR)	508

CLRPFMの例	508
エラー・メッセージ: CLRPFM	508
プールの消去 (CLRPOOL)	511
パラメーター	511
記憶域プール (POOL)	511
CLRPOOLの例	512
エラー・メッセージ: CLRPOOL	512
保管ファイル消去 (CLRSAVF)	513
パラメーター	513
保管ファイル (FILE)	513
CLRSAVFの例	514
エラー・メッセージ: CLRSAVF	514
サーバー機密保護データの消去 (CLRSVRSEC)	515
パラメーター	515
CLRSVRSECの例	515
エラー・メッセージ: CLRSVRSEC	515
追跡データ消去 (CLRTRCDTA)	517
パラメーター	517
CLRTRCDTAの例	517
エラー・メッセージ: CLRTRCDTA	517
コマンド定義 (CMD)	519
パラメーター	519
プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)	519
CMDの例	520
エラー・メッセージ: CMD	520
ジャーナル・イメージ比較 (CMPJRNIMG)	521
パラメーター	522
ファイル (FILE)	523
メンバー (MBR)	523
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	524
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	525
開始日および時刻 (FROMTIME)	525
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	526
終了日および時刻 (TOTIME)	526
比較オプション (CMPOPT)	527
レコード番号 (RCDNBR)	527
ジョブ名 (JOB)	527
プログラム (PGM)	528
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	528
大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)	528
出力形式 (OUTFMT)	529
開始順序番号 (FROMENT)	529
終了順序番号 (TOENT)	529
コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)	529
CMPJRNIMGの例	530
エラー・メッセージ: CMPJRNIMG	530

コミット (COMMIT)	533
パラメーター	533
コミット識別 (CMTID)	534
COMMITの例	534
エラー・メッセージ: COMMIT	534
オブジェクトのコピー (COPY)	537
パラメーター	539
オブジェクト (OBJ)	539
TOディレクトリー (TODIR)	540
TOオブジェクト (TOOBJ)	540
シンボリック・リンク (SYMLNK)	540
変換元CCSID (FROMCCSID)	541
変換先CCSID (TOCCSID)	541
データ形式 (DTAFMT)	542
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	542
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	543
所有者 (OWNER)	543
FROMコード・ページ (FROMCODPAG)	544
TOコード・ページ (TOCODEPAGE)	544
COPYの例	545
エラー・メッセージ: COPY	546
版権 (COPYRIGHT)	549
パラメーター	549
版権テキスト (TEXT)	549
COPYRIGHTの例	549
エラー・メッセージ: COPYRIGHT	550
オブジェクトの圧縮 (CPROBJ)	551
パラメーター	552
オブジェクト (OBJ)	552
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	553
未使用の日数 (DAYS)	554
プログラム・オプション (PGMOPT)	554
CPROBJの例	555
エラー・メッセージ: CPROBJ	555
オブジェクトのコピー (CPY)	557
パラメーター	559
オブジェクト (OBJ)	559
TOディレクトリー (TODIR)	560
TOオブジェクト (TOOBJ)	560
シンボリック・リンク (SYMLNK)	560
変換元CCSID (FROMCCSID)	560
変換先CCSID (TOCCSID)	561
データ形式 (DTAFMT)	562
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	562
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	563
所有者 (OWNER)	563
FROMコード・ページ (FROMCODPAG)	564
TOコード・ページ (TOCODEPAGE)	564
CPYの例	565
エラー・メッセージ: CPY	566
構成リスト・コピー (CPYCFGL)	569

パラメーター	569
取り出し構成リスト (FROMCFGL)	569
構成リスト (CFGL)	569
テキスト記述 (TEXT)	570
権限 (AUT)	570
CPYCFGLの例	570
エラー・メッセージ: CPYCFGL	570

文書コピー (CPYDOC) 573

パラメーター	573
取り出し文書 (FROMDOC)	573
取り出しフォルダー (FROMFLR)	574
受け取り文書 (TODOC)	574
受け取りフォルダー (TOFLR)	574
文書置き換え (REPLACE)	575
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	575
CPYDOCの例	575
エラー・メッセージ: CPYDOC	576

ファイル・コピー (CPYF) 577

パラメーター	577
FROMファイル (FROMFILE)	579
TOファイル (TOFILE)	579
FROMメンバー (FROMMBR)	580
TOメンバーまたはラベル (TOMBR)	581
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	581
ファイル作成 (CRTFILE)	582
印刷形式 (OUTFMT)	582
印刷するレコード (PRINT)	582
論理ファイルのレコード様式 (RCDFMT)	583
コピー開始レコード番号 (FROMRCD)	583
コピー終了レコード番号 (TORCD)	584
コピー開始レコード・キー (FROMKEY)	584
コピー終了レコード・キー (TOKEY)	585
コピーするレコードの数 (NBRRCD)	586
文字テストによるレコード組込 (INCCHAR)	586
フィールド・テストでレコードの組込 (INCREL)	587
レコード様式フィールドのマッピング (FMTOPT)	589
ソース更新オプション (SRCOPT)	591
ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)	591
許容エラー (ERRLVL)	591
削除済みレコードの圧縮 (COMPRESS)	592
CPYFの例	592
エラー・メッセージ: CPYF	595

コピー元ディレクトリー (CPYFRMDIR) 597

パラメーター	597
ファイル・ラベル (LABEL)	597
装置 (DEV)	598
システム名 (SYSNAME)	598
ボリューム識別コード (VOL)	598
順序番号 (SEQNBR)	598
テープ終了オプション (ENDOPT)	599
ファイル満了日 (EXPDATE)	599
CPYFRMDIRの例	599
エラー・メッセージ: CPYFRMDIR	600

ディスクレットからのコピー (CPYFRMDKT) 601

パラメーター	601
ディスクレット・ファイル (FROMFILE)	602
TOファイル (TOFILE)	602
ディスクレット・ラベル (FROMLABEL)	602
TOメンバーまたはラベル (TOMBR)	603
ディスクレット装置 (FROMDEV)	604
ボリューム識別コード (FROMVOL)	604
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	605
コピーするレコードの数 (NBRRCD)	605
印刷形式 (OUTFMT)	605
CPYFRMDKTの例	606
エラー・メッセージ: CPYFRMDKT	606

インポート・ファイルからのコピー (CPYFRMIMPF) 609

パラメーター	611
FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)	612
FROMファイル (FROMFILE)	612
TO データベース・ファイル (TOFILE)	613
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	614
STREAM FILEレコード長 (STMFLEN)	615
変換元CCSID (FROMCCSID)	615
レコード区切り文字 (RCDDL)	615
インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)	616
ストリング区切り文字 (STRDLM)	616
ブランクの除去 (RMVBLANK)	616
フィールド区切り文字 (FLDDL)	617
フィールド定義ファイル (FLDDFNFILE)	617
小数点 (DECPNT)	618
日付の形式 (DATFMT)	618
日付区切り記号 (DATSEP)	618
時刻形式 (TIMFMT)	618
時刻区切り記号 (TIMSEP)	619
コピー開始レコード番号 (FROMRCD)	619
許容エラー (ERRLVL)	619
エラー・レコード・ファイル (ERRRCDFILE)	620
レコードの置き換えまたは追加 (ERRRCDOPT)	621
ヌル値の置き換え (RPLNULLVAL)	621
列の識別 (IDCOL)	621
CPYFRMIMPFの例	621
エラー・メッセージ: CPYFRMIMPF	622

PC文書からのコピー (CPYFRMPCD) 623

エラー・メッセージ: CPYFRMPCD	623
パラメーター	623
取り出しフォルダー (FROMFLR)	624
受け入れファイル (TOFILE)	624
取り出し文書 (FROMDOC)	624
受け入れメンバー (TOMBR)	624
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	625
変換テーブル (TRNTBL)	625
PCデータの形式 (TRNFMT)	626
DBCSコード・ページ (TRNIGC)	626

SO/SIの挿入 (IGCSOSI)	626
例	627
エラー・メッセージ: CPYFRMPCD	627

PCFファイルからコピー

(CPYFRMPCFF) 629

パラメーター	630
コピー元PCFファイル (FROMPCFF)	630
コピー先漢字フォント・テーブル (TOIGCTBL)	630
フォントの置き換え (RPLFNT)	631
CPYFRMPCFFの例	631
エラー・メッセージ: CPYFRMPCFF	631

QUERYファイルからのコピー

(CPYFRMQRYF) 633

パラメーター	634
FROM オープン・ファイル識別コード (FROMPNID)	635
TOファイル (TOFILE)	635
TOメンバーまたはラベル (TOMBR)	635
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	636
ファイル作成 (CRTFILE)	636
印刷形式 (OUTFMT)	637
コピーするレコードの数 (NBRCDS)	637
レコード様式フィールドのマップ (FMTOPT)	638
許容エラー (ERRLVL)	639
CPYFRMQRYFの例	639
エラー・メッセージ: CPYFRMQRYF	640

ストリーム・ファイルからのコピー

(CPYFRMSTMF) 643

パラメーター	644
FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)	644
TO ファイル・メンバーか保管ファイル (TOMBR)	644
メンバー・オプション (MBROPT)	645

データ変換オプション: (CVTDTA)	645
ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFPCODPAG)	645
データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)	646
変換テーブル (TBL)	646
行の終わり文字 (ENDLINFMT)	647
タブ拡張文字 (TABEXP)	647
CPYFRMSTMFの例	648
エラー・メッセージ: CPYFRMSTMF	649

テープからのコピー (CPYFRMTAP) 651

パラメーター	651
テープ・ファイル (FROMFILE)	652
TOファイル (TOFILE)	652
順序番号 (FROMSEQNBR)	653
テープ・ラベル (FROMLABEL)	653
メンバー (TOMBR)	653
装置 (FROMDEV)	654
コピー元リール (FROMREELS)	654
レコード長 (FROMRCLEN)	655
テープ終了オプション (FROMENDOPT)	656
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	656
印刷形式 (OUTFMT)	656
ボリューム識別コード (FROMVOL)	657
ブロックの長さ (FROMBLKLEN)	657
レコード・ブロックのタイプ (FROMRCDBLK)	657
コピーするレコードの数 (NBRCDS)	658
CPYFRMTAPの例	658
エラー・メッセージ: CPYFRMTAP	659

付録. 特記事項 661

商標	662
資料に関するご使用条件	663
コードに関する特記事項	664

ポインター変更 (CHGPTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ポインター変更(CHGPTR)コマンドは、プログラム内のポインター変数の値を変更します。指定したプログラム・ポインターの値を、新しいシステム・オブジェクト、新しい空間ポインター・アドレス、または空間オブジェクト内の新しいオフセットを指し示すように変更することができます。このコマンドは、通常、高水準言語プログラムでは使用されません。

制約事項:

1. このコマンドは共通の*EXCLUDE権限付きで出荷され、QSRVユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する私用認可を持っています。
2. このコマンドを使用できるのは、ポインターとして使用されるプログラム変数を変更する場合だけであり、デバッグ・モードでのみ有効です。デバッグ・モードを開始するためには、STRDBG (デバッグ開始) コマンドを参照してください。
3. 別のジョブをサービス中であり、そのジョブがジョブ待ち行列にあるか、保留中であるか、延期中であるか、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
4. このコマンドは、結合プログラム内の変数を変更するために使用することはできません。
5. このコマンドは、ユーザーが*SERVICE特殊権限を持っていない限り、書き込み保護されているかまたはシステム・ドメイン内にある変数を変更するために使用することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PTR	変更するポインター	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: プログラム変数	文字値	
	要素 2: 基底ポインター変数	値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値	
SYSOBJ	システム・オブジェクト	単一値: *NULL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: システム・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	文字値	オプション, 定位置 3
ADR	指すアドレス	単一値: *NULL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム変数	文字値	
	要素 2: 基底ポインター変数	値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値	
OFFSET	空間中の新しいオフセット	整数	オプション
PGM	プログラム	名前, *DFTPGM	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PTRTYPE	ポインター・タイプ	*SAME , *SYP, *SPP	オプション
RCRLVL	反復レベル	整数, *LAST	オプション

トップ

変更するポインター (PTR)

値を変更して別のアドレスを指し示すようにしたいポインター（プログラム変数）の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: ポインター変数がHLLポインター（高水準言語プログラムのソース仕様の中で宣言されているもの）である場合には、そのポインターに空間またはヌル値を割り当てるか、あるいはポインターのオフセットを変更することができますが、システム・ポインター値によってその変数をセットすることはできません。HLLポインター以外のポインターを指定する場合、またはHLLポインターであるポインターにODV番号を使用する場合には、この制約は適用されません。マシン・インターフェース・レベルでのテストおよびデバッグの詳細については、CLプログラミング (SD88-5038)を参照してください。

プログラム変数

値を変更したいポインター変数の名前を指定してください。特殊文字が入っている場合には、名前をアポストロフィで囲まなければなりません。

ポインター（プログラム変数）が配列である場合には、配列内の変更したい要素を示す添え字を指定しなければなりません。このポインター（プログラム変数）項目には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字を使用した場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。

基底ポインター

基底ポインター名を指定してください。ある種の言語では、ポインター（プログラム変数）はポインター変数を基礎とすることができます。このような値のセットによって、変更するポインターの基底ポインター（最高5つ）を明示的に指定することができます。特殊文字を含む基底ポインター名の場合には、各基底ポインター名はアポストロフィで囲まなければなりません。

基底ポインターが配列である場合には、配列内の要素を示す添え字を指定しなければなりません。基底ポインター名には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。

トップ

システム・オブジェクト (SYSOBJ)

ポインターを、システム・ポインター、特定のシステム・オブジェクトのアドレスを示す空間ポインター、またはヌル・ポインター値のどれにセットするかを指定します。変更するポインター (PTR)パラメーターにHLLポインターを指定した場合には、このパラメーターは指定できません。

*NULL

システム・ポインターは空白にセットされます。すなわち、このポインターは、もはやどのシステ

ム・オブジェクトも指し示さず、またポインター・タイプもありません。ここで*NULLを指定した場合には、**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターは指定できません。

オブジェクト名

システム・ポインターをどのオブジェクトにセットするかを、オブジェクト名とライブラリー名で指定してください。ポインター変数は、システム・ポインター値または空間ポインター値にセットされます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更するポインター (**PTR**)パラメーターに名前の指定されたポインターが設定される先の、**システム・オブジェクト (SYSOBJ)**パラメーターに指定したシステム・オブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

トップ

指すアドレス (ADR)

指定した空間ポインターが指し示すプログラム変数の名前（もしあれば）を指定します（すなわちプログラム変数のアドレス）。

*NULL

空間ポインターは空白にセットされます。すなわち、そのポインターは、もはやどの空間オブジェクトのアドレスも指し示さず、また、ポインター・タイプもありません。

プログラム変数

空白ポインターがセットされるプログラム変数の名前を指定してください。特殊文字が入っている場合には、名前をアポストロフィで囲まなければなりません。

配列を指定し、添え字を指定しなかった場合には、ポインターは、配列内の最初の要素のアドレスにセットされます。このプログラム変数項目には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。

基底ポインター

基底ポインター名を指定してください。一部の言語では、プログラム変数はポインター変数を基礎とすることができます。このような値の組み合わせを用いることにより、アドレッシングする変数

の基底ポインター（最高5つ）を明示的に指定することができます。特殊文字を含む基底ポインター名の場合には、各基底ポインター名はアポストロフィで囲まなければなりません。

基底ポインターが配列である場合には、配列内の要素を示す添え字を指定しなければなりません。基底ポインター名には、最大132文字を指定することができます。この文字数には、修飾子、組み込みブランク、括弧、およびコンマも含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。

トップ

空間中の新しいオフセット (OFFSET)

指定した空間ポインターのオフセット部分がセットされる値を指定します。空間ポインターがセットされる値を、空間オブジェクトの始めからのバイト数で指定してください。

トップ

プログラム (PGM)

値を変更したいポインターの入っているプログラムの名前を指定します。

*DFTPGM

値を変更したいポインターは、前に省略時のプログラムとして指定されているプログラムの中にあります。

プログラム名

値を変更したいポインターの入っているプログラムの名前を指定してください。これと同じ名前が、デバッグ開始(STRDBG)コマンドまたはプログラム追加(ADDPGM)コマンドですでに指定されていないければなりません。

トップ

ポインター・タイプ (PTRTYPE)

変更するポインター (PTR)パラメーターに名前を指定したポインターのタイプを指定します。

注: 高水準言語(HLL)ポインターをシステム・ポインター値に変更することはできません。

*SAME

ポインターのタイプは変更されません。

*SYP ポインター・タイプはシステム・ポインターです。

*SPP ポインター・タイプは空間ポインターです。

トップ

反復レベル (RCRLVL)

値を変更したい変数が、プログラムのどの反復レベルに含まれているかを指定します。静的変数に対して行った変更は、すべての反復レベルに対して自動的に作用します。反復レベル1はプログラムの最初の（最も早い）呼び出しであり、反復レベル2はプログラムの2番目の呼び出しです。同様にして、スタック内の最後の（最新の）反復レベルまで番号が付けられます。たとえば、プログラムAがプログラムBを呼び出し、プログラムBが再びプログラムAを呼び出すとすれば、プログラムAの新しい反復レベルが形成されます。変更したい変数がプログラムAの最初の呼び出しに含まれているのであれば、**反復レベル (RCRLVL)**パラメーターには1の値を指定しなければなりません。高水準言語によっては、再帰的プロシージャーが使用できるものもあります。この種のプログラムの詳細については、該当の高水準言語の解説書を参照してください。

***LAST** 変更したい変数は、指定したプログラムの最後の（最新の）呼び出しに含まれています。

反復レベル番号

変更したい変数の入っている、プログラムの反復レベルを指定してください。

トップ

CHGPTRの例

```
CHGPTR PTR(DATAFILPTR) SYSOBJ(QGPL/MYFILE) OBJTYPE(*FILE)
```

このコマンドは、デバッグ・モードの省略時のプログラムで使用されるポインターDATAFILPTRの値を変更します。ポインター値は、QGPLライブラリーに保管されているMYFILEと呼ばれるファイルを指し示すように変更されます。

トップ

エラー・メッセージ： CHGPTR

***ESCAPE** メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

トップ

パスワード変更 (CHGPWD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パスワード変更(CHGPWD)コマンドはパスワード変更画面を表示し、この画面によって、ユーザーは自分のパスワードを変更することができます。パスワードとは、これによってシステムにサインオンすることのできる機密保護キーです。

パスワード変更画面から入力される新しいパスワードは、パスワード妥当性検査規則と照合されます。パスワード妥当性検査規則は、OS/400システム値によって定義されます。パスワード妥当性検査規則に関する説明は、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)にあります。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CHGPWDの例

CHGPWD

このコマンドは、「パスワード変更」画面をユーザーに表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGPWD

なし

[トップ](#)

電源オン/オフ・スケジュールの変更 (CHGPWRSCD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

電源オン/オフ・スケジュール変更(CHGPWRSCD)コマンドにより、システムの電源オン/オフ・スケジュールを変更することができます。このコマンドを指定すると、電源オン/オフ・スケジュールの変更画面が表示されます。この画面から、週の各曜日について電源オンまたは電源オフの省略時の値を変更するか、あるいは特定の曜日についてこれらの値を変更することができます。また、電源オフが迫っていることをユーザーに警告するメッセージをシステムが送る時刻を変更または設定することもできます。電源オン/オフ・スケジュールで行なった変更はただちに有効となります。

制約事項このコマンドを使用するには、すべての権限(*ALLJOB)および機密保護管理者(*SECADM) 特殊権限と、システム電源遮断(PWRDWN SYS)コマンドに対する権限が必要です。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CHGPWRSCDの例

CHGPWRSCD

このコマンドは、「スケジュールの電源オン/オフの変更」画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGPWRSCD

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2A

QSYSSCDジョブで予期しないエラーが起こった。

CPF1E2B

電源スケジューラーおよび終結処置オプションが見つからない。

CPF1E23

電源スケジュールまたは終結処置オプションは別のユーザーが使用中である。

CPF1E27

電源オン/オフ・スケジュールの変更は認可されていない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

電源スケジュール項目の変更 (CHGPWRSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

電源オン/オフ・スケジュール項目変更(CHGPWRSCDE)コマンドを使用して、システムの電源オン/オフ・スケジュールを変更することができます。一週間の日付の電源オンまたは電源オフの省略時の値を変更するか、あるいは特定の日付の値を変更することができます。また、電源オフが迫っていることをユーザーに警告するメッセージをシステムが送る時刻を変更または設定することもできます。電源オン/オフ・スケジュールで行なった変更はただちに有効となります。

制約事項このコマンドを使用するには、すべての権限(*ALLJOB)および機密保護管理者(*SECADM) 特殊権限と、システム電源遮断(PWRDWN SYS)コマンドに対する権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DAY	日	日付, *TODAY, *ALL, *SUN, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT	必須, キー, 定位置 1
PWRONTIME	電源オン時刻	時刻, *SAME, *NONE, *DFT	オプション
PWROFFTIME	電源オフ時刻	時刻, *SAME, *NONE, *DFT	オプション
DAYDESC	日付記述	文字値, *SAME	オプション
MSGITV	電源オフ前の分数	0-60, *SAME, *DFT	オプション

[トップ](#)

日 (DAY)

電源オン/オフ・スケジュールを変更する日付を指定します。

これは必須パラメーターです。

*TODAY

現在の日付が使用されます。

***ALL** すべての曜日の省略時値が変更されます。

***SUN** 省略時値SUNDAYが変更されます。

***MON** 省略時値MONDAYが変更されます。

***TUE** 省略時値TUESDAYが変更されます。

***WED** 省略時値WEDNESDAYが変更されます。

***THU** 省略時値THURSDAYが変更されます。

***FRI** 省略時値FRIDAYが変更されます。

***SAT** 省略時値SATURDAYが変更されます。

日付 変更したい日付を指定してください。日付はジョブ属性によって指定したものと同一形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

電源オン時刻 (PWRONTIME)

電源オン時刻を指定します。

***SAME**

電源オン時刻は変更されません。

***NONE**

電源オン時刻または省略時の電源オン時刻はセットされません。

***DFT** 変更中の日付の電源オン時刻が、その日付のある曜日の省略時の値にセットされます。この値は、**日 (DAY)**パラメーターで*TODAYまたは特定の日付を指定した場合にだけ、使用することができます。

時刻 電源オン時刻を**HHMMSS**形式で指定してください。ここで、**HH =時間**、**MM =分**、および**SS =秒**です。

[トップ](#)

電源オフ時刻 (PWROFFTIME)

電源オフを行なう必要がある時刻を指定します。

***SAME**

電源オフ時刻は変更されません。

***NONE**

電源オフ時刻または省略時の電源オフ時刻はセットされません。

***DFT** 変更中の日付の電源オフ時刻が、その日付のある曜日の省略時の値にセットされます。この値は、**日 (DAY)**パラメーターで*TODAYまたは特定の日付を指定した場合にだけ、使用することができます。

時刻 電源オフ時刻を**HHMMSS**形式で指定してください。ここで、**HH =時間**、**MM =分**、および**SS =秒**です。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。HHの有効な値の範囲は00-23です。MMおよびSSの有効な値の範囲は00-59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

日付記述 (DAYDESC)

電源オン/オフ・スケジュールの記述を指定します。このパラメーターを使用して、スケジュールがそのようにセットされる理由を説明することができます。このパラメーターを使用できるのは、日 (DAY)パラメーターで***TODAY**または特定の日付を指定した場合だけです。

*SAME

記述は変更されません。

文字値 日の電源オン/オフ・スケジュールの説明用テキストを38文字以内で指定してください。

トップ

電源オフ前の分数 (MSGITV)

スケジュールされた電源オフをユーザーに警告するメッセージがすべてのワークステーションに送られてからスケジュールされた電源オフが実行されるまでの時間 (分数) を指定します。このパラメーターを使用できるのは、日 (DAY)パラメーターで***ALL**を指定した場合だけです。

*SAME

時間 (分数) は変更されません。

***DFT** 時間 (分数) が30にセットされます。

0-60 メッセージ間隔の分数を指定します。

トップ

CHGPWRSCDEの例

例1:週全体のスケジュールの変更

```
CHGPWRSCDE DAY(*ALL) PWRONTIME(0800) PWROFFTIME(1800)
CHGPWRSCDE DAY(*SAT) PWRONTIME(*NONE) PWROFFTIME(*NONE)
CHGPWRSCDE DAY(*SUN) PWRONTIME(*NONE) PWROFFTIME(*NONE)
```

これらのコマンドは、週全体の値の電源オンおよび電源オフを設定します。

例2:電源オフ時刻の変更

```
CHGPWRSCDE DAY('01/22/90') PWROFFTIME(2000)
CHGPWRSCDE DAY('01/22/90') PWROFFTIME(2000) PWRONTIME(*SAME)
```

これらのいずれかのコマンドが、電源オフ時刻を1990年1月22日午後8時に設定するのに使用されます。

例3:電源オン時刻の変更

```
CHGPWRSCDE DAY(012590) PWRONTIME(060000) PWROFFTIME(*NONE)
```

このコマンドは、電源オン時刻を1990年1月25日午前6時に設定し、電源オフ時刻を設定しません。

例4:省略時値に戻す変更

CHGPWRSCDE DAY(012590) PWROFFTIME(*DFT) PWRONTIME(*DFT)

このコマンドは、1990年の1月25日の電源オンとオフ時刻をその週のその日の省略時値に戻すよう設定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGPWRSCDE

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2A

QSYSSCDジョブで予期しないエラーが起こった。

CPF1E2B

電源スケジューラーおよび終結処置オプションが見つからない。

CPF1E2C

次の電源オンおよびオフのスケジュール中にエラーが起こった。

CPF1E23

電源スケジュールまたは終結処置オプションは別のユーザーが使用中である。

CPF1E26

過ぎ去った日付または時刻を変更することはできない。

CPF1E27

電源オン/オフ・スケジュールの変更は認可されていない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

[トップ](#)

QUERY属性の変更 (CHGQRYA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY属性変更(CHGQRYA)コマンドは、ジョブで実行されるデータベース照会と、データベース・ファイルのキー付きアクセス・パスの作成、再作成、および保守の属性を指定します。データベース照会には、SQLビューのオープンとSQLデータ操作ステートメントの実行が含まれます。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、キー
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
QRYTIMLMT	QUERY処理時間制限	0-2147352578, *SAME, *NOMAX, *SYSVAL	オプション
DEGREE	並列処理度数	単一値: *SAME, *NONE, *IO, *OPTIMIZE, *MAX, *SYSVAL, *ANY その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 処理オプション	*NBRTASKS	
	要素 2: タスク数	2-9999	
ASYN CJ	非同期ジョブの使用法	*SAME, *DIST, *LOCAL, *ANY, *NONE	オプション
APYRMT	CHGQRYAをリモートに適用	*SAME, *YES, *NO	オプション
QRYOPTLIB	QUERY オプション・ファイル・ライブラリー	名前, *SAME	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

QUERY属性の変更を行うジョブを指定します。

単一値

* CHGQRYAコマンドを実行するジョブのQUERY属性が変更されます。

修飾子1: ジョブ名

名前 そのQUERY属性を変更するジョブの名前を指定します。ジョブのユーザー名またはジョブ番号修飾子が指定されない場合には、現在システムにあるすべてのジョブで、指定された単純ジョブ名を

検索します。指定したジョブ名に重複が見つかる場合には、変更するジョブを一意的に識別するジョブ・ユーザー名またはジョブ番号を指定する必要があります。

修飾子2: ユーザー

名前 そのQUERY属性を変更するジョブのユーザーの名前を指定します。

修飾子3: 番号

000000-999999

そのQUERY属性を変更するジョブの番号を指定します。

[トップ](#)

QUERY処理時間制限 (QRYTIMLMT)

QUERYの処理に必要な見積経過秒数を基にして、開始できるデータベースQUERYの限界を指定します。

ジョブのQRYTIMLMT属性の初期値は*SYSVALです。

***SAME**

値は変更されません。

***NOMAX**

最大見積経過秒数はありません。

***SYSVAL**

QUERY時間制限はシステム値QQRYTIMLMTから取り出す必要があることを指定します。

0-2147352578

QUERYを実行するために必要な見積経過秒数に対して検査する最大値を指定してください。推定経過秒数がこの値より大きい場合には、QUERYは開始されません。

0が指定された場合には、すべてのデータベースQUERYがCPA4259照会メッセージを出します。QUERY時間制限を0に設定すると、CPA4259照会メッセージがQUERYで使用されるアクセス・プランのタイプを説明しているので、パフォーマンス調整データベースQUERYを試みる時に役立てることができます。

[トップ](#)

並列処理度数 (DEGREE)

並列処理オプションと、ジョブでデータベース照会およびデータベース・ファイルのキー付きアクセス・パスの作成、再作成、および保守を実行時に使用できるタスク数（任意）を指定します。

指定された並列処理オプションは、使用できる並列処理のタイプを判別します。並列処理のタイプには次の2つがあります。

1. 入出力(I/O)並列処理

入出力並列処理によって、データベース・マネージャーは各QUERYの複数のタスクを使用して、I/O処理を行なうことができます。中央演算処理装置(CPU)の処理は、やはり逐次に行われます。

2. 対称マルチプロセス(SMP)

SMPは、QUERYを並行して実行するタスクにCPUとI/O処理の両方を割り当てます。実際のCPUの並列性では、複数のプロセッサのあるシステムが必要となります。SMPの並列性を使用できるのは、OS/400用のシステム機構のDB2対称マルチプロセッシングが導入されている場合だけです。

SMPの並列性を使用すると、レコードを戻す順序に影響を与えることができます。到着順またはキー順アクセス・パス順のデータベース照会で戻されるレコードに依存していて、照会の順序付けが明示的に定義されていないアプリケーションは、SMP処理を使用できる並列処理オプションを指定したジョブでは実行しないでください。

ジョブのDEGREE属性の初期値は*SYSVALです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

データベースQUERY処理、あるいはデータベース・ファイルのキー付きアクセス・パスの作成、再作成、または保守では、並列処理を使用することはできません。

***IO**

データベースQUERY最適化プログラムがQUERYに対して入出力並行処理の使用を選択した時には、任意の数のタスクを使用することができます。SMP並行処理を使用することはできません。

***OPTIMIZE**

QUERY最適化プログラムは、入出力並列処理またはSMP並行処理に対して任意の数のタスクの使用を選択し、QUERYあるいはデータベース・ファイルのキー付きアクセス・パスの作成、再作成、または保守を処理することができます。SMP並列処理を使用できるのは、OS/400用のシステム機構であるDB2対称マルチプロセッシングが導入されている場合だけです。並行処理の使用および使用するタスク数は、そのシステムで使用可能なプロセッサの数、そのジョブを実行しているプールで使用可能な活動メモリー容量のこのジョブに対する割り当て、およびQUERYまたはデータベース・ファイルのキー付きアクセス・パスの作成または再作成に必要な経過時間がCPU処理または入出力資源によって制限されるかどうかによって決められます。QUERY最適化プログラムは、プール内のメモリーのうちこのジョブに対する割り当てに基づいて経過時間を最小のものにします。

***MAX**

QUERY最適化プログラムは、QUERYの処理のために入出力並列処理またはSMP並行処理のいずれかを使用を選択します。SMP並列処理を使用するのは、OS/400用システム機構であるDB2対称マルチプロセッシングが導入されている場合だけです。QUERY最適化プログラムによって行われる選択は、パラメーター値*OPTIMIZEの場合に行われる選択と類似していますが、最適化プログラムが、プール内のすべての活動メモリーをQUERY、あるいはデータベース・ファイルのキー付きアクセス・パスの作成、再作成、または保守を処理するために使用できると見なす点が異なります。

***SYSVAL**

使用される処理オプションを、システム値QQRVDEGREEの現在の値に設定する必要があることを指定します。

***ANY**

この値には*IOと同じ意味があります。*ANY値は前のリリースとの互換性のために維持されます。

要素1: 処理オプション

***NBRTASKS**

SMP並列処理に使用するタスク数は、DEGREEパラメーターの2番目のパラメーターで指定します。

要素2: タスク数

2-9999

QUERY最適化プログラムがQUERYを処理するSMP並列処理を使用することを選択したときに使用されるタスク数を指定してください。入出力の並列性も使用可能です。SMP並列処理を使用できるのは、OS/400用のシステム機構であるDB2対称マルチプロセッシングが導入されている場合だけです。

システム上で使用可能なプロセッサの数より少ないタスク数を使用すると、指定のQUERYあるいはデータベース・ファイルのキー付きアクセス・パスの作成、再作成、または保守の実行に同時に使用されるプロセッサの数が制限されます。より大きいタスク数によって、QUERYあるいはデータベース・ファイルのキー付きアクセス・パスの作成、再作成、または保守は、QUERYの実行のためにシステム上で使用可能なプロセッサのすべてを確実に使用することができるようになります。タスク数が多すぎると、活動メモリのコミットメントとタスクのすべてを管理するためのオーバーヘッド・コストが多くなり過ぎるために、パフォーマンスが低下する場合があります。

トップ

非同期ジョブの使用法 (ASYN CJ)

ジョブでのデータベース照会の処理を容易にするために非同期（一時書き出しプログラム）ジョブを使用できる環境を指定します。

指定された使用オプションは、照会の完了に役立てるために並行して実行している非同期ジョブを使用できるデータベース照会のタイプを判別します。

非同期ジョブはシステム上の別個のジョブで、データベース照会を実行しているジョブからの照会要求を処理します。それぞれの要求で、非同期ジョブは、要求を処理して結果を一時ファイルに入れます。次に、主ジョブがこの中間の一時ファイルを使用してデータベース照会を完了します。

非同期ジョブを使用する利点は、主ジョブがデータベース照会の別のステップを処理している時に同時に（並行して）その要求を処理できることにあります。非同期ジョブを使用する欠点は、主ジョブと同様に処理できない状況に遭遇する場合があります。たとえば、非同期ジョブは、それを取り消さなければならない照会メッセージを受け取ることがありますが、しかし、主ジョブはメッセージを無視して続行することを選択できます。

非同期ジョブを使用できるデータベース照会には次の2つの異なるタイプがあります。

1. 分散QUERY

これらは分散ファイルに関係するデータベース照会です。分散ファイルは、システム機能のDB2 MULTI-SYSTEM FOR OS/400を介して提供されます。

2. ローカルQUERY

これらはデータベース照会が実行されるシステム内部のファイルのみに関係するデータベース照会です。

ジョブのASYN CJ属性の初期値は*LOCALです。

***SAME**

値は変更されません。

***DIST** 非同期ジョブは分散ファイルに関係するデータベース照会に使用されます。

***LOCAL**

非同期ジョブはデータベース照会が実行されるシステム内部のファイルのみに関係するデータベース照会に使用されます。

さらに、分散ファイルと関係したQUERYの場合は、このオプションによって必要な通信を非同期に行うことができます。これにより、分散ファイルの照会に関係した各システムは、他のシステムと同時（並列）に照会の部分を実行することができます。

***ANY** 非同期ジョブは任意のデータベース照会に使用されます。

***NONE**

非同期ジョブはデータベース照会処理に使用することはできません。

さらに、分散ファイルに関係している照会のすべての処理は同期に行われます。したがって、システム間並列処理は行われなくなることになります。

トップ

CHGQRYAをリモートに適用 (APYRMT)

分散ファイルに関係したデータベース照会において、ジョブと関連したリモート・システムのジョブに照会属性を適用するかどうかを指定します。適用される照会属性は、このコマンドからの属性および**QUERY オプション・ファイル・ライブラリー (QRYOPTLIB)**パラメーターで指定されるライブラリーにあるQAQQINIファイルに指定された属性です。

指定されたオプションは、ジョブに指定された照会属性が1つまたは複数の分散ファイルに適用可能なシステムの関連ジョブに適用されるかどうかを判別します。

ジョブのAPYRMT属性の初期値は*YESです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ジョブの照会属性は、分散ファイルに関係するデータベース照会の処理に使用されるリモート・ジョブに適用されます。適用される照会属性は、このコマンドで指定される属性およびQRYOPTLIBパラメーターで指定されるライブラリーにあるQAQQINIファイルの属性です。*SYSVALを指定された属性の場合には、リモート・システムのシステム値がそのリモート・ジョブに使用されます。このオプションでは、このジョブにCHGQRYAが使用されている場合には、リモート・ジョブにCHGQRYAコマンドを使用する権限が必要です。

***NO** ジョブのCHGQRYA属性はリモート・ジョブに適用されません。リモート・ジョブはそのシステムで関連付けられた属性を使用します。

トップ

QUERY オプション・ファイル・ライブラリー (QRYOPTLIB)

QUERYオプション・ファイル(QAQQINI)が現在入っているか、あるいはQUERYオプション・ファイルを入れるライブラリーを指定します。

QUERYオプション・ファイルは、指定されたジョブの中でQUERYがどのように実行されるかを決定するQUERY最適化プログラムによって使用される属性を設定または変更するために使用されます。

QUERYオプション・ファイルは、ファイルQAQQINIに対して行われた変更を処理するために、そのファイルと関連したシステム提供トリガー・プログラムを使用します。このファイルのテンプレートは、すでに添付されている基本トリガー・プログラムとともにQSYSライブラリーの中に入れて出荷されています。QUERYオプション・ファイルを正しく保守および使用するためには、オブジェクト複製(CRTDUPOBJ)を使用して、このパラメーターに指定されたライブラリーの中にファイルQAQQINIを作成することをお奨めします。

詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「SQLプログラミング」情報またはISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報を参照してください。

ジョブに対するQRYOPTLIB属性の初期値はQUSRSYSです。

***SAME**

値は変更されません。

名前 QAQQINI QUERYオプション・ファイルが入っているか、または入れられるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

CHGQRYAの例

例1: QUERY時間制限を変更

```
CHGQRYA QRYTIMLMT(60)
```

このコマンドは、QUERY時間制限を60秒に変更します。

例2: QUERYとデータベースの並列処理を制御

```
CHGQRYA DEGREE(*10)
```

このコマンドは、データベースQUERY最適化プログラムがQUERYに対して入出力並行処理の使用を選択した時に、任意の数のタスクを使用することを指定します。SMP並行処理を使用することはできません。

例3: QUERY並列処理を制御

```
CHGQRYA DEGREE(*OPTIMIZE)
```

このコマンドは、QUERY,データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成、あるいはデータベース・ファイルの入出力キー順アクセスの保守を処理するために、QUERY最適化プログラムが入出力またはSMP並列処理に任意の数のタスクを選択して使用できることを指定します。SMP並列処理を使用するのは、システム機構であるDB2対称マルチプロセッシングが導入されている場合だけです。

例4: QUERY並列処理を制御

```
CHGQRYA DEGREE(*MAX)
```

このコマンドは、QUERY最適化プログラムがプールのすべての活動メモリーを使用してQUERY,データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成、あるいはデータベース・ファイルの入出力キー順アクセスの保守を処理することを前提とできることを指定し、またQUERY,データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成、あるいはデータベース・ファイルの入出力キー順アクセスの保

守を処理するために、QUERY最適化プログラムが入出力またはSMP並列処理に任意の数のタスクを選択して使用できることを指定します。SMP並列処理を使用するのは、システム機構であるDB2対称マルチプロセッシングが導入されている場合だけです。

例5: QUERYタスク数を制御

```
CHGQRYA DEGREE(*NBRTASKS 12)
```

このコマンドは、QUERY,データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成、あるいはデータベース・ファイルの入出力キー順アクセスの保守を処理するために、QUERY最適化プログラムがSMP並列処理の使用を選択した時に、12タスクが使用されることを指定します。入出力の並列処理も使用可能です。SMP並列処理を使用するのは、システム機構であるDB2対称マルチプロセッシングが導入されている場合だけです。

例6: QUERY並列処理を制御

```
CHGQRYA DEGREE(*SYSVAL)
```

このコマンドは、QUERY,データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成、あるいはデータベース・ファイルの入出力キー順アクセスの保守を実行する時に、システム値QQRYPDEGREEの現行の値で、QUERY,データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成、あるいはデータベース・ファイルの入出力キー順アクセスの保守を最適化する必要があることを指定します。

例7:分散ファイル処理用に非同期ジョブを使用不可にする

```
CHGQRYA ASYNCJ(*LOCAL)
```

このコマンドは、分散ファイルを含むQUERYに非同期ジョブを使用しないようにします。

例8:非同期ジョブを使用不可にする

```
CHGQRYA ASYNCJ(*NONE)
```

このコマンドは、すべてのQUERYに非同期ジョブを使用しないようにします。さらに、分散ファイルと関係したQUERYの場合は、リモート・システムへの通信が同期方式で実行されます。

例9: QUERYオプション・ファイル・ライブラリーを指定

```
CHGQRYA QRYOPTLIB(QUSRSYS)
```

このコマンドは、QUERYオプション・ファイル(QAQQINI)をライブラリーQUSRSYSで検索することを指定します。

注: STRDBG UPDPROD(*YES)に追加してこのコマンドを使用します。これによってすべての最適化プログラム・デバッグ・メッセージ（ローカルおよびリモート）がこのジョブのジョブ・ログに示されることになります。

例10:異なるジョブのQUERYオプション・ファイル・ライブラリーを指定

```
CHGQRYA QRYOPTLIB(LIB41) JOB(134543/QPGMR/DSP01)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB41でジョブ番号134543のQUERYオプション・ファイル(QAQQINI)を検索することを指定します。ジョブ名はDSP01でユーザー名QPGMRが開始したものです。このライブラリーは、複数の独立ASP（補助記憶域プール）に存在する可能性があり、開始元ジョブのネームスペース中のライブラリーが常に使用されることとなります。

トップ

エラー・メッセージ： CHGQRYA

*ESCAPE メッセージ

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF436E

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3は活動状態になっていない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

[トップ](#)

Q/Aデータベース変更 (CHGQSTDB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答データベース変更(CHGQSTDB)コマンドによって、質問・回答(Q&A)データベースの特性、トピック、または検索語を変更することができます。このコマンドを入力すると、変更したいQ&Aデータベースの部分を選択するためのメニューが表示されます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプション、位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>*QSTLIB</u>	オプション、位置 2

[トップ](#)

Q/Aデータベース (QSTDB)

変更するQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

変更するQ&Aデータベースの名前を指定してください。

[トップ](#)

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のデータベースを選択することができます。

[トップ](#)

CHGQSTDBの例

CHGQSTDB

このコマンドは、Q&Aデータベース変更画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGQSTDB

なし

[トップ](#)

アクセス・パスの回復の変更 (CHGRCYAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・パス回復変更(CHGRCYAP)コマンドは、システム(ASP)または1つ以上の補助記憶域プール(ASP)の目標アクセス・パス回復時間を変更するために使用します。システム異常終了後の初期プログラム・ロード(IPL)中または独立ASPのオンへの変更中にアクセス・パスを回復する場合には、システムは指定された目標アクセス・パス回復時間より多くを使用することはありません。アクセス・パス回復時間は目標であるため、パフォーマンスはその目標に近い範囲となります。

ファイル・コピー(CPYF)、物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)、またはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドの実行時に表示されるアクセス・パスを再作成するための時間は、このコマンドを使用して保護されるアクセス・パスの目標アクセス・パス回復時間には含まれません。

このコマンドは、ジャーナル処理によってまだ保護されていないアクセス・パスの保護を管理するために使用することができます。このコマンドで行われる変更はポリシーの即時変更ですが、システムがそのパフォーマンスを新しい目標に合うように調整するためには多少の時間が必要です。

このコマンドの使用法の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「ジャーナル管理」に関する部分を参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。
- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する私用認可を持ちます。
- 現在のアクセス・パス回復状態が*OFFの場合には、目標アクセス・パス回復時間値を指定してシステム管理アクセス・パス保護を活動化するためには、ユーザーは制限された状態になければなりません。
- ユーザー補助記憶域プール(ASP)がシステム上に存在しない場合には、ASP 1のアクセス・パスの回復時間を指定することはできません。アクセス・パスの回復時間はSYSRCYTIMEパラメーターに指定しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSRCYTIME	システム回復時間	1-1440, *SAME, *SYSDFT, *NONE, *MIN, *OFF	オプション的, 定位置 1
ASPRCYTIME	ASP回復時間	値 (最大 32 回の繰り返し): 要素リスト	オプション的
	要素 1: ASP番号	1-32	
	要素 2: 回復時間	1-1440, *SAME, *NONE, *MIN	

キーワード	記述	選択項目	注
ASPDEVRCY	ASP装置回復時間	値 (最大 223 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ASP装置	名前	
	要素 2: 回復時間	1-1440, *SAME, *NONE, *MIN	
INCACCPH	アクセス・パスの組み込み	*SAME, *ALL, *ELIGIBLE	オプション

トップ

システム回復時間 (SYSRCYTIME)

システム全体で使用する目標アクセス・パス回復時間を指定します。

注: *OFFから別の値への変更は、システムが制限状態にある時に行わなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*SYSDFT

システム・アクセス・パス回復時間の値は、システムの省略時値である60分に設定されます。

*NONE

アクセス・パスの再構築に割り振られる時間は制限されません。システムによるアクセス・パスの保護は提供されません。システムは現在の表示をモニターし続けます。アクセス・パスの再構築に要する時間は、アクセス・パス回復表示(DSPRCYAP)コマンドまたはアクセス・パス回復編集(EDTRCYAP)コマンドを介して検討に使用することができます。

*MIN

一番早いアクセス・パスの回復が提供されるシステムの最小アクセス・パス回復時間が使用されます。システム全体に適格なすべてのアクセス・パスが保護されます。

*OFF

アクセス・パスの再構築に割り振られる時間は制限されません。システムによるアクセス・パスの保護は提供されません。システムは現在の表示をモニターしません。

システム・アクセス・パス回復時間

システム全体のアクセス・パス回復の目標時間(分数)を指定してください。有効な値の範囲は1-1440です。

注: システムは、目標アクセス・パス回復時間に合った十分なアクセス・パスを保護することができません。アクセス・パスの回復状況は、DSPRCYAPコマンドを使用して検討することができます。

目標アクセス・パス回復時間に合わすことができない理由は次の通りです。

1. 基礎となる物理ファイルの2つが別のジャーナルにジャーナル処理されている場合には、アクセス・パスを保護することができません。
2. システム回復時間の値がシステムのクラッシュの直前に変更された場合には、新しい時間の値が有効となっていない可能性があります。
3. CPYF, RGZPFM, またはRSTOBJコマンドが実行中であるために、アクセス・パスが表示されました。
4. システム管理アクセス・パス保護(SMAPP)サポートを保守する内部システム環境に損傷がありました。

トップ

ASP回復時間 (ASPRCYTIME)

補助記憶域プール当たりの目標アクセス・パス回復時間を指定します。このパラメーターが有効でプロンプトが出されるのは、システムに基本ユーザーASPがある場合だけです。

要素 1：補助記憶域プールID

ASP識別コード

目標アクセス・パス回復時間が適用されるASPのIDである1-32の範囲内の値を指定してください。有効な値はシステム上で活動状態のASPによって異なります。

注：値 1 はシステムASPであり、その他の値はユーザーASPを示します。

独立ASPの目標アクセス・パス回復時間を指定するには、ASPDEVRCYパラメーターを使用してください。

要素 2：回復時間

*SAME

値は変更されません。

*NONE

指定したASPのアクセス・パスが保護されるのは、指定したシステム・アクセス・パス回復時間に到達するために保護する必要がある場合だけです。

*MIN 指定したASPのすべてのアクセス・パスが保護されます。システムはアクセス・パス回復に必要な最小時間を使用します。

アクセス・パス回復時間

指定したASPのアクセス・パス回復の目標となる時間（分数）を指定してください。システム・アクセス・パス回復時間とASPアクセス・パス回復時間の両方を指定した場合には、システムはより短い時間を指定している値を使用します。有効な値の範囲は1-1440です。

[トップ](#)

ASP装置回復時間 (ASPDEVRCY)

独立補助記憶域プール当たりの目標アクセス・パス回復時間を指定します。このパラメーターが有効でプロンプトが出されるのは、システムに活動状態かまたは使用可能な独立ASPがある場合だけです。

要素 1：補助記憶域プールID

ASP装置名

目標アクセス・パス回復時間が適用されるASPの名前を指定してください。有効な名前は、システム上で活動状態にあるかまたは使用可能なASPによって異なります。

要素 2：回復時間

*SAME

値は変更されません。

*NONE

指定されたASPのアクセス・パスが保護されるのは、指定されたシステム・アクセス・パス回復時間に到達するために保護する必要がある場合だけです。

***MIN** 指定されたASPのすべての対象アクセス・パスが保護されます。システムはアクセス・パス回復に必要な最小時間を使用します。

アクセス・パス回復時間

指定したASPのアクセス・パス回復の目標となる時間（分数）を指定してください。システム・アクセス・パス回復時間とASPアクセス・パス回復時間の両方を指定した場合には、システムはより短い時間を指定している値を使用します。有効な値の範囲は1-1440です。

トップ

アクセス・パスの組み込み (INCACCPH)

アクセス・パス回復時間の指定に、保護の対象とみなされるアクセス・パスだけを含めるか、それともすべてのアクセス・パスを含めるかを指定します。保護の対象とならないアクセス・パスは次の通りです。

- 別のジャーナルにジャーナル処理される物理ファイルに対して作成されたアクセス・パス。
- ジャーナルの状態が現在*STANDBYになっているジャーナルにジャーナル処理される物理ファイルに対して作成されたアクセス・パス。

注: *REBLD保守を指定したアクセス・パスは、アクセス・パス保護の対象とはみなされず、このようなアクセス・パスはIPL中または独立ASPのオンへの変更中に回復されないため、非対象時間には含められません。

注: ベクトル・エンコード・アクセス・パスもアクセス・パス保護とはみなされないため、非対象時間には含められません。

注: INTERNATIONAL COMPONENTS FOR UNICODE (ICU)ソート順序テーブルがあるアクセス・パスもアクセス・パス保護とはみなされないため、非対象時間には含められません。他のソート順序テーブルが指定されたアクセス・パスは考慮されます。

*SAME

値は変更されません。

***ALL** アクセス・パス回復時間の指定には、適格と非適格の、すべてのアクセス・パスが含まれます。

*ELIGIBLE

アクセス・パス回復時間の指定に含まれるのは、保護対象として適格とみなされるアクセス・パスだけです。

トップ

CHGRCYAPの例

例 1: アクセス・パスのシステム回復時間の変更

```
CHGRCYAP  SYSRCYTIME(180)
```

このコマンドは、システム全体に対するターゲット・アクセス・パス回復時間を180に変更します。これは、システム上のすべての適格アクセス・パスを回復するためにIPL時に必要とされる時間を180分に制限できるように十分な数のアクセス・パスを保護します。

ターゲット・アクセス・パス回復時間には、適格とみなされないアクセス・パスも含まれます。

例 2:アクセス・パスのユーザーASP回復時間の変更

```
CHGRCYAP  ASPRCYTIME((2 *MIN) (3 *NONE))
          INCACCPH(*ELIGIBLE)
```

このコマンドは、ユーザーASPのアクセス・パス回復時間を変更します。ユーザーASP 2は、そのASP上のすべてのアクセス・パスを保護する*MINに変更されます。ユーザーASP 3は、システム・アクセス・パス回復時間に達するために必要な場合にのみそのASP上のアクセス・パスを保護する*NONEに変更されます。

ターゲット・アクセス・パス回復時間には、適格とみなされるアクセス・パスのみが含まれます。

例 3:アクセス・パスの独立ASP回復時間の変更

```
CHGRCYAP  ASPRCYTIME((2 *MIN))
          ASPDEVRCY((WAREHUS1 20) (ORDERDB *MIN))
          INCACCPH(*ALL)
```

このコマンドは、1つの基本ユーザーASPおよび2つの独立ユーザーASPのアクセス・パス回復時間を変更します。ユーザーASP 2は、そのASP上のすべてのアクセス・パスを保護する*MINに変更されます。ASP装置名WAREHUS1を持つ独立ユーザーASPは、20分のアクセス・パスの再構築時にオンへの変更を達成できる十分な数のアクセス・パスをASP上で保護する20分に変更されます。ASP装置名ORDERDBを持つ独立ユーザーASPは、独立ASP上のすべてのアクセス・パスを保護する*MINに変更されます。

(このコマンドに指定された回復時間だけでなく) システムのすべてのアクセス・パス回復時間は、すべてのアクセス・パスを含めるように定義されます。適格でないアクセス・パスを証明するために、より適格なアクセス・パスが保護されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGRCYAP

*ESCAPEメッセージ

CPF70E6

ASPRCYTIMEパラメーターが正しくない。

CPF70E8

ASP &1が複数回指定された。

CPF70E9

ASP &1が構成されていないか、あるいはオフラインになっている。

CPF70FA

変更の完了前に回復時間がリセットされた。

CPF70FB

コマンドを使用する権限がない。

CPF70F4

エラーが起きました。

CPF70F7

回復時間を変更するためには制限状態のシステムが必要である。

CPF70F9

回復時間の変更をすべて活動化することができない。

CPF700F

&1のアクセス・パス回復時間は*NONEに設定された。

CPF701C

システムのアクセス・パスの回復時間に対する変更が取り消された。

CPF701D

回復時間の変更中にエラーが起こった。

CPF701E

アクセス・パスの保護を*OFFにできない。

CPF702E

アクセス・パスの回復時間がシステムの省略時の値に設定された。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

RDBディレクトリー項目の変更 (CHGRDBDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目変更(CHGRDBDIRE)コマンドによって、リレーショナル・データベース(RDB)ディレクトリー中の項目を変更することができます。名前を除いてRDBのどのパラメーターの値でも変更することができます。

注: 項目に対する変更は、変更時にRDBディレクトリーを使用しているどの接続にも影響しません。変更は、次回に接続操作が実行される時に効力をもちます。

制約事項: このコマンドでプログラムを指定するためには、アプリケーション・リクエスター・ドライバー・プログラムに対する実行権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDB	項目	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: リレーショナル・データベース	文字値	
	要素 2: リレーショナルDBの別名	文字値, *NONE	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	単一値: *ARDPGM, *LOOPBACK その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値, *LOCAL, *SAME	
	要素 2: タイプ	*SNA, *IP, *SAME	
TEXT	テキスト	文字値, *BLANK, *SAME	オプション
PORT	ポート番号またはサービス・プログラム	文字値, *DRDA, *SAME	オプション
RMTAUTMTH	リモート認証方式	要素リスト	オプション
	要素 1: 優先方式	*USRID, *USRIDPWD, *ENCRYPTED, *KERBEROS, *SAME	
	要素 2: より低い認証の許可	*ALWLOWER, *NOALWLOWER, *SAME	
DEV	装置	要素リスト	オプション
	要素 1: APPC装置記述	名前, *LOC, *SAME	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR, *SAME	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE, *SAME	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR, *SAME	オプション
TNSPGM	トランザクション・プログラム	文字値, *DRDA, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ARDPGM	アプリケーション・リクエスト・ドライバー	単一値: *DRDA, <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

項目 (RDB)

リレーショナル・データベース名情報を指定します。

注: 有効なリレーショナル・データベース名および別名は、英字で開始し、大文字のA-Z、0-9、および下線で構成しなければなりません。

要素1: リレーショナル・データベース

リモート・ロケーションで識別されるリレーショナル・データベース名を指定します。この名前には、最大18文字を指定できます。MVSリレーショナル・データベースでは最大16文字を指定することができます。

要素2: リレーショナルDBの別名

リレーショナル・データベース別名を指定します。この別名は、上に指定されたリレーショナル・データベースをローカルに識別するのに使用されます。この別名には、最大18文字を指定できます。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

RDBがあるシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

リモート・ロケーション名は変更されません。

*LOCAL

この項目は、このシステム上のシステム・データベース（システムASPおよび基本ASP）です。RDBディレクトリー中の1項目だけに*LOCALを指定することができます。

注: *LOCALを指定した場合には、DEV, LCLLOCNAME, RMTNETID, MODE, TNSPGMおよびARDPGMパラメーターは無視され、2番目の要素の値は必ず*IPとなります。

*LOOPBACK

この値はホスト・システムのIPアドレスの別名です。これは、ローカル・システム上のユーザー・データベース(ASPグループ) に使用されます。

注: *LOOPBACKを指定した場合には、DEV, LCLLOCNAME, RMTNETID, MODE, TNSPGMおよびARDPGMパラメーターは無視され、2番目の要素の値は必ず*IPとなります。

*ARDPGM

ARDPGMパラメーターに指定されたアプリケーション・リクエスター・ドライバー・プログラムを使用して、RDBがアクセスされます。RDBを見つけるためにリモート・ロケーション名は使用されません。

注: *ARDPGMを指定した場合には、PORT, DEV, LCLLOCNAME, RMTNETID, MODE,およびTNSPGMパラメーターを指定する必要はなく、これらを指定した場合には、無視されます。

リモート・ロケーション名

このパラメーターの最初の要素は、次のいくつかの形式で指定することができます。

- SNAリモート・ロケーション名(LU名)。最大8文字のリモート・ロケーション名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターの2番目の要素は*SNA (省略時の値) でなければなりません。
- ピリオドで区切ったSNAリモート・ネットワーク識別コードおよびリモート・ロケーション名。最大8文字のリモート・ロケーション名および最大8文字のリモート・ネットワーク識別コードを指定してください。この形式でパラメーターを使用する場合には、このパラメーターの2番目の要素は*SNA (省略時の値) でなければならず、RMTNETIDパラメーターに指定するどの値とも一致しなければなりません。
- ドット10進数形式のIPアドレス。NNN.NNN.NNN.NNNの形式でインターネット・プロトコル・アドレスを指定してください。NNNは、0 - 255の範囲の数値です。この形式を使用する場合には、このパラメーターの2番目の要素は*IPとして指定しなければなりません。
- IPホスト・ドメイン名。最大254文字の長さでインターネット・ホスト・ドメイン名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターの2番目の要素は*IPとして指定しなければなりません。

2番目の要素に*IPを指定した場合には、リモート・ロケーションのDRDAアプリケーション・サーバーは、TCP/IPの使用をサポートしていなければならず、DEV, LCLLOCNAME, RMTNETID, MODE,およびTNSPGMの各パラメーターは無視されます。

*IPを指定しない場合には、アプリケーション・サーバーはSNA接続をサポートしなければなりません。SNAリモート・ロケーション名についての詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032) および[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報にあります。

トップ

テキスト (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

テキストはブランクに変更されます。

記述 50文字を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。

トップ

ポート番号またはサービス・プログラム (PORT)

RDBが存在するシステムと通信するためにリモート・ロケーションで使用されるTCP/IPポートを指定します。RMTLOCNAMEパラメーターに*IPを指定しなかった場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*DRDA

446という既知のDRDAポートが使用されます。

ポート番号

1 - 65535の範囲の数値を指定してください。

サービス名

最大14文字のサービス名を指定してください。この名前は、サービス・データベース・ファイルに登録されていなければなりません。

[トップ](#)

リモート認証方式 (RMTAUTMTH)

DDM/DRDA TCP/IP接続要求上の所望のリモート認証メソッドを指定します。使用される実際のメソッドは、クライアントとサーバー間の折衝プロセスの結果によって異なりますが、これは、使用可能な暗号化機能サポートおよびサーバーの機密保護構成によって異なります。ISERIESサーバー上でDDM/DRDA TCP/IP機密保護を構成するのにCHGDDMTCPA (DDM TCP/IP属性の変更)コマンドを使用することができます。リモート・ロケーション (RMTLOCNAMEパラメーター) に*IPを指定しなかった場合には、このパラメーターは無視されます。

要素1: 優先方式

サーバーに提案される初期認証メソッドを指定します。サーバーによってサポートされる認証メソッドおよびこのパラメーターのより低い認証の許可要素に指定された値に基づいて、アプリケーション・リクエストとアプリケーション・サーバー・システムの両方に受け入れ可能な認証メソッドが折衝されます。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*USRID

ユーザーIDだけがDDM接続要求で送信されます。これが最低の認証メソッドです。

*USRIDPWD

ユーザーIDおよび関連したパスワードだけが、DDM接続要求で送信されます。この認証メソッドが使用される場合には、パスワードは暗号化されません。

*ENCRYPTED

ユーザーIDおよび関連した暗号化パスワードだけが、DDM接続要求で送信されます。この認証メソッドを使用するためには、両方のシステムで暗号化機能がサポートされていなければなりません。

*KERBEROS

認証はKERBEROSを使用して行なわれます。RDB名は、ENTERPRISE IDENTITY MAPPING (EIM)

環境のターゲット・プリンシパル名にマップされなければなりません。この認証メソッドを使用するためには、両方のシステムにKERBEROSを構成する必要があります。

要素2: より低い認証の許可

このパラメーターの**優先方式**要素に指定されたものより低い認証メソッドが、アプリケーション・サーバー・システムとの折衝時に受け入れられるかどうかを指定します。アプリケーション・サーバー・システムがこのパラメーターの**優先方式**要素に指定された値より高い認証メソッドを必要とするように構成されている、アプリケーション・リクエスター・システムが高い認証メソッドをサポートできる場合には、折衝された認証メソッドは常に**優先方式**より高くすることができます。最高レベルから最低レベルまで、認証メソッドは次の通りです。

- *KERBEROS
- *ENCRYPTED
- *USRIDPWD
- *USRID

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***ALWLOWER**

このパラメーターの**優先方式**要素に指定されたものより低い認証メソッドの折衝を可能にします。

***NOALWLOWER**

このパラメーターの**優先方式**要素に指定されたものより低い認証メソッドの折衝はできません。

トップ

装置 (DEV)

このRDB項目で使用されるこのシステムの拡張プログラム間通信機能(APPC) 装置記述の名前を指定します。

詳細はAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)および

[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報にあります。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

装置記述の名前は変更されません。

***LOC** APPCが使用されている場合には、使用される装置記述はシステムが決定します。拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合には、システムはこのパラメーターを無視します。

装置名 装置記述の名前として最大10文字を指定してください。

トップ

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

RDBのあるシステムがこのシステムを識別するために使用されるローカル・ロケーション名を指定します。ローカル・ロケーション名は、リモート・ロケーション名と同じにすることはできません。

ローカル・ロケーション名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

ローカル・ロケーション名は変更されません。

***LOC** 拡張プログラム間通信機能(APPC)が使用されている場合には、使用されるローカル・ロケーション名はシステムが決定します。拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合には、システムは、ネットワーク属性に定義されている省略時のローカル・ロケーション名を使用します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

最大8文字のローカル・ロケーション名を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

このRDBが存在するシステムのリモート・ネットワーク識別コードを指定します。このパラメーターを指定した場合には、RMTLOCNAMEパラメーターにはこのRMTNETIDパラメーターとの一貫性がなければなりません。RMTLOCNAMEパラメーターにネットワークIDを指定した場合には、このパラメーターと一致しなければなりません（さもないと、エラー・メッセージが出されます）。RMTLOCNAMEパラメーターでどのネットワークIDも指定しなかった場合には、このパラメーターとの矛盾が存在する可能性はありません。

リモート・ネットワーク識別コードの詳細はAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***LOC** 拡張プログラム間通信機能(APPC)が使用されている場合には、使用されるリモート・ネットワーク識別コードはシステムが決定します。拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合には、システムはこのシステムのネットワーク属性に定義されているローカル・ネットワーク識別コードをリモート・ネットワーク識別コードとして使用します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワーク識別コード(ID)は使用されません。

リモート・ネットワーク識別コード

リモート・ネットワーク識別コードとして最大8文字を指定してください。

リモート・ネットワーク識別コードの詳細はAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

モード (MODE)

RDBのあるシステムと通信するためにリモート・ロケーション名とともに使用するモード名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

モード名は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

全桁ブランクのモード名が使用されます。

モード名

モード名として最大8文字を指定してください。

モード名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

トランザクション・プログラム (TNSPGM)

このRDB項目で使用するトランザクション・プログラムの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

トランザクション・プログラム名は変更されません。

***DRDA**

分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー(DRDA)トランザクション・プログラム名のX'07F6C4C2'が使用されます。DRDAは、RDBがネットワークを介して相互に連絡するための手段です。

トランザクション・プログラム名

トランザクション・プログラム名を次の形式の1つで指定してください。

- 8個の16進数字をアポストロフィで囲み前に接頭部Xを付けて入力する4バイトの16進数名。たとえば、X'07F6C4C2'は4バイトの16進数名です。
- 8バイトの文字名。

注: コマンド・プロンプトに16進数値を入力していて、プロンプトが入力したい文字数に対して小さすぎる場合には、必要な文字数を保持できるようにプロンプトを拡張するためにアンパーサンド(&)を入力してください。

トップ

アプリケーション・リクエスター・ドライバー (ARDPGM)

RDBに向けられたSQL要求を処理するために呼び出されるプログラムである、アプリケーション・リクエスター・ドライバーの修飾名を指定します。プログラムは存在していなければならず、オブジェクト・タイプは*PGMでなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*DRDA

分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー(DRDA)のアプリケーション・リクエスターが使用されます。

プログラム名の名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

0 - 255の範囲の値を指定します。0 - 255の範囲の値を指定します。

ライブラリー名

プログラム名が作成されるライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名

SQL要求を処理するために呼び出されるアプリケーション・リクエスター・ドライバー・プログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

CHGRDBDIREの例

例1: *SNAタイプの項目を変更

```
CHGRDBDIRE RDB(YOURRDB) RMTLOCNAME(NEWARK)
```

このコマンドは、YOURRDBをアクセスする新規リモート・ロケーション名としてNEWARKを使用するようにディレクトリー項目を変更します。

例2: *IPタイプの項目を変更

```
CHGRDBDIRE RDB(MYRDB) RMTLOCNAME(ROCHESTER.XYZ.COM *IP)
```

このコマンドは、MYRDBをアクセスするインターネット・プロトコル・ドメイン・ネームを使用するディレクトリー項目を変更します。RMTLOCNAMEの2番目の要素は、接続にTCP/IPが使用されることを指示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGRDBDIRE

*ESCAPE メッセージ

CPF3EC1

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の変更が失敗しました。

[トップ](#)

リモート定義の変更 (CHGRMTDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート定義変更(CHGRMTDFN)コマンドは、リモート定義テーブル中のリモート・システムの属性を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSTEM	システム名	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY	
	要素 2: システム・グループ	文字値	
TEXT	テキスト	文字値, *SAME, *BLANK	オプション, 定位置 2
MTGNTCDOC	会議の案内文書タイプ	*SAME, *FFTDCA, *EMN	オプション
CALDTASTM	予定表データ・ストリーム	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 通信名, *OV400	オプション
RMTCALPWD	予定表パスワード	単純名, *SAME, *NONE	オプション
RMTUSRAUT	リモート・ユーザー権限	*SAME, *PRIVATE, *PUBLIC, *MINIMUM, *EXCLUDE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *SAME, *SYSTEM	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
MODE	モード	通信名, *SAME, *NETATR	オプション

[トップ](#)

システム名 (SYSTEM)

変更するリモート・システムのシステム名およびシステム・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 属性がまだ定義されていないリモート・システムによって使用される省略時の定義が、変更されません。

指定できるシステム名の値は次の通りです。

システム名

変更するリモート・システムの名前を指定してください。

指定できるシステム・グループの値は次の通りです。

システム・グループ

変更するリモート・システムのグループ名を指定してください。この値を指定しないと、システム・グループ名はブランクになります。

[トップ](#)

テキスト (TEXT)

リモート・システム定義について簡単に説明するテキストを指定します。このパラメーターの詳しい説明は、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339) の付録Aにあります。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

会議の案内文書タイプ (MTGNTCDOC)

リモート・システムが受け入れる会議案内文書のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*FFTDCA

最終文書が受け入れられます。リモート・システムは、全社的会議通知アーキテクチャー文書を受け入れません。

*EMN 全社的会議通知アーキテクチャー文書が受け入れられます(AS/400システムV2R1M1以降)。

[トップ](#)

予定表データ・ストリーム (CALDTASTM)

予定表情報の要求をこのリモート・システムに送る時に、ローカル・システムが使用する予定表データ・ストリームのタイプを指定します。予定表データ・ストリームのそれぞれのタイプは、ローカル・システムからこのリモート・システムにリモート予定表要求を行なう時の形式を表わします。

使用できる単一の値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

予定表データ・ストリームは使用されません。

指定できる多重値は次の通りです。

***OV400**

OFFICEVISION FOR AS/400予定表データ・ストリームが使用されます。

予定表データ・ストリーム

使用される予定表データ・ストリームの名前を指定してください。データ・ストリームの名前は10文字以内とすることができます。

[トップ](#)

予定表パスワード (RMTCALPWD)

リモート・システム上のユーザー・プロファイルQRMTCALと関連づけられているパスワードを指定します。このユーザー・プロファイルは、予定表情報の要求の処理時にリモート・システムに対してサインオンするために使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー・プロファイルQRMTCALに使用されるパスワードはありません。

予定表パスワード

QRMTCALに対して定義されているパスワードを指定してください。パスワードが数字である場合には、パスワードをQで始めなければなりません（たとえば、1234がパスワードである時にはQ1234と指定する）。

[トップ](#)

リモート・ユーザー権限 (RMTUSRAUT)

リモート・システム・ユーザーからの予定表情報の着信要求に使用されるローカル・システム上の予定表オブジェクトに対するオブジェクト権を指定します。このパラメーターは、予定表に対する権限を調べるために、OFFICEVISION FOR AS/400予定表処理で使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***PRIVATE**

リモート・システムからの要求に対して私用認可が使用されます。私用認可が存在していない場合には、共通認可が使用されます。

***PUBLIC**

リモート・システムからの要求に対して共通認可が使用されます。

***MINIMUM**

リモート・システムからの要求に対して、私用認可と共通認可のうち権限の小さい方が使用されます。

***EXCLUDE**

リモート・システムのユーザーは、ローカル・システム上のオブジェクトにアクセスすることができません。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

更新するリモート・システムのリモート・ロケーション名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSTEM**

SYSTEMパラメーターで指定された名前が、リモート・ロケーション名として使用されます。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションのフルネームを指定してください。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

リモート・システムがローカル・システムを識別するロケーション名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと対応したローカル・ロケーション名が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーションの名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

更新するリモート・システムのリモート・ネットワーク識別コード(ID)を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDが使用されます。複数のリモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションと関連づけられている場合には、どのリモート・ネットワークIDを使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたRMTNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

リモート・システムにデータを要求するために使用される装置セッションを定義するモードの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性で指定されたモード名が使用されます。

モード名

モードの名前を指定してください。

[トップ](#)

CHGRMTDFNの例

例1:リモート定義の記述の変更

```
CHGRMTDFN SYSTEM(ABCXYZ) TEXT('LONDON REMOTE XYZ')
```

このコマンドは、リモート・システムABCXYZの記述をLONDON REMOTE XYZに変更します。

例2:未定義システムのカレンダー・データ・ストリームの変更

```
CHGRMTDFN SYSTEM(*ANY) CALDTASTM(*OV400)
```

このコマンドは、特定のリモート定義が指定されていないリモート・システムに対する省略時の定義を変更します。これらのシステムは、リモート・カレンダー要求に対するOFFICEVISIONデータ・ストリームをサポートするために定義されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGRMTDFN

*ESCAPEメッセージ

CPF6DCA

SYSTEMパラメーターをローカル・システムにできない。

CPF6DCC

システム&1 &2のリモート定義が見つからない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

リモート・ジャーナルの変更 (CHGRMTJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・ジャーナルのジャーナル状態を変更するためには、リモート・ジャーナル変更(CHGRMTJRN)コマンドが使用されます。

このコマンドは、リモート・ジャーナルの状態を*ACTIVEから*INACTIVEに、または*INACTIVEから*ACTIVEに変更するために、ソース・システムのジャーナルと対応しているリモート・ジャーナルに対してソース・システムで使用されます。リモート・ジャーナルのジャーナル状態*ACTIVEは、ソース・システム上の関連したジャーナルからジャーナル項目を受け取ることができることを示しています。リモート・ジャーナルのジャーナル状態*INACTIVEは、ジャーナルがソース・ジャーナルからジャーナル項目受け取り可能になっていないことを示しています。また、このコマンドによって、ジャーナル状態と対応している追加の属性を設定することもできます。

リモート・ジャーナルのその他のジャーナル属性（ジャーナル・メッセージ待ち行列、レシーバーの削除、およびテキストなど）を変更するためには、ジャーナル変更(CHGJRN)コマンドを使用することができます。

制約事項:

- ソース・システムでこのコマンドを実行するユーザー・プロファイルと同じ名前のユーザー・プロファイルが、ターゲット・システムに存在していなければなりません。この制約事項は選択された通信プロトコルとは無関係です。
- ソース・システムのジャーナル名パラメーターにリモート・ジャーナルが指定された場合には、同期転送モードはサポートされません。
- 活動化するリモート・ジャーナルのジャーナル状態が、すでに*ACTIVEとなっていてはいけません。
- 非活動化するリモート・ジャーナルのジャーナル状態が、すでに*INACTIVEとなっていてはいけません。
- リモート・ジャーナル状態が*CTLINACTとなっている場合には、INACTOPT(*CNTRLD)を指定してリモート・ジャーナルを非活動化することはできません。
- 活動化するリモート・ジャーナルのジャーナル項目がすでにその他のジャーナルに複製されていてはいけません。
- 2重レシーバーの対の1つであるジャーナル・レシーバーを複製することはできません。
- バージョン4リリース2モディフィケーション0が導入された後のジャーナルに一度も接続されていないジャーナル・レシーバーには必須情報のすべてが含まれていないので、そのレシーバーを複製することはできません。
- 指定されたりレシーショナル・データベース・ディレクトリー項目(RDB)は、次の規則を満たしていなければなりません。
 - 通信プロトコルは、リモート・ジャーナル機能がサポートされているプロトコルの1つとしなければなりません。
 - RDB内のリモート・ロケーション名は*LOCALデータベースを参照することができません。

- RDBは、適用業務要求元ドライバー・プログラム(*ARDPGM)を使用してターゲット・システムを見つけることができません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDB	リレーショナル・データベース	名前	必須, 定位置 1
SRCJRN	ソース・ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TGTJRN	ターゲット・ジャーナル	単一値: *SRCJRN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ターゲット・ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
JRNSTATE	ジャーナル状態	*SAME, *ACTIVE, *INACTIVE	オプション
DELIVERY	配布	*ASYNC, *SYNC	オプション
STRJRNRCV	開始ジャーナル・レシーバー	単一値: *ATTACHED, *SRCSYS その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SNDTSKPTY	送信タスク優先順位	1-99, *SYSDFT	オプション
INACTOPT	非活動状態にする方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション

トップ

リレーショナル・データベース (RDB)

ターゲット・システムのリモート・ロケーション名が入っているリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定します。この名前は、ターゲット・システムの*LOCALリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前と一致していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

リレーショナル・データベース項目

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前には最大18桁を指定することができます。

トップ

ソース・ジャーナル (SRCJRN)

変更するリモート・ジャーナルと関連付けられているソース・ジャーナルの名前、およびそのジャーナルが存在しているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ソース・ジャーナル

ソース・ジャーナル名

変更するリモート・ジャーナルと関連付けられているソース・ジャーナルを指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

ジャーナルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ターゲット・ジャーナル (TGTJRN)

変更されるターゲット・システム上のリモート・ジャーナルを指定します。

単一値

*SRCJRN

ターゲット・ジャーナル名はソース・ジャーナル名と正確に同じです。

修飾子 1: ターゲット・ジャーナル

ターゲット・ジャーナル名

変更されるターゲット・ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

ライブラリー名

ジャーナルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル状態 (JRNSTATE)

リモート・ジャーナルがソース・ジャーナルからジャーナル項目を受け取る準備ができているかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***ACTIVE**

リモート・ジャーナルは、ソース・ジャーナルからジャーナル項目受け取り可能になっています。

***INACTIVE**

リモート・ジャーナルは、ソース・ジャーナルからジャーナル項目受け取り可能になっていません。

[トップ](#)

配布 (DELIVERY)

リモート・ジャーナルが活動化されている時に、ジャーナル項目が同期して複写されるか、非同期に複写されるかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、JRNSTATE(*ACTIVE)が指定されている場合だけです。

***ASYNC**

ジャーナル項目は非同期に複写されます。

***SYNC**

ジャーナル項目は同期して複写されます。

[トップ](#)

開始ジャーナル・レシーバー (STRJRNCV)

ソース・システムからターゲット・システムへのジャーナル項目の複写が開始されるジャーナル・レシーバー。

注: このパラメーターが有効なのは、JRNSTATE(*ACTIVE)が指定されている場合だけです。

***ATTACHED**

ジャーナル項目の複写は、ターゲット・システムで現在リモート・ジャーナルに接続されているジャーナル・レシーバーから開始されます。ジャーナル項目は、ソース・システムでジャーナルと関連付けられている対応するジャーナル・レシーバーから複写されます。複写は、ターゲット・システム上で接続されたジャーナル・レシーバーに現在存在している最後のジャーナル項目のすぐ次のジャーナル項目から開始されます。ターゲット・システムのリモート・ジャーナルにジャーナル・レシーバーが接続されていない場合には、ソース・システムで現在ジャーナルに接続されているジャーナル・レシーバーがターゲット・システムに作成され、ターゲット・システムのリモート・ジャーナルに接続されます。この場合、ソース・システムで現在ジャーナルに接続されているジャーナル・レシーバー内の最初のジャーナル項目から始まるジャーナル項目が複写されます。別のリモート・ジャーナルと関連付けられているリモート・ジャーナルの場合しか考えられませんが、ソース・システムのジャーナルにジャーナル・レシーバーが接続されていない場合には、ジャーナル項目を複写することはできず、エラーが戻されます。

***SRCSYS**

ジャーナル項目の複写は、ソース・システムで現在ジャーナルに接続されているジャーナル・レシーバーから開始されます。対応するジャーナル・レシーバーが存在し、ターゲット・システムのリモート・ジャーナルに接続されている場合には、ターゲット・システム上で、接続されたジャーナル・レシーバーに現在存在している最後のジャーナル項目のすぐ次のジャーナル項目から始まるジャーナル項目が複写されます。そうでない場合には、対応するジャーナル・レシーバーは存在しているが、ターゲット・システムでリモート・ジャーナルに接続されていないと、ジャーナル項目を

複写することはできず、エラーが戻されます。ターゲット・システムに対応するジャーナル・レシーバーが存在していない場合には、ジャーナル・レシーバーがターゲット・システムに作成され、ターゲット・システムのリモート・ジャーナルに接続されます。この場合、ソース・システムで現在ジャーナルに接続されているジャーナル・レシーバー内の最初のジャーナル項目から始まるジャーナル項目が複写されます。別のリモート・ジャーナルと関連付けられているリモート・ジャーナルの場合しか考えられませんが、ソース・システムのジャーナルにジャーナル・レシーバーが接続されていない場合には、ジャーナル項目を複写することはできず、エラーが戻されます。

開始ジャーナル・レシーバー名

ジャーナルの複写を開始するジャーナル・レシーバーを指定してください。対応するジャーナル・レシーバーが存在し、ターゲット・システムのリモート・ジャーナルに接続されている場合には、ターゲット・システム上で、接続されたジャーナル・レシーバーに現在存在している最後のジャーナル項目のすぐ次のジャーナル項目から始まるジャーナル項目が複写されます。そうでない場合には、対応するジャーナル・レシーバーは存在しているが、ターゲット・システムでリモート・ジャーナルに接続されていないと、ジャーナル項目を複写することはできず、エラーが戻されます。ターゲット・システムに対応するジャーナル・レシーバーが存在していない場合には、ジャーナル・レシーバーがターゲット・システムに作成され、ターゲット・システムのリモート・ジャーナルに接続されます。この場合、ソース・システムで指定されたジャーナル・レシーバー内の最初のジャーナル項目から始まるジャーナル項目が複写されます。

開始ジャーナル・レシーバーの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

送信タスク優先順位 (SNDTSKPTY)

ソース・システムで非同期に保守されたリモート・ジャーナルに対する送信タスクの優先順位を指定します。優先順位は、1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの範囲の値です。この値は、タスクの相対的な（絶対的でない）重要度を表します。

注: このパラメーターが有効なのは、JRNSTATE(*ACTIVE)およびDELIVERY(*ASYN)が指定されている場合だけです。

*SYSDFT

システムは、ユーザーが指定できる最高の優先順位より高い（優先順位1より高い）送信タスクの優先順位の値を選択します。

送信タスク優先順位

ソース・システムにおける送信タスクの優先順位を1から99までの範囲の値で指定してください。

[トップ](#)

非活動状態にする方法 (INACTOPT)

リモート・ジャーナルが非活動化されている時に、ジャーナル項目の複写を終了する方法を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、JRNSTATE(*INACTIVE)が指定されている場合だけです。

***CNTRLD**

ジャーナル項目複写の制御付きの非活動化が実行されます。制御付きの非活動化とは、システムが、リモート・ジャーナルを非活動化する前に、ソース・システムからターゲット・システムに送るためにすでに待ち行列に入れられているジャーナル項目をすべて複写することを意味します。制御付き非活動化を実行する要求の後に、追加のジャーナル項目は待ち行列に入れられません。制御付き非活動化は、ジャーナルがキャッチアップ状態になっている場合、あるいは同期して保守される場合には実行することができません。これらのいずれの場合にも、システムによって、制御付き非活動化を実行する要求は即時非活動化要求に暗黙に変更されます。

***IMMED**

ジャーナル項目複写の即時非活動化が実行されます。即時非活動化とは、システムが、リモート・ジャーナルを非活動化する前に、すでに待ち行列に入れられているどのジャーナル項目の複写も続行しないことを意味します。

[トップ](#)

CHGRMTJRNの例

例 1:非同期に保守されるリモート・ジャーナルの活動化

```
CHGRMTJRN  RDB(CHICAGO)
            SRCJRN(LCLLIB/JOURNAL1)  TGTJRN(RMTLIB/JOURNAL1)
            JRNSTATE(*ACTIVE)  DELIVERY(*ASYNCR)
            SNDSKPTY(*SYSDFT)
```

このコマンドは、ジャーナル項目がライブラリーLCLLIBのソース・ジャーナルJOURNAL1からライブラリーRMTLIBのリモート・ジャーナルJOURNAL1に複製されるように、ライブラリーRMTLIBのリモート・ジャーナルJOURNAL1を活動化します。複製は非同期に行われ、システムが送信タスクの優先順位を設定します。

例 2:リモート・ジャーナルの非活動化

```
CHGRMTJRN  RDB(CHICAGO)  SRCJRN(LCLLIB/JOURNAL1)
            TGTJRN(RMTLIB/JOURNAL1)
            JRNSTATE(*INACTIVE)  INACTOPT(*IMMED)
```

このコマンドは、ジャーナル項目がライブラリーLCLLIBのソース・ジャーナルJOURNAL1からライブラリーRMTLIBのリモート・ジャーナルJOURNAL1に複製されなくなるように、ライブラリーRMTLIBのリモート・ジャーナルJOURNAL1を非活動化します。非活動化はただちに行われます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGRMTJRN

***ESCAPE**メッセージ

CPF69A2

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF69A3

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF694D

予期しないジャーナル・レシーバー&8が見つかった。

CPF694F

通信障害。

CPF696F

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF697A

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF697B

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF697C

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF697D

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF697E

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF697F

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF6973

システムまたはジャーナル環境に互換性がない。

CPF6974

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF698A

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF698B

予期しないジャーナル・レシーバーが&1に接続されていた。

CPF698C

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF698D

ジャーナル&1はリモート・ジャーナルでない。

CPF698E

ジャーナル&1はソース・ジャーナルと対応していない。

CPF698F

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF6982

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目&1が正しくない。

CPF699A

予期しないジャーナル・レシーバー&8が見つかった。

CPF699E

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF6993

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF6994

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF6995

予期しないジャーナル・レシーバー&8が見つかった。

CPF6996

ジャーナル項目の複製は終了している

CPF6997

予期しないジャーナル・レシーバー&8が見つかった。

CPF6998

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF6999

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF70A3

&2のリモート・ジャーナル&1は変更されていない。

CPF70DB

リモート・ジャーナル機能は正常に実行されていない。

CPF70D9

ジャーナル状態の変更は許されない。理由コードは&3です。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

システム応答リスト項目変更 (CHGRPYLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム応答リスト項目変更(CHGRPYLE)コマンドは、システム応答リストの項目を変更します。システム応答リストの項目の属性は、順序番号を除いて、すべて変更することができます。

応答リストは、事前定義照会メッセージに対する自動応答の源泉として使用されます。

応答リストは、システム応答リスト属性INQMSGRPY(*SYSRPLY)の指定されたジョブによって照会メッセージが送られる時にだけ使用されます。INQMSGRPY属性は、CHGJOBコマンドを使用して変更することができます。

応答リスト項目追加(ADDRPYLE)コマンドを使用して新しい項目を応答リストに追加することができ、応答リスト項目除去(RMVRPYLE)コマンドを使って項目を除去することができます。応答リスト項目処理(WRKRPYLE)コマンドを使用して項目のリスト全体を表示することができ、ユーザーは、表示された画面から、個々の項目を追加、変更、および除去することができます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で提供され、QPGMRユーザー・プロファイルがこのコマンドを使用する私用認可を持っています。
2. このコマンドを使用するには、QPGMRとしてサインオンするか、または*USE特殊権限を持っていることが必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SEQNBR	順序番号	1-9999	必須, 定位置 1
MSGID	メッセージ識別コード	文字値, *SAME, *ANY	オプション
CMPDTA	比較データ	要素リスト	オプション
	要素 1: 比較データ	文字値, *SAME, *NONE	
	要素 2: メッセージ・データ 開始位置	1-999, *SAME, *NONE	
RPY	メッセージ応答	文字値, *SAME, *DFT, *RQD	オプション
DUMP	送信元ジョブのダンプ	*SAME, *NO, *YES	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *SAME, *HEX, *JOB	オプション

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

変更している応答リスト項目の順序番号を指定します。照会メッセージのメッセージ識別コードおよびメッセージ・データが、順序番号昇順に応答リスト項目メッセージ識別コードおよび比較データと突き合わされます。一致するか、最後の応答リスト項目が渡された時に、検索は終わります。

これは必須パラメーターです。

1-9999

1から9999の順序番号を指定します。重複した順序番号は使用できません。

[トップ](#)

メッセージ識別コード (MSGID)

システムによる自動的な処置を行うための照会メッセージ識別コードを指定します。メッセージ識別コードの有効範囲は、限定または総称とすることができます。応答リスト項目によって突き合わせることができるのは、事前定義メッセージ（メッセージ識別コードによってシステムに認識されているメッセージ）だけです。即時メッセージは比較には使用することができません。

***SAME**

メッセージ識別コードは変更されません。

***ANY** この応答リスト項目はどのメッセージ識別コードにも一致します。この応答リスト項目が指定された比較データを持っていない場合は、これよりも高位の順序番号を持つ応答リスト項目はいずれも無視されます。

メッセージ識別コード

照会メッセージのメッセージ識別コードと比較されるメッセージ識別コードを指定します。メッセージ識別コードは、長さが7文字で、次の形式でなければなりません。*PPPNNNN*

最初の3文字(*PPP*)は、1桁の英字とその後に続く2桁の英数字（英字または10進数）文字から構成されるコードでなければなりません。最後の4文字(*NNNN*)は、0 - 9の10進数とA - Fの文字で構成しなければなりません。

[トップ](#)

比較データ (CMPDTA)

この項目が照会メッセージに一致するかどうかを判別するのに使用される比較データを指定します。照会メッセージの識別コードがこの応答リスト項目のメッセージ識別コードに一致する場合は、照会メッセージに関して指定されたメッセージ・データがこのデータと比較されます。

要素 1: 比較データ

***SAME**

比較データは変更されません。

***NONE**

比較データは指定されません。照会メッセージが指定された識別コードを持っている場合には、この応答リスト項目によって指定された処置が取られます。

'比較データ'

（ブランクまたは他の特殊文字が含まれる場合は、アポストロフィで囲まれた）28文字以下の文字

ストリングを指定してください。この文字ストリングが、（開始値が指定されていない場合は）最初の文字から始めて、照会メッセージのメッセージ・データの中の同じ長さのストリングと比較されます。

要素 2: メッセージ・データ開始位置

***SAME**

メッセージ・データ開始は変わらず同じままです。

メッセージ・データ開始

メッセージの置き換えテキストの中で、比較データが置き換えテキストと比較される文字位置（最大値は999を超えない）を指定します。開始値は、比較データの指定なしでは使用できません。

コード化文字セット識別コード(CCSID)に関する考慮事項

*CCHARタイプ・フィールドに対応するCMPDTAパラメーターに指定されたテキストは、CCSIDパラメーターがコーディングされない限り、このコマンドを実行中のジョブのCCSIDに入っているとみなされます。*CCHARタイプ・フィールドの詳細については、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドを参照してください。

トップ

メッセージ応答 (RPY)

この応答リスト項目に一致する照会メッセージに対する応答方法を指定します。この応答リスト項目の中で指定された応答は、システムによって自動的に送られ、ユーザーの介入を必要としません。照会メッセージは、メッセージがメッセージ待ち行列に達した時点で、ジョブを中断させたり、ジョブに通知させることはありません。

***SAME**

応答処置は変更されません。

***DFT** 照会メッセージに対する省略時の応答が送られます。

***RQD** 照会メッセージは明示の応答を必要とします。応答は自動的に送られません。

'メッセージ応答'

照会メッセージに対する応答として送られる（ブランクまたは他の特殊文字が含まれる場合は、アポストロフィで囲まれた）3 2文字以下の文字ストリングを指定します。

トップ

送信元ジョブのダンプ (DUMP)

照会メッセージがこの応答リスト項目に一致すると、照会メッセージを送ったジョブの内容を印刷（ダンプ）するかどうかを指定します。

***SAME**

応答リスト項目のダンプ属性は変更されません。

***NO** ジョブはダンプされません。

***YES** 制御権がメッセージを送るプログラムに戻る前に、ジョブはダンプされます。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

CMPDTAのタイプ***CCHAR**である部分のコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。

システム応答リストを使用しているジョブに照会メッセージが送られると、***CCHAR**比較データは、送信機能によって指定されたCCSIDから応答リストに保管されたCMPDTAのCCSIDに変換されます。これは、データの比較が行われる前に行われます。

他のすべての比較データは比較が行われる前に変換されません。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」トピックを参照してください。

注: ***HEX**以外のCCSIDを指定すると、「応答リスト項目の処理」パネルに表示する時に、指定されたすべてのCMPDTAがそのCCSIDからジョブのCCSIDに変換されます。これは、すべてのCMPDTAが***CCHAR**データと対応していない時にも行われます。したがって、***HEX**以外のCCSIDを使用する時には、***CCHAR**データの長さまたはその他のデータ・フィールドの指定は望ましくありません。

***SAME**

CMPDTAと関連付けられているCCSIDは変更されません。CMPDTAを変更している場合には、CMPDTAのタイプが***CCHAR**である部分は、これが取って代わるCMPDTAが入っているのと同じCCSIDであるとみなされます。

JOB** CMPDTAを変更している場合には、CMPDTAのタイプCCHAR**である部分は、このコマンドを実行するジョブのCCSIDにあるとみなされます。CMPDTAが変更されない場合には、CMPDTAと関連付けられているCCSIDは変更されません。

***HEX** CMPDTAと関連付けられているCCSIDは65535に変更されます。置き換えデータをCMPDTAと比較する前には、変換は行われません。

コード化文字セット識別コード

CMPDTAと関連付けられているCCSIDが指定されたCCSID値であるとみなされます。

トップ

CHGRPYLEの例

例1:メッセージ識別コードの変更

```
CHGRPYLE SEQNBR(20) MSGID(RPG1299)
```

このコマンドは、応答リスト項目（順序番号20）のメッセージ識別コードをRPG1299に変更します。応答リストを使用しているジョブによってRPG1299照会メッセージが送られた時にはいつでも、項目20について指定された処置が取られます。

例2:比較データの変更

```
CHGRPYLE SEQNBR(25) CMPDTA(MYPROGRAM)
```

このコマンドは、順序番号が25の応答リスト項目の比較データをMYPROGRAMに変更します。この項目は、メッセージ・データがMYPROGRAMで始まる照会メッセージだけを突き合わせます。たとえば、この項目がRPG1200メッセージ用のものであった場合には、項目は送られたメッセージが入っていたRPGプログラムにMYPROGRAMという名前のメッセージ・データがあった場合にだけ使用されます。

例3:送信される応答の変更

```
CHGRPYLE SEQNBR(30) RPY(C)
```

このコマンドは、順序番号が30の応答リスト項目の場合に送られる応答をCに変更します。この項目について前に定義されているメッセージ識別コードおよび比較データと一致する照会メッセージが、応答リストを使用しているジョブによって送られた時にはいつでも、「C」の応答が自動的に送られます。

例4:ジョブの内容の印刷

```
CHGRPYLE SEQNBR(40) DUMP(*YES)
```

このコマンドは、順序番号が40の応答リスト項目についてDUMPパラメーターに定義された属性を変更します。この項目が照会メッセージと一致した時にはいつでも、制御が送信プログラムに戻される前に、送信ジョブのダンプが取られます。

例5:手動応答の送信

```
CHGRPYLE SEQNBR(45) MSGID(CPA5300) CMPDTA(*NONE)
RPY(*RQD) DUMP(*NO)
```

このコマンドは、順序番号が45の応答リスト項目の一部の属性を変更します。応答リストを使用しているジョブによってCPA53XX照会メッセージが送られた時にはいつでも、手動応答を出す必要があります。照会が送られる先のメッセージ待ち行列が中断モードにあった場合には、このメッセージがジョブを中断します。送信ジョブのダンプは取られません。

例6:自動応答の送信

```
CHGRPYLE SEQNBR(9999) MSGID(CPA3917) RPY(R)
```

このコマンドは、順序番号が9999の応答リスト項目を変更します。応答リストを使用しているジョブによってCPA3917照会メッセージが送られた時にはいつでも、「R」の応答が自動的に送られます。この照会によってメッセージ待ち行列が中断されることはなく、メッセージに手動で応答する機会は与えられません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGRPYLE

*ESCAPEメッセージ

CPF2435

システム応答リストが見つからなかった。

CPF2436

システム応答リスト項目は追加または変更されなかった。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF2556

順序番号&1はシステム応答リストに定義されていない。

CPF2557

システム応答リストに損傷がある。

CPF2558

システム応答リストは現在使用中である。

[トップ](#)

ROUTED属性の変更 (CHGRTDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ROUTED属性変更(CHGRTDA)コマンドは、構成可能なルーティング情報プロトコル(RIP)サーバー属性を変更するために使用されます。次回のROUTEDサーバーの始動時に有効となる変更は、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー始動(STRTCPSVR)コマンドのいずれかによって開始されます。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOSTART	自動開始	*SAME , *YES, *NO	オプション
SUPPLY	提供	*SAME , *YES, *NO	オプション

[トップ](#)

自動開始 (AUTOSTART)

STRTCPコマンドまたはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)によってTCP/IPを開始する時に、ROUTEDサーバーを自動的に始動するかどうかを指定します。STRTCPSVRコマンドによってROUTEDが始動されますが、SERVER(*AUTOSTART)パラメーターが省略された場合には、AUTOSTARTパラメーターは無視され、このパラメーターの値に関係なくROUTEDサーバーが始動されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

AUTOSTART値は、前に設定されている場合には変更されません。そうでない場合には、省略時の値として*NOが指定されます。

***NO** ROUTEDサーバーを自動的に始動しません。

***YES** ROUTEDサーバーを自動的に始動します。

[トップ](#)

提供 (SUPPLY)

ROUTEDがネットワーク・インターフェースを介してRIPパケットで経路指定情報を提供するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

前に設定されている提供オプションは変更されません。そうでない場合には、*NO が使用されます。

***NO** ROUTEDタスクは、RIPパケットを正常に受け取って処理しますが、接続されたネットワーク・インターフェースを介した定期的なRIPブロードキャスト・パケットは提供しません。これは、最終的にROUTEDサーバーを「LISTENモード」にします。

***YES** ROUTEDタスクは、接続されたネットワークに定期的なRIPブロードキャスト・パケットを提供します。特定のインターフェースを介したRIPパケットの提供は、特定のインターフェースを介した提供をオフにするように指定する構成ファイルの項目によって一時変更されることがあります。

トップ

CHGRTDAの例

例1: TCP/IP開始(STRTCP) CLコマンドが出された時にROUTEDサーバーを自動始動

```
CHGRTDA AUTOSTART(*YES)
```

このコマンドは、次回にSTRTCPコマンドが出されてTCP/IPが開始され、TCP/IPアプリケーションが自動始動された時に、ROUTEDサーバーが自動始動されることを指示します。

例2: ROUTEDサーバーによってキー・アクションを追跡

```
CHGRTDA TRACE(*ACTIONS)
```

このコマンドは、ROUTEDサーバーによって実行されたキー・アクションに対して追跡オプションが活動状態になることを指示します。ログ・ファイルQATORLOGが存在しないと作成され、存在すればそれに付加されます。

トップ

エラー・メッセージ: CHGRTDA

***ESCAPE** メッセージ

CPF0011

プロンプト一時変更プログラムによってエラーが検出された。

TCP5496

構成属性メンバーへのアクセス中にエラー。

TCP5497

ファイル&3,ライブラリー&2が見つからない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9503

ライブラリー&2のファイル&3が使用できない。

***STATUS** メッセージ**CPF5001**

ライブラリー&3にファイル&2の終わりが検出された。

[トップ](#)

経路指定項目変更 (CHGRTGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

経路指定項目変更 (CHGRTGE)コマンドは、指定されたサブシステム記述中の経路指定項目を変更します。経路指定項目には、ジョブの経路指定ステップを開始するために使用されるパラメーターが指定されていません。変更が行われた場合には、関連したサブシステムを活動状態にすることができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEQNBR	経路指定項目の順序番号	1-9999	必須, 定位置 2
CMPVAL	比較データ	単一値: *SAME, *ANY その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 比較値	文字値	
	要素 2: 開始桁	1-80, *SAME	
PGM	呼び出すプログラム	単一値: *SAME, *RTGDTA その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: 呼び出すプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CLS	クラス	単一値: *SAME, *SBSD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: クラス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAXACT	活動経路指定ステップの最大数	0-1000, *SAME, *NOMAX	オプション
POOLID	記憶域プール識別コード	1-10, *SAME	オプション
THDRSCAFN	スレッド資源の類縁性	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グループ	*NOGROUP, *GROUP	
	要素 2: レベル	*NORMAL, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
RSCAFNGRP	資源の類縁性グループ	*SAME , *NO, *YES	オプション

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

変更する経路指定項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 経路指定項目が変更されるサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 経路指定項目が変更されるサブシステム記述のライブラリーの名前を指定します。

トップ

経路指定項目の順序番号 (SEQNBR)

追加または変更する経路指定項目の順序番号を指定します。経路指定データは、順序番号の昇順に経路指定項目の比較値と比較されます。これらが一致するか、あるいは最後の経路指定項目に達すると、検索が終了します。したがって、複数の一致が存在する可能性があっても、最初の一致だけが処理されます。

これは必須パラメーターです。

1-9999

1から9999の間の順序番号を指定します。

トップ

比較データ (CMPVAL)

この経路指定項目をジョブの経路指定ステップの開始に使用するかどうかを決定するために経路指定データと比較される値を指定します。経路指定データが経路指定項目の比較値と一致した場合には、その経路指定項目が使用されます。開始データ文字ストリングの開始桁を使用して、経路指定項目の比較値と比較するための経路指定データ中の開始桁を指定することができます。

単一値

***SAME**

比較値および開始桁は変更されません。

ANY** 任意の経路指定データが一致と見なされます。ANY**を指定するためには、経路指定項目はサブシステム記述中の経路指定項目の最高の順序番号値を持っていない必要があります。

要素1: 比較値

文字値 経路指定データとの一致を調べるために比較される値（80桁を超えない任意の文字ストリング）を指定してください。一致した場合には、この経路指定項目が経路指定ステップの開始に使用されません。

要素2: 開始桁

***SAME**

開始桁は変更されません。

1-80 経路指定データ文字ストリングの中のどの位置が比較の開始桁であるかを示す1-80の範囲の値を指定してください。比較される最後の文字位置は、比較に使用される経路指定データの長さより小さいか等しくなければなりません。

トップ

呼び出すプログラム (PGM)

経路指定ステップで実行される最初のプログラムとして呼び出されるプログラムの名前およびライブラリーを指定します。指定したプログラムにパラメーターを渡すことはできません。プログラム名は、経路指定項目に明示的に指定するか、あるいは経路指定データから取り出すことができます。プログラム名を経路指定項目に指定した場合には、その経路指定項目を選択することによって、経路指定項目プログラムが呼び出されることとなります（EVOKE機能に渡されたプログラム名に関係なく）。EVOKE 機能に指定されたプログラムを呼び出す場合には、***RTGDTA**を指定しなければなりません。経路指定項目の追加または変更時にプログラムが存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません（修飾されたプログラム名がサブシステム記述に保管されるため）。

単一値

***SAME**

呼び出されたプログラムは変更されません。

***RTGDTA**

プログラム名は提供された経路指定データから取られ、この項目と比較されます。修飾プログラム名は、次のように経路指定データから取られます。プログラム名は37-46桁目から取られ、ライブラリー名は47-56桁目から取られます。***RTGDTA**を指定する経路指定項目が、プログラム名を経路指定データの正しい位置に指定しているジョブのEVOKE機能だけに選択されるように注意が必要です。

修飾子1: 呼び出すプログラム

名前 この経路指定項目から実行されるプログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 指定したプログラムの入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: サブシステム記述には修飾プログラム名が保持されるので、この経路指定項目を変更する時にプログラムが存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません。

トップ

クラス (CLS)

この経路指定項目によって開始される経路指定ステップで使用されるクラスの名前およびライブラリーを指定します。クラスは、経路指定ステップの実行環境の属性を定義します。経路指定項目が追加される時にクラスが存在していない場合には、修飾されたクラス名がサブシステム記述に保管されているので、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません。

単一値

***SAME**

この項目のクラスは変更されません。

***SBSD**

サブシステム記述 (SBSD)パラメーターに指定されたサブシステム記述と同じ名前のクラスが、この項目を介して開始される経路指定ステップに使用されます。

修飾子1: クラス

名前 この経路指定項目により開始されるクラスの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 この経路指定項目を介して開始される経路指定ステップに使用されるクラスのライブラリー名を指定します。

トップ

活動経路指定ステップの最大数 (MAXACT)

この経路指定項目によって同時に活動化できる経路指定ステップ (ジョブ) の最大数を指定します。ジョブでは、同時に1つの経路指定ステップしか活動化しません。サブシステムが活動状態で、経路指定ステップが最大数に達している時には、この経路指定項目を使用して、引き続き経路指定ステップを開始しようとしても、正常に実行されません。経路指定ステップを開始しようとしたジョブが終了し、サブシステムによってメッセージがジョブ・ログに送られます。

***SAME**

同時に活動状態にすることのできる経路指定ステップの最大数は変更されません。

***NOMAX**

この経路指定項目によって同時に活動状態にして、処理できる経路指定ステップの最大数に制限を設けません。この値は、通常、経路指定ステップの数を制限する理由がない時に使用されます。

0-1000

この経路指定項目によって同時に活動状態にできる経路指定ステップの最大数を指定してください。開始される経路指定ステップがこの数を超えた場合には、ジョブは終了されます。

トップ

記憶域プール識別コード (POOLID)

プログラムが実行される記憶域プールのプール識別コードを指定します。ここに指定するプール識別コードは、サブシステム記述中の記憶域プールに関連しています。

***SAME**

プール識別コードは変更されません。

1-10 プログラムが実行されるこのサブシステムに定義された記憶域プールの識別コードを指定してください。

トップ

スレッド資源の類縁性 (THDRSCAFN)

システム資源へのスレッドの類縁性を指定します。

単一値***SAME**

スレッド資源の類縁性は変更されません。

***SYSVAL**

この経路指定項目を使用してジョブが開始される時には、QTHDRSCAFNシステム値からのスレッド資源類縁性の値が使用されます。

要素1: グループ***NOGROUP**

この経路指定項目を使用するジョブには、プロセッサおよびメモリのグループへの類縁性が備わります。このジョブの下で実行される2次スレッドには、必ずしも同じプロセッサおよびメモリのグループへの類縁性はありません。

***GROUP**

この経路指定項目を使用するジョブには、プロセッサおよびメモリのグループへの類縁性が備わります。このジョブの下で実行される2次スレッドは、すべてその開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリのグループへの類縁性を持ちます。

要素2: レベル

*NORMAL

スレッドは、それが類縁性を持つ資源が容易に使用可能でなくなった場合に、任意のプロセッサまたはメモリーを使用します。

*HIGH スレッドは、それが類縁性を持つ資源をのみ使用し、必要な場合は、それらの資源が使用可能になるまで待機します。

[トップ](#)

資源の類縁性グループ (RSCAFNGRP)

この経路指定項目を使用するジョブが、同じシステム資源（プロセッサおよびメモリー）への類縁性を持つグループに1つにまとめられるかどうかを指定します。このパラメーターの*YESの値は、QTHDRSCAFNシステム値が*NOGROUPに設定されていてもそれに優先します。

*SAME

資源の類縁性グループは変更されません。

*NO この経路指定項目を使用する事前開始ジョブは1つにグループ化されません。

*YES この経路指定項目を使用するジョブは、同じシステム資源への類縁性を持つようなグループに1つにまとめられます。メモリー中のデータを共用するジョブは、それらが同じ資源への類縁性を持っていればより良好に実行されます。

[トップ](#)

CHGRTGEの例

例1:クラスおよびプールIDの変更

```
CHGRTGE SBS(D(LIB5/ORDER) SEQNBR(1478) CLS(LIB6/SOFAST) POOLID(3)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB5にあるサブシステム記述ORDERの経路指定項目1478を変更します。同じプログラムが使用されますが、それはライブラリーLIB6のクラスSOFASTを使用して、記憶域プール3で実行されるようになります。

例2:呼び出されるプログラムの名前の変更

```
CHGRTGE SBS(D(T7/PGMR) SEQNBR(157) PGM(T7/INTDEV)
```

このコマンドは、ライブラリーT7にあるサブシステム記述PGMRの経路指定項目157を変更します。この経路指定項目が選択された時にはいつでも、ライブラリーT7のプログラムINTDEVが呼び出されるようになります。その他の経路指定項目パラメーターは変更されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGRTGE

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

RWS制御装置パスワードの変更 (CHGRWSPWD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RWS制御装置パスワード変更(CHGRWSPWD)コマンドは、指定されたりモート・ワークステーション制御装置のりモート制御装置のパスワードを変更します。りモート・ワークステーション制御装置パスワードは、特定の5494ユーティリティー・プログラム機能にアクセスするために使用されます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、*SECADMの特殊権限が必要です。
2. コマンドを正常に実行するためには、指定されたりモート・ワークステーション制御装置およびそれと関連したAPPC装置がローカル・システムで活動状態になっていなければなりません。
3. 5494ユーティリティー・プログラムが指定した制御装置で使用中の時に、このコマンドの使用を試みた場合には、コマンドは正常に実行されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
RMTPWD	りモート・パスワード	単純名	必須, 定位置 2
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC	オプション
MODE	モード	通信名, *LOC, *NETATR	オプション

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

5494りモート・ワークステーション制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

りモート・パスワード (RMTPWD)

りモート制御装置に設定する新しいパスワードを指定します。パスワードがすでに存在している場合には、新しいパスワードは古いパスワードと置き換えられます。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

リモート・ワークステーション制御装置との会話を確立するために使用されるローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LOC** 使用されるロケーション名は、リモート・ワークステーション制御装置と対応したAPPC装置で識別されるローカル・ロケーション名と同じです。

ローカル・ロケーション名

リモート・ワークステーション制御装置に対してローカル・システムを識別するためのロケーション名を指定します。非プログラム式ワークステーションに対して使用されるモードで、セッションの最大数に達した場合には、指定されるロケーション名は、リモート・ワークステーション制御装置と対応したAPPC装置で識別されるローカル・ロケーション名と異なるものでなければなりません。そうでない場合には、コマンドは正常に実行されません。

注: システム上に存在しないローカル・ロケーション名を指定した場合には、指定されたローカル・ロケーション名のローカル構成リスト項目が自動的に作成されます。

トップ

モード (MODE)

リモート・ワークステーション制御装置との会話の設定に使用されるモード名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LOC** このモードは、ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME) パラメーターに指定された値によって異なります。LCLLOCNAMEに対して指定された値が*LOCである場合には、モードは、非プログラム式ワークステーション・セッションに使用されるものと同じです。そうでない場合には、モードは#INTERとなります。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。8桁のブランク文字からなるモード名の場合には、BLANKを指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であり、指定することはできません。

トップ

CHGRWSPWDの例

```
CHGRWSPWD CTLD(L5494RMT) RMTPWD(NEWPASS)
```

このコマンドは、NEWPASSに対する5494リモート・ワークステーション・コントローラーのパスワードを変更します。

トップ

エラー・メッセージ： CHGRWSPWD

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2703

制御装置記述&1が見つからない。

CPF8104

制御装置記述&4に損傷がある。

CPF8105

装置記述&4に損傷がある。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF91E0

制御装置&2での操作が理由コード&1によって正常に実行されなかった。

[トップ](#)

S/36構成の変更 (CHGS36)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36変更(CHGS36)コマンドによって、システム/36環境構成の説明を変更あるいは更新することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CHGS36の例

CHGS36

このコマンドによって、ユーザーはシステム/36環境記述を変更することができます。このコマンドによって、表示装置端末、印刷装置、テープ、ディスク、3270装置エミュレーション、一般環境値、（認可されている場合）MRT機密保護値を変更することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGS36

***ESCAPE** メッセージ

SSP0520

システム/36環境が活動状態になっていない。

SSP0521

第1レベルのプロシージャにこのコマンドを使用することはできない。

SSP0522

システム/36プロシージャが活動状態になっていない。

[トップ](#)

S/36環境属性の変更 (CHGS36A)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36属性の変更(CHGS36A)コマンドによって、ユーザーは、システムがシステム/36環境で実行中に、システム/36環境構成の属性を変更することができます。

システム/36環境の詳細については、システム/36環境 システム解説書 (SC88-5100)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SLIB	省略時のセッション・ライブラリー	名前, <u>*SAME</u>	オプション
FLIB	省略時のファイル・ライブラリー	名前, <u>*SAME</u>	オプション
LIBL	ファイルのライブラリー・リストの使用	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション
DATDIFF	日付区分ファイル	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション
S36ESHARE	S/36のファイルの共用オープン	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション
RCDBLK	共用ファイル・レコードのブロック化	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション
CACHEDLTF	キャッシュへの削除ファイルの記憶	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション
LPPAGE	省略時のページ当たり行数	1-112, <u>*SAME</u>	オプション
FORMTYPE	用紙タイプ	文字値, *STD, <u>*SAME</u>	オプション
DFTMSGACN	省略時のメッセージの処置	*CONTINUE, *HALT, *IGNORE, *CANCEL, <u>*SAME</u>	オプション
HALTOPT	停止オプション	<u>*SAME</u> , 0, 1, 2, 3, 01, 02, 03, 012, 013, 123, 0123, 023, 12, 13, 23	オプション
EVKJOBINIT	呼び出しジョブの開始	*IMMED, *JOBQ, <u>*SAME</u>	オプション
EVKJOBPOL	呼び出し記憶域プール	*BASE, *CURRENT, <u>*SAME</u>	オプション
EVKJOBPTY	呼び出しジョブ優先順位	1-99, *SUBMITTER, <u>*SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SRCRCLEN	ソース・ファイル・レコード長	52-132, *SAME	オプション
CHGACT	活動時CHGS36使用可能	*YES, *NO, *SAME	オプション
ADDS36ONLY	S/36ユーザーのみの追加	*YES, *NO, *SAME	オプション
ICFSUBST	ICF プロシージャ・データ置き換え	*YES, *NO, *SAME	オプション
MRTUSRPRF	MRTユーザー・プロファイル	*OWNER, *FRSTUSR, *SAME	オプション
MRTAUT	ファイルに対する権限検査	*ALLUSR, *FRSTUSR, *SAME	オプション
MRTDLY	MRT遅延値	0-32767, *SAME	オプション
MRTJOBINIT	MRTジョブ開始	*IMMED, *JOBQ, *SAME	オプション
MRTJOBPOL	MRT記憶域プール	*BASE, *CURRENT, *SAME	オプション
MRTJOBPTY	MRTジョブ優先順位	1-99, *SUBMITTER, *SAME	オプション

トップ

省略時のセッション・ライブラリー (SLIB)

システム/36環境でジョブを実行するユーザーの省略時のセッション・ライブラリー名を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

ライブラリー名

省略時のセッション・ライブラリーの名前を指定します。

トップ

省略時のファイル・ライブラリー (FLIB)

システム/36環境でジョブを実行するユーザーの省略時のファイル・ライブラリーを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

ライブラリー名

省略時のファイル・ライブラリーの名前を指定します。

トップ

ファイルのライブラリー・リストの使用 (LIBL)

システム/36環境ジョブのデータベース・ファイルの指定時にライブラリー・リストを使用するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** データベース・ファイルを検索するために、ライブラリー・リストが使用されます。

***NO** データベース・ファイルを検索するために、ライブラリー・リストは使用されません。

日付区分ファイル (DATDIFF)

システム/36環境で実行中のジョブが、作成日によって識別される同じ名前のファイルを使用できるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** ファイルが別の作成日である場合には、ジョブは同じ名前のファイルを使用することができます。

***NO** ジョブは同じ名前のファイルを使用することはできません。各ファイルは固有の名前を持っていないければなりません。

トップ

S/36のファイルの共用オープン (S36ESHARE)

同一ジョブ内の複数のプログラム処理がオープン・データ・パス(ODP)を共用できるような方法で、システム/36環境がデータベース・ファイルをオープンするかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** プログラムはそのジョブ中にオープンされたデータベース・ファイルに対するODPを共用します。共用ファイルは、ジョブ・ステップ間でオープンされたままになります。

***NO** プログラムはそのジョブ中にオープンされたデータベース・ファイルに対するODPを共用しません。ファイルは、ジョブ・ステップ間でクローズされます。

トップ

共用ファイル・レコードのブロック化 (RCDBLK)

システム/36環境でODPを共用する順次データベース・ファイルのレコードのブロック化を使用するかどうかを指定します。レコードのブロック化についての詳細については、システム/36環境 概念とプログラマ一の手引き(SC88-5089)を参照してください。

*SAME

値は変更されません。

***YES** 実行中のジョブは共用される順次ファイルのレコードのブロック化を使用します。

***NO** 実行中のジョブは共用される順次ファイルのレコードのブロック化を使用しません。

トップ

キャッシュへの削除ファイルの記憶 (CACHEDLTF)

システム/36環境によって削除されたデータベース・ファイルをキャッシュに保管するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 削除されたデータベース・ファイルをキャッシュに保管します。

***NO** 削除されたデータベース・ファイルをキャッシュに保管しません。

[トップ](#)

省略時のページ当たり行数 (LPPAGE)

SETプロシージャー，あるいはFORMSまたはPRINTER OCLステートメントで別の行数が指定されない時に，システム/36環境で実行中のジョブのすべての印刷装置で1ページに印刷される省略時の行数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

1 ページ当りの行数

1 ページ当りの行数を指定します。有効な値の範囲は1-112です。

[トップ](#)

用紙タイプ (FORMTYPE)

SETプロシージャー，あるいはFORMSまたはPRINTER OCLステートメントで用紙タイプが指定されない時に，システム/36印刷出力で使用される省略時の印刷装置の用紙タイプを指定します。いろいろな印刷用紙を指示するために使用される用紙タイプは，ユーザー定義の用紙タイプで，最大4桁の長さとすることができます。

***SAME**

値は変更されません。

***STD** 標準用紙タイプが使用されます。

用紙タイプ

ユーザー定義の用紙タイプを指定します。

[トップ](#)

省略時のメッセージの処置 (DFTMSGACN)

システム/36環境で実行中のプロシージャーのCLコマンドによって出されたエスケープ・メッセージに対して，使用される省略時の処置を指定します。この省略時の処置は，メッセージ・リスト中にないメッセージの場合，およびメッセージ・リストがない時に使用されます。メッセージ・リストにメッセージIDが入っている場合には，省略時の処置は使用されません。

***SAME**

値は変更されません。

***CONTINUE**

このCLコマンドの後の次のステートメントから処理が続行されます。エスケープ・メッセージのIDが保管されて，メッセージ識別コード置換式(?MSGID?)によって検索することができます。

***HALT**

プロシージャは停止されます。処理は**停止オプション (HALTOPT)**パラメーターに指定された通り続行されます。

***IGNORE**

エラーが無視されて、そのCLコマンドの後のステートメントから処理が続行されます。エスケープ・メッセージのIDは保管されません。

***CANCEL**

プロシージャは取り消されます。

[トップ](#)

停止オプション (HALTOPT)

省略時のメッセージの処置パラメーターに*HALTが指定された場合に、使用可能な継続オプションのリストを指定します。このオプションのリストは、範囲0-3の値をもつ最大4つのオプションから構成される値で、それぞれが使用可能な応答を表わします。オプションが指定しない場合には、オプション0および3（値03）が使用可能になります。オプションに割り当てられた番号の意味は次の通りです。

- 0 続行します。メッセージ識別コードが検索用に保管されます。
- 1 このプロシージャをやり直します。メッセージ識別コードは保管されません。
- 2 ジョブ・ステップを取り消します。メッセージが検索用に保管されます。
- 3 ジョブを取り消します。

***SAME**

値は変更されません。

停止オプション

最大4つの継続オプションを指定します。複数のオプションは昇順に指定し、各オプションは固有としなければなりません。それぞれの数字は文字0, 1, 2,または3 でなければなりません（ブランクは無視されます）。

[トップ](#)

呼び出しジョブの開始 (EVKJOBINIT)

システム/36環境内でEVOKEジョブまたはジョブ・ステップの開始方法を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***IMMED**

ジョブの開始時にジョブ待ち行列がバイパスされます。

***JOBQ**

ジョブはジョブ待ち行列から開始されます。

[トップ](#)

呼び出し記憶域プール (EVKJOBPOL)

システム/36環境で実行を開始する時に、ジョブ待ち行列をバイパスしたEVOKE ジョブに使用される記憶域プールを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BASE

ジョブはサブシステムの基本プール記憶域を使用します。

*CURRENT

ジョブはジョブ投入と同じ記憶域プールを使用します。

[トップ](#)

呼び出しジョブ優先順位 (EVKJOBPTY)

ジョブ待ち行列をバイパスする時に、システム/36環境のEVOKEジョブを開始しなければならない優先順位レベルを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SUBMITTER

ジョブはジョブ投入と同じ実行優先順位で開始されます。

1-99 優先順位レベルを指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル・レコード長 (SRCRCDLLEN)

システム/36ソース・ファイルQS36PRCおよびQS36SRCのレコード長（バイト数）を指定します。これらのソース・ファイルはシステム/36環境ユーティリティーによって作成されます。

*SAME

値は変更されません。

レコード長

ソース・ファイル・レコード長を指定します。有効な値の範囲は40-120です（各レコードのソース順序フィールドおよび日付フィールドに必要な余分な12バイトは含まない）。

[トップ](#)

活動時にCHGS36使用可能(CHGACT)

他のユーザーがシステム/36環境にサインオンしている時に、システム/36変更(CHGS36)コマンドを使用して構成オブジェクトを更新できるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

- *YES 他のユーザーがシステム/36環境にサインオンしている時に、CHGS36コマンドによって構成情報を変更することができます。
- *NO 他のユーザーがシステム/36環境にサインオンしている時に、CHGS36コマンドによって構成情報を変更することができません。

トップ

S/36ユーザーのみの追加(ADDS36ONLY)

装置がシステム/36環境にサインオンしている時に、ワークステーション装置をシステム/36環境構成に追加できるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

- *YES ワークステーション装置が構成に追加されるのは、その装置がシステム/36環境にサインオンしている時だけです。
- *NO ワークステーション装置が構成に追加されるのは、その装置がシステム/36環境にサインオンしている時ではなく、その装置が作成された時です。

トップ

ICFプロシージャー・データの置換(ICFSUBST)

システム間通信機能(ICF)開始要求で受け取ったデータを置換式のために走査するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

- *YES 小売業用装置または金融機関用装置からのICF開始要求を除いて、ICF開始要求で受け取ったデータを置換式のために走査します。
- *NO ICF開始要求で受け取ったデータは置換式のために走査されません。この値は、置換式として取り扱ってはならない疑問符がデータに含まれている可能性がある場合に使用することができます。

トップ

MRTユーザー・プロファイル (MRTUSRPRF)

複数要求端末(MRT)プログラムがシステム/36環境で機密保護検査を実行するユーザー・プロファイルを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*OWNER

MRTプログラムは、MRTプログラム所有者のプロファイルで実行されます。

*FRSTUSR

MRTプログラムは、このプログラムを開始するユーザーのプロファイルで実行されます。

トップ

ファイルに対する権限検査 (MRTAUT)

システム/36環境のMRTプログラムで使用するファイルのアクセスを得るために、どのユーザーの権限を検査するかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*ALLUSR

ファイルをアクセスする権限について、すべてのユーザーを検査します。

*FRSTUSR

ファイルをアクセスする権限について、MRTプログラムを開始したユーザーだけを検査します。

[トップ](#)

MRT遅延値 (MRTDLY)

システム/36環境のMRTプログラムを終了する前に、システムが延期（待機）する時間（秒数）を指定します。プログラムが非終了プログラム(NEP)である場合には、指定された値は使用されません。

*SAME

値は変更されません。

待機する秒数

プログラムを終了する前に、システムが待機する秒数を指定します。有効な値の範囲は0-32767秒です。

[トップ](#)

MRTジョブ開始 (MRTJOBINIT)

システム/36環境でMRTジョブを開始する方法を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*IMMED

ジョブの開始時にジョブ待ち行列はバイパスされます。

*JOBQ

ジョブはジョブ待ち行列から開始されます。

[トップ](#)

MRT記憶域プール (MRTJOBPOL)

システム/36環境でジョブ待ち行列を使用しないで開始されるMRTジョブに使用する記憶域プールを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***BASE**

ジョブはサブシステムの基本プール記憶域を使用します。

***CURRENT**

ジョブはジョブ投入と同じ記憶域プールを使用します。

[トップ](#)

MRTジョブ優先順位 (MRTJOBPTY)

ジョブ待ち行列をバイパスするMRTジョブ開始の優先順位レベルを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SUBMITTER**

ジョブはジョブ投入と同じ優先順位レベルで開始されます。

優先順位レベル

ジョブ開始の優先順位レベルを指定します。有効な値の範囲は1-99です。

[トップ](#)

CHGS36Aの例

```
CHGS36A  FLIB(MYLIB)  CACHEDLTF(*YES)  LPPAGE(66)
```

このコマンドは、システム/36環境でジョブを実行するユーザーの省略時のファイル・ライブラリーの値を、MYLIBに変更します。削除されるファイルの記憶域はキャッシュに変更されます。1 ページに印刷される行数は66に変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGS36A

なし

[トップ](#)

S/36メッセージ・リストの変更 (CHGS36MSGL)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- 対話式ジョブ (*INTERACT)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

システム/36メッセージ・リスト変更(CHGS36MSGL)コマンドによって、システム/36環境で実行中のプロシージャの中の制御言語 (CL) コマンドによって出される特定のエスケープ・メッセージに対して行なわれる処置が決まります。それは、指定されていないエスケープ・メッセージに対する省略時の処置のセットにも使用されます。

このコマンドによって、SCOPE(*JOB)またはSCOPE(*SESSION)が指定されている場合のプロシージャだけを外部とすることができます。このコマンドはCLプログラム内では許されません。これは、システム/36環境が活動している場合に限り有効です。

JOBQコマンド、// JOBQ OCLステートメント、または// EVOKE OCLステートメント、によって開始されたシステム/36の場合には、初期メッセージの省略時の処置が投入ジョブのジョブ・レベルから取られます。他のジョブの場合には、システム/36構成からこれが取られます。構成内の初期メッセージの省略時の処置を設定するために、システム/36構成変更(CHGS36)を使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGL	メッセージ・リスト	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 要素リスト	オプション、定位置 1
	要素 1: メッセージ・リスト	値 (最大 100 回の繰り返し): 名前, *ANY	
	要素 2: 処置	*CONTINUE, *IGNORE, *HALT, *CANCEL, *GOTO	
	要素 3: ラベルまたは停止オプション	文字値	
DFTACN	省略時の処置	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 処置	*CONTINUE, *IGNORE, *HALT, *CANCEL, *GOTO	
	要素 2: ラベルまたは停止オプション	文字値	
SCOPE	有効範囲	*CURPRC , *PRVPRC, *JOB, *SESSION	オプション

トップ

メッセージ・リスト (MSGL)

メッセージIDのリストおよび各メッセージに対して行なわれる処置を指定します。各メッセージIDに対して行なわれる処置と一緒に、1つまたは複数のメッセージIDを指定することができます。CLコマンドがエスケープ・メッセージを出すと、メッセージIDをメッセージ・リストで検索し、指定された処置が行なわれます。メッセージIDがメッセージ・リストで見つからない場合には、省略時の処置が行なわれます。

注: MSGLパラメーターを指定できるのは、SCOPE(*CURPRC)またはSCOPE(*PRVPRC)が指定されている場合だけです。

***SAME**

メッセージ・リストは変更されません。

***NONE**

メッセージ・リストが除去されます。

リストに追加可能なメッセージIDの値は次の通りです。

***ANY** メッセージ・リスト中で前に見つからなかったすべてのメッセージIDに対して、指定された処置がとられます。この値はどのメッセージとも一致するので、リスト中に指定する最後のメッセージIDとなります。この値の後に指定されたメッセージIDは無視されます。

メッセージID

リストに追加するメッセージIDを指定します。各メッセージIDは7文字でなければならず、メッセージIDの規則に従っていなければなりません。総称メッセージIDは、メッセージIDの終わりを00または0000にすることで指定されます。たとえば、CPF1200はCPF12で始まるすべてのメッセージに突き合わせされ、CPF0000はCPFで始まるすべてのメッセージに突き合わせされます。

メッセージ・リストは、コマンドで指定されている順に検索されます。したがって、検索中のメッセージIDに突き合わせされるメッセージIDが、メッセージ・リストに複数入っている場合には、最初の1つが使用されます。たとえば、メッセージ・リストにCPF1200の次にCPF1234が入っていると、CPF1234を検索している場合であっても、総称メッセージIDが最初に見つかるため、そのメッセージIDに指定されている処置が行なわれます。

メッセージIDに対して行われる可能な処置の値は次の通りです。

***CONTINUE**

このCLコマンドの次のステートメントから処理が続行されます。エスケープ・メッセージのIDが保管され、これは?MSGID?置換式によって検索することができます。

***IGNORE**

このCLコマンドの後の次のステートメントから処理が続行されます。エスケープ・メッセージのIDは保管されず、?MSGID?置換式は空値です。

***HALTオプション**

オプションのついた停止が出されます。この値の後に、この停止で使用できるオプションのリストを続けることができます。使用できるオプションが指定されていない場合には、オプション0（続行）およびオプション3（取消し）が使用できることとなります。オプションのリストは0-3の範囲の最大4つの数字からなる値です。有効な値は次の通りです。

- 0 -続行。?MSGID?置換式がセットされます。
- 1 -コマンドのやり直し。?MSGID?置換式はセットされません。
- 2 -ジョブ・ステップの取消し。?MSGID?置換式がセットされます。
- 3 -ジョブの取消し。

***CANCEL**

プロシーチャーは、// CANCELステートメントが処理された場合と同じように取り消されます。

***GOTOラベル**

指定されたTAGラベルから制御が続行されます。この値の後に最大8桁までのラベルを続けなければなりません。

トップ

省略時の処置 (DFTACN)

システム/36環境で実行中のプロシーチャーの中のCLコマンドによって出されたエスケープ・メッセージに対して行なわれる省略時の処置を指定します。省略時の処置はメッセージ・リスト中にないすべてのメッセージに対して、あるいはメッセージ・リストがない場合には、すべてのメッセージに対して行なわれます。メッセージ・リストにメッセージID*ANYが入っている場合には、省略時の処置は使用されません。

***SAME**

省略時の処置は変更されません。

***CONTINUE**

このCLコマンドの次のステートメントから処理が続行されます。エスケープ・メッセージのIDが保管され、?MSGID?置換式によって検索することができます。

***IGNORE**

このCLコマンドの次のステートメントから処理が続行されます。エスケープ・メッセージのIDは保管されず、?MSGID?置換式は空値です。

***HALTオプション**

メッセージSYS3827がオプションとともに出力されます。この値の後に、この停止で使用できるオプションのリストを続けることができます。使用できるオプションが指定されていない場合には、オプション0（続行）およびオプション3（取消し）が使用できることとなります。オプションのリストは0-3の範囲の最大4つの数字からなる値です。有効な値は次の通りです。

- 0 -続行。?MSGID?置換式がセットされます。
- 1 -コマンドのやり直し。?MSGID?置換式はセットされません。
- 2 -ジョブ・ステップの取消し。?MSGID?置換式がセットされます。
- 3 -ジョブの取消し。

***CANCEL**

プロシーチャーは、// CANCELステートメントが処理された場合と同じように取り消されます。

***GOTOラベル**

指定されたTAGラベルから制御が続行されます。この値の後に最大8桁までのラベルを続けなければなりません。

トップ

有効範囲 (SCOPE)

メッセージ・リストの有効範囲およびコマンドで入力された省略時の処置を指定します。

*CURPRC

メッセージ・リストおよび省略時の処置は、コマンドが入っているプロシージャに対してだけ適用されます。これは下位レベルのプロシージャには渡されないか、あるいはプロシージャの終了後は使用されません。

*PRVPRC

メッセージ・リストおよび省略時の処置は、コマンドが入っているプロシージャを呼び出したプロシージャに対してだけ適用されます。この値はプロシージャに入れることができるだけで、第1レベルのプロシージャに入れることはできません。

***JOB** 省略時の処置が現行のシステム/36ジョブのプロシージャに適用されます。指定された省略時の処置は、そのプロシージャに省略時の処置がセットされていない現行ジョブのプロシージャに適用されます。このパラメーターに*JOBが指定されている場合には、コマンドにメッセージ・リストを使用することはできません。

*SESSION

省略時の処置が現行セッションで実行されるプロシージャに適用されます。このパラメーターに*SESSIONが指定されている場合には、メッセージ・リストを使用することはできません。

トップ

CHGS36MSGLの例

例1: メッセージ・リストのセットアップ

```
CHGS36MSGL  MSGL(((CPF9801) *GOTO NOTEXIST)
              ((CPF9802 CPF9820) *GOTO NOTAUT)
              ((*ANY) *HALT 3))
CHKOBJ ?2?/?1? *PGM
// GOTO OK
// TAG NOTEXIST
(CODE TO HANDLE OBJECT DOES NOT EXIST MESSAGES)
// GOTO OK
// TAG NOTAUT
(CODE TO HANDLE NOT AUTHORIZED TO OBJECT MESSAGES)
// TAG OK
CHGS36MSGL  MSGL(*NONE)
```

このコマンドはメッセージ・リストをセットアップし、メッセージCPF9801が出された場合にはラベルNOTEXISTに進み、メッセージCPF9802またはCPF9820が出された場合には、ラベルNOTAUTに進みます。他のメッセージを入力した場合には、オプション3（取り消し）のみでの停止が出されます。2番目のCHGS36MSGLコマンドはメッセージ・リストを除去します。

例2: ?MSGID?置換式の設定

```
CHGS36MSGL  MSGL(((CPF2105) *IGNORE) ((*ANY) *CONTINUE))
DLTF ?FLIB?/?1?
// IFF ?MSGID?/ ... (HANDLE ERROR)
```

この例では、メッセージCPF2105（オブジェクトが見つからない）は無視されます。すなわち、?MSGID?置換式は設定されません。この他のメッセージでは、?MSGID?置換式がメッセージIDに設定されます。存

在の有無にかかわらずファイルを削除するプロシージャを試みます。「オブジェクトが見つからない」の例外はこの場合にエラーと見なされないで、これは無視されます。その他のメッセージはエラーとして処理されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGS36MSGL

*ESCAPE メッセージ

SSP0520

システム/36環境が活動状態になっていない。

SSP0521

第1レベルのプロシージャにこのコマンドを使用することはできない。

SSP0522

システム/36プロシージャが活動状態になっていない。

[トップ](#)

S/36プログラム属性変更 (CHGS36PGMA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36プログラム属性変更(CHGS36PGMA)コマンドは指定されたプログラムの属性を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	S/36プログラム	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: S/36プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MRTMAX	最大MRT	1-255, *NONE	オプション
NEP	非終了プログラム	*SAME, *NO, *YES	オプション

[トップ](#)

S/36プログラム (PGM)

属性を変更したいプログラムの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

最大MRT (MRTMAX)

このプログラムに接続できる要求元端末の最大数を指定します。

***SAME**

MRTMAX値は変更されません。

要求元数

プログラムの要求元端末の最大数を指定してください。指定できる値の範囲は1 - 256です。この値を現在の値より大きくすることはできません。

[トップ](#)

非終了プログラム (NEP)

プログラムが非終了プログラム(NEP)であるかどうかを指定します。NEPは、長時間実行プログラムとして定義されます。

*SAME

NEP値は変更されません。

***NO** このプログラムは非終了プログラムではない。

***YES** このプログラムは非終了プログラムである。

[トップ](#)

CHGS36PGMAの例

```
CHGS36PGMA PGM(RPGLIB/RPGPGM) MRTMAX(3) NEP(*YES)
```

このコマンドはRPGLIB内のプログラムRPGPGMを、最大3つまでのMRTが許可され、非終了プログラムになるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGS36PGMA

*ESCAPEメッセージ

CPF2C01

プログラム&1属性は変更されなかった。

CPF2C02

SSPプログラム&1の属性の変更は認められない。

CPF2C03

MRTMAXパラメーターの値&3が正しくない。

CPF2C05

ライブラリー*LIBLでプログラム名*ALLを使用することができない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

S/36 プロシージャ属性変更 (CHGS36PRCA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36 プロシージャ属性変更(CHGS36PRCA)コマンドは、指定されたプロシージャの属性を変更します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	S/36 プロシージャ・メンバー	名前	必須, キー, 定位置 1
FILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, キー, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QS36PRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MRT	MRTプロシージャ	*SAME, *NO, *YES	オプション
MRTDLY	MRT遅延	*SAME, *NO, *YES	オプション
LOG	ログOCLステートメント	*SAME, *NO, *YES	オプション
PGMDTA	プログラム・データを含む	*SAME, *NO, *YES	オプション
RCDLEN	論理レコード長	40-120, *SAME, *FILE	オプション
REFNBR	参照番号	0-999999, *SAME, *NEXT	オプション

トップ

S/36 プロシージャ・メンバー (MBR)

属性を変更するプロシージャ・メンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

プロシージャ・メンバー名

属性を変更するプロシージャ・メンバーの名前を指定してください。

トップ

ソース・ファイル (FILE)

プロシージャ・メンバーの入っている物理ファイルの名前を指定します。

QS36PRC

省略時の物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

MRTプロシージャー (MRT)

プロシージャーが複数要求端末(MRT)プロシージャーであるかどうかを指定します。

***SAME**

MRT値は変更されません。

***NO** このプロシージャーは複数要求端末プロシージャーではない。

***YES** このプロシージャーは複数要求端末プロシージャーである。

[トップ](#)

MRT遅延 (MRTDLY)

プロシージャーが省略時のMRT遅延値を使用するかどうかを指定します。

***SAME**

MRTDLYパラメーターは変更されません。

***YES** プロシージャーは省略時のMRT遅延の値を使用します。

***NO** プロシージャーは省略時のMRT遅延の値を使用しません。

[トップ](#)

ログOCLステートメント (LOG)

プロシージャーの実行時に操作員制御言語(OCL)ステートメントがジョブ・ログにコピーされるかどうかを指定します。

***SAME**

LOG値は変更されません。

***NO** OCLステートメントはジョブ・ログにコピーされません。

***YES** OCLステートメントはジョブ・ログにコピーされます。

[トップ](#)

プログラム・データを含む (PGMDTA)

プロシージャがプログラムにデータを渡すか、あるいはパラメーターを渡すかを指定します。

***SAME**

DTA値は変更されません。

***NO** プロシージャはプログラムにパラメーターを渡します。

***YES** プロシージャはプログラムにデータを渡します。

トップ

論理レコード長 (RCDLEN)

プロシージャ・メンバー中のステートメントの論理レコード長を指定します。

***SAME**

RCDLEN値は変更されません。

***FILE** ソース・ファイルプロンプト(FILEパラメーター) によって指定したファイルのレコード長が使用されます。

レコード長

論理レコード長を指定してください。有効な値の範囲は40 - 120です。

トップ

参照番号 (REFNBR)

プロシージャ・メンバーに割り当てる参照番号を指定します。

***SAME**

REFNBR値は変更されません。

***NEXT**

現在の参照番号が1ずつ増えます。

参照番号

プロシージャ・メンバーの参照番号を指定してください。有効な値の範囲は0 - 999,999です。

トップ

CHGS36PRCAの例

```
CHGS36PRCA  MBR(RPGPROC)  FILE(RPGLIB/QS36PRC)  MRT(*YES)
              RCDLEN(*FILE)  REFNBR(*NEXT)
```

このコマンドは、ライブラリーRPGLIB内のファイルQS36PRC中のプロシージャRPGPROCを、論理レコード長がQS36PRCファイルと同じになるように変更し、現行参照番号が1ずつ増分されます。

トップ

エラー・メッセージ： CHGS36PRCA

*ESCAPEメッセージ

CPF2C0A

メンバー&3の属性は変更されなかった。

CPF2C0B

SSPメンバー&3の属性の変更は認められない。

CPF2C08

ファイル&1がソース・ファイルでない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

[トップ](#)

S/36ソース属性変更 (CHGS36SRCA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36ソース属性変更(CHGS36SRCA)コマンドは指定されたソース・メンバーの属性を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	S/36ソース・メンバー	名前	必須, キー, 定位置 1
FILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, キー, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QS36SRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SRCTYPE	ソース仕様タイプ	*SAME , ARS36, ASM36, BASP36, BAS36, BGC36, BGD36, BGF36, CBL36, DFU36, DSPF36, DTA36, FOR36, MNU36, MSGF36, PHL36, RPG36, RPT36, SRT36, WSU36, UNS36	オプション
REFNBR	参照番号	0-999999, *SAME , *NEXT	オプション
RCDLEN	論理レコード長	40-120, *SAME , *FILE	オプション
MAXDEV	装置の最大数	0-256, *SAME	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	*SAME , *YES , *NO	オプション

[トップ](#)

S/36ソース・メンバー (MBR)

属性を変更するソース・メンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

ソース・メンバー名

ソース・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (FILE)

ソース・メンバーの入っている物理ファイルの名前を指定します。

QS36SRC

省略時の物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ソース仕様タイプ (SRCTYPE)

ソース・メンバーのソース仕様タイプを指定します。

***SAME**

SRCTYPE値は変更されません。

ソース仕様タイプ

ソース・メンバーのソース仕様タイプを指定します。

値 **メンバーのタイプ**

ARS36

自動応答メンバー

ASM36

アセンブラー・メンバー

BASP36

BASICプロシージャー（ソース・メンバー）

BAS36

BASICメンバー

BGC36

ビジネス・グラフィックス・ユーティリティー・メンバー

BGD36

ビジネス・グラフィックス・ユーティリティー・データ・メンバー

BGF36

ビジネス・グラフィックス・ユーティリティー様式メンバー

CBL36

COBOLメンバー

DFU36

データ・ファイル・ユーティリティー・メンバー

DSPF36

画面様式メンバー

DTA36

データ・メンバー

FOR36

FORTTRANメンバー

MNU36

メニュー・メンバー

MSGF36

メッセージ・メンバー

PHL36

電話番号リスト・メンバー

RPG36

RPG/400メンバー

RPT36

RPG/400報告書簡易作成機能メンバー

SRT36

分類メンバー

WSU36

ワークステーション・ユーティリティー・メンバー

UNS36

指定なし

[トップ](#)

参照番号 (REFNBR)

ソース・メンバーに割り当てられた参照番号を指定します。

***SAME**

REFNBR値は変更されません。

***NEXT**

現在の参照番号が1ずつ増えます。

参照番号

プロシージャ・メンバーの参照番号を指定してください。有効な値の範囲は0 - 999,999です。

[トップ](#)

論理レコード長 (RCDLEN)

ソース・メンバー中のステートメントの論理レコード長を指定します。

[トップ](#)

装置の最大数 (MAXDEV)

SFGRソース・メンバーの装置の最大数を指定します。

*SAME

装置の最大数は変更されません。

装置数 ソース・メンバーの装置の最大数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 256です。

[トップ](#)

書き出し据え置き (DFRWRT)

表示装置ファイルへのデータの書き出しが読み取り操作の要求まで遅延されることを指定します。制御は、出力用のデータを受け取った直後に要求元プログラムに戻されます。これにより、パフォーマンスが向上することがあります。

*SAME

延期オプションは変更されません。DFRWRTソース属性がセットされていない場合には、*YESが使用されます。

***YES** 書き出し要求が行なわれると、バッファの処理後に制御権が戻されます。データの実際の表示は、読み取り操作または読み取り／書き出し結合操作が実行された時に後で行なわれることがあります。プログラム・バッファは、次の読み取り操作または読み取り／書き出し結合操作のためにただちに使用可能になります。

***NO** 書き出し要求が行なわれても、入出力要求が完了するまで、制御権は要求元プログラムには戻されません。データは表示され、入出力フィードバック情報は使用可能になります。

[トップ](#)

CHGS36SRCAの例

例1:最大デバイスおよびレコード長の指定

```
CHGS36SRCA  MBR(SFGRSRC)  FILE(SDALIB/QS36SRC)  REFNBR(*NEXT)
              RCDLEN(80)  MAXDEV(5)
```

このコマンドは、ライブラリーSDALIB内のファイルQS36SRC中のソース・メンバーSFGRSRCを、最大5つまでの装置が許可され、レコード長が80になるように変更します。また、現行参照番号が1ずつ増やされます。

例2:据え置き書き出し属性のオフへの切り替え

```
CHGS36SRCA  MBR(SFGRSRC)  FILE(SDALIB/QS36SRC)  REFNBR(*NEXT)
              RCDLEN(80)  MAXDEV(5)  DFRWRT(*NO)
```

このコマンドは、ライブラリーSDALIB内のファイルQS36SRC中のソース・メンバーSFGRSRCを、最大5つまでの装置が許可され、レコード長が80になるように変更します。また、現行参照番号が1ずつ増やされ、据え置き書き出し属性がオフにされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGS36SRCA

*ESCAPEメッセージ

CPF2C0A

メンバー&3の属性は変更されなかった。

CPF2C0B

SSPメンバー&3の属性の変更は認められない。

CPF2C08

ファイル&1がソース・ファイルでない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

[トップ](#)

保管ファイル変更 (CHGSAVF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管ファイル変更(CHGSAVF)コマンドは指定された保管ファイルの属性を変更します。変更はファイルの永久的な部分となり、ファイルが変更されるか削除されるまで保持されます。

制約事項:

- 保管ファイルのオブジェクト操作(*OBJOPR)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
- 保管ファイルが入っているライブラリーの読み取り(*READ)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	保管ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAXRCDS	最大レコード数	1-2146762800, *SAME, *NOMAX	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *SAME, *IMMED, *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *NO, *YES	オプション

[トップ](#)

保管ファイル (FILE)

属性を変更する保管ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 保管ファイル

名前 保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

最大レコード数 (MAXRCDS)

保管ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定します。保管ファイルのスペースのバイト数は、 $8192 + (512 \times \text{保管ファイルのレコード数})$ で推定されます。1メガバイトのスペースには、およそ2000の512バイトのレコードを入れることができます。保管ファイルが約20メガバイトを超えないようにしたい場合には、40000レコード(20メガバイト \times 2000レコード/メガバイト)を指定します。

保管ファイルの現在のレコード数が最大より大きい場合には、エラー・メッセージが送信されて、保管ファイルは変更されません。

注: 保管ファイルに入れることができるデータの最大量はおよそ1テラバイトです。ファイルがいっぱいになると、メッセージが現れます。

***SAME**

保管ファイルに指定されたレコードの最大数は変更されません。

***NOMAX**

最大値である2146762800レコードが使用されます。

1-2146762800

保管ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません (テキストがある場合)。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にプログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***SAME**

待機時間は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***SAME**

保管ファイルに指定された値は変更されません。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

CHGSAVFの例

例1: ファイル資源の即時割り振り

```
CHGSAVF FILE(ONLINE) WAITFILE(*IMMED)
```

このコマンドは、ファイル資源がオープンされたら即時に使用できるようにし、そうでなければエラー・メッセージが送られるようにONLINEという名前の保管ファイルを変更します。他のファイルは変更されません。

例2: レコードの最大数の変更

```
CHGSAVF FILE(ONLINE) MAXRCDS(20000)
```

このコマンドは、最大20,000のレコード（約10メガバイト）を持つことができるようにONLINEという名前の保管ファイルを変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGSAVF

***ESCAPEメッセージ**

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

[トップ](#)

サブシステム記述変更 (CHGSBSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム記述変更 (CHGSBSD)コマンドは、指定されたサブシステム記述の操作属性を変更します。サブシステム記述は、サブシステムが活動状態である間に変更することができます。ただし、ジョブが中断される可能性があるため、サブシステムが活動状態である間に**記憶域プール (POOLS)**パラメーターに*RMV値を指定することはできません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)、オブジェクト管理(*OBJMGT)、および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - システム・ライブラリー・リスト項目を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理(*SECADM)特殊権限。
- ジョブが中断される可能性があるため、サブシステムが活動状態である間はPOOLSパラメーターに*RMV値を指定することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
POOLS	記憶域プール	単一値: *SAME その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプションル, 定位置 2
	要素 1: プール識別コード	1-10	
	要素 2: 記憶域サイズ	整数, *BASE, *NOSTG, *RMV, *INTERACT, *SPOOL, *SHRPOOL1, *SHRPOOL2, *SHRPOOL3, *SHRPOOL4, *SHRPOOL5, *SHRPOOL6, *SHRPOOL7, *SHRPOOL8, *SHRPOOL9, *SHRPOOL10, *SHRPOOL11, *SHRPOOL12, *SHRPOOL13, *SHRPOOL14, *SHRPOOL15, *SHRPOOL16, *SHRPOOL17, *SHRPOOL18, *SHRPOOL19, *SHRPOOL20, *SHRPOOL21, *SHRPOOL22, *SHRPOOL23, *SHRPOOL24, *SHRPOOL25, *SHRPOOL26, *SHRPOOL27, *SHRPOOL28, *SHRPOOL29, *SHRPOOL30, *SHRPOOL31, *SHRPOOL32, *SHRPOOL33, *SHRPOOL34, *SHRPOOL35, *SHRPOOL36, *SHRPOOL37, *SHRPOOL38, *SHRPOOL39, *SHRPOOL40, *SHRPOOL41, *SHRPOOL42, *SHRPOOL43, *SHRPOOL44, *SHRPOOL45, *SHRPOOL46, *SHRPOOL47, *SHRPOOL48, *SHRPOOL49, *SHRPOOL50, *SHRPOOL51, *SHRPOOL52, *SHRPOOL53, *SHRPOOL54, *SHRPOOL55, *SHRPOOL56, *SHRPOOL57, *SHRPOOL58, *SHRPOOL59, *SHRPOOL60	
	要素 3: 活動レベル	整数	
MAXJOBS	ジョブの最大数	0-1000, *SAME , *NOMAX	オプションル, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプションル
SGNDSPF	サインオン表示ファイル	単一値: *SAME , *QDSIGNON その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: サインオン表示ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SYSLIBLE	サブシステム・ライブラリー	名前, *SAME , *NONE	オプションル

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

変更するサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 変更するサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

記憶域プール (POOLS)

1つまたは複数の記憶域プール定義の識別コードおよびこれらに対する変更データを指定します。

既存のプール定義を除去する時には、サブシステムは非活動状態でなければなりません。

指定されない各既存のプール定義のサイズおよび活動レベルは変わりません。

単一値

*SAME

サブシステム記述の中の記憶域プール定義は変更されません。

その他の値 (最大10回の反復)

要素1: プール識別コード

1-10 変更する記憶域プール定義のプール識別コードを指定します。

要素2: 記憶域サイズ

*BASE

指定されたプール定義は、他のサブシステムと共用できる基本システム・プールとして定義されます。基本プールの最小サイズおよび活動レベルは、システム値QBASPOOLおよびQBASACTLVLに指定します。

*NOSTG

最初は、記憶域も活動レベルもプールに割り当てられません (非活動状態)。

***RMV** 指定されたプール定義がサブシステム記述から除去されます。

*INTERACT

指定されたプール定義は、対話式作業で使用される共用プールとして定義されます。共用プールのサイズおよび活動レベルは、共用記憶域プールの変更 (CHGSHRPOOL)コマンドを使用して指定されます。

*SPOOL

指定されたプール定義は、スプール書き出しプログラムで使用される共用プールとして定義されます。共用プールのサイズおよび活動レベルはCHGSHRPOOLコマンドを使用して指定します。

*SHRPOOLNN

指定されたプール定義は汎用共用プールとして定義されます。60個の汎用共用プールがあり、特殊値*SHRPOOL1 - *SHRPOOL60によって識別されます。共用プールのサイズおよび活動レベルは、CHGSHRPOOLコマンドを使用して指定されます。

整数 指定された記憶域プールの記憶域サイズ (キロバイト数) を指定します。少なくとも256 (すなわち256K)を指定しなければなりません。

要素3: 活動レベル

整数 プール内で同時に実行できるスレッドの最大数を指定します。

[トップ](#)

ジョブの最大数 (MAXJOBS)

このサブシステム記述によって制御されるサブシステムで同時に活動状態にできるジョブの最大数を指定します。この最大数は、開始され、待機または実行中であるすべてのジョブに適用されますが、ジョブ待ち行列にあるジョブまたは実行を終了したジョブには適用されません。

***SAME**

サブシステム中で同時に使用できるジョブの最大数は変更されません。

***NOMAX**

このサブシステムで同時に活動状態にできるジョブの最大数に制限はありません。

0-1000

このサブシステムで実行可能なジョブの最大数を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

テキスト（存在している場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

サインオン表示ファイル (SGNDSPF)

サブシステムに割り振られたワークステーションでサインオン画面を表示する時に使用するサインオン表示ファイルの名前およびライブラリーを指定します。指定したサインオン表示ファイルが、サブシステム記述の作成または変更時に存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません（修飾されたサインオン表示ファイルの名前がシステムによって保管されるため）。サインオン表示ファイルには、SIGNONというレコード様式が入っていないなければなりません。

注: サブシステムが活動状態である時には、サインオン表示ファイルを変更することができます。しかし新しいサインオン表示ファイルは、次回にサブシステムが開始されるまで、使用されません。

注: 表示ファイルの形式検査を完了するには、使用(*USE)が必要です。これは、サブシステムの開始時に表示が正しく機能するであろうことを予測するのに役立ちます。表示ファイルまたはそのライブラリーが許可されていない場合には、それらの形式検査は行われません。

単一値

***SAME**

現行のサインオン表示ファイルの値は変更されません。

***QDSIGNON**

サブシステムに割り振られたワークステーションにサインオン画面を表示する際に、QSYSの中のサインオン画面ファイル値QDSIGNONが使用されます。

修飾子1: サインオン表示ファイル

名前 使用されるサインオン画面ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サインオン表示ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

サブシステム・ライブラリー (SYSLIBL)

サブシステムで開始されたジョブのライブラリー・リストのシステム部分の、他のライブラリーの前に追加されるライブラリーを指定します。このパラメーターによって、2次言語ライブラリーを使用することができます。

制約事項:

1. このパラメーターは、サブシステムが活動状態である間に変更することができます。行う変更はすべて、開始される新しいジョブに対して有効となります。サブシステム内の活動ジョブのライブラリー・リストは変更されません。
2. QSYSLIBLまたはQUSRLIBLシステム値に2次言語ライブラリーを指定してはなりません。ライブラリー・リストのシステム部分に2次言語ライブラリーを追加できるように、QSYSLIBLに含まれるライブラリーは15個より少なくなければなりません。
3. システム・ライブラリー・リスト項目に*NONE以外の値を指定するには、*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。

***SAME**

システム・ライブラリー・リストは変更されません。

***NONE**

2次言語ライブラリーがシステム・ライブラリー・リストから除去されます。

名前 システム・ライブラリー・リストに追加するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

CHGSBSDの例

例1:記憶域サイズおよび活動レベルの変更

```
CHGSBSD  SBSB(QGPL/PAYCTL)  POOLS((2 1500 3))
          SGNDSPF(QGPL/COMPANYA)
```

このコマンドは、サブシステムPAYCTLによって使用される記憶域プール2の定義を1500Kの記憶域サイズおよび3の活動レベルに変更します。サインオン画面ファイルは、ファイルCOMPANYAを表示するように変更され、QGPLライブラリーに入れられます。このコマンドが出された時にサブシステムが活動状態であった場合には、次回サブシステムが開始されるまで、COMPANYAは使用されません。

例2:複数の属性の変更

```
CHGSBSD  SBSB(LIB6/ORDER)
          POOLS((1 *BASE)(2 750 4)(3 *RMV)(4 *NOSTG))
          MAXJOBS(5)
```

このコマンドは、サブシステムORDERがサポートできるジョブの最大数を5に変更します。(サブシステムの記述はライブラリーLIB6に保管されます。) 記憶域プール1の定義は基本共用システム・プールに変更され、プール2の定義は750Kの記憶域サイズと4の活動レベルを持つように変更され、プール3の定義はサブシステムから除去され、また、プール4の定義は記憶域および活動レベルを持たないように変更されます。

例3:言語ライブラリーの変更

```
CHGSBSD  SBSB(QGPL/SPANISH)  SGNDSPF(QSYS2931/QDSIGNON)
          SYSLIBLE(QSYS2931)
```

このコマンドは、サブシステム記述SPANISHをスペイン語2次言語に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSBSD

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

検索見出しの変更 (CHGSCHIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検索見出し変更(CHGSCHIDX)コマンドは、検索見出しを変更します。検索見出しは、1つまたは複数のパネル・グループに入っているオンライン・ヘルプ情報を参照するために使用されます。ユーザー・インターフェース管理機能(UIM)パネルのオンライン・ヘルプ情報は、ヘルプ・キーを押すことによってデータ記述仕様(DDS)を介して、あるいは見出し検索機能を介してアクセスすることができます。

制約事項:

- 変更する検索見出しに対する変更(*CHANGE)権限、および検索見出しが入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SCHIDX	検索見出し	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TITLE	画面タイトル	文字値, *SAME	オプション, 定位置 2
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK, *TITLE	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

検索見出し (SCHIDX)

変更する検索見出しを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 検索見出し

名前 変更される検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

検索見出しを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索見出しが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

画面タイトル (TITLE)

検索情報が表示される画面の最上部に示したいタイトルを指定します。

***SAME**

タイトルを変更しません。

文字値 55文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません。

***TITLE**

タイトルの最初の50文字が検索見出しのタイトルとして使用されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

文字識別コード (CHRID)

検索見出しに使用する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定します。このパラメーターに指定する値は、この検索見出しに追加されたパネル・グループのTXTCHRIDパラメーター値と一致しなければなりません。

単一値

***SAME**

文字セットおよびコード・ページの値は変更されません。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 検索見出しで使用される同義語の文字セットと一致する図形文字セットの値を指定してください。

要素2: コード・ページ

整数 検索見出しで使用される同義語のコード・ページと一致するコード・ページ値を指定してください。

[トップ](#)

CHGSCHIDXの例

```
CHGSCHIDX  SCHIDX(ACCOUNTING)  TITLE('ACCOUNTING HELP INDEX')
           TEXT('ACCOUNTING HELP INDEX')
```

このコマンドは、現行ライブラリー中の検索見出しACCOUNTINGを変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGSCHIDX

***ESCAPE** メッセージ

CPF6E38

文字セットおよびコード・ページを変更することはできない。

[トップ](#)

機密保護属性の変更 (CHGSECA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機密保護属性変更(CHGSECA)コマンドはシステムの機密保護属性を変更します。このコマンドは次の目的で出すことができます。

- ユーザー・プロファイル用に生成されるユーザーID番号(UID)の開始値の変更。
- ユーザー・プロファイル用に生成されるグループID番号(GID)の開始値の変更。

UID (ユーザーID番号) を変更する場合は、最初に使用可能なユーザーID番号の検索が、指定された値から開始されます。GID (グループID番号) を変更する時には、最初に使用可能なグループID番号の検索が、指定された値から開始されます。使用可能な番号が見つかる前に最大番号に達すると、検索は折り返し、検索を101から続行します。この結果、これらの番号は次にUIDまたはGIDが生成されるときに使用されます。たとえば、ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドが出され、UIDパラメーターまたはGIDパラメーターに*GENが指定されたとき、またはプロファイルが復元されるときなどです。これ以降、UIDまたはGIDが生成されるたびに、検索は生成済みの最後に使用したUIDまたはGIDから開始されます。

UIDパラメーターまたはGIDパラメーターが入力されなかった場合、または*SAMEが入力された場合には、開始値は変更されません。

このコマンドを使用して、ISERIES 400上でのUIDまたはGIDの生成のための開始点のある値 (たとえば、3000など) にセットすることができ、別のシステム上の開始点は異なる値 (たとえば、5000など) にセットすることができます。これはネットワーク内の複数のシステム上で固有のUID値またはGID値を簡単に生成できるようにします。

ユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドまたはユーザー・プロファイル UIDまたはGIDの変更(QSYCHGID) APIは、同一のUIDを異なるシステム上のプロファイルに指定するため、または同一のGIDを異なるシステム上のプロファイルに指定するために使用することができます。

制約事項:

- 機密保護属性を変更するためには、*SECADM特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
UID	ユーザーID番号	101-4294967294, *SAME	オプション
GID	グループID番号	101-4294967294, *SAME	オプション

[トップ](#)

ユーザーID番号 (UID)

UID 使用可能なユーザーID (UID)番号の検索を始める新しい開始値。

*SAME

生成済みUIDの開始値に対する変更は行われません。

ユーザーID番号 :

使用可能なユーザーID (UID)番号の検索を始める新しい開始値。これは101から4294967294の範囲にできます。

[トップ](#)

グループID番号 (GID)

GID 使用可能なグループID (GID)番号の検索を始める新しい開始値。

*SAME

生成済みGIDの開始値に対する変更は行われません。

グループID番号

使用可能なGID番号の検索を始める新しい開始値。これは101から4294967294の範囲にできます。

[トップ](#)

CHGSECAの例

CHGSECA UID(2000) GID(3000)

このコマンドの実行後に生成されるユーザーIDは、2000から始められる検索で見つかる最初に使用可能なユーザーID番号で始められます。このコマンドの実行後に生成されるグループIDは、3000から始められる検索で見つかる最初に使用可能なユーザーID番号で始められます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ : CHGSECA

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

機密保護監査の変更 (CHGSECAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機密保護情報の変更(CHGSECAUD)コマンドによって、システム上で行っている監査の内容を制御するシステム値の現行の設定を変更することができます。このコマンドを発行する時に機密保護監査ジャーナルのQAUDJRNが存在しない場合には、機密保護監査ジャーナルおよびその初期ジャーナル・レシーバーがこのコマンドによって作成されます。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJおよび*AUDIT の特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QAUDCTL	QAUDCTLシステム値	単一値: *SAME , *ALL, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *OBJAUD, *AUDLVL, *NOQTEMP	オプション
QAUDLVL	監査値	単一値: *SAME , *ALL, *DFTSET, *NONE その他の値 (最大 115 回の繰り返し): *AUTFAIL, *CREATE, *DELETE, *JOBDDTA, *NETBAS, *NETCLU, *NETCMN, *NETFAIL, *NETSCK, *OBJMGT, *OFCSRV, *OPTICAL, *PGMADP, *PGMFAIL, *PRTDTA, *SAVRST, *SEC CFG, *SEC DIRSRV, *SECIPC, *SECNAS, *SECRUN, *SEC SCKD, *SECURITY, *SECVFY, *SECVLDL, *SERVICE, *SPLFDTA, *SYSMGT	オプション
INLJRNRCV	初期ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期ジャーナル・レシーバー	名前, AUDRCV0001	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QGPL , *CURLIB	

トップ

QAUDCTLシステム値 (QAUDCTL)

システム値QAUDCTLの設定

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

QAUDCTLシステム値は変わりません。

***ALL** QAUDCTLシステム値では、*AUDLVL, *OBJAUD,および*NOQTEMPの値が提供されます。

***NONE**

システムで機密保護監査は行なわれません。これが出荷時の値です。

***OBJAUD**

*NONE以外のオブジェクト監査値をもつオブジェクトに対する処置が監査されます。オブジェクトの監査値は、監査変更(CHGAUD)コマンドまたはオブジェクト監査変更(CHGOBJAUD)コマンドを通して設定されます。

***AUDLVL**

QAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値で指定された処置が、機密保護ジャーナルのログに記録されます。また、ユーザー・プロファイルの処置監査値によって指定された処置が監査されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値は、ユーザー監査変更(CHGUSRAUD)コマンドのAUDLVLパラメーターを通して設定されます。

***NOQTEMP**

QTEMP中のほとんどのオブジェクトの監査は行われません。*NOQTEMPは、*OBJAUD または *AUDLVLのいずれかと一緒に指定しなければなりません。*NOQTEMP単独で指定することはできません。

注:

- システム値を*NONE以外の値に変更するためには、ライブラリーQSYSにQAUDJRNジャーナルが存在していなければなりません。
- このシステム値が*NONEに変更されるまでは、QAUDJRNジャーナルをQSYSライブラリーから削除または移動することはできません。

トップ

監査値 (QAUDLVL)

システム値QAUDLVLおよびQAUDLVL2に使用される設定値。

16個以下の値が指定された場合には、それらの値はシステム値QAUDLVLの中で設定されます。

16個を超える値が指定された場合には、指定された15個の値が値*AUDLVL2とともにシステム値QAUDLVLの中で設定されます。残りの値はシステム値QAUDLVL2の中で設定されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

システム値は変更されません。

***ALL** すべての値が選択されます（ただし、自動的に組み込まれる値は除きます。例- *SECURITYには *SECCFGが含まれるので、*SECCFGがシステム値に追加されることはありません）。

***DFTSET**

システム値には*AUTFAIL、*CREATE、*DELETE、*SECURITY、および*SAVRSTの値が与えられません。

***NONE**

システム上で機密保護処置監査は行われません。これが配送値です。

***AUTFAIL**

権限障害が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- すべてのアクセス障害（サインオン、認可、ジョブ投入）

- 装置から入力された間違ったパスワードまたはユーザーID

***CREATE**

すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。以下が、幾つかの例です。

- 新規作成されたオブジェクト
- 既存のオブジェクトの置き換えのために作成されたオブジェクト

***DELETE**

システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMP から削除されたオブジェクトは監査されません。

***JOBDTA**

ジョブに影響する処置が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- ジョブ開始および停止データ
- 保留, 解放, 停止, 続行, 変更, 切断, 終了, 異常終了, PSR接続の事前開始ジョブ項目
- スレッドの活動ユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルの変更

***NETBAS**

ネットワーク基本機能が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- IP規則処置
- ソケット接続
- APPNディレクトリー検索フィルター
- APPN末端地点フィルター

***NETCLU**

クラスターまたはクラスター資源グループ操作が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- 追加, 作成, および削除
- 配布
- 終了
- フェイルオーバー
- 情報のリスト
- 除去
- 開始
- スイッチ
- 属性の更新

***NETCMN**

ネットワークキングおよび通信機能が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- ネットワーク基本機能(*NETBASを参照)
- クラスターまたはクラスター資源グループ操作(*NETCLUを参照)
- ネットワーク障害(*NETFAILを参照)
- ソケット機能(*NETSCKを参照)

注: *NETCMNは、監査をよりカスタマイズできる幾つかの値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査を取得することになります。以下の値で*NETCMNは構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK

***NETFAIL**

ネットワーク障害が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- ソケット・ポートが使用できない

***NETSCK**

ソケット・タスクが監査されます。以下が、幾つかの例です。

- 受信
- 接続
- DHCPアドレスが割り当てられている
- DHCPアドレスが割り当てられていない
- フィルター操作されるメール
- メールの拒否

***OBJMGT**

総称オブジェクト・タスクが監査されます。以下が、幾つかの例です。

- オブジェクトの移動
- オブジェクトの名前変更

***OFCSRVR**

OFFICEVISION FOR AS/400が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- システム配布ディレクトリーに対する変更
- 電子メールに関するタスク

***OPTICAL**

すべての光ディスク機能が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- 光ディスク・カートリッジの追加または除去
- 光ディスク・ボリュームを保護するために使用される権限リストの変更
- 光ディスク・ファイルまたはディレクトリーのオープン
- 光ディスク・ディレクトリーの作成または削除
- 光ディスク・ディレクトリー属性の変更または検索
- 光ディスク・ファイルのコピー、移動、または名前変更
- 光ディスク・ディレクトリーのコピー
- 光ディスク・ボリュームのバックアップ
- 光ディスク・ボリュームの初期設定または名前変更
- バックアップ光ディスク・ボリュームの基本ボリュームへの変換
- 光ディスク・ファイルの保管または保留解除
- 光ディスク・ボリュームの絶対読み取り

***PGMADP**

プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。

***PGMFAIL**

プログラム障害が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- ブロックされた命令
- 妥当性検査値の障害
- 定義域違反

***PRTDTA**

印刷機能が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- スプール・ファイルの印刷
- パラメーターSPOOL(*NO)での印刷

***SAVRST**

保管および復元情報が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- 所有者のユーザー・プロファイルを借用するプログラムが復元される時点
- ユーザー名が入っているジョブ記述が復元される時点
- 復元されるオブジェクトについて所有権および権限情報が変更される時点
- ユーザー・プロファイルの権限が復元される時点
- システム状態プログラムが復元される時点
- システム・コマンドが復元される時点
- オブジェクトが復元される時点

***SECCFG**

機密保護構成が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- ユーザー・プロファイルの作成, 変更, 削除, および復元操作
- 所有者のプロファイルを借用することになるプログラムに対する変更(CHGPGM)
- システム値, 環境変数, およびネットワーク属性に対する変更
- サブシステムの経路指定に対する変更
- QSECOFRパスワードがDSTからの出荷時の値にリセットされる時点
- 保守ツール機密保護担当者のユーザーIDのパスワードを省略時の値にする要求時
- オブジェクトの監査属性に対する変更

***SECDIRSRV**

ディレクトリー・サービス機能実行時の変更または更新が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- 監査変更
- 正常なバインド
- 権限変更
- パスワード変更
- 所有権変更
- 正常なアンバインド

***SECIPC**

プロセス間通信への変更が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- 変更されたIPCオブジェクトの所有権または権限
- IPCオブジェクトの作成, 削除, または取得

- 共用メモリー接続

*SECNAS

ネットワーク認証サービス処置が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- サービス・チケットが有効である
- サービス基本が一致しない
- クライアント基本が一致しない
- チケットIPアドレスがミスマッチである
- チケットの復号に失敗した
- 認証子の復号に失敗した
- 領域がクライアントおよびローカル領域内にない
- チケットが再生試行である
- チケットがまだ無効である
- リモートまたはローカルIPアドレスがミスマッチである
- KRB_AP_PRIVまたはKRB_AP_SAFEチェックサムの復号でエラー
- KRB_AP_PRIVまたはKRB_AP_SAFE-タイム・スタンプ・エラー, 再生エラー, 順序番号エラー
- GSS受け入れ-クリデンシャルの期限切れ, チェックサム・エラー, チャンネル結合
- GSSアンラップまたはGSS検証-コンテキストの期限切れ, 復号/デコード, チェックサム・エラー, 順序エラー

*SECRUN

機密保護実行時機能が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- オブジェクト所有権に対する変更
- 権限リストまたはオブジェクト権に対する変更
- オブジェクトの1次グループに対する変更

*SECCKD

ソケット記述子が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- ソケット記述子が別のジョブに指定された
- 記述子の受信
- 記述子が使用できない

*SECURITY

すべての機密保護関連機能が監査されます。

- 機密保護構成(*SECCFGを参照)
- ディレクトリー・サービス機能実行時の変更または更新(*SEC_DIRSRVを参照)
- プロセス間通信への変更(*SEC_IPCを参照)
- ネットワーク認証サービス処置(*SEC_NASを参照)
- 機密保護実行時機能(*SEC_RUNを参照)
- ソケット記述子(*SEC_SCKDを参照)
- 検査の使用機能(*SEC_VFYを参照)
- 妥当性検査リスト・オブジェクトの変更(*SEC_VLDLを参照)

注: *SECURITYは、監査をよりカスタマイズできる幾つかの値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査を取得することになります。以下の値で*SECURITYは構成されています。

- *SECCFG
- *SECDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECSCKD
- *SECVFY
- *SECVLDL

***SECVFY**

検査の使用機能が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- パススルー・セッション中にターゲット・ユーザー・プロファイルが変更された
- プロファイル・ハンドルが生成された
- すべてのプロファイル・トークンが無効になった
- 最大数のプロファイル・トークンが生成されている
- プロファイル・トークンが生成されている
- ユーザーのすべてのプロファイル・トークンが除去されている
- 認証されたユーザー・プロファイル
- オフィス・ユーザーが別のユーザーの代行処理を開始または終了した

***SECVLDL**

妥当性検査リスト・オブジェクトの変更が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- 妥当性検査リスト項目の追加, 変更, 除去
- 妥当性検査リスト項目の検索
- 妥当性検査リスト項目の検査の正常終了および異常終了

***SERVICE**

監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、OS/400機密保護解説書の資料を参照してください。

***SPLFDTA**

スプール・ファイル機能が監査されます。以下が、幾つかの例です。

- スプール・ファイルの作成, 削除, 表示, コピー, 保留, および保留解除
- スプール・ファイルからのデータの取り出し(QSPGETSP)
- スプール・ファイル属性変更(CHGSPLFAコマンド)

***SYSMGT**

システム管理タスクが監査されます。以下が、幾つかの例です。

- 階層ファイル・システム登録
- 操作援助機能に対する変更
- システム応答リストに対する変更
- DRDAリレーショナル・データベース・ディレクトリーに対する変更

- ネットワーク・ファイル操作

トップ

初期ジャーナル・レシーバー (INLJRNRCV)

機密保護監査ジャーナルQAUDJRNが作成された時に初期ジャーナル・レシーバーとして作成されたジャーナル・レシーバーの名前およびライブラリー。機密保護監査ジャーナルが存在する場合には、このパラメーターは無視されます。

可能なジャーナル・レシーバー値は次の通りです。

AUDRCV0001

初期ジャーナル・レシーバーの省略時の値

ジャーナル・レシーバー名

作成中のジャーナル・レシーバーの名前。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QGPL 初期ジャーナル・レシーバーの省略時のライブラリー値

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが作成されるライブラリー。

トップ

CHGSECAUDの例

Warning: Temporary Level 3 Header

例1:

```
CHGSECAUD QAUDCTL(*AUDLVL) QAUDLVL(*DFTSET)
```

このコマンドは、機密保護ジャーナルが存在していることを確認し、QAUDCTLシステム値を*AUDLVLに設定し、また、QAUDLVLシステム値を値の省略時セットに設定することによって、システム機密保護監査を活動化します。

例2:

```
CHGSECAUD QAUDCTL(*AUDLVL) +
QAUDLVL(*AUTFAIL *CREATE *DELETE +
        *JOBDTA *NETBAS *NETFAIL +
        *OBJMGT *OPTICAL *PGMADP +
        *PGMFAIL *PRTDTA *SAVRST +
        *SECCFG *SECDIRSRV *SECRUN +
        *SERVICE *SPLFDTA *SYSMGT)
```

このコマンドは、機密保護ジャーナルが存在していることを確認し、QAUDCTLシステム値を*AUDLVLに設定し、また、QAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値を指定された値に設定することによって、システム機密保護監査を活動化します。QAUDLVLシステム値には*AUDLVL2, *AUTFAIL, *CREATE, *DELETE, *JOBDDTA, *NETBAS, *NETFAIL, *OBJMGT, *OPTICAL, *PGMADP, *PGMFAIL, *PRTDDTA, *SAVRST, *SECCFG, *SECDIRSRV, *SECRUNがあります。QAUDLVL2システム値には*SERVICE, *SPLFDDTA, *SYSMGTがあります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSECAUD

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

共用記憶域プールの変更 (CHGSHRPOOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

共用記憶域プールの変更 (CHGSHRPOOL) コマンドは、共用プールのサイズ、活動レベル、または調整値を変更します。共用プールを変更するために必要な権限はコマンドに対する権限だけです。共用プールのサイズを増やした時に、共用プールが活動状態であり（サブシステムまたは活動ジョブによって使用中であり）、記憶域が使用可能である場合は、変更は即時に有効になります。また、共用プールが活動状態でない場合には、変更は共用プールを使用するサブシステムが開始された時に効力を持ちます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
POOL	プール識別コード	*MACHINE, *BASE, *INTERACT, *SPOOL, *SHRPOOL1, *SHRPOOL2, *SHRPOOL3, *SHRPOOL4, *SHRPOOL5, *SHRPOOL6, *SHRPOOL7, *SHRPOOL8, *SHRPOOL9, *SHRPOOL10, *SHRPOOL11, *SHRPOOL12, *SHRPOOL13, *SHRPOOL14, *SHRPOOL15, *SHRPOOL16, *SHRPOOL17, *SHRPOOL18, *SHRPOOL19, *SHRPOOL20, *SHRPOOL21, *SHRPOOL22, *SHRPOOL23, *SHRPOOL24, *SHRPOOL25, *SHRPOOL26, *SHRPOOL27, *SHRPOOL28, *SHRPOOL29, *SHRPOOL30, *SHRPOOL31, *SHRPOOL32, *SHRPOOL33, *SHRPOOL34, *SHRPOOL35, *SHRPOOL36, *SHRPOOL37, *SHRPOOL38, *SHRPOOL39, *SHRPOOL40, *SHRPOOL41, *SHRPOOL42, *SHRPOOL43, *SHRPOOL44, *SHRPOOL45, *SHRPOOL46, *SHRPOOL47, *SHRPOOL48, *SHRPOOL49, *SHRPOOL50, *SHRPOOL51, *SHRPOOL52, *SHRPOOL53, *SHRPOOL54, *SHRPOOL55, *SHRPOOL56, *SHRPOOL57, *SHRPOOL58, *SHRPOOL59, *SHRPOOL60	必須, 定位置 1
SIZE	記憶域サイズ	整数, <u>*SAME</u> , *NOSTG	オプション, 定位置 2
ACTLVL	活動レベル	整数, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 3
PAGING	ページ送りオプション	<u>*SAME</u> , *FIXED, *CALC	オプション, 定位置 4
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション
MINFAULT	最小ページ不在数	10 進数, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
JOBFAULT	スレッド・ページ不在当たり	10 進数, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
MAXFAULT	最大ページ不在数	10 進数, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
PTY	優先順位	1-14, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MINPCT	最小サイズ%	0.0-100.0, *SAME , *DFT	オプション
MAXPCT	最大サイズ%	0.0-100.0, *SAME , *DFT	オプション

トップ

プール識別コード (POOL)

変更する共用プールを指定します。記憶域プールの詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「実行管理機能」情報またはバックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)に記載されています。

これは必須パラメーターです。

*MACHINE

ライセンス内部コードに使用されるマシン・プールは変更されます。マシン・プールのサイズだけしか変更することはできません。これは、システム値変更 (CHGSYSVAL)コマンドを使用してQMCHPOOLシステム値を変更することと同じです。

*BASE

基本プールが変更されます。基本プールの場合には、活動レベルだけを変更することができます。これは、CHGSYSVALコマンドを使用してQBASACTLVLシステム値を変更することと同じです。

*INTERACT

対話式処理用の共用プールが変更されます。

*SPOOL

スプール書き出しプログラムに使用される共用プールが変更されます。

*SHRPOOLNN

汎用共用プールが変更されます。60個の汎用共用プールがあり、特殊値*SHRPOOL1 - *SHRPOOL60によって識別されます。

トップ

記憶域サイズ (SIZE)

記憶域プールのサイズをKバイト (1KB = 1024バイト) の倍数で表して指定します。これは、プールで使用できる主記憶域の容量です。記憶域サイズには、少なくとも256 (256KB)の値を指定しなければなりません。

*SAME

サイズは変更されません。

*NOSTG

プールに記憶域または活動レベルが定義されません。プールが活動サブシステムまたは活動ジョブによって使用中である場合、あるいはプールに予約記憶域がある場合には、プールを*NOSTGに変更することはできません。

整数 記憶域プールのサイズ (キロバイト数) を指定します。

トップ

活動レベル (ACTLVL)

プール内で同時に実行できるスレッドの最大数を指定します。

***SAME**

活動レベルは変更されません。

整数 プールの活動レベルを指定してください。

[トップ](#)

ページ送りオプション (PAGING)

プールと対応するページング・オプションを指定します。ページング・オプションは、最適なパフォーマンスを得るためにシステムが記憶域プールのページング特性を動的に調整するかどうかを決定します。

***SAME**

値は変更されません。

***FIXED**

システムの省略時の値が使用されます。システムは、記憶域プールのページング特性を動的に調整しません。

***CALC**

システムは、最適なパフォーマンスが確実に得られるように、記憶域プールのページング特性を動的に調整します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

共用プールを簡単に記述するテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

最小ページ不在数 (MINFAULT)

この記憶域プールの指針として使用する1秒当たりの最小ページ不在数を指定します。この値は、QPFRADJシステム値が2または3（自動調整）に設定されている場合に、システムによって使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***DFT** 最小不在率の指針はこのプールのシステムの省略時の値にセットされます。

10進数

この記憶域プールの指針として使用する1秒当たりの最小ページ不在数を指定してください。

スレッド・ページ不在当たり (JOBFAULT)

この記憶域プールの指針として使用する各活動スレッドの1秒当たりのページ不在数を指定します。各ジョブは1つまたは複数のスレッドから構成されます。スレッドがCPU資源を使用した場合には、そのスレッドは活動状態としてカウントされます。この値は、QPFRADJシステム値が2または3（自動調整）に設定されている場合に、システムによって使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***DFT** 各活動スレッドの1秒当たりのページ不在数の指針は、このプールのシステムの省略時の値にセットされます。

10進数

このプールのページングの指針に使用する各活動スレッドの1秒当たりのページ不在数を指定してください。

最大ページ不在数 (MAXFAULT)

この記憶域プールの指針として使用する1秒当たりの最大ページ不在数を指定します。QPFRADJシステム値が2または3にセットされていると、システムはこの値を使用します。

***SAME**

値は変更されません。

***DFT** 最大不在率の指針は、このプールのシステムの省略時の値にセットされます。

10進数

このプールのページングの指針として使用する1秒当たりの最大ページ不在数を指定します。

優先順位 (PTY)

他の記憶域プールの優先順位と相対的なこのプールの優先順位を指定します。優先順位の有効な範囲は1-14です。ここで、1は最高の優先順位で、14は最低の優先順位です。QPFRADJシステム値が2または3にセットされていると、システムはこの値を使用します。

***SAME**

値は変更されません。

***DFT** 記憶域プールの優先順位は、このプールのシステムの省略時の値にセットされます。

1-14 記憶域プールの優先順位を指定してください。

最小サイズ% (MINPCT)

この記憶域プールに割り振る記憶域の最小容量を（合計主記憶域のパーセントとして）指定します。QPFRAJシステム値が2または3にセットされていると、システムはこの値を使用します。

*SAME

値は変更されません。

***DFT** 最小プール・サイズは、このプールのシステムの省略時の値にセットされます。

0.0-100.0

この記憶域プールの最小サイズとして使用する合計主記憶域のパーセントを指定してください。

[トップ](#)

最大サイズ% (MAXPCT)

この記憶域プールに割り振る記憶域の最大量を（合計主記憶域のパーセントとして）指定します。プールの最大サイズはこのパーセントおよび他の活動プールに割り振られる記憶域の量によって判別されます。QPFRAJシステム値が2または3にセットされていると、システムはこの値を使用します。

*SAME

値は変更されません。

***DFT** 最大プール・サイズは、このプールのシステムの省略時の値にセットされます。

0.0-100.0

この記憶域プールの最大サイズとして使用する合計主記憶域のパーセントを指定してください。

[トップ](#)

CHGSHRPOOLの例

```
CHGSHRPOOL POOL(*INTERACT) SIZE(4200)
            ACTLVL(*SAME) PAGING(*SAME)
```

このコマンドは、対話式プールのサイズを4200 KBに変更します。活動レベルおよびページング・オプションは同じままです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSHRPOOL

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1076

システム値&1には、指定された値を使用することができない。

CPF1078

システム値&1は変更されなかった。

CPF113A

MINFAULTおよびJOBFAULTパラメーターの合計がMAXFAULTパラメーターを超える。

CPF113B

最小サイズのパーセントが最大サイズのパーセントを超える。

CPF113C

私用プール属性が変更されていない。

CPF1157

共用プール&1は*NOSTGに変更されなかった。

CPF1165

指定されたパラメーターは*MACHINEプールには使用できない。

CPF1166

指定されたパラメーターは*BASEプールには使用できない。

CPF1167

プール&1にACTLVLが指定されていない。

CPF1225

プール&1にSIZEが指定されていない。

CPF1831

ユーザーにはシステム値&1の変更が認可されていない。

CPF1864

ユーザーにはシステム値&1の変更が認可されていない。

[トップ](#)

SNMP属性の変更 (CHGSNMPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドは、OS/400 SNMPエージェントによって使用される値およびオプションを変更します。このコマンドは、ローカルAS/400システムによって生成されたトラップをどのSNMP管理機能が受け取るかを指定するためにも使用されます。

SNMPエージェントは次のSNMP属性の値と一緒に出荷されています。

キーワード
値

SYSCONTACT
*NONE

SYSLOC
*NONE

SNDAUTTRP
*YES

AUTOSTART
*NO

OBJACC
*READ

LOGSET
*NO

LOGGET
*NO

LOGTRP
*NO

TRPMGR
*NONE

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSCONTACT	システム連絡先	文字値, *SAME , *NONE, *CNTINF	オプション
SYSLOC	システム場所	文字値, *SAME , *NONE, *CNTINF	オプション
SNDAUTTRP	承認トラップの送信	*SAME , *YES, *NO	オプション
AUTOSTART	自動開始	*SAME , *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OBJACC	オブジェクト・アクセス	*SAME , *READ, *WRITE, *NONE	オプション
LOGSET	SET要求のログ	*SAME , *YES, *NO	オプション
LOGGET	GET要求のログ	*SAME , *YES, *NO	オプション
LOGTRP	トラップのログ	*SAME , *YES, *NO	オプション
TRPMGR	トラップ管理機能	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 管理機能インターネット・アドレス	文字値	
	要素 2: コミュニティ名	文字値	
	要素 3: コミュニティ名の変換	*YES , *NO	

トップ

システム連絡先 (SYSCONTACT)

このAS/400システムの連絡担当者の名前を、この担当者との連絡方法についての情報とともに指定します。この値はSNMP固有の機能によって使用されるだけです。また、この値は認可されたSNMP管理機能によって読み取りまたは変更することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

システムの連絡先は存在しません。

***CNTINF**

エレクトロニック支援処理(WRKCNTINF)コマンドを使用して指定された保守連絡先情報からこの値が得られます。得られる値は、連絡先担当者および連絡先電話番号から構成されています。

システム連絡先

連絡先担当者の名前およびその他の連絡先情報を指定してください。指定する文字はすべて、ASCII文字セットに変換可能な文字でなければなりません。

トップ

システム場所 (SYSLOC)

このAS/400システムの設置場所を指定します。この値はSNMP固有の機能によって使用されるだけです。また、この値は認可されたSNMP管理機能によって読み取りまたは変更することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

システムの場所情報は存在しません。

***CNTINF**

エレクトロニック支援処理(WRKCNTINF)コマンドを使用して指定された保守連絡先情報からこの値が得られます。得られる値は、メーリング・アドレスから構成されます。

システムの場所

システムの設置場所を指定してください。指定する文字はすべて、ASCII文字セットに変換可能な文字でなければなりません。

[トップ](#)

承認トラップの送信 (SNDAUTTRP)

SNMPエージェントが定義済みの任意のSNMP管理機能に承認障害トラップを送信できるかどうかを指定します。SNMPエージェントによって認識されないコミュニティ名が入っているSNMP管理機能から要求を受け取った場合には、承認障害トラップはSNMPによって送信されます。このトラップは、SNDAUTTRPが*YESとなっていて、少なくとも1つのトラップ管理機能が定義されている場合にのみ送信されます。また、この値は認可されたSNMP管理機能によって読み取りまたは変更することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 承認障害トラップを送信することができます。

***NO** 承認障害トラップは送信されません。

[トップ](#)

自動開始 (AUTOSTART)

STRTCPコマンドまたはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドの実行時にSNMPエージェントが開始されるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** STRTCPコマンドまたはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドの実行時にSNMPエージェントが開始されます。

***NO** STRTCPコマンドの実行時にSNMPエージェントは開始されません。

[トップ](#)

オブジェクト・アクセス (OBJACC)

SNMPコミュニティの省略時のオブジェクト・アクセスを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***READ**

コミュニティの一部であるSNMP管理機能は、すべての基本管理機能情報(MIB) オブジェクトを読み取ることができます。SNMP管理機能によるMIBオブジェクトの変更は許されません。

***WRITE**

コミュニティの一部であるSNMP管理機能は、変更可能なすべてのMIBオブジェクトを変更することができます。*WRITEの指定には暗黙に*READアクセスが含まれています。

***NONE**

コミュニティの一部であるSNMP管理機能は、どのMIBオブジェクトも変更できません。

[トップ](#)

SET要求のログ (LOGSET)

コミュニティのSNMP管理機能からのSET要求がライブラリーQUSRSYSのジャーナルQSNMPにログされるかどうかの省略時の値を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** SET要求がログされます。

***NO** SET要求はログされません。

[トップ](#)

GET要求のログ (LOGGET)

コミュニティのSNMP管理機能からのGET要求およびGET-NEXT要求がライブラリーQUSRSYSのジャーナルQSNMPにログされるかどうかの省略時の値を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** GET要求およびGET-NEXT要求がログされます。

***NO** GET要求およびGET-NEXT要求はログされません。

[トップ](#)

トラップのログ (LOGTRP)

トラップがライブラリーQUSRSYSのジャーナルQSNMPにログされるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** トラップがログされます。

***NO** トラップはログされません。

トップ

トラップ管理機能 (TRPMGR)

このAS/400システムが生成したトラップをどのSNMP管理機能が受け取るかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

トラップを受け取るSNMP管理機能はありません。

要素1: 管理機能IPアドレス

管理機能IPアドレス

SNMP管理機能のIPアドレスを指定してください。このアドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定しなければなりませんが、NNNは0-255の範囲の10進数です。このアドレスは、ADDCOMSNMPおよびCHGCOMSNMP コマンドで指定したIPアドレスとは無関係です。

要素2: コミュニティー名

コミュニティー名

このSNMP管理機能へ送られるトラップに入れるSNMPコミュニティー名を指定してください。この要素の中に指定されたコミュニティー名は、ADDCOMSNMP、CHGCOMSNMP、およびRMVCOMSNMPコマンドで指定されたコミュニティー名とは無関係です。この名前には、表示できない文字を含めることができます。

要素3: コミュニティー名の変換

***YES** SNMP管理機能にトラップが送られる時に、コミュニティー名がASCII文字に変換されます。この値は、コミュニティー名全体が表示可能な文字で構成されている時に指定しなければなりません。コミュニティー名をASCII文字に変換できない場合には、エラー・メッセージが送られることになります。

***NO** SNMP管理機能にトラップが送られる時に、コミュニティー名はASCII文字に変換されません。この値は、コミュニティー名に表示不能文字が入っている時に指定しなければなりません。

トップ

CHGSNMPAの例

例1: システム連絡先および自動始動を変更

```
CHGSNMPA  SYSCONTACT('JOE SMITH, PHONE 555-1212')
           AUTOSTART(*NO)
```

このコマンドは、システム連絡先情報を変更し、STRTCPコマンドの実行時にSNMPエージェントを開始してはならないことを指定します。その他の値はすべて変更されません。

例2: トラップ・マネージャーを変更

```
CHGSNMPA  TRPMGR(('9.8.7.6' 'TRAPCOMMUNITY')
```

('9.8.7.5' 'TRAPCOMMUNITY2'))

このコマンドによって、ローカルISERIES 400によって生成されたトラップは、IPアドレス9.8.7.6および9.8.7.5をもつSNMPマネージャーに送信されます。9.8.7.6に送信されるトラップにはコミュニティ名TRAPCOMMUNITYが入れられ、9.8.7.5に送信されるトラップにはコミュニティ名TRAPCOMMUNITY2が入れられます。両方のマネージャーについて、コミュニティ名はトラップに入れられる前にASCII文字に変換されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSNMPA

*ESCAPE メッセージ

TCP4001

SNMP構成情報のアクセス中にエラーが起こった。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

スプール・ファイル属性変更 (CHGSPLFA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル属性変更(CHGSPLFA)コマンドによって、出力待ち行列上にあるスプール・ファイルの属性を変更することができます。これらの変更の影響が及ぶのは、このファイルの現在の処理に対してだけです。次にジョブを実行し、ファイルを作成する時に、ファイル属性は装置ファイル記述、プログラム、およびすべての一時変更コマンドから派生されます。

現在出力装置にファイルを作成中の場合には、変更することができるパラメーターはCOPIES, RESTART,およびSAVEだけです。他のどのパラメーターを変更しようとしてもエラーになり、ファイル属性は変更されません。しかし、スプーリング属性エラーのためにファイルが出力待ち行列に保留中の場合は、このコマンドを使用して、属性を変更してから、スプール書き出しプログラムを開始してファイルを作成することができます。

スプール・ファイル属性変更の詳細については、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

次の属性を変更することができます。

- 装置の名前
- スプール・ファイル項目の順序
- 指定されたファイルの出力待ち行列
- 印刷装置出力に使用する用紙のタイプ
- 作成されるコピー数
- この印刷装置ファイルの分離ページの数
- 出力のスケジュール
- スプール・ファイルが書き出し後に保管されるかどうか
- 出力優先順位
- スプール・ファイルを識別するユーザー・データ
- 印刷装置ファイルに使用される位置合わせプロンプト
- 印刷装置ファイルの印刷品質
- 各ページの片面または両面にファイルを印刷するかどうかの指定
- 印刷装置ファイルに使用される用紙送り接続機構
- ディスケット・ファイルに使用されるボリューム識別コード
- ディスケット・ファイルに使用されるラベル識別コード
- ディスケットへの書き込みに使用される交換タイプ
- ディスケットに使用される文字コード (EBCDICまたはASCII)

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	スプール・ファイル	名前, *SELECT	必須, キー, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, キー, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, キー, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション, キー
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション, キー
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
SELECT	ファイル選択	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー	名前, *CURRENT, *ALL	
	要素 2: 印刷装置	名前, *ALL, *OUTQ	
	要素 3: 用紙タイプ	文字値, *ALL, *STD	
	要素 4: ユーザー・データ	文字値, *ALL	
	要素 5: ASP	1-32, *ALL, *ASPDEV	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
DEV	印刷装置	名前, *SAME, *OUTQ	オプション
PRTSEQ	印刷順序	*SAME, *NEXT	オプション
FORMTYPE	用紙タイプ	文字値, *SAME, *STD	オプション
COPIES	コピー枚数	1-255, *SAME	オプション
RESTART	印刷の再始動	整数, *SAME, *STRPAGE, *ENDPAGE, *NEXT	オプション
VOL	ボリューム	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
LABEL	ディスク・ラベル	文字値, *SAME	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME, *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILESEP	ファイル区切り	0-9, *SAME	オプション
PAGERANGE	印刷ページ範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	整数, *SAME, *ENDPAGE	
	要素 2: 終了ページ	整数, *SAME, *END	
SCHEDULE	スプール出カスケジュール	*SAME, *JOBEND, *FILEEND, *IMMED	オプション
SAVE	保管ファイル	*SAME, *NO, *YES	オプション
OUTPTY	出力優先順位	1-9, *SAME, *JOB	オプション
USRDTA	ユーザー・データ	文字値, *SAME	オプション
ALIGN	ページの位置合わせ	*SAME, *NO, *YES	オプション
PRTQLTY	印刷品質	*SAME, *STD, *DEV, *DRAFT, *NLQ, *FASTDRAFT	オプション
FORMFEED	用紙送り	*SAME, *DEV, *CONT, *CUT, *AUTOCUT, *CONT2	オプション
DRAWER	ソース用紙入れ	1-255, *SAME, *E1, *FORMDF	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FIDELITY	印刷精度	*SAME , *ABSOLUTE, *CONTENT	オプション
DUPLEX	両面印刷	*SAME , *NO, *YES, *TUMBLE, *FORMDF	オプション
MULTIUP	面当たりページ数	1-4, *SAME	オプション
PAGDFN	ページ定義	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ページ定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
FORMDF	用紙定義	単一値: *SAME , *NONE, *DEVD, *INLINE, *INLINED その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 用紙定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
AFPCHARS	AFP文字	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
FRONTOVL	前面オーバーレイ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オーバーレイ	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 下方向オフセット	0.0-57.79, *SAME	
	要素 3: 横方向オフセット	0.0-57.79, *SAME	
BACKOVL	背面オーバーレイ	単一値: *FRONTOVL, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オーバーレイ	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 下方向オフセット	0.0-57.79, *SAME	
	要素 3: 横方向オフセット	0.0-57.79, *SAME	
	要素 4: コンスタント・バック	*SAME , *NOCONSTANT, *CONSTANT	
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNDTA	ユーザー定義データ	文字値, *SAME , *NONE	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: *NONE, *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *FILE, *PSFCFG, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC	
IPDSPASTHR	IPDSパススルー	*SAME , *DEVD, *NO, *YES	オプション
FNTRSL	形式設定用フォント解像度	*SAME , *DEVD, *SEARCH, 240, 300	オプション
EXCHTYPE	ディスク・ファイル交換タイプ	*SAME , *STD, *BASIC, *H, *I	オプション
CODE	コード	*SAME , *EBCDIC, *ASCII	オプション

トップ

スプール・ファイル (FILE)

これは必須パラメーターです。

属性が変更されるスプール・ファイルの名前を指定します。

*SELECT

ファイル選択プロンプト(SELECTパラメーター) で指定された選択値に合致するすべてのスプール・ファイルが変更されます。この値は、**ジョブ名**プロンプト(JOBパラメーター)、**スプール・ファイル番号**プロンプト(SPLNBRパラメーター)、**ジョブ・システム名**プロンプト(JOBSYSNAMEパラメーター)、または**作成されたスプール・ファイル**プロンプト(CRTDATEパラメーター) で指定された値と一緒に使用することはできません。

スプール・ファイル名

スプール・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

* スプール・ファイルを作成したジョブがこのコマンドを出しています。

ジョブ名

スプール・ファイルが入っているジョブの名前を指定してください。

ユーザー名

そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

このジョブで属性が変更されるスプール・ファイルの固有の番号を指定します。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

***LAST** 指定されたファイル名の複数のスプール・ファイルがある場合には、一番大きい番号のファイルが属性を変更されるファイルです。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにするには、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

属性を変更したいファイル名と一致するスプール・ファイルの番号を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日の値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

指定できる作成時刻の値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名, ユーザー名, ジョブ番号, スプール・ファイル名, スプール・ファイル番号, ジョブ・システム名, およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

トップ

ファイル選択 (SELECT)

属性が変更されるファイルを指定します。このパラメーターによって、一度に複数のファイル进行处理することができます。次の定位置値を使用して、ファイルを選択することができます。すなわち、ファイルを作成したユーザー、ファイルが待機している装置、指定された用紙タイプ、ファイルに関連したユーザー・データ・タグ、またはファイルが入っている補助記憶域プールです。各値と一致するファイルだけが選択されません。

ユーザーが使用できる値は次の通りです。

***CURRENT**

このコマンドを実行中のユーザーによって作成されたファイルだけが選択されます。

***ALL** すべてのユーザーによって作成されたファイルが選択されます。

ユーザー名

ユーザー名を指定してください。そのユーザー名によって作成されたファイルだけを選択します。

装置で使用できる値は次の通りです。

***ALL** 装置作成またはユーザー作成の出力待ち行列上にあるファイルが選択されます。

***OUTQ**

ユーザー作成の出力待ち行列のすべてのファイルが選択されます。ユーザー作成の出力待ち行列とは、装置によって自動的に作成されない出力待ち行列です。ユーザー作成の出力待ち行列は通常は装置と同じ名前にはなりません。同じ名前の場合には、それはライブラリーQUSRSYS内にはありません。

装置名 装置名を指定してください。その装置の装置作成の出力待ち行列に入れられたファイルだけが選択されます。装置作成の出力待ち行列は装置と同じ名前を持ち、QUSRSYSライブラリーにあります。この出力待ち行列がすでに存在していなければ、装置の作成時にシステムによって自動的に作成されます。装置作成の出力待ち行列を削除することはできません。

用紙タイプとして使用できる値は次の通りです。

***ALL** すべての用紙タイプのファイルが選択されます。

***STD** 標準用紙タイプを指定するファイルだけが選択されます。

用紙タイプ

ファイルを選択する用紙タイプを指定してください。

ユーザー・データとして使用できる値は次の通りです。

***ALL** ユーザー・データ・タグが指定されているファイルがどれも選択されます。

ユーザー・データ

ファイルを選択するためのユーザー・データ・タグを指定してください。

補助記憶域プール番号(ASP)に考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定された通りにすべてのファイルが選択されます。

***ASPDEV**

補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定されたファイルが選択されます。

ASP番号

選択するファイルの補助記憶域プール(ASP)を指定してください。有効な値は1 - 32です。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

選択されるスプール・ファイルが入っている補助記憶域プール装置名を指定します。このパラメーターが有効なのは、選択パラメーターのASP番号(ASP)要素が*ALLまたは*ASPDEVである場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっているASPで見つかったファイルが選択されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ内の1次および2次ASPが含まれます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済みユーザーASP (ASP 2-32)で見つかったファイルが選択されます。

***CURASGRP**

スレッドのASPグループの1次および2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

補助記憶域プール装置名

指定された1次または2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドのASPグループ内にある1次または2次ASPのみを指定することができます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

[トップ](#)

印刷装置 (DEV)

ファイルの印刷に使用される印刷装置の名前を指定します。

***SAME**

現在の値は変更されません。

***OUTQ**

このファイルは特定の印刷装置に割り当てられません。そのかわりに、出力待ち行列プロンプト (OUTQパラメーター) に指定された出力待ち行列に入れられます。

装置名 このファイルを印刷する印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

印刷順序 (PRTSEQ)

ファイルが印刷される出力待ち行列の次のファイルであるかどうかを指定します。

ここの値は、スプール出力スケジュールプロンプト(SCHEDULEパラメーター) または出力優先順位プロンプト(OUTPTYパラメーター) の値と一緒に使用することはできません。

***SAME**

ファイルは明示的に上部に移動されません。スプール出力スケジュールプロンプト(SCHEDULEパラメーター) または出力優先順位プロンプト(OUTPTYパラメーター) への変更は、出力待ち行列のファイルの位置を変更することができます。

***NEXT**

ファイル(1つまたは複数)の属性が変更されるので、ファイルは出力待ち行列の始めに移動します。SELECTパラメーターが指定されている時にPRTSEQ(*NEXT)を指定した場合は、選択値を持つファイルが、要件を満たさないファイルの前に移動されます。両方とも移動した2つのファイルは、出力待ち行列上の相対位置が変化している可能性があります。

[トップ](#)

用紙タイプ (FORMTYPE)

印刷装置で使用される用紙のタイプを指定します。

***SAME**

用紙のタイプは変更されません。

***STD** このスプール・ファイルを作成するために、コンピューター・システムで使用する標準用紙が使用されます。

用紙タイプ

このスプール・ファイルの出力の印刷に使用したい用紙のタイプを指定してください。用紙タイプの名前に組み込みブランクがある場合には、名前をアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

コピー枚数 (COPIES)

スプール出力専用の場合には、印刷中の出力のコピー数を指定します。

注: コピー数を指定したファイルの印刷中に値を指定した場合には、既に印刷されたコピー数に加えて、さらに印刷されます。

***SAME**

コピー数は変更されません。

コピー数

印刷するコピー枚数を指定します。有効な値の範囲は1-255です。

[トップ](#)

印刷の再始動 (RESTART)

印刷を再始動したいページを指定してください。ファイルの印刷中に値を指定すると、書き出しプログラムはファイルの印刷を停止し、指定されたページで再始動します。ファイルが印刷中でない場合には、この変更は最初のコピーが印刷される時に有効になります。このパラメーターによって指定されるページに対して書き出しプログラムが位置変更した後では、このパラメーターの値は*STRPAGEにリセットされます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

印刷を再始動するページは変更されません。

***STRPAGE**

印刷ページ範囲プロンプト(PAGERANGEパラメーター)に指定された最初のページが印刷を再始動するページになります。

***ENDPAGE**

印刷開始ページが印刷終了ページです。終了ページだけしか印刷されません。

***NEXT**

印刷された最後のページの次のページが印刷を再始動するページになります。印刷が中断されなかった場合には、開始ページが使用されます。

注: スプール・ファイル属性処理(WRKSPLFA)コマンドを使用して、印刷する最終ページを決定することができます。この値は、書き出しプログラムが*PAGEENDで終了した時やファイルが*PAGEENDで保留されている時には正確なものとなります。この値は、書き出しプログラムが*IMMEDで終了している時やスプール・ファイルが*IMMEDで保留されている時には正確でないことがあります。

再始動ページ

印刷を再始動するページを指定します。

トップ

ボリューム (VOL)

ディスク出力ファイルの場合にだけ、このスプール・ファイルが書き出されるディスクの1つまたは複数のボリューム識別コードを指定します。ディスク (ボリューム) は、ここに指定する識別コードと同じ順序で装置に取り付けなければなりません。順序が違うと、システム操作員にメッセージが送られません。

***SAME**

スプール・ファイルに関連したボリューム識別コードは変更されません。

***NONE**

ディスクのボリューム識別コードは指定されません。このファイルは、ディスク書き出しプログラムの現在の位置に基づいて、最初に使用可能なディスクに書き出されます。ボリューム識別コードの検査は行われません。

ボリューム識別コード

1つまたは複数のボリュームの識別コードを、このファイル用に挿入して使用する順序で指定してください。各ボリューム識別コードは最大6文字で構成されます。ブランクは、複数の識別コードをリストする場合の区切り文字として使用されます。

最初に10以下の識別コードをディスク装置ファイルに指定した場合には、ここで最大10まで指定することができます。ファイルが最初にオープンされた時に10以上のボリューム名を指定した場合には、そのボリューム数だけ変更コマンドで入力することができます。リストに使用できる最大ボリューム数は50です。少なくとも10のボリュームは常に指定することができます。このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されており、これらの複数の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、“値の続きは+”の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

[トップ](#)

ファイル・ラベル (LABEL)

ディスク出力ファイルの場合にだけ、このスプール・ファイルからディスクに書き出されるデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コードを指定します。データ・ファイル識別コードは、ディスクのボリューム・ラベル区域のラベル内に記憶されます。

***SAME**

スプール・ファイルに関連したデータ・ファイル識別コードは同じままです。

データ・ファイル識別コード

ディスクに書き出されるデータ・ファイルに割り当てる識別コード（最大8文字）を指定します。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

スプール・ファイルが移動される出力待ち行列の名前を指定します。このパラメーターが使用されるのは、指定されたファイルが1つの出力待ち行列から別の出力待ち行列に移動される場合だけです。

注: DSPDTA(*OWNER)が指定された出力待ち行列上にスプール・ファイルが現在ある場合には、ユーザーはそのファイルを所有するか、あるいはこれを移動するための *SPLCTL権限がなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

ファイルは同じ出力待ち行列上に残ります。

***DEV** スプール・ファイル用の印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。

出力待ち行列名

スプール・ファイルを移動する出力待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ファイル区切り (FILESEP)

このファイルを印刷している他のファイルと分離できるように、各ファイルの始めに作成する分離ページの数指定します。各ファイルの区切りに含まれる識別情報はファイル名、ファイル番号、ジョブの名前および番号、およびユーザー名です。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

分離ページの数に変更されません。

ファイル区切りの数

ファイル区切りとして使用されるページ数(0-9)を指定します。

[トップ](#)

印刷ページ範囲 (PAGERANGE)

ファイルの各コピーについて印刷するページ範囲を指定します。

制約事項このパラメーターは、印刷装置スプール・ファイルがリダイレクトされた場合には、ディスクト書き出しプログラムによって無視されます。

要素1:印刷の開始ページ

***SAME**

開始ページは変更されません。

***ENDPAGE**

印刷開始ページが印刷終了ページです。終了ページだけが印刷されます。

開始ページ

印刷開始ページを指定します。

要素2:印刷の終了ページ

***SAME**

終了ページは変更されません。

***END** ファイルの最後のページが印刷終了ページです。

終了ページ

印刷する終了ページを指定します。

[トップ](#)

スプール出力スケジュール (SCHEDULE)

スプール・ファイルが書き出しプログラムで使用可能になる時点を指定します。

***SAME**

スプール・ファイルのスケジュール属性は変更されません。

*JOBEND

スプール・ファイルが書き出しプログラムで使用可能になるのは、ジョブ全体が完了した後だけです。

*FILEEND

スプール・ファイルは、プログラム中でファイルがクローズされるとすぐに書き出しプログラムで使用可能になります。

*IMMED

ファイルがプログラムでオープンされると同時に、スプール出力ファイルが書き出し機能に対して使用可能となります。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVE)

スプール・ファイルが出力装置に書き出された後で保管されるかどうかを指定します。

*SAME

スプール・ファイルの保管属性は変更されません。

***NO** スプール・ファイルのデータは、作成された後で出力待ち行列に保留されません。

***YES** スプール・ファイルのデータは、ファイルが削除されるまで出力待ち行列に保留されます。ファイルが作成されると、コピー数は1にセットされ、ファイルの状況はWTR からSAVに変更されます。スプール・ファイルの再作成方法についての情報は、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドを参照してください。

[トップ](#)

出力優先順位 (OUTPTY)

このジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

*SAME

現在の値は変更されません。

***JOB** スプール・ファイルを作成したジョブと対応した出力優先順位が使用されます。

出力優先順位

割り当てる出力優先順位を指定します。有効な値の範囲は1（最高）から9（最低）です。

[トップ](#)

ユーザー・データ (USRDTA)

スプール出力の場合には、ファイルを識別するユーザー指定データを指定します。

*SAME

現在の値は変更されません。

ユーザー・データ

スプール・ファイルに割り当てる最大10文字のデータを指定してください。

ページの位置合わせ (ALIGN)

このファイルの用紙位置合わせを検査するかどうかを指定します。このパラメーターは、ページの位置合わせプロンプト(ALIGNパラメーター) に*FILEが指定されて開始された印刷装置書き出しプログラムによってのみ使用されます。

***SAME**

用紙位置合わせ妥当性検査の現在の値は変更されません。

***NO** 用紙位置合わせの検査は行いません。

***YES** 用紙位置合わせの検査を行います。

トップ

印刷品質 (PRTQLTY)

作成される印刷の品質を指定します。すべての印刷装置がこのパラメーターをサポートするわけではありません。サポートする印刷装置を判別するためには、印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF)コマンドを参照してください。

***SAME**

スプール・ファイルに関連した印刷の品質は同じです。

***STD** 出力は標準品質で印刷されます。

***DRAFT**

出力はドラフト印刷品質で印刷されます。

***NLQ** 出力はレター品質に近い品質で印刷されます。

***DEVD**

出力は、印刷装置の省略時の印刷品質で印刷されます。

***FASTDRAFT**

この出力は、*DRAFTを指定した場合に行われるより高速で、かつ低品質で印刷されます。

トップ

用紙送り (FORMFEED)

このスプール・ファイルに使用される用紙送り接続機構を指定します。このパラメーターは、印刷装置の用紙送りの方法を決定します。すべての印刷装置がこのパラメーターをサポートするわけではありません。このパラメーターがサポートされるかどうかを調べるためには、印刷装置ファイル作成(CRTPRTF) コマンドの項を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

***DEVD**

用紙は、その印刷装置の装置記述で指定されている方法で印刷装置に送られます。

***CONT**

印刷装置は連続用紙を使用します（連続用紙送り機構が接続されていなければなりません）。

***CONT2**

印刷装置で連続用紙が使用されます。用紙は2次連続用紙送り機構から送られます。印刷装置に2次連続用紙送り機構がなければなりません。

***CUT** 印刷装置では単票用紙が使用されます。用紙は1枚1枚手動で送らなければなりません。単票用紙の場合には、用紙位置合わせメッセージは出されません。

***AUTOCUT**

単票用紙が印刷装置に自動的に送られます（用紙送り接続機構が接続されていなければなりません）。単票用紙の場合には、用紙位置合わせメッセージは出されません。

[トップ](#)

ソース用紙入れ (DRAWER)

印刷装置に単票用紙を送る(FORMFEED(*AUTOCUT)で指定)時に使用するソース用紙入れを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***E1** カット用紙送り機構の封筒用紙入れから封筒を紙送りします。

***FORMDF**

書式定義によって、紙送りする用紙入れが定義されます。

ソース用紙入れ

紙送りする用紙入れを指定します。有効な値の範囲は1-255です。

[トップ](#)

印刷精度 (FIDELITY)

このファイルのために維持される印刷精度を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

印刷精度は変更されません。

***ABSOLUTE**

ファイルは予定通り正確に印刷されます。データ・ストリームにエラーが見つかり、印刷は停止されます。

***CONTENT**

可能な場合にはデータ・ストリームのエラーが無視され、印刷が続行されます。

[トップ](#)

両面印刷 (DUPLEX)

出力が用紙の片面または両面に印刷するかどうかを指定します。

***SAME**

両面印刷値は変更されません。

***NO** 出力が用紙の片面に印刷されます。

***YES** 出力は、各印刷ページの上部が用紙の同じ側にくるように、用紙の両面に印刷されます。

***TUMBLE**

出力が用紙の両面に印刷され、印刷されたページの片面の上部が、その裏の印刷されたページの上部とは反対側にきています。これは通常、出力がその上部でとじられる出力で使用されます。

***FORMDF**

書式定義に指定されている両面印刷の値が使用されます。この値が有効なのは、印刷装置タイプ *AFPDS、*AFPDSLIN、または*LINEの場合だけです。

トップ

面当たりページ数 (MULTIUP)

スプール・ファイルの場合には、それぞれの物理ページに出力の複数ページが印刷されるかどうかを指定します。このパラメーターを使用できるのは、印刷装置タイプが*SCS、*IPDS、または*AFPDSで、スプール・ファイルがISERIES 400システムで作成されている場合だけです。

注: このパラメーターは、縮小出力(REDUCE)の値が*NONEの場合には変更できません。縮小出力の値は、スプール・ファイル属性処理(WRKSPLFA)コマンドを使用して確認することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

1 物理ページ当たり印刷される出力のページ数は変更されません。

1 各物理ページに出力の1ページが印刷されます。

2 各物理ページに出力の2ページが印刷されます。

4 各物理ページに出力の4ページが印刷されます。

トップ

ページ定義 (PAGDFN)

行データを形式設定するために使用されるページ定義を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ページ定義は指定されません。

PSF/400では、*LINEまたは*AFPDSLINを指定すると、ページ定義が必要になるので、*NONEを指定した時には、印刷ファイル・パラメーターからインライン・ページ定義が作成され、PSF/400に渡されます。

ページ定義名

指定したライブラリーに存在するページ定義の名前を指定します。有効な値の範囲は1-8文字です。ページ定義を使用する時には、装置タイプ*AFPDSLIN、*LINE、または*USERASCII を指定しなければなりません。

ページ定義の名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

用紙定義 (FORMDF)

ファイルを印刷する時に使用する用紙定義を指定します。用紙定義は、オーバーレイ、用紙上のページ・データの位置、およびページのコピー数と修正を含む用紙の特性を定義する資源オブジェクトです。用紙定義は印刷しているファイルとともにインラインにあるか、あるいはライブラリー中にあります。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

書式定義は使用されません。

PSF/400には書式定義が必要になるので、*NONEを指定した時には、印刷ファイル・パラメーターからインライン書式定義が作成され、PSF/400に渡されます。

***DEVD**

様式定義の名前は印刷装置定義に指定されています。

***INLINE**

書式定義はインラインに検索されます。インライン書式定義が存在しない場合には、ファイルは印刷されません。

***INLINED**

書式定義はインラインに検索されます。存在しない場合には、*DEVD書式定義が使用されます。

書式定義名

指定されたライブラリーに存在しなければならない書式定義の名前を指定してください。有効な値の範囲は1-8文字です。

書式定義の名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

AFP文字 (AFPCHARS)

行データおよびページ定義で使用される1つまたは複数のAFP文字（コード化フォント）を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

AFP文字（コード化フォント）は指定されません。

コード化フォント名

行データおよびページ定義で指定するコード化フォントの4バイトの名前を4つまで指定します。4バイトの名前にはX0が連結され、データ内でTBLREFCHRが使用されている時に使用する4つ以内のコード化フォントを識別します。

[トップ](#)

前面オーバーレイ (FRONTOVL)

ページの前面に印刷するオーバーレイが入っているオブジェクトの名前およびライブラリーを指定します。このパラメーターはまた、ページのどこにオーバーレイを置くかも指定します。

指定できるオーバーレイ値は次の通りです。

***SAME**

前面オーバーレイの値は変更されません。

***NONE**

オーバーレイは使用されません。

オーバーレイ

オーバーレイの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オーバーレイを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。

指定できるオフセット値は次の通りです。

***SAME**

オフセットは変更されません。

オフセット

オーバーレイが置かれる点を指定してください。下方向オフセット値は垂直方向位置を指定し、横方向オフセット値は水平方向位置を指定します。有効な値の範囲は0-57.79（単位がセンチメートルの場合）または0-22.75（単位がインチの場合）です。値を指定しない場合には、システムがオフセットを0に設定します。

トップ

背面オーバーレイ (BACKOVL)

ページの背面に印刷されるオーバーレイと、オーバーレイの印刷時に使用される起点から下方および横方向のオフセットが入っているオブジェクトの修飾名を指定します。このパラメーターは印刷装置が*SCSまたは*IPDSである時にのみ使用されます。

要素1:オーバーレイ名

***SAME**

背面オーバーレイの値は変更されません。

***FRONTOVL**

前面オーバーレイプロンプト(FRONTOVLパラメーター)に指定された値が使用されます。

***NONE**

オーバーレイは使用されません。

オーバーレイ

オーバーレイの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オーバーレイを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2:下方向オフセット

***SAME**

オフセットは変更されません。

下方向オフセット

印刷を開始する起点からの下方向オフセットを指定してください。このファイルの作成時に

CRTPRTFコマンドにUOM(*CM)が指定されている場合には、有効な値の範囲は0 - 57.79であり、UOM(*INCHES)が指定されている場合には、有効な値の範囲は0 - 22.57となります。

要素3:横方向オフセット

***SAME**

オフセットは変更されません。

横方向オフセット

オーバーレイの印刷が開始される起点からの横方向のオフセットを指定してください。このファイルの作成時にCRTPRTFコマンドにUOM(*CM)が指定されている場合には、有効な値の範囲は0 - 57.79であり、UOM(*INCHES)が指定されている場合には、有効な値の範囲は0 - 22.57となります。

要素4:コンスタント・バック

コンスタント・バック機能によって、印刷アプリケーションにブランク・ページを追加することなく、ブランク・ページにオーバーレイを印刷できます。コンスタント・バック機能を指定することにより、ブランク・ページが生成され、これに指定のバック・オーバーレイを印刷できます。生成されたブランク・ページは、ユーザーの印刷アプリケーションからの変数データがページに印刷されないので定様式と呼ばれます。MULTIUPが1でない場合には、この値は変更できません。コンスタント・バック機能は両面印刷だけにサポートされています。DUPLEX(*NO)が印刷ファイルに指定されていると、これは無視されます。

注: コンスタント・バック値に*CONSTANTが指定されている時には、下方向オフセットおよび横方向オフセットは無視されます。これらの値はオフセット0.0とみなされます。

指定できるコンスタント・バック値は次の通りです:

***SAME**

値は変更されません。

***NOCONSTANT**

コンスタント・バック機能は実行されません。

***CONSTANT**

コンスタント・バック機能が実行されます。

[トップ](#)

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義オプションは指定されません。

ユーザー定義オプション

スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

[トップ](#)

ユーザー定義データ (USRDFNDTA)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義データを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義のデータを指定しません。

ユーザー定義データ

スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のデータを指定します。すべての文字が受け入れ可能です。

[トップ](#)

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義オブジェクトは指定されません。

要素1:ユーザー定義オブジェクトの名前

オブジェクト名

スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオブジェクトを指定してください。

ユーザー定義のオブジェクトは、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2:ユーザー定義オブジェクトのタイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

***DTAARA**

データ域

***DTAQ**

データ待ち行列

***FILE** ファイル

***PSFCFG**

PSF構成オブジェクト

***USRIDX**

ユーザー索引

***USRQ**

ユーザー待ち行列

***USRSPC**

ユーザー空間

[トップ](#)

IPDSパススルー (IPDSPASTHR)

IPDS (高性能印刷装置データ・ストリーム) パススルーがスプール・ファイルに実行されるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***DEV D**

印刷装置記述に指定されたPSF構成オブジェクトでIPDSPASTHRに指定される値が使用されます。PSF構成オブジェクトは装置に指定され、値*NOが使用されます。

***NO** IPDSパススルーは実行されません。

***YES** スプール・ファイルがIPDSパススルーに適格な場合に、IPDSパススルーを実行することを指定します。

注: IPDSパススルーには、すべてのSCSまたはIPDSスプール・ファイルが適格であるわけではありません。正確な印刷のAFPDSに変形する必要がある特殊機能が入っている場合があります。印刷装置ファイルでIPDSパススルーを指定することにより、IPDSパススルーに適合するスプール・ファイルだけが余分な変形を回避することができます。IPDSパススルーに適合しないこれらのスプール・ファイルは、依然としてAFPDSに変形してからIPDSに戻さなければなりません。IPDSパススルーはすべてのPSF/400サポートされた印刷装置に有効というわけではありません。常駐フォントをサポートしない印刷装置 (または接続) はIPDSパススルーをサポートできません。これは、データ・ストリームの常駐フォント参照が、印刷装置にダウンロードされたホスト・フォントにマップする

必要があるためです。3820, 3825, 3827, 3828, 3829, 3831, 3835, 3900-001と印刷サービス機能を使用してOS/2の分散印刷機能に付加された印刷装置を除くすべてのIBM IPDS印刷装置は、IPDSパススルーでサポートできます。

V3R7, V4R1およびV4R2では、IPDSPASTHRは印刷装置ファイルのUSRDFNDDTAパラメーターで指定できます。印刷装置ファイルでIPDSPASTHR(*DEVD)を指定することにより、既存の印刷装置ファイルおよびPSF構成オブジェクトでのこのサポートの使用を続行できます。IPDSPASTHRパラメーターに*DEVD以外の値を指定すると、USRDFNDDTAパラメーターのIPDSパススルー値は無視されます。

[トップ](#)

形式設定用フォント解像度 (FNTRSL)

複数の解像度印刷装置に印刷する時や、スプール・ファイルがそのスプール・ファイルを印刷するフォント・メトリックおよび解像度を指定していないかフォントがその解像度で使用できない時に、スプール・ファイルを印刷するために解像度PSF/400が使用されることを指定します。

フォント資源のライブラリー・リストを検索するために使用されるアルゴリズムに関する詳細については、「PSF構成オブジェクトの処理」という章の「ユーザーおよび装置の資源ライブラリー・リスト」という題の項にある印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***DEVD**

装置のPSF構成オブジェクトのFNTRSLパラメーターで指定された値が使用されます。PSF構成オブジェクトが装置に指定されていない場合には、*SEARCHの値が使用されます。

***SEARCH**

名前が一致するホスト・フォントの最初のおカレンスのライブラリー・リストを検索することを指定します。そのフォントの解像度はスプール・ファイルを印刷するために使用されます。メッセージPQT3546が選択されたフォントの解像度を指定するために送られます。

240 フォント解像度はインチ当たり240画素です。

300 フォント解像度はインチ当たり300画素です。

[トップ](#)

ディスク・ファイル交換タイプ (EXCHTYPE)

ディスク出力ファイルの場合にだけ、スプール・ファイルを書き出すために使用される交換タイプを指定します。このパラメーターは、ディスクに書き出されるデータの形式およびレコード長を決定します。このディスクを他のシステムのタイプで読み取ろうとする場合には、この形式が他のシステムと互換性のあるものであることを確認してください。

***SAME**

現在の値は変更されません。

***STD** タイプ1またはタイプ2のディスクの場合には、BASIC交換形式が使用されます。タイプ2 Dのディスクの場合には、H交換タイプが使用されます。

***BASIC**

BASIC交換タイプが使用されます。

***H** H交換タイプが使用されます。

***I** I交換タイプが使用されます。

トップ

コード (CODE)

ディスク出力ファイルの場合にだけ、このスプール・ファイルをディスクに書き出す時に使用する文字コードのタイプを指定します。

***SAME**

スプール・ファイルに関連した文字コードのタイプは同じままです。

***EBCDIC**

このスプール・ファイルではEBCDIC文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

トップ

CHGSPLFAの例

例1:別の待ち行列へのファイルの移動

```
CHGSPLFA FILE(SALES) JOB(000147/JONES/BILLING) OUTQ(QPRINT2)
        FORMTYPE('1140-6')
```

このコマンドは、（番号が000147のBILLINGジョブの）SALESという名前のファイルを、現在の待ち行列からQPRINT2待ち行列に移動します。これは、また、用紙識別コードをこの用紙タイプが印刷装置で 사용되는ことを意味する1140-6に変更します。

例2:出力コピー数の変更

```
CHGSPLFA FILE(DEPT511) COPIES(2) FILESEP(5)
```

このコマンドは、送信者のジョブによって作成されるスプール・ファイルDEPT511の属性を変更します。これは、出力コピー数を2に変更し、各コピーの前に5つの分離ページを指定します。

例3:印刷する開始ページおよび終了ページの変更

```
CHGSPLFA FILE(DEPT481) PAGERANGE(99 100)
```

このコマンドは、スプール・ファイルDEPT481の属性を変更します。これは、印刷する開始および終了ページを変更します。ここでは、ファイルの各コピーの99ページと100ページのみが印刷されます。

例4:特定のページでの開始

```
CHGSPLFA FILE(DEPT481) RESTART(5)
```

このコマンドは、スプール・ファイルDEPT481の印刷をページ5で再開します。これより後のすべてのコピーが、指定された開始ページから終了ページまで印刷されます。ファイルがWTR状況にある場合には、書き出しプログラムは現在のコピーの印刷を停止し、ページ5で印刷を再開します。RESTARTパラメーターに指定するページは、PAGERANGEパラメーターで指定した範囲内になければなりません。

例5:次のページでの再開

```
CHGSPLFA FILE(DEPT481) RESTART(*NEXT)
```

このコマンドは、ジョブが中断された時に最後に印刷されたページの次のページで印刷ジョブを再始動します。これより後のすべてのコピーが、指定された開始ページから終了ページまで印刷されます。ファイルがWTR状況であってはなりません。ファイルがWTR状況にある場合には、このコマンドは拒否されて、メッセージがユーザーに送られます。ファイルが書き出しプログラムによって処理されている時には、RESTART(*NEXT)は無効です。

トップ

エラー・メッセージ： CHGSPLFA

*ESCAPE メッセージ

CPD3351

&1パラメーターを指定できるのは印刷ファイルの場合だけである。

CPD3352

ライブラリー&2のページ定義&1が見つからない。

CPD3353

ライブラリー&2の用紙定義&1が見つからない。

CPD3354

パラメーターDRAWERがパラメーターFORMFEEDと矛盾している。

CPD3355

FORMDF(*NONE)がパラメーターDRAWERと矛盾している。

CPD3356

DRAWERパラメーターをディスクットのパラメーターと一緒に使用することはできないパラメーターに省略時の値を指定する。

CPD3357

PAGDFNパラメーターをディスクットのパラメーターと一緒に使用することはできない。

CPD3358

AFPCHARSパラメーターをディスクットのパラメーターと一緒に使用することはできない。

CPD3359

FORMDFパラメーターをディスクットのパラメーターと一緒に使用することはできない。

CPF337E

ASP装置&1がスレッドの現行ASPグループにありません。

CPF337F

ASP番号&2にはASP装置&1は使用できません。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF33AD

ターゲット・スプール・ファイル &1が作動可能状況の最後のスプール・ファイルではありません。
ソース・スプール・ファイルは移動されません。

CPF33A6

書き出しプログラムによってスプール・ファイル&1が選択された。スプール・ファイルは移動されません。

CPF33A7

スプール・ファイル&1番号&8はジョブ&5/&4/&3で移動されません。

CPF33A8

スプール・ファイル&1が複数回指定された。スプール・ファイルは移動されません。

CPF33A9

ターゲットのスプール・ファイル&1が出力待ち行列を変更した。ソースのスプール・ファイルは移動していません。

CPF33C2

スプール・ファイルを先頭に移動できるのは、出力待ち行列がSEQ(*FIFO)の場合だけである。

CPF33C3

スプール・ファイルの移動に必要な優先順位がユーザーの範囲を超えている。

CPF33C4

スプール・ファイル&1はHLDJOBコマンドによって保留されている。スプール・ファイルは移動されません。

CPF33C5

書き出しプログラムによってターゲットのスプール・ファイル&1が選択された。ソースのスプール・ファイルは移動していません。

CPF33C6

ファイルの移動に必要な優先順位がユーザーの限界を超えている。

CPF33C7

他のユーザーのファイルの前にファイルを移動することはできない。

CPF33D0

印刷装置&1が存在していない。

CPF33D1

ユーザー&1が存在していない。

CPF33F0

スプール・ファイルの移動は認可されていない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3335

ファイル&1番号&8の属性は変更されなかった。

CPF334A

指定されたユーザー定義のオブジェクト&1が正しくない。前のメッセージを参照してください。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3341

ファイル&1番号&8の属性は変更されなかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3401

PRTまたはSND状況のファイルのCOPIESを変更することはできない。

CPF3464

ライブラリー&2の出力待ち行列&1に対する権限がない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

ソース物理ファイル変更 (CHGSRCPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ソース物理ファイル変更(CHGSRCPF)コマンドは、ソース物理ファイルおよびそのすべてのメンバーの属性を変更します。それ以後にファイルに追加されたすべてのメンバーに対して、変更された属性が使用されません。

制約事項:

- ソース物理ファイルを変更するには、ファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限またはオブジェクト変更(*OBJALTER)権限とライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- ファイルを変更するためには、排他ロック（いかなる目的であっても誰もこのファイルを使用できない状態）が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション, キー
EXPDATE	メンバーの満了日	日付, *SAME, *NONE	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, *SAME, *NOMAX	オプション
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	*SAME, *MAX4GB, *MAX1TB	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	*SAME, *IMMED, *REBLD, *DLY	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	*SAME, *NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRCACCPH	強制キー順アクセス・パス	*SAME, *NO, *YES	オプション
SIZE	メンバー・サイズ	単一値: *NOMAX その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 初期レコード数	1-2147483646, *SAME	
	要素 2: 増分レコード数	0-32767, *SAME	
	要素 3: 最大増分値	0-32767, *SAME	
ALLOCATE	記憶域割り振り	*NO, *YES, *SAME	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, *SAME, *ANY	オプション
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, *SAME, *NONE	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *SAME, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, *SAME, *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *NO, *YES	オプション
DLTPCT	許される削除レコードの最大 %	1-100, *NONE, *SAME	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *SAME , *HEX	オプション

トップ

物理ファイル (FILE)

変更される物理ファイルを指定します。

注: 分散データ管理機能(DDM)ファイルが指定されている場合には、変更する物理ファイルの名前およびそのファイルを変更するリモート・システムの名前がそのDDMファイルに入っています。詳細については、このコマンドの**システム(SYSTEM)**パラメーターを参照してください。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

システム (SYSTEM)

物理ファイルをローカル・システムで変更するかあるいはリモート・システムで変更するか、そのいずれかを指定します。

***LCL** 物理ファイルはローカル・システムで変更されます。

***RMT** 物理ファイルは、分散データ管理機能(DDM)を使用するリモート・システム上で変更されます。**物理ファイル(FILE)**パラメーターに指定する物理ファイル名は、変更される物理ファイルの名前およびファイルの変更が行われるリモート・システムの名前を識別するDDMファイルの名前でなければなりません。

*FILETYPE

FILEパラメーターで指定された名前がDDMファイルである場合には、そのDDMファイルの**リモート・ロケーション(RMTLOCNAME)**パラメーターで指定されたリモート・システムで物理ファイルの変更が行われます。FILEパラメーターで指定された名前がDDMファイルでない場合には、ローカル・システムでその名前の物理ファイルの変更が行われます。

トップ

メンバーの満了日 (EXPDATE)

ファイルの全メンバーの満了日を指定します。満了日を指定した場合には、ファイルのすべてのメンバーが変更されます。このパラメーターを変更することにより、満了日を過ぎたメンバーに新しい満了日を指定することができます。満了日は、現在の日付と等しいかまたはそれより後でなければなりません。

***SAME**

ファイルの満了日は変更されません。

***NONE**

満了日が指定されていません。

日付 以後ファイル・メンバーが使用できなくなる日付を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

一時点で物理ファイルに入れることができるメンバーの最大数を指定します。指定するメンバーの最大数は、ファイルのメンバーの現在数より大きいか等しくなければなりません。

***SAME**

ファイル中のメンバーの最大数は変更されません。

***NOMAX**

メンバーの数については最大数は指定されません。システムの最大数である1ファイルあたり32,767メンバーが使用されます。

整数 物理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

次の種類のアクセス・パスで占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。

- キー順アクセス・パスをもつデータベース・ファイルと対応したアクセス・パス。
- 参照制約または固有制約のために作成され、物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドによってこのファイルに追加できるアクセス・パス。

このファイルの値を変更すると、そのファイルによって所有されているアクセス・パスが再作成されることとなります。

注: このパラメーターは、ファイル中のデータを参照する照会用に作成されているアクセス・パスには適用されません。

パフォーマンスのヒント

最適なパフォーマンスのためには、このパラメーターを選択する時に、アクセス・パスのキーの競合が頻発するかどうかを考慮してください。

- キーの競合が少ない、または起きない場合には、*MAX4GBを指定すると良好なパフォーマンスが得られます。
- キーの競合が頻発する場合には、一般には*MAX1TB値を指定すると良好なパフォーマンスが得られません。

***SAME**

値は変更されません。

***MAX4GB**

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助記憶域を占有することができます。この値はオペレーティング・システムのバージョン3リリース6モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を提供します。

***MAX1TB**

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

[トップ](#)

アクセス・パスの保守 (MAINT)

物理ファイルのすべてのメンバーに使用するアクセス・パスの保守のタイプを指定します。このパラメーターが有効になるのは、ファイルがキー順アクセス・パスを備えている場合だけです。

***SAME**

ファイルのアクセス・パスのメンテナンスは変更されません。

***IMMED**

各物理ファイル・メンバーについて、アクセス・パスの保守が継続的に（ただちに）行なわれます。レコードの変更、追加、または削除がメンバーで行なわれるたびに、パスが変更されます。挿入および変更が行なわれるたびに必ず固有性が確保できるようにするために、固有キーを必要とするすべてのファイルについて、*IMMEDを指定してください。

***REBLD**

ファイル・メンバーがオープンされた時に、アクセス・パスが再作成されます。アクセス・パスは、メンバーがクローズされ、結果的にアクセス・パスワードのメンテナンスが終了するまで継続的にメンテナンスされます。*REBLDは、固有キー値を含むアクセス・パスには有効ではありません。

***DLY** アクセス・パスの保守は、使用するためにメンバーがオープンされるまで遅延されます。ファイルが最後にクローズされてから追加、削除、または変更されたレコードのアクセス・パスだけが変更されます。（ファイルがオープンされている間は、基礎になっているメンバーに対して行なったすべての変更は、**アクセス・パスの保守(MAINT)**パラメーターに何が指定されていても、ただちに、オープンされたファイルのメンバーのアクセス・パスに反映されます。）ファイルのオープン時に時間のかかる再作成を行わないようにするためには、クローズ操作と次のオープン操作の間のアクセス・パスに対する変更の数が少ない場合（このアクセス・パスのレコードの中のキー・フィールドがほとんど変更されない場合）にのみ*DLYを指定しなければなりません。*DLYは固有のキー値を必要とするアクセス・パスには正しくありません。

クローズ操作と次のオープン操作の間に行なわれた変更の数がアクセス・パスのサイズの約10%になった場合には、システムは変更の保管を停止し、アクセス・パスは次回にファイルがオープンされる時に完全に再作成されます。

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パスに即時メンテナンスまたは遅延メンテナンスをもつファイルについて、アクセス・パスの変更中にシステム障害が起こった場合にファイルの回復処理がいつ行なわれるかを指定します。このパラメーターは、キー順アクセス・パスが使用される場合にだけ有効です。

*SAME

ファイルの回復属性は変更されません。

***NO** ファイルのアクセス・パスは再作成されません。ファイルのアクセス・パスが正しくない場合には、ファイルのオープン時に再作成されます。

*AFTIPL

IPL操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションにより、このファイルを使用しない他のジョブはIPLの完了後直ちに処理を開始することができます。

***IPL** IPL操作時にファイルのアクセス・パスが再作成されます。これにより、最初のユーザー・プログラムがこのファイルのアクセス・パスの使用を試みる前にこのファイルのアクセス・パスが再作成されますが、*IPLを指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでジョブは開始されません。

トップ

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

キー順アクセス・パスをもつファイルの場合のみ、アクセス・パスの変更がファイル中の関連レコードとともに補助記憶域に強制的に書き出されるかどうかを指定します。*YESを指定すると、異常終了によってアクセス・パスが損傷し、そのためにその後でアクセス・パスを再作成しなければならない公算が最小限に抑えられます（ただし、除去はされません）。

*SAME

ファイルの強制アクセス・パス属性は変更されません。

***NO** アクセス・パスが変更されても、変更済みアクセス・パスおよび変更済みレコードは補助記憶装置には強制書き出しされません。

***YES** アクセス・パスが変更されるたびに、変更済みアクセス・パスおよび変更済みレコードが補助記憶装置に強制書き出しされます。この値が指定された場合には、アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターで*REBLDを指定してはなりません。

トップ

メンバー・サイズ (SIZE)

ファイルの各メンバーの初期レコード数、メンバー・サイズに自動的に追加される各部分のレコード数、および追加部分が自動的に適用される回数を指定します。

初期レコード数の変更が有効となるのは、新しいメンバーがファイルに追加された時か、あるいは現行メンバーが消去、復元、または再編成された時です。追加するレコード数の変更内容および追加部分が自動的に適用される回数は、ファイルのメンバーが次回に追加部分を必要とした時に有効になります。

メンバーの合計サイズ（初期追加部分+1追加部分当りの追加レコード数X追加の回数）は、メンバーの現行サイズより大きくなければなりません。メンバーの現行サイズより小さい場合には、エラー・メッセージが送られ、サイズは変更されません。

単一値

***NOMAX**

ファイルの各メンバーに挿入されるレコード数は、ユーザーによって制限されません。各メンバーの最大サイズは、システムによって決定されます。物理ファイルのALLOCATE属性に*YESが効力をもっている場合には、このオプションを指定することはできません。

要素1: 初期レコード数

***SAME**

値は変更されません。

1-2147483646

自動拡張が起こる前に挿入可能なレコード数を指定してください。自動拡張が必要でない場合には、リストの2番目および3番目の値にゼロを入力してください。

要素2: 増分レコード数

***SAME**

値は変更されません。

0-32767

レコードの最大数に達した時にメンバーのサイズの10%より大きい場合に、自動拡張が行なわれた後にメンバーに挿入される追加のレコード数を指定してください。

指定された数がメンバー・サイズの10%より大きくなく、ゼロと等しくない場合には、メンバー・サイズが10%ずつ増加されます。

自動拡張しないためには、0を入力してください。増分の数が0の場合には、増分値も0でなければなりません。

要素3: 最大増分値

***SAME**

値は変更されません。

0-32767

メンバーに自動的に追加する部分の最大数を指定してください。自動拡張しないためには、0を入力してください。増分値が0の場合には、追加部分の数も0になります。

[トップ](#)

記憶域割り振り (ALLOCATE)

ファイルに各物理ファイル・メンバーが追加される時に、そのメンバーに初期記憶スペースを割り振るかどうかを指定します。この変更は、次回にファイルに新しいメンバーが追加される時、あるいは現行メンバーが消去、復元、または再編成される時に効力をもちます。

***SAME**

割り振り方式は変更されません。

- *NO** 新しいメンバーが追加されるか、あるいは既存のメンバーが消去または再編成される時には、システムが必要なスペースを決定して、その量を割り振ります。
- *YES** 新しいメンバーが追加されるたび、あるいは既存のメンバーが消去または再編成されるたびに、**メンバー・サイズ(SIZE)**パラメーターの最初の値に指定された容量の記憶域スペースが割り振られます。この容量の記憶スペースが使用可能でない場合には、メンバーは追加されず、メッセージがユーザーに送られます。このパラメーター値を使用した場合には、**SIZE**パラメーターには***NOMAX**は有効となりません。

トップ

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン3リリース6モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用法については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

トップ

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助（永続）記憶域に強制書き出しする前に処理する挿入、変更、または削除済みレコードの数を指定します。物理ファイルをジャーナルに記録しようとしている場合には、より大きい強制書き出し率または***NONE**を指定するようお奨めします。ジャーナル管理の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

***SAME**

ファイルの強制書き出し率は変更されません。

***NONE**

強制書き出し率はありません。レコードが補助記憶装置にいつ書き出されるかは、システムが決定します。

整数 補助記憶装置に強制的に書き出される前に処理される新しいレコードまたは変更されたレコードの数を指定してください。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源およびセッション資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源が割り振られなかった場合には、プログラムにエラー・メッセージが送られます。

注: ファイルに対する獲得操作の実行時には、装置資源による装置の即時割り振りが必要です。

***SAME**

ファイルの待機属性は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** クラス記述に指定された省略時の待機時間が、割り振られるファイル資源の待機時間として使用されます。

1-32767

プログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムが変更または削除されるレコードを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内に当該レコードが割り振られない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***SAME**

ファイルのレコード待機属性は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。レコードがロックされた時には、レコードの即時割り振りが必要です。

***NOMAX**

待機時間は、システムによって許容された最大値 (32,767秒) です。

1-32767

プログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***SAME**

メンバーのODP共用値は変更されません。

***NO**

ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES**

ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

許される削除レコードの最大% (DLTPCT)

物理ファイルのすべてのメンバーに入れることができる削除済みレコードの最大パーセントを指定します。このパーセントは、メンバー中の削除済みレコードと合計レコード数の比率に基づいています。この変更は、次回にファイルがオープンされ、クローズされる時に効力をもちます。

***SAME**

削除済みレコードのパーセントは変更されません。

***NONE**

パーセントは指定されません。メンバーのクローズ時にファイル・メンバー中の削除済みレコードの数はチェックされません。

1-100 物理ファイルのすべてのメンバーに入れることができる削除済みレコードの最大パーセントを指定してください。この割合よりも値の方が大きい場合には、ファイルがクローズされる時にシステム活動記録ログ(QHST)にメッセージが送られます。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

ファイルを記述するテキストは変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

ファイルのフィールドの文字データを記述するために使用されるコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。

***SAME**

CCSIDは変更されません。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドの文字データがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

1-65535

使用するCCSIDを指定してください。

トップ

CHGSRCPFの例

1:満了日の変更

```
CHGSRCPF FILE(QGPL/INV) EXPDATE('10/31/88')
```

このコマンドは、ファイルINV中のすべてのメンバーの満了日を1988年10月31日に変更します。

例2:テキストの変更

```
CHGSRCF FILE(QGPL/DDMF) TEXT('INVENTORY FILE')
```


SYSTEM(*RMT)

このコマンドは、リモート・システム上のQGPLライブラリー中のファイルINVのテキストを変更します。
上記のコマンドを指定する場合には、その前にこのユーザーがコマンドCRTDDMF FILE(QGPL/DDMF)
RMTFILE(QGPL/INV) RMTLOCNAME(AS400)を指定してDDMファイルを作成しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSRCPF

*ESCAPEメッセージ

CPF326A

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF327F

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

[トップ](#)

サービス属性の変更 (CHGSRVA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス属性変更(CHGSRVA)コマンドを使用して次を指定します。

- 外部サポートに報告する接続番号
- このシステムをコールバックする接続番号
- 障害が発生した時に問題分析ルーチンを自動的に実行するかどうか
- 指定されたサービス提供元に問題を通知する方法
- サービス提供元への接続番号
- PTFを導入する時点
- 重要システム・メッセージの送り先

このコマンドのパラメーターに指定された値は、システム保管(SAVSYS)コマンドを実行した時に保管され、オペレーティング・システムを導入し直す時にシステムに復元することができます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限が必要です。
2. RPTSRVPVDパラメーターによって指定されたシステムはサービス提供元のリストに現在存在していなければなりません (システムに定義されたサービス提供元処理(WRKSRVPVD)コマンドを使用してサービス提供元のリストを表示します)。指定されたシステムがサービス提供元のリストで定義されていない場合には、エラー・メッセージが戻され、すべてのパラメーターの値は変更されません。
3. CRITMSGUSRパラメーターに指定されるユーザー・プロファイルはシステム上に現在存在していなければなりません。そうでない場合には、エラー・メッセージが戻され、値は変更されません。ユーザー・プロファイル処理(WRKUSRPRF)コマンドを使用してシステム上に存在するユーザー・プロファイルのリストを表示することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSDSBRPT	システム使用不可報告	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
SYSDSBCB	システム使用不可コールバック	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
ANZPRBAUTO	問題の自動分析	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
RPTPRBAUTO	問題の自動報告	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
RPTSRVPVD	問題の報告先	単一値: <u>*SAME</u> , *IBMSRV, *SELECT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワークID	通信名, *LCLNETID	

キーワード	記述	選択項目	注
SRVPVDCNN	サービス提供元接続	文字値、 *SAME	オプション
PTFINSTYP	PTF導入タイプ	*SAME , *DLYIPL, *DLYALL, *IMMONLY, *IMMDLY	オプション
SNDTAPKT	データ・パケットの送信	*SAME , *NO, *YES	オプション
CRITMSGUSR	ユーザーへの重要メッセージ	単一値: *SAME その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *SYSOPR, *SECOFR, *SECADM, *PGMR, *USER	オプション

トップ

システム使用不可報告 (SYSDSBRPT)

このシステムが使用不可になった時に外部サポートへの自動報告に使用される完全な電子接続番号を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

接続名 国際アクセス・コード、国別または地域コード、市外局番、および電話番号を含めて、ダイヤルするために必要な番号の文字列全体を指定してください。

トップ

システム使用不可コールバック (SYSDSBCB)

システムが使用不可になった時に外部サポートからこのシステムを呼び出すために使用される完全な電子接続番号を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

接続名 国際アクセス・コード、国別または地域コード、市外局番、および電話番号を含めて、ダイヤルするために必要な番号の文字列全体を指定してください。

トップ

問題の自動分析 (ANZPRBAUTO)

障害の発生時に問題分析ルーチンを自動的に実行するかどうかを指定します。問題分析ルーチンは問題を分離または訂正を試みるプログラムです。問題分析ルーチンが自動的に実行される場合には、障害の発生時にバックグラウンド・バッチ・ジョブとして実行されます。障害発生時に問題分析ルーチンが自動的に実行されない場合には、QSYSOPRメッセージ待ち行列から、あるいは問題処理(WRKPRB)コマンドの使用によって手操作で実行することができます。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 障害の発生時に問題分析ルーチンは自動的に実行されません。

***YES** 障害の発生時に問題分析ルーチンは自動的に実行されます。

トップ

問題の自動報告 (RPTPRBAUTO)

自動的に分析される問題点の通知をRPTSRVPVDパラメーターで指定されたサービス提供元に送るかどうかを指定します。

自動的な問題の通知が指定された場合には、障害の発生時にバックグラウンド・バッチ・ジョブとして実行されます。自動的な問題の通知が指定されなかった場合には、QSYSOPRメッセージ待ち行列から、あるいは問題処理(WRKPRB)コマンドの使用によって手操作でサービス提供元に問題が報告されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** サービス提供元はローカル・システムの問題の通知を自動的に受け取りません。

***YES** サービス提供元はローカル・システムの問題の通知を自動的に受け取ります。

[トップ](#)

問題の報告先 (RPTSRVPVD)

問題点の自動的な通知を受け取るためにサービス提供元の名前を指定します。

RPTPRBAUTO(*YES)が指定された時に、このパラメーターで指定されたシステムに問題点の通知は自動的に送られます。このシステムはサービス提供元のリストになければなりません。サービス提供元処理(WRKSRVPVD)コマンドを使用してユーザーのシステムに定義されたサービス提供元を表示してください。

***SAME**

値は変更されません。

***IBMSRV**

弊社保守サポートはサービス提供元です。

***SELECT**

サービス提供元のリストが表示され、ユーザーはそのリストから**制御点名**および**ネットワークID**を選択することができます。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

ローカル・システムの問題を通知するサービス提供元の制御点名の名前を指定してください。

使用できるネットワークIDの値は次の通りです。

***LCLNETID**

サービス提供元のネットワークIDがローカル・システムのものと同じです。

ネットワークID

ローカル・システムの問題を通知するサービス提供元のネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

サービス提供元接続 (SRVPVDCNN)

サービス提供元への完全な電子接続番号を指定します。

*SAME

値は変更されません。

接続名 国際アクセス・コード，国別または地域コード，市外局番，および電話番号を含めて，ダイヤルするために必要な番号の文字列全体を指定してください。

[トップ](#)

PTF導入タイプ (PTFINSTYP)

PTFを適用する時点を指定します。プログラム一時修正(PTF)メニュー（オプション7または8）のどちらかを使用してPTFを適用する時に，このパラメーターに指定された値が使用されます。

*SAME

値は変更されません。

*DLYIPL

すべてのPTFに遅延適用がマークされ，システムIPLが行なわれます。

*DLYALL

すべてのPTFに遅延適用がマークされ，システムIPLは行なわれません。

*IMMONLY

すべての即時PTFが適用されます。遅延PTFに遅延適用はマークされず，システムIPLは行なわれません。この値を累積PTFパッケージの適用には使用されないようお奨めします。使用中のプログラムに即時PTFを適用することは危険をともないます。PTFは，使用中でないプログラムにのみ適用しなければなりません。

*IMMDLY

すべての即時PTFが適用され，遅延PTFに遅延適用はマークされますが，システムIPLは行なわれません。この値を累積PTFパッケージの適用には使用されないようお奨めします。使用中のプログラムに即時PTFを適用することは危険をともないます。PTFは，使用中でないプログラムにのみ適用しなければなりません。

[トップ](#)

データ・パケットの送信 (SNDDTAPKT)

問題を検出したプログラムが収集した追加のデータを問題を報告する時にサービス提供元に送るかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** 問題を報告する時に，サービス提供元に最高2000バイトの追加のデータが送られます。

***NO** 問題を報告する時に，サービス提供元に追加のデータは送られません。

[トップ](#)

ユーザーへの重要メッセージ (CRITMSGUSR)

システムがDASDの障害のような重要な条件を検出した時に中断メッセージを受け取れるユーザー、またはユーザーのクラスを指定します。

このパラメーターに指定された値が優先順位の順序（最高から最低へ）で入力されます。システムが重要な条件を検出する事象では、最高の優先順位をもつ項目に指定されたユーザーまたはユーザー・クラスに問題の性質を示す中断メッセージの送信が試みられます。

項目にユーザー名が指定された時には、ユーザーがサインオンしている場合にだけ中断メッセージが送られます。項目にユーザー・クラスが指定された時には、現在サインオンしているそのクラスのすべてのユーザーに中断メッセージが送られます。

項目に指定されたユーザーが現在誰もサインオンしていないという事象では、次の項目が検査されます。中断メッセージを送るまで、あるいは最後の項目が検査されるまで、この処理は続行されます。

注: このパラメーターが問題に使用されるのは、ANZPRBAUTO(*YES)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSOPR**

重要なメッセージが送られる時に、ユーザー・クラス*SYSOPRのすべてのユーザーがメッセージを受け取ります。

***SECOFR**

重要なメッセージが送られる時に、ユーザー・クラス*SECOFRのすべてのユーザーがメッセージを受け取ります。

***SECADM**

重要なメッセージが送られる時に、ユーザー・クラス*SECADMのすべてのユーザーがメッセージを受け取ります。

***PGMR**

重要なメッセージが送られる時に、ユーザー・クラス*PGMRのすべてのユーザーがメッセージを受け取ります。

***USER**

重要なメッセージが送られる時に、ユーザー・クラス*USERのすべてのユーザーがメッセージを受け取ります。

ユーザー名

重要なメッセージが送られる時に、メッセージを受け取るユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

CHGSRVAの例

例1:自動問題分析を指定しない

```
CHGSRVA ANZPRBAUTO(*NO)
```

このコマンドは、分析問題自動的フラグを変更します。障害時点で問題分析はもはや実行されません。

例2:サービス・プロバイダーの変更

```
CHGSRVA RPTSRVPVD(PARIS *LCLNETID)
```

このコマンドは、サービス提供元の名前を変更します。新規サービス提供元はPARISの制御点名をもち、またローカル・システムと同じネットワーク識別コードをもっています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSRVA

*ESCAPEメッセージ

CPF8C66

サービス属性は変更されない。

CPF8C98

特定のサービス属性を変更する権限はない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・エージェントの変更 (CHGSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの変更(CHGSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、幾つかの機能域におけるサービス・エージェントの操作を変更できます。変更する機能は、**タイプ(TYPE)**パラメーターで指定します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*COVERAGE, *JOBLOG, *MASTERPWD, *PRBLOG, *PRBRPT, *PRDACTLOG, *SENDDATA, *THRESHOLD	必須, 定位置 1
BLKPRBRPT	報告のブロック	*YES, *NO	オプション
PERIOD	ブロック期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻	
	要素 2: 開始日付	日付	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻	
	要素 2: 終了日付	日付	
IGNPRB	無視	*YES, *NO	オプション
CRTJOBLOG	ジョブ・ログの作成	*YES, *NO	オプション
ANZIMMED	即時分析	*YES , *NO	オプション
ANZSTRDATE	分析開始日	日付, *NOCHG	オプション
ANZSTRTIME	分析開始時刻	時刻, *NOCHG	オプション
ENBCVG	使用可能範囲	*NO , *YES	オプション
CVGSTRTIME	範囲開始時刻	時刻, 080000	オプション
CVGENDTIME	範囲終了時刻	時刻, 200000	オプション
WEEKEND	コールオーバーの週末	*YES , *NO	オプション
DATA	データ	*CHG , *ALL	オプション
CURPWD	現行パスワード	文字値	オプション
NEWPWD	新しいパスワード	文字値	オプション
VFYPWD	確認パスワード	文字値	オプション
SUBTYPE	サブタイプ	*DEVICE, *SYSREFCDE	オプション
ACTION	処置	*ADD, *CHG, *RMV	オプション
DEVICE	装置	文字値	オプション
CATEGORY	カテゴリー	*DASD, *TAPE, *PROCESSOR, *OPTICAL, *FSIOP, *OTHER	オプション
SENSEFMT	センス・バイトの形式	0 , 4, 2, 8, C	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RPTERRCLS	エラー・クラス	値 (最大 27 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: クラス	*PERMANENT, *THRESHOLD, *TEMPORARY, *STATISTICAL, *INFORMATIONAL, *SOFTWARE, *RECOVERABLE, *BUFFERED, *MACHINECHECK, *VARYON, *VARYOFF, *RECOVERED, *IOPDUMP, *LICINTCODE, *RESET, *QUALIFIED, *PREDANALYSIS, *DATAPROTECTION, *HDWREDUNDANCY, *ADDITIONAL1, *ADDITIONAL2, *ADDITIONAL3, *ADDITIONAL4, *ADDITIONAL5, *ADDITIONAL6, *ADDITIONAL7, *ADDITIONAL8	
	要素 2: エラーの報告	*YES, *NO	
SYSREFCDE	システム参照コード	文字値, *RANGE	オプション
ADDACTIVE	活動状態	*YES, *NO	オプション
ADDTHRESH	しきい値	0-99, *NONE	オプション
ADDGROUP	グループ	文字値	オプション
ADDTEXT	テキスト	文字値, *BLANK	オプション
CHGACTIVE	活動状態	*SAME, *YES, *NO	オプション
CHGTHRESH	しきい値	0-99, *SAME, *NONE	オプション
CHGGROUP	グループ	文字値, *SAME	オプション
CHGTEXT	テキスト	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
RANGE	システム参照コードの範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始コード	文字値, *FIRST	
	要素 2: 終了コード	文字値, *LAST	

トップ

タイプ(TYPE)

行われる変更のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*PRBRPT

問題報告機能は、サービス・エージェントがプロダクト活動ログを分析する時に、プロダクト活動ログ項目が無視される時間枠を指定することによって変更できます。

このオプションは、DASDポンプの前、あるいはプロダクト活動ログ項目を生成する可能性のある他のシステム保守の前に使用するものです。たとえば、DASDポンプ操作の間に、エラーがプロダクト活動ログに書き込まれることがあります。DASDポンプ操作後に、サービス・エージェントがプロダクト活動ログを分析すると、サービス・エージェントはポンプ処理によって生成されたエラーを報告します。

こうしたエラーの分析および報告を防止するには、サービス・エージェントのモニター・ジョブの開始前、あるいはシステムを電源遮断して保守を行う前にこの機能を使用してください。

注: この機能を使用すると、不要な問題報告が避けられることがあります。

*MASTERPWD

サービス・エージェントのマスター・パスワードが変更されます。サービス・エージェントのパス

ワードは、信頼性を保持します。新しいパスワードは3から8文字の長さにすることができ、英数字をどのように組み合わせても使用できます。パスワードを変更するには、以下のことを行わなければなりません。

1. 現行パスワードを入力します。
2. 新しいパスワードを入力します。
3. 確認のためにもう一度新しいパスワードを入力します。
4. 実行キーを押して、新しいパスワードを保管します。

注: 初めて新しいパスワードが作成されると、そのパスワードは実際には追加のマスター・パスワードとなります。この追加のパスワードは後でこの手順で変更できますが、元のマスター・パスワードが効力をもったままです。

*PRBLOG

問題ログ分析は、既存の問題が分析されて報告されるのを防止するか、あるいは既存の問題を分析して報告できるようにするために変更されます。サービス・エージェント・モニター・ジョブが長時間終了して、もう一度開始する場合には、非活動期間で発生した問題ログ項目の報告をさけるためにこの機能を使用できます。

注: このコマンドは、サービス・エージェント・モニター・ジョブが実行中でない時に出してください。サービス・エージェント・モニター・ジョブが実行中である時にこのコマンドを出す場合には、GO SERVICEメイン・メニューのジョブ終了とジョブ開始のオプションを使用するか、ENDSRVAGT TYPE(*SBSJOB)とSTRSRVAGT TYPE(*SBSJOB) を使用して、これらのジョブをいったん終了して、再開始しなければなりません。

*JOBLOG

サービス・エージェント・ジョブのジョブ・ロギングが変更（オン/オフに設定）されます。

*PRDACTLOG

次のプロダクト活動ログ(PAL)分析サイクルへのパラメーターが変更されます。これらはPALレコードの分析が開始される日時および次の分析サイクルが開始される時刻です。

注: この機能の場合には、PALルーチンが活動状態でなければなりません。TYPE(*PRB)を指定したサービス・エージェント属性変更(CHGSRVAGTA)コマンドを使用し、「PAL分析ルーチンの実行」に*YESを指定して、PAL分析ルーチンを活動化してください。

*SNDDATA

送信される情報のタイプ（変更されたものまたはすべて）が変更されます。

*COVERAGE

勤務時間外範囲が変更されます。この機能により、サービス・エージェントは、**範囲終了時刻 (CVGENDTIME)**パラメーターに指定された時刻に問題の報告を停止し、**範囲開始時刻 (CVGSTRTIME)**パラメーターに指定された時刻に問題の報告を再開します。**コールオーバーの週末 (WEEKEND)**パラメーターが*NOに設定されている場合には、サービス・エージェントは、金曜日の範囲終了時刻に問題の報告を停止し、月曜日の範囲開始時刻に問題の報告を再開します。

*THRESHOLD

限界値テーブル内の装置またはシステム参照コードに対して変更アクションが実行されることを指定します。

トップ

報告のブロック(BLKPRBRPT)

サービス・エージェントが一定時間、プロダクト活動ログ項目を無視するかどうかを指定します。

注: TYPE(*PRBRPT)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

***YES** サービス・エージェントは、一定の日時範囲で作成されたプロダクト活動ログ項目を無視します。

***NO** サービス・エージェントは、BLKPRBRPT(*YES)を指定したこのコマンドを前に使用した時の日時範囲内に現在の時間間隔があっても、現在時刻の後で作成されたプロダクト活動ログ項目を無視しません。

[トップ](#)

ブロック期間(PERIOD)

サービス・エージェントがプロダクト活動ログ項目を無視している期間を指定します。

注: BLKPRBRPT(*YES)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

要素1: 開始時刻および日付

サービス・エージェントがプロダクト活動ログ項目を無視し始める時刻と日付を指定します。

時刻 開始時刻をジョブ時刻形式で指定してください。

日付 開始日をジョブ日付形式で指定してください。

要素2: 終了時刻および日付

サービス・エージェントがプロダクト活動ログ項目の無視を終了する時刻と日付を指定します。

時刻 終了時刻をジョブ時刻形式で指定してください。

日付 終了日をジョブ日付形式で指定してください。

[トップ](#)

無視(IGNPRB)

サービス・エージェント・モニター・ジョブが開始した時に、サービス・エージェントが古い問題ログ項目を無視するかどうかを指定します。

注: TYPE(*PRBLOG)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

***YES** サービス・エージェントは古い問題ログ項目を無視します。

***NO** サービス・エージェントは古い問題ログ項目を無視しません。

[トップ](#)

ジョブ・ログの作成(CRTJOBLOG)

QSRVAGTユーザー・プロファイルによって実行されたジョブにジョブ・ログが作成されるかどうかを指定します。

注: TYPE(*JOBLOG)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

- *NO ジョブが異常終了しない限り、サービス・エージェント・ジョブではジョブ・ログは作成されません。
- *YES QSRVAGTユーザー・プロファイルによって実行されたサービス・エージェント・ジョブのそれぞれにジョブ・ログが作成されます。

トップ

即時分析(ANZIMMED)

次の分析サイクルを即時に開始するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRDACTLOG)を指定した場合だけです。

- *YES サービス・エージェントのプロダクト活動ログ分析は即時に開始されます。
- *NO サービス・エージェントのプロダクト活動ログ分析は、スケジュールされた次の日時に自動始動されます。スケジュールされた日時は、提供された分析開始日(ANZSTRDATE)と分析開始時刻(ANZSTRTIME)パラメーターを使用するか、SERVICEメニューの「サービス・エージェントの設定の変更」オプションを使用して変更できます。

トップ

分析開始日(ANZSTRDATE)

分析が開始される日付を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRDACTLOG)を指定した場合だけです。

*NOCHG

前の分析サイクルの終了日が次のサイクルの開始日として使用されます。

日付 開始日をジョブ日付形式で指定してください。これは、分析が開始される日付が変更されることを示します。新しい時刻を指定する必要がある場合には、そのための追加フィールドが提供されています。この日時から現在の日時までのタイム・スタンプをもつすべてのプロダクト活動ログ・レコードが分析の対象となります。

新しい日付または時刻（あるいはその両方）を指定すると、媒体分析報告書およびプロダクト活動ログ月次要約上の既存のすべてのデータが除去されます。データは、次の分析サイクルに組み込まれたレコードから再作成されます。したがってこのパラメーターは、こうした累積報告書の開始日を変更するために使用できます。この報告書には、SERVICEメニューで「カスタマー報告書」メニュー・オプションを選択してアクセスできます。このパラメーターは、SERVICECEメニューで使用可能なプロダクト活動ログ報告書にも同じ効果があります。

トップ

分析開始時刻(ANZSTRTIME)

分析が開始される時刻を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRDACTLOG)を指定した場合だけです。

***NOCHG**

前の分析サイクルの終了時刻が次のサイクルの開始時刻として使用されます。

時刻 開始時刻をジョブ時刻形式で指定してください。これは、分析が開始される時刻が変更されることを示します。新しい日付を指定する必要がある場合には、そのための追加フィールドが提供されています。この日時から現在の日時までのタイム・スタンプをもつすべてのプロダクト活動ログ・レコードが分析の対象となります。

新しい時刻または日付（あるいはその両方）を指定すると、媒体分析報告書およびプロダクト活動ログ月次要約上の既存のすべてのデータが除去されます。データは、次の分析サイクルに組み込まれたレコードから再作成されます。したがってこのパラメーターは、こうした累積報告書の開始時刻を変更するために使用できます。この報告書には、SERVICEメニューで「カスタマー報告書」メニュー・オプションを選択してアクセスできます。このパラメーターは、SERVICECEメニューで使用可能なプロダクト活動ログ報告書にも同じ効果があります。

[トップ](#)

使用可能範囲(ENBCVG)

勤務時間外範囲機能が使用されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*COVERAGE)を指定した場合だけです。

***NO** 勤務時間外範囲機能は使用されません。

***YES** 勤務時間外範囲機能は使用されます。

[トップ](#)

範囲開始時刻(CVGSTRTIME)

範囲の始まりの時刻を指定します。

注: ENBCVG(*YES)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

時刻 開始時刻をジョブ時刻形式で指定してください。

[トップ](#)

範囲終了時刻(CVGENDTIME)

範囲の終わりの時刻を指定します。

注: ENBCVG(*YES)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

時刻 終了時刻をジョブ時刻形式で指定してください。

[トップ](#)

コールオーバーの週末(WEEKEND)

週末にサービス要求が行われるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、ENBCVG(*YES)を指定した場合だけです。

- *YES** 金曜日の範囲終了時刻(CVGENDTIME)で指定された時刻と月曜日の範囲開始時刻(CVGSTRTIME)パラメーターで指定された時刻の間でサービス要求が行われます。
- *NO** 金曜日のCVGENDTIMEで指定された時刻と月曜日のCVGSTRTIMEで指定された時刻の間でサービス要求が行われません。

トップ

データ(DATA)

IBMに送られる情報のタイプを示します。

注: TYPE(*SNDDATA)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

- *CHG** 変更された情報だけが送られます。
- *ALL** すべての情報が送られます。この値は次回にサービス・エージェントがIBMに情報を送る時に効力を持ち、その後で*CHGという省略時の値に戻されます。

トップ

現行パスワード(CURPWD)

マスター・パスワードの現在値を指定します。これは元のマスター・パスワードである場合も、すでに作成されている追加値である場合もあります。

注: TYPE(*MASTERPWD)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 マスター・パスワードを指定してください。

トップ

新しいパスワード(NEWPWD)

CEメニューへのサインオンに使用したい新しいパスワードを指定します。このパスワードは3から8文字の長さでなければならず、英数字をどのように組み合わせても使用できます。初めて新しいパスワードが作成されると、そのパスワードは実際には追加のマスター・パスワードとなります。この追加のパスワードは後でこの手順で変更できますが、元のマスター・パスワードが効力をもったままです。

ユーザー・プロファイルに使用したのと同じパスワードを使用しないようにお勧めします。

注: TYPE(*MASTERPWD)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 新しいパスワードを指定してください。

確認パスワード(VFYPWD)

正しく入力したことを確認するために、新しいパスワードをもう一度指定します。ここで入力したパスワードが前のフィールドに入力したパスワードと異なる場合には、エラー・メッセージが表示されて、パスワードは、変更が試みられる前のものと同じままで残ります。

注: TYPE(*MASTERPWD)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 確認のために新しいパスワードをもう一度指定してください。

トップ

サブタイプ(SUBTYPE)

限界値テーブルで変更される項目のタイプを指定します。

注: TYPE(*THRESHOLD)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

*DEVICE

装置項目が変更されます。

*SYSREFCDE

システム参照コード項目が変更されます。

トップ

処置(ACTION)

限界値テーブル項目に対して実行される変更アクションのタイプを指定します。

注: サブタイプ(SUBTYPE)パラメーターに値を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

*ADD 限界値テーブル項目が追加されます。

*CHG 限界値テーブル項目が変更されます。

*RMV 限界値テーブル項目が除去されます。

トップ

装置(DEVICE)

サービス・エージェント限界値テーブルで追加または変更される装置、あるいはシステム参照コードに関連していて、サービス・エージェント限界値テーブルで追加、変更、または除去される装置を指定します。

SERVICEメニューの「サービス・エージェント限界値テーブル」オプションを使用して、現行装置のリストを表示できます。

注: TYPE(*THRESHOLD)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 限界値テーブルまたはシステム参照コードに関連した4文字の装置タイプを指定してください。たとえば、2420テープ装置の場合には、DEVICE(2420)を指定できます。

[トップ](#)

カテゴリー(CATEGORY)

サービス・エージェントの限界値テーブルで追加または変更される装置のカテゴリーを指定します。

注: SUBTYPE(*DEVICE)を指定し、さらにACTION(*ADD)またはACTION(*CHG)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

*DASD

装置はDASD装置です。

*TAPE

装置はテープ装置です。

*PROCESSOR

装置はプロセッサです。

*OPTICAL

装置は光ディスク装置です。

*FSIOP

装置はFSIOP装置です。

*OTHER

装置は以上にリストされた以外の装置です。

[トップ](#)

センス・バイトの形式(SENSEFMT)

テープ装置のボリューム統計データの形式を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、CATEGORY(*TAPE)を指定した場合だけです。

- 0** 装置は取り外し可能媒体統計を報告しません。
- 4** 形式は1/4インチ・カートリッジ・テープ装置用のものです。
- 2** 形式は1/2インチ・リール・テープ装置用のものです。
- 8** 形式は8 MMテープ装置用のものです。
- C** 形式は1/2インチ・カートリッジ・テープ装置用のものです。

[トップ](#)

エラー・クラス(RPTERRCLS)

サービス・エージェントがこの装置に指定されたクラスのエラーを処理するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、SUBTYPE(*DEVICE)を指定し、さらにACTION(*ADD)またはACTION(*CHG)を指定した場合だけです。

要素1: クラス

エラーのクラスを指定します。

***PERMANENT**

永続エラー。

***THRESHOLD**

限界値エラー。

***TEMPORARY**

一時エラー。

***STATISTICAL**

統計エラー。

***INFORMATIONAL**

通知エラー。

***SOFTWARE**

ソフトウェア・エラー。

***RECOVERABLE**

回復可能エラー。

***BUFFERED**

バッファ化エラー。

***MACHINECHECK**

マシン・チェック・エラー。

***VARYON**

オン構成変更エラー。

***VARYOFF**

オフ構成変更エラー。

***RECOVERED**

回復されたエラー。

***IOPDUMP**

IOPダンプ・エラー。

***LICINTCODE**

ライセンス内部コード・エラー。

***RESET**

リセット・エラー。

***QUALIFIED**

限定されたエラー。

***PREDANALYSIS**

予測分析エラー。

***DATAPROTECTION**

データ保護エラー。

***HDWREDUNDANCY**

ハードウェア冗長エラー。

***ADDITIONAL1**

最初の追加のエラー。

***ADDITIONAL2**

2番目の追加のエラー。

***ADDITIONAL3**

3番目の追加のエラー。

***ADDITIONAL4**

4番目の追加のエラー。

***ADDITIONAL5**

5番目の追加のエラー。

***ADDITIONAL6**

6番目の追加のエラー。

***ADDITIONAL7**

7番目の追加のエラー。

***ADDITIONAL8**

8番目の追加のエラー。

要素2: エラーの報告

この装置でこのクラスのエラーが報告されるかどうかを指定します。

***YES** このクラスのエラーが報告されます。

***NO** このクラスのエラーが報告されません。

[トップ](#)

システム参照コード(SYSREFCDE)

限界値テーブルで追加, 変更, または除去されるシステム参照コードを指定します。

注: SUBTYPE(*SYSREFCDE)を指定した場合には, このパラメーターは必須です。

***RANGE**

変更されるシステム参照コードの範囲を指定してください。

注: *RANGEが有効なのは, ACTION(*CHG)を指定した場合だけです。*RANGEを指定する場合には, システム参照コードの範囲(RANGE)パラメーターに値を指定しなければなりません。

文字値 限界値テーブルで追加, 変更, または除去されるシステム参照コードを指定してください。

[トップ](#)

活動状態(ADDACTIVE)

サービス・エージェントがこの装置でこのシステム参照コードのエラーを報告するかどうかを指定します。

注: SUBTYPE(*SYSREFCDE)およびACTION(*ADD)を指定した場合には、このパラメーターは必須です。

***YES** サービス・エージェントは、この装置でこのシステム参照コードのエラーを報告します。

***NO** サービス・エージェントは、この装置でこのシステム参照コードのエラーを報告しません。

[トップ](#)

しきい値(ADDTHRESH)

サービス・エージェントがプロダクト活動ログからこのエラーを報告するために、7日間にこのシステム参照コードが発生する必要がある回数を指定します。

注: SUBTYPE(*SYSREFCDE)およびACTION(*ADD)を指定した場合には、このパラメーターは必須です。

***NONE**または**0**

このエラーは、プロダクト活動ログから報告されません。

1-99 限界値を指定してください。

[トップ](#)

グループ(ADDGROUP)

このシステム参照コードが属するグループを指定します。

注: SUBTYPE(*SYSREFCDE)およびACTION(*ADD)を指定した場合には、このパラメーターは必須です。

文字値 1文字のグループ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

テキスト(ADDTEXT)

システム参照コードを簡単に記述するテキストを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、SUBTYPE(*SYSREFCDE)およびACTION(*ADD)を指定した場合だけです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 システム参照コードを記述するための最大27文字のテキストを指定してください。

[トップ](#)

活動状態(CHGACTIVE)

サービス・エージェントがこの装置でこのシステム参照コードのエラーを報告するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、SUBTYPE(*SYSREFCDE)およびACTION(*CHG)を指定した場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** サービス・エージェントは、この装置でこのシステム参照コードのエラーを報告します。

***NO** サービス・エージェントは、この装置でこのシステム参照コードのエラーを報告しません。

[トップ](#)

しきい値(CHGTHRESH)

サービス・エージェントがプロダクト活動ログからこのエラーを報告するために、7日以内にこのシステム参照コードが発生する必要がある回数を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、SUBTYPE(*SYSREFCDE)およびACTION(*CHG)を指定した場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONEまたは0**

このエラーは、プロダクト活動ログから報告されません。

1-99 限界値を指定してください。

[トップ](#)

グループ(CHGGROUP)

このシステム参照コードが属するグループを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、SUBTYPE(*SYSREFCDE)およびACTION(*CHG)を指定した場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

文字値 1文字のグループ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

テキスト(CHGTEXT)

システム参照コードを簡単に記述するテキストを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、SUBTYPE(*SYSREFCDE)およびACTION(*CHG)を指定した場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 システム参照コードを記述するための最大27文字のテキストを指定してください。

[トップ](#)

システム参照コードの範囲(RANGE)

変更される始めと終わりのシステム参照コードを指定します。

注: SYSREFCDE(*RANGE)を指定した場合には、このパラメーターは必須です。

要素1: 開始コード

*FIRST

システム参照コードは、装置の最初のシステム参照コードから変更されていきます。

文字値 変更される最初のシステム参照コードを指定してください。

要素2: 終了コード

***LAST** システム参照コードは、装置の最後のシステム参照コードまで変更されます。

文字値 変更される最後のシステム参照コードを指定してください。

[トップ](#)

CHGSRVAGTの例

```
CHGSRVAGT TYPE(*THRESHOLD) SUBTYPE(*SYSREFCDE) ACTION(*ADD)
          DEVICE(9337) SYSREFCDE(3050)
          ADDACTIVE(*YES) ADDTHRESH(0)
          ADDTEXT('DISK DVC RET WRN RSP TO IOP')
```

このコマンドは、限界値テーブル中で限界値が0のシステム参照コード3050を9337装置に追加します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGSRVAGT

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・エージェント属性の変更 (CHGSRVAGTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェント属性の変更(CHGSRVAGTA)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントの属性を変更できます。変更される属性のセットは、**タイプ(TYPE)**パラメーターで指定します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*INV, *PRB	必須, 定位置 1
COLINF	情報収集	*SAME , *YES, *NO	オプション
CNNTYPE	接続タイプ	*SAME , *DIAL, *VPN	オプション
COLSCDTIME	収集時刻	時刻, *SAME , *CURRENT	オプション
SNDSCTIME	送信時刻	時刻, *SAME , *COLLECT	オプション
AUTORPT	自動報告	*SAME , *YES, *NO	オプション
PALANZ	プロダクト活動ログ分析	要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能にする	*SAME , *YES, *NO	
	要素 2: 開始時間	0-23, *SAME	
	要素 3: 間隔	*SAME , 1, 2, 3, 4, 6, 8, 12, 24	
	要素 4: メッセージの送信	*SAME , *YES, *NO	
RUNPTY	実行優先順位	1-99, *SAME	オプション
NOTIFYUSR	通知ユーザーID	単一値: *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 単純名	オプション
AUTOPTF	自動PTF	要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能にする	*SAME , *YES, *NO	
	要素 2: スケジュール曜日	*SAME , *SUN, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT	
	要素 3: PTFのダウンロード	*SAME , *YES, *NO, *CVRLTR	
AUTOTEST	自動テスト	要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能にする	*SAME , *YES, *NO	
	要素 2: スケジュール曜日	*SAME , *SUN, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT	
	要素 3: スケジュール時刻	時刻, *SAME	
	要素 4: 即時送信	*SAME , *YES, *NO	
LINECTL	回線制御	要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能にする	*SAME , *YES, *NO	
	要素 2: 構成オブジェクト	値 (最大 12 回の繰り返し): 要素リスト	
	要素 1: 回線記述	名前, *SAME	
	要素 2: 制御装置記述	名前, *SAME	
	要素 3: 装置記述	名前, *SAME	
RPTRMTPRB	リモート問題の報告	*SAME , *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ACTPWD	活動化パスワード	文字値	オプション
SRVPVDID	問題の報告先	要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名, *SAME, *IBMSRV	
	要素 2: ネットワークID	通信名, *SAME, *NETATR	

トップ

タイプ(TYPE)

行われる属性変更のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***INV** インベントリー収集および伝送の属性が変更されます。

***PRB** 問題報告機能の属性が変更されます。

トップ

情報収集(COLINF)

サービス・エージェントがシステム情報を収集してIBMに送るかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*INV)を指定した場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***YES** サービス・エージェントはシステム情報を収集してIBMに送ります。

***NO** サービス・エージェントはシステム情報を収集してIBMに送ることをしません。

トップ

接続タイプ(CNNTYPE)

システムまたは論理区画のIBMへの接続方式を指定します。

サービス構成プロファイルがすでに構成されている場合には、このパラメーターは無視されます。サービス構成メニューのオプションによって、既存のサービス構成プロファイルを変更できます。インベントリー収集メニューから、サービス構成のオプションを選択してください。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*INV)を指定した場合だけです。

*SAME

値は変更されません。*SAMEが指定された場合に、サービス構成プロファイルが存在しないと、AT&T GLOBAL NETWORK SERVICESを使用するダイヤルアップ接続が使用されます。

***DIAL** AT&T GLOBAL NETWORK SERVICESを使用するダイヤルアップ接続が使用されます。

***VPN** インターネットへの仮想プライベート・ネットワーク(VPN)接続が使用されます。

収集時刻(COLSCDTIME)

インベントリ収集が開始する時刻を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*INV)を指定した場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

インベントリ収集は現在時刻で開始されます。

時刻 インベントリ収集が開始する時刻を指定してください。時刻は、ジョブ時刻形式で指定してください。

トップ

送信時刻(SNDSCDTIME)

収集された情報がIBMに送られる時刻を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*INV)を指定した場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*COLLECT

情報は、収集されると、すぐに送られます。

時刻 収集された情報が送られる時刻を指定してください。時刻は、ジョブ時刻形式で指定してください。

トップ

自動報告(AUTORPT)

サービス要求がサービス・エージェントによって自動的に行われるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRB)を指定した場合だけです。

*SAME

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、*YESに設定されます。

***YES** サービス・エージェントが自動的にサービス要求を行います。

この機能の場合、問題ログ・フィルターを使用する必要があります。システム値QPRBFTRはQS9FILTERに変更されます。

***NO** サービス・エージェントは、自動的にサービス要求を行いません。通知ユーザーID (NOTIFYUSR) パラメーターに指定されたユーザーは、検出された問題についてのメッセージを受け取ります。

トップ

プロダクト活動ログ分析(PALANZ)

プロダクト活動ログ(PAL)分析ルーチンが実行されてから、エラーが報告されるかどうかを指定します。

プロダクト活動ログで見つかった問題が報告される前に、プロダクト活動ログ分析ルーチンが実行されます。この分析ルーチンはCPUに負担がかかることがあります。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRB)を指定した場合だけです。

要素1: 使用可能にする

*SAME

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、*YESに設定されます。

***YES** プロダクト活動ログ分析ルーチンが実行されます。プロダクト活動ログから問題が報告されます。

***NO** プロダクト活動ログ分析ルーチンが実行されません。プロダクト活動ログから問題が報告されません。報告書に使用可能な媒体分析データも、プロダクト活動ログ・データもありません。

要素2: 開始時間

プロダクト活動ログ(PAL)分析が実行される時点を決定するために使用される時刻を指定します。PAL分析は、基本時間として開始時間パラメーターを使用して指定された間隔で実行されます。PAL分析は、その時間の10分後に実行されます。

たとえば、00は、深夜零時を基本開始時間とすることを意味します。PAL分析間隔が4である場合には、00:10, 04:10, 08:10,および12:10に実行されます。

*SAME

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、00に設定されます。

0-23 PAL分析の実行時点を決定するための基本時間を指定してください。

要素3: 間隔

問題を報告するためにプロダクト活動ログを検査する頻度（時間数）を指定します。

*SAME

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、4に設定されます。

- 1 サービス・エージェントはプロダクト活動ログを1時間ごとに検査します。
- 2 サービス・エージェントはプロダクト活動ログを2時間ごとに検査します。
- 3 サービス・エージェントはプロダクト活動ログを3時間ごとに検査します。
- 4 サービス・エージェントはプロダクト活動ログを4時間ごとに検査します。
- 6 サービス・エージェントはプロダクト活動ログを6時間ごとに検査します。
- 8 サービス・エージェントはプロダクト活動ログを8時間ごとに検査します。
- 12 サービス・エージェントはプロダクト活動ログを12時間ごとに検査します。
- 24 サービス・エージェントはプロダクト活動ログを24時間ごとに検査します。

要素4: メッセージの送信

サービス・エージェントがプロダクト活動ログの分析を開始するたびに、サービス・エージェントのメッセージを受け取るユーザーのリストにメッセージを送るかどうかを指定します。

***SAME**

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、*YESに設定されます。

***YES** サービス・エージェントがプロダクト活動ログの分析サイクルを開始するたびに、通知ユーザーID (NOTIFYUSR)パラメーターに示されたユーザーがメッセージを受け取ります。またサービス・エージェントの監査ログにレコードが作成されます。

***NO** サービス・エージェントは、プロダクト活動ログの分析サイクルを開始するたびに、ユーザーにメッセージを送るということをしません。それでもサービス・エージェントの監査ログにはレコードが作成されます。

[トップ](#)

実行優先順位(RUNPTY)

サービス・エージェントの実行優先順位を指定します。実行優先順位は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの範囲の値で、ジョブがマシン資源を他のジョブと競合した場合にそのジョブの重要度を表します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRB)を指定した場合だけです。

***SAME**

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、51に設定されます。

1-99 サービス・エージェントの実行優先順位を指定してください。

[トップ](#)

通知ユーザーID(NOTIFYUSR)

サービス・エージェントの活動についてのメッセージを受け取るユーザー・プロファイルを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRB)を指定した場合だけです。

注: 指定するユーザー・プロファイルの他に、システム操作員(QSYSOPR)およびQSRVユーザー・プロファイルもメッセージを受け取ります。QSYSOPRおよびQSRVユーザー・プロファイルにメッセージが送られないようにすることはできません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

その他の値（最大5の反復）

単純名 サービス・エージェントのメッセージを受け取るユーザーのユーザー・プロファイル名を指定してください。

[トップ](#)

自動PTF(AUTOPTF)

IBMサービスが重要とみなすPTFがシステムまたは論理区画にあるかを判断するかどうかを判断するために、サービス・エージェントが電子的に(ECSを使用して)システムまたは論理区画を検査するかどうかを指定します。PTFが必要な場合には、オーダーされるPTF番号を含む修正要求項目が問題ログに作成されます。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRB)を指定した場合だけです。

要素1: 使用可能にする

*SAME

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、*YESに設定されます。

*YES 機能は使用可能になります。

*NO 機能は使用可能になりません。

要素2: スケジュール曜日

自動PTF処理が行われる曜日を指定するとともに、システムまたは論理区画に必要なものとして識別されたPTFがすべてシステムまたは論理区画にダウンロードされるかどうかを指定します。

システムまたは論理区画でグレゴリオ暦が使用されていない場合には、この値が正しく設定されない場合があります。

注: F4キーを押すと、選択に使用可能な曜日が表示されます。これにより、IBMサービス・システム資源が均等に配布され、IBMサービス・システムの高可用性が保たれます。

曜日は選択できますが、以上に述べたのと同じ理由で時刻は選択できません。この自動PTF機能は、実行のたびに同じ時刻で実行されるとは限りません。

*SAME

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、上記に説明したもののうち最初の曜日に設定されます。

*SUN 機能は日曜日に実行されます。

*MON 機能は月曜日に実行されます。

*TUE 機能は火曜日に実行されます。

*WED 機能は水曜日に実行されます。

*THU 機能は木曜日に実行されます。

*FRI 機能は金曜日に実行されます。

*SAT 機能は土曜日に実行されます。

要素3: PTFのダウンロード

*SAME

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、*YESに設定されます。

*YES 自動PTF処理中に必要であることが判明したPTFは、システムまたは論理区画にダウンロードされます。

注: ダウンロードされたPTFはロードまたは適用されるわけではありません。

***NO** 自動PTF処理中に必要であることが判明したPTFは、システムまたは論理区画にダウンロードされません。オーダーされるPTF番号を含む修正要求項目は、問題ログに存在することになります。

***CVRLTR**

自動PTF処理中に必要であることが判明したPTFのPTFカバー・レターは、システムまたは論理区画にダウンロードされます。オーダーされるPTF番号を含む修正要求項目は、問題ログに存在することになりますが、関連のカバー・レターだけがオーダーされることになります。

[トップ](#)

自動テスト(AUTOTEST)

自動操作テストが使用可能になるかどうかを指定し、使用可能になる場合に、自動操作テストの問題報告が実行される曜日と時刻を指定します。また自動操作テストの問題は即時に送ることができます。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRB)を指定した場合だけです。

要素1: 使用可能にする

***SAME**

値は、設定されていなければ変わりません。設定されていなければ、*YESに設定されます。

***YES** 自動操作テスト問題報告機能は使用可能になります。

***NO** 自動操作テスト問題報告機能は使用可能になりません。

要素2: スケジュール曜日

自動操作テストが行われる曜日を指定します。

システムまたは論理区画でグレゴリオ暦が使用されていない場合には、この値が正しく設定されない場合があります。

注: F4キーを押すと、選択に使用可能な曜日が表示されます。これにより、IBMサービス・システム資源が均等に配布され、IBMサービス・システムの高可用性が保たれます。

***SAME**

値は、設定されていなければ変わりません。設定されていなければ、上記に説明したもののうち最初の曜日に設定されます。

***SUN** 機能は日曜日に実行されます。

***MON** 機能は月曜日に実行されます。

***TUE** 機能は火曜日に実行されます。

***WED** 機能は水曜日に実行されます。

***THU** 機能は木曜日に実行されます。

***FRI** 機能は金曜日に実行されます。

***SAT** 機能は土曜日に実行されます。

要素3: スケジュール時刻

***SAME**

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、ランダムに選択された時刻に設定されます。

時刻 自動操作テストの問題報告が実行される時刻を指定してください。時刻は、ジョブ時刻形式で指定してください。

要素4: 即時送信

***SAME**

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、*NOに設定されます。

***NO** 自動操作テストの問題は即時に送られません。

***YES** 自動操作テストの問題は即時に送られます。

トップ

回線制御(LINECTL)

サービス・エージェントは、問題の報告にECS回線記述を使用します。ECS資源を共用するどの回線記述もオフに構成変更された状況でない場合には、サービス・エージェントは問題を報告できません。この機能を活動化すると、回線が接続保留状況になっている場合にだけ、リストされた回線記述、制御装置記述、および装置記述がオフに構成変更、されます。ECS回線が使用された後で、回線記述、制御装置記述、および装置記述が元通りオンに構成変更されます。このプログラムは、他の回線状況に対してはアクションを行いません。このため、ECS資源を共用する回線記述は、ECS資源を使用していない間はオフに構成変更された状況または接続保留状況になっていなければなりません。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRB)を指定した場合だけです。

要素1: 使用可能にする

***SAME**

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、*NOに設定されます。

***YES** 回線制御機能は使用可能になります。

***NO** 回線制御機能は使用可能になりません。

要素2: 構成オブジェクト

サービス・エージェントは、問題の報告にエレクトロニック支援(ECS)を使用します。同じ資源を共用するECS回線記述またはどの回線記述もオフに構成変更された状況でない場合には、サービス・エージェントは問題を報告できません。回線制御に指定された構成オブジェクトがTCP/IP構成オブジェクトでない場合、サービス・エージェントの回線制御が機能するのは、ユニバーサル・コネクションが構成されている時です。指定された各構成オブジェクトには回線記述名、制御装置記述名、および装置記述名という3つの要素があります。最大12個の構成オブジェクトを指定できます。

注: すべての構成オブジェクト項目について装置が制御装置に接続されていて、制御装置が回線に接続されていることを確認しなければなりません。

要素1: 回線記述

***SAME**

値は変更されません。

名前 ECS回線をオンに構成変更できない場合に、オフに構成変更される回線記述の名前を指定してください。

要素2: 制御装置記述

***SAME**

値は変更されません。

名前 ECS回線をオンに構成変更できない場合に、オフに構成変更される制御装置記述の名前を指定してください。

要素3: 装置記述

***SAME**

値は変更されません。

名前 ECS回線をオンに構成変更できない場合に、オフに構成変更される装置記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート問題の報告(RPTRMTPRB)

システムのネットワークまたは論理区画の代わりに、このシステムまたは論理区画で問題が報告されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRB)を指定した場合だけです。

***SAME**

値は、設定されていれば変わりません。設定されていなければ、*NOに設定されます。

***NO** このシステムまたは論理区画では、ネットワーク環境内のリモート・システムまたは論理区画から送られてきた問題は問題ログ中に報告されません。

***YES** このシステムまたは論理区画では、ネットワーク環境内のリモート・システムまたは論理区画から送られてきた問題は問題ログ中に報告されます。

注: このシステムまたは論理区画は、ホスト・システムまたはホスト論理区画でなければなりません。この機能を使用可能にするには、SYSTEM MANAGER FOR ISERIESを導入して、構成しておかなければなりません。

[トップ](#)

活動化パスワード(ACTPWD)

活動化パスワードの現在値を指定します。パスワードは、入力しても表示されません。

注: TYPE(*PRB)およびRPTRMTPRB(*YES)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 活動化パスワードを指定してください。

[トップ](#)

問題の報告先(SRVPVDID)

問題の自動通知を受け取るサービス提供元の名前を指定します。

AUTORPT(*YES)が指定されている時には、問題の通知は、このパラメーターによって指定されたシステムまたは論理区画に自動的に送られます。このシステムまたは論理区画はサービス提供元のリストになければなりません。サービス提供元処理(WRKS SRVPVD)コマンドを使用して、システムまたは論理区画に定義されたサービス提供元を表示してください。

注: TYPE(*PRB)およびRPTRMTPRB(*YES)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

要素1: 制御点名

*SAME

値は、設定されていなければ変わりません。設定されていなければ、*IBMSRVに設定されます。

*IBMSRV

IBMサービスがサービス提供元です。

通信名 ローカル・システムの問題を通知されるサービス提供元の制御点名を指定してください。

要素2: ネットワークID

*SAME

値は、設定されていなければ変わりません。設定されていなければ、*NETATRに設定されます。

*NETATR

サービス提供元はローカル・ネットワークにあります。

通信名 ローカル・システムの問題を通知されるサービス提供元のネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

CHGSRVAGTAの例

```
CHGSRVAGTA TYPE(*PRB)  AUTORPT(*YES)  NOTIFYUSR(SMITH)
              AUTOPTF(*YES *WED)  AUTOTEST(*YES *THU 000400)
```

このコマンドは、自動報告を*YESに設定し、サービス・エージェントによって送られたメッセージを受け取るものとしてユーザー・プロファイルSMITHを指定し、水曜日に自動PTF機能が実行されることを指定し、自動テストを木曜日の4:00 AMに実行するように設定して、問題属性を変更します。

エラー・メッセージ： CHGSRVAGTA

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

サービス構成の変更 (CHGSRVCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス構成の変更 (CHGSRVCFG) コマンドによって、既存のサービス構成を変更することができます。
サービス構成作成 (CRTSRVCFG) コマンドは、サービス構成を作成するために使用できます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成 (*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。通信構成の回線記述に対する変更 (*CHANGE) およびオブジェクト管理 (*OBJMGT) 権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CNNTYPE	接続タイプ	*PTP, *VPN	必須, 定位置 1
PTPTYPE	2地点間タイプ	*LOCAL, *REMOTE	オプション
VPNTYPE	仮想プライベート・ネットワーク・タイプ	*DIRECT, *OTHERISP, *MULTIHOP	オプション
SERVICE	サービス	*ECS, *SRVAGT	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	15-65535, *SAME, *NOMAX	オプション
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, *SAME, *SELECT	オプション
STATE	都道府県コード	文字値, *SAME, *SELECT	オプション
TELNR1	PRIMARY TELEPHONE NUMBER	文字値, *SAME, *SELECT	オプション
TELNR2	ALTERNATE TELEPHONE NUMBER	文字値, *SAME, *SELECT	オプション
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *CALC, *SELECT	オプション
MODEM	モデム情報名	文字値, *SAME, *RSRCNAME, *SELECT	オプション
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *SAME	オプション
ISPPRF	ISPプロファイル名	文字値, *SAME, *SELECT	オプション
CNNPNT	他への接続性	単一値: *SAME, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 接続ポイント	*YES	
	要素 2: インターフェース	値 (最大 12 回の繰り返し): 文字値, *ALL, *SELECT	

[トップ](#)

接続タイプ (CNNTYPE)

変更する接続のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***PTP** POINT-TO-POINT (ダイヤル) 接続が変更されます。

***VPN** 仮想プライベート・ネットワーク(VPN)接続が変更されます。

[トップ](#)

2地点間タイプ (PTPTYPE)

変更するPOINT-TO-POINT接続のタイプを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに***PTP**が指定されている場合だけです。CNNTYPE(***PTP**)が指定されている場合には、このパラメーターの現在の値が表示されます。この値をCHGSRVCFGコマンドで変更することはできません。

***LOCAL**

このサービス構成は、AT&TセキュアIPネットワークを使用して、このシステムまたは区画からIBMサービス・プロバイダーに接続します。

***REMOTE**

このサービス構成は、AT&TセキュアIPネットワークを使用し、別のシステムまたは区画から使用可能な接続を通してIBM サービス・プロバイダーに接続します。

[トップ](#)

仮想プライベート・ネットワーク・タイプ (VPNTYPE)

変更する仮想プライベート・ネットワーク(VPN)接続のタイプを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに***VPN**が指定されている場合だけです。CNNTYPE(***VPN**)が指定されている場合には、このパラメーターの現在の値が表示されます。この値をCHGSRVCFGコマンドで変更することはできません。

***DIRECT**

このサービス構成は、IBMサービス・プロバイダーに直接接続します。

***OTHERISP**

このサービス構成は、カスタマーが提供する別のインターネット・サービス・プロバイダー(ISP)を通してIBMサービス・プロバイダーに接続します。

***MULTIHOP**

このサービス構成は、カスタマー提供のVPNゲートウェイを通してIBMサービス・プロバイダーに接続します。

[トップ](#)

サービス (SERVICE)

変更するサービスを指定します。

注: このパラメーターは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定されている場合に必要です。

***ECS** ISERIESサービス・エージェントのエレクトロニック支援(ECS)およびハードウェア障害報告機能で使用されるサービス構成が変更されます。

***SRVAGT**

ISERIESサービス・エージェントのインベントリ収集および送信機能で使用されるサービス構成が変更されます。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

切断までシステムがこのサービスのユーザー・データ活動を待機する時間 (秒数) を指定します。このタイマーは、LCP (リンク制御プロトコル) およびNCP (ネットワーク制御プロトコル) の折衝が正常に完了すると開始され、ユーザー・データが送信または受信された時に再始動されます。LCPおよびNCPパケットによってこのタイマーが再始動されることはありません。CNNTYPEが*VPN,またはCNNTYPEが*PTPでPTPTYPEが*LOCALの場合には、このパラメーターは変更することができます。CNNTYPEが*PTPでPTPTYPEが*REMOTEの場合には、これは使用されません。

***SAME**

非活動タイマーの値は変更されません。

***NOMAX**

非活動タイマーは使用不能にされます。

15-65535

切断までシステムがこのサービスのユーザー・データ活動を待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

国別または地域ID (CNTRYID)

サービス構成に使用する国または地域の識別コードを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定され、**2地点間タイプ (PTPTYPE)**パラメーターに*LOCALが指定されている場合だけです。

***SAME**

識別コードは変更されません。

***SELECT**

国または地域の識別コードを選択できるパネルが表示されます。

注: この値が有効なのは、このコマンドが対話式ジョブで実行される場合だけです。

文字値 使用する国または地域の2文字の識別コードを指定してください。

[トップ](#)

都道府県コード (STATE)

サービス構成に使用する都道府県を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定され、**2地点間タイプ (PTPTYPE)**パラメーターに*LOCALが指定されている場合だけです。

*SAME

識別コードは変更されません。

*SELECT

都道府県の識別コードを選択できるパネルが表示されます。指定された国または地域に都道府県がない場合には、選択パネルは表示されません。

注: この値が有効なのは、このコマンドが対話式ジョブで実行される場合だけです。

文字値 使用する都道府県の2文字の識別コードを指定してください。

[トップ](#)

PRIMARY TELEPHONE NUMBER (TELNBR1)

AT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)ネットワークに接続するためにダイヤルする代表電話番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定され、**2地点間タイプ (PTPTYPE)**パラメーターに*LOCALが指定されている場合だけです。

*SAME

電話番号は変更されません。

*SELECT

使用する代表電話番号を選択できるパネルが表示されます。選択すると、番号を編集し、外線に接続するために必要な番号または文字を追加し、ダイヤル中は休止するなどが可能な追加のパネルが表示されます。

文字値 使用する代表電話番号を指定してください。48文字まで指定できます。

[トップ](#)

ALTERNATE TELEPHONE NUMBER (TELNBR2)

代表電話番号を使用しての接続が成功しない場合にAT&Tグローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)ネットワークに接続するためにダイヤルするバックアップ電話番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定され、**2地点間タイプ (PTPTYPE)**パラメーターに*LOCALが指定されている場合だけです。

*SAME

電話番号は変更されません。

*SELECT

使用する代替電話番号を選択できるパネルが表示されます。選択すると、番号を編集し、外線に接続するために必要な番号または文字を追加し、ダイヤル中は休止するなどが可能な追加のパネルが表示されます。

文字値 使用する代替電話番号を指定してください。48文字まで指定できます。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

このサービスで使用する通信ハードウェア資源を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定され、**2地点間タイプ (PTPTYPE)**パラメーターに*LOCALが指定されている場合だけです。

***SAME**

資源名は変更されません。

***CALC**

資源名は、次のようにして判別されます。

- 内蔵モデムによって使用される資源を探します。1つの内蔵モデムしか定義されていない場合には、その資源をこの接続に使用します。複数の内蔵モデムが定義されている場合には、*CALCは有効ではありません。
- 内蔵モデムを使用できない場合には、資源は計算できないので、明示的に定義する必要があります。

***SELECT**

使用する資源名を選択できるパネルが表示されます。

名前 使用する通信ハードウェア資源の名前を指定してください。

注: 資源名を容易に判別するには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

トップ

モデム情報名 (MODEM)

このPOINT-TO-POINTサービスに使用するモデム記述の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定され、**2地点間タイプ (PTPTYPE)**パラメーターに*LOCALが指定されている場合だけです。

***SAME**

モデム名は変更されません。

***RSRCNAME**

モデム名は、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに指定された値に基づいて判別されます。資源が内蔵モデムを使用するように定義されている場合には、適切な内部モデム記述が使用されます。資源に定義済みのモデム記述がない場合には、MODEM(*RSRCNAME)を使用することができないので、モデム記述を明示的に定義する必要があります。

***SELECT**

使用するモデム記述を選択できるパネルが表示されます。

文字値 使用するモデムの名前を指定してください。モデム名は大文字と小文字が区別されるので、システムに定義されたモデムと正確に一致する必要があることに注意してください。

リモート・システム (RMTSYS)

使用するリモート・システムのドメイン名（最大255文字）またはIPアドレスのいずれかを指定します。有効なIPバージョン4のアドレスが受け入れられます。

- **接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定され、**2地点間タイプ (PTPTYPE)**パラメーターに*REMOTEが指定されている場合には、リモート・システムはAT&Tダイヤル・ゲートウェイ・システムです。
- CNNTYPEパラメーターに*VPNが指定され、**仮想プライベート・ネットワーク・タイプ (VPNTYPE)**パラメーターに*MULTIHOPが指定されている場合には、リモート・システムはVPNゲートウェイ・システムです。

*SAME

リモート・システムは変更されません。

文字値 使用するリモート・システムのドメイン名またはインターネット・アドレスを指定してください。

トップ

ISPプロファイル名 (ISPPRF)

使用するインターネット・サービス・プロバイダー(ISP)プロファイルを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*VPNが指定され、**仮想プライベート・ネットワーク・タイプ (VPNTYPE)**パラメーターに*OTHERISPが指定されている場合だけです。

*SAME

ISPプロファイル名は変更されません。

*SELECT

使用するISPプロファイルを選択できるパネルが表示されます。

文字値 使用するISPプロファイルの名前を指定してください。

トップ

他への接続性 (CNNPNT)

このシステムまたは区画が、ネットワーク内の他のシステムまたは区画がIBMサービス・プロバイダーに接続するときを経由する接続ポイントとして使用されるかどうかを指定します。このシステムまたは区画が接続ポイントである場合には、このパラメーターによって、他のシステムまたは区画がIBMへの接続時に、このシステムまたは区画にアクセスするために使用するTCP/IPインターフェースを指定することができます。

注: このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNNTYPE)**パラメーターに*PTPが指定され、**2地点間タイプ (PTPTYPE)**パラメーターに*REMOTEが指定されている場合だけです。

単一値

***SAME**

接続ポイント情報は変更されません。

***NO** このシステムまたは区画は、接続ポイントとして機能しません。

要素1: 接続ポイント

***YES** このシステムまたは区画は、接続ポイントとして使用されます。

要素2: インターフェース

単一値

***ALL** *SELECTによって表示された選択リストのすべてのインターフェースは、他のシステムまたは区画がIBMへの接続時にこのシステムまたは区画にアクセスするために使用することができます。

***SELECT**

他のシステムまたは区画がIBMへの接続時にこのシステムまたは区画にアクセスするために使用できるインターフェースを選択できるパネルが表示されます。

その他の値 (最大12回の繰り返し)

文字値 他のシステムまたは区画がIBMへの接続時にこのシステムまたは区画にアクセスするために使用できるインターフェースを指定してください。

トップ

CHGSRVCFGの例

例1: POINT-TO-POINTサービス構成の変更

```
CHGSRVCFG CNNTYPE(*PTP) SERVICE(*SRVAGT) STATE(MN)
```

このコマンドは、状態コード'MN'を使用するためにISERIESサービス・エージェントのインベントリ収集および送信機能によって使用されるサービス構成を変更します。

例2: VPNサービス構成の変更

```
CHGSRVCFG CNNTYPE(*VPN) RMTSYS('9.5.87.12')
```

このコマンドは、リモート・システムのインターネット・アドレスとして9.5.87.12を使用する仮想プライベート・ネットワーク(VPN)接続を使用してIBMサービス・プロバイダーに接続するサービス構成を変更します。

トップ

エラー・メッセージ: CHGSRVCFG

***ESCAPE メッセージ**

CPFB040

RSRCNAME(*SELECT)を指定したら、MODEM(*RSRCNAME)を指定することはできません。

CPFB041

パラメーターSERVICEが必要です。

CPF8042

PTPTYPE(*REMOTE)またはVPNTYPE(*MULTIHOP)を指定した場合は、パラメーターRMTSYSが必要です。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP8290

TCP/IP POINT-TO-POINTモデム情報がない

CPF8813

項目が存在していない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8211

POINT-TO-POINTプロファイル&1が見つかりません。

[トップ](#)

サービス・プログラムの変更 (CHGSRVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プログラム変更(CHGSRVPGM)コマンドは、プログラムの再コンパイルの必要なしに、プログラムの属性を変更します。変更できる属性は、最適化属性、ユーザー・プロファイル属性、借用権限の使用属性、パフォーマンス収集属性、プロファイル・データ属性、およびサービス・プログラム・テキストです。また、指定される属性が現行の属性と同じ場合でも、ユーザーはサービス・プログラムの再作成を強制することができます。

制約事項:

- 変更しているサービス・プログラムのライブラリーに対して、使用(*USE)権限が必要です。
- 変更しているサービス・プログラムに対して*USEおよびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
- 最適化属性(OPTIMIZE),パフォーマンス収集属性(ENBPFRCOL),プロファイル・データ属性(PRFDTA),ライセンス内部コード・オプション(LICOPT),テラ・スペース記憶域使用可能(TERASPACE)を変更するか、あるいはFRCCRT(*YES)を指定することによりサービス・プログラム再作成を強制するには、ライブラリーに対する使用(*USE),削除(*DLT),および追加(*ADD)権限が必要です。
- 指示された変更が識別可能情報の除去のみでないかぎり、ライブラリーQSYS, QGDDM,およびQTEMPのサービス・プログラムを変更することはできません。
- プログラムをTERASPACE(*NO)に変更するには、プログラムおよびすべてのバインド済みモジュールのSTGMDDLが*SNGLVLでなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*USRLIBL</u>	
OPTIMIZE	サービス・プログラムの最適化	<u>*SAME</u> , *FULL, *BASIC, *NONE, 40, 30, 20, 10	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	<u>*SAME</u> , *USER, *OWNER	オプション
USEADPAUT	借用権限の使用	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
RMVOBS	識別情報の除去	単一値: <u>*SAME</u> , *ALL, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *CRTDTA, *DBGDTA, *BLKORD, *PCORD	オプション
ENBPFRCOL	パフォーマンス収集使用可能	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *PEP その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 収集レベル	<u>*FULL</u> , *ENTRYEXIT	
	要素 2: プロシージャ	<u>*ALLPRC</u> , *NONLEAF	

キーワード	記述	選択項目	注
PRFDTA	プロファイリング・データ	*SAME , *NOCOL, *COL, *CLR, *APYBLKORD, *APYPCORD, *APYALL	オプション
TERASPACE	テラスペース	*SAME , *YES, *NO	オプション
FRCCRT	強制再作成	*NO , *YES, *NOCRT	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション
LICOPT	LICオプション	文字値, *SAME , *NONE	オプション

トップ

サービス・プログラム (SRVPGM)

属性を変更しているサービス・プログラムを指定します。プログラム修飾子に総称名または*ALL を指定した時には、ライブラリー修飾子に*USRLIBLを指定できず、また省略時の値として使用することはできません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サービス・プログラム

***ALL** 指定したライブラリーで、ユーザーが特定の権限（たとえば、*USE権限）をもつすべてのサービス・プログラムが変更のために選択されます。

総称名 サービス・プログラムの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて複数のライブラリーが検索される場合には、その名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を指定できる場合に限り、複数のオブジェクトを変更することができます。

名前 その属性を変更しているサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

サービス・プログラムの最適化 (OPTIMIZE)

サービス・プログラムを最適化するかどうかを指定します。このパラメーターは、指定されたプログラムから冗長な指示を除去します。サービス・プログラムの現行の最適化レベルを変更すると、サービス・プログラムはシステムによって新しい最適化レベルで再作成されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONEまたは10**

サービス・プログラムは最適化されません。この最適化レベルでのILEサービス・プログラムのデバッグ時には、変数を表示して変更することができます。

***BASICまたは20**

コードに一部の最適化が実行されます。このレベルでのILEサービス・プログラムのデバッグ時には、変数を表示することはできますが変更することはできません。

***FULLまたは30**

レベル20で実行される最適化のほかにさらに最適化が実行されます。プログラムのデバッグ時には、変数を変更することはできませんが表示することはできます。ただし、デバッグ時に表示された変数の値は実際の値と異なっている場合があります。

40 このレベルには、最適化レベル30で実行されるすべての最適化が含まれます。さらに、呼び出しおよび命令の追跡を使用不能にする最適化も含まれます。したがって、この最適化レベルで作成されたモジュールの追跡は実行することができません。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このサービス・プログラムを実行中に実行される権限の検査に、このサービス・プログラムを実行しているユーザー(*USER)だけを含めるか、あるいはサービス・プログラムを実行しているユーザーと、サービス・プログラムの所有者(*OWNER)の両方を含めるかどうかを指定します。各オブジェクトに対してサービス・プログラムがもつ権限も含めて、サービス・プログラムで使用できるオブジェクトを制御するためには、サービス・プログラム・ユーザーのプロファイルが使用されるか、あるいはサービス・プログラム・ユーザーとサービス・プログラム所有者の両方のプロファイルが使用されます。

注: ユーザー・プロファイル属性を変更するには、サービス・プログラムの所有者であるか、そのサービス・プログラムを所有しているグループ・プロファイルのメンバーであるか、あるいはユーザー・プロファイル (またはグループ・プロファイルの1つ) に全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限がなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***USER**

サービス・プログラムは、サービス・プログラムのユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

***OWNER**

サービス・プログラムを処理する時には、サービス・プログラムの所有者とサービス・プログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。サービス・プログラムの処理中にオブジェクトを検出しアクセスするためには、両方のユーザー・プロファイルのオブジェクト権限の集合セットが使用されます。プログラムの実行のための権限には、所有ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は含まれません。

トップ

借用権限の使用 (USEADPAUT)

このサービス・プログラムを実行中に、権限のソースとして、前のプログラムからのサービス・プログラム借用権限を使用するか、あるいは呼び出しスタックのサービス・プログラムを使用するかを指定します。

注: 使用借用権限属性を変更するには、サービス・プログラムの所有者であるか、そのサービス・プログラムを所有しているグループ・プロファイルのメンバーであるか、あるいはユーザー・プロファイル（またはグループ・プロファイルの1つ）に全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限がなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** このサービス・プログラムを実行中に、前の反復レベルからのプログラムまたはサービス・プログラム借用権限を使用します。

***NO** このサービス・プログラムを実行中に、前の反復レベルからのプログラムまたはサービス・プログラム借用権限を使用しません。

[トップ](#)

識別情報の除去 (RMVOBS)

サービス・プログラムと関連した識別情報を除去するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***ALL** サービス・プログラムと関連したすべての識別情報が除去されます（可能な場合）。サービス・プログラムで正しく実行するようにするために、識別情報が必要な場合には、その情報は除去されません。

注:

- ブロック順序プロファイル・データがこのILEサービス・プログラムに前に適用された場合には、RMVOBSパラメーターで*ALLを指定することでも*BLKORDプログラム識別情報が除去されます。
- ILEサービス・プログラムがプロファイル・データを収集できる場合には、*ALLを指定することはできません。

***NONE**

サービス・プログラムと関連した識別情報はどれも除去されません。

***DBGDTA**

サービス・プログラムでデバッグできるようにするために必要なすべての識別情報が除去されます。

***CRTDTA**

識別可能作成データのすべてが除去されます。識別可能作成データは、サービス・プログラムが、CHGSRVPGMを使用して再作成するか、最適化レベルを変更するか、パフォーマンス収集属性を変更するか、あるいはプロファイル・データ属性を変更できるようにするために必要です。

注:

- ILEサービス・プログラムがプロファイル・データを収集できる場合には、*CRTDTAを指定することはできません。

- 作成データ（識別可能または識別不能）は、たとえば、CISC（複合命令セット・コンピューター）テクノロジーとRISC（縮小命令セット・コンピューター）テクノロジーの間など、サービス・プログラムを別のハードウェア・テクノロジーに変換するために必要です。
- リリースV5R1M0以降用に作成されたモジュール（モジュール作成時のTGTRLSパラメーター）のみから作成されたサービス・プログラムには、*ALL識別情報または*CRTDTA識別情報が除去されていたとしても識別不能作成データが含まれます。
- V3R6M0より前のリリースのサービス・プログラムが作成されて、現在RISC形式であるか、あるいはFRCCRT(*YES)が指定された場合には、*CRTDTAを除去すると、V3R6M0より前のリリースのサービス・プログラムがもう保管できないことになります。

*BLKORD

ブロック順序プロファイル・データがサービス・プログラムから除去されます。

*PRCORD

プロシージャー順序プロファイル・データがサービス・プログラムから除去されます。

トップ

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)

パフォーマンス・データの収集を使用可能にするかどうかを指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*PEPまたは*NONE

プログラム入り口プロシージャーの入り口および出口のパフォーマンス・データが収集されます。モジュールの内部プロシージャーには入り口または出口フックがなく、他のプロシージャーに対する呼び出しの周辺に事前または事後呼び出しフックはありません。

要素1: 収集レベル

***FULL** プロシージャーの入り口および出口のパフォーマンス・データが収集されます。また、パフォーマンス・データは外部プロシージャーの呼び出しの前および後にも収集されます。

*ENTRYEXIT

プロシージャーの入り口および出口のパフォーマンス・データが収集されます。

要素2: プロシージャー

*ALLPRC

すべてのプロシージャーのパフォーマンス・データが収集されます。これはすべてのプロシージャーの情報を取り込む際に役立ちます。

*NONLEAF

リーフ・プロシージャー以外のプロシージャーおよびPEPのパフォーマンス・データが収集されます。これは、ほとんどのルーチンの情報を取り込むのに役立ちますが、リーフ・プロシージャーの「リーフ性」の破壊が犠牲になることはありません。

トップ

プロファイリング・データ (PRFDTA)

サービス・プログラムにプログラム・プロファイル・データ属性を指定します。プログラム・プロファイルは、統計データ（プロファイル・データ）に基づいてプロシージャとプロシージャ内のコードを再順序づけする拡張最適化手法です。

***SAME**

値は変更されません。

***NOCOL**

プロファイル・データを収集できず、プロファイル・データが適用されません。

***COL** 適格モジュール用にプロファイル・データの収集ができます。

注: 適用されたプロファイル・データがサービス・プログラムにある場合には、*COLを指定すると適用されたすべてのプロファイル・データが除去されます。

***CLR** 前に収集されたすべてのプロファイル・データが破棄されます。サービス・プログラムは、プロファイル・データの収集が可能なままです。

***APYBLKORD**

ブロック順序プロファイル・データが、前にプロファイル・データの収集が可能だったこのサービス・プログラムにバインドされたすべてのモジュールに適用されます。プロファイル・データの収集はこれ以上できません。

***APYPRCORD**

ブロック順序およびプロシージャ順序プロファイル・データが適用されます。プロファイル・データの収集はこれ以上できません。

***APYALL**

ブロック順序およびプロシージャ順序プロファイル・データが適用されます。プロファイル・データの収集はこれ以上できません。

[トップ](#)

テラスペース (TERASPACE)

このパラメーターを使えば、サービス・プログラム内のすべてのバインド済みモジュールに対して、テラスペース記憶域使用可能化を指定した値に変更することができます。テラスペース記憶域使用可能可パラメーターを*SAME以外の値に変更すると、システムはサービス・プログラムを再作成します。

***SAME**

テラスペース記憶域使用可能化は変わりません。

***NO** 適格なバインド済みモジュールのテラスペース記憶域使用可能化は「いいえ」に変更されます。これを使用するためには、バインド済みモジュールが単一レベル記憶域モデルでなければなりません。

***YES** 適格なバインド済みモジュールのテラスペース記憶域使用可能化は「はい」に変更されます。これを使用するためには、バインド済みモジュールが少なくともV4R4M0以降でなければなりません。

[トップ](#)

強制再作成 (FRCCRT)

サービス・プログラムの再作成を強制するかどうかを指定します。

***NO** サービス・プログラムの最適化 (OPTIMIZE)パラメーター、借用権限の使用 (USEADPAUT)パラメーター、パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)パラメーター、プロファイリング・データ (PRFDTA)パラメーター、ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーター、LICオプション (LICOPT)パラメーター、またはテラスペース (TERASPACE)パラメーターが変更されていない限り、サービス・プログラム再作成は強制されません。このオプションによって、システムは変更が必要かどうかを判別できます。

***YES** OPTIMIZEパラメーター、USEADPAUTパラメーター、ENBPFCOLパラメーター、PRFDTAパラメーター、USRPRFパラメーター、LICOPTパラメーター、またはTERASPACEパラメーターが変更されているかどうかにかかわらず、サービス・プログラム再作成は強制されます。

***NOCRT**

サービス・プログラムの再作成は行われません。サービス・プログラムの再作成を暗黙に必要とするサービス・プログラム属性を変更しようとする、エラー・メッセージが出され、サービス・プログラムの属性は変更されません。次のパラメーターのいずれかを変更すると、サービス・プログラムが再作成される原因になることがあります。すなわち、OPTIMIZE、USEADPAUT、ENBPFCOL、PRFDTA、USRPRF、LICOPT、またはTERASPACEです。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

サービス・プログラムを簡単に記述するテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

LICオプション (LICOPT)

このパラメーターは、ライセンス内部コードの個々のコンパイル時オプションを選択できるようにするもので、コンパイラー・オプションの選択されたそれぞれのタイプの潜在的な利点と欠点を理解した経験のあるプログラマーを対象にしています。統合言語環境(ILE)サービス・プログラムのライセンス内部コード・オプションを*SAME以外の値に変更すると、システムは指定されたライセンス内部コード・オプションでILEサービス・プログラムを再作成します。注：LICOPTオプションについての詳細は、ILE概念 (SD88-5033)にあります。

***SAME**

サービス・プログラム・オブジェクトが再作成される場合には、既存のライセンス内部コード・コンパイル時オプションがオブジェクト再作成のための入力となります。そうでない場合には、ライセンス内部コードのコンパイル時オプションは変更されません。

文字値 1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定してください。統合言語

環境(ILE)サービス・プログラムのライセンス内部コード・オプションを変更すると、システムはバインドされたすべてのモジュールに指定されたライセンス内部コード・オプションでILEサービス・プログラムを再作成します。

*NONE

サービス・プログラムの再作成が強制され、バインドされたすべてのモジュールに対してライセンス内部コード・オプションが使用されるということはありません。

[トップ](#)

CHGSRVPGMの例

例1:サービス・プログラムの最適化

```
CHGSRVPGM SRVPGM(PROG1/SERVICE) OPTIMIZE(*FULL)
          USRPRF(*OWNER)
```

ライブラリーPROG1内のサービス・プログラムSERVICEが最適化され、処理する基になっているユーザー・プロファイルが、そのサービス・プログラム所有者のユーザー・プロファイルが含まれるように変更されます。USRPRF属性を変更できるのは、サービス・プログラムPROG1/SERVICEの所有者または機密保護担当者権限があるユーザーだけです。このサービス・プログラムが再作成されるのは、指定された属性が現行サービス・プログラムの属性とは異なっている場合だけです。

例2:サービス・プログラムのテキストの変更

```
CHGSRVPGM PGM(*USRLIBL/KNUTE)
          TEXT('サービス・プログラム記述')
```

このコマンドはサービス・プログラムKNUTEのテキストを変更します。サービス・プログラムを見つけるためには、ライブラリー・リストのユーザー部分が使用されます。

例3:複数サービス・プログラムの最適化

```
CHGSRVPGM SRVPGM(PROG1/ACE*) OPTIMIZE(40)
```

ライブラリーPROG1内の名前がACEで始まっているサービス・プログラムのすべてが、レベル40またはその最大最適化レベルに最適化されます。

例4:複数サービス・プログラムのテキストの変更

```
CHGSRVPGM SRVPGM(PROG2/*ALL) TEXT('一般テキスト')
```

このコマンドは、ライブラリーPROG2内のサービス・プログラムすべてのテキストを「一般テキスト」に変更します。

例5:プロファイル・データの収集の使用可能化

```
CHGSRVPGM SRVPGM(PROG1/PROFPGM) PRFDTA(*COL)
```

このコマンドは、ライブラリーPROG1内のサービス・プログラムPROFPGMのプロファイル・データを収集できるようにします。ライブラリーPROG1内のPROFPGMに、このコマンドが出される前に適用されたプロファイル・データがあった場合は、適用されたプロファイル・データのすべてが除去されます。

例6:プロファイル・データの適用

```
CHGSRVPGM SRVPGM(PROG1/PROFPGM) PRFDTA(*APYALL)
```

このコマンドはブロック順およびプロシージャー順プロファイル・データをライブラリーPROG1内のサービス・プログラムPROFPGMに適用します。プロファイル・データの収集は、サービス・プログラムPROFPGMライブラリーPROG1にはもう使用可能ではありません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSRVPGM

*ESCAPEメッセージ

CPF223C

&2のタイプ*&3の&1に対する借用権限の使用(USEADPAUT)属性の変更を認可されていない。

CPF223E

借用権限の使用属性の権限チェックが正常に実行されなかった。

CPF5CEB

ライブラリー&2にサービス・プログラム&1が見つからない。

CPF5CEC

&1が変更された。&2は変更が不要です。&3は変更されていません。

CPF5CED

サービス・プログラムが変更されなかった。

CPF5CEE

ライブラリーQSYSおよびQGDDM内のサービス・プログラムを変更することはできない。

CPF5CEF

*USRLIBLを総称名または*ALLと同時に使用することはできない。

CPF5CF0

ユーザー&3には&1の変更が認可されていない。

CPF5CF1

識別情報を除去することはできない。

CPF5CF2

ユーザー&3には&1の変更が認可されていない。

CPF5CF3

ライブラリー&2のサービス・プログラム&1は変更されない。

CPF5CF4

&2のサービス・プログラム&1は変更されない。

CPF5D04

ライブラリー&2のサービス・プログラム&1は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9818

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9819

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

セッション最大数の変更 (CHGSSNMAX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

最大セッション数変更(CHGSSNMAX)コマンドは、ローカル・ロケーションで1つのモードに対して可能なセッションの最大数を動的に変更するために使用します。

セッションの最大数に対する変更が行なわれると、その変更がリモート・システムに通知され、リモート・システムはより低い最大セッション数のために折衝することができます。リモート・システムは指定したローカル・セッション数に対して指定した値より高い最大数のセッションと折衝することはできません。結果としてのセッションの最大数の値が**現行の最大セッション数**となります。どのシステムも現行の最大セッション数より多くのセッションを活動化することはできません。

要求した最大セッション数がリモート・システムによって受け入れられるかまたは折衝された場合には、このコマンドで要求した値は**ローカル最大セッション数**として記憶されます。リモート・システムは、ローカル最大セッション数として記憶された値を超えて現行の最大セッション数を増やすことはできません。この新しいローカル・セッション数は、次に新しいセッション最大数の折衝が必要になった場合にのみ使用されます。ローカルとリモート・ロケーションの間で活動状態にすることのできるセッションの数を制御する現行のセッション最大数は、このコマンドが正しく実行されない場合は変更されません。セッションの最大数を変更する要求がリモート・システムによって拒否された場合には、コマンドは異常終了し、ローカル最大セッション数は次のように変更されます。セッションの最大数を増やそうとした場合には、指定した値に変更されます。セッションの最大数を減らそうとした場合には、変更されません。

このコマンドは、通常、リモート・ロケーションと同時に活動状態にすることのできるセッションの数を制御するために操作員が使用します。活動セッションの現在数がコマンドに指定した最大数より大きい場合には、活動セッションの数がコマンドに指定した値より小さくなるまで新しいセッションは作成されません。活動セッションの現在数が指定した最大数より小さい場合には、セッションを要求するジョブが開始されるまでセッションは作成されません。システムによって作成された値は、別の最大セッション数変更(CHGSSNMAX)コマンドまたはモード終了(ENDMOD)コマンドが同じモードに対して実行されるまで、あるいはリモート・ロケーションと関連したすべての装置記述がオフに構成変更されるまで有効となっています。

注:

1. このコマンドを使用して、リモート・システムとのセッション数を減らした場合は、最初に終了するセッションはローカルで制御されている使用可能セッションであり、その他の任意の使用可能セッションがそれに続きます。新規のセッション・カウントがまだ達していない場合には、他のセッションを使用しているジョブが完了するか、あるいは取り消されたときに、そのセッションが終了します。
2. CHGSSNMAXコマンドを使用して、リモート・システムとの間で作成できるセッション数を増やした場合は、ローカルで制御されているセッションが最初に使用可能になり（折衝値によって異なる）、次に他のセッションが使用可能になります。
3. CHGSSNMAXコマンドは、モード記述でMAXSSNパラメーターに指定された値を変更しません。値を永続的に変更するためには、モード記述変更(CHGMODD)コマンドを使用しなければなりません。装置を次にオンに構成変更する場合に、直前のCHGSSNMAXコマンドで指定されたMAXSSN 値の代わりにモード記述のMAXSSN値を使用してセッションの数を制限します。

このコマンドの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 1
MAXSSN	最大セッション	1-512	オプション
DEV	装置	名前, *LOC	オプション, 定位置 2
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション, 定位置 3
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC , *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC , *NETATR, *NONE	オプション

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

リモート・ロケーション名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

最大セッション (MAXSSN)

リモート・システムとの可能なセッションの数を指定します。この値は、指定したモード名に対する所要の最大セッション数を表わします。この値はモード記述に定義されたセッション数の限界より小さいか等しくなければなりません。この値はリモート・ロケーションによってより低い値に折衝されることがあります。したがって、ここで指定した値が必ずしも使用される値になるとは限りません。

このパラメーターの有効な値は1から512です。

[トップ](#)

装置 (DEV)

リモート・ロケーションで使用される装置記述の名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置をリモート・ロケーションと関連させることができる場合には、どの装置を使用するかをシステムが決めます。

装置名 リモート・ロケーションと関連した装置記述の名前を指定してください。

モード (MODE)

変更するモードの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

モード名（8文字のブランク文字からなる）が使用されます。

モード名

変更するモードを識別するために使用される8文字を超えない値を指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であって、使用することはできません。

トップ

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** ローカル・ロケーション名はシステムによって決められます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

リモート・ロケーションと関連したローカル・ロケーション名を指定してください。

トップ

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションと一緒に使用されるリモート・ネットワーク ID を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** システムがリモート・ネットワーク ID を選択します。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワーク識別コード(ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワーク ID を指定します。

[トップ](#)

CHGSSNMAXの例

```
CHGSSNMAX RMTLOCNAME(APPCRLOC) DEV(APPCDEV) MODE(APPC2) MAXSSN(3)
```

このコマンドは、モードAPPC2でリモート・ロケーションAPPCRLOCによって許可された最大セッション数を最大値3に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSSNMAX

*ESCAPE メッセージ

CPF598B

1 つまたは複数のモードで&1コマンドが正常に実行されなかった。

[トップ](#)

サーバー権限項目の変更 (CHGSVRAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サーバー確認項目変更(CHGSVRAUTE)コマンドは、ユーザー・プロファイルの既存の確認情報項目を変更します。この確認情報は、アプリケーション・サーバーへの接続中にアプリケーション・リクエスターが使用します。

制約事項: サーバー確認項目の変更対象のユーザー・プロファイルに対する機密保護管理者(*SECADM)特殊権限、オブジェクト管理(*OBJMGT)権限、および使用(*USE)権限が必要です。そうでなければ、このコマンドを実行するためにそのユーザー・プロファイルのもとでサインオンしなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *CURRENT	必須, 定位置 1
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 2
USRID	ユーザー識別コード	文字値, *SAME, *USRPRF	オプション
PASSWORD	ユーザー・パスワード	文字値, *SAME, *NONE	オプション

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

サーバー確認項目を変更するユーザー・プロファイルを指定します。

*CURRENT

現行ユーザー・プロファイルのサーバー確認項目が変更されます。

名前 サーバー確認項目を変更するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

項目を追加するアプリケーション・サーバーの名前を指定します。最大200文字を指定することができます。

注: 特別な意味をもつ値があるかどうかを判別するには、使用しているサーバーの文書を参照してください。たとえば、分散データ管理機能(DDM)サーバーを使用している場合には、サーバー名QDDMSERVERは特別な意味をもちます。

ユーザー識別コード (USRID)

アプリケーション・サーバーに要求が行なわれるユーザー名を指定します。

***SAME**

サーバーへの接続要求で指定されたユーザーIDを変更しません。

***USRPRF**

ユーザー・プロファイル・パラメーターに指定された名前は、サーバーへの接続要求で指定されたユーザーIDです。

'ユーザー名'

接続要求で使用するユーザーID。1000文字を超えないように指定してください。

トップ

ユーザー・パスワード (PWD)

クライアントがサーバーに接続しようとする時にユーザーの認証に使用されるパスワードを指定します。

注: サーバー機密保護データ保存(QRETSVRSEC)システム値が0 (データを保存しない) に設定されている場合には、項目内にパスワードは保管されません。

***SAME**

パスワードを変更しません。

***NONE**

パスワードは提供されません。

'パスワード'

ユーザーIDと関連付けられたパスワードを指定してください。696文字を超えないように指定してください。

トップ

CHGSVRAUTEの例

例1: 現行ユーザーの省略時リモート・ユーザーIDおよびパスワードの変更

```
CHGSVRAUTE  USRPRF(*CURRENT)  SERVER(*ANY)  USRID('JOHN')
              PASSWORD('XU53W4')
```

このコマンドは、特殊権限項目がない任意のサーバーへの接続要求の場合は、リモート・ユーザーID JOHNおよびパスワードXU53W4を使用することが指定されている、現在サインオンしているユーザーのためのサーバー確認項目を変更します。

例2: 別のユーザーの特定サーバー用の項目の変更

```
CHGSVRAUTE  USRPRF(SUSAN)  SERVER('MPLS_RDB')  USRID(*SAME)
              PASSWORD('S23084')
```

このコマンドは、MPLS_RDBという名前のサーバーに接続する場合に、ユーザーSUSANのパスワードを変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSVRAUTE

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2222

記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。

CPF225E

サーバー認証項目が存在していない。

CPF225F

すべての情報が記憶されたわけではない。

CPF226C

機能の実行が認可されていない。

[トップ](#)

システム・ディレクトリー属性の変更 (CHGSYSDIRA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・ディレクトリー属性変更(CHGSYSDIRA)コマンドは、ディレクトリーおよびディレクトリー・シャドウ・システムを対話式に処理する時に使用されるシステム・ディレクトリー属性を変更します。

これらのディレクトリー属性の値を埋める一時変更プログラムが提供されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
- 検索(SCHPGM),妥当性検査(VRFPGM),または提供元(SUPPGM)ユーザー出口プログラムを変更するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SCHTYPE	検索のタイプ	*EXACT, *GENERIC, <u>*SAME</u>	オプション, 位置 1
SCHPGM	検索プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: 検索プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
VRFPGM	妥当性検査プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SUPPGM	供給元プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 供給元プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RTYITV	再試行間隔	1-999, <u>*SAME</u>	オプション
RTYLMT	再試行限界	0-9, <u>*SAME</u>	オプション
ALWDSPNUI	ネットワーク・ユーザーIDの表示	*NO, *YES, <u>*SAME</u>	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSHD	リモート・ユーザーのシャドウ化	*NO, *YES, *SAME	オプション
RMVJOBLOG	シャドーイング・ジョブ・ログの除去	*NO, *YES, *SAME	オプション
ALWSCH	検索可能	*NO, *YES, *SAME	オプション
USRDFNFLD	ユーザー定義のフィールド	単一値: *SAME その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド名	文字値	
	要素 2: プロダクトID	文字値, *NONE	
	要素 3: 機能	*ADD, *RMV, *CHG, *KEEP	
	要素 4: フィールド・タイプ	*DATA, *MSFSRVLVL, *ADDRESS	
要素 5: 最大フィールド長	1-512		

トップ

検索のタイプ (SCHTYPE)

システム・ディレクトリーの検索画面に適用される検索のタイプを指定します。このパラメーターで指定された検索属性がシステムに適用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***EXACT**

システムは、システム・ディレクトリーの検索画面に指定された正確なテキスト・ストリングを検索します。この値には、総称値を検索するためにストリングの一部としてアスタリスク(*)を指定する機能が含まれます。

***GENERIC**

システムはシステム・ディレクトリーの検索画面で指定されたテキスト・ストリングを検索しますが、ストリングの終わりを自動総称検索にします。総称値を見つけるのにストリングの終わりにアスタリスク(*)を指定する必要はありません。

トップ

検索プログラム (SCHPGM)

システム・ディレクトリーの検索画面からカスタマイズされた検索を実行するユーザー出口プログラムを指定します。ユーザー出口プログラムの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「アプリケーション・プログラミング・インターフェース」情報を参照してください。

ユーザー出口プログラムを指定する場合には、このプログラムが存在しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー出口プログラムの検索は指定されません。

プログラムの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名

ユーザー検索を実行するユーザー出口プログラムの名前を指定してください。

トップ

妥当性検査プログラム (VRFPGM)

ローカルまたはシャドー処理されたディレクトリー項目、部門、およびロケーションの変更、追加、または削除操作を検査するユーザー出口プログラムを指定します。このプログラムは、ローカル・データ項目とディレクトリー・シャドー処理の両方から呼び出されます。ユーザー出口プログラムの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「アプリケーション・プログラミング・インターフェース」情報を参照してください。

変更は常にシステムによって検査されます。ユーザー出口プログラムが提供されていない場合には、それ以上の妥当性検査をシステムは要求しません。ユーザー出口プログラムが提供されている時には、ユーザー出口プログラムが呼び出され、システム妥当性検査が実行されます。

ユーザー出口プログラムを指定する場合には、このプログラムが存在しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

権限ユーザー出口プログラムは指定されません。

プログラムの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名

変更を検査するユーザー出口プログラムの名前を指定してください。

トップ

供給元プログラム (SUPPGM)

ディレクトリー項目、部門、およびロケーションに対する変更、追加、または削除操作を収集システムに対してシャドー化するかどうかを決定するユーザー出口プログラムを指定します。このプログラムはディレクトリー・シャドー処理から呼び出されます。ユーザー出口プログラムの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「アプリケーション・プログラミング・インターフェース」情報を参照してください。

ユーザー出口プログラムが提供されていない場合には、すべての変更が収集システムに送られます。ユーザー出口プログラムが提供されている時には、ユーザー出口プログラムが呼び出され、ディレクトリーのシャドー化が実行されます。

ユーザー出口プログラムを指定する場合には、このプログラムが存在しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

権限ユーザー出口プログラムは指定されません。

プログラムの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

プログラム名

ディレクトリーのシャドー化時に提供するレコードを決定するユーザー出口プログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

再試行間隔 (RTYITV)

正常に行なわれなかったシャドーの後で、シャドーを再試行するまでに待機する時間（分数）を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

再試行間隔

ディレクトリー・データのシャドーを再試行するまでに待機する間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は1 - 999です。

[トップ](#)

再試行限界 (RTYLMT)

操作が失敗であると見なされる前に行なわれるディレクトリー・シャドーの再試行回数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

再試行回数

ディレクトリー・シャドーの試みを打ち切る前に実行する再試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0-9です。

[トップ](#)

ネットワーク・ユーザーIDの表示 (ALWDSPNUI)

すべてのユーザーがすべてのネットワーク・ユーザーIDを表示または印刷できるようにするかどうかを指定します。システム管理担当者と自分自身のディレクトリー項目を表示または印刷するユーザーのネットワーク・ユーザーIDは、常に表示または印刷されます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** すべてのユーザーにすべてのネットワーク・ユーザーIDが表示されます。

***NO** ネットワーク・ユーザーIDはすべてのユーザーには表示されません。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

次のライブラリー値の1つによってメッセージ待ち行列の名前を修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

メッセージ待ち行列名

メッセージ送信先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ユーザーのシャドウ化 (RMTSHD)

ディレクトリーのシャドウ処理の実行中に、ローカル定義の追加、変更、または削除をリモート・ディレクトリー項目に提供するかどうかを指定します。ローカル定義リモート・ディレクトリー項目にローカル追加されますが、システム名はローカル・システム名のために異なります。変更はローカル・ディレクトリー項目およびシャドウ処理項目について常に提供されます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ディレクトリーのシャドウ処理の実行中に、すべてのディレクトリー項目に対する追加、変更、および削除が収集システムに提供されます。

***NO** ディレクトリーのシャドウ処理の実行中の、ローカル定義リモート・ディレクトリー項目の追加、変更、または削除は提供されません。ディレクトリーのシャドウ処理の実行中の、ローカル・ディレクトリー項目またはシャドウ項目の更新は収集システムに提供されます。

トップ

シャドーイング・ジョブ・ログの除去 (RMVJOBLOG)

前のディレクトリー・シャドウ収集時に作成されたジョブ・ログを特定の提供元システムから削除するかどうかを指定します。このパラメーターの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ローカル・システムがリモート・システムからデータを収集した時に作成されたジョブ・ログは、ローカル・システムがその提供元システムから再びデータを収集する時に、自動的に削除されます。

***NO** ローカル・システムがリモート・システムからデータを収集した時に作成されたジョブ・ログは、自動的に削除されません。

トップ

検索可能 (ALWSCH)

システム配布ディレクトリー上での検索を許可するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** システム配布ディレクトリーについての検索データは作成されません。

***YES** システム配布ディレクトリーについて検索データが作成されます。このオプションが指定されると、検索データが作成されている間は検索ファイルを共用することができません。検索データの作成が終わると、システム配布ディレクトリーに対するすべての更新によって検索データが更新されます。このオプションが正常に実行されたならば、システム配布ディレクトリーを検索することができます。

トップ

ユーザー定義フィールド(USRDFNFLD)

ユーザー定義のフィールド名、機能、フィールド・タイプ、およびユーザー定義のフィールドでの最大フィールド長を指定します。このパラメーターをもつシステムについて、システム配布ディレクトリーのユーザー定義フィールド名を追加、除去、または変更することができます。

指定されたユーザー定義フィールド名が提供元のシャドー処理システムに存在する場合には、次回にその提供元システムからデータを収集する時に、ユーザーのシステムでデータが自動的に初期設定されます。初期設定の後で、他のシャドー処理システムでそのフィールドに対して行なわれた変更は、そのフィールドがシャドー処理される時にユーザーのシステムで更新されます。ユーザーのシステムで定義されていないユーザー定義フィールドが他のシャドー処理システムにある場合には、データが失われないように、そのフィールドと値が他のシャドー処理システムに渡されます。

ユーザー定義フィールドが提供元システム上には存在しないが、ネットワーク上に存在する場合には、ユーザー定義フィールドは初期設定されません。システム上で初期設定されたユーザー定義フィールドを取り出すためには、提供元システムにこれを追加し、ここで提供元システムがユーザー定義フィールドによってシステムからのデータをシャドー処理します。

最大100個のユーザー定義フィールドを指定することができます。

***SAME**

システムで指定された通りのユーザー定義フィールドは変更されません。

指定できるユーザー定義フィールド名の値は次の通りです。

フィールド名

最大10桁のユーザー定義フィールド名を指定してください。

指定できるユーザー定義フィールド・プロダクトIDの値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義フィールド・プロダクトIDは指定されません。

プロダクトID

最大7桁のユーザー定義フィールド・プロダクトIDを指定してください。

指定できるユーザー定義フィールド機能の値は次の通りです。

***KEEP**

上で指定されたユーザー定義フィールドをシステムが保存しなければならないことを示します。

***ADD** 上で指定されたユーザー定義フィールドをシステムが追加しなければならないことを示します。

***RMV** 上で指定されたユーザー定義フィールドをシステムが除去しなければならないことを示します。このユーザー定義フィールドは、シャドー処理システムからではなくこのシステムから除去されません。

***CHG** 上で指定されたユーザー定義フィールドをシステムが変更しなければならないことを示します。最大長の値とフィールド・タイプを変更することができます。フィールド名とプロダクトIDは変更することができません。

指定できるフィールド・タイプの値は次の通りです。

フィールド・タイプは、機能***ADD**の場合は必須で、***CHG**の場合は任意指定です。機能***KEEP**および***RMV**の場合には無視されます。

*DATA

ユーザー定義フィールドにユーザーのデータが入っていることを示します。

*MSFSRVLVL

ユーザー定義フィールドにメール・サーバー・フレームワーク・サービス・レベル値が入っていることを示します。この値を指定することにより、このユーザー定義フィールドを使用して、メール・サーバー・フレームワークのサービス・レベルについての情報を記憶させることができます。さらに、このタイプのフィールドは、「メール・サービス・レベル」フィールドのディレクトリー項目の追加および変更パネルでF4キーを押すと、リストに表示されます。

*ADDRESS

ユーザー定義フィールドにアドレスが入っていることを示します。この値を指定することにより、これは、ユーザーがこのフィールドを優先アドレスとして使用できることを示します。さらに、このタイプのフィールドは、「優先アドレス」フィールドのディレクトリー項目の追加および変更パネルでF4キーを押すと、リストに表示されます。

指定できるユーザー定義フィールド最大長の値は次の通りです。

最大長 ユーザー定義フィールドの最大長として1-512バイトを指定してください。最大フィールド長は、機能*ADDの場合は必須で、*CHGの場合は任意指定です。機能*KEEPおよび*RMVの場合には無視されます。

[トップ](#)

CHGSYSDIRAの例

例1:検索タイプの総称への変更

```
CHGSYSDIRA SCHTYPE(*GENERIC)
```

このコマンドは、「システム・ディレクトリーの検索」画面で検索して、指定されたテキスト・ストリングで始まっている一致をすべて見つけます。たとえば、SMITHを検索するとSMITH, SMITHSONIAN,およびSMITHTONが見つかることがあります。

例2:シャドーイング再試行属性の変更

```
CHGSYSDIRA RTYITV(10) RTYLMT(3)
```

このコマンドは、シャドーイングが失敗した場合に使用可能なオプションを制御する属性を変更します。この例の場合は、障害と障害の間隔は10分で、最大3回の再試行が行なわれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSYSDIRA

*ESCAPEメッセージ

CPF898C

要求された操作を行なうためには*ALLOBJ特殊権限が必要である。

CPF90F7

システム・ディレクトリー属性が変更されなかった。

[トップ](#)

システム・ジョブの変更 (CHGSYSJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・ジョブの変更 (CHGSYSJOB)コマンドにより、ユーザーはシステム・ジョブの実行優先順位を変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、以下の権限が必要です。
 - ジョブ制御(*JOBCTL)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	名前	必須, キー, 定位置 1
RUNPTY	実行優先順位	0-99, *SAME, *IPL	オプション

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

属性を変更しているシステムの名前を指定します。このパラメーターのプロンプトが表示されているときに、F4を押すと、有効なジョブ名のリストが表示されます。

これは必須パラメーターです。

名前 システム・ジョブの名前を指定してください。

[トップ](#)

実行優先順位 (RUNPTY)

経路指定ステップの実行優先順位を指定します。マシン実行優先順位は、0（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの範囲の値または値であり、これはマシン資源の他の経路指定ステップと競合する時の経路指定ステップの重要度を表します。この値は経路指定ステップの相対的な（絶対的ではない）重要度を表します。たとえば、実行優先順位が25の経路指定ステップは実行優先順位が50の経路指定ステップの2倍重要ということではありません。

*SAME

値は変更されません。

***IPL** システム・ジョブが開始された時の実行優先順位を使用してください。

0-99 経路指定ステップが使用する実行優先順位を指定してください。

[トップ](#)

CHGSYSJOBの例

CHGSYSJOB JOB(QDBSRVXR2) RUNPTY(20)

このコマンドは、システム・ジョブQDBSRVXR2の実行優先順位を20に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSYSJOB

***ESCAPE** メッセージ

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF137A

システム・ジョブの変更は認可されていない。

CPF1379

ジョブ&1を変更することができない。

[トップ](#)

システム・ライブラリー・リスト変更 (CHGSYSLIBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム・ライブラリー・リスト変更(CHGSYSLIBL)コマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストのシステム部分を変更します。ライブラリーをライブラリー・リストのシステム部分の始めに追加するのか、それともライブラリー・リストのシステム部分から除去するのかを指定できます。

制約事項:

1. このコマンドは、除外(*EXCLUDE)共通権限をともなって出荷されます。機密保護担当者または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーだけに認可された状態で出荷されます。
2. QSYSライブラリーは、常にライブラリー・リストのシステム部分にあり、追加したり、除去したりはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ADD, *REMOVE	オプション, 定位置 2

トップ

ライブラリー (LIB)

現行スレッドのライブラリー・リストのシステム部分で追加または除去されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 現行スレッドのライブラリー・リストのシステム部分で追加または除去されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オプション (OPTION)

ライブラリーが現行スレッドのライブラリー・リストのシステム部分に追加されるのか、それともそこから除去されるのかを指定します。

***ADD** 指定されたライブラリーは、現行スレッドのライブラリー・リストのシステム部分の最初のライブラリーとして追加されます。

***REMOVE**

指定されたライブラリーは、現行スレッドのライブラリー・リストのシステム部分から除去されます。

[トップ](#)

CHGSYSLIBLの例

```
CHGSYSLIBL LIB(PAYROLL) OPTION(*ADD)
```

このコマンドは、ライブラリーPAYROLLをライブラリー・リストのシステム部分の先頭に追加します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGSYSLIBL

***ESCAPEメッセージ**

CPF2103

ライブラリー&1はすでにライブラリー・リストに存在している。

CPF2106

ライブラリー・リストが使用可能でない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2118

ライブラリー&1は追加されなかった。

CPF2128

ライブラリー&1はライブラリー・リストのシステム部分に入っていない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

システム値変更 (CHGSYSVAL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドは、指定されたシステム値の現在の値を変更します。システム値によっては、変更が即時に効力を持つこともあれば、新しいジョブが開始されるまで効力を持たないこともあれば、次の初期プログラム・ロード (IPL) まで効力を持たないこともあります。

次の3つの場合には、システム値をアポストロフィで囲まなければなりません。

- 指定するシステム値が組み込みブランクを持つ文字ストリングである場合。
- 文字タイプのシステム値に数値または特殊文字を指定した場合。
- システム値が日付または時刻値である場合。

QACGLVL, QCHRID, QCMNRCYLMT など、いくつかのシステム値をリストすることができます。リスト中の項目を区切るためには、ブランクを使用し、リスト全体をアポストロフィで囲んでください。リストに項目が1つしかない場合には、アポストロフィは必要ありません。

QCTLSBSD, QSTRUPPGM, QUPSMMSGQ, および QPWDVLDPGM など、いくつかのシステム値はオブジェクト名とライブラリー名を受け入れます。システム値を修飾する場合には、ブランクを使用してオブジェクト名とライブラリー名を区切り、値をアポストロフィで囲んでください。アポストロフィが必要なのは、オブジェクト名と一緒にライブラリー名または *LIBL を指定する場合だけです。

注:

- 時間の長さを測定する操作中に日付または時刻のシステム値が変更され、開始時刻よりも終了時刻の方が早くなった場合には、負の値が設定される可能性があります。
- システム値にオブジェクト名を指定した時には、名前の中の小文字の英字は、アポストロフィの中に入っても、常に大文字に変換されます。これは、システム値に指定したいオブジェクト名またはライブラリー名に小文字を使用してはならないことを意味するものではありません。

制約事項:

1. このコマンドを IBM により提供された通りに使用するには、QPGMR, QSYSOPR, または QSRV としてサインオンするか、あるいは全オブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限を持っていることが必要です。
2. *ALLOBJ 特殊権限を持っているユーザー・プロファイルにだけ、以下のシステム値の変更が許可されます。

QCENTURY
QDATE
QDATETIME
QDAY
QHOURL
QMINUTE
QMONTH
QSECOND

QTIME
QTIMZON
QYEAR

3. *ALLOBJおよび機密保護管理者(*SECADM)特殊権限を持っているユーザー・プロファイルにだけ、機密保護関連システム値の変更が許可されます。影響を受けるシステム値は次の通りです。

QACGLVL	QKBDBUF	QPWDPOSDIF	QSTGLOWACN
QALWUSRDMN	QLIBLCKLVL	QPWRQDDGT	QSTGLOWLMT
QALWOBJRST	QLMTDEVSSN	QPWRQDDIF	QSVRAUTITV
QATNPGM	QLMTSECOFR	QPWDLDPGM	QSYSLIBL
QAUTORMT	QMAXJOB	QPWRRSTIPL	QTHDRSCADJ
QAUTOSPRPT	QMAXSGNACN	QQRYDEGREE	QTHDRSCAFN
QAUTOVRT	QMAXSIGN	QQRYTIMLMT	QUSEADPAUT
QCRTAUT	QMLTTHDACN	QRETSVRSEC	QVFYOBJRST
QDEVNAMING	QPRCLTTSK	QRMTIPL	
QDSPSGNINF	QPRTDEV	QRMTSIGN	
QDYNPTYADJ	QPWDEXTPIV	QRMTSRVATR	
QDYNPTYSCD	QPWDLMTAJC	QSCANFS	
QFRCCVNRST	QPWDLMTCHR	QSANFSCCTL	
QINACTITV	QPWDLMTREP	QSECURITY	
QINACTMSGQ	QPWDLVL	QSHRMEMCTL	
QIPLDATTIM	QPWDMAXLEN	QSPCENV	
QIPLTYPE	QPWDMINLEN	QSPLFACN	

4. 監査(*AUDIT)特殊権限を持っているユーザー・プロファイルにだけ、以下のシステム値の変更が許可されます。

QAUDCTL
QAUDENDACN
QAUDFRCLVL
QAUDLVL
QAUDLVL2
QCRTOBJAUD

5. 入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限を持っているユーザー・プロファイルにだけ、以下のシステム値の変更が許可されます。

QCFGMSGQ

6. ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限を持っているユーザー・プロファイルにだけ、以下のシステム値の変更が許可されます。

QCMNARB
QPASTHRSVR

7. 特定の機密保護関連システム値を変更できないようにするために保守ツール開始(STRSST)を使用している場合は、これらの値が変更できない場合があります。影響を受けるシステム値は次の通りです。

QALWOBJRST	QDSCJOBITV	QPWDMAXLEN	QUSEADPAUT
QALWUSRDMN	QDSPSGNINF	QPWDMINLEN	QVFYOBJRST
QAUDCTL	QFRCCVNRST	QPWDPOSDIF	

QAUDENACN	QINACTMSGQ	QPWDRQDDGT
QAUDFRCLVL	QLMTSECOFR	QPWDRQDDIF
QAUDLVL	QLMTSECOFR	QPWDVLDPGM
QAUDLVL2	QMAXSGNACN	QRETSVRSEC
QAUTOCFG	QMAXSIGN	QRMTSIGN
QAUTORMT	QPWDEXPITV	QRMTSRVATR
QAUTOVRT	QPWDLMTAJC	QSCANFS
QCRTAUT	QPWDLMTCHR	QSCANFSCTL
QCRTOBJAUD	QPWDLMTREP	QSECURITY
QDEVRCYACN	QPWDLVL	QSHRMEMCTL

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSVAL	システム値	QACGLVL, QACTJOB, QADLACTJ, QADLSPLA, QADLTOTJ, QALWOBJRST, QALWUSRDMN, QASTLVL, QATNPGM, QAUDCTL, QAUDENDACN, QAUDFRCLVL, QAUDLVL, QAUDLVL2, QAUTOCFG, QAUTORMT, QAUTOSPRPT, QAUTOVRT, QBASACTLVL, QBASPOOL, QBOOKPATH, QCCSID, QCENTURY, QCFGMSGQ, QCHRID, QCHRIDCTL, QCMNARB, QCMNRCYLMT, QCNTYID, QCRTAUT, QCRTOBLAUD, QCTLSBSD, QCURSYM, QDATE, QDATETIME, QDATFMT, QDATSEP, QDAY, QDBFSTCCOL, QDBRCVYWT, QDECFMT, QDEVNAMING, QDEVRCYACN, QDSCJOBTV, QDSPSGNINF, QDYNPTYADJ, QDYNPTYSCD, QENDJOBMT, QFRCCVNRST, QHOUR, QHSTLOGSIZ, QIGCCDEFNT, QIGCFNTSIZ, QINACTITV, QINACTMSGQ, QIPLDATTIM, QIPLTYPE, QJOBMSGQFL, QJOBMSGQMX, QJOBMSGQSZ, QJOBMSGQTL, QJOBSPLA, QKDBBUF, QKBDTYPE, QLANGID, QLEAPADJ, QLIBLCKLVL, QLMTDEVSSN, QLMTSECOFR, QLOCALE, QMAXACTLVL, QMAXJOB, QMAXSGNACN, QMAXSIGN, QMAXSPLF, QMCHPOOL, QMINUTE, QMLTTHDACN, QMONTH, QPASTHRSVR, QPFRADJ, QPRBFTR, QPRBHLDTIV, QPRCMLTTSK, QPRTDEV, QPRTKEYFMT, QPRTTXT, QPWDEXPITV, QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDLVL, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDF, QPWDRQDDGT, QPWDRQDDIF, QPWDVLDPGM, QPWRDWNLMT, QPWRRSTIPL, QQRYDEGREE, QQRYTIMLMT, QRCLSPLSTG, QRETSVRSEC, QRMTIPL, QRMTSIGN, QRMTSRVATR, QSAVACCPH, QSCANFS, QSCANFCTL, QSCPFCONS, QSECOND, QSECURITY, QSETJOBATR, QSFWERRLOG, QSHRMEMCTL, QSPCENV, QSPLFACN, QSRTSEQ, QSRVDMP, QSTGLOWACN, QSTGLOWLMT, QSTRUPPGM, QSTSMMSG, QSVRAUTITV, QSYSLIBL, QTHDRSCADJ, QTHDRSCAFN, QTIMADJ, QTIME, QTIMSEP, QTIMZON, QTOTJOB, QTSEPOOL, QUPSDLYTIM, QUPSMMSGQ, QUSEADPAUT, QUSRLIBL, QUTCOFFSET, QVFOBJRST, QYEAR	必須, 定位置 1
VALUE	新しい値	無制限	必須, 定位置 2

トップ

システム値 (SYSVAL)

値が変更されるシステムの名前を指定します。ほとんどのシステム値を指定することができますが、このコマンドで値を変更できないシステム値もあります。

これは必須パラメーターです。

システム値は次の通りです。

QABNORMSW

前のシステム終了標識。この値は変更できません。

- '0'は直前の終了が正常であったことを意味します。
- '1'は直前の終了が異常であったことを意味します。

QACGLVL

会計レベル。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *NONE -会計情報はジャーナルに書き込まれません。
- *JOB -ジョブ資源の用途がジャーナルに書き込まれます。
- *PRINT -スプールおよび印刷装置ファイル資源の用途がジャーナルに書き込まれます。

QACTJOB

記憶域が割り振られる初期活動ジョブ数。このシステム値に対して行われた変更は、次回のIPL時に有効となります。

QADLACTJ

記憶域が割り振られる追加の活動ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QADLSPLA

スプリーング制御ブロックを拡張するための追加の記憶域 (バイト数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QADLTOTJ

記憶域が割り振られる追加の合計ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QALWOBJRST

オブジェクト復元の許可。このシステム値は、機密属性を持つオブジェクトが復元されるかどうかを決定します。詳細については、復元オプションを参照してください。

QALWUSRDMN

ライブラリーまたはディレクトリー中のユーザー・ドメイン・オブジェクトを許可します。このシステム値は、システム上のどのライブラリーにユーザー・ドメイン・ユーザー・オブジェクト *USRSPC (ユーザー空間), *USRIDX (ユーザー見出し), および*USRQ (ユーザー待ち行列)を入れることができるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QASTLVL

操作援助レベル。ASTLVL(*SYSVAL)が指定されたユーザー・プロファイルについてシステム画面の操作援助機能レベルを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *BASIC -操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。
- *INTERMED -システム・インターフェースが使用されます。
- *ADVANCED - EXPERTシステム・インターフェースが使用されます。

*ADVANCEDレベル・インターフェースがないコマンドの場合には、*INTERMEDが使用されます。

QATNPGM

アテンション・プログラム。このシステム値に対して*ASSISTが指定された場合には、ユーザーが

アテンション(ATTN)キーを押した時に、操作援助機能メイン・メニューが呼び出されます。この値は、ユーザー・プロファイルにATNPGM(*SYSVAL)が指定されたジョブでユーザーがATTNキーを押した時に呼び出されるプログラムの名前に変更することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QAUDCTL

監査制御。このシステム値は、オブジェクトおよびユーザー処置の監査用のオンおよびオフ・スイッチを含みます。このシステム値は、オブジェクト監査の変更 (CHGOBJAUD)およびユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD)コマンドとQAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値によって選択されたシステム上の監査を活動化します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONE -システム上で機密保護監査は行われません。これが配送値です。
- *AUDLVL - QAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値に指定された処置が機密保護ジャーナルに対して記録されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値によって指定された処置も監査されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値は、CHGUSRAUDコマンドのAUDLVLパラメーターを通じて設定されます。
- *OBJAUD - *NONE以外のオブジェクト監査値を持つオブジェクトに対する処置が監査されます。オブジェクトの監査値は、変更監査値 (CHGAUD)コマンドまたはCHGOBJAUDコマンドを通じて設定されます。
- *NOQTEMP - QTEMP中のほとんどのオブジェクトの監査は行われません。*NOQTEMPは、*OBJAUD または*AUDLVLのいずれかと一緒に指定しなければなりません。*NOQTEMP単独で指定することはできません。

QAUDENDACN

監査ジャーナル・エラー処置。このシステム値は、オペレーティング・システムが機密保護監査ジャーナルに監査ジャーナル項目を送ろうとした時にエラーが起こった場合にシステムが取る処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOTIFY -障害通知がQSYSOPRおよびQSYSMSGメッセージ待ち行列に送られ、その後で、監査を試みる原因となった処置が続行されます。
- *PWRDWN SYS - システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが出されます。システムはIPLの後で制限状態で立ち上げられ、監査(*AUDIT)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持つユーザーだけがそのシステムにサインオンすることができます。

QAUDFRCLVL

強制監査ジャーナル。このシステム値は、ジャーナル項目データが補助記憶域に強制的に書き込まれる前に機密保護監査ジャーナルに書き出すことができる監査ジャーナル項目の数を指定します。有効な値の範囲は1から100または特殊値*SYSです。この特殊値は、内部システム処理に基づいてジャーナル項目を補助記憶域に書き出す時点をシステムが決定することを意味します。*SYSを10進変数で戻すことはできないので、値*SYSが指定された時にコマンドは0を戻してきます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QAUDLVL

機密保護監査レベル。システム上の処置監査のレベルを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- *NONE -システム上で機密保護処置監査は行われません。これが配送値です。
- *AUDLVL2 - QAUDLVLとQAUDLVL2の両方のシステム値を使用して、監査する機密保護処置が決定されます。

注:

- QAUDLVL2システム値を排他的に使用したい場合には、QAUDLVLシステム値を*AUDLVL2に設定して、監査値をQAUDLVL2システム値に追加します。
- *AUDLVL2値とともに値をQAUDLVLシステム値に設定できる両方のシステム値を使用したい場合には、追加の値をQAUDLVL2処置に追加します。

- *AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- *CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- *DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- *JOBDTA -ジョブに影響する処置が監査されます。
- *NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- *NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- *NETCMN -ネットワークングおよび通信機能が監査されます。

注: *NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われます。*NETCMNは次の値で構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK
- *NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- *NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- *OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- *OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- *OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- *PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- *PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- *PRTDTA -印刷機能が監査されます。
- *SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- *SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- *SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- *SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- *SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- *SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- *SECSCKD -ソケット記述子が監査されます。
- *SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: *SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われます。*SECURITYは次の値で構成されています。

- *SECCFG
- *SECDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECSCKD
- *SECVFY
- *SECVLDL
- *SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- *SECVLDL -妥当性検査リストに対する変更が監査されます。
- *SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、OS/400機密保護解説書の資料を参照してください。
- *SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- *SYSMGT -システム管理タスクが監査されます。

QAUDLVL2

機密保護監査レベル拡張機能。このシステム値は、16更新されている場合超える監査値が必要であった場合に必要になります。*AUDLVL2を値の1つとしてQAUDLVLシステム値に指定すると、システムはQAUDLVL2システム値中の監査値も検索します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- *NONE -このシステム値には監査値が含まれません。これが配送値です。
- *AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- *CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- *DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- *JOBDTA -ジョブに影響する処置が監査されます。
- *NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- *NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- *NETCMN -ネットワークングおよび通信機能が監査されます。

注: *NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われず。*NETCMNは次の値で構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK
- *NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- *NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- *OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- *OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。

- *OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- *PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- *PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- *PRTDTA -印刷機能が監査されます。
- *SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- *SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- *SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- *SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- *SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- *SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- *SECCKD -ソケット記述子が監査されます。
- *SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: *SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われま
す。*SECURITYは次の値で構成されています。

- *SECCFG
- *SECDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECCKD
- *SECVFY
- *SECVLDL
- *SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- *SECVLDL -妥当性検査リストに対する変更が監査されます。
- *SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、OS/400機密保護解説書の資料を参照してください。
- *SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- *SYSTEMGT -システム管理タスクが監査されます。

QAUTOCFG

自動装置構成標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

QAUTOSPRPT

自動システム使用不可報告。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QAUTORMT

リモート制御装置の自動構成。QAUTORMTシステム値は、リモート制御装置の自動構成を制御します。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。

- 1は自動構成がオンであることを意味します。

QAUTOVRT

自動仮想装置構成標識。このシステム値を変更するためには、ユーザーは*ALLOBJ 権限を持っていなければなりません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、仮想装置の自動構成を参照してください。

QBASACTLVL

基本記憶域プールの活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QBASPOOL

基本記憶域プールの最小サイズ (キロバイト数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QBOOKPATH

ブックおよびブックシェルフの検索パス。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QCCSID

コード化文字セット識別コード。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QCENTURY

システム日付の世紀値。

- 0は、19XX年を示します。
- 1は、20XX年を示します。

QCFGMSGQ

通信メッセージを受け取るメッセージ待ち行列を指定するために使用される構成メッセージ待ち行列。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対する変更は、MSGQパラメーターをサポートする回線、制御装置、または装置記述がオンに構成変更されると有効となります。

QCHRID

データの表示または印刷に使用される省略時の図形文字セットおよびコード・ページ。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で作成、変更、または一時変更される表示装置ファイル、表示装置記述、および印刷装置ファイルに対して有効となります。

QCHRIDCTL

ジョブの文字識別コード制御。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対して行われるCCSID変換のタイプを制御します。この属性を使用する前に、*CHRIDCTL特殊値を、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループの作成、変更、または一時変更コマンドのCHRIDパラメーターに指定しなければなりません。

- 0は*DEVVD特殊値が使用されることを意味します。
- 1は*JOBCCSID特殊値が使用されることを意味します。

QCMNARB

通信アービター。制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数。この値に対する変更は次のIPL時に有効となります。出荷時の値は*CALCです。

- *CALC: オペレーティング・システムが通信アービター・ジョブの数を計算します。
- 0 - 99: 制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数を指定します。

注: このシステム値がゼロ(0)に設定された場合には、通信アービターとは対照的にこれらのジョブの作業はQSYSARBおよびQLUSシステム・ジョブで実行されます。

QCMNRCYLMT

システム通信回復の回復限界を提供します。回復を試みる回数と、指定された回復試行回数に達した場合に装置メッセージ待ち行列またはシステム操作員に対して照会メッセージを送る時点を指定します。このシステム値に対して行われた変更は現在オンに構成変更されている装置には影響しませんが、変更が行われた後で装置がオンに構成変更された時に有効になります。

QCNTYID

省略時の国別または地域識別コード。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QCONSOLE

システム・コンソール。この値を変更することはできません。

QCRTAUT

作成されたオブジェクトに対する共通認可。このシステム値を変更するためには、*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *CHANGEは、ユーザーがオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。変更権限によって、ユーザーは、所有者に限定された以外のオブジェクトまたはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。
- *ALLは、ユーザーがオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトの所有者を変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。全権限によりユーザーは、所有者にのみ許されるかあるいは権限リスト管理権によって制御されるオブジェクトを除くすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。オブジェクトが権限リストである場合には、ユーザーはユーザーの追加、変更、除去を行えず、また権限リストの所有権を移すことができません。
- *USEは、ユーザーがオブジェクトに対して、プログラムの実行やファイルの読み取りなど基本的な操作を実行できることを意味します。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。使用権限はオブジェクト操作権限および読み取り権限を提供します。
- *EXCLUDE権限はユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。

QCRTOBJAUD

オブジェクト作成監査。このシステム値は、ライブラリーに作成されたオブジェクトに対する省略時のオブジェクト監査値を指定します。オブジェクト監査値は、オブジェクトが使用または変更された時に監査ジャーナル項目がシステム監査ジャーナルに送られるかどうかを判別します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONE -このオブジェクトについては、監査項目は送られません。
- *USRPRF -ユーザーが現在監査中の場合に、監査項目が送られます。
- *CHANGE -このオブジェクトが変更された場合に、監査項目が送られます。
- *ALL -このオブジェクトが使用または変更された場合に、監査項目が送られます。

QCTLSBSD

制御サブシステム記述名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QCURSYM

通貨記号。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATE

システム日付。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATETIME

システム日付および時刻。これは、単一値としてのローカル・システム時間の日付および時刻です。この値を検索または変更することは、単一の操作でQDATEおよびQTIMEを検索または変更することと類似しています。フィールドの形式は、YYYYMMDDHHNNSSXXXXXXです。ここで、YYYYは年、MMは月、DDは日、HHは時間、NNは分、SSは秒、およびXXXXXXはマイクロ秒です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATFMT

日付形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QDATSEP

日付区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QDAY 日（システム日付の形式が年間通算日形式の場合には、年の始めから数えた日付）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDAYOFWEEK

曜日。

- *SUN -日曜日
- *MON -月曜日
- *TUE -火曜日
- *WED -水曜日
- *THU -木曜日
- *FRI -金曜日
- *SAT -土曜日

QDBFSTCCOL

データベース・ファイル統計の収集。システム・ジョブQDBFSTCCOLによってバックグラウンドで処理することのできる統計収集要求のタイプを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *ALLは、すべてのユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求と、データベース・マネージャーによって自動的に要求された統計収集が、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *SYSTEMは、自動的に要求されたデータベース統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *USERは、ユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *NONEは、データベース・ファイル統計収集要求をデータベース統計システム・ジョブによって処理することができないことを意味します。

QDBRCVYWT

データベース回復待機標識。このシステム値に対する変更は、不在時モードで次のIPL時に有効となります。

- 0は待機しないことを意味します。
- 1は待機することを意味します。

QDECFMT

10進数形式。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDEVNAMING

装置の命名規則を示します。このシステム値に対して行われた変更は、次回に装置が自動的に構成された時に有効となります。既存の構成済み装置名は変更されません。

- *NORMALはISERIES標準に従うことを意味します。
- *S36はS/36標準に従うことを意味します。
- *DEVADRは装置名が資源名から得られることを意味します。

QDEVRCYACN

ジョブの要求プログラム装置で入出力エラーが起こった時に取られる処置を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *DSCMSGはジョブを切り離します。再接続時に、ユーザーのアプリケーション・プログラムにエラー・メッセージが送られます。
- *DSCENDRQSはジョブを切り離します。再接続時に、取り消し要求機能を実行して、ジョブの制御を最後の要求レベルに戻す必要があります。
- *ENDJOBはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログが生成されます。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがジョブ・ログおよびQHSTログに送られます。
- *ENDJOBNO LISTはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログは生成されません。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがQHSTログに送られます。
- *MSGは入出力エラー・メッセージをアプリケーション・プログラムに送ります。アプリケーション・プログラムはエラー回復を自身で実行します。

QDSCJOBTV

ジョブを終了前に切断できる時間間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。対話式ジョブは、ある時間間隔中非活動状態であった（システム値QINACTIVおよびQINACTMSGQ）場合、あるいは対話式ジョブのワークステーションで入出力エラーが起こった（システム値QDEVRCYACN）場合に、ジョブの切り離し（DSCJOB）コマンドによって切断することができます。

- 5-1440がタイムアウトの間隔（分）です。
- *NONEはタイムアウト間隔がないことを意味します。

QDSPSGNINF

サインオン情報の表示を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はサインオン情報が表示されないことを意味します。
- 1はサインオン情報が表示されることを意味します。

QDYNPTYADJ

動的な優先度の調整。QDYNPTYADJシステム値は、対話式ジョブの優先順位を動的に調整して、ISERIESハードウェアでのバッチ・ジョブ処理を高パフォーマンスに維持するかどうかを制御します。この調整機能が有効なのは、対話式および非対話式の両方のスループットが評価され、動的優先順位スケジューリングが使用可能になっているシステムの場合だけです。このシステム値に対する変更は、次のIPLで有効になります。

- 0は動的優先順位調整がオフにされることを意味します。
- 1は動的優先順位調整がオンにされることを意味します。

QDYNPTYSCD

動的優先順位スケジューラー。QDYNPTYSCDシステム値は、動的優先順位スケジューラーのアルゴリズムを制御します。この値によって動的優先順位スケジューリングを使用することができます。

- 0は、動的優先順位スケジューラーがオフであることを意味します。
- 1は、動的優先順位スケジューラーがオンであることを意味します。

QENDJOBLMT

ジョブの即時終了時にアプリケーションをクリーンアップするための最小時間（秒数）。

終了中のジョブに非同期信号SIGTERMのための信号処理プロシージャがあった場合には、そのジョブについて、SIGTERM信号が生成されます。SIGTERM信号のための信号処理プロシージャに制御が与えられた場合には、そのプロシージャでは、該当する処置を取って、部分的に更新されたアプリケーション・データなどの望ましくない結果を避けることができます。SIGTERM信号ハンドラーが指定された時間内に完了しない場合には、システムはジョブを終了します。

ジョブが制御された方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はコマンドに指定されます。ジョブが即時の方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はこのシステム値によって指定されます。この時間制限は、1つのジョブの終了時、サブシステム内のすべてのジョブの終了時、またはすべてのサブシステムのすべてのジョブの終了時に使用されます。2分後に、システム操作員は、OPTION(*IMMED)を指定したジョブ終了 (ENDJOB)コマンドを使用して、QENDJOBLMT値を一時変更し、それぞれの個別ジョブを即時に終了することができます。

この値に対する変更は即時に効力を持ちます。すでに終了中のジョブは影響されません。

QFRCCVNRST

復元時の強制変換。このシステム値を使用すると、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびモジュール・オブジェクトを復元時に変換するかしないかを指定することができます。また、一部のオブジェクトを復元しないようにすることもできます。復元コマンドにおける省略時の値はこのシステム値の値を使用します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

- 0 何も変換しません。何も復元しないようにしません。
- 1 妥当性検査エラーのあるオブジェクトが変換されます。
- 2 オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要とするオブジェクトおよび妥当性検査エラーのあるオブジェクトが変換されます。
- 3 改ざんされていると考えられるオブジェクト、妥当性検査エラーのあるオブジェクト、およびオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要とするオブジェクトが変換されます。
- 4 変換に十分な作成データが入っていて有効なデジタル署名がないオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは変換されずに復元されます。注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要としても変換できないオブジェクト（署名ありおよび未署名）は、復元されません。
- 5 十分な作成データが入っているオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは復元されます。注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。

6 有効なデジタル署名のないすべてのオブジェクトが変換されます。注: 有効なデジタル署名があり、さらに妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。

7 すべてのオブジェクトが変換されます。

オブジェクトを変換すると、そのデジタル署名は廃棄されます。変換されたオブジェクトの状態は、ユーザーの状態に設定されます。変換後は、オブジェクトは望ましい妥当性検査値を持ち、改ざんの懸念はありません。

QHOUR

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QHSTLOGSIZ

活動記録ログの各バージョンの最大レコード数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIGC システムの2バイト文字セット(DBCS)バージョンが導入されているかどうかを示します。この値は変更できません。

- 0はDBCSバージョンが導入されていないことを意味します。
- 1はDBCSバージョンが導入されていることを意味します。

QIGCCDEFNT

2バイト文字セット(DBCS)コード化フォント名。SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)に変換する時、およびデータにシフトイン/シフトアウト(SI/SO)文字が入っているAFPDSスプール・ファイルを作成する時に使用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIGCFNTSIZ

2バイト・コード化フォントのポイント・サイズ。システム値QIGCCDEFNT 2バイト・コード化フォントと一緒に使用されます。これが使用されるのは、SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷装置データ・ストリーム(AFPDS)に変形する時およびデータ内にシフト・イン/シフト・アウト(SI/SO)文字が存在しているAFPDSスプール・ファイルを作成する時です。

- *NONEは、ポイント・サイズがシステムに識別されないことを意味します。ポイント・サイズは、システムが使用する印刷装置のタイプを基にして選択します。
- 000.1 - 999.9は2バイト・コード化フォントのポイント・サイズを意味します。

QINACTIV

非活動状態の対話式ジョブのタイムアウト間隔(分数)。時間間隔が*NONE以外の値に変更されると、新しい非活動間隔が設定され、ジョブ非活動の分析が再び開始されます。システム値QINACTMSGQは、システムが行う処置を判別します。ターゲット・パススルーおよびTELNETセッションの制約の説明については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「実行管理機能」情報を参照してください。

現在リモート・システムにサインオンされているローカル・ジョブは除外されます。たとえば、ワークステーションがシステムAに直接接続していて、システムAがQINACTIVに設定されているとします。システムBにサインオンするために表示装置パススルーまたはTELNETが使用された場合には、このワークステーションはシステムAで設定されたQINACTIV値による影響を受けません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEはシステムが非活動について検査を行わないことを意味します。
- 5 - 300は処置が取られる前にジョブが非活動状態でいられる時間（分数）を意味します。

QINACTMSGQ

QINACTMSGQが*NONEでない場合にジョブ非活動メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名。このメッセージ待ち行列が存在していなければ、システム値をメッセージ待ち行列名に変更することはできません。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *ENDJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが終了することを意味します。
- *DSCJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが切り離されることを意味します。
- メッセージ待ち行列名は、ジョブが非活動状態になった時にメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前です。

QIPLDATTIM

自動IPLの日付および時刻。このシステム値は各区画で個々に設定できます。2次区画で自動IPLを実行する必要がある時に1次区画の電源が遮断されている場合には、このIPLは実行されません。1次区画でIPLが実行される時、2次区画はそのIPLの日付および時刻が過ぎている場合は、IPLが実行されます。IPL処置が保留状態で構成されている場合には、2次区画のIPLは実行されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIPLDATTIMは次の2つの部分から成る単一のシステム値です。

- 日付： システムでIPLが自動的に行われる日付。この日付は日付区切り記号を含まないQDATFMT形式で指定されます。
- 時刻： システムでIPLが自動的に行われる時刻。この時刻は時刻区切り記号なしで指定されます。

特定の日付と時刻の代わりに、時限自動IPLがスケジュールされないことを示す*NONEを指定することができます。

次の例は、IPLの日付と時刻を1993年9月10日(QDATFMTはMDY)の午前9時00分に変更する方法を示しています。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QIPLDATTIM) VALUE('091093 090000')
```

QIPLSTS

初期プログラム・ロード(IPL)状況標識。

- 0はコントロール・パネルのIPLを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。
- 2はIPLの再始動を意味します。
- 3はIPLの時刻を意味します。
- 4はリモートIPLを意味します。

QIPLTYPE

実行するIPLのタイプを示します。このシステム値に対して行われた変更は次回の手動IPL時に有効となります。

- 0は不在時IPLを意味します。
- 1は専用保守ツールによる在席IPLを意味します。
- 2はデバッグ・モードのコンソールによる在席IPLを意味します。

注: これを使用するとワークステーション制御装置上の他の装置が使用できなくなるので、問題分析のためだけにこれを使用するようにしてください。

QJOBMSGQFL

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時の処置。このシステム値は、いっぱいになったと見なされた時のジョブ・メッセージ待ち行列の取り扱い方を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *NOWRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列の折り返しません。
- *WRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列は折り返します。

QJOBMSGQMX

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ。このシステム値は、メッセージ待ち行列がいっぱいであると見なされる前にこの待ち行列をどれくらい大きさ（メガバイト数）にすることができるかどうかを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QJOBMSGQSZ

ジョブ・メッセージ待ち行列の初期サイズ（Kバイト(KB)数）。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QJOBMSGQTL

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ(KB数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QJOBSPLA

ジョブのスプリング制御ブロックの初期サイズ（バイト数）。このシステム値に対して行われた変更は、OS/400ライセンス・プログラムの導入時にコールド・スタートが要求された時に有効となります。

QKBDDBUF

キーボード・バッファ。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがログオンした時に有効となります。

- *NOは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- *TYPEAHEADは、先行入力機能をオンにするが、ATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- *YESは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオンにすることを意味します。

QKBDTYPE

キーボード言語文字セット。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QLANGID

省略時の言語識別コード。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QLEAPADJ

うるう年の調整。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QLIBLCKLVL

ライブラリーのロック・レベル。ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーがそのジョブによってロックされるかどうかを指定します。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。

- 0は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをロックしないことを意味します。
- 1は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをそのジョブによってロックすることを意味します。

QLOCALE

ロケール・パス名。このシステム値は、システムのロケールを設定するために使用されます。ロケール・パス名は、ロケールを指定するパス名でなければなりません。ロケールは、1セットの言語規則を識別するために使用される言語、地域、およびコード・セットの組み合わせからなります。システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドのロケール・パス名に使用できるパスワードの最大長は1,024バイトです。

このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*NONEです。

- *NONEは、QLOCALEシステム値にロケール・パス名がないことを意味します。
- *Cは、Cロケールが使用されることを意味します。
- *POSIXは、POSIXロケールが使用されることを意味します。

QLMTDEVSSN

並行装置セッションを制限します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は複数装置でサインオンできることを意味します。
- 1は複数装置でサインオンできないことを意味します。

QLMTSECOFR

機密保護担当者の装置アクセスの制限。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、*ALLOBJまたは*SERVICE特殊権限を持つユーザーが任意のワークステーションにサインオンできることを意味します。
- 1は、*ALLOBJまたは*SERVICE特殊権限を持つユーザーがワークステーションに対して明示的な権限を持っていないなければならないことを意味します。

QMAXACTLVL

システムの最大活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMAXJOB

システム上のジョブの許容最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMAXSGNACN

QMAXSIGNシステム値によって課された限界に達した時のシステムの応答。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

- 1は装置が使用禁止になることを意味します。
- 2はユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。
- 3は装置とユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。

QMAXSIGN

サインオンを試みて失敗しても許される最大回数。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

QMAXSPLF

ジョブ当たりで作成できるスプール・ファイルの最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。この値をより低い数に変更すると、スプール・ファイルは削除されなくなります。ジョブのスプーリングに対するこのシステム値の影響については、PRINTER DEVICE PROGRAMMINGを参照してください。

QMCHPOOL

マシン記憶域プール・サイズ(KB数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMINUTE

分。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMLTTHDACN

マルチスレッド・ジョブの処置。この値は、スレッド・セーフでない可能性がある機能がマルチスレッド・ジョブで呼び出される時に行う処置を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は2です。

- 1はスレッド・セーフでない機能をメッセージの送信なしに実行することを意味します。
- 2はスレッド・セーフでない機能を通知メッセージを送信して実行することを意味します。
- 3はスレッド・セーフでない機能を実行しないことを意味します。

QMODEL

システムのモデル番号。システムのモデルを識別するために使用される数字または英字です。QMODELを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラム中で4桁の値を表示または検索することができます。システム・モデル番号のシステム値は、システム上の各区画で同じです。

QMONTH

月（年間通算日の場合には使用されない）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QPASTHRSVR

パススルー・サーバー。表示装置パススルー、ISERIES ACCESS FOR WINDOWSワークステーション機能(WSF)、およびプログラム式ワークステーション上の他の5250エミュレーション・プログラムを処理するために使用可能なターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*CALCです。

QPFRADJ

初期プログラム・ロード(IPL)時のパフォーマンスの調整および動的なパフォーマンスの調整。動的なパフォーマンスの調整は、共用記憶域プールの記憶域プール・サイズおよび活動レベルを自動的に変更します。私用記憶域プールは変更されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はパフォーマンス調整なしを意味します。動的なパフォーマンスの調整は開始されません。
- 1はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。動的なパフォーマンスの調整は開始されません。
- 2はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。動的なパフォーマンスの調整が開始されます。QPFRADJが2から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されません。
- 3は動的なパフォーマンスの調整が開始されることを意味します。QPFRADJが3から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されます。

ライブラリーQSYSにジャーナルQPRADJを作成すれば、記憶域プール・サイズ、活動レベル、およびシステムのパフォーマンス・レベルに対して行われた変更は、その変更が行われた時に、動的調整プログラムによって記録されます（プール、プール・サイズ、および活動レベルごとの障害率）。

QPRBFTR

問題フィルター名。問題の処理時にサービス活動マネージャーが使用するフィルター・オブジェクトの名前を指定します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

QPRBHLDTV

問題ログ項目保留間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QPRCFEAT

プロセッサ機構。これはシステムのプロセッサ機構コード・レベルです。QPRCFEATを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラムで4桁の値を表示または検索することはできません。プロセッサ機構システム値は、システムの各区画で同じです。

QPRCMLTTSK

プロセッサ・マルチタスキング。システム上のハードウェアがプロセッサ・マルチタスキングをサポートしている場合は、このシステム値によってマルチタスキング機能をオン、オフ、またはシステム制御にすることができます。使用可能になっていると、タスク・データの複数セットが各CPU内に常駐することになります。作業負荷によっては、キャッシングによってパフォーマンスが向上する場合があります。**注:**オペレーティング・システムは、ハードウェアがマルチタスキングをサポートしていないことを検出すると、次回のIPL時にシステム値を0に設定します。この値をシステム制御に設定すると、システムがマルチタスキングを管理することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次回のIPL時に有効となります。

- 0はプロセッサ・マルチタスキングがオフにされることを意味します。
- 1はプロセッサ・マルチタスキングがオンラインにされることを意味します。
- 2はプロセッサ・マルチタスキングがシステム制御下にあることを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QPRTDEV

省略時の印刷装置記述。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QPRTKEYFMT

ページ印刷キー形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *PRTHDRは、ページ印刷キーが押された時に見出し情報が印刷されることを意味します。
- *PRTBDRは、ページ印刷キーが押された時に枠情報が印刷されることを意味します。
- *PRTALLは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されることを意味します。
- *NONEは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されないことを意味します。

QPRTTXT

リストおよび分離ページの最下部に印刷できる最大30文字のテキスト。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QPWDEXPITV

パスワードが有効な日数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOMAXは、パスワードを使用できる日数に制限がないことを意味します。
- 1-366はパスワードが終了する前の日数を意味します。

QPWDLMTAJC

パスワードに隣接した番号を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は隣接番号が使用できることを意味します。
- 1は隣接番号が使用できないことを意味します。

QPWDLMTCHR

パスワードにある種の文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- *NONEは制限文字がないことを意味します。
- 制限文字は、10文字以内の制限文字をアポストロフィで囲んで指定できることを意味します。有効な文字は次の通りです。A-Z, 0-9, および特殊文字#, ¥, @, または下線(_)

注：システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、このシステム値は無視されます。

QPWDLMTREP

パスワードに繰り返し文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は文字を複数回使用できることを意味します。
- 1は文字を複数回使用できないことを意味します。

QPWDLVL

パスワード・レベルを指定します。

このシステム値の変更には、慎重な考慮が必要です。システムがネットワーク内の他のシステムに接続される場合には、すべてのシステムが、有効になるパスワード規則で実行できなければなりません。

このシステム値を変更する前に、追加の考慮事項について、資料OS/400機密保護解説書を参照してください。

このシステム値に対する変更は、次のIPL時に有効になります。

- 0は、1 - 10文字のパスワードが使用できることを意味します。
- 1は、1 - 10文字のパスワードが使用できることを意味します。WINDOWS 95/98/MEクライアント用のISERIES NETSERVERパスワードは、このプロダクトを使用不能にしようとしているシステムから除去されることとなります。
- 2は、1 - 128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。
- 3は、1 - 128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。WINDOWS 95/98/MEクライアント用のISERIES NETSERVERパスワードは、このプロダクトを使用不能にしようとしているシステムから除去されることとなります。

QPWDMAXLEN

パスワードの最大文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1 - 128は、1 - 128の値をパスワードの最大文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1 - 10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1 - 128です。

QPWDMINLEN

パスワードの最小文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1 - 128は、1 - 128の値をパスワードの最小文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1 - 10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1 - 128です。

QPWDPOSDF

新しいパスワードの中の文字の位置を制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できることを意味します。
- 1は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できないことを意味します。

QPWDRQDDGT

新しいパスワードに数字が必要。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は番号が必要でないことを意味します。
- 1は1つまたは複数の数字が必要であることを意味します。

QPWDRQDDIF

パスワードが前のパスワードと異なるものでなければならないかどうかを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0はパスワードは前に使用されたものと同じでもよいことを意味します。
- 1はパスワードが前の32個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 2はパスワードが前の24個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 3はパスワードが前の18個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 4はパスワードが前の12個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 5はパスワードが前の10個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 6はパスワードが前の8個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 7はパスワードが前の6個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。
- 8はパスワードが前の4個のパスワードと異なるものでなければならないことを意味します。

QPWDVLDPGM

パスワード妥当性検査プログラムは、ユーザー作成プログラムがパスワードに対して追加の妥当性検査を行う機能を提供します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。詳細については、パスワード妥当性検査プログラムを参照してください。

QPWRDWNLMT

PWRDWNLSYS *IMMEDに許される最大時間（秒数）。これは、次のいずれかが行われた後で電源遮断の正常完了を待機するために使用される時間です。

- 終了方法 (OPTION)パラメーターに*IMMEDを指定したシステム電源遮断 (PWRDWNLSYS)コマンドが入力された。
- 終了方法 (OPTION)パラメーターに*CNTRLDを指定したPWRDWNLSYSコマンドが入力され、制御された終了遅延時間 (DELAY)パラメーターに指定された時間が終了した。

この値に対する変更は、PWRDWNLSYSコマンドが入力された時に有効となります。

QPWRRSTIPL

電源復元後の自動初期プログラム・ロード(IPL)が可能になります。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- 0は電源復元後の自動IPLが行われなことを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。

区画に分割されたシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画またはハードウェア管理コンソールからだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QQRVDEGREE

QUERY並列処理の程度。この値は、システムのユーザーに使用可能な並列処理の程度を指定します。

- *NONEは、データベースQUERY処理またはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成で並列処理が使用可能でないことを意味します。
- *IOは、データベースQUERY最適化プログラムがQUERYに入出力並列処理を使用することを選択した時に、いくつでもタスクを使用できることを意味します。データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成時を含め、SMP並列処理は行うことができません。
- *OPTIMIZEは、QUERYあるいはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成を処理するためにQUERY最適化プログラムが入出力またはSMP並列処理のためにいくつでもタスクを選択して使用できることを示します。並列処理の使用および使用タスクの数は、ジョブの実行プールで使用可能なプロセッサの数、およびQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成の予想経過時間がCPU処理または入出力資源によって制限されるかどうかに基づいて決定されます。
- *MAXは、QUERY最適化プログラムがQUERYを処理するために入出力並列処理またはSMP並列処理のいずれかを使用するように選択できることを意味します。QUERY最適化プログラムによって行われる選択は、値*OPTIMIZEの場合と似ていますが、最適化プログラムはQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスのビルドまたは再ビルドを処理するためにプールで活動状態のすべてのメモリーを使用できるものと見なします。

QQRVTIME

QUERY処理時間制限。

- *NOMAXは、最大QUERY間隔が使用されることを意味します。
- 0-2147352578は、QUERY処理に使用可能な秒数を示します。

QRCLSPLSTG

空のスプール・メンバーの自動削除は、メンバー保存間隔に基づいて許されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEは保存間隔がないことを意味します。

注: この値を使用すると、システム・パフォーマンスに悪い影響を及ぼすことがあります。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックを参照してください。

- *NOMAXは空のメンバーがすべて保存されることを意味します。
- 1-366は、新しいスプール・ファイルの使用に備えて空のスプール・メンバーが保存される日数を意味します。

QRETSVRSEC

サーバー機密保護データ保存標識。この値は、クライアント/サーバー・インターフェースを介してターゲット・システムのユーザーを認証するためにサーバーが必要とする機密保護データがこのシステムに保存できるかどうかを決定します。

- 0は、サーバー機密保護データが保存されないことを意味します。
- 1は、サーバー機密保護データが保存されることを意味します。

QRMTSRVATR

リモート・サービス属性。QRMTSRVATRシステム値は、リモート・サービス問題分析機能を制御します。この値により、システムをリモート分析することができます。

- 0は、リモート・サービス属性がオフであることを意味します。
- 1は、リモート・サービス属性がオンであることを意味します。

QRMTIPL

リモート電源オンおよびIPL標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はリモート電源オンおよびIPLが許されないことを意味します。
- 1はリモート電源オンおよびIPLが許されることを意味します。

注: 電話呼び出しを行うとシステムのIPLが行われます。

区画に分割されたシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画またはハードウェア管理コンソールからだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QRMTSIGN

リモート・サインオンを制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *FRCSIGNONは通常のサインオンが必要なことを意味します。
- *SAMEPRFは、ソース・ユーザー・プロファイルとターゲット・ユーザー・プロファイルが同じ時には、リモート・サインオンが試みられるようにサインオンをう回できることを意味します。
- *REJECTはリモート・サインオンが許されないことを意味します。

- *VERIFYは、システムが、ユーザーがシステムにアクセスできることを確認した後で、ユーザーがサインオンをう回できるようにすることを意味します。
- プログラムは、どのリモート・セッションが許され、どのロケーションからどのユーザー・プロファイルに自動的にサインオンできるかどうかを決定するプログラムを指定できることを意味します。

QSAVACPTH

アクセス・パスの保管。このシステム値に対して行った変更は、次の保管操作の開始時に有効となります。

- 0は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスは保管しないことを意味します。
- 1は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管することを意味します。

QSCANFS

ファイル・システムのスキャン。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、オブジェクトがスキャンされる統合ファイル・システムを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンを参照してください。

QSCANFCTL

ファイル・システムのスキャンの制御。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、システム上の統合ファイル・システムのスキャンを制御します。これらの制御は、QSCANFS（ファイル・システムのスキャン）システム値によって取り扱われるファイル・システム内の統合ファイル・システム・オブジェクトに適用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンの制御を参照してください。

QSCPFCONS

コンソールに問題のある場合のIPL処置。このシステム値に対して行われた変更は次のIPLの前に有効となります。

- 0はシステム終了を意味します。
- 1は不在時IPLの続行を意味します。

QSECOND

秒。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QSECURITY

システム機密保護レベル。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

- 20はシステムがサインオンにパスワードを必要とすることを意味します。
- 30はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。すべてのシステム資源にアクセスできる権限が必要です。
- 40はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。サポートされていないインターフェースを介してオブジェクトにアクセスしようとするプログラムは、正常に実行されません。
- 50は、システムがサインオンにパスワードを必要とし、ユーザーはオブジェクトおよびシステム資源にアクセスできる権限を持っていないなければならないことを意味します。QTEMPライブラリーおよびユーザー・ドメイン・オブジェクトの機密保護と安全性が強制されます。サポートされ

ていないインターフェースを通してオブジェクトにアクセスを試みるプログラムや、サポートされていないパラメータ値をサポートされているインターフェースに渡そうとするプログラムは、正常に実行されません。

QSFWERRLOG

ソフトウェア・エラー・ログ。システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *LOGは、システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録され、問題分析解決可能メッセージがQSYSOPRに送られ、問題ログに項目が作成されることを意味します。報告書作成構成要素がエラー・データを提供する場合には、そのデータを入れるためにスプール・ファイルが作成されます。そのスプール・ファイル名はエラー・ログおよび問題ログの項目に記憶されます。
- *NOLOGは、システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録されないことを意味します。

QSHRMEMCTL

共用メモリー制御。ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できるか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できないか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できないことを意味します。
- 1は、ユーザーがユーザー共用メモリー、または書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できることを意味します。

QSPCENV

特殊環境。すべてのユーザーについて省略時の値として使用されるシステム環境。このシステム値に対して行われた変更は、次回にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- *NONEは、サインオンした時に特殊環境に入らないことを意味します。
- *S36は、サインオンするとシステム/36環境に入ることを意味します。

QSPLFACN

スプール・ファイル処置。スプール・ファイルがジョブとともに保持されるか、あるいはジョブから切り離されるかを指定します。スプール・ファイルをジョブで保持すると、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB)コマンドなどのジョブ・コマンドによってスプール・ファイルを処理することができます。スプール・ファイルをジョブから切り離すと、ジョブ終了時にジョブ構造を再生できるので、システム資源の使用が削減されます。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。出荷時の値は*KEEPです。

- *KEEPは、ジョブの終了時に、そのジョブについて少なくとも1つのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2-32)に存在している場合には、スプール・ファイルはジョブで保持され、ジョブが完了したことを示すようにそのジョブの状況が更新されることを意味します。そのジョブの残りのすべてのスプール・ファイルが独立ASP (ASP 33-255)にあった場合には、スプール・ファイルがジョブから切り離され、そのジョブはシステムから除去されます。
- *DETACHは、ジョブの終了時にスプール・ファイルがジョブから切り離されることを意味します。

QSRLNBR

システム製造番号。この値は変更できません。これは、OS/400ライセンス・プログラムの導入時に、システムによってデータ・フィールドから検索されます。QSRLNBRを表示するか、あるいはユーザー作成プログラム中でこの値を検索することができます。システム製造番号はシステム上の各区画で同じです。

QSRTSEQ

分類順序。このシステム値は、システムが使用する省略時の分類順序アルゴリズムを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QSRVDMP

保守ダンプ。監視されないエスケープ・メッセージの保守ダンプが作成されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *DMPUSRJOBは、保守ダンプがシステム・ジョブではなくユーザー・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。
- *DMPSYSJOBは、保守ダンプがユーザー・ジョブではなくシステム・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。システム・ジョブには、オペレーティング・システム、サブシステム・モニター、LUサービス・プロセス、スプール読み取りプログラムおよび書き出しプログラム、それにSCPFジョブがあります。
- *DMPALLJOBは、すべてのジョブについて保守ダンプが作成されることを意味します。
- *NONEは、保守ダンプが作成されないことを意味します。

QSTGLOWACN

補助記憶域の下限の処置。システムASP中の使用可能な記憶域が補助記憶域の下限より低くなった場合にとるべき処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*MSGです。

- *MSG: メッセージCPI099CをQSYSMSGおよびQSYSOPRメッセージ待ち行列に送ります。このメッセージは、他の処置の場合にも送られます。
- *CRITMSG: 重大メッセージCPI099Bを、重大メッセージを受け取るためにサービス属性に指定されたユーザーに送ります。
- *REGFAC: QIBM_QWC_QSTGLOWACN出口点用に登録された出口プログラムを呼び出すためにジョブを投入します。
- *ENDSYS: システムを終了して制限状態にします。
- *PWRDWN SYS: システムの電源を即時に遮断して、再始動します。

QSTGLOWLMT

補助記憶域の下限。補助記憶域の下限の処置がとられる時にシステムASP中に残されている使用可能な記憶域のパーセントを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は5.0です。

- 下限: QSTGLOWACNに指定された処置がとられる時にシステムASP内に残っている使用可能な記憶域のパーセント。システムASP内で現在使用されている記憶域のパーセントは、システム状況処理 (WRKSYSSTS)コマンドによって表示することができます。

QSTRPRTWTR

初期プログラム・ロード(IPL)時における印刷書き出しプログラムの開始。このシステム値は、IPL時にシステムによって設定されるか、あるいはIPLオプション画面でユーザーによって設定されます。このシステム値は、システム値変更 (CHGSYSVAL)コマンドを使用して変更することはできません。

- 0は印刷書き出しプログラムが開始されなかったことを意味します。
- 1は印刷書き出しプログラムが開始されたことを意味します。

QSTRUPPGM

制御サブシステム中の自動始動ジョブからの始動プログラム名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QSTMSG

状況メッセージが表示されるかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、次にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- *NORMALは状況メッセージが表示されることを意味します。
- *NONEは状況メッセージが表示されないことを意味します。

QSVRAUTIV

サーバー認証間隔。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QSYSLIBL

ライブラリー・リストのシステム部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QTHDRSCADJ

スレッド資源の調整。このシステム値は、このシステムで現在実行中のスレッドの特定のプロセッサおよびメモリーに対する類縁性または設定をシステム動的に調整する必要があるかどうかを指定します。一部の資源が他の資源より多く使用されている場合に、システムは、より多く使用されている資源で実行中のスレッドの一部を再割り当てして、さほど多く使用されていない資源への類縁性を持たせることができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は'1'です。

- '0'はシステムによるスレッドの自動調整は行われなことを意味します。スレッドは、それらが終了するかまたはシステム値が変更されるまで、現在割り当てられている資源への類縁性を持ち続けます。
- '1'は、スレッドのシステムの資源への類縁性の調整が動的に行われることを意味します。これによって、スレッド内の類縁性のグループおよびレベルが変更されることはありません。

QTHDRSCAFN

スレッド資源の類縁性。特定のプロセッサおよびメモリーへのスレッドの類縁性または設定。このシステム値に対して行われた変更は、変更の後に開始されたジョブのスレッドには即時に有効となりますが、現在実行中のスレッドには効力を持ちません。

- *NOGROUP - 2次スレッドには、必ずしもその開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性はありません。
- *GROUP - 2次スレッドは、その開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性をもちます。

スレッド資源の類縁性レベルは、次の値に設定することができます。

- *NORMAL -スレッドは、それが類縁性を持つ資源が容易に使用可能でなくなった場合に、任意のプロセッサまたはメモリーを使用します。
- *HIGH -スレッドは、それが類縁性を持つ資源のみを使用し、必要な場合は、それらの資源が使用可能になるまで待機します。

QTIMADJ

時間調整。このシステム値は、システム・クロックが外部時間ソースと同期を保つように調整するソフトウェアを識別するために使用することができます。この値は、時間調整ソフトウェアによ

て保守する必要がある、複数の時間調整アプリケーションが相互に競合するのを防ぐ援助機能として意図されたものです。この値の確認、あるいはそのソフトウェアが時間調整を実行するかどうかを確認するための検査は、システムによって行われません。IBM時間調整オフリングは、「QIBM_OS400_SNTF」のように、QIBMで始まる識別コードを使用します。その他のソフトウェア提供者も、会社名および製品名と類似の命名規則に従っているはずです。

時間調整ソフトウェアは、開始前にQTIMADJを検査するものでなければなりません。QTIMADJが他の時間調整ソフトウェアの識別コードを持っていた場合には、開始されているソフトウェアは、必ずこの潜在的な競合をユーザーに通知してくるので、この時間調整ソフトウェアを開始する必要があるかどうかを確認してください。QTIMADJが*NONEである場合には、ソフトウェアは、QTIMADJを更新し、現在はそれにシステム・クロックを調整する責任があることを識別するものでなければなりません。時間調整ソフトウェアは、終了前にQTIMADJを検査するものでなければなりません。QTIMADJを*NONEに設定するのは、現在の値が終了中のこの時間調整ソフトウェアを識別する場合だけにしてください。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*NONEです。

- *NONE -時間調整ソフトウェアは識別されていないことを指示します。
- 識別コード-システム・クロックの調整に使用されるソフトウェアを識別します。

QTIME

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QTIMSEP

時刻区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

この値は、時刻区切り記号として*SYSVALが指定されたジョブに影響します。コマンドに時刻を指定する時には、ユーザーは、自分のジョブに指定された時刻区切り記号を使用するか、あるいは時刻区切り記号を使用しないか、このどちらかにしなければなりません。ジョブの時刻区切り記号と異なる時刻区切り記号を使用してコマンドに時刻を指定した場合には、そのコマンドは正常に実行されません。

QTIMZON

時間帯。これは、ローカル・システム時間を計算するために使用される時間帯記述の名前を指定します。別の時間帯へ記述の変更は、この新規時間帯記述と関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。システム値QUTCOFFSETは、この新規オフセットとも一致するように変更されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QTOTJOB

記憶域を割り振らなければならないジョブの合計数。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QTSEPOOL

対話式ジョブがタイム・スライスの終わりに達した時にその対話式ジョブを別の主記憶域プールに移動するかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *NONEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されないことを意味します。
- *BASEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されることを意味します。

QUPSDLYTIM

補助電源機構の遅延時間。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- *BASICは、PRC、IOPカード、およびIPL装置ディスクのみに電源を投入します。

- *CALCは、該当する待機時間が計算されることを意味します。
- *NOMAXは、システムが自分からいかなる処置も開始しないことを意味します。
- 0は、システム通常電源に障害が起こった時にシステムが自動的に電源遮断することを意味します。
- 1-99999は、システムが電源遮断する前の遅延時間（秒数）を指定することを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QUPSMGQ

補助電源機構メッセージのメッセージ待ち行列。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

QUSEADPAUT

借用権限の使用(USEADPAUT(*YES))属性によってプログラムおよびサービス・プログラムを作成、変更、および更新できるユーザーを定義します。プログラムまたはサービス・プログラムが*YESの借用権限の使用属性を持っている場合には、そのプログラム/サービス・プログラムは、呼び出しスタック中の高位のプログラム/サービス・プログラムから渡されるどの借用権限でも使用することができます。

このシステム値は次のものには影響しません。

- USEADPAUT(*YES)属性で作成された既存のプログラム/サービス・プログラム。既存のプログラム/サービス・プログラムをUSEADPAUT(*NO)に変更しなければならないかどうかは、ユーザーが決定しなければなりません。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの復元。こうしたプログラムは、ユーザーのシステムには復元することができます。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの複製。既存のプログラム/サービス・プログラムのUSEADPAUT属性が新しいオブジェクトにコピーされます。

次の値を指定することができます。

- *NONEは、借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるユーザーに制限がないことを意味します。どのユーザーでもUSEADPAUT(*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新することができます。
- 「名前」は、USEADPAUT(*YES)属性を設定できるユーザーを制御する権限リストの名前を指定できることを意味します。USEADPAUT(*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるようになるためには、ユーザーは権限リストに対する*USE権限を必要とします。権限リストに対する権限は、借用権限から取ることはできません。すなわち、権限を借用するプログラムを実行している場合には、権限リストに対する権限を検査する時には、借用権限は使用されません。

QUSRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QUTCOFFSET

現在のシステム時刻と協定世界時(UTC)のオフセットである時間数(24時間形式) および分数を示します。

- +HHMMは、現在のシステム時刻がUTCよりHH時間MM分進んでいることを意味します。
- -HHMMは、現在のシステム時刻がUTCにHH時間MM分遅れていることを意味します。

注: このシステム値は、システム値QTIMZONに指定された時間帯記述と関連したオフセットと同じでなければなりません。QTIMZONの別の時間帯記述への変更は、関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。システム値QUTCOFFSETは、この新規オフセットとも一致するように変更されます。QUTCOFFSETは、現在QTIMZONと関連しているオフセットと異なる値に変更することはできません。それを行おうとすると、診断メッセージCPD1687が出されます。

QVFOBJRST

復元時のオブジェクトの検査。このシステム値は、復元操作中のオブジェクト署名の検査に使用されるポリシーを指定します。この値は次のタイプのオブジェクトに適用されます: *CMD, *PGM, *SRVPGM, *SQLPKGおよび*MODULE。また、JAVAプログラムが入る*STMFオブジェクトにも適用されます。この値は、また、ライセンス内部コードの修正を含むシステムにPTFを適用するポリシーも指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、復元時のオブジェクトの検査を参照してください。

QYEAR

年。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

[トップ](#)

新しい値 (VALUE)

システム値の新しい値を指定します。QUSRLIBLやQCTLSBSDなどの一部のシステム値は、複数の文字ストリングから作られます。これらのストリングは、空白で区切らなければなりません。このパラメーターに指定する値は、アポストロフィで囲まなければなりません。英字文字を受け入れるシステム値の場合には、小文字(aからz)で入力された文字は、アポストロフィで囲まれていても大文字(AからZ)に変換されます。QDATEやQDBRCVYWTなどの一部のシステム値は、ゾーン10進数値(実質上は文字)であり、これもまたこのパラメーターに指定する時にはアポストロフィで囲まなければなりません。QSECURITYを除く数字のシステム値の場合には、アポストロフィを使用することはできません。該当するシステム値のタイプ、長さ、および範囲の要件を満たす新しい値を入力してください。

これは必須パラメーターです。

非制限値

システム値の新しい値を指定します。

[トップ](#)

CHGSYSVALの例

例1:ストリングを含むシステム値の変更

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QLANGID) VALUE('ENP')
```

このコマンドは、システム値QLANGIDの値をENP (ENPは有効な言語識別コードを表します) に変更します。

例2:リストを含むシステム値の変更

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QUSRLIBL) VALUE('INVLIB STOCKLIB MYLIB')
```

このコマンドは、ジョブの開始時にそのジョブに使用するライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーの省略時のリストを指定する、システム値QUSRLIBLの値を変更します。ライブラリー・リストのユーザー部分には、ライブラリーINVLIB、STOCKLIB,およびMYLIBが含まれています。

トップ

エラー・メッセージ： CHGSYSVAL

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1028

パラメーターSYSVALには、&1は正しくない。

CPF1030

システム値&1を変更することはできない。

CPF1058

システム値&1のVALUEパラメーターが正しくない。

CPF1059

&1の値の長さが正しくない。

CPF1074

SYSVAL(QMONTH)が年間通算日形式に対して正しくない。

CPF1076

システム値&1には、指定された値を使用することができない。

CPF1078

システム値&1は変更されなかった。

CPF1079

&1にリストされた値が多すぎるかまたは少なすぎる。

CPF1127

QPRTDEVに指定された装置が印刷装置でない。

CPF1132

システム値&1に指定した名前が正しくない。

CPF1203

キーボード識別コード&1が正しくない。

CPF18A4

ユーザーにはシステム値&1の変更が認可されていない。

CPF18C0

システム値&1を変更することはできない。

CPF1830

システム値&1に指定した値が正しくない。

CPF1831

ユーザーにはシステム値&1の変更が認可されていない。

CPF1832

IPL時にシステム値&1を変更することはできない。

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF1852

システム値&1は変更されなかった。

CPF1856

システム値&1のフィルター・タイプ&4は正しくない。

CPF1857

&1に指定された値はコード・フォントでない。

CPF1864

ユーザーにはシステム値&1の変更が認可されていない。

CPF210C

ライブラリー&1は変更されません。

CPF268D

システム値&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

テープ・カートリッジの変更 (CHGTAPCTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カートリッジ変更(CHGTAPCTG)コマンドは、指定されたカートリッジをいずれかのカテゴリから指定されたカテゴリに変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
CTG	カートリッジID	値 (最大 40 回の繰り返し): 文字値, *ALL	オプション
CGY	カテゴリ	単一値: *SHARE400 その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カテゴリ名	文字値, *SAME, *NOSHARE, *IPL, *NL, *CNV	
	要素 2: カテゴリ・システム	文字値, *SAME, *CURRENT	

[トップ](#)

ライブラリー装置 (DEV)

使用される装置の名前を指定します。装置名は、前に装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドを使用してシステム上に作成されていなければなりません。

[トップ](#)

カートリッジID (CTG)

対応するカテゴリが指定されたカテゴリに変更されるカートリッジ識別コードを指定します。

注: カートリッジ識別コードは、ライブラリー装置に外部識別コードを読み取るバーコード・スキャナーがある場合には、外部識別コードを表すものでなければなりません。

***ALL** 装置中のすべてのテープ・カートリッジが変更されます。

総称*カートリッジ識別コード

カートリッジ識別コードの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、総称接頭部で始まる名前を持つすべてのカートリッジ識別コードを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なカートリッジ識別コードと見なします。

カートリッジ識別コード

カテゴリーを変更する1-40のカートリッジ識別コードを指定してください。

トップ

カテゴリー (CGY)

テープ・カートリッジの変更先のカテゴリーを指定します。*NOSHAREカテゴリーの場合には、このコマンドが*NOSHAREの権限を所有するシステムから実行されない限り、カテゴリーをこのコマンドで変更することはできません。

カテゴリー名の値として指定できる値は次の通りです。

***SAME**

カテゴリー情報は変更されません。

***NOSHARE**

指定したカートリッジ識別コードは、*NOSHAREカテゴリーに変更されます。

***IPL** 指定したカートリッジ識別コードは、*IPLカテゴリーに変更されます。

***NL** 指定したカートリッジ識別コードは、*NLカテゴリーに変更されます。

カテゴリー名

ユーザー定義のカテゴリーの名前を指定してください。指定したカートリッジ識別コードは、指定したユーザー定義カテゴリーに変更されます。

カテゴリー・システムとして指定できる値は次の通りです。

システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの保留中システム名フィールドから取られます。保留中システム名がない場合には、現行システム名属性が使用されます。

*****注意*****

システム名を変更した場合には、ライブラリー装置中のすべてのテープ・カートリッジと関連したライブラリー装置内のカートリッジが無効になります。

***SAME**

システムは変更されません。

***CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステムに属するカテゴリー。

システム名

このカテゴリーが属するシステムの名前を指定してください。

可能な単一値は次の通りです。

***SHARE400**

指定したカートリッジ識別コードは、*SHARE400カテゴリーに変更されます。

トップ

CHGTAPCTGの例

CHGTAPCTG DEV(LIB01) CTG(VOL1) CGY(*SHARE400)

このコマンドは、カートリッジ識別コードVOL1と関連したカテゴリーをカテゴリー*SHARE400に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGTAPCTG

*ESCAPE メッセージ

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6711

コマンドは使用できない。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF67A6

カテゴリーが存在していない。

CPF67D2

カートリッジ・コマンドが失敗しました。

CPF67D4

カテゴリーが使用できない。

CPF67E4

ライブラリー装置機能が正常に行なわれなかった。

CPF67EA

機能は正常に行なわれていない。

CPF67F5

重複カートリッジIDが見つかった。

CPF67F9

&6個のカートリッジが変更された。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

テープ・ファイル変更 (CHGTAPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・ファイル変更(CHGTAPF)コマンドは、指定したテープ・ファイルの属性を変更します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	テープ装置	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
REELS	テープ・リール仕様	要素リスト	オプション
	要素 1: ラベル処理タイプ	*SAME, *SL, *NL, *NS, *BLP, *LTM	
	要素 2: リールの数	1-255, *SAME	
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SAME, *END, *NEXT	オプション
LABEL	テープ・ラベル	文字値, *SAME, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
RCDLEN	レコード長	整数, *SAME, *CALC	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-524288, *SAME, *CALC	オプション
BUFOFSET	バッファー・オフセット	整数, *SAME, *BLKDSC	オプション
RCDBLKFMT	レコードのブロック形式	*SAME, *FB, *F, *V, *VB, *D, *DB, *VS, *VBS, *U	オプション
EXTEND	拡張	単一値: *SAME, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル拡張	*YES	
	要素 2: ファイル検査	*NOCHECK, *CHECK	
DENSITY	テープ密度	文字値, *SAME, *DEVTYPE, *CTGTYPE, *FMT3480, *FMT3490E, *FMT3570, *FMT3570E, *FMT3590, *FMT3590E, *QIC120, *QIC525, *QIC1000, *QIC2GB, *QIC2DC, *QIC4GB, *QIC4DC, *QIC3040, *QIC5010, *MLR3, *SLR60, *SLR100, *FMT2GB, *FMT5GB, *FMT7GB, *FMT20GB, *FMT60GB, *ULTRIUM1, 1600, 3200, 6250	オプション
COMPACT	データ短縮	*SAME, *DEV, *NO	オプション
CODE	コード	*SAME, *EBCDIC, *ASCII	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *SAME, *NONE	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *SAME, *NONE, *PERM	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*SAME, *REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
USRLBLPGM	ユーザー・ラベル・プログラム	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ラベル・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*SAME , *NO, *YES	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *SAME , *IMMED, *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME , *NO, *YES	オプション

トップ

ファイル (FILE)

変更するテープ装置ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 テープ装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

テープ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 テープ・ファイルが入っているライブラリー名を指定します。

トップ

装置 (DEV)

入出力データ操作を実行するためにこの装置ファイルで使用される1つ以上のテープ装置または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定します。媒体ライブラリー装置は、1つ以上のテープ駆動機構、テープ・カートリッジ、およびカートリッジ保管スロットとテープ駆動機構間でテープ媒体を移動するための部分（キャリッジとピッカーの組み立て品）から成るテープ記憶装置です。

単一値

*SAME

装置名（ある場合）は変更されません。

*NONE

装置名は指定されません。装置名は後でテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドまたは別のテープ・ファイル変更(CHGTAPF)コマンドで指定するか、あるいはテープ・ファイルのオープン時に指定しなければなりません。

その他の値（最大4個指定可能）

名前 このテープ装置ファイルで使用される最大4つの装置の名前または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。ここで指定される装置名の順序は、装置上のテープが処理される順序です。DEVリストにある装置数を超えるボリュームが処理される時には、指定された順に装置が使用され、必要に応じて最初の装置に循環します。各装置名は、この装置ファイルが作成される前にシステム上で装置記述によって知られていなければなりません。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリューム識別コードを指定してください。テープ（ボリューム）を装置に取り付ける順序は、**テープ装置 (DEV)**パラメーターに指定された装置とともに使用される装置ファイルで識別コードが指定された順序と同じでなければなりません。このファイルが逆方向読み取りのためにオープンされた場合には、リスト中のボリューム識別コードは最後から最初の順に処理され、装置リスト中の装置は最初から最後の順に使用されます。

単一値

***SAME**

ボリューム識別コードは変更されません。

***NONE**

このファイルにはテープ・ボリューム識別コードは指定されません。テープ・ボリューム識別コードは、装置ファイルがオープンされる前に、テープ・ファイル変更 (CHGTAPF)コマンド、テープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンド、または高水準言語プログラムで指定することができます。

その他の値（最大50個指定可能）

文字値 1つまたは複数のボリュームの識別コードを、処理され、装置に入れられて、この装置ファイルで使用される順序に指定します。各識別コードは、6桁以下とすることができます。*NL, *LTM, *NS,または*BLP入力ファイルで処理されるリールの最大数はこのリストのボリューム識別コード数によって決定されます。

[トップ](#)

テープ・リール仕様 (REELS)

ボリューム識別コード (VOL)パラメーターにボリューム識別コードのリストが指定されておらず、この装置ファイルが*NL, *LTM, *NS,または*BLP入力ファイルと一緒に使用される場合には、テープ・リールに使用されるラベルのタイプと処理できるリールの最大数を指定します。

リールの数を指定すると、ラベル付きテープを処理する場合には、テープのボリューム識別コードが無視されます。操作員は、ボリューム内におけるリールの配列順序を確認しなければなりません。

標準ラベルの出力ファイルでは、リールの数の値（このパラメーターの2番目の部分）に制限値がありません。標準ラベルの出力ファイルでは、データ・ファイル・ラベルは、ファイルの終わりを指示することによって処理できるボリューム数を制限します。出力ファイルでは、最大リール数の値は無視されます。システムは、出力ファイルがクローズされるまで追加のボリュームを装置に入れるよう要求します。

注: 装置ファイルをテープからの読み取りまたはテープへの書き出しに使用する場合には、値*SL、*NL、および*LTMを指定することができます。値*NSおよび*BLPは、装置ファイルをテープからの読み取りに使用する場合にだけ有効です。

要素1: ラベル処理タイプ

*SAME

ボリューム（テープ）のタイプおよびテープ・ファイルのラベル付けは変更されません。

***SL** ボリューム（テープ）には標準ラベルがあります。ボリューム識別コードは無視されます。代わりに、リールの数の値が検査されます。

***NL** ボリューム（テープ）にはラベルがありません。ラベルなしのボリュームでは、ボリュームの始めと終わりおよびボリューム上の各データ・ファイルを示すためにテープ・マーカが使用されます。

***NS** ボリューム（テープ）には標準外ラベルがあります。テープ上のロード・ポイントの直後に、任意指定のテープの開始マーカおよびある種のボリュームならびにファイル情報などを続けることができますが、これらは無視されます。非標準ラベルのテープに存在できるデータ・ファイルは1つだけです。

***BLP** 標準ラベル処理は迂回されます。各リールには標準ラベルがなければなりません。各リールは標準ボリューム・ラベルの有無を検査され、各ファイルには少なくとも1つの標準見出しラベル(HDR1)と1つの標準後書きラベル(EOV1またはEOF1)がなければなりません。他の大部分のラベル情報（データ・ファイルのレコード長やブロック長など）は無視されます。ボリューム上の各ファイルの順序番号は、そのファイルとテープの開始点との間にあるテープ・マークの数によってのみ決定されます。ファイル・ラベル情報の一部が正しくない場合には、ラベル処理のバイパスを使用することができます。

***LTM** ボリュームにラベルはありませんが、最初のデータ・ファイルの前に1つの先行テープ・マーカがあります。

要素2: リールの数

*SAME

リール数は変更されません。

1-255 ボリューム識別コードのリストが指定されていない時に*NL、*LTM、*NS、または*BLP入力テープ操作に備えて処理されるリールの最大数を指定してください。標準ラベル(*SL)ファイルまたはすべての出力ファイルについては、リール数の値は無視されます。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

処理されるテープ上のデータ・ファイルのファイル順序番号を指定します。標準ラベル付きテープを使用している時には、データ・ファイルの最初の見出しラベルから4桁のファイル順序番号が読み取られます。ラベル処理の迂回を使用した時、または標準ラベル付きテープを使用していない時には、システムがテープ・マーカおよびこのパラメーターによって指定された値（または省略時の値）を使用して、処理する正しいデータ・ファイルを見つけます。

*SAME

ファイル順序番号は変更されません。

***END** ファイルはテープの終わりに書き出されます。この値は、テープへの書き出しに使用されるテー

ブ・ファイルにしか指定できません。テープ・ファイルがテープからの読み取りに使用された時、および*ENDがテープ・ファイルに指定された時には、エラー・メッセージが出されます。

***NEXT**

テープ上の次のファイルが処理されます。テープが現在最初のファイルより前に位置づけられている場合には、テープ上の最初のファイルが処理されます。この値は、テープからの読み取りに使用するテープ・ファイルにしか指定することはできません。テープ・ファイルをテープへの書き出しに使用し、そのテープ・ファイルに*NEXTが指定された時には、エラー・メッセージが出されません。

1-16777215

このテープ上の処理するファイルのファイル順序番号を指定してください。

[トップ](#)

テープ・ラベル (LABEL)

このテープ・ファイルで処理中のデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コードを指定します。データ・ファイル識別コードは、標準ラベルのテープにだけ定義され、見出しを記述するデータ・ファイルの直前の見出しラベルに記憶されます。

***SAME**

データ・ファイル識別コードは変更されません。

***NONE**

データ・ファイル識別コードを指定しません。

文字値 このテープ・ファイルと一緒に使用するデータ・ファイルの識別コードを指定してください。この識別コードが基本交換形式で書き出されるテープのもので、ISERIESシステム以外のシステムで使用される場合には、最大8文字を使用するか、または修飾子当たりで8文字を超えない修飾識別コードを使用する必要があります。そうでない場合には、最大17桁の英数字を使用することができます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

テープ・ファイルを記述するテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません (テキストがある場合)。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

レコード長 (RCDLEN)

この装置ファイルで処理するデータ・ファイルに入っているレコードの長さ (バイト数) を指定します。

***SAME**

レコード長は変更されません。

***CALC**

処理されるデータ・ファイルにレコード長は指定されません。*CALCが指定されている場合には、システムは、ファイルのオープン時に適切なレコード長の計算を試みます。

整数 処理されるデータ・ファイルの各レコードの長さを示す1-32767バイトの範囲の値を指定してください。ファイルの許容最小レコード長および許容最大レコード長は、レコードのブロック形式、ブロックの長さ、バッファ・オフセット（ASCIIファイルの場合）、および記録コードによって異なります。

表 1. 図: EBCDIC RCDLENの範囲

RCDFBLKFMT	FILETYPE(*DATA)	FILETYPE(*SRC)
*F *FB *U	18 - 32767	30 - 32767
*V *VB	1 - 32759	13 - 32767
*VS *VBS	1 - 32759	13 - 32767

表 2. 図: ASCII RCDLENの範囲

RCDFBLKFMT	FILETYPE(*DATA)	FILETYPE(*SRC)
*F *FB *U	18 - 32767	30 - 32767
*D *DB	1 - 9995	13 - 10007
*VS *VBS	1 - 32759	13 - 32767

[トップ](#)

ブロックの長さ (BLKLEN)

出力または入力操作のためにテープに移動またはテープから移動するデータ・ブロックの最大長（バイト数）を指定します。

***SAME**

データ・ブロックの長さは変更されません。

***CALC**

処理されるデータ・ファイルにデータ・ブロックの長さは指定されません。*CALCが指定されている場合には、システムは、ファイルのオープン時に適切なブロックの長さの計算を試みます。

1-524288

処理するデータ・ファイルの各ブロックの最大長を指定してください。正常に処理できるブロックの最小長は、テープ装置のハードウェアおよびISERIESシステムのマシン・サポート機能によって決定されます。

入力ファイルの最大ブロック長は常に524288バイトですが、ASCII出力ファイルのブロック記述子を作成する必要がある場合は、9999バイトに制限されます。

次の表は、出力ファイルに認められる最小および最大のブロック長値を示しています。

表 3. 図: **BLKLEN**の最小値と最大値

コード	BUFOFSET	MIN BLKLEN	MAX BLKLEN
*EBCDIC	無視	18	524288
*ASCII	0	18	524288
*ASCII	*BLKDSC	18	9999

トップ

バッファー・オフセット (BUFOFSET)

テープ・データ・ファイルの各ブロックの最初のレコードの始めを示すバッファー・オフセットの値を指定します。バッファー・オフセット値はASCIIファイルの場合にはどのレコード・ブロック形式でも使用できますが、EBCDICテープ・ファイルの場合には無視されます。バッファー・オフセット値を含むもう1つのファイル見出しラベル(HDR2)がテープに入っている場合には、入力用に処理される標準ラベル付きファイルにはこのパラメーターは必要ありません。

バッファー・オフセットは、テープ・ファイル作成(CRTTAPF)コマンド、テープ・ファイル変更(CHGTAPF) コマンド、テープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンド、または各ブロックの最初のレコードの前に情報（ブロック記述子など）が入っている入力ファイルのファイル・ラベルによって指定しなければなりません。テープ・ファイルの作成時にバッファー・オフセットを指定しない場合には、ファイルの読み取り時にオフセット値の指定は不要です。出力ファイルにだけ使用できるバッファー・オフセット値はゼロおよび*BLKDSCです。

***SAME**

バッファー・オフセット値は変更されません。

***BLKDSC**

この装置ファイルを使用して作成されるテープ・ファイルに4バイトのブロック記述子が作成されます。この装置ファイルを使用して読み取られる入力ファイルは、各データ・ブロックの最初のレコードの前に4バイトのバッファー・オフセット情報があるものと仮定します。

0-99 各データ・ブロックの最初のレコードに先行するバッファー・オフセット情報の長さを指定してください。

トップ

レコードのブロック形式 (RCDBLKFMF)

処理されるテープ・データ・ファイルのレコードのブロック化属性およびタイプを指定します。EBCDICファイルの場合には、レコードのブロック形式*Vおよび*VB のレコードしか処理できません。また、ASCIIファイルの場合には、*Dおよび*DB のレコードしか処理できません。

***SAME**

レコードのブロック形式は変更されません。

***FB** EBCDICまたはASCIIコードの固定長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは、他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*Fに変更する場合があります。

- *F** EBCDICまたはASCIIコードのいずれかの固定長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*FBに変更する場合があります。
- *V** EBCDICタイプV形式の可変長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*VB、*D,または *DBに変更する場合があります。
- *VB** EBCDICタイプV形式の可変長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは、ボリューム・コードに基づいて、このレコードのブロック形式を*DBに変更する場合があります。
- *D** ASCIIタイプD形式の可変長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*DB、*V,または*VBに変更する場合があります。
- *DB** ASCIIタイプD形式の可変長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは、ボリューム・コードに基づいて、このレコードのブロック形式を*VBに変更する場合があります。
- *VS** EBCDICまたはASCIIコードの可変長、非ブロック化、スパン・レコードが処理されます。システムは他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*VBSに変更する場合があります。
- *VBS** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの可変長、ブロック化、スパン・レコードが処理されます。テープ上のスパン・レコードの表し方はEBCDICファイルとASCIIファイルとで異なっていますが、システムはファイル・コードに基づいて正しい形式を選択します。
- *U** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの未定義（不定）形式レコードが処理されます。*Uレコードは可変長レコードとして処理されて、書き出されるかまたは読み取られる各レコードは独立したテープ・ブロックに入っています。この形式は、他のレコード・ブロック形式の形式設定要件に合わないテープ・ファイルを処理する場合に役立ちます。

表 4. 図: 必要なRCDLEN/BLKLEN/BUFOFSETの関係

コード	RCDLKFMT	BLKLEN1
=====	=====	=====
*EBCDIC	*F *U	= RCDLEN
*ASCII	*F *U	= RCDLEN + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*FB	= RCDLEN * N
*ASCII	*FB	= (RCDLEN * N) + BUFOFSET
		(Nは最大長 ブロックの レコード数)
-----	-----	-----
*EBCDIC	*V	= RCDLEN * 8
*ASCII	*D	= RCDLEN * 4 + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*VB	>= RCDLEN + 8
*ASCII	*DB	>= RCDLEN + 4 + BUFOFSET
-----	-----	-----
*EBCDIC	*VS *VBS	>= 18
*ASCII	*BS *VBS	>= 6 + BUFOFSET (最小18)
-----	-----	-----

注： ブロック長(BLKLEN)は、レコード長(RCDLEN)とバッファー・オフセット(BUFOFSET)の関数です。

トップ

ファイル拡張 (EXTEND)

テープへの出力操作の場合に、現在テープ上にあるデータ・ファイルの終わりに新しいレコードを追加するかどうかを指定します。特定のデータ・ファイルはSEQNBRパラメーターによって識別され、標準ラベルのファイルの場合はLABELパラメーターによって識別されます。データ・ファイルが拡張された場合には、それはテープ・ボリューム上の最後のファイルとなります。それに続くデータ・ファイルは、指定されたファイルが拡張される時に上書きされます。

注: このパラメーターは1/4インチ・カートリッジ・テープ装置の場合は正しくありません。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** テープ上の指定したデータ・ファイルの終わりにレコードは追加されません。

***YES** テープ上の指定したデータ・ファイルの終わりにレコードが追加されます。

***NOCHECK**

ファイルが活動状態であるかどうかを判別する検査を行わずに、ファイルが拡張されます。

***CHECK**

ファイルが拡張される前に、ファイルが活動状態であるかどうかを判別する検査が行われます。

トップ

テープ密度 (DENSITY)

この装置ファイルを使用する時に、テープ・ボリュームに書き出されるデータの密度を指定します。このパラメーターが使用されるのは、ラベルなしのボリューム(*NL)として書き出されるテープの場合だけです。これは、最初のデータ・ファイルをラベルなしボリュームに書き出していなければ有効ではありません。標準ラベル・ボリュームの密度は、テープ初期設定(INZTAP)コマンドに指定され、それらにボリューム・ラベルを書き出すことによって、標準ラベル・ボリュームとしてテープを初期設定します。ラベル付きまたはラベルなし出力ファイルを、このパラメーターで指定したのとは異なった密度で書き出した場合には、警告メッセージが送信されます。

***SAME**

データ密度は変更されません。

***DEVTYPE**

テープ装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。

装置 最大容量密度または形式

3480 *FMT3480

3490E *FMT3490E

3570-BXX
*FMT3570

3570-CXX
*FMT3570E

3580-001
*ULTRIUM1

3580-002
*ULTRIUM2

3590 *FMT3590

3590-EXX
*FMT3590E

3590-HXX
*FMT3590H

4685-001
*VXA2

6335 *QIC3040

6343 *QIC1000

6344 *QIC2GB

6348 *QIC1000

6349 *QIC2GB

6368 *QIC1000

6369 *QIC2GB

6379 *QIC1000

6380 *QIC2GB

6381 *QIC2DC

6382 *QIC4DC

6383 *QIC5010

6384 *SLR60

6385 *QIC5010

6386 *MLR3

6387 *SLR100

6390 *FMT7GB

7207-122
*QIC4DC

7208-002
*FMT2GB

7208-012
*FMT5GB

7208-222
*FMT7GB

7208-342
*FMT20GB

7208-345
*FMT60GB

***CTGTYPE**

取り付けられたカートリッジ・タイプの装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。装置が特殊なカートリッジ・タイプ情報をサポートしない場合には、*DEVTYPEが使用されます。

テープ密度

使用する密度または形式を指定します。

1600 このテープ・ボリュームのデータ密度は1,600ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

3200 このテープ・ボリュームのデータ密度は3,200ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

6250 このテープ・ボリュームのデータ密度は6,250ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

***FMT3480**

このテープの形式はFMT3480です。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3480装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3490E**

このテープの形式はFMT3490Eです。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3490E装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3570**

このテープの形式はFMT3570です。このデータ形式は3570装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3570E**

このテープの形式はFMT3570Eです。このデータ形式は3570E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3590**

このテープの形式はFMT3590です。このデータ形式は3590装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590E**

このテープの形式はFMT3590Eです。このデータ形式は3590E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590H**

このテープの形式はFMT3590Hです。このデータ形式は3590H装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC120**

このテープの形式はQIC120で、120メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC525**

このテープの形式はQIC525で、525メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC1000**

このテープの形式はQIC1000で、1200メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC2GB**

このテープの形式はQIC2GBです。これは、標準長のQIC2GBカートリッジに2.5ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC2DC**

このテープの形式はQIC2DCです。これは、QIC2GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC4GB**

このテープの形式はQIC4GBです。これは、標準長のQIC4GBカートリッジに4ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC4DC**

このテープの形式はQIC4DCです。これは、QIC4GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC3040**

このテープの形式はQIC3040で、これは840メガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・ミニカートリッジ・テープに使用されます。

***QIC5010**

このテープの形式はQIC5010で、これは13.5ギガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***MLR3**

このテープの形式はMLR3です。これは、標準長のMLR3カートリッジに25ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR60**

このテープの形式はSLR60です。これは、標準長のSLR60カートリッジに一般的に60ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR100**

このテープの形式はSLR100です。これは、標準長のSLR100カートリッジに一般的に100ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***FMT2GB**

このテープの形式はFMT2GBです。これは2ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT5GB**

このテープの形式はFMT5GBで、5ギガバイトのデータを収めることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT7GB**

このテープの形式はFMT7GBです。これは7ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT20GB**

このテープの形式はFMT20GBです。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***FMT60GB**

このテープの形式はFMT60GBです。これは、標準長のカートリッジに60ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM1**

このテープの形式はULTRIUM1です。これは、標準長のカートリッジに100ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM2**

このテープの形式はULTRIUM2です。これは、標準長のカートリッジに200ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA1** このテープの形式はVXA1です。これは、標準長のカートリッジに33ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA2** このテープの形式はVXA2です。これは、標準長のカートリッジに80ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

注: セルフ構成テープ装置は、密度パラメーターに有効な追加の値を定義することがあります。特定の装置に有効な追加の密度値を見つけるには、ISERIESナビゲーター（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（テープ・ライブラリー）（テープ資源）（特性）または（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（独立型装置）（特性）を使用するか、あるいは接続されたテープ装置に有効なすべての密度値のリストを参照するには、CLコマンドの「テープ密度」フィールドのF4=プロンプト・キーを使用してください。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データの短縮が実行されるかどうかを指定します。使用中のテープ装置がデータ短縮をサポートしていない場合には、このパラメーターはファイルのオープン時に無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***DEV D**

使用中の装置がデータ短縮をサポートしている場合に、装置データの短縮が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

トップ

コード (CODE)

このテープ・ファイルを使用するジョブによるテープ・データの読み取りまたは書き出し時に使用される文字コードのタイプを指定します。

***SAME**

文字コードのタイプは変更されません。

***EBCDIC**

EBCDIC文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

ファイル拡張 (**EXTEND**)パラメーターに*YESが指定されているテープ入力データ・ファイルおよびテープ出力の場合に、データ・ファイルが作成された（テープに書き込まれた）日付を指定します。

***SAME**

作成日は変更されません。

***NONE**

作成日は指定されません。作成日は、テープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドまたは高水準言語プログラムに指定されている場合を除いて検査されません。

日付 この装置ファイルで使用するデータ・ファイルの作成日を指定してください。日付は、ジョブ日付の形式で指定し、分離文字が使用される場合にはジョブ日付の分離文字を使用して指定しなければなりません。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

テープ出力データ・ファイルの場合にだけ、この装置ファイルによって使用されるデータ・ファイルの満了日を指定します。*SL以外のラベル処理のタイプに対して満了日を指定した場合には、それが無視されます。データ・ファイルは、指定した満了日まで保護され、重ね書きすることができません。

***SAME**

満了日は変更されません。

***NONE**

データ・ファイルの満了日は指定されません。ファイルが保護されていません。

***PERM**

データ・ファイルは永続的に保護されます。テープに書き込まれる日付は999999です。

日付 その日以降はデータ・ファイルが保護されなくなる日付を指定してください。

[トップ](#)

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされます。

***SAME**

値は変更されません。

***REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

トップ

ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)

ユーザー・テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムを指定します。出力ファイルでは、ユーザー・プログラムがテープに書き出されるユーザー・テープ・ラベルを渡します。入力ファイルでは、ユーザー・テープ・ラベルがユーザー・プログラムに渡されます。

単一値***SAME**

ユーザー・ラベル・プログラム名は変更されません。

***NONE**

この装置ファイル用のユーザー・ラベル・プログラムはありません。

修飾子1: ユーザー・ラベル・プログラム

名前 ユーザー・テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。

***SAME**

IGCDTA値は変更されません。

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にプログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られません。

*SAME

待機時間は変更されません。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

例

例1: テープファイル記述の変更

```
CHGTAPF FILE(TAPE01) LABEL(TUESDAY)
```

このコマンドは、TAPE01という名前のテープ装置ファイルの記述を変更します。LABELパラメーターには、現在データ・ファイル識別コードTUESDAYが入っています。

例2: テープ・ファイルをDBCSデータを処理できるようにする

```
CHGTAPF FILE(IGCLIB/IGCTAP) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーIGCLIBに保管されているテープ・ファイルIGCTAPを、ファイルが2バイト文字セット・データを処理するように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

[トップ](#)

TCP/IP属性の変更 (CHGTCPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP, UDP, IP,およびARPプロトコル層の属性を変更するために, TCP/IP属性変更(CHGTCPA)コマンドが使用されます。変更は即時に有効となります。

キーワードの省略時の値は次の通りです。これらの値はキーワードに*DFTが指定されている場合も使用されます。

キーワード

省略時の値

TCPKEEPALV

120分

TCPURGPTR

*BSD

TCPRCVBUF

8192バイト

TCPSNDBUF

8192バイト

TCPR1CNT

3

TCPR2CNT

16

TCPMINRTM

250ミリ秒

TCPCLOTIMO

120秒

TCPCNNMSG

*THRESHOLD

UDPCKS

*YES

IPPATHMTU

*YES, 10分

IPDTGFWD

*NO

IPSRCRTG

*YES

IPRSBTIMO

10秒

IP TTL 64

IP QOSEN B

*NO

IP DEADGATE

*YES, 2分

ARPTIMO

15分

ECN *NO

NFC *YES, 300秒, 10MB

LOGPCLERR

*NO

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TCPKEEPALV	TCP活動保存	1-40320, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
TCPURGPTR	TCP緊急ポインター	<u>*SAME</u> , *BSD, *RFC	オプション
TCPRCVBUF	TCP受信バッファ・サイズ	512-8388608, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
TCPSNDBUF	TCP送信バッファ・サイズ	512-8388608, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
TCPR1CNT	TCP R1 RETRANSMISSION COUNT	1-15, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
TCPR2CNT	TCP R2 RETRANSMISSION COUNT	2-16, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
TCPMINRTM	TCP最小再伝送時間	100-1000, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
TCPCLOTIMO	TCP クローズ待ち時間タイムアウト	0-14400, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
TCPCNNMSG	TCP接続クローズ・メッセージ	<u>*SAME</u> , *THRESHOLD, *ALL, *NONE	オプション
UDPCKS	UDPチェックサム	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
IPPATHMTU	パスMTUディスカバリー	単一値: <u>*SAME</u> , *DFT, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能化	*YES	
	要素 2: 間隔	5-40320, *ONCE	
IPDTGFWD	IPデータグラムの転送	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
IPSRCRTG	IPソース経路指定	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
IPRSBTIMO	IP再組み立てタイムアウト	5-120, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
IP TTL	IP有効時間 (ホップ限界)	1-255, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
IPQOSEN B	IP QOS使用可能化	<u>*SAME</u> , *TOS, *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
IPDEADGATE	IP非活動ゲートウェイの検出	単一値: *SAME , *DFT, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能化	*YES	
	要素 2: 間隔	1-60	
ARPTIMO	ARPキャッシュ・タイムアウト	1-1440, *SAME , *DFT	オプション
ECN	ECNを使用可能にする	*SAME , *YES, *NO	オプション
NFC	ネットワーク・ファイル・キャッシュ	単一値: *DFT, *CLEAR その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 使用可能化	*SAME , *YES, *NO	
	要素 2: キャッシュされたファイルのタイムアウト	30-604800, *SAME , *NOMAX	
	要素 3: キャッシュ・サイズ	10-100000, *SAME	
LOGPCLERR	プロトコル・エラーのログ	*SAME , *YES, *NO	オプション
IPQOSBCH	IP QOSデータグラムのバッチ化	*SAME , *NORMAL, *MINDELAY	オプション
IPQOSTMR	IP QOSタイマーの解像度	5-5000, *SAME , *DFT	オプション

トップ

TCP活動保存 (TCPKEEPALV)

接続の他の側にプローブを送信する前にTCPが待機する時間（分数）を指定します。プローブは、送信されるデータがない場合でも、接続がアイドル状態である時には送信されます。

活動状態を維持するパケットの送信は、SO_KEEPALIVEソケット・オプションを使用することによって、個々のソケット・アプリケーションによって制御されます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「SOCKETSプログラミング」情報を参照してください。

***SAME**

活動状態を維持する時間間隔の値は現行の設定値から変更されません。

***DFT** 活動状態を維持する時間間隔の値は120分が使用されます。

1-40320

活動状態を維持する時間間隔を分数で指定してください。有効な値の範囲は1-40320分（28日）です。

トップ

TCP緊急ポインター (TCPURGPTR)

TCP見出しの中の緊急ポインターがどのバイトを指示しているかを判断する時に、どの規則に従うべきかを指定します。TCP見出しの中の緊急ポインターは、緊急データ（BSD規則）の最後のバイトまたは緊急データ（RFC規則）の最後のバイトの直後に続くバイトを指示します。

注: この値はTCP接続のローカルおよびリモート端末の間で一貫性がなければなりません。この値を使用するソケット・アプリケーションは、クライアントおよびサーバー・アプリケーションの間で一貫してその値を使用しなければなりません。この値はシステムを基準にして設定されます。このシステムを使用するすべてのアプリケーションがこの値を使用します。

***SAME**

緊急ポインタの値は現行の設定値から変更されません。

***BSD** BSDの定義済みの規則を使用してください。TCP緊急ポインタは緊急データの最後のバイトの直後に続くバイトを指示します。これが初期値です。

***RFC** RFCの定義済みの規則を使用してください。TCP緊急ポインタは緊急データの最後のバイトを指示します。

トップ

TCP受信バッファ・サイズ (TCPRCVBUF)

省略時の受信バッファ・サイズに何を割り振るかを指定します。TCP受信ウィンドウ・サイズはこの値に基づいています。この値を減らすことにより、リモート・システムがローカル・アプリケーションによって読み取られる前に送信することのできるデータの量が減少します。この値を減らすことにより、ネットワーク・アダプターの過剰実行のために多くの再伝送が起こる状態では、パフォーマンスが向上する可能性があります。

注:

1. この値は、ユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)によって省略時の受信バッファ・サイズとしても使用されます。
2. この値は、SNA処理において、IPによって省略時の受信バッファ・サイズとしても使用されます。
3. このパラメータを設定することによって、TCP受信バッファのサイズが保証されるものではありません。これは初期のTCP接続ネゴシエーション用に使用される省略時のバッファ・サイズです。SO_RCVBUFソケット・オプションを使用することによって、個々のアプリケーションはこの値を一時変更することができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「SOCKETSプログラミング」情報を参照してください。

***SAME**

TCP受信バッファ・サイズは現行の値から変更されません。

***DFT** 省略時のTCP受信バッファ・サイズとして8192(8K)が使用されます。

512-8388608

TCP受信バッファ・サイズに使用するバイト数を指定してください。

トップ

TCP送信バッファ・サイズ (TCPSNDBUF)

TCP送信バッファ・サイズを指定します。このパラメーターは、省略時の送信バッファ・サイズとして何を使用すべきかをTCPに知らせます。TCP送信バッファ・サイズには、TCPによってバッファに入れられる発信バイトの数の限度があります。いったんこの限度に達した場合には、追加のバイトを送信しようとする、バッファに入れられた発信バイトの数がこの限度以下になるまで、アプリケーションのブロックが起こることがあります。リモート・システムが送信されたデータを確認した時に、バッファに入れられた発信バイトの数が減らされます。

注:

1. この値は、SNA処理においてIPによって省略時の送信バッファ・サイズとしても使用されます。
2. UDPには構成可能な送信バッファ・サイズはありません。
3. このパラメーターを設定しても、TCP送信バッファのサイズが保証されるわけではありません。これは初期のTCP接続ネゴシエーション用に使用される省略時のバッファ・サイズです。SO_SNDBUFソケット・オプションを使用することによって、個々のアプリケーションはこの値を一時変更することができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「SOCKETSプログラミング」情報を参照してください。

***SAME**

TCP送信バッファ・サイズは現行の値から変更されません。

***DFT** 省略時のTCP送信バッファ・サイズとして8192 (8K)が使用されます。

512-8388608

TCP送信バッファ・サイズに使用するバイト数を指定してください。

トップ

TCP R1 RETRANSMISSION COUNT (TCPR1CNT)

TCP R1再送カウント値を指定します。このパラメーターは、TCPがIPからの別のネットワーク経路を要求する前に試みられるTCP再送の数を指定するカウンターです。

注: R1再送カウント値は、R2再送カウント値より小さくなければなりません。

***SAME**

TCP R1再送カウントは現行の設定値から変更されません。

***DFT** 省略時のTCP R1再送カウント値である3が使用されます。

1-15 TCP R1再送カウント値を指定してください。

トップ

TCP R2 RETRANSMISSION COUNT (TCPR2CNT)

TCP R2再送カウント値を指定します。このパラメーターは、TCPが接続が失われたと見なして再送を停止する前に試みられるTCP再送の数を指定するカウンターです。

注: R2再送カウント値は、R1再送カウント値より大きくなければなりません。

***SAME**

TCP R2再送カウン트는現行の設定値から変更されません。

***DFT** 省略時のTCP R2再送カウント値である16が使用されます。

2-16 TCP R2再送カウント値を指定します。

[トップ](#)

TCP最小再伝送時間 (TCPMINRTM)

TCP再送最小時間値を指定します。これは、伝送されたパケットが失われ、再送の必要があるとTCPが判断するまでに経過する最小時間（ミリ秒）です。

***SAME**

TCP再送最小時間値は現行値から変更されません。

***DFT** 250ミリ秒という省略時のTCP再送最小時間値が使用されます。

100-1000

TCP再送最小時間値に使用するミリ秒数を指定してください。

[トップ](#)

TCP クローズ待ち時間タイムアウト (TCPCLOTIMO)

TCP接続クローズ・タイムアウト値を指定します。このパラメーターは、接続のクローズ後にソケットの対（クライアントのIPアドレスとポート、サーバーのIPアドレスとポート）が再使用できない時間の長さ（秒数）を指示します。使用できる最大値は2 MSL（最大セグメント存続時間）、すなわち最大でも14400秒（4時間）です。

注: TCP接続クローズ・タイムアウト値を0に設定することは、タイマーが使用されないことを意味します。

***SAME**

TCP接続クローズ・タイムアウト値は現行の設定値から変更されません。

***DFT** 省略時のTCP接続クローズ・タイムアウト値である120秒が使用されます。

0-14400

TCP時間待機タイムアウト値に使用する秒数を指定してください。

[トップ](#)

TCP接続クローズ・メッセージ (TCPNNMSG)

TCP接続異常クローズがメッセージを介してQTCPメッセージ待ち行列に記録されるかどうかを指定します。TCP接続の異常クローズは次の理由で起こることがあります。

- 10分のCLOSE_WAIT_TIMEOUTのためにTCP接続がクローズされた。
- R2再試行しきい値を超えたためにTCP接続がクローズされた。
- キープアライブ・タイムアウト値を超えたためにTCP接続がクローズされた。

***SAME**

TCP接続のクローズに関するメッセージの値は現行値から変更されません。

***THRESHOLD**

多くても毎分1つのTCP接続異常クローズ・メッセージが記録されます。

TCPCNNMSG(*THRESHOLD)が初期値です。

***ALL** すべてのTCP接続異常クローズが記録されます。「多くの」接続クローズのメッセージが同時に記録されるような状態もあるということに注意してください。

***NONE**

TCP接続異常クローズは記録されません。

トップ

UDPチェックサム (UDPCKS)

UDP処理がチェックサムを生成して確認するかどうかを指定します。UDPCKS(*YES)を指定してUDPチェックサムを使用されるよう強くお奨めします。ユーザーが可能な最良パフォーマンスの獲得に関心があり、UDPチェックサム処理によって提供される保護には関心がない場合には、UDPCKS(*NO)を指定してください。

***SAME**

UDPデータのチェックサム保護の状況は現行の値から変更されません。

***YES** UDPデータにチェックサム保護が提供されます。UDPCKS(*YES)が初期値です。

***NO** UDPデータにチェックサム保護が提供されません。

トップ

パスMTUディスカバリー (IPPATHMTU)

このシステムでパスの最大伝送単位(MTU)ディスカバリー機能を使用可能にするかどうかを指定します。ネットワーク・スループットを最大化するために、パスMTUディスカバリーによって接続基準での動的MTU調整が可能になります。

要素1:使用可能化

***SAME**

パスMTUディスカバリー使用可能状況およびパスMTUディスカバリー時間間隔は現行の値から変更されません。

***YES** このシステムでパスMTUディスカバリーが使用可能になります。

***NO** このシステムでパスMTUディスカバリーは使用できません。

***DFT** 省略時のパスMTUディスカバリー使用可能状況は*YESで、省略時のパスMTUディスカバリー時間間隔は10分です。

要素2:間隔

TCP/IPプロトコル・スタックがパスMTUディスカバリーの結果をキャッシュする時間の長さを分数で指定します。時間間隔を超えた場合には、パスMTUが再検出されます。

10 パスMTUディスカバリー間隔として10分が使用されます。

***ONCE**

いったんパスMTUが検出された後は、それは再計算されません。

5-40320

パスMTUディスカバリー間隔を分数で指定してください。有効な値の範囲は5-40320分(28日)です。

注:

1. パスMTUディスカバリー間隔要素を指定するためには、最初の要素を*YESに設定しなければなりません。
2. パスMTUディスカバリー（使用可能な場合）はMTU値*IFCをもつ経路だけに実行されます。
3. UDPアプリケーションのパスMTUディスカバリーの使用は、SO_PATHMTUソケット・オプションを使用して個々のソケットのアプリケーションによって制御されます。

トップ

IPデータグラムの転送 (IPDTGFWD)

IP層が、異なるネットワーク間でインターネット・プロトコル(IP)データグラムを転送するかどうかを指定します。これはIP層がゲートウェイとして活動するかどうかを指定します。

注: IPは同じサブネット上のインターフェース間でデータグラムを転送しません。

ISERIESによるTCP/IPの実行には、RFC1009に定義されているような全ゲートウェイ機能は組み込まれていません。ゲートウェイ機能のサブセットはサポートされます。サポートされるゲートウェイ機能の1つとしてIPデータグラムの転送機能があります。

***SAME**

IPデータグラムの転送状況は現行の値から変更されません。

***NO** IPデータグラムは転送されません。IPDTGFWD(*NO)が初期値です。

***YES** IPデータグラムが転送されます。

トップ

IPソース経路指定 (IPSRCRTG)

IPソース経路指定(IPSRCRTG)の省略時の設定は*YESまたはオンです。IPソース経路指定をオンに切り替えた一部のファイアウォールはデータグラムを渡しません。このパラメーターによって、ユーザーの状況に応じてIPソース経路指定をオンまたはオフに切り替えることができます。

***SAME**

IPソース経路指定の値が前に指定されている場合には、その設定が有効のままとなります。IPソース経路指定の値が前に指定されていない場合には、*SAME値の使用は省略時値*YESまたはオンの値となります。

***NO** 値*NOは、IPソース経路指定をオフに切り替えます。

***YES** 値*YESは、IPソース経路指定をオンに切り替えます。IPSRCRTG(*YES)が初期値です。

トップ

IP再組み立てタイムアウト (IPRSBTIMO)

IPデータグラムの再組み立て時間を秒数で指定します。この時間を超えた場合には、部分的に再組み立てされたデータグラムが放棄され、ICMP時間が超過したことを示すメッセージがソース・ホストに送られません。

***SAME**

組み立て時間は現行の設定値から変更されません。

***DFT** 省略時の組み立て時間として10秒が使用されます。

5-120 IP再組み立て時間に使用する秒数を指定します。

[トップ](#)

IP有効時間 (ホップ限界) (IPTTL)

省略時のTTL値を指定します。IPデータグラムの残り時間の値は、IPデータグラムが活動状態のままのホップの数についての相対的な限界を指定します。残り時間の値は、インターネットの経路指定ループを防止するために各ゲートウェイによって減分される「ホップ・カウント」の役割をします。

注: このパラメーターは残り時間の値として指定されますが、これは時間の値としては使用されません。これはカウンターとして使用されます。標準の名称はRFCに指定されている通り残り時間です。

***SAME**

残り時間の値は現行の設定値から変更されません。

注: この省略時のIPデータグラムの有効時間の値は、IPマルチキャスト・グループ・アドレスに送られるデータグラムには使用されません。IPマルチキャスト・グループに送られるデータグラムの省略時のIPデータグラム有効時間値は、インターネット標準で指定されている通り常に1です。個々のマルチキャスト・アプリケーションでは、IP_MULTICAST_TTLソケット・オプションを使用することによって、この省略時値を一時変更することができます。

***DFT** 省略時の残り時間として64が使用されます。

1-255 IP残り時間の値を指定してください。

[トップ](#)

IP QOS使用可能化 (IPQOSENB)

QUALITY OF SERVICE (QOS)とIP TYPE OF SERVICE(TOS)のどちらが使用中であるか、あるいはこの2つのどちらも使用中でないかを指定します。

***SAME**

QOS使用可能化の値は現行の値から変更されません。

***TOS** IPヘッダーのTOSバイトを使用します。

***YES** QOSを使用します。

***NO** QOSまたはTOSは使用しません。これが初期値です。

[トップ](#)

IP非活動ゲートウェイの検出 (IPDEADGATE)

このシステムで非活動ゲートウェイ検出を使用可能にするかどうかを指定します。非活動ゲートウェイ検出は、すべての接続ゲートウェイのポーリングと関連した1つのメカニズムです。ポーリングに対する応答が受信されない場合には、そのゲートウェイを使用しているすべての経路が非活動化されます。非活動としてマークされたゲートウェイにはポーリングが続けられ、それが再度応答した時に、そのゲートウェイが再活動化されます。

要素1:使用可能化

***SAME**

非活動ゲートウェイ検出の使用可能状況および非活動ゲートウェイの間隔は、現行の値から変更されません。

***YES** 非活動ゲートウェイ検出はこのシステムで使用可能となります。

***NO** 非活動ゲートウェイ検出はこのシステム用で使用できません。

***DFT** 省略時の非活動ゲートウェイ検出の使用可能状況は*YESで、省略時の非活動ゲートウェイ検出時間間隔は2分です。

要素2:間隔

TCP/IPプロトコル・スタックが非活動ゲートウェイ検出のポーリングの間に待機する時間の長さ(分数)を指定します。この時間間隔を超えた時に、ゲートウェイがポーリングされます。

2 2分の非活動ゲートウェイ検出間隔が使用されます。

1-60 非活動ゲートウェイ検出間隔を分数で指定してください。

注:

1. 非活動ゲートウェイ検出間隔要素を指定するためには、最初の要素を*YESに設定しなければなりません。

[トップ](#)

ARPキャッシュ・タイムアウト (ARPTIMO)

ARPキャッシュのタイムアウト値を分数で指定します。タイムアウト値の目的は、日付の古くなったキャッシュ項目をARPキャッシュから取り除くことにあります。

***SAME**

省略時のARPキャッシュ・タイムアウトの間隔は現行の設定値から変更されません。

***DFT** ARPキャッシュ・タイムアウト間隔として省略時の15分が使用されます。

1-1440

ARPキャッシュ・タイムアウト間隔を分で指定します。

[トップ](#)

ECNを使用可能にする (ECN)

明示的輻輳通知(ECN)を使用可能にするかどうかを指定します。

ECNが使用可能な場合には、ルーターは待ち行列のオーバーフロー前に輻輳の終了ノードを通知することができます。ECNが使用できない場合には、待ち行列のオーバーフローのためパケットが失われた時、終了ノードは輻輳を検出することができるだけです。

***SAME**

ECNは現行値から変更されません。

***NO** ECNは、システムで使用できません。

***YES** ECNは、システムで使用可能です。

[トップ](#)

ネットワーク・ファイル・キャッシュ (NFC)

このシステムでネットワーク・ファイル・キャッシュ(NFC)機能が使用可能になるかどうかを指定します。ネットワーク・ファイル・キャッシュは、FRCA（高速応答キャッシュ・アクセラレーター）のサポートのために使用されます。FRCAは、WEBサーバーまたは他のTCPサーバーが非セキュア静的コンテンツのサーバー処理を行う際のパフォーマンスを劇的に向上しました。

要素1:使用可能化

***SAME**

NFC使用可能化状況は現行値から変更されません。

***YES** ネットワーク・ファイル・キャッシュは、このシステムで使用可能になります。

***NO** ネットワーク・ファイル・キャッシュは、このシステムで使用可能になりません。

***DFT** 省略時のNFC使用可能化状況は*YESです。この場合、キャッシュ・サイズには省略時の値の10MBが取られ、キャッシュ・タイムアウトは300秒です。

***CLEAR**

ネットワーク・ファイル・キャッシュ全体を即時に消去することを指定します。キャッシュが消去されると、前のネットワーク・ファイル・キャッシュ値が保存されます。

要素2:キャッシュ・タイムアウト

ファイルをネットワーク・ファイル・キャッシュでキャッシュできる最大時間（秒数）を指定します。これにより、ファイルは一定間隔で更新されるようになります。

注:キャッシュ時間は、NFCが使用可能でない時に指定できますが、NFCが使用可能になるまでは有効となりません。

SAME キャッシュ・ファイル・タイムアウトは現行値から変更されません。

***NOMAX**

キャッシュ・ファイル項目はタイムアウトになりません。

30-604800

ファイル・キャッシュ時間を秒数で指定してください。最大値604800秒は1週間となります。

要素3:キャッシュ・サイズ

システム全体に渡ってNFCによって使用できる記憶域の最大容量を指定します。これは、ファイルをロードするためにすべてのTCPサーバーによって使用される記憶域の累算です。

注:キャッシュ・ファイル・サイズは、NFCが使用可能でない時に指定できますが、NFCが使用可能になるまでは有効となりません。

SAME キャッシュ・ファイル・サイズは現行値から変更されません。

10-100000

ファイル・キャッシュ・サイズに使用するメガバイト数を指定してください。

[トップ](#)

プロトコル・エラーのログ (LOGPCLERR)

ログ・プロトコル・エラーを指定します。このパラメーターにより、ユーザーはTCP/IPデータの処理中に起こったプロトコル・エラーを記録することができます。これらのTCP/IPスタック層機能はこのパラメーターを使用して、プロトコル特有のエラー (IP, ICMP, ARP, およびNAM) を記録するかどうかを判別します。TCPおよびUDP はプロトコル・エラーを記録しません。

7004エラー参照コードは、LOGPCLERR(*YES)オプションが指定され、インバウンド・データグラムが静かに破棄された時に記録されます。静かに破棄されるということは、データグラムが見出しエラーのために破棄された時にICMPメッセージが起点ホストに戻されないことを意味します。このようなデータグラムの例としては、無効なチェックサムおよび無効な宛先アドレスをもつデータグラムがあります。

エラー参照コードは単なる通知メッセージです。このエラー参照コードの結果として何も処置を行ってはありません。これはリモート装置またはTCP/IPネットワークの問題分析に役立ちます。

注: これらのエラー状態はAPARを使用して処理することはできません。

エラー状態がネットワークの問題を判別するためにTCP/IPデータ (データグラムなど) の記録を必要とする場合には、プロトコル・エラーの記録パラメーターを使用すべきです。

データはシステムのエラー・ログに記録されます。このエラー・ログはシステム保守ツール開始(STRSST)コマンドによって使用可能です。

***SAME**

プロトコル・エラーの記録の状況は現行の値から変更されません。LOGPCLERR(*NO)が出荷時の値です。

***NO** プロトコル・エラーは記録されません。

***YES** プロトコル・エラーが記録されます。

[トップ](#)

IP QOSデータグラムのバッチ化 (IPQOSBCH)

このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

[トップ](#)

IP QOSタイマーの解像度 (IPQOSTMR)

このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

CHGTCPAの例

例1: UDPチェックサム検査を指定したTCP/IPの使用

```
CHGTCPA  UDPCKS(*YES)
```

このコマンドは、UDPチェックサムをUDPデータに対して実行することを指示します。

例2: 選択したIPパラメーターの使用

```
CHGTCPA  IPDTGFW(*YES)  IPTTL(5)  IPRSBTMO(60)
```

このコマンドは、TCP/IPは以下の特性をもつことを指示します。

- IPデータグラムは異なるサブネットのインターフェース間で転送されます。
- IP存続時間(TTL)は5に設定されます。
- IP再組み立てタイムアウトは60に設定されます。

例3: 選択したTCPパラメーターの使用

```
CHGTCPA  TCPKEEPALV(100)  TCPURGPTR(*RFC)  TCPRCVBUF(16000)
```

このコマンドは、以下を指示します。

- TCPは100分ごとに接続の他サイドをプローブします。
- TCPヘッダー中のTCP緊急ポインターは、緊急データの最後のバイトを指示します(RFC規則)。
- TCP省略時受信バッファ・サイズは16000バイトです。

例4: IPソース経路指定のオフへの変更

```
CHGTCPA  IPSRCRTG(*NO)
```

このコマンドは、IPソース経路指定はもうできなくなります。オンにされたIPソース経路指定で見つかったすべてのIPデータグラムは拒否されます。

例5: R1/R2カウントおよびQOS属性の変更

```
CHGTCPA  TCPRICNT(3)  TCPR2CNT(10)  TCPCLOTIMO(300)
          IPQOSEN(*YES)  IPDEADGATE(*YES)
```

このコマンドは、以下を指示します。

- TCPは3つの否定応答を送信した後で別のネットワーク経路を要求するように設定されています。
- TCPは試行が10回失敗した後で否定応答パケットの再送を停止するように設定されています。
- TCPはクローズされた接続ソケットのペアを再利用する前に300秒（5分）待つに設定されています。
- QUALITY OF SERVICE(QOS)が使用可能になります。
- デッド・ゲートウェイ検出が使用可能になります。

エラー・メッセージ: CHGTCPA

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP15A3

TCP/IP属性は変更されなかった。

TCP15A5

メンバー&3のアクセス中にエラーが起こった。

TCP15A6

属性ファイルのキーワード&4が見つからない。

TCP15A7

属性ファイルのキーワード&4が正しくない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9503

ライブラリー&2のファイル&3が使用できない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPドメインの変更 (CHGTCPDMN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・ドメインおよびリモートDNS情報の変更

TCP/IPドメイン情報の変更(CHGTCPDMN)コマンドは、このシステムのTCP/IPホストおよびドメイン名を指定して、このシステムのドメイン・ネーム・サーバー(DNS)情報を構成するために使用します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
HOSTNAME	ホスト名	文字値, *SAME , *NONE	オプション
DMNNAME	ドメイン名	文字値, *SAME , *NONE	オプション
DMNSCHLIST	ドメイン検索リスト	文字値, *SAME , *DFT	オプション
HOSTSCHPTY	ホスト名検索優先順位	*REMOTE, *LOCAL, *SAME	オプション
INTNETADR	ドメイン・ネーム・サーバー	要素リスト	オプション
	要素 1: IPアドレス	文字値, *SAME , *NONE	
	要素 2:	文字値, *SAME , *NONE	
	要素 3:	文字値, *SAME , *NONE	
PORT	ポート	1-65535, *SAME	オプション
PROTOCOL	プロトコル	*UDP, *TCP, *SAME	オプション
INLDMNSVR	初期ドメイン・ネーム・サーバー	*FIRST, *ROTATE, *SAME	オプション
DMNSVRRTY	ドメイン・ネーム・サーバー再試行	要素リスト	オプション
	要素 1: 再試行回数	1-99, *SAME	
	要素 2: 時間間隔	1-99, *SAME	

[トップ](#)

ホスト名 (HOSTNAME)

このシステムのTCP/IPホスト名を指定します。

注: また、このシステムのTCP/IPホスト名は、ローカル・ホスト・テーブルまたはINTNETADRパラメーターに指定されたドメイン・ネーム・サーバー(DNS)にも定義しなければなりません。ドメイン・ネーム・サーバー(DNS)を指定しない場合には、ローカルTCP/IPホスト・テーブルが使用されます。

***SAME**

TCP/IPホスト名が前に設定されている場合には、それは変更されません。

***NONE**

ホスト名はこのシステムに定義されません。

文字値 このシステムのTCP/IPホスト名を指定します。

HOSTNAMEパラメーターを使用してTCP/IPホスト名を指定する例("ASAC1"はローカルOS/400システムの名前です)。

```
CHGTCPDMN HOSTNAME ('ASAC1')
```

[トップ](#)

ドメイン名 (DMNNAME)

このISERIESホストがメンバーとなっているTCP/IPドメインの名前を指定してください。

***SAME**

TCP/IPドメイン名が前に設定されている場合には、それは変更されません。

***NONE**

TCP/IPドメイン名はこのシステムに定義されません。

文字値 このシステムのTCP/IPドメイン名を指定します。

このシステムのTCP/IPドメイン名を指定するためのDMNNAMEパラメーターの使用法の例は次の通りです。

```
CHGTCPDMN DMNNAME ('DOM1.ABC.COM')
```

[トップ](#)

ドメイン検索リスト (DMNSCHLIST)

完全修飾ドメイン名(FQDN)が指定されない場合に検索するTCP/IPドメインを指定します。検索リスト内の最初の名前は、すべての検索における省略時のドメイン名です。

***SAME**

ドメイン検索リストが前に設定されていた場合には、変更されません。それ以外の場合には、*DFTが使用されます。

***DFT** 省略時の動作は、ローカル・ドメイン・ツリーを検索することです。ローカル・ドメイン・ツリーは、システムTCP/IPドメイン名(DMNNAME)とドメインに対して複数のパーツがあるそれぞれの親ドメインです。システムTCP/IPドメイン名は、すべての検索における省略時のドメイン名です。

文字値 検索するドメイン名のリストを指定してください。最高6つのドメイン名をスペースで区切り、アポストロフィで囲んで指定することができます。検索リスト内の最初のドメイン名は、すべての検索における省略時のドメイン名です。ドメイン検索リストが定義された場合には、ローカル・システムTCP/IPドメイン名(DMNNAME)はその検索リストの中で自動的に使用されないことに注意してください。検索リストに定義されたドメインの親ドメインは検索されません。親ドメインを検索したい場合には、それを検索リストの中で明示的に定義する必要があります。

DMNSCHLISTパラメーターを使用してこのシステムのドメイン検索リストを指定する例：

ホスト名検索優先順位 (HOSTSCHPTY)

TCP/IPホスト名の矛盾を分析解決するためにドメイン・ネーム・サーバー(DNS)を最初に検索するか、あるいはローカルTCP/IPホスト・テーブルを最初に検索するかを指定します。

***SAME**

値が前に設定されていれば、変更されません。値が前に設定されていない場合には、*REMOTEが使用されます。

***REMOTE**

ローカルTCP/IPホスト・テーブルの検索の前にTCP/IPホスト名を分析解決するためにこのシステムでリモートまたはローカルのドメイン・ネーム・サービス(DNS)を検索したい場合には、*REMOTEを指定してください。使用するドメイン・ネーム・サーバー(DNS)は、IPアドレス(INTNETADR)パラメーターによって指定されます。

***LOCAL**

TCP/IPホスト名を分析解決するために、このシステム上にあるTCP/IPホスト・テーブルをこのシステムで最初に検索したい場合には、*LOCALを指定してください。

IPアドレス (INTNETADR)

このパラメーターを使用して、このシステムで使用するドメイン・ネーム・サーバー(DNS)を最大3つまで指定します。ドメイン・ネーム・サーバー(DNS)はそのIPアドレスを入力することによって指定します。ドメイン・ネーム・サーバー(DNS) IPアドレスの追加数は、なし、1、2、または3とすることができます。

リストの最初のドメイン・ネーム・サーバー(DNS)が応答しない場合には、リストの2番目のDNSサーバーに連絡されます。2番目のDNSが応答しない場合には、3番目のDNSサーバーに連絡されます。

リモート・ドメイン・ネーム・サーバー(DNS)のIPアドレスは10進数形式であり、最大15桁でなければなりません。

これはINTNETADRパラメーターの使用法の例であり、このシステムで使用する1次および2次のドメイン・ネーム・サーバーを指定します。

```
CHGTCPDMN INTNETADR('9.131.42.251' '9.131.39.251')
```

ポート (PORT)

このパラメーターは、INTNETADRパラメーターにリストされた1つまたは複数のドメイン・ネーム・サーバー(DNS)と連絡するために使用されるTCP/IPポート番号を指定するのに使用します。53はこの目的で使用する割り当て済みポートです。

注: ドメイン・ネーム・サーバー(DNS)で使用するための有名なポート53以外のTCP/IPポート番号を使用すると、TCP/IP通信の問題が起こる原因となります。別のTCP/IPアプリケーションで使用するために予約されたポート番号を不用意に使用してしまうことがあります。

***SAME**

リモート・ポート番号が前に設定されている場合には、それは変更されません。リモート・ポート番号が前に設定されていない場合には、リモート・ポート番号53が使用されます。

1-65532R

INTNETADRパラメーターに指定されたドメイン・ネーム・サーバー(DNS)と連絡するために使用するリモート・ポート番号を指定します。

[トップ](#)

プロトコル (PROTOCOL)

INTNETADRパラメーターに指定されたドメイン・ネーム・サーバー(DNS)との通信に使用するTCP/IPプロトコルを指定します。このためには、通常はユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)が使用されます。ドメイン・ネーム・サーバー(DNS)が伝送制御プロトコル(TCP)を使用するよう特に構成されている場合には、*TCPだけを使用してください。

***SAME**

プロトコル値が前に設定されている場合には、それは変更されません。プロトコル値が前に設定されていない場合には、プロトコル値*UDPが使用されます。

***UDP** INTNETADRパラメーターに指定されたドメイン・ネーム・サーバー(DNS)と通信するためのユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)の使用を指定します。

***TCP** INTNETADRパラメーターに指定されたドメイン・ネーム・サーバー(DNS)と通信するための伝送制御プロトコル(TCP)の使用を指定します。

[トップ](#)

初期ドメイン・ネーム・サーバー (INLDMNSVR)

初期ドメイン・ネーム・サーバーの選択方法を指定します。このオプションは、最初に構成されたドメイン・ネーム・サーバー(DNS)を常に最初に照会する必要があるか、あるいは複数構成されている場合に、照会する最初のネーム・サーバーをラウンドロビン方式で循環させる必要があるかを決定します。この循環によって、構成済みのネーム・サーバーで負荷を平衡させる単純な形式が得られます。

***SAME**

初期ドメイン・ネーム・サーバーの選択値が前に設定されている場合には、変更されません。初期ドメイン・ネーム・サーバーの選択値が前に設定されていない場合には、*FIRSTの値が使用されます。

***FIRST**

最初に構成されたドメイン・ネーム・サーバーが最初に照会されます。常にドメイン・ネーム・サーバー(DNS)を構成された順に照会します。

***ROTATE**

構成済みのネーム・サーバーの全体をラウンドロビン方式で循環させ、どれを最初に照会すべきかを決定します。

ドメイン・ネーム・サーバー再試行 (DMNSVRRTY)

ドメイン・ネーム・サーバー再試行(DMNSVRRTY)パラメーターは2つの要素、すなわち、再試行回数と時間間隔で構成されています。

最初の要素の再試行回数は、最初の試行が正常に実行されない時に、INTNETADRパラメーターに指定された各ドメイン・ネーム・サーバー(DNS)との通信を確立するために行われる追加の試行回数を指定します。

要素1:再試行回数

*SAME

これが省略時の値です。再試行回数の値が前に設定されている場合には、それは変更されません。再試行回数の値が前に設定されていない場合には、2の再試行回数値が使用されます。

1-99 通信の再試行回数を指定します。

要素2:時間間隔再試行を開始する前にこのシステムが待機する時間（秒数）を指定します。

*SAME

時間間隔の値が前に設定されている場合には、それは変更されません。時間間隔の値が前に設定されていない場合には、2の時間間隔値が使用されます。

1-99 再試行の相互間の時間間隔を秒数で指定します。

再試行の回数を3に、各再試行の間隔を10秒に設定するためのドメイン・ネーム・サーバー再試行(DMNSVRRTY)パラメーターの使用法の例は次の通りです。

```
CHGTCPDMN DMNSVRRTY (3 10)
```

CHGTCPDMNの例

例1:ホスト名およびドメイン名の変更

```
CHGTCPDMN HOSTNAME(RS021) DMNNAME(ENDICOTT.IBM.COM)
```

このコマンドは、ホスト名およびドメイン名を変更します。

例2:ドメイン検索リストの変更

```
CHGTCPDMN DMNSCHLIST('ENDICOTT.IBM.COM
                    ROCHESTER.IBM.COM
                    IBM.COM')
```

このコマンドは、ドメイン検索リストが3つのドメイン名(ENDICOTT.IBM.COM, ROCHESTER.IBM.COM, およびIBM.COM)になるように変更します。

例3:ドメイン・ネーム・サーバー・ローテーションの変更

```
CHGTCPDMN INLDMNSVR(*ROTATE)
```

このコマンドは、初期ドメイン・ネーム・サーバー選択を変更するので、ラウンドロビン方式で構成済みネーム・サーバー間で交替されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

TCP/IP ホスト・テーブル項目の変更 (CHGTCPHTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPホスト・テーブル項目の変更(CHGTCPHTE)コマンドを使用して、ローカル・ホスト・テーブルに既存のホスト・テーブル項目のホスト名およびテキスト記述フィールドを変更します。ホスト・テーブル項目は、1つのIPアドレス、最大4つのホスト名、および1つのテキスト記述から成っています。

次のホスト・テーブル・コマンドも参照してください。

- TCP/IPホスト・テーブル項目追加(ADDTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルに新しい項目を追加します。
- TCP/IPホスト・テーブルの組み合わせ(MRGTCPHT)コマンドは、ホスト名、IPアドレス、およびテキスト注記項目を物理ファイル・メンバーからローカル・ホスト・テーブルに組み合わせます。ローカル・ホスト・テーブル全体をユーザー指定の物理ファイル・メンバー中のホスト・テーブルで置き換えることのできる置き換えオプションも提供されています。
- TCP/IPホスト・テーブル項目の名前変更(RNMTCPHTE)コマンドは、ホスト・テーブル項目のIPアドレスを別のIPアドレスに名前変更します。
- TCP/IPホスト・テーブル項目除去(RMVTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルから項目全体を除去します。

CHGTCPHTEコマンドにより、特定のIPアドレスと関連した最小で0、最大で4つのホスト名を変更することができます。このコマンドを使用して、特定のIPアドレスと関連したホスト名値を追加または除去することもできます。ホスト名の値を除去するためには、ホスト名として*BLANKを指定してください。ホスト・テーブル項目のすべてのホスト名を*BLANKに設定することはできません。

指定されたIPアドレスによってCHGTCPHTEコマンドのプロンプトが出された場合には、IPアドレスと関連したホスト・テーブル項目の現行ホスト名およびテキスト記述が該当するプロンプト・フィールドに表示されます。

リモート・ネーム・サーバーがISERIESによって使用中である場合には、ホスト名とIPアドレスの間の分析解決のために使用される検索順序（リモート・ネーム・サーバーまたはローカル・ホスト・テーブルのどちらが最初に検索されるか）は、初回検索値がリモート・ネーム・サーバーの構成パネルでどのように構成されているかによって異なります。検索順序を変更するためには、TCP/IP構成(CFGTCP)コマンドでオプション13を使用してください。

TCP/IPホスト・テーブルはループバック項目で出荷されます。この項目は127.0.0.1のIPアドレスおよび2つのホスト名LOOPBACKおよびLOCALHOSTをもっています。ループバック・ホスト名は、最初のバイトの値が127であるIPアドレスとのみ対応させることができます。

TCP/IPを使用したAPPCの関連情報

TCP/IPを使用したAPPC(ANYNET)は、ホスト名を使用して、ロケーション名をインターネット・アドレスにマップします。ホスト名は次の形式でなければなりません。

LOCATION.NETID.SNA.IBM.COM

ここで、ロケーションはプログラムがオープンされるリモート・ロケーションで、*NETID*はこの接続のネットワーク識別コードです。*SNA.IBM.COM*は、これをTCP/IPドメイン上のAPPCとして指定する修飾子です。

ロケーション名は、ホスト名には入れることができない文字をサポートしています（たとえば、¥（円）、@（単価）、および#（番号））。したがって、APPCアプリケーションは、TCP/IPホスト名の構文を満たすロケーションに対してだけオープンできます。これにより、TCP/IPを使用したAPPCで使用されるロケーション名はA-Z（大文字および小文字）と0-9に限定されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須、キー、定位置1
HOSTNAME	ホスト名	値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	文字値, *SAME, *BLANK	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

ローカル・ホスト・テーブル内で変更される1つまたは複数のホスト名またはテキスト記述フィールドと関連したIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスは*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定されます。ここで*NNN*は0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

ホスト名 (HOSTNAME)

IPアドレスと対応するホスト名を指定します。ホスト名は、短形式または全ドメイン・バージョンの名前のいずれかとすることができます。通常は、ユーザーのローカル・ネットワーク内の固有の1つの短縮名を定義し、またインターネット内の固有の全ドメイン・バージョンのホスト名を定義します。IPアドレスと関連づけるために、1-4個の異なるホスト名を指定してください。ホスト名は最大255文字までの長さとすることができます。

ドメイン名またはホスト名は、1-255個の文字をもつテキスト・ストリングとすることができます。ドメイン名はピリオドで区切られた1つまたは複数のラベルから構成されます。各ラベルには最大63文字までを入れることができます。各ラベルの最初の文字は英字または数字でなければなりません。各ラベルの最後の文字は英字、数字、またはピリオドでなければなりません。ドメイン名の中では次の文字が使用できます。

- 英字A-Z

- 数字0-9
- 下線(_)
- マイナス符号(-)
- ピリオド(.)。ピリオドは、ドメイン・スタイルの名前のラベルを区切る場合、あるいはドメイン名の最後の文字としてのみ使用することができます。(RFC 1034を参照してください)。ドメイン名に2つの連続したピリオドを含めることはできません。

注: これらの文字は構文文字セット (文字セット番号640) の一部です。この文字セットは、一般に、不変文字とも呼ばれています。

その他のドメイン名およびホスト名の規則には次のものがあります。

- 大文字および小文字を使用することができますが、どちらを使用しても特別な意味はありません。ホスト名(HOSTNAME)は、文字および数字の組み合わせに応じて大文字に変換される場合があります。HOSTNAMEをアポストロフィ(')で囲んだ場合には、大文字小文字の別は入力時の状態が維持されます。
- IPアドレスのホスト・テーブルを検索した時に戻されるホスト名は、そのIPアドレスと関連のある最初のホスト名です。たとえば、9.130.38.187というアドレスがROCHESTER, JOHN,およびRCHAS100という名前でホスト・テーブルに定義されている場合には、ROCHESTERという名前が戻されます。他の2つのホスト名は、このタイプの検索では使用されません。しかし、これらのホスト名は、JOHNおよびRCHAS100という名前と関連のあるIPアドレスを見つけるためにホスト・テーブルを検索する時に使用されます。
- ドメイン名のラベルを12文字に制限してみてください。短いラベルほど容易に覚えられます。
- 変更および拡張を予測した拡張子を使用できるようにする階層的な名前を使用したほうが一般には実際的です。ドメイン名は、通常、それらを割り当てるために使用される権限または階層の代行を反映します。たとえば、SYS1.MFG.ABC.COMという名前は次のように分解することができます。

COM すべての商用ネットワーク。

ABC.COM

ABC社の商用ネットワーク内のすべてのシステム。

MFG.ABC.COM

ABC社の商用ネットワーク内のすべての製造システム。

SYS1.MFG.ABC.COM

会社の商用ネットワークの製造区域内のSYS1という名前のホスト。

COMの指定は、インターネットへの接続時に規則によって使用されるいくつかのドメイン名の1つです。この規則に従う他のドメイン名のいくつかは次の通りです。

COM 商業組織

EDU 教育団体

GOV 政府機関

MIL ミリタリー・グループ

NET 主要ネットワーク・サポート・センター

ORG 上記以外の組織

ARPA 一時ARPANETドメイン

国別または地域コード

USA以外の国別または地域コード

***SAME**

このホスト名値は修正されません。

注: *SAMEが指定されていて、他のホスト名の値が指定されない場合には、ホスト名の値のすべては同じままになっています。ホスト・テーブル項目が、識別される2つ以上のホスト名をもっている場合、および最初のホスト名は指定されたがその他の要素の値が指定されない場合には、残りのホスト名は変更されません。

***BLANK**

このホスト名の値は、前に存在している場合にはブランクに変更されます。

名前 現行のホスト名の値にとって代わる指定のIPアドレスと関連づけるホスト名を指定してください。TCP/IPを使用したAPPCを実行中の場合には、**名前**は次の形式となります。

LOCATION.NETID.SNA.IBM.COM

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

このホスト・テーブル項目と関連した注記を指定します。

注: コード・ページが作成されたシステムとは異なるコード・ページを使用してホスト・テーブルをシステムにコピーする場合には、注記の中で特定の文字を使用することを避けるように指示されます。ホスト・テーブル項目の注記は、それらを構文文字セット（不変文字）の中の文字に限定すると、より可搬性が増します。

***SAME**

このホスト・テーブル項目のテキスト記述フィールドは修正されません。

***BLANK**

このホスト・テーブル項目のテキスト記述フィールドはブランクに変更されます。

文字値 指定したIPアドレスと関連するテキスト記述フィールドを指定してください。注記には最大64文字を入れることができます。

トップ

CHGTCPHTEの例

例1:ホスト名の変更

```
CHGTCPHTE  INTNETADR('132.28.71.5')
           HOSTNAME((*SAME) (*SAME) (NEWAS400HOST))
           TEXT(*BLANK)
```

このコマンドは、IPアドレス132.28.71.5と関連付けられた3番目のホスト名をNEWAS400HOSTに変更しますが、1番目、2番目、または4番目のホスト名は変更されません。このホスト・テーブル項目の説明コメントのテキストはブランクに設定されます。

例2:全ホスト名の変更

```
CHGTCPHTE  INTNETADR('9.130.25.21')
           HOSTNAME((MYHOST) (MYHOST.MYNET))
```



```
(MYHOST.MYNET.MYCORP)
(MYHOST.MYNET.MYCORP.MYFIELD))
TEXT(*SAME)
```

このコマンドは、IPアドレスの121.14.32.5と関連付けられたすべてのホスト名を変更します。最初のホスト名は短い形式(MYHOST)で指定されています。4番目のホスト名は完全修飾形式(MYHOST.MYNET.MYCORP.MYFIELD)で指定されています。このホスト・テーブル項目の説明コメントは変更されません。

例3:ホスト名およびテキスト記述の変更

```
CHGTCPHTE  INTNETADR('132.28.71.5')
           HOSTNAME((AS400ETH.SALES.ABC.COM)
                    (AS400ETH.SALES.ABC) (*BLANK) (*BLANK))
           TEXT('THIS ENTRY UPDATED ON 19 FEB 1994 BY T.J.')
```

このコマンドは、IPアドレス132.28.71.5と関連付けられた1番目および2番目のホスト名をAS400ETH.SALES.ABC.COMおよびAS400ETH.SALES.ABCに変更します。3番目および4番目のホスト名は、存在している場合は、ブランクに変更されます。このホスト・テーブル項目の説明コメントは'THIS ENTRY UPDATED ON 19 FEB 1994 BY T.J.'に変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGTCPHTE

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1903

指定されたホスト名が正しくない。

TCP1907

IPアドレス項目&1が存在しない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1910

LOOPBACK IPアドレス&1が正しくない。

TCP1929

ホスト・テーブルが使用できない。

TCP1936

IPアドレス&1のすべてのホスト名がブランクになっている。

[トップ](#)

TCP/IPインターフェースの変更 (CHGTCPIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPインターフェースの変更(CHGTCPIFC)コマンドを使用して、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成の既存のインターフェースを変更します。CHGTCPIFCコマンドによって定義されるインターフェースは論理インターフェースです。物理インターフェースではありません。各インターフェースは回線記述と関連づけられます。回線記述はISERIESからTCP/IPネットワークへの物理接続です。

ISERIESでのTCP/IPの実行では、マルチホーミングがサポートされます。これによって、ユーザーは回線記述ごとに単一インターフェースまたは複数インターフェースのいずれかを指定することができます。

ISERIESは、次の任意の1つまたは組み合わせとすることができます。

- 1つの通信回線上の1つのネットワークにおける単一ホスト
- 同じ通信回線を使用する 同じ ネットワーク上の複数ホスト
- 同じ通信回線を使用する 異なる ネットワーク上の複数ホスト
- 複数の通信回線を使用する同じネットワーク上の複数ホスト
- 複数の通信回線を使用する異なるネットワーク上の複数ホスト

注:

1. あるインターフェースに関連した経路またはリモート・システム情報(RSI)を無効にするインターフェースの値を変更しようとしても、その変更は行えません。
2. SNMPでは、インターフェースは物理インターフェースです。物理インターフェースは入出力プロセッサ(IOP)に直接関連しています。
3. 127.0.0.1の省略時のインターフェースをもつインターフェース・テーブルが出荷されます。127.0.0.1インターフェースと関連した回線記述値は*LOOPBACKです。IPアドレス127.0.0.1とホスト名LOOPBACKおよびLOCALHOSTをもつ項目のあるホスト・テーブルも出荷されます。

警告: X.25インターフェースを開始する前に、パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)を使用する非DDN X.25インターフェースのリモート・システム情報(RSI)が構成されていることを確認してください。これを行うためには、TCP/IPリモート・システム情報追加 (ADDTCPRSI)コマンドを使用してください。X.25ネットワーク上のリモート・システムからの着信データは、インターフェースが開始される前にPVCのRSI項目がX.25インターフェース上に構成されていなければ、処理されません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- このコマンドを使用して変更できるのは、特定の値だけです。変更できる値は、インターフェースの状況、従属経路の状況、および構成されたリモート・システム情報に依存します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, キー, 定位置 1
LIND	回線記述	名前, <u>*SAME</u> , *VIRTUALIP, *LOOPBACK, *OPC	オプション, 定位置 2
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, <u>*SAME</u> , *HOST	オプション, 定位置 3
LCLIFC	関連したローカル・インターフェース	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
TOS	TYPE OF SERVICE	<u>*SAME</u> , *MINDELAY, *MAXTHRPUT, *MAXRLB, *MINCOST, *NORMAL	オプション
MTU	最大送信単位	576-16388, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
AUTOSTART	自動開始	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
PVCLGLCHLI	PVC論理チャンネル識別コード	値 (最大 64 回の繰り返し): 文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
IDLVCTTIMO	X.25アイドル回線タイムアウト	1-600, <u>*SAME</u>	オプション
MAXSVC	X.25最大回線接続	0-64, <u>*SAME</u>	オプション
DDN	X.25 DDNインターフェース	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
BITSEQ	TRLANビット順序づけ	<u>*SAME</u> , *MSB, *LSB	オプション

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

IPアドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

回線記述 (LIND)

変更するインターフェースと関連した回線記述の名前を指定します。次の条件はユーザーが定義するインターフェース・タイプが基礎になっています。

トークンリング

この名前は、トークンリング・ネットワーク回線記述作成(CRTLINTRN)コマンドで事前に定義しておかなければなりません。

X.25 この名前は、回線記述作成(X.25) (CRTLINX25)コマンドで事前に定義しておかなければなりません。

イーサネット

この名前はETHERNET回線記述作成(CRTLINETH)コマンドで事前に定義しておかなければなりません。

DDI この名前は回線記述作成 (DDIネットワーク) (CRTLINDDI)コマンドで事前に定義しておかなければなりません。

フレーム・リレー

この名前は、フレーム・リレー・ネットワーク回線記述作成(CRTLINFR)コマンドで事前に定義しておかなければなりません。

無線 この名前は、無線ネットワーク回線記述作成(CRTLINWLS)コマンドで事前に定義しておかなければなりません。

平衡型(TDLC)

回線記述(TDLC)作成(CRTLINTDLC)コマンドで前もって名前を定義しておかなければなりません。

TCP/IPは、これらのネットワーク・インターフェース(NWI)に接続された特定の回線記述で使用することもできます。

- フレーム・リレー、トークンリング、ETHERNET,またはDDI回線記述を使用したフレーム・リレー NWI。
 - フレーム・リレーNWIは、ネットワーク・インターフェース・フレーム・リレー・ネットワーク作成 (CRTNWIFR)コマンドを使用して作成されます。
 - 回線記述は、該当する回線作成コマンドを使用して作成され、NWIおよびNWIDLICIパラメーターを指定することによってフレーム・リレーNWIに接続されます。

***SAME**

このインターフェースには既存の同じ回線記述が使用されます。

***VIRTUALIP**

仮想インターフェースは回線のないインターフェースです。これは、標準インターフェースを追加する時に、関連したローカル・インターフェース(LCLIFC)と一緒に使用されます。この特殊値は、次の事例に適応するために使用されます。

1. 負荷平衡。これは、トラフィックがいずれのインターフェースに分散されるかにかかわらず、固定されたソースIPアドレスをもつ方法です。
2. ローカル・ネットワークIPアドレスを定義するフレーム・リレー複数アクセス・ネットワーク。これにより、複数の仮想回線が同じIPネットワークを共用できます。
3. ネットワーク・アクセス変換(NAT)の代替方式。これにより、グローバルに固有の単一IPアドレスを直接ボックスに割り当てることで、ネットワーク全体の定義を必要とせずにNATボックスの必要がなくなります。
4. 非番号ネットワーク。これは、番号なしPOINT-TO-POINTネットワークのローカル・ソースIPアドレスを関連づける方法を提供します。

***OPC** この特殊値は、TCP/IP経由のOPTICONNECTインターフェースを追加する場合に使用されます。このインターフェースは光ディスク・バス(OPTICONNECT)に接続されます。

***LOOPBACK**

このコマンドによって変更されるインターフェースはループバックまたはLOCALHOSTインターフェースです。ループバックに関連した処理は物理回線まで拡張しないので、ループバック・アドレスに関連した回線記述はありません。この特殊値は、最初のオクテット値が127であるIPアドレス用に使用しなければなりません。

名前 このインターフェースに使用される回線記述の名前を指定してください。

トップ

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

このインターフェースを接続するネットワークの部分を定義するビット・マスクであるサブネット・マスクを指定します。マスクは、特定のサブネットワークを判別するためにIPアドレスと論理AND結合した32ビットの組み合わせです。値1に設定されたマスクのビットは、アドレスのネットワークおよびサブネットワーク部分を決定します。値ゼロ(0)に設定されたビットは、アドレスのホスト部分を決定します。

サブネットワークを識別するビットはアドレスで隣接している必要はありません。しかし、このサブネット・マスク値が変更された場合には、このインターフェースを使用する経路を無効にしたり、または影響を与えることがあります。これを避けるためには、サブネット・ビットを、ホスト・アドレスの最も重要なビットの中に隣接して位置づけてください。

注: ネットワーク部分はサブネット・マスクの1のビットと等しくなければなりません。アドレスのホスト部分は少なくとも2ビット幅でなければなりません。

*SAME

このインターフェースには既存の同じサブネット・マスクが使用されます。

*HOST

PROXY ARP (アドレス解決プロトコル) で使用するためのADDTCPIFC SUBNETMASK *HOST(255.255.255.255)を指定します。

文字値 サブネットワークを定義するインターネット・アドレスのネットワーク・フィールドおよびホスト・アドレス・フィールドのサブネット・マスクを指定してください。サブネット・マスクは *NNN.NNN.NNN.NNN* の形式になっています。ここで *NNN* は0-255の範囲の10進数です。サブネット・マスクは、IPアドレスのネットワーク・クラスのネットワークIDのすべてのビットをオフでマスクしなければなりません。サブネット・マスクおよび例の詳細については、TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンドのヘルプを参照してください。

トップ

関連したローカル・インターフェース (LCLIFC)

現在定義しているインターフェースを既存のローカルTCP/IPインターフェースと関連づけるには、このパラメーターを使用してください。

関連したローカル・インターフェース(LCLIFC)は、関連したインターフェース間で「透過サブネット」(「プロキシーARP」としても知られる)できるようにし、フレーム・リレーを非番号ネットワークに定義し、あるいは負荷を平衡化するために使用されます。

非番号ネットワークにLCLIFCを使用するための条件は次の通りです。

- 変更するインターフェースの回線タイプはフレーム・リレーでなければなりません。

透過サブネットにLCLIFCを使用するための条件は次の通りです。

- 関連したローカル・インターフェースのネットワークは、ブロードキャストが可能でなければなりません。
- 変更するインターフェースは、(LCLIFCを使用して) 関連づけようとしているネットワークのサブネットとして定義されなければなりません。

負荷平衡にLCLIFCを使用するための条件は次の通りです。

- これは、トラフィックがいずれのインターフェースに分散されるかにかかわらず、固定されたソースIPアドレスをもつ方法です。
- 関連したローカル・インターフェースの回線タイプは*VIRTUALIPでなければなりません。

注: このインターフェースをすでに定義されている別のインターフェースに関連づけるために使用できるのはLCLIFCだけです。関連づけされると、このインターフェースを開始する前に、常にLCLIFCで定義されたインターフェースを開始しなければなりません。

***SAME**

現行の関連したローカル・インターフェースが使用されます。

***NONE**

現在定義しているインターフェースと関連づけられるTCP/IPインターフェースはありません。

文字値 現在定義しているインターフェースと関連づけるインターフェースのIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

TYPE OF SERVICE (TOS)

使用するTYPE OF SERVICEを指定します。TYPE OF SERVICEは、インターネット・ホストおよびルーターがスループット、遅延、信頼性、およびコストの間で行うトレードオフを定義します。

***SAME**

TYPE OF SERVICEは変更されません。

*NORMAL: データの配布には通常のサービスが使用されます。

*MINDELAY: 遅延最小化は、この接続上のデータにとって敏速な配布が重要であることを意味します。

*MAXTHRPUT:スループット最大化は、この接続上のデータにとって高いデータ速度が重要であることを意味します。

*MAXRLB: 信頼性の最大化は、この接続上のデータにとって配布を確実に実行するために努力が重要であることを意味します。

*MINCOST: コスト最小化は、この接続のデータにとってより低いコストが重要であることを意味します。

[トップ](#)

最大送信単位 (MTU)

このインターフェースを介して送信できるIPデータグラム最大のサイズ (バイト数) を指定します。データグラムはインターネット・ネットワークを通じて渡される情報の基本単位です。すべての最大送信単位値の最小サイズは576バイトです。この値を変更した場合には、このインターフェースを使用している経路のMTUに影響します。

***SAME**

このインターフェースには既存の最大送信単位が使用されます。

*LIND MTUは、回線記述に指定された情報によって決定されます。*LINDが指定されている場合には、MTUは回線で送信できるデータの最大量と等しくなります。

最大伝送単位

最大送信単位の値をバイト数で指定してください。このインターフェースに指定できるMTUは、ネットワークに対する物理接続のタイプによって異なります。次のテーブル（リスト）は、回線のタイプに応じて指定できる最大MTUの値をリストしたものです。

X.25 4096

トークンリング（4メガ）

4060

トークンリング（16メガ）

16388

ETHERNET, 802.3

1492

ETHERNET,バージョン2

1500

DDI 4352

フレーム・リレー

8177

無線802.3

1492

無線バージョン2

1500

平衡型(TDLC)

4105

注:

1. 同じネットワーク上のすべてのインターフェースに同じMTU値を使用するようお勧めします。
2. インターフェースに使用される実際のMTU値は、インターフェースの活動化の間に分析解決されます。この値は、インターフェースに指定されたMTU値か回線で送信できる最大データ量のいずれかの最小値です。
3. 同じサブネットで定義されているすべてのインターフェースに同じMTU値を指定する必要はありません。しかし、すべてのインターフェースは、インターフェースのMTUに*LINDが指定されている時に使用される値を超えないMTUをもたなければなりません。
4. インターフェースに実際に使用されるMTU値を表示するためには、次のようにしてください:
 - a. ADDTCPIFCコマンドを使用してインターフェースを追加してください。
 - b. TCP/IPインターフェース開始(STRTCPIFC)コマンドを使用してインターフェースを活動化してください。
 - c. TCP/IP状況の処理(WRKTCPSTSまたはNETSTAT)コマンドを使用して、インターフェースの実際のMTU値をバイト数で表示します。

トップ

自動開始 (AUTOSTART)

TCP/IP開始(STRTCP)コマンドを使用してTCP/IPスタックが活動化された時に、インターフェースが自動始動されるかどうかを指定します。

***SAME**

このインターフェースには既存の自動始動値が使用されます。

***YES** インターフェースはSTRTCPコマンドによって自動始動されます。

***NO** インターフェースはSTRTCPコマンドによって開始されません。

注: TCP/IPインターフェース開始(STRTCPIFC)コマンドを使用して、TCP/IPを活動化した(STRTCP)後からいつでもインターフェースを開始することができます。

トップ

PVC論理チャネル識別コード (PVCLGLCHLI)

TCP/IPプロトコル・スタックによってX.25インターフェースで確立できるパーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)論理チャネル識別コードを指定します。最大64の固有のチャネル識別コードを指定することができます。これらのチャネル識別コードはX.25回線記述に存在していなければなりません。

このパラメーターを使用することによって、システム・ネットワーク体系(SNA)などの他の通信ソフトウェアと回線を共用することができます。これによって、TCP/IPプロトコル・スタックがその回線に定義されたPVCを独占できないようにします。

注:

1. このパラメーターが有効なのは、X.25回線記述で定義されたインターフェースの場合だけです。
2. PVCはDDNネットワークでは使用できません。
3. X.25インターフェースにPVCを指定する時には、同じX.25ネットワーク上のすべてのインターフェースは、この同じセットのPVC論理チャネル識別コードが指定されていなければなりません。これは、1つまたは複数のリモート・システム情報(RSI)項目がX.25ネットワーク上のRSI項目のリモート・システムに接続するためにPVCを使用する場合に、特に重要です。
4. RSI項目が、同じPVCを通じて2つ以上のリモートIPアドレスに到達できるように定義されている場合には、そのPVCが共用されます。
5. スイッチド・バーチャル・サーキットの最大数(MAXSVC)とPVCの数の合計が64を超えることはできません。

***SAME**

このインターフェースには既存のPVC論理チャネル識別コード値が使用されます。

***NONE**

このインターフェースの既存のPVC論理チャネル識別コード値がすべて除去されています。PVC値が定義されていない場合には、*NONEが示されます。

001-FFF

PVC論理チャネル識別コードの値を指定してください。最大64のPVC論理チャネル識別コードを指定することができます。

トップ

X.25アイドル回線タイムアウト (IDLVCTTIMO)

X.25リンクで確立されたアイドル仮想回線のクリアの前に、TCP/IP ネットワーク・アクセス管理機能 (NAM)が待機する時間 (秒数) を指定します。アイドル仮想回線をクリアすることによって、ネットワーク上の資源が解放されます。データの送信または受信が必要な時に、TCP/IPは仮想回線を自動的に再確立します。仮想回線はTCP/IPクライアントには透過で、TCP接続の場合には目立った効果はありません。

注: このパラメーターが有効なのは、X.25回線記述で定義されたインターフェース上のスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)の場合だけです。これはパーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には無効です。

*SAME

このインターフェースには既存のアイドル仮想回線タイムアウト値が使用されます。

1-600 アイドル仮想回線タイムアウト値に使用する秒数を指定してください。

[トップ](#)

X.25最大回線接続 (MAXSVC)

TCP/IPプロトコル・スタックによってX.25インターフェースで確立できる同時のスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)の最大数を指定します。

このパラメーターを使用することによって、システム・ネットワーク体系(SNA)などの他の通信ソフトウェアと回線を共用することができます。これによって、TCP/IP プロトコル・スタックがその回線に定義されたSVCを独占できないようにします。このパラメーターが有効なのは、X.25回線記述で定義されたインターフェースの場合だけです。

注: スwitchド・バーチャル・サーキットの最大数(MAXSVC)とPVCの数の合計が64を超えることはできません。

*SAME

このインターフェースには既存の最大SVC値が使用されます。

0-64 TCP/IPプロトコル・スタックが同時に使用できるSVCの数を指定してください。64を指定すると、構成されるSVCの数は、このインターフェースで使用する回線記述(LIND)で定義された*SVCIN、*SVCOUT,および*SVCBOTH SVCの数を加算して計算されます。これはTCP/IPプロトコル・スタックで処理が許可されるSVCの最大数です。

[トップ](#)

X.25 DDNインターフェース (DDN)

X.25インターフェースを国防総省データ網(DDN)に接続するかどうかを指定します。DDNネットワークは、特殊な機密保護を必要とするTCP/IPの顧客によって使用される特殊なタイプのX.25ネットワークです。

注: このパラメーターが有効なのは、X.25回線記述で定義されたインターフェース上のスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)の場合だけです。これはパーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には無効です。

警告:

同じX.25ネットワークに複数のインターフェースを指定する場合には、DDN値がこれらのインターフェースのすべてで等しくなければなりません。これは、ADDTCPIFCまたはCHGTCPIFCコマンドによって強制されるものではありません。

X.25ネットワークがDDNネットワークである場合には、ネットワーク上のどのリモート・システムにもリモート・システム情報を定義しないようにしてください。DDN X.25ネットワークのリモート・システム情報は、宛先IPアドレスから決定されます。

***SAME**

このインターフェースには既存のDDN値が使用されます。

***NO** X.25インターフェースは国防総省データ網(DDN)に接続されません。

***YES** X.25インターフェースは国防総省データ網(DDN)に接続されます。

[トップ](#)

TRLANビット順序づけ (BITSEQ)

アドレス解決プロトコル(ARP)がビットをハードウェア・アドレスに入れる順序（最上位ビットまたは最下位ビットを最初に入れるか）を指定します。このパラメーターを使用できるのは、トークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク(TRLAN) 回線の場合だけです。

注: 単一のトークンリング回線に定義されるすべてのインターフェースは、同じBITSEQ値をもっていなければなりません。これは一貫性のある値であることを確認するためにCHGTCPIFCコードによって検査されます。

***SAME**

このインターフェースには既存のビット順序値が使用されます。

***MSB** 最上位ビットが最初に置かれます。

***LSB** 最下位ビットが最初に置かれます。

[トップ](#)

CHGTCPIFCの例

例1: AUTOSTART値の変更

```
CHGTCPIFC INTNETADR('130.14.3.5') AUTOSTART(*NO)
```

このコマンドは、130.14.3.5で識別されたインターフェースが存在していることを想定します。このコマンドは、AUTOSTART値を*YESから*NOに変更します。STRTCPコマンドの実行時に、このインターフェースは自動始動されません。

例2: MAXSVCおよびIDLVTCTIMOの変更

```
CHGTCPIFC INTNETADR('8.77.0.21') INDLVTCTIMO(45) MAXSVC(15)
```

このコマンドはアイドル仮想回線タイムアウトを45秒に変更し、このインターフェース上のTCP/IPが使用できる並行SVCの最大数を15に変更します。

例3: 関連ローカル・インターフェースを使用する同軸回線用インターフェースの変更

```
CHGTCPIFC INTNETADR('199.1.1.99') LCLIFC('199.1.1.1')
```

このコマンドは、TDLCLINEという名前の同軸回線用TCP/IPインターフェースを変更します。このインターフェースは、ローカル・インターフェース199.1.1.1と関連付けられます。これは、同軸回線199.1.1.99に接続された装置は、ローカル199.1.1.1インターフェース（透過サブネット化）と同じネットワーク上にある「同等のもの」を利用できるという意味です。同軸接続のホストからのパケットをローカル199.1.1.0ネットワークに確実に転送できるようにするために、特別の経路指定は不要です。また、199.1.1.0ネットワーク上のホストもホスト・システムで追加の経路指定なしで同軸ホストに到達することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGTCPIFC

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IP経路の変更 (CHGTCPRTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP経路の変更(CHGTCPRTE)コマンドは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成の中の既存の経路を変更するために使用されます。

5つのパラメーター値が経路を固有に定義します。これらの値は経路の宛先(RTEDEST),サブネット・マスク(SUBNETMASK), TYPE OF SERVICE (TOS),経路上のネクスト・システムのIPアドレス(NEXTHOP),および優先バインド・インターフェース(BINDIFC)です。省略時の経路および省略時のマルチキャスト経路(*DFROUTEおよび*DFTMCAST)の場合には, SUBNETMASKが常に*NONEであるので, NEXTHOP, TOS, およびBINDIFCの値が固有に経路を定義します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 既存の経路項目では1つのパラメーター (MTUの値) しか変更できません。経路を使用している時には、そのMTU値を変更することはできません。
- 既存のRSI項目に達する必要がある経路を変更しようとしても正常に変更されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RTEDEST	経路宛先	文字値, *DFROUTE, *DFTMCAST	必須, キー, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *NONE, *HOST	必須, キー, 定位置 2
TOS	TYPE OF SERVICE	*MINDELAY, *MAXTHRPUT, *MAXRLB, *MINCOST, *NORMAL	オプション, キー, 定位置 3
NEXTHOP	次のホップ	文字値	オプション, キー
BINDIFC	優先バインド・インターフェース	文字値, *NONE	オプション, キー
MTU	最大送信単位	576-16388, *SAME, *IFC	オプション
METRIC	経路メトリック	1-16, *SAME	オプション
REDST	経路再配分	*SAME, *YES, *NO	オプション
DUPRTEPTY	重複経路優先順位	1-10, *SAME	オプション

[トップ](#)

経路宛先 (RTEDEST)

変更する経路の宛先を指定します。IPアドレスを構成する4バイトすべてを指定しなければなりません (バイトのいくつかは0でも可)。たとえば、9.5.11サブネットワーク上のすべてのホストへの経路は、経路宛先に9.5.11.0を入力することによって識別されます。サブネット・マスク、サービスのタイプ値、およびネクスト・ホップと組み合わせて使用すると、経路の宛先はネットワークまたはシステムへの経路を固有に識別します。

*DFTRROUTE

省略時の経路指定項目が変更されることを指定します。省略時の経路指定項目は、特定の経路が定義されていないリモート宛先に送信されるデータを経路指定するためにシステムによって使用されます。省略時の経路指定項目は、次のホップ・ゲートウェイが使用可能であるかどうかおよびTYPE OF SERVICE (TOS)に基づいて使用されます。アプリケーションが特定のTOSを要求する場合には、使用される省略時の経路のTOSが要求されたTOSと一致しなければなりません。要求されたTOSと一致する省略時の経路が見つからない場合には、TOSが*NORMALである最初に使用可能な省略時の経路が使用されます。

*DFTMCAST

変更している静的経路が省略時のマルチキャスト経路であることを指示するためには、*DFTMCAST特殊値を使用してください。省略時のマルチキャスト経路は、特定の経路が指定されていない場合にアプリケーションによって使用されます。

注: RTEDEST(*DFTMCAST)を指定した時には、SUBNETMASK(*NONE)も指定しなければならず、NEXTHOPパラメーターはローカルTCP/IPインターフェース (このシステム上) でなければなりません。

文字値 変更される経路宛先を指定してください。経路宛先は、クラスAの場合はNNN.0.0.0、クラスBの場合はNNN.NNN.0.0、クラスCの場合はNNN.NNN.NNN.0、またはこれらの任意の組み合わせの場合はNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定することができます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。

これらの任意の組み合わせとは、すべての9.5.X.XアドレスがクラスAネットワーク・アドレスであっても、9.5サブネット上のホストに9.5.0.0などのリモート経路宛先を指定できることを意味しています。

例外:

- 最初のバイト (オクテット) は0より大きく、255より小さくなければなりません。
- 最後のバイト (オクテット) を255と等しくすることはできません。
- SUBNETMASKの値として*HOSTが指定されている場合には、最後のバイト (オクテット) を0と等しくすることはできません。
- ブロードキャスト・アドレスへの経路指定は許されません。

[トップ](#)

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

経路宛先(RTEDEST)に指定された値のどのビットがIPアドレスのネットワークおよびサブネット部分を構成するかをTCP/IPに対して識別するビット・マスクを指定します。RTEDESTアドレスのネットワーク部分およびサブネットワーク部分を定義することによって、サブネット・マスクもRTEDESTアドレスのどのビットがホスト部分を構成するかを定義します。

マスクは、特定のサブネットワークを判別するためにIPアドレスと論理AND結合した32ビットの組み合わせです。値1に設定されたマスクのビットは、アドレスのネットワークおよびサブネットワーク部分を決定します。値ゼロ(0)に設定されたビットは、アドレスのホスト部分を決定します。

***NONE**

サブネット・マスクは使用されません。省略時の経路を指定すると、サブネット・マスクは使用されません。たとえば、RTEDEST(*DFTMCAST)またはRTEDEST(*DFTRROUTE)を指定する場合には、SUBNETMASK(*NONE)も指定しなければなりません。

***HOST**

経路宛先フィールドに指定されたIPアドレス値はホスト・アドレスです。サブネット・マスクの値は、255.255.255.255となるように計算されます。

文字値 サブネット・フィールドのマスクを指定してください。インターネット・アドレスは *NNN.NNN.NNN.NNN* の形式です。ここで *NNN* は0-255の範囲の10進数です。たとえば、宛先経路のIPアドレス値129.35.11.0はクラスBサブネットです。そのアドレスのネットワークID部分は129.35です。サブネット・マスクの上位2バイトには255を指定しなければなりません。サブネット・マスクは255.255.X.Xのように表さなければなりません。アドレスの特定のクラスのネットワーク部分に関連したサブネット・マスクの部分は255でなければなりません。

トップ

TYPE OF SERVICE (TOS)

使用するTYPE OF SERVICEを指定します。TYPE OF SERVICEは、インターネット・ホストおよびルーターがスループット、遅延、信頼性、およびコストの間で行うトレードオフを定義します。

*NORMAL：データの配布には通常のサービスが使用されます。

*MINDELAY：遅延最小化は、この接続上のデータにとって敏速な配布が重要であることを意味します。

*MAXTHRPUT:スループット最大化は、この接続上のデータにとって高いデータ速度が重要であることを意味します。

*MAXRLB：信頼性の最大化は、この接続上のデータにとって配布を確実に実行する努力が重要であることを意味します。

*MINCOST：コスト最小化は、この接続のデータにとってより低いコストが重要であることを意味します。

トップ

次のホップ (NEXTHOP)

経路上のネクスト・システム（ゲートウェイ）のIPアドレスを指定します。

文字値 経路上のネクスト・システムのIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは *NNN.NNN.NNN.NNN* の形式で指定されます。ここで *NNN* は0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

トップ

優先バインド・インターフェース (BINDIFC)

この経路がバインドされるIPインターフェースを指定してください。バインドは絶対的です。

注: このパラメーターは、同じネットワークにシステムで複数のインターフェースが定義されている場合にだけ有用です。BINDIFCによって、特定経路宛先のネットワークに達するために使用するインターフェースを定義することができます。この方法で複数のインターフェースにまたがってトラフィックを分散（負荷平衡）することができ、そのためすべての経路がネットワークに達するために同じインターフェースを使用しません。

指定したIPインターフェースが活動状態である場合には、この経路がバインドされます。活動状態でない場合には、通常の経路バインド規則に従います（これはBINDIFCが*NONEとして定義された時にも使用されます）。

***NONE**

この経路に対して特定のIPインターフェースがバインドされません。NEXTHOP および SUBNETMASKパラメーターによって定義されたネットワーク上の最初の活動状態のIPインターフェースが使用されます。これが省略時の値です。

文字値 この経路をバインドしたいインターフェースのIPアドレスを入力してください。

[トップ](#)

最大送信単位 (MTU)

この経路を介して送信できるIPデータグラムの最大サイズ（バイト数）を指定します。データグラムはインターネット・ネットワークを通じて渡される情報の基本単位です。すべての最大送信単位値の最小サイズは576バイトです。

***SAME**

この経路の既存の最大送信単位の値が使用されます。

***IFC** 最大送信単位(MTU)は、この経路と関連したインターフェースのMTUです。

576-16388

最大送信単位の値をバイト数で指定してください。この経路に指定できる最大MTUは、そのネットワークへの物理接続のタイプによって異なります。次のテーブル（リスト）は、回線のタイプに応じて指定できる最大MTUの値をリストしたものです。

X.25 4096

トークンリング（4メガ）
4060

トークンリング（16メガ）
16388

ETHERNET, 802.3
1492

ETHERNET,バージョン2
1500

DDI 4352

フレーム・リレー

8177

無線802.3

1492

無線バージョン2

1500

平衡型(TDLC)

4105

注:

1. TCP/IPは、送信するデータグラムのサイズを計算するために経路のMTU値を使用します。パフォーマンスを最良にするためには、この経路のパスの全体を通じてホスト・システムによって使用される最小のMTUより小さくない値を指定してください。この情報を使用できない場合には、省略時の値576を使用してください。
2. 経路のMTUは、NEXTHopの値がアクセスされているインターフェースのMTUを超えることはできません。インターフェースのMTU値が*LINDと指定されている場合には、そのインターフェースのMTU値は回線記述から取られます。経路のMTU値が*IFCと指定されていて、インターフェースのMTU値が*LINDと指定されている場合には、両方の値が回線記述から取られます。
3. 経路に使用される実際のMTU値は、インターフェースの活動化の間に分析解決されます。この値は、経路に指定されたMTU値または経路によって使用される関連インターフェースから判別されたMTU値のいずれかの最小値です。

[トップ](#)

経路メトリック (METRIC)

この経路に経路指定距離「原価」値を割り当てることができます。経路指定の経路距離原価値は、経路が望ましいかどうかを判断する際の1つの要素です。経路距離値の範囲は1-16です。メトリック値の1は近接（1つのルーター・ホップ）であり、したがって望ましいものです。メトリック値（距離）が増すにつれ、望ましさは減少します。16というメトリック値は、到達不能（無限の距離）と見なされます。

宛先に対する実際のホップ数より高い経路距離値を指定することによって、経路指定テーブルからこの経路が選択されないようにし、この経路でのトラフィックを減らすことができます。

*SAME

経路の経路距離の値は現行値から変更されません。

1-16 経路距離値を指定します。

[トップ](#)

経路再配分 (REDST)

この静的経路情報が他のルーターと共用されるかどうかを指定します。*NOを指定することによって、この経路のトラフィックを減らすことができます。

***SAME**

経路指定配布値は現行設定から変更されません。

***YES** *YESは、要求するどのルーターにもこの経路が示されることを意味します。

NO *NOは、この経路が示されないか、あるいは他のルーターと共用されないことを意味します。

注: REDST(*YES)は、STATICというRIPV1指定に似ています。REDST(*NO)は、PASSIVE というRIPV1指定に似ています。

[トップ](#)

重複経路優先順位 (DUPRTEPTY)

この静的経路の重複経路優先順位を指定してください。高い重複経路優先順位(DUPRTEPTY)をもつ経路は、低い経路より前に試行されます。

***SAME**

優先度値経路距離は現行値から変更されません。

1-10 優先度値を指定してください。

[トップ](#)

CHGTCPRTEの例

例1:経路の変更

```
CHGTCPRTE RTEDEST('132.65.0.0') SUBNETMASK('255.255.0.0')
          TOS(*MINDELAY) NEXTHOP('132.65.34.98') MTU(1024)
```

このコマンドは、サブネット・マスクの255.255.0.0およびTYPE OF SERVICE (TOS) *MINDELAYをもつ宛先132.65.0.0によって識別された経路を変更します。この変更は最大伝送単位(MTU)の1024を使用するためのものです。

例2:省略時経路の変更

```
CHGTCPRTE RTEDEST(*DFTRROUTE) SUBNETMASK(*NONE) TOS(*NORMAL)
          NEXTHOP('186.49.126.108') MTU(1024)
```

このコマンドは、ネクスト・ホップ値186.49.126.108で識別された省略時経路をMTU値の1024が使用されるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGTCPRTE

***ESCAPE** メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP261C

処理は正常に完了した。

TCP2658

&2 &1は変更されなかった。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9509

回線&1が見つからなかった。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPサーバーの変更 (CHGTCP SVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
エラー・メッセージ

TCP/IPサーバー変更(CHGTCP SVR)コマンドは、前にTCP/IPサーバー追加(ADDTCP SVR)コマンドを使用して定義されたサーバーを変更するために使用されます。サーバーに定義されたすべての値は、サーバー特殊値(SRVSPCV AL)を除いて変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SVRSPCV AL	サーバー特殊値	文字値	必須, キー, 定位置 1
PGM	呼び出すプログラム	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 呼び出すプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
SVRNAME	サーバー名	文字値, *SAME	オプション, 定位置 3
SVRTYPE	サーバー・タイプ	文字値, *SAME	オプション, 定位置 4
AUTOSTART	自動開始	*SAME , *YES, *NO	オプション, 定位置 5
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション, 定位置 6

[トップ](#)

サーバー特殊値 (SVRSPCV AL)

変更されるサーバーの特殊値を指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 変更されるサーバーの特殊値を指定してください。

[トップ](#)

呼び出すプログラム (PGM)

以下のコマンドによってこのサーバーが開始または終了される時に呼び出されるプログラムを指定します。

- STRTCPSVR (TCP/IPサーバー開始)
- ENDTCPSVR (TCP/IPサーバー終了)
- STRTCP (TCP/IP開始) -サーバーがAUTOSTART(*YES)として定義されている場合
- ENDTCP (TCP/IP終了)

単一値

*SAME

呼び出されるプログラムは同じままです。

修飾子1: 呼び出すプログラム

名前 このサーバーが開始または終了される時に呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

サーバー名 (SVRNAME)

このサーバーの項目を表示するためISERIESナビゲーターによって使用されるテキストのサーバー名を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SAME

テキストのサーバー名は同じままです。

文字値 このサーバーのテキスト名を指定してください。

トップ

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

このサーバーのジョブ・ログやサーバー状況などのジョブ情報を見つけるために、ISERIESナビゲーターの実行管理機能によって使用されるサーバー・タイプを指定します。

*SAME

サーバー・タイプは同じままです。

文字値 ジョブ・ログ情報およびサーバー状況を見つけるために、ISERIESナビゲーターによって使用されるサーバー・タイプ名を指定してください。次の規則および制約事項が適用されます。

- 組み込みブランクまたはヌル文字は使用できません。
- このISERIESサーバーで実行中のサーバー・ジョブは、そのジョブに定義されているサーバー・タイプも必要とします。これは、サーバー・ジョブが開始された後で、ジョブ変更(QWTCHGJB) APIを使用してサーバー・タイプ定義を追加すれば可能になります。サーバー・ジョブ内でのサーバー・タイプの定義方法の詳細については、ジョブ変更(QWTCHGJB) APIを参照してください

い。サーバー・ジョブ内でサーバー・タイプが設定されていない場合、あるいはサーバー・タイプがSVRTYPEパラメーターで定義されたものと一致しない場合には、ジョブ・ログ情報およびサーバー状況はISERIESナビゲーターで使用可能になりません。

[トップ](#)

自動開始 (AUTOSTART)

追加されるサーバーがTCP/IP開始(STRTCP)コマンドの実行時に始動されるかどうかを指定します。

***SAME**

サーバー自動始動値は変わりません。

***NO** 追加されるサーバーはSTRTCPコマンドの実行時に始動されません。

***YES** 追加されるサーバーはSTRTCPコマンドの実行時に始動されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

追加するサーバーのテキスト記述を指定します。

***SAME**

テキスト記述は同じままです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGTCPSVR

***ESCAPE** メッセージ

TCP1631

TCP/IPサーバー&1は変更されません。

[トップ](#)

TFTP属性の変更 (CHGTFTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TFTPサーバー属性変更(CHGTFTP)コマンドは、簡易ファイル転送プロトコル(TFTP) サーバーの属性を変更するために使用されます。変更は、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドかTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドのいずれかによってTFTPサーバーが次に開始された時に有効となります。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注	
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 1	
ENBBCAST	サブネット・ブロードキャスト使用可能化	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション	
NBRSVR	サーバー・ジョブ数	要素リスト	オプション	
	要素 1: 最小	1-20, <u>*SAME</u> , *DFT		
	要素 2: 最大	1-250, <u>*SAME</u> , *DFT		
INACTTMR	サーバー非活動タイマー	1-1440, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション	
CCSID	ASCII SINGLE BYTE CCSID	要素リスト	オプション	
	要素 1: コード化文字セット 識別コード	1-65532, <u>*SAME</u> , *DFT		
MAXBLKSIZE	最大ブロック・サイズ	512-65464, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション	
RSPTIMO	接続応答タイムアウト	1-600, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション	
ALWWRT	ファイル書き込み可能	*DFT, *NONE, *CREATE, *REPLACE, <u>*SAME</u>	オプション	
ALTSRCDIR	代替ソース・ディレクトリー	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE, *DFT	オプション	
ALTTGTDIR	代替ターゲット・ディレクトリー	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE, *DFT	オプション	

[トップ](#)

自動開始サーバー (AUTOSTART)

AUTOSTART属性は、STRTCPコマンドを使用してTCP/IPが開始された時にTFTPサーバーが開始されるかどうか、あるいはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドが出される時点を決めます。

この属性は、STRTCPSVR *AUTOSTARTが指定された場合にSTRTCPSVRコマンドによってのみ使用されます。STRTCPSVR *TFTPまたはSTRTCPSVR *ALLでは、AUTOSTART属性の値とは無関係に、TFTPサーバーが開始されます。STRTCPSVR SERVER(*TFTP)が指定され、TFTPサーバーがすでに実行されている場合には、追加のサーバー・ジョブが開始されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

AUTOSTART値は、前に設定されている場合には変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***YES** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCPSVR *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにNBRSVRパラメーターに指定された番号のTFTPサーバー・ジョブを自動始動したい場合には、*YESの値を指定してください。

***NO** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCPSVR *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにNBRSVRパラメーターに指定された番号のTFTPサーバー・ジョブを自動的に開始したくない場合には、*NOの値を指定してください。

この値を*NOに設定した場合には、STRTCPSVR *TFTPコマンドまたはSTRTCPSVR *ALLコマンドによってのみTFTPサーバーが開始されます。

TFTPサーバーを使用する予定がない場合には、AUTOSTART を*NOに設定してください。

トップ

サブネット・ブロードキャスト使用可能化 (ENBBCAST)

このパラメーターによって、同じサブネット上の複数のクライアントが同時にロードできるようにするサブネット指示TFTPブロードキャストが使用可能になります。このプロトコルを使用するためには、クライアントが使用可能になっていなければなりません。

このパラメーターに使用できる値は次の通りです。

***SAME**

ENBBCASTパラメーターが前に設定されている場合には、その値が変更されません。

***DFT** サブネット・ブロードキャスト・オプションが*YESに設定されます。

***YES** TFTPサブネット・ブロードキャストが使用可能になります。

***NO** TFTPサブネット・ブロードキャストが使用可能になりません。

トップ

サーバー・ジョブ数 (NBRSVR)

サーバー数(NBRSVR)パラメーターには、最小と最大の2つの部分があります。

「最小」は、TFTPがTCP/IP開始(STRTCP)コマンドかTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドのいずれかによって開始された時に開始するTFTPサーバー・ジョブの数を指定します。これらのジョブによって、新しいジョブを開始することと関連したオーバーヘッドを待機する必要なしに、新しいクライアントをサーバーに接続することができます。サーバーは、接続されたクライアントの数に変更があっても、少なくともこ

の数のジョブを新しいクライアントへの接続に使用できるように維持しようとしています。これは、TFTPサーバーにとって、クライアントの接続のたびにシステムのオーバーヘッドを少なくするパフォーマンス上の強化点です。

注: 1つのジョブが常に受信待機中であり、これは活動ジョブとしてはカウントされないため、ジョブ・リストに表示される実際のジョブ数は定義されている数より少し多くなります。

「最大」は、TFTPサーバー・ジョブの最大数です。

考えられる値は、次の通りです。

最小

***SAME**

前に設定されているサーバー・ジョブの数は変更されません。そうでない場合には、2が使用されます。

***DFT** サーバー・ジョブの数は省略時の値2に設定されます。

最小サーバー・ジョブ数

開始するサーバー・ジョブの数を指定してください。有効な範囲は1-20です。

最大

***SAME**

前に設定されているサーバー・ジョブの数は変更されません。そうでない場合には、6が使用されます。

***DFT** サーバー・ジョブの数は省略時の値の6に設定されます。

最大サーバー・ジョブ数

開始するサーバー・ジョブの最大数を指定してください。有効な範囲は1-250ですが、「最小」より大きいと等しくなければなりません。

[トップ](#)

サーバー非活動タイマー (INACTTMR)

非活動状態である期間中は、活動TFTPサーバーの数を最小にまで下げることができます。サーバーを終了することができるかどうかを確認するために1次TFTPサーバーがTFTPの活動を検査する頻度は、非活動タイマー(INACTTMR)に分単位で指定されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

非活動タイマー値が前に設定されていれば、変更されません。そうでない場合には、10分が使用されます。

***DFT** 非活動タイマー値は省略時の値の10分に設定されます。

非活動タイマー値

1-1440分の範囲の非活動タイマー値を指定してください。

[トップ](#)

ASCII SINGLE BYTE CCSID (CCSID)

統合ファイル・システム・ファイルで使用するASCIIコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。統合ファイル・システム・ファイルは、それらが"QIBM/PRODDATA"ディレクトリーの中にある場合に、このCCSIDによって読み書きされます。"QIBM/PRODDATA"ディレクトリーの中のファイルは、CCSID 00819で読み取られます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

前に設定されているCCSID値は変更されません。そうでない場合には、00819 (ISO 8859-1 8ビットASCII)が使用されます。

***DFT** CCSID値は00819 (ISO 8859-1 8ビットASCII)に設定されます。

CCSID値

ASCII CCSID値を指定してください。有効なASCII CCSIDが指定されたことを確認するために、この値の妥当性が検査されます。

[トップ](#)

最大ブロック・サイズ (MAXBLKSIZE)

データを送受信する最大ブロック・サイズをバイト数で指定します。有効な範囲は512-65464バイトです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

ブロック・サイズが前に設定されていれば、変更されません。そうでない場合には、1024バイトが使用されます。

***DFT** ブロック・サイズは1024バイトに設定されます。

バイト数

ブロック・サイズをバイト数で指定してください。

[トップ](#)

接続応答タイムアウト (RSPTIMO)

要求された転送を終了する前に必要な応答を待機する秒数を指定します。この期間中に、内部的に計算された再送タイムアウト値に基づいて、再送が行われることがあります。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

応答タイムアウト値が前に設定されていれば、変更されません。そうでない場合には、60秒が使用されます。

***DFT** 応答タイムアウト値は省略時の値の60秒に設定されます。

応答タイムアウト値

1-600秒の範囲の応答タイムアウト値を指定してください。

[トップ](#)

ファイル書き込み可能 (ALWWRT)

このパラメーターの値は、TFTPのユーザーがこのシステムでファイルを作成または置き換えることが許されるかどうかを決定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値が前に設定されていれば、変更されません。そうでない場合には、*NONEが使用されます。

***DFT** 値は*NONEに設定されます。

***NONE**

TFTPのユーザーは、このシステムで新しいファイルを作成したり、既存のファイルを置き換えることはできません。

***REPLACE**

TFTPのユーザーは、このシステムの既存のファイルを置き換えることができます。

***CREATE**

TFTPのユーザーは、このシステムで新しいファイルを作成し、既存のファイルを置き換えることができます。

[トップ](#)

割り当てられたディレクトリー (ALTSRCDIR)

読み取られるファイルが入っている統合ファイル・システム・ディレクトリーへの認可済み代替パスを指定します。読み取り要求のパスがこのパラメーターに指定されたソース・ディレクトリーのパスと一致し、統合ファイル・システム・オブジェクトで設定された許可ビットがQTFTPプロファイルからのアクセスを許可している場合には、読み取りが許されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

前に設定された値は変更されません。

***DFT** パスは*NONEに設定されます。

***NONE**

IBMネットワーク端末用の省略時のディレクトリーを介する以外は、パス（またはアクセス）は認可されません。

ソース・ディレクトリーへのパス

ソース・ファイルへの認可済み代替パスを指定してください。組み込みスペースおよび単一引用符（アポストロフィ）は除去されることに注意してください。

[トップ](#)

代替ターゲット・ディレクトリー (ALTTGTDIR)

書き出し先のファイルが入っている統合ファイル・システム・ディレクトリーへの認可済み代替パスを指定します。次の条件がすべて当てはまる場合には、書き出しが許されます。

1. 書き出し要求のパスがこのパラメーターに指定されたターゲット・ディレクトリーのパスと一致する。
2. 統合ファイル・システム・オブジェクトで設定された許可ビットがQTFTPプロファイルからのアクセスを許可している。
3. 書き出し可能(ALWWRT)パラメーターが*CREATEまたは*REPLACEに設定されている。

注: *REPLACEオプションは、ファイルがすでに存在している場合にのみ機能します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

前に設定された値は変更されません。

***DFT** パスは*NONEに設定されます。

***NONE**

IBMネットワーク端末用の省略時のディレクトリーを介する以外は、パス（またはアクセス）は認可されません。

ターゲット・ディレクトリーへのパス

書き出し先のファイルのターゲット・ディレクトリーへの認可済み代替パスを指定してください。組み込みスペースおよび単一引用符（アポストロフィ）は除去されることに注意してください。

トップ

CHGTFTPAの例

例1: TFTPサーバーの自動始動

```
CHGTFTPA  AUTOSTART(*YES)
```

このコマンドは、次回にSTRTCPコマンドが出されてTCP/IPが開始され、TCP/IPアプリケーションが自動始動された時に、TFTPサーバーが自動始動されることを指示します。

例2:初期サーバー・ジョブ数の変更

```
CHGTFTPA  NBRSVR(5)
```

このコマンドは、次回にTFTPサーバーを開始すると、5個のTFTPサーバー・ジョブが自動始動されることを指示します。

例3:サーバー・ジョブ数の変更

```
CHGTFTPA  NBRSVR(4 7)
```

このコマンドは、次回にTFTPサーバーを開始すると、TFTPサーバー・ジョブが自動始動され、最大は7になることを指示します。

トップ

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

時間帯記述変更 (CHGTIMZON)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

時間帯記述変更 (CHGTIMZON)コマンドは、時間帯のプロパティを定義する時間帯記述オブジェクトを変更します。これらのプロパティは、時間値を協定世界時(UTC)形式とローカル形式の間で変換するために使用されます。これらのプロパティは、また、時間値をローカル形式で表すために使用されます。

制約事項:

- 変更する時間帯記述に対する変更(*CHANGE)権限が必要です。
- QSYSライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TIMZON	時間帯記述	名前	必須, キー, 定位置 1
OFFSET	オフセット	-779-779, <u>*SAME</u>	オプション
STDNAME	標準時間	単一値: <u>*SAME</u> , *GEN, *MSG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 省略名	文字値	
	要素 2: 完全な名前	文字値	
DSTNAME	夏時間調整時間(DST)	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *GEN, *MSG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 省略名	文字値	
	要素 2: 完全な名前	文字値	
STDMSG	標準時間メッセージ	名前, <u>*SAME</u>	オプション
DSTMSG	夏時間調整時間メッセージ	名前, <u>*SAME</u>	オプション
MSGF	メッセージ・ファイル	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	
DSTSTR	夏時間調整時間開始	要素リスト	オプション
	要素 1: 月	<u>*SAME</u> , *JAN, *FEB, *MAR, *APR, *MAY, *JUN, *JUL, *AUG, *SEP, *OCT, *NOV, *DEC	
	要素 2: 日	<u>*SAME</u> , *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	
	要素 3: 月の相対日	<u>*SAME</u> , *LAST, 1, 2, 3, 4	
	要素 4: 時刻	時刻, <u>*SAME</u>	

キーワード	記述	選択項目	注
DSTEND	夏時間調整時間終了	要素リスト	オプション
	要素 1: 月	*SAME , *JAN, *FEB, *MAR, *APR, *MAY, *JUN, *JUL, *AUG, *SEP, *OCT, *NOV, *DEC	
	要素 2: 日	*SAME , *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	
	要素 3: 月の相対日	*SAME , *LAST, 1, 2, 3, 4	
	要素 4: 時刻	時刻, *SAME	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

トップ

時間帯記述 (TIMZON)

変更する時間帯記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 時間帯記述の名前を指定します。

トップ

オフセット (OFFSET)

この時間帯と協定世界時(UTC)の間の時差 (分数) を指定します。この値をローカル時間から減算すると、UTC時間が得られます。負の時差は、時間帯がUTCより西側であることを示し、正の時差は、その時間帯がUTCより東側であることを示します。

***SAME**

この値は変更されません。

-779-779

時差 (分数) を指定します。有効な値の範囲は-779分から779分です。

トップ

標準時間 (STDNAME)

夏時間調整時が守られていない場合の時間帯の省略名とフルネームを指定します。

単一値

***SAME**

この値は変更されません。

***GEN** システムは省略名とフルネームを生成します。省略名の形式は、文字「UTC」とそれに続くオフセットおよび文字「S」です。オフセットは、定様式の時間および分の値として表示されます。時間帯記述のフルネームは省略名と同じになります。たとえば、オフセットが-360分の時間帯は、「UTC-06:00S」という省略名およびフルネームを持つことになります。

***MSG** 省略名とフルネームは、**標準時間メッセージ (STDMSG)**パラメーターに指定されたメッセージの2

次レベル・メッセージ・テキストから検索されます。この値を指定した場合には、時間帯記述に標準時メッセージおよびメッセージ・ファイルを指定する必要があります。

要素1: 省略名

文字値 この時間帯の省略名、すなわち短い名前、を指定します。省略名の最大長は10文字です。

要素2: 完全な名前

文字値 この時間帯のフルネーム、すなわち長い名前、を指定します。フルネームの最大長は50文字です。

[トップ](#)

夏時間調整時間(DST) (DSTNAME)

夏時間調整時が守られている場合の時間帯の省略名とフルネームを指定します。このパラメーターが*NONE以外の値に変更された場合には、時間帯記述に夏時間調整時開始および終了情報を指定する必要があります。

単一値

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

この時間帯では夏時間調整時は守られません。

***GEN** システムは省略名とフルネームを生成します。省略名の形式は、文字「UTC」とそれに続くオフセットおよび文字「D」です。オフセットは、定様式の時間および分の値として表示されます。時間帯記述のフルネームは省略名と同じになります。たとえば、オフセットが-360分の時間帯は、「UTC-06:00D」という省略名およびフルネームを持つことになります。

***MSG** 省略名とフルネームは、**夏時間調整時間メッセージ (DSTMSG)**パラメーターに指定されたメッセージの2次レベル・メッセージ・テキストから検索されます。この値を指定した場合には、時間帯記述に夏時間調整時メッセージおよびメッセージ・ファイルを指定する必要があります。

要素1: 省略名

文字値 この時間帯の省略名、すなわち短い名前、を指定します。省略名の最大長は10文字です。

要素2: 完全な名前

文字値 この時間帯のフルネーム、すなわち長い名前、を指定します。フルネームの最大長は50文字です。

[トップ](#)

標準時間メッセージ (STDMSG)

夏時間調整時が守られていない場合に使用される時間帯の省略名とフルネームを含む事前定義メッセージを指定します。メッセージの最初の10文字に省略名が入れられ、次の50文字にフルネームが入れられます。このパラメーターには、時間帯記述の標準時名として*MSGを指定した場合に限り、メッセージ識別コードを指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

名前 メッセージ識別コードを指定してください。

トップ

夏時間調整時間メッセージ (DSTMSG)

夏時間調整時が守られている場合に使用される時間帯の省略名とフルネームを含む事前定義メッセージを指定します。メッセージの最初の10文字に省略名が入れられ、次の50文字にフルネームが入れられます。このパラメーターには、時間帯記述の夏時間調整時名として*MSGを指定した場合に限り、メッセージ識別コードを指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

名前 メッセージ識別コードを指定してください。

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

標準時メッセージおよび夏時間調整時メッセージが検索されるメッセージ・ファイルを指定します。指定されたメッセージ・ファイル名およびライブラリー名は、時間帯記述に保管されます。メッセージが省略名とフルネームの指定に使用される場合には、その省略名とフルネームが検索されるたびにメッセージが検索されます。メッセージをメッセージ・ファイルから検索できない場合には、名前は*Nとして戻されます。このパラメーターにメッセージ・ファイルを指定できるのは、時間帯記述の標準時名または夏時間調整時名に*MSGが指定されている場合だけです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

*SAME

この値は変更されません。

名前 メッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL メッセージが検索される時には、スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーからメッセージ・ファイルが検索されます。値*LIBLは時間帯記述に保管され、このコマンドによってライブラリー名に解決されることはありません。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

夏時間調整時間開始 (DSTSTR)

夏時間調整時(DST)を開始する時点を指定します。このパラメーターには、次の4つの要素が入れられます。DSTを開始する月、DSTを開始する日付、DSTを開始する月の相対日、およびDSTを開始する時刻です。このパラメーターを指定する場合には、4つの要素をすべて指定しなければなりません。このパラメーターを変更できるのは、時間帯記述の夏時間調整時名に*NONE以外の値を指定した場合だけです。夏時間調整時間開始情報を夏時間調整時終了情報と同一にすることはできません。

要素1: 月

*SAME

この値は変更されません。

- *JAN 夏時間調整時は1月に始まります。
- *FEB 夏時間調整時は2月に始まります。
- *MAR 夏時間調整時は3月に始まります。
- *APR 夏時間調整時は4月に始まります。
- *MAY 夏時間調整時は5月に始まります。
- *JUN 夏時間調整時は6月に始まります。
- *JUL 夏時間調整時は7月に始まります。
- *AUG 夏時間調整時は8月に始まります。
- *SEP 夏時間調整時は9月に始まります。
- *OCT 夏時間調整時は10月に始まります。
- *NOV 夏時間調整時は11月に始まります。
- *DEC 夏時間調整時は12月に始まります。

要素2: 日

*SAME

この値は変更されません。

- *MON 夏時間調整時は月曜日に始まります。
- *TUE 夏時間調整時は火曜日に始まります。
- *WED 夏時間調整時は水曜日に始まります。
- *THU 夏時間調整時は木曜日に始まります。
- *FRI 夏時間調整時は金曜日に始まります。
- *SAT 夏時間調整時は土曜日に始まります。
- *SUN 夏時間調整時は日曜日に始まります。

要素3: 月の相対日

*SAME

この値は変更されません。

- *LAST 夏時間調整時は指定された曜日の最後のオカレンスで始まります。
- 1 夏時間調整時は指定された曜日の最初のオカレンスで始まります。
- 2 夏時間調整時は指定された曜日の2番目のオカレンスで始まります。
- 3 夏時間調整時は指定された曜日の3番目のオカレンスで始まります。
- 4 夏時間調整時は指定された曜日の4番目のオカレンスで始まります。

要素4: 時刻

*SAME

この値は変更されません。

時刻 夏時間調整時を開始する時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)のSTRINGを指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00-23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00-59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るような5文字または8文字のSTRINGを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、このSTRINGをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

夏時間調整時間終了 (DSTEND)

夏時間調整時(DST)を終了する時点を指定します。このパラメーターには、次の4つの要素が入れられます。DSTを終了する月、DSTを開始する日、DSTを終了するの相対日付、およびDSTを終了する時刻です。このパラメーターを指定する場合には、4つの要素をすべて指定しなければなりません。このパラメーターを変更できるのは、時間帯記述の夏時間調整時名に*NONE以外の値を指定した場合だけです。夏時間調整時終了情報を夏時間調整時開始情報と同一にすることはできません。

要素1: 月

*SAME

この値は変更されません。

- *JAN 夏時間調整時は1月に終わります。
- *FEB 夏時間調整時は2月に終わります。
- *MAR 夏時間調整時は3月に終わります。
- *APR 夏時間調整時は4月に終わります。
- *MAY 夏時間調整時は5月に終わります。
- *JUN 夏時間調整時は6月に終わります。
- *JUL 夏時間調整時は7月に終わります。
- *AUG 夏時間調整時は8月に終わります。
- *SEP 夏時間調整時は9月に終わります。
- *OCT 夏時間調整時は10月に終わります。
- *NOV 夏時間調整時は11月に終わります。
- *DEC 夏時間調整時は12月に終わります。

要素2: 日

*SAME

この値は変更されません。

- *MON 夏時間調整時は月曜日に終わります。
- *TUE 夏時間調整時は火曜日に終わります。

- *WED 夏時間調整時は水曜日に終わります。
- *THU 夏時間調整時は木曜日に終わります。
- *FRI 夏時間調整時は金曜日に終わります。
- *SAT 夏時間調整時は土曜日に終わります。
- *SUN 夏時間調整時は日曜日に終わります。

要素3: 月の相対日

*SAME

この値は変更されません。

*LAST 夏時間調整時は指定された曜日の最後のオカレンスで終わります。

- 1 夏時間調整時は指定された曜日の最初のオカレンスで終わります。
- 2 夏時間調整時は指定された曜日の2番目のオカレンスで終わります。
- 3 夏時間調整時は指定された曜日の3番目のオカレンスで終わります。
- 4 夏時間調整時は指定された曜日の4番目のオカレンスで終わります。

要素4: 時刻

*SAME

この値は変更されません。

時刻 夏時間調整時を終了する時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)のstringを指定してください。ここで、**HH**= 時間、**MM** =分、および**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00-23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00-59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るような5文字または8文字のstringを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、このstringをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGTIMZONの例

例1:オフセットの変更

```
CHGTIMZON TIMZON(CENTRAL) OFFSET(-360)
```

このコマンドは、時間帯記述CENTRALに指定されたオフセットを負の6時間(-360分)に変更します。

例2:夏時間調整時開始および終了情報の変更

```
CHGTIMZON TIMZON(CENTRALDST)
          DSTSTR(*OCT *SUN *LAST '02:00:00')
          DSTEND(*APR *SUN 1 '02:00:00')
```

このコマンドは、時間帯記述CENTRALDSTの夏時間調整時開始および終了情報を変更します。夏時間調整時は10月の最後の日曜日の2:00 AMに始まり、4月の最初の日曜日の2:00 AMに終わります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGTIMZON

*ESCAPE メッセージ

CPF09A0

時間帯記述&1は変更されていません。

[トップ](#)

ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CHGUSRAUD (ユーザー監査変更) コマンドによって、*AUDIT特殊権限を持つユーザーは、ユーザーの監査をセットアップまたは変更することができます。システム値QAUDCTL制御で監査をオンおよびオフに変更できます。ユーザー・プロファイルの監査属性はユーザー・プロファイルの表示(DSPUSRPRF)コマンドで表示することができます。

注: CHGUSRAUDによって行なわれた変更は、このユーザーに対して次にジョブが開始された時に有効となります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	値 (最大 50 回の繰り返し): 単純名	必須, 定位置 1
OBJAUD	オブジェクト監査値	*SAME, *NONE, *CHANGE, *ALL	オプション, 定位置 2
AUDLVL	ユーザー処置の監査	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 13 回の繰り返し): *CMD, *CREATE, *DELETE, *JOBDDTA, *OBJMGT, *OFCSRV, *OPTICAL, *PGMADP, *SAVRST, *SECURITY, *SERVICE, *SPLFDTA, *SYSMGT	オプション, 定位置 3

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

これは必須パラメーターです。

監査値を変更するためのユーザー・プロファイルの名前。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

オブジェクト監査値 (OBJAUD)

ユーザーに対するオブジェクト監査値。この値は、オブジェクトに対するオブジェクト監査値が値*USRPRFをアクセスしている場合だけ受け取れます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

監査が実行された時のオブジェクト判別に対する監査値。

***CHANGE**

*USRPRF監査値を持つすべてのオブジェクトに対するこのユーザーのアクセスのすべての変更が記録されます。

***ALL** *USRPRF監査値を持つすべてのオブジェクトに対するこのユーザーのアクセスのすべての変更および読み取りが記録されます。

トップ

ユーザー処置の監査 (AUDLVL)

このユーザー・プロファイルに対して監査される活動レベル。

注: システム値QAUDLVLおよびQAUDLVL2は、このパラメーターと一緒に使用されます。例: QAUDLVLが*DELETEに設定され、AUDLVLが*CREATEに設定されている場合には、このユーザーに対して*DELETEと*CREATEの両方が監査されます。システム値QAUDLVLおよびQAUDLVL2の省略時の値は*NONEです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

監査レベルは指定されません。このユーザーに対する監査レベルは、システム値QAUDLVLおよびQAUDLVL2から取り出されます。

***CMD** このユーザーに対してCLコマンド・ストリング、システム/36環境操作員制御コマンド、およびシステム/36環境プロシージャが記録されます。

***CREATE**

オブジェクトがこのユーザーによって作成された時に監査項目が送信されます。

***DELETE**

オブジェクトがこのユーザーによって削除された時に監査項目が送信されます。

***JOBDTA**

このユーザーによって実行され、ジョブに影響を与える以下のアクションが監査されます。

- ジョブ開始および停止データ
- 保留, 解放, 停止, 続行, 変更, 切断, 終了, 異常終了。
- プログラム開始要求(PSR)は事前開始ジョブに付加されます。

***OBJMGT**

このユーザーによって行なわれた、名前変更または移動のような、オブジェクト管理の変更が監査されます。

***OFCSRVR**

このユーザーによって行なわれた、システム・ディレクトリーに対する変更およびOFFICEVISION FOR AS/400メールの使用に対する変更のような、オフィス・サービスの変更が監査されます。

*OPTICAL

次の光ディスク機能が監査されます。

- 光ディスク・カートリッジの追加または除去
- 光ディスク・ボリュームを保護するために使用される権限リストの変更
- 光ディスク・ファイルまたはディレクトリーのオープン
- 光ディスク・ディレクトリーの作成または削除
- 光ディスク・ディレクトリー属性の変更または検索
- 光ディスク・ファイルのコピー，移動，または名前変更
- 光ディスク・ディレクトリーのコピー
- 光ディスク・ボリュームのバックアップ
- 光ディスク・ボリュームの初期設定または名前変更
- 光ディスク・ボリュームの基本ボリュームへの変換バックアップ
- 保留中光ディスク・ファイルの保管または解放
- 光ディスク・ボリュームの絶対読み取り

*PGMADP

このユーザーに対してプログラムの借用によって取得された権限が監査されます。

*SAVRST

このユーザーによって行なわれた保管および復元処置が監査されます。

*SECURITY

このユーザーによって行なわれた機密保護の変更が監査されます。

*SERVICE

このユーザーによるシステム保守ツールの使用が監査されます。

*SPLFDTA

このユーザーに対して行われたスプール・ファイルが監査されます。

*SYSMGT

このユーザーによるシステム管理機能の使用が監査されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

CHGUSRAUDの例

```
CHGUSRAUD  USRPRF(FRED)  OBJAUD(*CHANGE)
           AUDLVL(*CREATE *DELETE)
```

このコマンドは、ユーザーFREDのユーザー・プロファイル中の監査値を変更します。オブジェクト監査値が*USRPRFであるすべてのオブジェクトは、ユーザーFREDによって変更されると監査されます。作成されるすべてのオブジェクトおよび削除されるすべてのオブジェクトは、ユーザーFREDの場合に監査されません。監査レコードは、QSYS内の監査ジャーナルQAUDJRNに送られます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGUSRAUD

*ESCAPE メッセージ

CPF22B0

監査値の変更は認可されていない。

CPF22CC

一部のユーザー・プロファイルの監査値が変更されていない。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドは、ユーザー・プロファイルに指定された値を変更します。このコマンドでパスワードが変更された場合には、パスワードの妥当性検査規則はシステムによって検査されません。パスワードの妥当性検査規則の説明はISERIES機密保護解説書(SD88-5027)にあります。

制約事項:

- 変更しようとするユーザー・プロファイルに対する機密保護管理者(*SECADM)特殊権限および使用(*USE)権限が必要です。
- ユーザーには次のいずれか（指定されている場合）に対する*USE権限が必要です。つまり、現行ライブラリー、プログラム、メニュー、ジョブ記述、メッセージ待ち行列、印刷装置、出力待ち行列、およびATTNキー処理プログラムです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名	必須, キー, 定位置 1
PASSWORD	ユーザー・パスワード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション, 定位置 2
PWDEXP	パスワードを満了にセット	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
STATUS	状況	<u>*SAME</u> , *ENABLED, *DISABLED	オプション
USRCLS	ユーザー・クラス	<u>*SAME</u> , *USER, *SYSOPR, *PGMR, *SECADM, *SECOFR	オプション
ASTLVL	援助レベル	<u>*SAME</u> , *SYSVAL, *BASIC, *INTERMED, *ADVANCED	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, <u>*SAME</u> , *CRTDFT	オプション
INLPGM	呼び出す初期プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 呼び出す初期プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
INLMNU	初期メニュー	単一値: <u>*SAME</u> , *SIGNOFF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期メニュー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LMTCPB	制限機能	<u>*SAME</u> , *NO, *PARTIAL, *YES	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SPCAUT	特殊権限	単一値: *SAME , *USRCLS, *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *ALLOBJ, *AUDIT, *IOSYSCFG, *JOBCTL, *SAVSYS, *SECADM, *SERVICE, *SPLCTL	オプション, 定位置 3
SPCENV	特殊環境	*SAME , *SYSVAL, *NONE, *S36	オプション
DSPSGNINF	サインオン情報の表示	*SAME , *NO, *YES, *SYSVAL	オプション
PWDEXPITV	パスワード満了間隔	1-366, *SAME , *SYSVAL, *NOMAX	オプション
LCLPWDMGMT	ローカル・パスワード管理	*SAME , *YES, *NO	オプション
LMTDEVSSN	装置セッション限界	*SAME , *NO, *YES, *SYSVAL	オプション
KBDBUF	キーボード・バッファ方式	*SAME , *SYSVAL, *NO, *TYPEAHEAD, *YES	オプション
MAXSTG	最大許容記憶域	整数, *SAME , *NOMAX	オプション
PTYLMT	最高スケジュール優先順位	0-9, *SAME	オプション
JOBDD	ジョブ記述	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QDFTJOBDD	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
GRPPRF	グループ・プロファイル	名前, *SAME , *NONE	オプション
OWNER	所有者	*SAME , *USRPRF, *GRPPRF	オプション
GRPAUT	グループ権限	*SAME , *NONE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
GRPAUTYP	グループ権限タイプ	*PRIVATE, *PGP, *SAME	オプション
SUPGRPPRF	補足グループ	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 15 回の繰り返し): 名前	オプション
ACGCDE	会計コード	文字値, *SAME , *BLANK	オプション
DOCPWD	文書パスワード	名前, *SAME , *NONE	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME , *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
DLVRY	配布	*SAME , *NOTIFY, *BREAK, *HOLD, *DFT	オプション
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, *SAME	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *SAME , *WRKSTN, *SYSVAL	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME , *WRKSTN, *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
ATNPGM	アテンション・プログラム	単一値: *SAME , *SYSVAL, *NONE, *ASSIST その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: アテンション・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SRTSEQ	分類順序	単一値: *SAME , *SYSVAL, *HEX, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *SAME , *SYSVAL	オプション
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, *SAME , *SYSVAL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CCSID	コード化文字セットID	整数, *SAME , *SYSVAL, *HEX	オプション
CHRIDCTL	文字識別コードの制御	*SAME , *SYSVAL, *DEVVD, *JOBCCSID	オプション
SETJOBATR	ロケール・ジョブ属性	単一値: *SAME , *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 6 回の繰り返し): *CCSID, *DATFMT, *DATSEP, *DECFMT, *SRTSEQ, *TIMSEP	オプション
LOCALE	ロケール	パス名, *SAME , *SYSVAL, *NONE, *C, *POSIX	オプション
USROPT	ユーザー・オプション	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *CLKWD, *EXPERT, *ROLLKEY, *NOSTSMSG, *STSMSG, *HLPFULL, *PRTMSG	オプション
UID	ユーザーID番号	1-4294967294, *SAME	オプション
GID	グループID番号	1-4294967294, *SAME , *GEN, *NONE	オプション
HOMEDIR	ホーム・ディレクトリー	パス名, *USRPRF, *SAME	オプション
EIMASSOC	EIM関連	単一値: *NOCHG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: EIM ID	文字値, *USRPRF	
	要素 2: 関連タイプ	*TARGET, *SOURCE, *TGTSRC, *ADMIN, *ALL	
	要素 3: 関連アクション	*REPLACE , *ADD, *REMOVE	
	要素 4: EIM IDの作成	*NOCRTEIMID , *CRTEIMID	

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

値を変更するユーザー・プロファイルの名前を指定します。数字のユーザー・プロファイルを指定することができます。ユーザー・プロファイルが数字の場合には、**Q**で始めなければなりません。

これは必須パラメーターです。

次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターでは正しくありません。

QAUTPROF, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJBSVR, QFNC, QGATE, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNTP, QPEX, QPM400, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRVAGT, QSYS, QTCP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

名前 作成するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

トップ

ユーザー・パスワード (PASSWORD)

ユーザーがシステムにサインオンできるパスワードを指定します。このパスワードはユーザー・プロファイルと関連付けられて、システム内のユーザーを表わすためにシステムによって使用されます。このパスワードは、個々のユーザーのみが知っている必要があります。数字のパスワードを指定することができます。

このシステムがパスワード・レベル0または1で作動中であり、パスワードが数字である場合は、そのパスワードは**Q**で始めなければなりません。たとえば、**Q1234**。ここで、**1234**はシステムにサインオンするためのパスワードです。

注: パスワード・レベルは、パスワード・レベル(QPWDLVL)システム値によって制御されます。

注: 新しいパスワードはパスワードの妥当性検査規則に対して検査されません。パスワード妥当性検査規則は、OS/400システム値によって定義されます。パスワードの妥当性検査規則については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

このユーザー・プロファイルに対応するパスワードはありません。ユーザーは、PASSWORD(*NONE)を指定したプロファイルでシステムをサインオンすることはできません。

ユーザー・パスワード

システムがパスワード・レベル0または1で作動している場合には、10文字またはそれ以下の英数字ストリングを指定してください。最初の文字は英字で、その他の文字は英数字でなければなりません。

システムがパスワード・レベル2または3で作動している場合には、128文字またはそれ以下の文字ストリングを指定してください。パスワード・レベル2または3では、大文字小文字の区別が行われます。

ローカル・パスワード管理(LCLPWDGMT)パラメーターが*NOである場合は、ローカルOS/400パスワードは*NONEに設定されるので、ユーザーはパスワードに*NONEを指定することと同じ制限を受けます。指定されるパスワード値が、パスワード同期を実行する他のIBM製品（たとえば、WINDOWS SERVERのISERIES統合）に送られます。ユーザー・プロファイルに対してLCLPWDGMT(*NO)が指定されている場合に、製品のパスワードの管理については、その製品の資料を参照してください。

[トップ](#)

パスワードを満了にセット (PWDEXP)

このユーザーのパスワードが満了にセットされるかどうかを指定します。パスワードが満了にセットされている場合には、ユーザーはシステムにサインオンするパスワードを変更する必要があります。ユーザーがシステムのサインオンを試みると、サインオン情報画面が表示され、パスワードを変更するオプションを選択することができます。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** パスワードは満了にセットされません。

***YES** パスワードは満了にセットされます。

[トップ](#)

状況 (STATUS)

ユーザー・プロファイルの状況を指定します。

サインオンが正常に行われなかった回数がQMAXSIGNシステム値に指定された限界に達し、QMAXSGNACNシステム値にオプション2または3が指定されている場合には、システムはユーザー・プロファイルを非活動化します。

***SAME**

値は変更されません。

***ENABLED**

ユーザー・プロファイルはサインオンに対して有効です。

***DISABLED**

ユーザー・プロファイルは、許可ユーザーが再び使用可能にするまで、サインオンには無効です。非活動化されたユーザー・プロファイルのバッチ・ジョブは投入することができます。

トップ

ユーザー・クラス (USRCLS)

このユーザー・プロファイルと関連したユーザーのタイプを指定します。すなわち、機密保護担当者、機密保護管理者、プログラマー、システム操作員、またはユーザーなどです。ユーザー・クラスは、メニューに示されるオプションを制御します。特殊権限が付与されるのは、*USRCLSが**特殊権限 (SPCAUT)**パラメーターに指定されている場合だけです。SPCAUT(*USRCLS)が指定された場合には、認可される特殊権限はQSECURITY値によって異なります。

***SAME**

値は変更されません。

***USER**

QSECURITYレベル10または20では、ユーザーは*ALLOBJおよび*SAVSYS権限をもちます。
QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは特殊権限を持ちません。

***SECOFR**

機密保護のすべてのレベルで、機密保護担当者には次の特殊権限が認可されます。

- *ALLOBJ
- *SAVSYS
- *JOBCTL
- *SERVICE
- *SPLCTL
- *SECADM
- *AUDIT
- *IOSYSCFG

***SECADM**

QSECURITYレベル10または20では、機密保護管理者は*ALLOBJ、*SAVSYS、*SECADM、および*JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは*SECADM特殊権限を持ちます。

***PGMR**

QSECURITYレベル10または20では、プログラマーは*ALLOBJ、*SAVSYS、および*JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは特殊権限を持ちません。

***SYSOPR**

QSECURITYレベル10または20では、システム操作員は*ALLOBJ, *SAVSYS,および*JOBCTL特殊権限を持ちます。

QSECURITYレベル30以上では、そのユーザーは*SAVSYSおよび*JOBCTL特殊権限を持ちます。

[トップ](#)

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QASTLVLに定義された援助レベルが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

***INTERMED**

システム・インターフェースが使用されます。

***ADVANCED**

EXPERTシステム・インターフェースが使用されます。さらにリスト項目を表示できるようにするために、オプション・キーと機能キーは表示されません。コマンドに拡張(*ADVANCED)レベルがない場合には、中間(*INTERMED)レベルが使用されます。

[トップ](#)

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

このユーザーに対して現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定します。ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドまたはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドの制限機能(LMTCPB)パラメーターに*PARTIALまたは*YESが指定された場合には、ユーザーは、サインオンまたはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドで現行ライブラリーを変更することはできません。

***SAME**

値は変更されません。

***CRTDFT**

このユーザーには現行ライブラリーがありません。省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

名前 このユーザーに対して現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

呼び出す初期プログラム (INLPGM)

対話式ジョブの場合は、要求処理プログラムとしてQCMDを持つ新しい経路指定ステップが開始されると常に呼び出されるプログラムの名前を指定します。*PARTIALまたは*YESが制限機能 (LMTCPB)パラメーターに指定されている場合は、プログラム値はサインオン時に、あるいはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドによって変更することができません。このプログラムにはパラメーターを渡すことができません。

システム/36環境プロシージャー名は、そのプロシージャーが（ライブラリー・リスト中または指定されたライブラリー内の）ファイルQS36PRCのメンバーである場合および次の条件のいずれかが真である場合は初期プログラムとして指定することができます。

- *S36がSPCENVパラメーターに指定されている。
- *SYSVALがSPCENVパラメーターに指定され、システム値SPCENVが*S36である。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ユーザーのサインオン時に呼び出されるプログラムはありません。初期メニュー (INLMNU)パラメーターにメニュー名を指定すると、そのメニューが表示されます。

修飾子1: 呼び出す初期プログラム

名前 ユーザーのサインオン時に呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 初期プログラムがあるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

初期メニュー (INLMNU)

ユーザーの経路指定プログラムがコマンド・プロセッサQCMDである場合は、ユーザーがシステムにサインオンすると表示される初期メニューを指定します。*YESが制限機能 (LMTCPB)パラメーターに指定されている場合は、ユーザーはサインオン時に、あるいはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドを使用してメニューを変更することができません。

システム/36環境メニューは、次の条件のいずれかが真である場合には、初期メニューとして指定することができます。

- *S36が特殊環境 (SPCENV)パラメーターに指定されている。
- *SYSVALがSPCENVパラメーターに指定され、システム値SPCENVが*S36である。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***SIGNOFF**

システムはプログラムが完了した時点でユーザーをサインオフします。これは、プログラムを実行するためだけのために認可されたユーザーを対象としています。

修飾子1: 初期メニュー

名前 ユーザーがシステムにサインオンした後に呼び出される初期メニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メニューを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 初期メニューがあるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

制限機能 (LMTCPB)

ユーザーがプログラム、メニュー、現行ライブラリー、およびATTNキー処理プログラムの値を制御できる限界を指定します。それはユーザーがコマンド入力行からコマンドを実行することができるかどうかも決定します。機密保護レベルが10の時には、このパラメーターは無視されます。

注: 他のユーザーのユーザー・プロファイルを作成または変更する時には、ユーザー自身のユーザー・プロファイルがユーザーに認可する以上の能力を他のユーザーに認可する値をこのパラメーターで指定することはできません。たとえば、ユーザーのユーザー・プロファイルにおいて**制限機能 (LMTCPB)**パラメーターで*PARTIALが指定されている場合には、他のユーザーに対して*PARTIALまたは*YESを指定することができます。他のユーザーに対して*NOを指定することはできません。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** ユーザーがシステムにサインオンする時に、プログラム、メニュー、および現行ライブラリーの値を変更することができます。ユーザーは、プロファイル変更(CHGPRF)コマンドで、自分のユーザー・プロファイル中のプログラム、メニュー、現行ライブラリー、またはATTNキー処理プログラムの値を変更することができます。コマンドはコマンド入力行から実行することができます。

***PARTIAL**

プログラムおよび現行ライブラリーをサインオン画面で変更することはできません。メニューを変更することができ、またコマンド入力行からコマンドを実行することができます。ユーザーはプロファイル変更(CHGPRF)コマンドによってメニューの値を変更することができます。プログラム、現行ライブラリー、およびATTNキー処理プログラムは、CHGPRFコマンドを使用して変更することができません。

***YES** プログラム、メニュー、および現行ライブラリーの値をサインオン画面で変更することはできません。コマンドをコマンド入力行からかまたはCMDADDのようなコマンド・グループ化メニューからオプションを選択することによって出した場合には、コマンドを実行することはできませんが、

コマンド入力画面からであれば実行することができます。CHGPRFコマンドを使用して、プログラム、メニュー、現行ライブラリー、またはATTNキーのプログラム処理値を変更することはできません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

特殊権限 (SPCAUT)

ユーザーに付与される特殊権限を指定します。システム上のある種の機能を実行するためには、特殊権限が必要です。特殊権限は、多くのシステム提供のユーザー・プロファイル(QSECOFRまたはQSYSを含む) から除去することができません。

通常、次の特殊権限が認可されます。

- システムの操作が必要なユーザーに対して、システム保管(*SAVSYS)特殊権限。
- システム入出力構成を変更する必要があるユーザーに対して、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限。
- ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、システム上で実行中のすべてのジョブ、またはジョブ待ち行列上にあるジョブ、あるいはOPRCTL (*YES)が指定された出力待ち行列上にあるジョブを変更、表示、保留、解放、取り消し、およびすべての消去を行なう権限が与えられます。また、ユーザーはシステムをロードし、書き出しプログラムを開始し、活動サブシステムを停止する権限も持っています。
- ユーザー・プロファイルの作成、変更、または削除が必要なユーザーに対して、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限。
- システム資源の処理が必要なユーザーに対して、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限。
- 保守機能を実行する必要があるユーザーに対して、保守(*SERVICE)特殊権限。
- すべてのスプール関連機能を実行する必要があるユーザーに対して、スプール制御(*SPLCTL)特殊権限。
- 監査機能を実行する必要があるユーザーに対して、監査(*AUDIT)特殊権限。

制約事項:

- 別のユーザー・プロファイルを作成または変更しようとするユーザー・プロファイルには、付与しようとする特殊権限のすべてが必要です。すべての特殊権限を別のユーザー・プロファイルに付与するには、すべての特殊権限が必要です。
- CHGUSRPRFコマンドの使用時に、ユーザーに*SECADM特殊権限を付与するために、ユーザーには*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。

- CHGUSRPRFコマンドの使用時に、ユーザーに*AUDIT特殊権限を付与するために、ユーザーには*ALLOBJ, *SECADM, および*AUDIT特殊権限が必要です。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*USRCLS

ユーザー・クラス (**USRCLS**)パラメーターに指定された値に基づいて、このユーザーに特殊権限が認可されます。

*NONE

このユーザーに認可される特殊権限はありません。

その他の値

*ALLOBJ

全オブジェクト権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、私用権限の有無にかかわらず、すべてのシステム資源にアクセスすることができます。

*AUDIT

このユーザーには監査権限が認可されます。このユーザーには、監査機能を実行する権限が与えられます。監査機能には、システムに対する監査のオンまたはオフとオブジェクトまたはユーザーに対する監査レベルの制御が含まれます。

*JOBCTL

ジョブ制御権限がユーザーに付与されます。ユーザーには、システム上で実行中のすべてのジョブ、およびOPRCTL (*YES)が指定されているジョブ待ち行列または出力待ち行列上にあるすべてのジョブを変更、表示、保留、保留解除、取り消し、および消去する権限があります。このユーザーはまた、書き出しプログラムを開始したり、活動サブシステムを停止する権限ももっています。

*SAVSYS

このユーザー・プロファイルにシステム保管権限が与えられます。このユーザーには、オブジェクト管理権限があってもなくても、システム上のすべてのオブジェクトの保管、復元、および記憶域解放を行なう権限があります。

*IOSYSCFG

入出力(I/O)システム構成権限がユーザーに付与されます。ユーザーはシステムの入出力構成を変更する権限を持ちます。

*SECADM

機密保護管理者権限がユーザーに付与されます。ユーザーは、ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)、ユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)、およびユーザー・プロファイル削除(DLTUSRPRF)コマンドに対して認可されている場合は、ユーザー・プロファイルを作成、変更、または削除することができます。この権限では、このユーザー・プロファイルが持っていない特殊権限を付与することはできません。別のユーザーに*SECADM特殊権限を付与するためには、ユーザーは*ALLOBJと*SECADMの両方の特殊権限を持っていない限りなりません。

*SERVICE

保守権限がこのユーザーに付与されます。ユーザーはサービス機能を実行することができます。

*SPLCTL

スプール制御権がユーザーに付与されます。ユーザーはすべてのスプール機能を実行することができます。

特殊環境 (SPCENV)

ユーザーがサインオン後に操作を行なう特殊環境を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システムにサインオンした後のユーザーのシステム環境を決めるために、システム値QSPCENVが使用されます。

***NONE**

ユーザーは、システムにサインオンした後に、OS/400システム環境で操作を行ないます。

***S36** ユーザーは、システムにサインオンした後に、システム/36環境で操作を行ないます。

トップ

サインオン情報の表示 (DSPSGNINF)

サインオン情報画面が表示されるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

サインオン情報画面が表示されるかどうかを決めるために、システム値QDSPSGNINFが使用されます。

***NO** サインオン情報画面は表示されません。

***YES** サインオン情報画面が表示されます。

トップ

パスワード満了間隔 (PWDEXPITV)

パスワード満了間隔（日数）を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

パスワード満了間隔を決定するためには、システム値QPWDEXPITVが使用されます。

***NOMAX**

パスワードは満了しません。

1-366 パスワードが変更される日付からパスワードが満了する日付までの日数を指定してください。有効な値の範囲は1から366です。

トップ

ローカル・パスワード管理 (LCLPDMGT)

ユーザー・プロファイルのパスワードをローカル側で管理かするかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** パスワードはローカル・システム上で管理されます。

***NO** パスワードはローカル・システム上で管理されません。この値を指定すると、ローカルOS/400パスワードが*NONEに設定されることとなります。パスワード・パラメーターに指定されたパスワード値が、パスワード同期を実行する他のIBM 製品（たとえば、WINDOWS SERVERのISERIES統合）に送られます。

ユーザーは、パスワード変更(CHGPWD)コマンドを使用して自分のパスワードを変更できなくなります。また、システムに直接サインオンすることもできなくなります。

この値を指定すると、パスワード同期を実行する他のIBM製品(WINDOWS SERVERのISERIES統合など)に影響が及ぶこととなります。詳細については、製品の資料を参照してください。

この値を使用する必要があるのは、ユーザーが他のどれかのプラットフォームによってシステムにアクセスする必要しかない場合です。

トップ

装置セッション限界 (LMTDEVSSN)

ユーザーに許される装置セッションの数を1に制限するかどうかを指定します。これはSYSREQおよび2番目のサインオンを制限しません。

*SAME

値は変更されません。

***SYSVAL**

ユーザーが1装置セッションに制限されるかどうかを決めるために、システム値QLMTDEVSSNが使用されます。

***NO** ユーザーは1装置セッションに制限されません。

***YES** ユーザーは1装置セッションに制限されます。

トップ

キーボード・バッファ方式 (KBDBUF)

このユーザー・プロファイルのジョブが初期設定される時に使用されるキーボード・バッファリング値を指定します。先行入力機能が活動状態の場合には、キーボード・キー・ストロークをバッファに入れることができます。ATTNキー・バッファリング・オプションが活動状態の場合には、ATTNキーはその他のキーと同じようにバッファに入れられます。ATTNキー・バッファ方式オプションが活動状態でない場合には、ATTNキーはバッファに入れられず、表示装置が入力禁止状態であってもシステムに送られます。また、この値はユーザー・アプリケーションによっても設定することができます。詳細な情報は、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter)で、API解説（英文）にあります。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

キーボード・バッファリング値を決定するために、システム値QKBDBUFが使用されます。

***NO** 先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションが活動状態になっていません。

***TYPEAHEAD**

先行入力機能は活動状態ですが、ATTNキー・バッファリング・オプションはそうではありません。

***YES** 先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションは活動状態になっています。

トップ

最大許容記憶域 (MAXSTG)

このユーザー・プロファイルによって所有される永続オブジェクトを記憶するために割り当てられる補助記憶域の最大容量（キロバイト数）を指定します（1Kバイトは1024バイトと等しくなります）。対話式ユーザーがオブジェクトを作成しようとしているときに最大数を超えると、エラー・メッセージが表示され、そのオブジェクトは作成されません。オブジェクトをバッチ・ジョブで作成時に最大数を超えると、エラー・メッセージが（ジョブのロギング・レベルに応じて）ジョブ・ログに送られ、そのオブジェクトは作成されません。

記憶域は4Kの増分で割り振られます。したがって、MAXSTG(9)を指定した場合には、プロファイルは、12Kの記憶域を割り振られます。

ユーザー・プロファイルのための最大記憶域を計画する時には、以下のシステム処置を考慮してください。

- 復元操作により、記憶域が復元を実行中のユーザーに割り当てられてから、オブジェクトが所有者に転送されます。大容量の復元の場合は、MAXSTG(*NOMAX)を指定してください。
- レシーバー・サイズが増大すると、ジャーナル・レシーバーを作成するユーザー・プロファイルには記憶域が割り当てられます。JRNRCV(*GEN)を使用して新規レシーバーを作成すると、アクティブ・ジャーナル・レシーバーを所有しているユーザー・プロファイルに記憶域が割り当て続けられます。きわめてアクティブなジャーナル・レシーバーを所有している場合は、MAXSTG(*NOMAX)を指定してください。
- 作成したオブジェクトを自分のグループ・プロファイルに転送するユーザー・プロファイルには、そのオブジェクトをグループ・プロファイルに転送する前に、作成済みオブジェクトを入れるために十分な記憶域がユーザー・プロファイルに必要です。
- オブジェクトが別のユーザー・プロファイルによって所有されている場合でも、ライブラリーの所有者には、そのライブラリーに保管されるオブジェクトの記述用の記憶域が割り当てられます。このようなオブジェクトの例は、テキストおよびプログラム参照です。

***SAME**

値は変更されません。

***NOMAX**

必要なだけの記憶域がこのプロファイルに割り当てられます。

番号 ユーザー用の記憶域の最大容量をキロバイト数（1Kバイトは1024バイトです）で指定してください。

トップ

最高スケジュール優先順位 (PTYLMT)

ユーザーがシステムに投入する各ジョブごとに指定できる最高スケジュールリング優先順位を指定します。この値は、このユーザー・プロファイルのもとで実行中のすべてのジョブのジョブ処理優先順位および出力優先順位を制御します。つまり、ジョブ・コマンドのJOBPTYおよびOUTPTYパラメーターに指定された値は、ジョブが実行されるユーザー・プロファイルのPTYLMT値を超えることができません。スケジュール優先順位は0 - 9の範囲の値とすることができます。0は最高の優先順位、9は最低の優先順位です。

***SAME**

値は変更されません。

0-9 ユーザーに許される最高スケジュールリング優先順位の値(0-9)を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBBD)

サブシステム・ワークステーション項目を介して開始されるジョブに使用されるジョブ記述を指定します。ユーザー・プロファイルの作成または変更時にジョブ記述がない場合には、ジョブ記述名がユーザー・プロファイルに保持されるので、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブ記述パラメーター値でユーザーJOBBD(*USRPRF)が指示されている、ワークステーション項目に使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

グループ・プロファイル (GRPPRF)

特定の権限がユーザーに付与されていない場合に、権限を使用するユーザーのグループ・プロファイル名を指定します。このコマンドの現行ユーザーには、**グループ・プロファイル (GRPPRF)**パラメーターに指定されたプロファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限および変更(*CHANGE)権限が必要です。プログラムの借用操作によって、必要な*OBJMGT権限を認可することはできません。

注：

1. グループ・プロファイルが指定された場合には、そのユーザーは、そのグループ・プロファイルに対して*CHANGEおよび*OBJMGT権限が自動的に認可されます。
2. 以下のIBM提供のオブジェクトはこのパラメーターでは正しくありません。

QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QFNC, QGATE, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFANON, QNTP, QPEX, QPM400, QRJE, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRV, QSRVAGT, QSRVBAS, QSYS, QTCM, QTCP, QTFTP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

このユーザー・プロファイルはグループ・プロファイルではありません。

名前 このユーザー・プロファイルと一緒に使用するグループ・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

所有者 (OWNER)

このユーザーが作成したオブジェクトの所有者となるユーザー・プロファイルを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***USRPRF**

ジョブに関連したユーザー・プロファイルがオブジェクトの所有者になります。

***GRPPRF**

グループ・プロファイルは新しく作成したオブジェクトの所有者が作成して、そのオブジェクトに対するすべての権限を持ちます。ジョブと関連したユーザー・プロファイルは、オブジェクトに対するどんな特定権限も持っていません。*GRPPRFを指定する場合は、ユーザー・プロファイル名を**グループ・プロファイル (GRPPRF)**パラメーターに指定子しなければならず、**グループ権限 (GRPAUT)**パラメーターを指定することはできません。

[トップ](#)

グループ権限 (GRPAUT)

新しく作成されたオブジェクトについてのグループ・プロファイルに付与される特定権限。**所有者 (OWNER)**パラメーターに*GRPPRFが指定されている場合には、このパラメーターの指定はできません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

グループ権限が付与されません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

トップ

グループ権限タイプ (GRPAUTTYP)

新しく作成されるオブジェクトのグループ・プロファイルに認可する権限のタイプを指定します。グループ権限 (GRPAUT)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターの指定は無視されません。

*SAME

値は変更されません。

*PRIVATE

グループ・プロファイルは、GRPAUTパラメーターで判別される権限値によって、新しく作成されるオブジェクトに対して私用認可が認可されます。GRPAUTパラメーターの権限値が*NONEの場合には、この値は無視されます。

***PGP** グループ・プロファイルは、GRPAUTパラメーターで判別される権限値によって、新しく作成されるオブジェクトの1次グループになります。GRPAUTパラメーターの権限値が*NONEの場合には、この値は無視されます。

トップ

補足グループ (SUPGRPPRF)

ユーザーの補足グループ・プロファイルを指定します。ここに指定されたプロファイルを、グループ・プロファイル (GRPPRF)パラメーターに指定されたグループ・プロファイルと一緒に使用して、そのジョブに特定のユーザー権限が指定されない場合に、どんな権限をユーザーがもつかを判別します。このパラメーターにプロファイルが指定された場合には、このユーザー・プロファイルに対して（このコマンドか前のユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)またはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドのいずれかで) GRPPRFパラメーターにグループ・プロファイル名を指定しなければなりません。このコマンドの現行ユーザーには、これに指定されたプロファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限および変更(*CHANGE)権限が必要です。プログラムの借用操作によって、必要な*OBJMGT権限を認可することはできません。

注:

1. グループ・プロファイルが指定された場合には、そのユーザーは、そのグループ・プロファイルに対して*CHANGEおよび*OBJMGT権限が自動的に認可されます。

2. 次のIBM提供ユーザー・プロファイルはこのパラメーターでは無効です。

QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QFNC, QGATE, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFANON, QNTP, QPEX, QPM400, QRJE, QSNADS, QSPL, QSPLJOB, QSRV, QSRVAGT, QSRVBAS, QSYS, QTCM, QTCP, QTFTP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

補足のグループ・プロファイルは、このユーザー・プロファイルと一緒に使用されません。

名前 既存のオブジェクトにアクセスするためのジョブの適格性および特殊権限を判別するために、このユーザー・プロファイルおよびGRPPRFパラメーターに指定されたグループ・プロファイルと一緒に使用される最大15のグループ・プロファイル名を指定します。

[トップ](#)

会計コード (ACGCDE)

このユーザー・プロファイルと対応した会計コードを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

15個の空白からなる会計コードが、このユーザー・プロファイルに割り当てられます。

文字値 このユーザー・プロファイルから会計コードを受け取る、ジョブが使用する15文字の会計コードを指定してください。15文字未満が指定されると、ストリングの右側に空白が埋め込まれます。

[トップ](#)

文書パスワード (DOCPWD)

文書交換アーキテクチャー(DIA)文書配布サービス・ユーザーが他のユーザーが個人配布機能の代行するユーザーによる使用から保護できる文書パスワードを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

このユーザーが使用する文書パスワードはありません。

名前 このユーザーに割り当てる文書パスワードを指定してください。パスワードは、1-8文字の範囲の英数字（英字A-Zおよび数字0-9）でなければなりません。文書パスワードの先頭文字は英字でなければなりません。残りの文字は英数字にすることができます。組み込み空白、先行空白、および特殊文字は無効です。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージの送り先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。

注: メッセージ待ち行列は、まだ存在していないと作成されます。**ユーザー・プロファイル (USRPRF)**パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルはそのメッセージ待ち行列の所有者です。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***USRPRF**

USRPRFパラメーターに指定したのと同じ名前のメッセージ待ち行列がこのユーザーのメッセージ待ち行列として使用されます。このメッセージ待ち行列はQUSRSYSライブラリーにあります。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 このプロファイルで使用するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

配布 (DLVRY)

このユーザー用のメッセージ待ち行列に送られるメッセージの配信方法を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NOTIFY**

メッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、メッセージ待ち行列が割り当てられたジョブに通知されます。ワークステーションでの対話式ジョブの場合は、音響アラームが鳴り（アラーム機能が設定されている場合）、メッセージ待ち機中ライトがオンになります。メッセージ待ち行列が別のジョブによって使用されている場合には、転送モードを*NOTIFYに変更することはできません。

***HOLD**

メッセージは、ユーザーまたはプログラムによって要求されるまでメッセージ待ち行列に保留されます。

***BREAK**

メッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、メッセージ待ち行列が割り当てられたジョブが中断されます。ジョブが対話式ジョブの場合には、音響アラームが鳴ります（アラーム機能が設定されている場合）。メッセージ待ち行列が別のジョブによっても使用されている場合には、転送モードを*BREAKに変更することはできません。

***DFT** 照会メッセージに対する省略時の応答が送られます。照会メッセージのメッセージ記述に省略時の応答が指定されていない場合には、システムの省略時の応答の*Nが使用されます。

トップ

重大度コード・フィルター (SEV)

中断または通知モードでユーザーに転送することができる最低のメッセージの重大度コードを指定します。このパラメーターで指定された重大度レベルより低い重大度レベルをもつメッセージがメッセージ待ち行列に到着した場合には、ジョブは中断されず、音響アラームまたはメッセージ待機中ライトはオンになります。このようなメッセージはメッセージ表示(DSPMSG)コマンドを使用することによって要求されるまで、待ち行列に保留されます。*BREAKまたは*NOTIFYが配布 (DLVRY)パラメーターに指定されていて、メッセージが待ち行列に届いた時に有効な場合には、このメッセージと関連した重大度コードがここで指定した値と等しいかより大きい場合には、メッセージが配信されます。そうでない場合には、メッセージは要求されるまで待ち行列に保留されます。

***SAME**

値は変更されません。

0-99 00-99の範囲の重大度コードを指定してください。

トップ

印刷装置 (PRTDEV)

このユーザーの省略時プリンターを指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでデータをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れられます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの出力待ち行列 (OUTQ)パラメーターに指定されると見なされます。

***SAME**

値は変更されません。

***WRKSTN**

ユーザーのワークステーションに割り当てられた印刷装置が使用されます。

***SYSVAL**

システム値QPRTDEVに指定された値が使用されます。

名前 このユーザー用の出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定してください。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

このユーザー・プロファイルで使用される出力待ち行列を指定します。このコマンドが実行される時には、この出力待ち行列がすでに存在していなければなりません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***WRKSTN**

ユーザーのワークステーションに割り当てられた出力待ち行列が使用されます。

***DEV** 印刷装置 (**PRTDEV**)パラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。この出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。(印刷装置ファイルのDEVパラメーターはCRTPRTF, CHGPRTF,またはOVRPRTFコマンドによって判別されます。)

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの出力待ち行列 (**OUTQ**)パラメーターに指定されると見なされます。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 このユーザー・プロファイルによって使用される出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

アテンション・プログラム (ATNPGM)

このユーザーのアテンション(ATTN)キー処理プログラムとして使用するプログラムを指定します。ATTNキー処理プログラムは、対話式ジョブ中にATTNキーを押すと呼び出されます。このプログラムがアクティブになるのは、ユーザーがシステム提供のQCMDコマンド・プロセッサに経路指定されている場合だけです。ATTNキー処理プログラムは、初期プログラム(ある場合)が呼び出され、プログラムとメニューの両方にアクティブになる前に、オンに設定されています。プログラムが ATNPGM を(SETATNPGMコマンドを使用して)変更すると、新規プログラムがアクティブなままになっているのはそのプログラムの期間だけです。制御が戻され、QCMDがメニューを呼び出すと、元のATTNキー処理プログラムは再びアクティブになります。SETATNPGMコマンドがメニューから実行されるか、アプリケーションがメニューから呼び出されると、指定されている新規ATTNキー処理プログラムがATTNキー処理プログラムを指定変更します。ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドまたはユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドの制限機能 (**LMTCPB**)パラメーターに*YES または*PARTIALを指定した場合には、ATTNキー処理プログラムを変更することはできません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QATNPGMが使用されます。

***NONE**

このユーザーによってATTNキー処理プログラムは使用されません。

***ASSIST**

操作援助機能ATTNキー処理プログラム(QEZMAIN)が使用されます。

修飾子1: アテンション・プログラム

名前 このユーザー・プロファイルに使用するATTNキー処理プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

分類順序 (SRTSEQ)

このプロファイルのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QSRTSEQが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。

***LANGIDUNQ**

固有の重み分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

共用の重み分類テーブルが使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 このプロファイルで使用する分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

このユーザーに対して使用される言語識別コードを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QLANGIDが使用されます。

言語識別コード

使用する言語識別コードを指定してください。有効な言語識別コードの詳細はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」トピックに記載されています。

[トップ](#)

国別または地域ID (CNTRYID)

このユーザーに使用される国別または地域識別コードを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QCNTYIDが使用されます。

文字値 国別または地域識別コードを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時に識別コードの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

このユーザーに使用するコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。

CCSIDは、コード化スキーム識別コードの特定セット、文字セット識別コード、コード・ページ識別コード、および使用されているコード化図形表現を固有に識別する追加のコーディング関連情報を識別する16ビットの数値です。

注: CCSIDの値を変更する場合は、その変更は現在実行中のジョブには影響を及ぼしません。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。

識別コード

このユーザー・プロファイルに使用するCCSIDを指定してください。正しいCCSIDの詳細について

は、ISERIES INFORMATION CENTER
([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」情報を参照してください。

[トップ](#)

文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)

ジョブの文字識別コード制御(CHRIDCTL)を指定します。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループについて行われるコード化文字セット識別コード(CCSID)変換のタイプを制御します。この属性が使用される前に、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対する作成、変更、または一時変更コマンドの文字識別コード (CHRID)パラメーターに*CHRIDCTL特殊値を指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

システム値QCHRIDCTLが使用されます。

*DEV D

*DEV D特殊値は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対するCHRIDコマンド・パラメーターと同じ機能を実行します。

*JOBCCSID

*JOBCCSID特殊値は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対するCHRIDコマンド・パラメーターと同じ機能を実行します。

[トップ](#)

ロケール・ジョブ属性 (SETJOBATR)

ジョブが開始される時にロケール (LOCALE)パラメーターに指定されたロケールから取られるジョブ属性を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

ロケールから取られるジョブ属性を決定するためにシステム値QSETJOBATRが使用されます。

*NONE

ロケールからジョブ属性が取られません。

その他の値

*CCSID

ロケールのコード化文字セット識別コードが使用されます。ロケールからのCCSID 値はユーザー・プロファイルCCSIDを一時変更します。

*DATFMT

ロケールから日付の形式が使用されます。

***DATSEP**

ロケールから日付区切り記号が使用されます。

***DECfmt**

ロケールからの10進数形式が使用されます。

***SRTSEQ**

ロケールから分類順序が使用されます。ロケールの分類順序はユーザー・プロファイルの分類順序を一時変更します。

***TIMSEP**

ロケールから時刻区切り記号が使用されます。

[トップ](#)

ロケール (LOCALE)

このユーザーのLANG環境変数に割り当てられたロケールのパス名を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

このユーザーに割り当てられるロケール・パス名を決定するためにシステム値QLOCALEが使用されます。

***NONE**

このユーザーにロケール・パス名は割り当てられません。

***C**

このユーザーにCロケール・パス名が割り当てられます。

***POSIX**

このユーザーにPOSIXロケール・パス名が割り当てられます。

'パス名'

このユーザーに割り当てられるロケールのパス名を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・オプション (USROPT)

表示するヘルプ情報詳細のレベルおよび省略時の値による前ページまたは次ページ・キーの機能を指定します。システムは、不慣れなユーザーに適切な数画面を表示します。もっと経験のあるユーザーは詳細を表示するために追加の処置を実行しなければなりません。このパラメーターに値を指定すると、システムは経験のあるユーザーによるさらなる処置なしで詳細情報を示します。

単一値***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

詳細情報は表示されません。

その他の値

***CLKWD**

制御言語(CL)コマンドのプロンプトが表示される時に、指定できるパラメーター値の代わりに、パラメーター・キーワードが表示されます。

***EXPERT**

詳細情報が表示されるのは、ユーザーがシステムを定義または変更するための表示および編集オプション（オブジェクト権限の編集または表示など）を実行中です。

***ROLLKEY**

前ページおよび次ページ・キーの処置を逆にします。

***NOSTMSG**

状況メッセージはユーザーに送るときには表示されません。

***STSMMSG**

状況メッセージはユーザーに送るときに表示されます。

***HLPFULL**

ヘルプ・テキストはウィンドウではなく全画面に表示されます。

***PRTMSG**

このユーザーのプール・ファイルを印刷するか、印刷装置書き出しプログラムによって保留されるときは、メッセージはこのユーザーのメッセージ待ち行列に送られます。

[トップ](#)

ユーザーID番号 (UID)

このユーザー・プロファイルのユーザーID番号(UID番号)を指定します。このUID番号は、ユーザーがディレクトリー・ファイル・システムを使用している時に、そのユーザーを識別するために使用されます。ユーザーのUID番号は、そのユーザーの1つ以上の活動ジョブがある場合は、変更することができません。

***SAME**

値は変更されません。

番号 ユーザー・プロファイルに割り当てるUID番号を指定してください。1 - 4294967294の範囲内の値を入力することができます。割り当てられるUID番号は、他のユーザー・プロファイルにすでに割り当てられたものであってはなりません。

[トップ](#)

グループID番号 (GID)

このユーザー・プロファイルのグループID番号(GID番号)を指定してください。このGID番号は、グループのメンバーがディレクトリー・ファイル・システムを使用している時に、そのグループ・プロファイルを識別するために使用されます。ユーザーのGID番号は次の場合には変更することができません。

- ユーザー・プロファイルがディレクトリー内のオブジェクトの1次グループである。
- ユーザーには1つ以上のアクティブ・ジョブがあります。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザーがGID番号を持っていないか、またはGID番号が除去されています。

注: ユーザーがグループ・プロファイルまたはオブジェクトの1次グループの場合には、この値を指定することはできません。

***GEN** ユーザーのGID番号が生成されます。システムは、他のユーザーにまだ割り当てられていないGID番号を生成します。生成されるGID番号は100より大きくなります。

番号 ユーザー・プロファイルに割り当てるGID番号を指定してください。1 - 4294967294の範囲内の値を入力することができます。割り当てられるGID番号は、他のユーザー・プロファイルにすでに割り当てられたものであってはなりません。

トップ

ホーム・ディレクトリー (HOMEDIR)

このユーザー・プロファイルのホーム・ディレクトリーのパス名を指定します。ホーム・ディレクトリーはユーザーの初期作業用ディレクトリーです。処理に関連付けられた作業用ディレクトリーは、スラッシュ(/)で始まっていないパス名について、ディレクトリー・ファイル・システムでパス名の解決のために使用されます。ユーザーのサインオン時に指定されたホーム・ディレクトリーが存在しない場合には、ユーザーのホーム・ディレクトリーはルート(/)ディレクトリーとなります。

***SAME**

値は変更されません。

***USRPRF**

ユーザーに割り当てられるホーム・ディレクトリーは/HOME/USRPRFで、この場合のUSRPRFはユーザー・プロファイルの名前です。

'パス名'

このユーザーに割り当てるホーム・ディレクトリーのパス名を指定してください。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

EIM関連 (EIMASSOC)

このユーザーのEIM（エンタープライズ識別マッピング）識別コードに対するEIM関連を処理するかどうかを指定します。

注:

1. この情報はユーザー・プロファイルに保管されません。この情報は、ユーザー・プロファイルと一緒に保管または復元されません。
2. このシステムがEIM用に構成されていない場合は、無処理です。EIM操作を実行できないと、コマンドが失敗する原因になります。

単一値

***NOCHG**

EIM関連情報は変更されません。

要素1: EIM ID

この関連のEIM識別コードを指定します。

***USRPRF**

EIM識別コードの名前はユーザー・プロファイルと同じ名前です。

文字値 EIM識別コードの名前を指定してください。

要素2: 関連タイプ

関連のタイプを指定します。OS/400ユーザーのターゲット関連を追加することをお勧めします。

ターゲット関連は、既存データを保護するために主として使用されます。それらはマッピング・ルックアップ操作（つまり、EIMGETTARGETFROMSOURCE()）の結果として見つかりますが、マッピング・ルックアップ操作のソース識別として使用することはできません。

ソース関連は主として確認の目的のためにあります。それらは、マッピング・ルックアップ操作のソース識別として使用できますが、マッピング・ルックアップ操作のターゲットとしては見つかりません。

管理関連は、識別がEIM識別コードと関連付けられていることを示すために使用されますが、マッピング・ルックアップ操作のソースとして使用することはできず、マッピング・ルックアップ操作のターゲットとしては見つかりません。

***TARGET**

ターゲット関連を処理します。

***SOURCE**

ソース関連を処理します。

***TGTSRC**

ターゲット関連とソース関連を両方とも処理します。

***ADMIN**

管理関連を処理します。

***ALL** すべての関連タイプを処理します。

要素3: 関連アクション***REPLACE**

指定されたタイプの関連は、このユーザー・プロファイルおよびローカルEIMレジストリーの関連があるすべてのEIM識別コードから除去されます。新規関連は指定されたEIM識別コードに追加されることとなります。

***ADD** 関連を追加します。

***REMOVE**

関連を除去します。

要素4: EIM IDの作成

EIM識別コードがまだ存在していない場合は、それを作成するかどうかを指定します。

***NOCRTEIMID**

EIM識別コードを作成しません。

***CRTEIMID**

EIM識別コードが存在していない場合は作成します。

[トップ](#)

CHGUSRPRFの例

```
CHGUSRPRF  USRPRF(JJADAMS)  PASSWORD(SECRET)  SPCAUT(*JOBCTL)
           INLPGM(ARLIB/DSPMENU)
```

このコマンドは、JJADAMSという名前のユーザー・プロファイルに対して以下の変更を行ないます。

- パスワードをSECRETに変更します。
- JJADAMSが特殊ジョブ制御権限を使用することを許可します。
- サインオンが成功した後で最初に開始するプログラムを、ARLIBという名前のライブラリー内にある、DSPMENUという名前のプログラムに変更します。

その他のコマンド・パラメーターのすべての省略時の値として*SAMEを使用し、変更しません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGUSRPRF

***ESCAPE** メッセージ

CPF22CD

SUPGRPPRFパラメーターの値が正しくない。

CPF22CE

&1の値&2は別のユーザー・プロファイルで使用されている。

CPF22CF

このユーザー・プロファイルをグループ・プロファイルとすることはできない。

CPF22DB

変更するユーザー・プロファイルにGIDがなければならない。

CPF22DC

ユーザー・プロファイルのUIDを変更することはできない。

CPF22DD

ユーザー・プロファイルのGIDを変更することはできない。

CPF22DE

ユーザー・プロファイル&1のUIDまたはGIDを変更することはできない。

CPF22DF

ユーザー・プロファイル&1に対する要求を処理することができない。

CPF22EB

ユーザー・プロファイル&1に対する要求を処理することができない。

CPF22E1

USROPTパラメーターに*STSMMSGと*NOSTSMMSGを指定することはできない。

CPF22F1

コード化文字セット識別コード&1は正しくない。

CPF22F3

&1は許されないLMTCPB値を指定しました。

CPF22F5

新規パスワードの値はパスワード・レベル&2の時は使用できません。

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2228

ユーザー・プロファイル変更は認可されていない。

CPF223F

パスワードが*NONEの時には、パスワードを満了に設定することはできない。

CPF224A

ユーザー・プロファイル&1はGIDをもつことはできず、グループのメンバーでなければならない。

CPF2242

タイプ*&2のオブジェクト&1がライブラリー・リストに見つからなかった。

CPF2244

タイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF225A

USRPRFおよびSUPGRPPRFパラメーターの両方にユーザー・プロファイル名が指定されている。

CPF2259

グループ・プロファイル&1が見つからない。

CPF2260

ユーザー・プロファイル&2は作成または変更されなかった。理由コードは&3です。

CPF2261

OWNERまたはGRPAUTの値は許されない。

CPF2262

GRPAUTの値が正しくない。

CPF2264

ユーザー・プロファイル&1をグループ・メンバーにすることができない。

CPF2269

*SECADMまたは*AUDITを認可する時には特殊権限*ALLOBJが必要である。

CPF2272

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2291

ユーザー・プロファイルは、認可するすべての特殊権限をもっていない。

CPF2292

ユーザー・プロファイルを作成または変更するためには*SECADMが必要である。

CPF2293

ユーザー・プロファイル&1の記憶域が限界を超えた。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

ユーザー印刷情報の変更 (CHGUSRPRTI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー印刷情報変更(CHGUSRPRTI)コマンドは、システム内のユーザー定義テキスト値を変更することによってそのユーザーのユーザー印刷情報を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前, <u>*CURRENT</u>	オプションル、キー、定位置 1
TEXT	ユーザー定義のテキスト	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプションル、定位置 2

[トップ](#)

ユーザー (USER)

印刷情報が変更されるユーザーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***CURRENT**

現行ジョブを実行しているユーザー・プロファイルが使用されます。

ユーザー名

印刷情報が変更されるユーザーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義のテキスト (TEXT)

印刷情報を簡単に記述するテキストを指定します。このテキストは、スプール・ファイルが作成され、スプール・ファイル属性処理(WRKSPFLFA)コマンドを使用して表示できるようになった時に、現行ユーザーのために検索されます。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

記述 ユーザー印刷情報を記述する最大100文字のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGUSRPRTIの例

```
CHGUSRPRTI USER(FEIST) TEXT('DEPT. 456 P.O. BOX 123')
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルFEISTのユーザー印刷情報を変更します。ユーザー印刷情報は「DEPT. 456 P.O. BOX 123」に変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGUSRPRTI

*ESCAPE メッセージ

CPF0011

プロンプト一時変更プログラムによってエラーが検出された。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2247

内部機密保護オブジェクトが使用可能でない。理由コードは&1です。

CPF34D2

ユーザー&1のユーザー印刷情報は変更されなかった。

CPF34D5

CCSID変換エラー。

[トップ](#)

ユーザー追跡の変更 (CHGUSRTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー追跡バッファ変更(CHGUSRTRC)コマンドは、指定のジョブと関連したユーザー追跡バッファを変更します。各ユーザー追跡バッファは、名前QP0ZNNNNNNによるライブラリーQUSRSYSのユーザー空間(*USRSPC)オブジェクトです。ここで'NNNNNN'はユーザー追跡を使用するジョブのジョブ番号です。

ユーザー追跡は、QP0ZUPRINTF, QP0ZDUMP, QP0ZDUMPSTACK, およびQP0ZDUMPTARGETSTACK APIを使用して書き出されたユーザー生成追跡レコードをサポートします。問題判別APIの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) , **OS/400 UNIX-TYPE API**を参照してください。

問題判別APIでユーザー追跡バッファに書き出される追跡レコードを、DMPUSRTRC (ダンプ・ユーザー追跡バッファ) CLコマンドを使用して、形式設定してからファイルに入れるか、または**STDOUT**ファイルに書き出すことができます。

DLTUSRTRC (ユーザー追跡バッファ削除) CLコマンドを使用して、ユーザー追跡バッファ空間を削除することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションル, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
CLEAR	追跡バッファの消去	*NO, *YES	オプションル
MAXSTG	使用最大記憶域	10-16382, *SAME	オプションル
TRCFULL	追跡データ満杯時の処理	*WRAP, *STOPTRC, *SAME	オプションル

トップ

ジョブ名 (JOB)

ユーザー追跡バッファの変更を行うジョブを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* コマンドを実行しているジョブのユーザー追跡バッファが変更されます。

ジョブ名

ユーザー追跡バッファを変更するジョブの名前を指定します。ユーザー名またはジョブ番号修飾子が指定されない場合には、単純ジョブ名について現在システムにあるすべてのジョブを検索します。指定した名前に重複したものが見つかった場合には、修飾ジョブ名を指定しなければなりません。

ユーザー名

ユーザー追跡バッファを変更するジョブのユーザー名を指定します。

ジョブ番号

ユーザー追跡バッファを変更するジョブの6桁の番号を指定します。

[トップ](#)

追跡バッファの消去 (CLEAR)

ユーザー追跡バッファ空間に現在保管されているすべての追跡レコードを除去するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 追跡レコードをユーザー追跡バッファから除去しません。

***YES** ユーザー追跡バッファに現在保管されているすべての追跡レコードを除去します。

[トップ](#)

使用最大記憶域 (MAXSTG)

ユーザー追跡バッファを作成（存在しない場合）またはサイズ変更（存在する場合）するサイズ（キロバイト）を指定します。このパラメーターを指定する場合には、CLEARパラメーターに*YESを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

ユーザー追跡サイズを変更しません。最初のユーザー追跡APIを呼び出した時に、省略時のサイズ（300キロバイト）を使用してユーザー追跡バッファを作成します。

最大キロバイト

ユーザー追跡レコードを保管するために使用する記憶域の最大量（キロバイト）を指定します。1キロバイトは1024バイトです。

[トップ](#)

追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)

MAXSTGパラメーターにより指定された全記憶域を使用した時に、追跡レコードを折り返す（最も古いレコードを新しいレコードで置き換える）か、あるいは追跡を停止するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

現在の属性を変更しません。ユーザー追跡バッファースペースが作成された時の省略時値は TRCFULL(*WRAP)です。

***WRAP**

追跡ファイルがいっぱいになった時に、追跡は始めに折り返します。一番古い追跡レコードが収集された新しい記録で上書きされます。

***STOPTRC**

追跡バッファースペースが追跡レコードでいっぱいになると追跡は停止します。

トップ

CHGUSRTRCの例

例1:現行ジョブのユーザー追跡バッファースペースの変更

```
CHGUSRTRC JOB(*) MAXSTG(100) CLEAR(*YES)
```

このコマンドは、現行ジョブのユーザー追跡バッファースペースを100キロバイトに変更します。

例2:特定ジョブのユーザー追跡バッファースペースのクリア

```
CHGUSRTRC JOB(123581/DEPT2/WS1) CLEAR(*YES)
```

このコマンドは、ジョブWS1のユーザー追跡バッファースペースをクリアします。このジョブは、ユーザー・プロファイルDEPT2と関連付けられていて、ジョブ番号123581をもちます。

トップ

エラー・メッセージ： CHGUSRTRC

***ESCAPEメッセージ**

CPFA98A

ジョブ&3/&2/&1のユーザー追跡オプションを変更することができない。

CPFA98C

ジョブ&3/&2/&1が固有でない。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

トップ

変数変更 (CHGVAR)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

変数変更(CHGVAR)コマンドは、制御言語(CL)変数の値または文字変数の一部を変更します。この値は固定情報の値、別の変数の値、または式あるいは組み込み関数の評価の結果として得られた値に変更することができます。式と組み込み関数については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「CLコマンド内の式」を参照してください。また、10進値と文字値の間の暗黙変換は、VALUEパラメーターの説明に記載されている規則によって実行されます。

2進組み込み関数(%BINARYまたは%BIN)は、**CL変数名 (VAR)**パラメーターまたは**新しい値 (VALUE)**パラメーターの中で10進変数の代わりに使用することができます。文字変数の指定された部分は、VARパラメーターと一緒に使用されると、VALUEパラメーターに指定された算術式の符号付き2進整数等値値に変更されます。文字変数の指定された部分は、VALUEパラメーター内で使用されると、VALUEパラメーターの値の評価に使用された時に10進数に変換される符号付き2進整数とみなされます。2バイトの2進整数は10進(5 0)数に変換され、4バイトの2進数は10進(10 0)数に変換されます。そうすると、評価された式の結果は、VARに指定された変数に割り当てられます。

サブstring組み込み関数(%SUBSTRINGまたは%SST)は、VARまたはVALUEパラメーターの中で文字変数の代わりに使用することができます。文字変数の指定された部分は、VARパラメーターと一緒に使用されると、VALUEパラメーターに指定された式の値に変更されます。文字変数の指定された部分は、VALUEパラメーター内で使用されると、VALUEパラメーターの値の評価に使用されます。2バイトの2進整数は10進(5 0)数に変換され、4バイトの2進数は10進(10 0)数に変換されます。そうすると、評価された式の結果は、VARに指定された変数に割り当てられます。

サブstring組み込み関数を使用して、ジョブと関連した内部データ域の全部または一部を、検索したり変更したりすることができます。

%SWITCH組み込み関数は、VALUEパラメーターの中で、プログラム内で宣言された論理変数の代わりに使用することができます。%SWITCHには、ジョブ内の8個のジョブ・スイッチのどれが1と0のテストをされるかを示す8文字のマスクがあります。VALUEパラメーターに%SWITCHが指定されると、VARパラメーターで指定された論理変数は、この組み込み関数の論理結果がすべて真の場合に'1'に設定されます。テストされたジョブ・スイッチのどれかが偽条件を示すと、変数は'0'に設定されます。

10進変数に10進値をコーディングする場合

10進変数に数値を指定する場合:

- 小数点(ピリオドまたはコンマとして指定)を付けても付けなくても、またプラスまたはマイナス符号を付けても付けなくてもコーディングすることができます。
- 負の値を指定する場合は、値の前にマイナス符号(-)を付ける必要があります。
- コーディングした値に小数点が指定されていないと、最後に指定した桁の右側に小数点があるとみなされます。つまり、コーディングした値は整数であるとみなされます。

- 指定した整数桁または小数桁の数が定義されている整数桁または小数桁の数より多い場合は、ユーザーにエラー・メッセージが送られます。

たとえば、10進変数が5桁の10進値（そのうち2桁は小数部分）として定義されている場合は、次のような値をコーディングすることができます。

指定 値	仮定 値
2.7または2,7	2.70
27または27.00	27.00
-27	-27.00

10進変数に文字値をコーディングする場合

10進変数に文字値を指定する場合：

- 使用できる文字は、数字0-9、小数点（ピリオドまたはコンマとして指定）、およびプラス符号(+)またはマイナス符号(-)だけです。
- プラス符号またはマイナス符号を指定する場合は、文字値の先頭桁の直前に（間に空白を入れな）置かなければなりません。符号文字を指定しないと、値は正の値として変換されます。
- 変換された結果の小数部分の桁数は、文字値に指定された小数点によって決定されます。小数点が指定されていない場合は、変換された値の最終桁の右側に小数点があるとみなされます。
- 変換された結果では小数点位置合わせが行われます。変換された結果の小数部分の桁数は、変数に対して宣言された数値によって決定されます。指定した文字値が宣言した変数より多くの小数桁を持っていると、右側の余分な桁が切り捨てられます。文字値の整数部分の桁数が変数に対して宣言した桁数より多い場合は、ユーザーにエラー・メッセージが送られます。

以下の例は、文字変数&Aの示されている文字値を10進変数&Bの10進値に変換した場合の結果を示しています。

```
CHGVAR  VAR(&B) VALUE(&A)
```

文字変数&A		文字変数&B	
長さ	指定 値	長さ	変換 結果
10	'+123.1'	5, 2	123.10
10	'+123.00'	5, 0	123
10	'-123'	5, 2	-123.00

10進変数&Bの代わりに2進組み込み関数が使用されると、10進値は符号付き2進数に変換されます。

文字変数に文字値をコーディングする場合

文字変数に文字ストリングを指定する時、文字ストリングが特殊文字を含んでいたり、すべて数字からなっていたりする場合は、文字ストリングをアポストロフィで囲む必要があります。たとえば、'ABC

67'や'37.92'などです。前者は空白を含んでおり、後者は小数点を含み、すべて数字からなっています。37.92をアポストロフィで囲まないと、文字値ではなく10進値として扱われます。

文字変数の場合は、VALUEパラメーターの文字ストリングがVARパラメーターで指定した変数より短いと、右側に空白が埋め込まれ、長いと、右側が切り捨てられます。

ある文字変数を別の文字変数の一部と等しく設定する場合は、そのサブストリングを含む変数の名前、開始文字位置、および置き換える文字の数を、サブストリング組み込み関数のパラメーターとして指定してください。開始位置と文字数はCL変数で指定することができます。

文字変数に10進値をコーディングする場合

文字変数に10進値を指定する場合：

- 変換された結果では、同じ桁数、小数点、および符号文字（値が負の場合）が使用されます。必要なら、値は文字変数内で右寄せにされ、左側にゼロが埋め込まれます（これは、変換されたCL 10進値に特有の処置です）。
- 変換された結果の小数部分の桁数は、10進値に指定されたか、使用する10進変数に定義された桁数と同数になります。小数桁が10進値に指定されず、10進変数にも定義されていない場合は、結果に小数点は置かれません。
- 指定した10進値が負の場合は、文字変数の左端位置にマイナス符号が置かれます。正の値の場合は、文字変数にプラス符号は置かれません。

以下の例は、10進変数&Bの示されている10進値を文字変数&Aの文字値に変換した場合の結果を示しています。

```
CHGVAR VAR(&A) VALUE(&B)
```

10進変数&Bの代わりに2進組み込み関数を使用されると、符号付き2進数は10進数に変換されます。

10進変数&B		文字変数&A	
長さ	指定値	長さ	変換結果
5, 2	23.00または+23	7	0023.00
5, 2	-3.9	7	-003.90
5, 2	-123.67	7	-123.67

注：値が小数点と負の値を含むことができる場合は、小数点と符号文字を入れられるだけの十分な長さが文字変数に必要です。最後の例では、10進値が(5, 2)と定義されていますが、示されている値を入れるためには文字変数の長さが少なくとも7文字なければなりません。最後から2番目の例では、文字変数の長さが5文字しかなければ、変換結果-3.90が有効になります。

サブストリング組み込み関数を使用して、VARパラメーターに指定された文字変数のサブストリングを、VALUEパラメーターの10進値に変更することができます。

論理変数に論理値または文字値をコーディングする場合

論理変数の値は、'1'か'0'いずれかの論理値でなければなりません。指定する場合には、アポストロフで囲まなければなりません。ただし、VALUEパラメーターの中では、論理変数の代わりに%SWITCH組み込み関数を使用することができます。%SWITCH組み込み関数については、該当箇所を参照してください。

注: 10進変数および文字変数タイプの値は、16進形式で指定することができます(10進値58.0はX'580F')。ただし、文字値を16進形式で指定する場合は、16進数ストリングの妥当性検査は行われないので注意してください。

制約事項:

- CHGVARコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VAR	CL変数名	CL 変数名	必須, 定位置 1
VALUE	新しい値	文字値	必須, 定位置 2

トップ

CL変数名 (VAR)

値が変更されるCL変数を指定します。式が評価されるか、VARパラメーターが論理変数を指定する時以外は、変数のタイプがVALUEパラメーターで指定される定数または変数のタイプと同じである必要はありません。

サブストリング組み込み関数または2進組み込み関数を使用して、VARで指定された文字変数の一部分（つまり、変数内の文字ストリングのサブストリング）を、VALUEパラメーターで指定された値に変更する場合は、文字変数の名前を指定した後、変数名で指定された文字ストリング内の開始位置と変更する文字の数を指定してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

新しい値 (VALUE)

変数の値を変更するために使用する式を指定します。式の中では、変数、定数、または組み込み関数を使用することができます。式については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「CLコマンド内の式」を参照してください。

定数を単純式として使用する場合は、指定する定数のタイプと変数が10進変数、文字変数、または論理変数のどれとして宣言されているかによって決まる、次の規則によって値を指定する必要があります。

これは必須パラメーターです。

CHGVARの例

例1: 10進変数の変更

```
CHGVAR  &A  &B
```

変数&Aの値が変数&Bの値に設定されます。たとえば、&Bの値が37.2ならば、&Aの値も37.2になります。

```
CHGVAR  &Y  (&Y + 1)
```

変数&Yの値が1だけ増えます。たとえば、&Yの値が216であれば、その値は217に変更されます。

例2: 論理変数の変更

```
CHGVAR  &X  (&Y *OR &Z)
```

論理変数&Xの値が、論理変数&Yと論理変数&ZのOR演算の結果の値に設定されます。*ORを使用する時は、両方の変数が論理変数 でなければなりません。&Yが'0'で、&Zが'1'なら、&Xは'1'に設定されます。

```
CHGVAR  &A  %SWITCH(10XXXX10)
```

論理変数&Aの値は、組み込み関数%SWITCHの論理結果によって決まります。8文字からなるマスクの1, 2, 7, および8桁目は、ジョブの対応するジョブ・スイッチがマスクに示された値であるかどうかをテストされることを示します。ジョブ・スイッチ1と7が1かどうかをテストされ、ジョブ・スイッチ2と8が0かどうかをテストされます。(スイッチ3から6はテストされません。) 4個のスイッチすべてが%SWITCHマスクに指定された値どおりであれば、組み込み関数の論理結果は真で、変数&Aは'1'に設定されます。4個のスイッチのうちどれか1つでもマスクに示されていない値のものがあると、結果は偽となり、&Aは'0'に設定されます。

例3: 文字変数の変更

```
CHGVAR  VAR(&A)  VALUE(AB *CAT CD)
```

```
CHGVAR  &A  ('AB' *CAT 'CD')
```

この2つのコマンドは、変数&Aの値を文字ストリングABCDに等しく設定します。文字ストリングABCDは、2つの文字ストリングABとCDの連結の結果です。第1のコマンドは、引用符なしストリングを含むキーワード形式でコーディングされています。第2のコマンドは、2つの引用符付き文字ストリングを指定するVALUEパラメーターを含む定位置形式でコーディングされています。

```
CHGVAR  &VAR1  &VAR2
```

この例は、より短い文字ストリングによって値が変更される6文字の変数を示しています。コマンドの処理前は、&VAR1 = ABCDEFおよび&VAR2 = XYZであるとすると、&VAR1内の結果=右側に3個のブランクが埋め込まれたXYZになります。

```
CHGVAR  &VAR1  '12'
```

&VAR1が6文字の長さの文字変数であるとすると、&VAR1内の結果=右側に4個のブランクを埋め込まれた12になります。この例ではアポストロフィが必要です。

```
CHGVAR  VAR(%SUBSTRING(&A 4 3))  VALUE(REP)
```

または

```
CHGVAR  VAR(%SST(&A 4 3))  VALUE(REP)
```

&Aという名前の変数内の文字定数の3文字を変更するために、サブstring組み込み関数が使用されています。&Aの値がABCDEFGHであるとすると、&A内の4番目、5番目、および6番目の文字がREPに設定されて、結果はABCREPGHとなります。

```
CHGVAR VAR(%SST(*LDA 1 512)) VALUE(' ')
```

内部データ域をすべて空白に変更するために、サブstring組み込み関数が使用されています。

```
CHGVAR VAR(%BINARY(&A 1 2)) VALUE(20)
```

または

```
CHGVAR VAR(%BIN(&A 1 2)) VALUE(20)
```

&Aという名前の文字変数の最初の2文字を、数20の符号付き3進値または16進数X'0014'に変更するために、2進組み込み関数が使用されています。&Aという名前の文字変数の長さが10だとすると、変数&Aの3番目から10番目までの文字は変更されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGVAR

*ESCAPEメッセージ

CPF0816

%SWITCHマスク&1が正しくない。

[トップ](#)

ワークステーション項目変更 (CHGWSE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション項目変更 (CHGWSE)コマンドは、指定されたサブシステム記述中のワークステーション項目の1つ以上の属性を変更します。

注:

1. ジョブ記述 (JOBID)パラメーターが指定された場合には、ワークステーション項目は変更されますが、その時点で活動状態のこの項目によって開始されたジョブについては、このパラメーターの値はいずれも変更されません。
2. 活動ジョブの最大数 (MAXACT)パラメーターの値がワークステーション項目によって活動状態になっているワークステーションの合計数より小さい数まで減らされた場合には、追加のワークステーションにサインオンすることはできません。活動ワークステーションはサインオフされません。活動ワークステーションについては、2次ジョブへの移行 (TFRSECJOB)コマンドまたはグループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB)コマンドによって追加のジョブを作成することができます。活動ワークステーションの数がMAXACTパラメーターに指定された値より小さくなるまでは、他のワークステーションにサインオンすることはできません。
- 3.

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
WRKSTN	ワークステーション名の処理	総称名, 名前	オプション, 定位置 2
WRKSTNTYPE	ワークステーション・タイプ	*ALL, 3179, 3180, 3196, 3197, 3277, 3278, 3279, 3476, 3477, 3486, 3487, 5251, 5291, 5292, 5555, *ASCII, CONS, *CONS, *NONASCII	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
JOBID	ジョブ記述	単一値: *SAME , *USRPRF, *SBSD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションナル, 定位置 4
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
MAXACT	活動ジョブの最大数	0-1000, *SAME , *NOMAX	オプションナル
AT	割り振り	*SAME , *SIGNON, *ENTER	オプションナル

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

変更するワークステーション項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 ワークステーション・ジョブ項目が変更されるサブシステム記述の名前を指定します。

注: 次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QLPINSTALL
- QSYSSBSD

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

ワークステーション名の処理 (WRKSTN)

サブシステムによって使用されるワークステーションの名前を指定します。ワークステーションに関連する装置記述の作成 (表示装置) (CRTDEV DSP) コマンドに指定された装置記述名が、使用される名前です。

2バイト文字セットの考慮事項: 2バイト文字セット(DBCS)の場合には、タイプが5555のワークステーションをこのパラメーターかワークステーション・タイプ (**WRKSTNTYPE**) パラメーターのいずれかに指定しなければなりません。両方を指定することはできません。

総称名 総称名を指定してください。たとえば、DSP*, RMT*などです。

注: 総称ワークステーション名を指定しても、複数の項目が追加、変更、または除去されることはありません。

名前 特定のワークステーションの名前を指定します。たとえば、DSP10, DSP11, RMT55などです。

このパラメーターかワークステーション・タイプ (WRKSTNTYP)パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方に指定することはできません。

[トップ](#)

ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYPE)

追加, 変更, または除去する項目に関連したワークステーションのタイプを指定します。この項目は, 個々のワークステーションの特定の項目を持たないこのタイプのすべてのワークステーションに適用されます。

***ALL** すべてのワークステーション装置。これには, 5250, ASCII,および327Xの装置タイプの装置が含まれます。

3179 3179ワークステーション。

3180 3180ワークステーション。

3196 3196ワークステーション。

3197 3197ワークステーション。

3277 3277ワークステーション。

3278 3278ワークステーション。

3279 3279ワークステーション。

3476 3476ワークステーション。

3477 3477ワークステーション。

3486 3486ワークステーション。

3487 3487ワークステーション。

5251 5251ワークステーション。

5291 5291ワークステーション。

5292 5292カラー・ワークステーション。

5555 5555バイト文字セット(DBCS)使用可能ワークステーション。

*ASCII

すべてのASCIIワークステーション装置タイプ。

CONS システム・コンソール画面。この項目は, コンソールとして使用される装置と同じ装置タイプを指定する装置タイプ項目に優先権を持ちます。

*CONS

システム・コンソール画面。この項目は, コンソールとして使用される装置と同じ装置タイプを指定する装置タイプ項目に優先権を持ちます。

*NONASCII

327X装置タイプだけでなく, 5250データ・ストリームを使用するすべてのワークステーション装置。

このパラメーターか **ワークステーション名の処理 (WRKSTN)**パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方に指定することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

このワークステーション項目によって開始されるジョブで使用されるジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。項目の追加時にジョブ記述が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません（修飾されたジョブ記述名がサブシステム記述に保管されるため）。

注: ジョブ記述が存在していない項目の追加または変更は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているユーザーにのみ許可されます。

単一値

***SAME**

ジョブ記述は変更されません。

***USRPRF**

このワークステーションで（あるいはこのタイプのワークステーションで）サインオンするために使用されるユーザー・プロファイルに指定されたジョブ記述が、この項目によって開始されるジョブで使用されます。

***SBSD**

サブシステム記述 (**SBSD**)パラメーターに指定されたサブシステム記述と同じ名前のジョブ記述が、この項目を介して開始されるジョブに使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

活動ジョブの最大数 (MAXACT)

このワークステーション・ジョブ項目を使用するワークステーションについて、同時に活動状態にできるワークステーション・ジョブの最大数を指定します。

***SAME**

同時に活動状態にできるジョブの最大数は変更されません。

***NOMAX**

この実行処理項目から同時に活動状態にできるジョブ（ワークステーション）の最大数に制限を設けません。

0-1000

この実行処理項目から同時に活動状態にできるジョブの最大数を指定してください。

[トップ](#)

割り振り (AT)

このジョブ項目に関連したワークステーションがどのように割り振られるかを指定します。サブシステムへのワークステーションの割り振り方法の詳細については、サブシステム開始 (STRSBS)コマンドを参照してください。

***SAME**

ジョブ項目指定は変更されません。

***SIGNON**

ワークステーションが別のサブシステムでまだ使用されていない（サインオンされていない）場合には、サブシステムが開始された時にワークステーションが割り振られます。この実行処理項目に関連した各ワークステーションにサインオン・プロンプトが表示されます。ワークステーションが別のサブシステムに割り振られることになった場合には、このワークステーションに関連する対話式ジョブではジョブ転送 (TFRJOB)コマンドによってこのサブシステムを入力することができます。

***ENTER**

サブシステムが開始された時には、この実行処理項目に関連したワークステーションは割り振られていません。しかし、ワークステーションに関連した対話式ジョブでは、TFRJOBコマンドによってこのサブシステムを入力することができます。

トップ

CHGWSEの例

例1:サインオン時の入力の変更

```
CHGWSE  SBS(DQGPL/BAKER)  WRKSTN(A12)  AT(*SIGNON)
```

このコマンドは、汎用ライブラリーにあるサブシステムBAKERのワークステーションA12のワークステーション・ジョブ項目を変更します。ユーザーのパスワードがサインオン・プロンプトで入力され、実行キーが押された時に、ワークステーションA12のジョブが作成されます。

例2:入力の変更

```
CHGWSE  SBS(DQGPL/BAKER)  WRKSTN(B28)  JOB(*USRPRF)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLにあるサブシステムBAKERのワークステーションB28のワークステーション・ジョブ項目を変更します。このワークステーションでサインオンするために使用されるユーザー・プロファイルに名前の指定されたジョブ記述が、この項目によって開始されるジョブに使用されます。その他のコマンド・パラメーターは省略時の*SAMEの値になります。

トップ

エラー・メッセージ： CHGWSE

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

書き出しプログラム変更 (CHGWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書き出しプログラム変更(CHGWTR)コマンドにより、活動状態の印刷装置書き出しプログラムの次の属性を変更することができます。

- この書き出しプログラムによって処理される用紙タイプの変更。
- この書き出しプログラムのファイル区切りの数の変更。
- この書き出しプログラムが使用する出力待ち行列の変更。

このコマンドによって、指定された用紙タイプのすべてのファイルをまとめて処理することができます。出力待ち行列にある時にはスプール・ファイルは必ずしも用紙タイプの順序になっていませんから、操作員は用紙を連続的に変更する必要なく出力を管理することができます。また、そのつど書き出しプログラムを終了して開始することなく、この印刷装置に別の出力待ち行列を変更して使用することができます。

書き出しプログラムが保留(HLD)状況になっている時に変更が行われた場合には、書き出しプログラムが解放されるまで、変更は効力を持ちません。変更は、OPTIONパラメーターに指定された値に基づいて行われます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WTR	書き出しプログラム	名前, *SYSVAL	必須, 定位置 1
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME, *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FORMTYPE	用紙タイプ・オプション	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 用紙タイプ	文字値, *SAME, *ALL, *STD, *FORMS	
	要素 2: メッセージ・オプション	*SAME, *INQMSG, *MSG, *NOMSG, *INFOMSG	
FILESEP	ファイル区切り	0-9, *SAME, *FILE	オプション
SEPDRAWER	分離ページ用の用紙入れ	1-255, *SAME, *DEV, *FILE	オプション
OPTION	書き出しプログラム変更時点	*NORDYF, *FILEEND	オプション

[トップ](#)

書き出しプログラム (WTR)

これは必須パラメーターです。

変更する印刷装置書き出しプログラムの単純名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SYSVAL

システムの省略時の印刷装置に開始された書き出しプログラムを変更します。

書き出しプログラム名

変更したい印刷装置書き出しプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

この書き出しプログラムがスプール・ファイルの処理に使用する出力待ち行列の名前を指定します。書き出しプログラムを変更する前に、その出力待ち行列が使用可能でなければなりません。出力待ち行列が1次または2次補助記憶域プールにある場合には、その出力待ち行列が書き出しプログラムのライブラリー名スペース内になければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

使用中の出力待ち行列は同じままで、変更されません。

***DEV** スプール・ファイル用の印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。

出力待ち行列名

出力待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

用紙タイプ・オプション (FORMTYPE)

書き出しプログラムの出力を処理する時に使用する用紙タイプを指定します。ファイルの用紙タイプは、最初は、スプール・ファイルを作成するために使用された用紙タイプから得られます。

注: 印刷されるスプール・ファイルの用紙タイプが装置で印刷された最後のスプール・ファイルの用紙タイプと異なっている時には、用紙装てんメッセージが出されます。最後に印刷された用紙タイプは最後に出されたSTRPRTWTR, CHGWTR,またはVRYCFG以降のものが保持されます。

次の例を考慮してください。

1. 印刷装置PRT01で最後に印刷されたスプール・ファイルの用紙タイプは*STDです。
2. ユーザーは、次のコマンドを使用してPRT01の用紙タイプをXYZに変更します。
CHGWTR PRT01 FORMTYPE(XYZ)
3. 用紙タイプXYZのスプール・ファイルはPRT01で印刷されません。
4. その後ユーザーは、用紙タイプ*STDのスプール・ファイルをPRT01に送ります。PRT01で最後に印刷されたスプール・ファイルの用紙タイプは印刷中のスプール・ファイルの用紙タイプと同じであるので、介在するCHGWTRコマンドにもかかわらず、用紙装てんメッセージが出されません。

用紙タイプXYZのスプール・ファイルが実際にPRT01で印刷される場合には、用紙装てんメッセージが出されることとなります。

要素1:用紙指定タイプ

***SAME**

現行の用紙タイプの値は変更されません。

***ALL** すべての用紙タイプが書き出しプログラムによって処理されます。

***FORMS**

同じ用紙タイプを持つ使用可能なすべてのファイルは、書き出しプログラムが次の用紙タイプに移る前にグループとして処理されます。書き出しプログラムはまず、待ち行列で最初に使用可能なファイルを選択します。最初のファイルが完了すると、最初のファイルと同じ用紙タイプを持つすべてのファイルが処理されます。その後で、書き出しプログラムは再び、待ち行列で最初に使用可能なファイルを選択し、この処理が繰り返されます。

***STD** 書き出しプログラムは、用紙タイプが*STDのスプール・ファイルを処理します。

用紙タイプ

書き出しプログラムが使用する用紙のタイプを指定してください。この用紙タイプのファイルだけが処理されます。

要素2:メッセージ送信オプション

***SAME**

現行のメッセージ属性は変更されません。

***INQMSG**

スプール・ファイルの用紙タイプが印刷装置の用紙タイプと異なっている時には、照会メッセージがメッセージ待ち行列に送られます。

***INFOMSG**

この用紙タイプを必要とするスプール・ファイルが出力待ち行列に残っていない時には、通知メッセージがメッセージ待ち行列に送られます。

***MSG** スプール・ファイルの用紙タイプが印刷装置の用紙タイプと異なっている時には、照会メッセージがメッセージ待ち行列に送られ、この用紙タイプを必要とするスプール・ファイルが出力待ち行列に残っていない時には、通知メッセージが送られます。

***NOMSG**

照会メッセージも、通知メッセージもメッセージ待ち行列に送られません。

トップ

ファイル区切り (FILESEP)

各ファイルの前に印刷するファイル分離ページの数指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

ファイル区切りの数は同じままです。

***FILE** それぞれのファイルに指定されているファイル分離ページ数を印刷します。

ファイル区切りの数

印刷するファイル分離ページの数指定します。

[トップ](#)

分離ページ用の紙入れ (SEPDRAWER)

分離ページの印刷用に選択する用紙入れを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

分離ページ用に指定された用紙入れは変更されません。

***DEV D**

印刷装置の装置記述に記憶された値が使用されます。

***FILE** 分離ページはスプール・ファイルと同じ用紙入れから印刷されます。

- 1 分離ページは用紙入れ1から印刷されます。
- 2 分離ページは用紙入れ2から印刷されます。
- 3 分離ページは用紙入れ3から印刷されます。

分離ページ用紙入れ

分離ページを印刷する用紙入れを指示する1-255の範囲の値を指定してください。

注: 一部の印刷装置の場合には、SEPDRAWER(3)は封筒引き出しを暗黙のうちに指定します。

[トップ](#)

書き出しプログラム変更時点 (OPTION)

変更を行う時期を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NORDYF**

出力待ち行列上に書き出しプログラムの現行の用紙タイプ選択値に合うファイルがなくなった時点で、変更を行います。

***FILEEND**

現行ファイルの終わり（たとえば現行の報告書の印刷を終了した時点）で、変更を行います。

[トップ](#)

CHGWTRの例

CHGWTR WTR(MYWTR) FORMTYPE(MYFORM *NOMSG) OPTION(*FILEEND)

このコマンドは、他の用紙タイプのファイルを作成していた書き出しプログラムMYWTRを、現在作成されているファイルの終わりでMYFORMの用紙タイプのファイルを作成するように変更します。書き出しプログラムが用紙タイプMYFORMの適格なファイルを使用し終わった場合には、通知メッセージを送ることもできなくなります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGWTR

*ESCAPE メッセージ

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3313

書き出しプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3331

書き出しプログラム&3/&2/&1の制御は認可されていない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3456

書き出しプログラム&1をライブラリー&5の出力待ち行列&4に変更することはできない。

CPF3457

書き出しプログラム&1を変更することはできない。

CPF3458

書き出しプログラム&1を変更することはできない。書き出しプログラムの終了が保留中です。

CPF3459

書き出しプログラム&1は変更に適していない。

CPF3460

書き出しプログラム&1を変更することはできない。

CPF3463

装置&1の出力待ち行列が見つからなかった。

CPF3464

ライブラリー&2の出力待ち行列&1に対する権限がない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

ASPバランス化検査 (CHKASPBAL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ASPバランスの検査(CHKASPBAL)コマンドによって、現在活動状態になっている補助記憶域プール(ASP)バランス機能、および新規の割り振りができないようにマーク(*ENDALC)されている装置を確認することができます。どのASP機能が活動状態になっているか、またどの装置が*ENDALCとマークされているかを示す通知メッセージがジョブ・ログに送信されます。メッセージCPIB715は、どのASPバランス機能が活動状態であることを示します。メッセージCPIB716は、ASPバランスが活動状態でないことを示します。メッセージCPIB714は、*ENDALCとマークされた装置がないことを示します。メッセージCPIB713は、*ENDALCとマークされた各装置ごとに出されます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CHKASPBALの例

例1: ASPバランス化を調べる

CHKASPBAL

このコマンドは、現在どのASPバランス化機能が活動しているか、およびどの装置（ある場合）が新しい割り振りを許可しないようにマーク(*ENDALC)されているかを調べます。各構成済みASPのジョブ・ログに、どのバランス化操作が活動中であることを示す通知メッセージが送られます。*ENDALCとマークされている各装置のジョブ・ログに、通知メッセージが送られます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHKASPBAL

なし

[トップ](#)

通信追跡の検査 (CHKCMNTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信追跡検査(CHKCMNTRC)コマンドは、特定の回線、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述の通信追跡状況、あるいはシステムに存在する特定タイプのすべての追跡の通信追跡状況を戻します。状況はメッセージを介して戻されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QSECOFR
 - QSRV

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGOBJ	構成オブジェクト	名前, *ALL	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*LIN, *NWI, *NWS	必須, 定位置 2

トップ

構成オブジェクト (CFGOBJ)

検査する構成記述の名前を指定します。構成記述は回線記述か、ネットワーク・インターフェース記述です。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 特定タイプのすべての追跡の通信追跡状況が戻されます。

名前 検査したい構成記述の名前を指定します。

トップ

タイプ (CFGTYPE)

検査する構成記述のオブジェクト・タイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***LIN** 回線の状況が表示されます。

***NWI** ネットワーク・インターフェースの状況が表示されます。

***NWS** ネットワーク・サーバーの状況が表示されます。

[トップ](#)

CHKCMNTRCの例

例1:すべての追跡を検査する

```
CHKCMNTRC CFGOBJ(*ALL) CFGTYPE(*NWI)
```

このコマンドは、すべてのネットワーク・インターフェース追跡の通信追跡状況を表示します。

例2: 個々の追跡を検査する

```
CHKCMNTRC CFGOBJ(QESLINE) CFGTYPE(*LIN)
```

このコマンドは、回線QESLINEの通信追跡状況を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHKCMNTRC

*ESCAPE メッセージ

CPF39A7

通信プロセッサの追跡記憶域が使用できない。

CPF39A8

通信追跡保守ツールに対して認可されていない。

CPF39A9

通信追跡機能の実行中にエラーが起こった。

CPF39BE

タイプ&1の通信追跡が存在しない。

CPF39B0

通信追跡が存在していない。

CPF39B1

追跡&1タイプ&2が存在していない。

CPF39B6

通信追跡機能は実行できない。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

[トップ](#)

ディスク検査 (CHKDKT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク検査(CHKDKT)コマンドは、固有のボリューム識別コードまたはファイル・ラベルおよび作成日で指定された装置のボリュームを検索します。正しいディスクが見つからない場合には、このコマンドを入力したユーザーにメッセージが送られます。CLプログラムの中でこのメッセージをチェックすると、正しいディスクが駆動機構に入っているかどうに応じて論理の流れを指示することができます。

DEVパラメーターで指定されたディスクが検索されます。コマンドでボリューム識別コードが指定されている場合には、ディスクのボリューム識別コードがコマンドのボリューム識別コードと比較されます。正しいボリューム識別コードが見つかった場合、またはコマンドでボリューム識別コードが指定されていなくて、データ・ファイル識別コードが指定されている場合には、指定されたラベルがディスクのボリューム目録(VTOC)で検査されます。

正しいデータ・ファイル識別コードが見つかり、コマンドに作成日が指定されている場合には、データ・ファイル識別コードの日付がコマンドの日付と比較されます。日付が一致すれば、正しいファイルが見つかります。日付が一致しない場合には、VTOCの残りのラベルからデータ・ファイル識別コードおよび指定された作成日の両方とも調べられます。

ディスクで指定されたパラメーターの一致が見つからない場合には、コマンドを入力したユーザーにメッセージが送信されます。**注:**識別コードは、次の順序にしたがって、各ディスクでチェックされます。

1. ボリューム識別コード
2. データ・ファイル識別コード
3. 作成された日付

ディスクについての各パラメーターがチェックされるのは、そのディスクでリスト中で見つかるか、コマンドで指定されていなかった場合です（この場合だけです）。コマンド中のすべてのパラメーターと一致するものがディスクで見つからない場合には、コマンドを入力したユーザーにメッセージが送信されます。

CLプログラムの中でこのコマンドを使用して、ディスクを処理するかどうか判別することができるので、VTOCの読み取り中の媒体エラーについてのメッセージはユーザーに送信されません。その代わりに、状況メッセージがコマンドを入力したユーザーに送信されます。状況メッセージは、CLプログラムに制御を渡すことによってチェックすることができます。状況メッセージをチェックしない場合には、メッセージはコマンドを入力したユーザーに送信されます。

制約事項:ディスクに拡張ラベル域がある場合には、ファイル・ラベルを検索するときに、その拡張域はチェックされません。これを省略したことをユーザーに通知する通知メッセージが送信されます。

注: IBM標準ラベル以外であるラベル付きのディスクを処理した結果は予測できません。ディスクは、ディスク初期設定(INZDKT)コマンドにCHECK(*NO)を指定することによって初期設定してください。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ディスク装置	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション, 定位置 2
LABEL	ファイル・ラベル	文字値, *NONE	オプション, 定位置 3
CRTDATE	作成日	日付, *NONE	オプション

トップ

ディスク装置 (DEV)

検査されるディスクが入っている装置名を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

ディスク上のボリューム識別コード・フィールドを検査するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***MOUNTED**

指定されたボリューム識別コードの検査は行なわれません。

ボリューム識別コード

ディスク・ラベル上のボリューム識別フィールドと比較する識別コードを指定します。識別コードは最大6文字とすることができます。英字および数字を任意に組み合わせて使用することができます。ボリューム識別コードがディスク上のものと一致しない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

トップ

ファイル・ラベル (LABEL)

ディスク上の特定のファイル・ラベルの検査を行なうかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

データ・ファイル識別コードの検査は行なわれません。

データ・ファイル識別コード

検査するデータ・ファイル識別コードを指定します。該当するデータ・ファイル識別コードの検索が、指定された装置のディスク上で行なわれます。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

検査されるデータ・ファイル識別コードの作成日も検査するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

ファイル作成日は検査されません。ファイル・ラベルプロンプト (LABELパラメーター) に *NONEを指定する場合には、このパラメーターに*NONEを指定しなければなりません。

作成日 検査するファイルの作成日と一致する必要がある日付を指定してください。この日付は、ジョブの日付形式で入力しなければなりません。正しいファイル・ラベルが見つかった場合には、そのデータ・ファイル識別コードの作成日が、このパラメーターの値と比較されます。値が一致しない場合には、ボリューム目録中の次のデータ・ファイル識別コードが検査されます。

[トップ](#)

CHKDKTの例

例1:ボリューム識別コードの検査

```
CHKDKT  DEV(QDKT) VOL(MASTER)
```

このコマンドは、MASTERのボリューム識別コードについて、装置QDKT内のディスクのボリューム識別コードを検査します。ディスクのボリューム識別コードがMASTERである場合には、完了メッセージが送信されます。ディスクのボリューム識別コードがMASTERでない場合には、ボリューム識別コードが誤っていてジョブを再送信しなければならないことを示すメッセージが送信されます。

例2:ボリューム識別コードとファイル作成日付の検査

```
CHKDKT  DEV(QDKT) VOL(VOLID) LABEL(FILE) CRTDATE('7/4/76')
```

このコマンドは、装置QDKT内のディスクでVOLIDのボリューム識別コードを検索します。そのボリューム識別コードをもつディスクが見つかった場合には、データ・ファイル識別コードFILEについてのディスク上のファイル・ラベルが検査されます。そのデータ・ファイル識別コードが見つかり、ファイルの作成日時が7/4/76の場合には、正しいファイルとディスクが見つけれ、完了メッセージが送信されます。正しいボリューム識別コード、データ・ファイル識別コード、および作成日時が見つからない場合には、ボリューム識別コードが誤っていてジョブを再送信しなければならないことを示すメッセージが送信されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHKDKT

*ESCAPEメッセージ

CPF6162

指定した識別コードがディスクットに入っていない。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6716

装置&1がディスクット装置でない。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

***STATUS** メッセージ**CPF6112**

ディスクットに検索されない拡張ラベル域がある。

CPF6164

装置&1のディスクットを読み取ることができない。

CPF6165

装置&1が作動可能でない。

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクトの検査 (CHKDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト検査(CHKDLO)コマンドは、ユーザーがそのオブジェクトにアクセスを試みる前に、そのオブジェクトに対して権限があるかどうかを検査します。

これらの検査は、ユーザーが複数のオブジェクトに同時にアクセスを試みる前には特に有用です。また、CHKDLOコマンドは、CL変数に組み込まれているオブジェクト名の妥当性を検査し、プログラム制御のもとにあるオブジェクト権限を確認するためにも使用されます。

このコマンドが実行されると、システムは指定されたオブジェクトを検索します。そのオブジェクトが見つかった場合には、システムは、ユーザーがそのオブジェクトに対してCHKDLOコマンドに指定されて認可されていることを検査します。そのオブジェクトが見つからない場合、あるいはユーザーがCHKDLOコマンドに指定された権限をもっていない場合には、エスケープ・メッセージがそのユーザーに送られます。

CHKDLOコマンドをCLプログラムで使用する時には、メッセージ監視(MONMSG)コマンドがCHKDLOコマンドの後に続き、このコマンドの実行から得た結果のメッセージをモニターします。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ANY, *DOC, *FLR	オプション
AUT	権限	*NONE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

検査される文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

文書名またはフォルダー名

検査されるライブラリー文書またはフォルダーの名前を指定してください。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名は、検査される文書またはフォルダーの識別に使用されます。このパラメーターは、フォルダー内にはない文書の検査に使用しなければなりません。システム・オブジェクト名が分かっている場合には、フォルダー名または文書名の代わりに使用されることがあります。SYSOBJNAMパラメーターとDLO(*SYSOBJNAM)と一緒に指定しなければなりません。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

検査中の文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

検査されるオブジェクトはフォルダーには入れられません。

フォルダー名

検査される文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定してください。フォルダー名を指定できるのは、フォルダーまたは文書名がDLOパラメーターに指定された場合だけです。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

検査されるオブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。

システム・オブジェクト名

検査される文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。DLO(*SYSOBJNAM)が指定された場合には、システム・オブジェクト名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

検査中の文書ライブラリー・オブジェクトのタイプを指定します。文書またはフォルダー名がDLOパラメーターに指定されて、FLR(*NONE)も指定された場合には、OBJTYPE(*DOC)を指定することはできません。

***ANY** 検査されるオブジェクトは文書またはフォルダーとすることができます。

***DOC** 検査されるオブジェクトは文書です。

***FLR** 検査されるオブジェクトはフォルダーです。

[トップ](#)

権限 (AUT)

検査される権限のタイプまたは種類を指定します。

***NONE**

権限は検査されません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

オブジェクトが検査されるユーザーのユーザーIDおよびアドレスを指定します。サインオンしているユーザー以外のユーザーのユーザーIDおよびアドレスが指定された場合には、そのユーザーが*ALLOBJ特殊権限をもっているか、または両方のユーザーがシステム・ディレクトリーに登録されていなければなりません。オブジェクトを検査するユーザーのユーザーIDおよびアドレスを指定します。

***CURRENT**

システムにサインオンしている代行ユーザーによってオブジェクトが検査されます。このユーザーはシステム・ディレクトリーに登録されているか、あるいは*ALLOBJ 権限をもっていなければなりません。

ユーザーIDアドレス

オブジェクトを検査する代行ユーザーのユーザーIDおよびアドレスを指定します。システムにサインオンしているユーザー以外の担当者のユーザーIDおよびアドレスを指定する場合には、そのユーザーに*ALLOBJ特殊権限があるかまたは両方のユーザーがシステム・ディレクトリーに登録されていなければならず、システムにサインオンしているユーザーは、指定されたユーザーの代行処理を行なうよう(GRTUSRPMNコマンドを使用して) 認可されていなければなりません。このパラメーターが有用なのは、*NONE以外のAUTの値が指定された場合だけです。

トップ

CHKDLOの例

```
CHKDLO  DLO(FLR1) OBJTYPE(*ANY) AUT(*NONE)
        USERID(USER1 ADDR1)
```

このコマンドは、ユーザーIDがUSER1であり、アドレスがADDR1であるユーザーのためにFLR1という名前のコマンドの存在を調べます。ユーザーのFLR1に対する権限は調べません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ：CHKDLO

*ESCAPEメッセージ

CPF8A11

CHKDLOコマンドが正しく実行されなかった。

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

[トップ](#)

DBCSフォント・テーブルの検査 (CHKIGCTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCSフォント・テーブル検査(CHKIGCTBL)により、指定したDBCSフォント・テーブルの存在が検査されます。このコマンドは、システム中のテーブルの1つが指定の装置で使用されるマトリックス・パターンで文字を印刷および表示することを確認します。システムは、テーブルが存在しない場合にはメッセージを送り、テーブルが存在する場合にはメッセージを送りません。

DBCSフォント・テーブルには、システムで使用される2バイトの外字の所定ドット・マトリックスのイメージが入っています。システムは、該当の文字を印刷および表示する場合にこのテーブルを参照します。テーブルは、システムに接続されている装置で使用される各文字のイメージ・マトリックスごとに別個のものとなっています。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCTBL	DBCSフォント・テーブル	名前, QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	オプション、位置 1

トップ

DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)

存在の有無を検査される2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルの名前を指定します。次のテーブル名の1つを選択してください。

QIGC2424

24 X 24のドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424C

24 X 24のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語DBCS フォント・テーブル。

QIGC2424K

24 X 24のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される韓国語DBCS フォント・テーブル。

QIGC2424S

24 X 24のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語（簡体字）DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232

32 X 32のドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232S

32 X 32ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語（簡体字）DBCSフォント・テーブル。

QIGCRRCL

検査するDBCSフォント・テーブルの名前を指定してください。名前は常にQIGCRRCLという形式になっていなければなりません。*RR*はテーブル行のマトリックス・サイズ、*CC*はテーブル列のマトリックス・サイズ、*L*は任意選択の言語識別コードを示します。

[トップ](#)

CHKIGCTBLの例

CHKIGCTBL IGCTBL(QIGC2424)

このコマンドは、システムに24 X 24ドット・マトリックス・イメージでの文字イメージが入っている日本語DBCSフォント・テーブルを検査させます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ：CHKIGCTBL

*ESCAPEメッセージ

CPF8421

DBCSフォント・テーブル&1が見つからない。

[トップ](#)

オブジェクトのチェックイン (CHKIN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトのチェックイン (CHKIN)コマンドは、前にチェックアウトされたオブジェクトをチェックインします。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. チェックアウトしたオブジェクトをチェックインするには、そのオブジェクトに対する書き込み(*W)権限が必要です。
2. 他の担当者がチェックアウトしたオブジェクトをチェックインするには、そのオブジェクトを所有するか、あるいは次のいずれかを持っている必要があります。
 - オブジェクトに対する全(*ALL)権限
 - 全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限
3. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. すべてのファイル・システムがCHKINコマンドをサポートするわけではありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1

トップ

オブジェクト (OBJ)

オブジェクトのパス名、またはチェックインされるオブジェクトの1つまたは複数のパス名を突き合わせるためのパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

[トップ](#)

CHKINの例

例1: オブジェクトのチェックイン

```
CHKIN OBJ('W')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーにファイルWをチェックインします。ファイルは、別のユーザーがファイルをチェックアウトしていて、このユーザーが十分な権限を持っている場合にチェックインされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHKIN

*ESCAPEメッセージ

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BE

&1はオブジェクトはチェックインされた。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0BF

&1オブジェクトはチェックアウトされた。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0DA

オブジェクトはディレクトリーです。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

オブジェクト検査 (CHKOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト検査(CHKOBJ)コマンドは、オブジェクトへのアクセスを試みる前に、オブジェクトの存在を検査し、オブジェクトに対するユーザーの権限を検査します。オブジェクトが存在し、ユーザーがオブジェクトに対する適切な権限をもっている場合には、ユーザーにエラー・メッセージは送られません。検査の場合には、コマンドに最大10の特定権限を指定することができます。

これらの検査は、ユーザーが複数のオブジェクトに同時にアクセスを試みる前に、特に有用です。このコマンドは、CL変数に組み込まれているオブジェクト名の妥当性を検査し、プログラム制御のもとにあるオブジェクト権限を確認するためにも使用されます。

このコマンドが実行されると、システムは指定されたオブジェクトを検索します。そのオブジェクトが見つかると、システムは、ユーザーがそのオブジェクトに対して**権限(AUT)**パラメーターに指定された通りに認可されていることを検査します。オブジェクトが見つからない場合、あるいはユーザーがAUTパラメーターに指定された権限をもっていない場合には、ユーザーにエラー・メッセージが送られます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDDFN, *PRDL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VL, *WSCST	必須, 定位置 2
MBR	データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *NONE, *FIRST	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
AUT	権限	単一値: *NONE , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE, *AUTLMGT その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *OBJALTER, *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *OBJREF, *ADD, *DLT, *EXECUTE, *READ, *UPD	オプションナル, 位置 4

トップ

オブジェクト (OBJ)

検査されるオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 検査されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

検査されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

検査されるオブジェクトのタイプを指定してください。

トップ

データベース・ファイルの場合にメンバー (MBR)

データベース・ファイルのメンバーが検査される場合には、そのファイル・メンバーを指定します。

注: 基礎となっている論理ファイル・メンバーおよび物理ファイル・メンバーが検査されます。

***NONE**

データベース・ファイル・メンバーは検査されませんが、ファイルの存在および権限（任意選択）は検査されます。他のすべてのオブジェクト・タイプ（装置ファイルを含む）の場合には、*NONEがこのパラメーターに有効な唯一の値です。

***FIRST**

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

名前 検査される物理ファイル・メンバーまたは論理ファイル・メンバーを指定してください。オブジェクト(**OBJ**)およびオブジェクト・タイプ(**OBJTYPE**)パラメーターに指定する値はデータベース・ファイルを識別するものでなければならず、また指定するメンバーは**OBJ**パラメーターに指定したデータベース・ファイルのメンバーでなければなりません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

検査される権限を指定するか、検査される権限リストを指定します。このパラメーターは、単一値として指定することも、1つまたは複数の要素のリストとして指定することもできます。

単一値

***NONE**

権限は検査されません。

***ALL** 全(*ALL)権限では、所有者に限定されているものまたは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって制御されるものを除くすべての操作を実行するために必要な権限が提供されます。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

変更(*CHANGE)権限では、所有者に限定されているもの、あるいはオブジェクト存在(*OBJEXIST)またはオブジェクト管理(*OBJMGT)権限によって制御されるものを除き、オブジェクトに対するすべての操作を実行するために必要な権限が提供されます。ユーザーは、オブジェクトに対して基本的な機能を変更および実行することができます。*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。オブジェクトが権限リストである場合には、ユーザーの追加、変更、または除去は行えません。

***EXCLUDE**

除外権限は、オブジェクトにアクセスできないようにします。

***AUTLMGT**

権限リスト管理権限(*AUTLMGT)権限では、権限リストへのユーザー名の追加、権限リスト上のユーザーの権限の変更、権限リストからのユーザー名の除去、権限リストの名前変更、または重複権限リストの作成のために必要な権限が提供されます。

注: *AUTLMGT権限を指定する時は、*AUTLというオブジェクト・タイプを使用しなければなりません。

その他の値 (最大10の反復)

*OBJALTER

オブジェクト変更(*OBJALTER)権限では、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限が提供されます。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限をもっている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去したり、参照制約および固有制約を追加および除去したり、データベース・ファイルの属性を変更したりできます。ユーザーがSQLパッケージに対してこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

*OBJEXIST

オブジェクト存在(*OBJEXIST)権限では、オブジェクトの所有権および存在を制御するために必要な権限が提供されます。これらの権限は、削除、記憶域解放、保管、復元、所有権の移転を有するユーザーにとって必要です。(システム保管(*SAVSYS)特殊権限をもっている場合には、*OBJEXIST権限は必要ありません。)

*OBJMGT

オブジェクト管理(*OBJMGT)権限では、オブジェクトの機密保護を指定したり、オブジェクトを移動または名前変更したり、メンバーをデータベース・ファイルに追加したりするために必要な権限が提供されます。

*OBJOPR

オブジェクト操作(*OBJOPR)権限では、オブジェクトの記述を調べたり、ユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限によって決められた通りにオブジェクトを使用したりするために必要な権限が提供されます。*OBJOPR権限には関連したデータ権限がありません。

*OBJREF

オブジェクト参照(*OBJREF)権限では、オブジェクトを別のオブジェクトから参照して、そのオブジェクトに対する操作が他方のオブジェクトによって制限されるようにするために必要な権限が提供されます。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限をもっている場合には、ユーザーは、その物理ファイルが親となっている参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

***ADD** 追加(*ADD)権限では、オブジェクトに項目を追加する(たとえばジョブ項目を待ち行列に追加するか、ファイルにレコードを追加する)ために必要な権限が提供されます。

***DLT** 削除(*DLT)権限では、オブジェクトから項目を除去するために必要な権限が提供されます。

*EXECUTE

実行(*EXECUTE)権限では、プログラムを実行するか、ライブラリーまたはディレクトリー中でオブジェクトを見つけるために必要な権限が提供されます。

*READ

読み取り(*READ)権限では、オブジェクトの内容を表示するために必要な権限が提供されます。

***UPD** 更新(*UPDATE)権限では、オブジェクト中の項目を変更するために必要な権限が提供されます。

トップ

CHKOBJの例

例1:プログラムの存在の検査

```
CHKOBJ OBJ(LIB1/PROG1) OBJTYPE(*PGM)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1中のPROG1という名前のプログラムの存在を検査します。PROG1に対する権限は検査されません。

例2:ファイルに対するユーザーの権限の検査

```
CHKOBJ OBJ(SOURCE1) OBJTYPE(*FILE) MBR(MBR3) AUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、ファイルSOURCE1の存在およびファイルSOURCE1中のメンバーMBR3の存在を検査します。ファイルSOURCE1に対する変更(*CHANGE)権限の有無も検査されます。

例3:プログラムに対する権限の検査

```
CHKOBJ OBJ(LIB1/PROG1) OBJTYPE(*PGM) AUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1中のプログラムPROG1の存在を検査します。PROG1に対する変更(*CHANGE)権限の有無も検査します。

例4:論理ファイル・メンバーに対するユーザーの権限の検査

```
CHKOBJ OBJ(FILEA) OBJTYPE(*FILE) MBR(MBR1) AUT(*USE)
```

このコマンドは、論理ファイル・メンバーMBR1およびMBR1の基礎となっている各物理ファイル・メンバーを使用するための権限を検査します。

例5:ユーザーの追加権限および削除権限の検査

```
CHKOBJ OBJ(FILEA) OBJTYPE(*FILE) MBR(MBR1) AUT(*ADD *DLT)
MONMSG MSGID(CPF9802) EXEC(GOTO ERROR1)
```

これら2つのコマンド(CHKOBJおよびMONMSG)は、論理ファイルFILEAと論理ファイルFILEA中の論理ファイル・メンバーMBR1の基礎となっている各物理ファイル・メンバーに対する追加(*ADD)権限と削除(*DLT)権限の両方をもっているかどうかを検査するために使用されます。FILEAおよびFILEAの基礎となっている各物理ファイル・メンバーに対するデータ権限がない場合には、エスケープ・メッセージCPF9802がプログラムに送られ、プログラムの制御はラベルERROR1のコマンドに移ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHKOBJ

*ESCAPEメッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

オブジェクト保全性の検査 (CHKOBJITG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト保全性検査(CHKOBJITG)コマンドは、保全性の違反が起こったかどうかを判別するために、指定されたユーザー・プロファイルの所有するオブジェクト、指定されたパス名と一致するオブジェクト、またはシステム上のすべてのオブジェクトを検査します。次の場合には、保全性の違反が起こります。

- コマンドが悪用されている。
- オブジェクトに無効なデジタル署名がある。
- オブジェクトがそのオブジェクト・タイプに対して誤りであるドメイン属性をもっている。
- プログラムまたはモジュール・オブジェクトが改ざんされている。
- ライブラリーの属性が悪用されている。
- オブジェクトがファイル・システムのスキャンに失敗した。

保全性の違反が起こった場合には、オブジェクト名、ライブラリー名(またはパス名)、オブジェクト・タイプ、オブジェクト所有者、および障害のタイプがデータベース・ファイルに記録されます。

起こる可能性のある保全性の違反は次の通りです。

- ALTERED -オブジェクトが悪用されている。
- BADSIG -オブジェクトに無効なデジタル署名がある。
- DMN -ドメインがオブジェクト・タイプに正しくない。
- PGMMOD -実行可能なオブジェクトが悪用されている。
- BADLIBUPDA -ライブラリーの保護属性の設定が正しくない。
- SCANFSFAIL -このオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャン済みであり、最後のスキャン要求時に、オブジェクトのスキャンが失敗しました。

また、データベース・ファイルに記録されて保全性違反にならないのは、デジタル署名がないが署名できるオブジェクト、検査できないオブジェクト、およびこのマシン実装で使用するにはフォーマット変更(IMPIからRISCへの変換)が必要となるオブジェクトです。

起こる可能性のある保全性の違反は次の通りです。

- NOSIG -オブジェクトは署名できるが、デジタル署名がない。
- NOTCHECKED -オブジェクトは検査できないか、デバッグ・モードであるか、記憶域の解放で保管されたか、または圧縮されている。
- NOTTRANS -オブジェクトがRISC形式に変換されていない。

注: 圧縮されたか、損傷を受けたか、または記憶域解放で保管されたか、またはデバッグ・モードであるオブジェクトは検査されません。

注: V5R2より前のリリースから複製されたIBMコマンドは、ALTERED違反としてログに記録されます。これらのコマンドは、新規リリースがロードされるたびに、CRTDUPOBJ (重複オブジェクト作成) コマンドを使用して削除して再作成する必要があります。

制約事項：オブジェクトの保全性を検査するためには、*AUDIT特殊権限が必要です。

注:次の場合には、CHKOBJITGコマンドの実行に長い時間がかかることがあります。

- USRPRFパラメーターに指定されたユーザー・プロファイルが多くのオブジェクトを所有している。
- *ALLがUSRPRFパラメーターに指定されている。
- *SYSTEMがOBJパラメーターに指定されている。
- 多数のオブジェクトがOBJパラメーターに指定されたパス名パターンと一致している。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル,または	総称名, 名前, *ALL	オプション, 位置 1
OBJ	オブジェクト	パス名, *SYSTEM	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
CHKDMN	ドメインの検査	*YES, *NO	オプション
CHKPGMMOD	プログラムとモジュールの検査	*YES, *NO	オプション
CHKCMD	検査コマンド	*YES, *NO	オプション
CHKSIG	署名の検査	*SIGNED, *ALL, *NONE	オプション
CHKLIB	ライブラリーの検査	*YES, *NO	オプション
SCANFS	ファイル・システムのスキャン	*STATUS, *YES, *NO	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

保全性の違反について所有するオブジェクトが検査されるユーザー・プロファイルまたは総称ユーザー・プロファイル名。

注: USRPRFパラメーターまたはOBJパラメーターのいずれかに1つの値を指定しなければなりません。この両方のパラメーターに値を指定することはできません。

***ALL** 保全性の違反についてシステム上のすべてのユーザー・プロファイルの所有するオブジェクトが検査されます。

総称*名

所有するオブジェクトが検査される総称ユーザー・プロファイル。

ユーザー名

所有するオブジェクトが検査されるユーザー・プロファイル。

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

保安全性違反が検査されるオブジェクトのパス名。

注: USRPRFパラメーターまたはOBJパラメーターのいずれかに1つの値を指定しなければなりません。この両方のパラメーターに値を指定することはできません。

*SYSTEM

使用可能なすべての補助記憶域プール (ASP)にあるすべてのオブジェクトが検査されます。

注: *SYSTEMが指定された場合には、CHKSIGパラメーターに使用できる値は*ALLだけです。

パス名 検査されるオブジェクトのパス名。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

これは必須パラメーターです。

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前およびライブラリー。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルに対する共通認可は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示 (DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリーQSYS中の様式名QASYCHKIをもつシステム・ファイルQASYCHKIがモデルとして使用されます。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

指定できる名前の値は次の通りです。

要素1:出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバー。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

要素2:メンバーで実行する操作

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

ドメインの検査 (CHKDMN)

オブジェクト・ドメインの健全性を検査します。

***YES** オブジェクト・ドメインの健全性が検査されます。

注：次のオブジェクトは、ユーザー・ドメインで有効なので検査されません。

- QTEMPライブラリー
- タイプ*PGMのすべてのオブジェクト
- タイプ*SQLPKGのすべてのオブジェクト
- タイプ*SRVPGMのすべてのオブジェクト

次のオブジェクトがユーザー・ドメインで有効となるのは、そのタイプの入っているライブラリーがシステム値QALWUSRDMNに指定されている場合（あるいはQALUSRDMNが*ALLである場合）だけです。

- *OOPOOL
- *SOMOBJ
- *USRSPC
- *USRQ

- *USRIDX

*NO オブジェクト・ドメインの保全面性は検査されません。

[トップ](#)

プログラムとモジュールの検査 (CHKPGMMOD)

プログラムおよびモジュールのオブジェクトの保全面性が検査されます。

*YES プログラムおよびモジュールの保全面性が検査されます。

*NO プログラムおよびモジュールの保全面性は検査されません。

[トップ](#)

検査コマンド (CHKCMD)

コマンドの保全面性が検査されます。

*YES コマンドの保全面性が検査されます。

*NO コマンドの保全面性は検査されません。

[トップ](#)

署名の検査 (CHKSIG)

署名できるオブジェクトのデジタル署名が検査されます。

*SIGNED

デジタル署名のあるオブジェクトが検査されます。無効な署名のあるオブジェクトはすべて記録されます。

*ALL デジタル署名が可能ならすべてのオプションが検査されます。署名できるが、署名のないオブジェクトはすべて記録されます。無効な署名のあるオブジェクトはすべて記録されます。

*NONE

デジタル署名は検査されません。

[トップ](#)

ライブラリーの検査 (CHKLIB)

ライブラリー属性の保全面性が検査されます。

*YES ライブラリー属性の保全面性が検査されます。

*NO ライブラリー属性の保全面性は検査されません。

[トップ](#)

ファイル・システムのスキャン (SCANFS)

QSCANFSシステム値によって識別された統合ファイル・システム内のオブジェクトをスキャンするかどうか、あるいは既存スキャン状況を戻すかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説（英文）を参照してください。

*STATUS

オブジェクトはスキャンしませんが、オブジェクトの状況が最新のスキャン操作の失敗を示している場合は、SCANFSFAIL健全性違反がログに記録されます。

***YES** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムで記述されたルールに従ってスキャンされます。オブジェクトのスキャン操作が失敗すると、SCANFSFAIL健全性違反がログに記録されます。

***NO** オブジェクトはスキャンされず、そのスキャン障害状況はログに記録されません。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを検査します。(このパラメーターが使用されるのは、OBJパラメーターが指定された時だけです。)

***ALL** すべてのディレクトリー・サブツリーが検査されます。

*NONE

ディレクトリー・サブツリーは検査されません。

トップ

CHKOBJITGの例

例1:1つのユーザー・プロファイルが所有するオブジェクトの検査

```
CHKOBJITG  USRPRF(JOEPGMR)  OUTFILE(SECCHECK)
           OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
           CHKDMN(*YES)  CHKPGMMOD(*YES)
           CHKSIG(*YES)  CHKLIB(*YES)
```

このコマンドは、ユーザーJOEPGMRが所有するすべてのオブジェクトで健全性違反を検査します。誤ったドメインをもつオブジェクト、改ざん済みのプログラムおよびモジュール・オブジェクト、無効なデジタル署名付きのオブジェクト、および属性が改ざん済みのライブラリーは、健全性違反レコードがデータベース・ファイルSECCHECKに記録される原因になります。データベース・ファイルSECCHECKの既存レコードが最初に消去されます。

例2:複数のユーザー・プロファイルが所有するオブジェクトの検査

```
CHKOBJITG  USRPRF(ABC*)  OUTFILE(ABCHECK)
```

```
OUTMBR(*FIRST *REPLACE)  CHKDMN(*YES)
CHKPGMMOD(*YES)  CHKSIG(*NONE)  CHKLIB(*YES)
```

このコマンドは、ABCで始まるユーザー・プロファイルが所有するすべてのオブジェクトで保水性違反を検査します。誤ったドメインをもつオブジェクト、改ざん済みのプログラムおよびモジュール・オブジェクト、および属性が改ざん済みのライブラリーは、保水性違反レコードがデータベース・ファイルABCHECKに記録される原因になります。データベース・ファイルABCHECKの既存レコードが最初に消去されます。

例3:1つのライブラリー内のオブジェクトの検査

```
CHKOBJITG  OBJ('/QSYS.LIB/LIB2.LIB/ABC*.*')  OUTFILE(SECHECK2)
OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
CHKDMN(*YES)  CHKPGMMOD(*YES)
CHKSIG(*ALL)  CHKLIB(*NO)
```

このコマンドは、任意のオブジェクト・タイプである、名前がABCで始まっているライブラリーLIB2内のオブジェクトで保水性違反を検査します。誤ったドメインをもつオブジェクト、改ざん済みのプログラムおよびモジュール・オブジェクト、およびデジタル署名が無効であるか脱落しているオブジェクトは、保水性違反レコードがデータベース・ファイルSECHECK2に記録される原因になります。データベース・ファイルSECHECK2の既存レコードが最初に消去されます。

例4:ディレクトリー内のオブジェクトの検査

```
CHKOBJITG  OBJ('/PARTORDER/FORMS.JAR')  OUTFILE(SECHECK3)
OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
CHKDMN(*NO)  CHKPGMMOD(*NO)
CHKSIG(*ALL)  CHKLIB(*NO)
```

このコマンドは、ディレクトリーPARTORDER内のファイルFORMS.JARで保水性違反を検査します。ファイルが、無効であるデジタル署名をもっているか、署名されている可能性があるか署名がない場合は、保水性違反レコードがデータベース・ファイルSECHECK3に記録されます。データベース・ファイルSECHECK3の既存レコードが最初に消去されます。

注:このストリーム・ファイルと関連付けられたJAVAプログラムでは、有効な署名についても検査されません。

例5:ディレクトリー内のオブジェクトの検査

```
CHKOBJITG  OBJ('/PARTS/*')  OUTFILE(SECHECK4)
CHKDMN(*NO)  CHKPGMMOD(*NO)  CHKSIG(*NONE)
CHKLIB(*NO)  SCANFS(*YES)
```

このコマンドは、ディレクトリーPARTS内のすべてのファイルで保水性違反をスキャンします。スキャン関連出口プログラムによるファイルのスキャンが失敗すると、保水性違反レコードがデータベース・ファイルSECHECK4に記録されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHKOBJITG

*ESCAPE メッセージ

CPF22D9

指定された名前のユーザー・プロファイルは存在していない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF222F

コマンドは実行されなかった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

光ディスク・ボリュームの検査 (CHKOPTVOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ボリューム検査(CHKOPTVOL)コマンドは、ボリューム上のディレクトリーおよびファイルのすべてを読み取ることができることを確認します。ディレクトリーおよびファイルのデータのすべてを正常に読み取ることができる場合は、このコマンドはエラーなしで完了し、指定されたOUTPUTパラメーターによってファイルのリストおよび使用バイト数を印刷するかどうかが決まります。ディレクトリーのどれかを正常に読み取ることができない場合は、このコマンドは出力なしのエラーで完了します。ディレクトリーを読み取ることができないが、すべてのファイル・データを読み取ることができるわけではない場合は、このコマンドはエラーで完了し、指定されるOUTPUTパラメーターによって損傷ファイルのリスト、損傷していないファイル数、およびそれぞれの占有バイト数を印刷するかしらないかが決まります。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、ボリュームを保護している権限リストに対する*USE権限が必要です。
2. このコマンドを使用して汎用ディスク形式(UDF)のボリュームを調べようとする場合は、ユーザーにはボリューム・ルート・ディレクトリーに対する*RWX権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	* ERROR , *NONE, *PRINT	オプション, 定位置 2
DEV	光ディスク装置	名前	オプション, 定位置 3

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

調べる光ディスク・ボリュームのボリューム識別コードを指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力をジョブのスプール出力とともに印刷するかどうかを指定します。

***ERROR**

損傷ファイルがジョブのスプール出力に印刷されるのは、損傷ファイルがある場合だけです。

***NONE**

損傷ファイルの数および損傷していないファイルの数は完了メッセージに入ります。

***PRINT**

損傷ファイルがなくても、ジョブのスプール出力に印刷します。

[トップ](#)

光ディスク装置 (DEV)

操作に使用する光ディスク装置の名前を指定します。

注: このパラメーターが必要なのは、パラメーターVOLが*MOUNTEDとして指定されている場合だけです。

[トップ](#)

CHKOPTVOLの例

```
CHKOPTVOL VOL(VOL01) OUTPUT(*ERROR)
```

このコマンドは、VOL01上のディレクトリーおよびファイルを調べます。損傷ファイルが見つかる場合は、ファイル名はジョブのスプール出力に印刷されます。

```
CHKOPTVOL VOL(VOL01) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、VOL01上でディレクトリーおよびファイルを調べ、損傷ファイルのリスト、損傷していないファイルの数、およびそれぞれが占有しているバイト数を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHKOPTVOL

***ESCAPE**メッセージ

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1340

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1515

光ディスク装置&1の構成はサポートされていないか、または十分でない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1542

光ディスク・ボリュームに対する操作はサポートされていません。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1864

割り振られた操作可能な光ディスク・ドライブが不足しています。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2046

完了した光ディスク・ボリュームを調べてください。&2個の損傷したファイルが見つかりました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT2420

光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

オブジェクトのチェックアウト (CHKOUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトのチェックアウト (CHKOUT)コマンドは、オブジェクトをチェックアウトします。だれがオブジェクトをチェックアウトしているかを判別するために、ユーザー・プロファイルが使用されます。

オブジェクトがチェックアウトされると、他のユーザーはそのオブジェクトの読み取りとコピーを行うことができます。オブジェクトがチェックインされない限り、オブジェクトを変更できるのは、そのオブジェクトをチェックアウトしたユーザーだけです(オブジェクトのチェックイン (CHKIN)コマンドを参照)。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. チェックアウトできるのはQDLS内の文書およびバイト・ストリーム・ファイルだけです。
2. このコマンドを出したユーザーは、そのオブジェクトの書き込み(*W)権限が必要で、少なくともパス内のディレクトリー接頭部に対する実行(*X)権限を持っていないければなりません。
3. すべてのファイル・システムがCHKOUTコマンドをサポートするわけではありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1

トップ

オブジェクト (OBJ)

オブジェクトの名前または複数のオブジェクトに対するパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

CHKOUTの例

例1: オブジェクトのチェックアウト

```
CHKOUT OBJ('MYDIR/FILE1')
```

このコマンドは、ジョブのユーザー・プロファイル所有者にディレクトリーMYDIR内のFILE1をチェックアウトします。

トップ

エラー・メッセージ: CHKOUT

*ESCAPEメッセージ

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BE

&1はオブジェクトはチェックインされた。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0BF

&1オブジェクトはチェックアウトされた。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0DA

オブジェクトはディレクトリーです。オブジェクトは&1です。

CPFA1C5

このオブジェクトは読み取り専用オブジェクトである。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

パフォーマンス収集の検査 (CHKPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集の検査(CHKPFRCOL)コマンドは、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL)の現在の状況を判別する方法を提供します。サーバー・ジョブが活動状態でない場合には、このコマンドはエスケープ・メッセージCPF0AA5を送ります。サーバー・ジョブが活動状態の場合には、このコマンドは情報メッセージCPI0A16を送ります。この情報メッセージは、現行の管理収集オブジェクトと現行の収集プロファイルの名前およびライブラリーを提供します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CHKPFRCOLの例

CHKPFRCOL

このコマンドは、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL)の現在の状況をユーザーに伝えるメッセージを戻します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHKPFRCOL

***ESCAPE** メッセージ

CPF0AA5

収集サービスが活動状態になっていません。

[トップ](#)

プロダクト・オプションの検査 (CHKPRDOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロダクト・オプション検査(CHKPRDOPT)コマンドは、ソフトウェア・プロダクトの正しい構成と実際の構成との差を報告します。(たとえば、導入済みプロダクトからオブジェクトが削除されている場合には、CHKPRDOPTによってエラーが報告されます。) プロダクトの状態を調べるためには、通知メッセージおよび診断メッセージを使用してください。プロダクトが削除されているか、または作成されている場合には、CHKPRDOPTは必ずしもエスケープ・メッセージを出しません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRDID	プロダクト識別コード	文字値, *OPSYS	必須, 定位置 1
RLS	リリース	文字値, *ALL, *OPSYS, VXRXXMX	オプション
OPTION	プロダクト・オプション	1-99, *ALL, *BASE	オプション
LODID	ロード識別コード	文字値, *ALL, *CODEDFT, *PRIMARY	オプション
CHKSIG	署名の検査	*SIGNED, *ALL, *NONE	オプション
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション

[トップ](#)

プロダクト識別コード (PRDID)

検査するソフトウェア・プロダクトの識別コードを指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

*OPSYS

OS/400ライセンス・プログラムが検査されます。

プロダクト識別コード

プロダクト識別コードを指定してください。この識別コードは7文字の長さでなければなりません。

[トップ](#)

リリース (RLS)

検査するプロダクトのリリース・レベルを指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** プロダクトのすべてのリリースが検査されます。

***OPSYS**

検査されるプロダクトのリリース・レベルは、現在導入されているオペレーティング・システムのリリース・レベルと同じです。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRXXMXの形式で指定してください。この場合のVXはバージョン番号で、RXはリリース番号で、MXはモディフィケーション番号です。

[トップ](#)

プロダクト・オプション (OPTION)

検査するプロダクト・オプションを指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** プロダクトのすべてのオプションが検査されます。

***BASE**

プロダクトの基本オプションが検査されます。

プロダクト・オプション

1-99の範囲のオプション番号を指定してください。

[トップ](#)

ロード識別コード (LODID)

検査するプロダクト・ロードを指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定のオプションのすべてのプロダクト・ロードが検査されます。

***CODEDFT**

コード・ロードが検査されます。

***PRIMARY**

コード・ロードおよび1次言語ロードが検査されます。

プロダクト・ロード識別コード

プロダクト・ロード識別コードを指定してください。このロード識別コードは4文字の長さでなければなりません。

[トップ](#)

署名の検査 (CHKSIG)

オブジェクトのデジタル署名が検査されるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SIGNED**

デジタル署名のあるオブジェクトが検査されます。署名のあるオブジェクトは、どれも署名検査されます。無効な署名のあるオブジェクトは、ジョブ・ログに送られるメッセージの中で示され、プロダクトは、エラー状態に設定されます。

***ALL** デジタル署名が可能なすべてのオブジェクトが署名検査されます。署名が可能であるか、署名のないオブジェクトは、どれもジョブ・ログに送られるメッセージで識別されますが、プロダクトはエラー状態に設定されません。無効な署名のあるオブジェクトは、どれもジョブ・ログに送られるメッセージで識別されます。無効な署名が見つかったら、プロダクトはエラー状態に設定されます。

***NONE**

オブジェクトのデジタル署名は検査されません。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

それぞれのプロダクトにどのメッセージ・セットが送られるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***BASIC**

実際に存在するロードのメッセージだけが送られます。定義されているロードにはメッセージは送られません。

***FULL** 要求されたロードにすべてのメッセージが送られます。

[トップ](#)

CHKPRDOPTの例

CHKPRDOPT PRDID(5716WP1)

このコマンドは、識別コードが5716WP1の製品のすべてのリリースを検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHKPRDOPT

***ESCAPE** メッセージ

CPF0C20

CHKPRDOPTによってエラーが検出された。

CPF0C2C

デジタル署名の検査中にエラーが検出されました。

CPF0C4A

プロダクト・レコードが見つからない。

CPF0C4B

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

CPF0C4C

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

CPF0C4D

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

CPF0C54

プロダクト・レコードのデータが正しくない。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF8A06

文書&2またはフォルダー&3がフォルダー&1に部分的に作成された。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

パスワード検査 (CHKPWD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パスワード検査(CHKPWD)コマンドは、このコマンドを実行しているユーザーのパスワードを検査し、その妥当性を調べます。パスワードが正しければ、メッセージは送られません。パスワードが正しくない場合は、エラー・メッセージが送信されます。

パスワードは、ユーザーがシステムにサインオンすることを許可する機密保護キーです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PASSWORD	ユーザー・パスワード	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ユーザー・パスワード (PASSWORD)

妥当性を検査されるパスワード値を指定します。

これは必須パラメーターです。

文字ストリング

検査するパスワード値を指定してください。

[トップ](#)

CHKPWDの例

CHKPWD PASSWORD(JOHNJONES)

このコマンドは、現行パスワードがJOHNJONESかどうかを調べます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHKPWD

*ESCAPEメッセージ

CPF2362

パスワードが正しくない。

CPF2363

パスワードを検査する試みは1回しか残っていない。

CPF2364

パスワード検査の最大数に達した。

[トップ](#)

レコード・ロック検査 (CHKRCDLCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

レコード・ロック検査(CHKRCDLCK)コマンドは、ジョブがレコード・ロックを有しているかどうかを検出する方法を提供します。経路指定ステップの保有しているレコード・ロックがある場合には、このコマンドはエスケープ・メッセージを出します。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CHKRCDLCKの例

CHKRCDLCK

このコマンドは、ジョブによって保留されているレコード・ロックがあると、エスケープ・メッセージを送ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHKRCDLCK

*ESCAPEメッセージ

CPF321F

ジョブは&1レコード・ロックを保留した。

[トップ](#)

テープ検査 (CHKTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ検査(CHKTAP)コマンドは、指定した装置上のボリュームを検索して固有のボリューム識別コードまたはファイル・ラベルを見つけます。正しいテープがロードされている場合には、テープ検査(CHKTAP)コマンドに指定したのと同じ順序番号を指定することによって、次のテープ操作でこのファイルを処理することができます。正しいテープが見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション, 定位置 2
SEQNBR	順序番号	整数, *NONE , *FIRST, *NEXT, *SEARCH	オプション, 定位置 3
LABEL	ファイル・ラベル	文字値, *NONE	オプション, 定位置 4
CRTDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*LEAVE , *REWIND, *UNLOAD	オプション

[トップ](#)

装置 (DEV)

検査されるボリュームがある装置の名前を指定します。テープまたは媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

テープのボリューム識別コードをチェックするかどうかを指定します。これは標準ラベル・テープの場合にだけ有効です。

注: 指定された装置が媒体ライブラリー装置である場合には、指定されたボリュームは取り付けて使用するカートリッジ識別コードとする必要があります。

***MOUNTED**

テープのボリューム識別コードをチェックしません。装置上のボリュームが使用されます。媒体ライブラリー装置の場合は、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリーの次のカートリッジです。

ボリューム識別コード

DEVパラメーターに指定した装置が独立テープ装置である場合には、ラベル付きボリュームのボリューム識別コードを指定してください。テープから読み取られたボリューム識別コードがこの値と比較されます。指定したボリューム識別コードがテープに見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。DEVパラメーターに指定した装置がライブラリー装置記述である場合には、使用されるボリュームのカートリッジ識別コードを指定してください。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

テープ上のデータ・ファイルの特定の順序番号についてチェックを行うかどうかを指定します。

***NONE**

このボリューム上のファイルについてはチェックを行いません。

***FIRST**

このボリュームにある最初のファイルがチェックされます。

***NEXT**

このボリュームで次のファイルのチェックが行われます。現行順序番号がボリュームの先頭である場合には、この値でそのボリューム上の最初のファイルがチェックされます。

***SEARCH**

ファイル・ラベル (**LABEL**)パラメーターの値と一致する識別コードを持つデータ・ファイルが検索されます。***SEARCH**を指定した場合には、ボリュームはラベル付きでなければならず、ファイル・ラベルを**ファイル・ラベル (LABEL)**パラメーターに指定しなければなりません。ファイルが見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

ファイル順序番号

このテープ上でチェックするデータ・ファイルの順序番号を指定してください。テープ上に順序番号が見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。有効な値の範囲は1 - 16777215です。

トップ

ファイル・ラベル (LABEL)

ラベル識別コードをチェックするかどうかを指定します。ラベルを指定した場合には、**順序番号 (SEQNBR)**パラメーターに順序番号を指定しなければなりません。

***NONE**

テープ上のラベル識別コードのチェックは行われません。ラベルなしボリュームの場合には、***NONE**をこと**作成日 (CRTDATE)**パラメーターの両方に指定しなければなりません。

データ・ファイル識別コード

チェックするデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コード (最大17文字) を指定してください。ラベルを指定した場合には、***SEARCH**または順序番号を**順序番号 (SEQNBR)**パラメーターに

指定しなければなりません。その順序番号のファイルのファイル識別コードがこのパラメーターによって識別されるラベルと比較されます。ラベルが一致しない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

トップ

作成日 (CRTDATE)

ファイルが作成された日付をチェックするかどうかを指定します。順序番号 (SEQNBR)パラメーターに *NONEを指定した場合には、ここにも *NONEを指定しなければなりません。

*NONE

ファイルが作成された日付はチェックされません。ラベルなしボリュームの場合には、*NONEをことファイル・ラベル (LABEL)パラメーターの両方に指定しなければなりません。

ファイル作成日

チェックされるファイルの日付と一致しなければならない日付を指定してください。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

トップ

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作が終了した後にテープが巻き戻されるだけか、あるいは巻き戻されアンロードされるかどうかを指定します。

*LEAVE

テープは巻き戻されません。次のファイル操作は、テープが現在位置付けられているデータ・ファイルの始めで開始されます。これによって、テープの位置を変更せずに、順序番号 (SEQNBR)パラメーターに指定した順序番号でファイルをオープンすることができます。

*REWIND

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

トップ

CHKTAPの例

例1:ボリューム識別コードの検査

```
CHKTAP  DEV(TAPE1)  VOL(TAPEVOL)
```

このコマンドは、テープ装置TAPE1上のボリュームのボリューム識別コードを検査します。テープ上のボリューム識別コードがTAPEVOLである場合には、コマンドは正常に完了し、メッセージは送られません。テープ上のボリューム識別コードがTAPEVOLでない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

例2:特定の順序番号の検査

```
CHKTAP  DEV(TAPE2)  VOL(VOLID)  SEQNBR(5)
        LABEL(FILE5)  CRTDATE('1/9/84')
```


このコマンドは、テープ装置TAPE2上のボリュームについてVALIDのボリューム識別コードを検査します。そのボリュームが見つかった場合には、順序番号5がテープに入れられます（これは標準ラベル・テープでなければなりません）。順序番号5に位置づけるには、ファイル・ラベルの順序番号が使用されます。順序番号が見つかり、見出しラベルにファイル識別コードFILE5と1/9/84の日付の両方が入っていた場合には、正しいテープとファイルが見つかっており、完了メッセージが送られます。次のテープ操作では、テープを位置付けしなくても、順序番号5を使用してこのファイルにアクセスすることができます。指定されたボリュームが見つからないか、あるいはテープが標準ラベル・ボリュームでない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。ボリュームは見つかり、順序番号が見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。その順序番号でのファイル・ラベルがFILE5でない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。その順序番号での日付が1/9/84でない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

トップ

エラー・メッセージ：CHKTAP

*ESCAPE メッセージ

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6720

装置&1で間違ったボリューム&2が見つかった。

CPF6721

装置&1はテープ装置でない。

CPF6728

LABEL(*NONE)またはCRTDATE(*NONE)が必要。

CPF6734

ファイル順序番号&3がボリューム&2に見つからなかった。

CPF6735

ラベル識別コード&6が順序番号&3に見つからなかった。

CPF6736

作成日&6が順序番号&3に見つからなかった。

CPF6737

ラベル&4がボリューム&2に見つからなかった。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF6751

装置&4でロードの障害が起こった。

CPF6752

SEQNBR(*FIRST)またはSEQNBR(*NEXT)が正しくない。

CPF6760

装置&1の準備ができていない。

CPF6772

装置&1のボリュームを処理することができない。

CPF67E6

ボリューム&2が正しくない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

ファイルのクローズ (CLOF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル・クローズ(CLOF)コマンドは、データベース・ファイルをクローズします。このコマンドは、QUERYファイル・オープン(OPNQRYF)コマンドおよびデータベース・ファイル・オープン(OPNDBF)コマンドと関連して働きます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPNID	オープン・ファイル識別コード	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

このオープン操作を識別するためにQUERYファイル・オープン(OPNQRYF)コマンドまたはデータベース・ファイル・オープン(OPNDBF)コマンドで使用される名前を指定します。この名前は、このファイルをクローズする時に指定されるもので、このファイルを最初にクローズしないでこの名前を再び使用することはできません。

これは必須パラメーターです。

名前 オープンされているファイルの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

CLOFの例

CLOF OPNID(APPL)

このコマンドは、APPLによってOPNIDとしてオープンされたデータベース・ファイルをクローズします。このファイルは、OPNIDとしてAPPLが指定された（または省略時値として使用された）OPNDBFまたはOPNQRYFコマンドで前にオープンされたものです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CLOF

*ESCAPEメッセージ

CPF4519

ファイル&1のメンバー&3はクローズされなかった。

CPF4520

識別コード&4としてオープンされているファイルはない。

[トップ](#)

ディスクレット消去 (CLRDKT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスクレット消去(CLRDKT)コマンドは、ディスクレット・ラベル域からデータ・ファイル識別コードを消去することによって、ディスクレットから活動状態および非活動状態のすべてのファイルを削除します。ディスクレット全体を通して、1つの（満了）ファイルが定義され、DATAとして識別されます。ファイルに含まれているデータは削除されません。ファイル中のデータを削除するためには、DLTDKTLBL（ディスクレット・ラベル削除）コマンドおよびINZDKT（ディスクレット初期設定）コマンドを参照してください。

CLRDKTコマンドはディスクレットの損傷をテストすることも、ボリューム識別コードおよび所有者識別コード・フィールドを変更することはありません。また、エラー・マップも変更されません。

指定された装置(DEVパラメーター)のディスクレットは、CLRDKTコマンドによって消去されます。ボリューム識別コードが指定されていない場合には、コマンドは指定された装置のディスクレットを消去します。識別コードが指定されていて、それが指定された装置のディスクレットの識別コードと同じ場合には、ディスクレットが消去されます。

注: IBM標準ラベル以外のラベル付きのディスクレットを処理したときは、予測できない結果になることがあります。ディスクレットを初期設定するためには、CHECK(*NO)を指定して、ディスクレット初期設定(INZDKT)コマンドを入力してください。

制約事項: 拡張ラベル域のあるディスクレットは消去することができません。このようなディスクレットは、ディスクレット初期設定(INZDKT)コマンドによって初期設定する必要があります。ディスクレット消去(CLRDKT)コマンドは、ディスクレット・ラベル域からデータ・ファイル識別コードを消去することによって、ディスクレットから活動状態および非活動状態のすべてのファイルを削除します。ディスクレット全体を通して、1つの（満了）ファイルが定義され、DATAとして識別されます。ファイルに含まれているデータは削除されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ディスクレット装置	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値, <u>*MOUNTED</u>	オプション, 定位置 2
CHECK	活動ファイルの検査	<u>*YES</u> , *NO	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

ディスク装置 (DEV)

消去されるディスクが入っている装置名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

ディスクの消去前に、ディスク上のボリューム識別コード・フィールドの検査を行なうかどうかを指定します。検査を行なう場合には、検査されるボリュームのボリューム識別コードを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***MOUNTED**

ボリューム識別コードの検査は行なわれません。装置に入っているディスクは、ボリューム識別コードの検査を受けずに消去されます。

ボリューム識別コード

消去されるディスクのディスク・ラベルのボリューム識別フィールドと比較するボリューム識別コードを指定します。識別コードは最大6文字とすることができます。英字および数字を任意に組み合わせて使用することができます。

[トップ](#)

活動ファイルの検査 (CHECK)

消去する前に、指定された装置のディスクの活動ファイルについて検査するかどうかを指定します。活動ファイルとは、システム日付より後の満了日をもつファイルのことです。

考えられる値は次の通りです。

***YES** ラベルがシリンダー0にあるファイルでのみ、検査が行なわれます。ディスク上に活動ファイルが見つかった場合には、システム操作員にメッセージが送られます。操作員は、消去機能を続行して活動ファイルを消去するか、あるいは操作を終了させることができます。

***NO** ディスクは、活動ファイルの検査を受けずに消去されます。

[トップ](#)

CLRDKTの例

例1:ボリューム識別コードMASTERをもつディスクのクリア

```
CLRDKT  DEV(QDKT)  VOL(MASTER)  CHECK(*NO)
```

このコマンドは、装置QDKT内のディスクのボリューム識別コードがMASTERである場合に、このディスクをクリアします。

例2:ディスクをクリアする前の活動ファイルの検査

```
CLRDKT  DEV(DKT1)
```

このコマンドは、装置DKT1内のディスクをクリアします。VOL(*MOUNTED)が前提となるので、ディスクは基本交換か、あるいは保管/復元フォーマットのいずれかとなる可能性があります。またボリューム識別検査は実行されません。ただし、CHECK(*YES)も前提となるため、このディスクがクリアされる前に活動ファイルについて検査されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CLRDKT

*ESCAPEメッセージ

CPF6156

メッセージ&6に対して取り消し応答を受け取った。

CPF6159

ディスクの消去は終了したが、前にエラーが起きている。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列消去 (CLRJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドは、指定されたジョブ待ち行列からバッチ・ジョブ（保留状態のジョブを含む）のすべてのジョブ項目を除去します。現在読み取り中のジョブおよびそのジョブ待ち行列に再経路指定された対話式ジョブは、すべてその待ち行列に残ります。ジョブ待ち行列から開始されたジョブの実行には影響しません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LOG	ジョブ・ログ	*JOB, *NONE	オプション

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

待機中または保留中のジョブをすべて消去するジョブ待ち行列の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

ジョブ待ち行列名

消去するジョブ待ち行列のジョブ待ち行列名を指定します。

[トップ](#)

ログ(LOG)

ジョブ待ち行列から除去されるジョブと関連したメッセージ・ロギング値を使用するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** ジョブがジョブ待ち行列から除去される時に、ジョブごとに指定されたメッセージ・ロギング値を使用します。

***NONE**

除去されたジョブに、ジョブ・ログ・スプール・ファイルは生成されません。

[トップ](#)

CLRJOBQの例

CLRJOBQ JOBQ(QBATCH)

このコマンドは、現在IBM提供のジョブ待ち行列QBATCHの中にあるすべてのジョブを除去します。現在読み込まれているジョブは影響を受けません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CLRJOBQ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3416

&1個の項目が削除された。ライブラリー&4のジョブ待ち行列&3から&2個の項目が削除されていません。

CPF9843

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

[トップ](#)

ライブラリー消去 (CLRLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー消去(CLRLIB)コマンドは、削除権限のあるすべてのオブジェクトを指定されたライブラリーから削除します。このコマンドは、指定されたライブラリーを削除するのではなく、オブジェクト存在(*OBJEXIST)権限のあるその中のオブジェクトだけを削除します。その他のオブジェクトはライブラリーの中にそのまま残ります。ライブラリー中のオブジェクトが使用中である（別のスレッドまたはジョブによってロックされている）場合には、そのオブジェクトは削除できません。

制約事項:

1. 削除されるすべてのオブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限およびライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。
2. このコマンドは、QRECOVERY, QRCYXXXXX, QSPL, QSPLNNNN, QSYS, QSYSXXXXX, QSYS2, QSYS2XXXXX, QSYSCGI, SYSIBM,またはSYSIBXXXXXライブラリーの消去には使用できません（ここで'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号、'NNNN'は基本ユーザーASPあるいは1次または2次ASPの番号です）。
3. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
 - マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

オブジェクト存在(*OBJEXIST)権限のあるすべてのオブジェクトが消去されるライブラリーを指定します。オブジェクトに対する*OBJEXIST権限がない場合には、そのオブジェクトはライブラリーに残ります。QGPLが指定された場合、あるいは*CURLIBによって省略時値として使用された場合には、QGPLライブラリーの消去の確認のために照会メッセージ(CPA2129)が送られます。

これは必須パラメーターです。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが消去されます。現行スレッドのライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLライブラリーが消去されます。

名前 消去されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

消去されるライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。消去されるライブラリーがスレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部でない場合には、このパラメーターを指定して、確実に正しいライブラリーがライブラリー消去操作のターゲットになるようにしなければなりません。

注: **ライブラリー(LIB)**パラメーターに*CURLIBを指定した時に、このパラメーターを指定する場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*
- 現在、スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32),およびASPグループ内のすべての1次および2次ASP (スレッドがASPグループを持っている場合) が含まれます。

*CURASGRP

スレッドがASPグループをもっている場合には、そのASPグループ内にある1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドがASPグループを持っていても、1次および2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

CLRLIBの例

例1:ライブラリーの消去

```
CLRLIB LIB(A)
```

このコマンドは、ライブラリーA中のオブジェクトのうちで、使用中でなく、またオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限があるすべてのオブジェクトを削除します。

例2:独立補助記憶域プール(ASP)中のライブラリーの削除

```
CLRLIB LIB(INVENTORY) ASPDEV(SALES)
```

このコマンドは、SALESという名前の独立補助記憶域プール(ASP)にあるライブラリーINVENTORY中の使用中でないオブジェクトのうちでオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限のあるすべてのオブジェクトを削除します。SALES ASPは活動化されて（ASP装置をオンに構成変更することによって）、状況が「使用可能」になっていなければなりません。

トップ

エラー・メッセージ： CLRLIB

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF210D

ライブラリー&1は使用中である。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2129

システム・ライブラリー&1の消去または削除が取り消された。

CPF216B

ライブラリー&1は消去できません。

CPF2161

ライブラリー&1の一部のオブジェクトを削除することができない。

CPF2173

ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRP PRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

トップ

メッセージ待ち行列消去 (CLRMSGQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ待ち行列消去(CLRMSGQ)コマンドは、指定されたメッセージ待ち行列からすべてのメッセージを消去(除去)します。消去されたデータは、表示または印刷することができなくなります。指定されたメッセージ待ち行列がジョブに割り振られていない場合には、このコマンドの実行中はコマンドによってそれが暗黙に割り振られます。指定されたメッセージ待ち行列が*WRKSTNまたはワークステーション・メッセージ待ち行列の場合には、ワークステーション装置記述が別のジョブに割り振られている場合であっても、それが割り振られることはなく、メッセージ待ち行列は消去されます。

制約事項: メッセージ待ち行列に対する変更(*CHANGE)権限およびメッセージ待ち行列が保管されているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CLEAR	消去	*ALL, *KEEPUNANS	オプション

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

消去するメッセージ待ち行列を指定します。特定のメッセージ待ち行列名がライブラリー修飾子*LIBLで指定されている場合は、最初に見つかったその名前をもつメッセージ待ち行列のみが消去されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ待ち行列

*WRKSTN

ワークステーション・メッセージ待ち行列が消去されます。これは、バッチ・モードでは使用できません。

メッセージ待ち行列名

消去したいメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

消去するメッセージ待ち行列を見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在していない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。このパラメーターで名前が指定されたライブラリーだけが検索されます。

[トップ](#)

消去 (CLEAR)

メッセージ待ち行列から消去するメッセージを指定します。

***ALL** メッセージ待ち行列のすべてのメッセージを消去します。待ち行列にまだ応答されていないメッセージがある場合には、メッセージが除去される前にそのメッセージに省略時の応答が送られます。

***KEEPUNANS**

返答されない照会メッセージおよび送信元コピー・メッセージを除いて、すべてのメッセージが指定されたメッセージ待ち行列から除去されます。

[トップ](#)

CLRMSGQの例

例1:すべてのメッセージの消去

```
CLRMSGQ MSGQ(*CURLIB/MQFIN) CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリーにある、MQFINという名前のメッセージ待ち行列からメッセージを全消去します。

例2:未応答メッセージの保持

```
CLRMSGQ MSGQ(*CURLIB/MQFIN) CLEAR(*KEEPUNANS)
```

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリーにある、MQFINという名前のメッセージ待ち行列から未応答照会メッセージを除くメッセージを全消去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CLRMSGQ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2357

&2のメッセージ待ち行列&1は消去されなかった。

[トップ](#)

出力待ち行列消去 (CLRROUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列消去(CLRROUTQ)コマンドは、指定された待ち行列からスプール・ファイルを除去します。出力待ち行列消去(CLRROUTQ)コマンドは、指定された出力待ち行列上で、保留状態のファイルを含め、出力装置での書き出しを待機しているすべてのスプール・ファイルを除去します。現在プログラムによって作成中のスプール・ファイルまたは出力装置に書き出し中のスプール・ファイルは、待ち行列から除去されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

これは必須パラメーターです。

出力待ち行列(*OUTQ)オブジェクトを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定します。

出力待ち行列名

消去する出力待ち行列の名前を指定します。

[トップ](#)

CLRROUTQの例

CLRROUTQ OUTQ(QPRINT)

このコマンドは、印刷または保留されるのを待機しているすべてのスプール・ファイルの項目を、出力待ち行列QPRINTから除去します。現在印刷されているファイル、および現在実行中のプログラムからまだデータを受け取っているファイルは、影響を受けません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CLRROUTQ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3417

&1個の項目が削除された。&2個の項目は削除されていません。

CPF9843

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

[トップ](#)

物理ファイル・メンバー消去 (CLRPFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・メンバー消去(CLRPFM)コマンドは、物理ファイルの指定されたメンバーからすべてのデータ（削除済みレコードを含む）を除去します。ファイルの作成時に記憶域割り振り(ALLOCATE)パラメーターに*NOが指定された場合には、メンバーのレコード・カウントがゼロにセットされ、メンバー・サイズが可能な最小サイズに設定されます。ファイルの作成時にALLOCATEパラメーターに*YESが指定された場合には、CLRPFMコマンドは、メンバー・サイズを、最初にファイルが作成された時に使用された値にリセットします。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではありません。また、このコマンドは*SNAタイプの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してもスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST, *ALL	オプション, 定位置 2

トップ

物理ファイル (FILE)

消去されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

消去されるメンバーの名前を指定します。

***FIRST**

指定された物理ファイルの最初のメンバーが消去されます。

***LAST** 指定された物理ファイルの最後のメンバーが消去されます。

***ALL** 指定された物理ファイルのすべてのメンバーが消去されます。

名前 消去する物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

CLRPFMの例

CLRPFM FILE(*CURLIB/INV) MBR(FEB)

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリー***CURLIB**に見つかる物理ファイル**INV**の**FEB**という名前のメンバーを消去します。現在このメンバーを使用しているすべてのジョブおよびそのメンバーに関するアクセス・パスを使用しているすべてのジョブが完了するまで、消去は行われません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CLRPFM

***ESCAPEメッセージ**

CPF3130

メンバー&2はすでに使用中である。

CPF3133

ライブラリー&3のファイル&1にメンバーがない。

CPF3134

メンバー&2の処理中に参照制約エラー。

CPF3136

コマンドで&3のファイル&1を使用することはできない。

CPF3137

メンバー&2の消去、初期設定、またはコピーの権限がない。

CPF3141

メンバー&2が見つからない。

CPF3142

ライブラリー&3にファイル&1が見つからない。

CPF3144

メンバー&2は消去または初期設定されなかった。

CPF3156

ライブラリー&3のファイル&1が使用中である。

CPF3157

トリガーによって要求した操作が妨げられた。

CPF3159

メンバー&2がSTG(*FREE)で保管された。

CPF3160

メンバー&2に対する操作が終了した。項目をジャーナル処理することができません。

CPF3179

&3のDDMファイル&1を消去または初期設定することはできなかった。

CPF32B8

分散ファイル・エラー，理由コード&3。

CPF32CF

分散ファイル・エラー，理由コード&3。

CPF32C3

分散ファイル・エラー，レベルIDが一致していない。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

[トップ](#)

プールの消去 (CLRPOOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プール消去(CLRPOOL)コマンドによって、主記憶域プールからすべてのオブジェクトが消去されます。これによって、オブジェクト・アクセス設定(SETOBJACC)コマンドはプール内の記憶域の使用状況について報告することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
POOL	記憶域プール	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: 共有プールまたはサブシステム名	名前, *JOB, *SHRPOOL1, *SHRPOOL2, *SHRPOOL3, *SHRPOOL4, *SHRPOOL5, *SHRPOOL6, *SHRPOOL7, *SHRPOOL8, *SHRPOOL9, *SHRPOOL10, *SHRPOOL11, *SHRPOOL12, *SHRPOOL13, *SHRPOOL14, *SHRPOOL15, *SHRPOOL16, *SHRPOOL17, *SHRPOOL18, *SHRPOOL19, *SHRPOOL20, *SHRPOOL21, *SHRPOOL22, *SHRPOOL23, *SHRPOOL24, *SHRPOOL25, *SHRPOOL26, *SHRPOOL27, *SHRPOOL28, *SHRPOOL29, *SHRPOOL30, *SHRPOOL31, *SHRPOOL32, *SHRPOOL33, *SHRPOOL34, *SHRPOOL35, *SHRPOOL36, *SHRPOOL37, *SHRPOOL38, *SHRPOOL39, *SHRPOOL40, *SHRPOOL41, *SHRPOOL42, *SHRPOOL43, *SHRPOOL44, *SHRPOOL45, *SHRPOOL46, *SHRPOOL47, *SHRPOOL48, *SHRPOOL49, *SHRPOOL50, *SHRPOOL51, *SHRPOOL52, *SHRPOOL53, *SHRPOOL54, *SHRPOOL55, *SHRPOOL56, *SHRPOOL57, *SHRPOOL58, *SHRPOOL59, *SHRPOOL60	
	要素 2: プール識別コード	1-10	

[トップ](#)

記憶域プール (POOL)

すべてのオブジェクトを消去する、プールを指定してください。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** ジョブと関連したプールが消去されます。

***SHRPOOLN**

汎用共用プールが消去されます。有効な値の範囲は1 - 10です。要素 1 : サブシステム

サブシステム

サブシステム名を指定してください。要素 2 : プール識別コード

プール識別コード

サブシステム・プール識別コードを指定してください。

[トップ](#)

CLRPOOLの例

CLRPOOL POOL(*JOB)

このコマンドは、コマンドが処理されたジョブと関連したプールを消去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CLRPOOL

***ESCAPEメッセージ**

CPF1858

指定されたプールが存在しない。

CPF1859

アクセス・パスの使用が要求されたが、存在しない。

[トップ](#)

保管ファイル消去 (CLRSAVF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管ファイル消去(CLRSAVF)コマンドにより、保管ファイルの内容が消去されます。このコマンドは、保管ファイルからすべての既存レコードを消去し、このファイルが使用する記憶容量を減少させます。

保管ファイルは、保管コマンドからデータを受け取るため、あるいは別の保管ファイルを受け取るために再び使用する前に消去しなければなりません。ユーザーが新規保管データを、すでにレコードが入っている保管ファイルに書き込もうとした場合には、保管コマンドを使用し、CLEAR(*ALL)が指定されている場合を除き、照会メッセージが対話式ジョブの場合はワークステーションに送られ、バッチ・ジョブの場合はシステム操作員に送られます。

注: このコマンドは、ジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- 保管ファイルに対する操作(*OBJOPR)権限およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限と、指定されたライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	保管ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

保管ファイル (FILE)

消去する保管ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 保管ファイル

名前 消去する保管ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

CLRSAVFの例

CLRSAVF FILE(ONLINE)

このコマンドは、保管ファイルONLINEの内容を消去します。ファイル内の既存のすべてのレコードが除去され、ファイル・サイズは可能な最小サイズに削減されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CLRSAVF

*ESCAPE メッセージ

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

サーバー機密保護データの消去 (CLRSVRSEC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サーバー機密保護データ消去(CLRSVRSEC)コマンドは、ユーザー・プロファイルおよび妥当性検査リスト(*VLDL)項目に関連した暗号解除可能認証情報を消去します。これは、QRETSVRSECシステム値が'1'から'0'に変更された時に、V5R2以前のリリースで消去されたのと同じ情報です。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、*ALLOBJ および*SECADM特殊権限が必要です。
2. QRETSVRSECシステム値は'0'でなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CLRSVRSECの例

CLRSVRSEC

このコマンドは、QRETSVRSECシステム値が'0'に設定されていることを検査し、その場合は、暗号解除可能な確認情報を消去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CLRSVRSEC

***ESCAPE** メッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF4AB4

QRETSVRSECシステム値は'0'でなければなりません。

[トップ](#)

追跡データ消去 (CLRTRCDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

追跡データ消去(CLRTRCDTA)コマンドは、このデバッグ・セッションにおいて前のトレース操作によって得られたすべてのデータを、消去（除去）します。消去されたデータは、表示または印刷することができなくなります。

制約事項: このコマンドは、デバッグ・モードでのみ有効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CLRTRCDTAの例

CLRTRCDTA

このコマンドは、現在デバッグされているすべてのプログラムでの、前のいずれかおよびすべての追跡操作から記録されたすべてのデータを消去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CLRTRCDTA

***ESCAPE** メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

コマンド定義 (CMD)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド(CMD)コマンド定義ステートメントは、作成しようとしているコマンドに関するプロンプト・テキストを指定します。プロンプト・テキストは、ここで定義しているコマンドをユーザーが入力する時、ユーザーがプロンプトを要求した場合に表示されます。CMDステートメントは、コマンド作成(CRTCMD)コマンドにより参照されるソース・ファイルの中のどこにあってもかまいません。作成するコマンドについてプロンプト・テキストを指定しない場合であっても、ソース・ファイルの中には、CMDステートメントを1つ指定しなければなりません(ただし1つしか指定できません)。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PROMPT	プロンプト・テキストまたはメッセージID	文字値、 <u>*NONE</u>	オプション、位置 1

[トップ](#)

プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)

定義中のコマンドについてのプロンプト画面の見出し(タイトル)に含まれるプロンプト・テキストがある場合には、それを指定します。プロンプト・テキストは、コマンドの名前をさらに詳しく記述します。

注: PARM, ELEM,およびQUALコマンド定義ステートメント(このステートメントのPROMPTパラメーターがコマンドのプロンプト・テキストを指定するのとまったく同様に、パラメーター、要素、および修飾子に対してプロンプト・テキストを指定する)のPROMPTパラメーターに、このコマンドの個々のパラメーターに関するプロンプト・テキストを指定することができます。

*NONE

コマンドに関するプロンプトが要求された場合に、表示されるプロンプトの見出しにプロンプト・テキストは含まれません。

メッセージ識別コード

コマンドのプロンプトが要求された時に表示されるプロンプト・テキストについてのメッセージを指定するメッセージ識別コード(30文字以内)を指定してください。指定された識別コードをもつメッセージをコマンド作成(CRTCMD)コマンドのPMTFILEパラメーターに指定されたメッセージ・ファイルに見つけることができない場合には、メッセージ識別コードそのものがプロンプト・テキストとして使用されます。

'プロンプト・テキスト'

コマンドのプロンプトを要求している時に表示されるプロンプト・テキストを指定してください。これは、アポストロフィで囲まれた30文字以内の文字ストリングでなければなりません。

このパラメーターには変数をコーディングすることはできません。

[トップ](#)

CMDの例

CMD PROMPT(UCD0001)

このステートメントは、追加テキストで表示見出しにプロンプトを出すコマンドを記述します。このコマンド・プロンプト・テキストは、UCD0001で識別されるメッセージから取られます。メッセージID UCD0001が入っているメッセージ・ファイルを、コマンド定義オブジェクトを作成するために使用されるコマンド作成(CRTCMD)のPMTFILEパラメーターに指定する必要があります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CMD

なし

[トップ](#)

ジャーナル・イメージ比較 (CMPJRNIMG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・イメージ比較(CMPJRNIMG)コマンドでは、(1)特定のファイル・メンバーのレコード・レベルの変更(更新、削除、ロールバック更新、およびロールバック削除)の変更前イメージと変更後イメージ(物理ファイル・ジャーナル処理開始(STRJRNPF)コマンドにIMAGE(*BOTH)の指定されていることが必要)、あるいは(2)特定の相対レコードの変更後イメージと前の変更後イメージ(STRJRNPFコマンドにIMAGES(*AFTER)が指定されている)の相違を比較し、記録することができます。コマンドの出力は印刷装置へ送られます。

変更前および変更後イメージを比較する場合には、特定のファイルまたはメンバーの中の1つまたはすべてのレコードについて、ジャーナル処理された変更を比較することができます。この比較は、特定のジャーナル・レシーバー範囲によって、あるいは特定のジャーナル・レシーバー範囲の中のジャーナル項目の範囲によって制限することもできます。

印刷出力は、変更が行われる前のレコード・イメージを表示し、その後に、変更後のレコード・イメージ、レコード中の特定の変更をフィールドごとでなく1文字ずつ示す(アスタリスクで)行を表示します。ジャーナル処理されたファイルの中にヌル値可能フィールドがある場合には、レコードの変更前イメージに対応するヌル値標識が、レコードの変更後イメージに対応するヌル値標識と比較されます。これはフィールドごとに行われます。

指定された検索値を満足させるジャーナル項目がない場合には、コマンドは終了します。

制約事項:

- 比較の結果はシステム印刷装置にだけ送られます。
- 指定するファイルおよびメンバーは、現在システム上に存在しているものでなければならず、ジャーナル処理されていなければなりません。
- 1つのコマンドにつき1つのメンバーしか処理できません。
- 次の条件の1つが起こった場合には、ジャーナル・イメージの比較は終了します。
 - メンバーが保管されて記憶域が解放された。
 - メンバーが復元された。
 - メンバーが消去された。
 - メンバーが初期設定された。
 - メンバーが再編成された。
 - メンバーが削除された。
 - システムが異常終了した時にメンバーが使用中であった。
 - メンバーのジャーナル処理が停止した。
 - メンバーにジャーナル処理された変更が適用されたか除去された(ジャーナル処理済み変更適用(APYJRNCHG)コマンドまたはジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)コマンドによって)。
- 順序番号が指定されたレシーバーの範囲内でリセットされた場合に、プロンプトが指定されると、FROMENT, FROMENTLRG, TOENT,またはTOENTLRG値の最初のオカレンスが使用されます。

- FROMENT, FROMENTLRG,およびFROMTIMEパラメーターは, TOENT, TOENTLRG,およびTOTIMEパラメーターの場合と同様に, 一緒に使用することはできません。
- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが, このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には, 選択基準の指定にJOB, PGM, およびUSRPRFパラメーターを使用することはできません。
- リモート・ジャーナルでは, あるいはリモート・ジャーナルに関してはこのコマンドは使用することができません。
- このコマンドがデータ・タイプBLOB (2進ラージ・オブジェクト), CLOB (文字ラージ・オブジェクト), またはDBCLOB (2バイト文字ラージ・オブジェクト) のフィールドを含むファイルのジャーナル・イメージを比較するために使用される場合には, これらのフィールドは比較に含まれません。ファイル中の他のすべてのフィールドは比較されます。
- 指定の範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが*FILEオブジェクトにMINENTDTA (最小化項目特定データ) を指定されたジャーナルに接続された場合には, このコマンドは使用できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 2
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: *CURRENT その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, *FIRST	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, *LAST	オプション
TOTIME	終了日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
CMPOPT	比較オプション	*AFTER, *BOTH	オプション
RCDNBR	レコード番号	符号なし整数, *ALL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: <u>*ALL</u> その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
PGM	プログラム	名前, <u>*ALL</u>	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, <u>*ALL</u>	オプション
CCIDLRG	大きいコミット・サイクルID	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
OUTFMT	出力形式	<u>*CHAR</u> , <u>*HEX</u>	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-9999999999, <u>*FIRST</u>	オプション
TOENT	終了順序番号	1-9999999999, <u>*LAST</u>	オプション
CMTCYCID	コミット・サイクル識別コード	1-9999999999, <u>*ALL</u>	オプション

トップ

ファイル (FILE)

ジャーナル・レコード・レベルの変更が比較される物理データベース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

物理ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

メンバー (MBR)

ジャーナル項目が比較されるファイル・メンバー名を指定します。

*FIRST

ファイルの最初のメンバー項目を比較します。

メンバー名

レコード・レベルの変更が比較するファイル・メンバー名を指定します。

トップ

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

変更前と変更後のジャーナル項目イメージの比較で使用される開始および終了ジャーナル・レシーバーを指定します。システムは開始ジャーナル・レシーバー（最初の値に指定されている）を使用して比較を開始し、終了ジャーナル・レシーバー（最後の値に指定されている）が処理されるまで、レシーバーの処理を続行します。2重レシーバーを使用した場合には、レシーバーの連鎖時には常に2重レシーバーの最初の方が使用されます。

比較が開始される前にレシーバー連鎖の中に問題（レシーバーの損傷またはレシーバーが見つからないなど）が発生した場合には、システムは2重レシーバーの2番目の方を使用します。レシーバーの2番目の方が損傷しているか見つからない場合、あるいは操作時に問題が発生した場合には、比較は終了します。

注: 2番目の要素（終了ジャーナル・レシーバー）を指定できるのは、最初の要素（開始ジャーナル・レシーバー）に値を指定した場合だけです。

注: 範囲内のレシーバーの最大数が(1024)を超えた場合には、例外が送られ、項目は比較されません。

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の比較を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

要素 1:開始ジャーナル・レシーバー

修飾子 1:開始ジャーナル・レシーバー

名前 比較されるジャーナル項目が入っている最初のジャーナル・レシーバー名を指定します。

修飾子 2:ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素 2:終了ジャーナル・レシーバー

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の比較を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

修飾子 1:終了ジャーナル・レシーバー

名前 比較されるジャーナル項目が入っている最後のジャーナル・レシーバー名を指定します。

修飾子 2:ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

比較される最初のジャーナル項目（開始項目）を指定します。

注: 開始順序番号フィールド(FROMENT)か大きい開始順序番号フィールド(FROMENTLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

*FIRST

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最初のジャーナル項目が、比較操作を行う最初の項目です。

開始順序番号

比較操作が開始されるジャーナル項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

開始日および時刻 (FROMTIME)

比較する最初のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。

要素 1: 開始日付

開始日 開始日を指定してください。指定した開始日および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、比較するジャーナル項目の範囲の開始点となります。

要素 2: 開始時刻

開始時刻

開始時刻を指定してください。指定した開始日および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、比較するジャーナル項目の範囲の開始点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します（ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です）。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

比較の対象とみなされる最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号フィールド(TOENT)か大きい終了順序番号フィールド(TOENTLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***LAST** 指定した最後のジャーナル・レシーバーの最後のジャーナル項目が、比較される最終項目です。

終了順序番号

比較される最後のジャーナル項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

注: FROMおよびTOパラメーターに指定する値は同じものとすることができます (たとえば、FROMENTLRG(234)およびTOENTLRG(234)を指定することができます)。

トップ

終了日および時刻 (TOTIME)

比較する最後のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。

要素 1: 終了日付

終了日 終了日を指定してください。指定した終了日および時刻またはその前の最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、比較するジャーナル項目の範囲の終了点となります。

要素 2: 終了時刻

終了時刻

終了時刻を指定してください。指定した終了日および時刻またはその前の最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、比較するジャーナル項目の範囲の終了点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

比較オプション (CMPOPT)

指定したファイルのレコード・レベル変更について比較されるレコード・イメージのタイプ（変更前または変更後イメージ）を指定します。

***BOTH**

ジャーナル項目の変更前イメージがジャーナル項目の変更後イメージと比較されます。

***AFTER**

ファイル・レコード中のジャーナル項目の変更後イメージが前の変更後イメージと比較されます。

この値を指定する場合には、以下のパラメーターに省略時の値*ALLを指定しなければなりません。

- ジョブ名 (JOB)パラメーター
- プログラム (PGM)パラメーター
- ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーター
- コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)パラメーター
- 大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)パラメーター

また、レコード番号 (RCDNBR)パラメーターには相対レコード番号を指定する必要があります。

[トップ](#)

レコード番号 (RCDNBR)

ジャーナル項目のイメージが、比較されるファイルの相対レコード番号を指定します。

***ALL** 物理ファイル・メンバーのすべてのジャーナル項目レコードの記録された変更が比較されます。

相対レコード番号

変更前/変更後または変更後/変更後イメージが比較される物理ファイル・メンバーの相対レコード番号を指定します。値を指定した場合には、指定したジャーナル項目レコードの変更だけが比較されます。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

比較が特定のジョブのジャーナル項目に対して行われるものであることを指定します。

単一値

***ALL** 比較は特定のジョブの項目に制限されません。

その他の値

ジョブ識別コード

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

比較が特定のプログラムのジャーナル項目に対して行われるものであることを指定します。

***ALL** 比較は特定のプログラムの項目に制限されません。

プログラム名

レコード・レベルのジャーナル項目の変更が比較の対象とみなされるプログラム名を指定します。
このプログラムのジャーナルの変更だけが比較の対象とみなされます。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

比較は特定のユーザー・プロファイル名のジャーナル項目に対して行われるものであることを指定します。
ユーザー・プロファイル名は、項目をジャーナル処理するジョブが実行されるユーザー・プロファイルです。

***ALL** 比較は特定のユーザー・プロファイルの項目に限定されません。

ユーザー・プロファイル名

レコード・レベルの変更が比較されるユーザー・プロファイル名を指定します。このユーザー・プロファイルのジャーナル変更だけが比較の対象とみなされます。

[トップ](#)

大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)

ジャーナル項目の比較が行われる作業論理単位に関する特定のジャーナルのコミット・サイクル識別コードを指定します。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** すべてのコミット・サイクル識別コードのジャーナル項目が比較に含まれます。

コミット・サイクル識別コード

比較するジャーナル項目のコミット・サイクル識別コード指定してください。ジャーナル項目のコミット・サイクル識別コードは、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用して、オプション5を選択することによって見つけることができます。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

出力形式 (OUTFMT)

比較されるレコード・イメージが表示される形式を指定します。

***CHAR**

レコード・イメージは文字形式で表されます。

***HEX** レコード・イメージは16進数形式で表されます。

[トップ](#)

開始順序番号 (FROMENT)

比較される最初のジャーナル項目（開始項目）を指定します。

注: 開始順序番号フィールド(FROMENT)か大きい開始順序番号フィールド(FROMENTLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***FIRST**

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最初のジャーナル項目が、比較操作を行う最初の項目です。

開始順序番号

比較操作が開始されるジャーナル項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

終了順序番号 (TOENT)

比較の対象とみなされる最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号フィールド(TOENT)か大きい終了順序番号フィールド(TOENTLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***LAST** 指定した最後のジャーナル・レシーバーの最後のジャーナル項目が、比較される最終項目です。

終了順序番号

比較される最後のジャーナル項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

注: FROMおよびTOパラメーターに指定する値は同じものとすることができます（たとえば、FROMENT(234)およびTOENT(234)を指定することができます）。

[トップ](#)

コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)

ジャーナル項目の比較が行われる作業論理単位に関する特定のジャーナルのコミット・サイクル識別コードを指定します。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** すべてのコミット・サイクル識別コードのジャーナル項目が比較に含まれます。

コミット・サイクル識別コード

比較するジャーナル項目のコミット・サイクル識別コード指定してください。ジャーナル項目のコミット・サイクル識別コードは、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用して、オプション5を選択することによって見つけることができます。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

CMPJRNIMGの例

例 1:変更前イメージと変更後イメージの比較

```
CMPJRNIMG FILE(QGPL/PF)
```

このコマンドは、QGPLライブラリーのファイルPFの最初のメンバーについて、ジャーナル処理済みレコード・レベルの変更を比較します。比較される項目は、比較の開始時点で接続されているジャーナル・レシーバーの中にあり、比較は最初の項目で始まり、最後の項目で終わります。選択値を満たしている変更前イメージと変更後イメージの両方を持つすべての項目が、比較の対象となります。項目の変更前イメージが項目の変更後イメージと比較されます。

例 2:変更後イメージと前の変更後イメージの比較

```
CMPJRNIMG FILE(MYLIB/PAYROLL) MBR(APRIL)
           RCVRNG((RCVLIB/RCV3) (*CURRENT))
           FROMENT(200) TOENT(500)
           CMPOPT(*AFTER) RCDNBR(999) OUTFMT(*HEX)
```

このコマンドは、MYLIBのファイルPAYROLLのAPRILという名前のメンバーについて、ジャーナル処理済みレコード・レベルの変更を比較します。比較はRCVLIBのレシーバーRCV3で始まり、比較の開始時点で接続されているジャーナル・レシーバーで終わります。比較される項目の範囲は、項目200で始まり項目500で終わります。変更後イメージと前の変更後イメージだけが比較されます。比較はレコード番号999に限定されます。出力は16進形式で印刷されます。

例 3:ジャーナル項目の日付および時刻の指定

```
CMPJRNIMG FILE(USERLIB/MYFILE) MBR(*FIRST)
           RCVRNG((RCV2) (USERLIB/RCV5))
           FROMTIME('7/04/87' 120000) TOENT(1000)
```

このコマンドは、USERLIBのファイルMYFILEの最初のメンバーについて、ジャーナル処理済みレコード・レベルの変更を比較します。比較は*LIBLのレシーバーRCV2で始まり、USERLIBのレシーバーRCV5で終わります。比較される最初のジャーナル項目の日付および時刻は7/4/87 12:00:00であり、比較に考慮される終了レコード順序番号は1000です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CMPJRNIMG

*ESCAPEメッセージ

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF7027

項目&4を超えて操作を実行することはできない。

CPF7028

&2のファイル&1のメンバー&3はジャーナル処理されていない。

CPF7029

イメージ比較が正常に行なわれなかった。終了順序番号は&4です。

CPF7036

&2のファイル&1は前イメージでジャーナル処理されていない。

CPF7038

メンバー&3の項目は比較されなかった。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF709C

JOB, PGM,およびUSRPRFはレシーバー範囲に正しくない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

コミット (COMMIT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コミット(COMMIT)コマンドは、現行のトランザクションを完了し、コマンドを出したプログラムに対応するコミットメント定義に新しいコミットメント境界を設定するために使用されます。

コミットメント制御開始(STRCMTCTL)コマンドは、COMMITコマンドが出される前に、コミットメント定義を設定するために最初に出されなければなりません。そうでない場合には、メッセージが送られます。

COMMITコマンドが出されると、最後のコミットメント境界が開始された後でコミットメント定義のコミットメント制御のもとで資源に対して行われた保留中のすべての変更が永続的なものになります。この一連の変更に関連するコミットメント識別コードを指定することができます。ジャーナルに関連したファイルまたはAPIコミットメント資源がコミットメント制御のもとにある場合には、コミットメント識別コードが各ジャーナルのコミットされた変更(CM)ジャーナル項目に入れられます。

コミットメント識別コードは、活動化グループの終了時、ジョブの終了時、またはIPL（初期プログラム・ロード）の処理時に更新する必要がある場合には、通知オブジェクトの更新時にもシステムによって使用されます。

コミットが出された時に資源がコミットメント定義のコミットメント制御のもとにない場合には、エラーは起こりません。コミットメント定義のコミットメント制御のもとでオープンされたファイルに対して保留されているすべてのレコード・ロックは、コミットが出された時に解放されます。トランザクションの実行中に、資源が作成または変更された時に獲得されたオブジェクト・レベルのコミットメント制御資源のロックは、コミットが出された時に解放されます。

コミットメント制御の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter))にある「コミットメント制御」の記事を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMTID	コミット識別	文字値, *NONE, *LUWID	オプション、定位置 1

トップ

コミット識別 (CMTID)

コミットメント境界によってコミットされる1グループの変更を識別するために使用されるテキストを指定します。システムの異常障害が起こった場合、あるいはジョブがコミットされていない変更またはゼロ以外の完了コードで終了した場合には、このテキストはIPL処理中にSTRCMTCTLコマンドのNFYOBJパラメーターに指定されたオブジェクトに入れられます。

***NONE**

このコミットメント境界でコミットされるトランザクションを識別するために、テキストは使用されません。

***LUWID**

このコミットメント境界によってコミットしている変更グループを識別するためには、作業論理単位識別名およびこの作業論理単位の省略時のジャーナル名が使用されます。

記述 このコミットメント境界でコミットされている変更グループを識別するために、アポストロフィで囲まれた最大3000文字を指定します。

[トップ](#)

COMMITの例

```
COMMIT CMTID('ACCOUNT #123456 CHANGES END')
```

このコマンドは、コマンドを出したプログラムに関連したコミットメント定義に対してこの時点で行われたすべての変更がコミットされることを指定します。コミットメント識別コードは、'ACCOUNT #123456 CHANGES END'であり、活動化グループの終了時、ジョブの終了時、またはIPLの処理時に更新する必要がある場合に、通知オブジェクトの更新時にシステムによって使用されることがあります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： COMMIT

***ESCAPE** メッセージ

CPF5030

メンバー&4で部分的な損傷がある。

CPF509F

入出力エラーの後でジョブが正常に接続された。

CPF5104

メッセージ&7に取り消し応答を受け取った。

CPF511D

理由コード&1でパラメーター保全性エラーが起こった。

CPF5134

メンバー&4に対する要求の処理は認可されていない。

CPF5149

プログラム装置またはライブラリー&3のファイル&2のメンバー&4の操作が正しくない。

CPF5168

&2のファイル&1のメンバー&3をオープンすることができない。

CPF5169

&3のDDMファイル&2への入出力(I/O)を完了することができなかった。

CPF5173

バッファ中の&6レコードが正しくない。

CPF5235

メンバー&4の項目はジャーナル処理されなかった。

CPF5257

ライブラリー&3ファイル&2の装置またはメンバー&4に障害がある。

CPF5272

レコードはメンバー&4に追加されなかった。

CPF83DB

コミット操作の結果ロールバックとなった。

CPF83D0

コミットメント操作は使用できない。

CPF83E1

制約違反のためにコミット操作が正常に実行されなかった。

CPF83E2

ロールバック操作が必要である。

CPF835F

コミットまたはロールバック操作が正常に実行されなかった。

CPF8350

コミットメントの定義が見つからない。

CPF8363

コミット操作が正常に実行されなかった。

CPF8367

コミットメント制御操作を実行できない。

CPF9203

DDMターゲット・システムから受け取った応答&1は予期されていなかった。

CPF9255

コミットメント制御操作が正常に実行されなかった。

STATUS メッセージ*CPF5001**

ライブラリー&3にファイル&2の終わりが検出された。

CPF83E6

コミットメント制御操作が進行中の再同期化とともに完了した。

NOTIFY メッセージ*CPF5018**

メンバー&4が最大サイズとなっている。増分を使用することはできません。

CPF502A

メンバー&4で可変長レコード・エラー。

CPF502B

トリガー・プログラムでエラーが起こった。

CPF502D

メンバー&4で参照制約違反。

CPF502E

メンバー&4の参照制約を妥当性検査することができない。

CPF502F

メンバー&4に対する検査制約違反。

CPF5026

メンバー&4に重複キーを使用することはできない。

CPF5029

メンバー&4でデータ・マッピング・エラー。

CPF503A

メンバー&4で参照制約違反。

CPF503B

メンバー&4にレコードを挿入または更新することができない。

CPF503F

メンバー&4で区画キー・エラー。

CPF5030

メンバー&4で部分的な損傷がある。

CPF5033

メンバー&4で選択/除外エラー。

CPF5034

アクセス・パスでキーが重複しています。

CPF5079

このジョブのコミットメント制御の資源の限界を超えている。

CPF5084

メンバー&4に重複キーを使用することはできない。

CPF5085

基礎になっているメンバー&4のアクセス・パスでキーが重複している。

CPF5090

固有アクセス・パスの問題のためにメンバー&4を更新することができない。

CPF5097

メンバー&4でキー・マッピング・エラー。

[トップ](#)

オブジェクトのコピー (COPY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトのコピー (COPY)コマンドは、単一のオブジェクトまたはオブジェクト・グループをコピーします。

省略時では、ターゲット・オブジェクトがすでに存在している場合には、その個々のオブジェクトのコピーは失敗します。REPLACE(*YES)パラメーターが指定されている場合には、ターゲット・オブジェクトが書きされます。新しく作成されたオブジェクトを元のオブジェクトと同じディレクトリーに記憶する場合には、そのオブジェクトの名前を変更しなければなりません。元のオブジェクトが入っているディレクトリーとは別のディレクトリーに保管する場合には、元のオブジェクトの名前で保存することができます。

オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループをコピーすることができます。元の名前がターゲットのファイル・システムの要件を満たしていない場合には、パターンを使用してオブジェクトのグループを1つのファイル・システムから別のファイル・システムにコピーすることはできません。たとえば、QOPENSYS/OBJAという名前のファイルはディレクトリー/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/FILEA.FILEにコピーすることはできません。QSYS.LIBファイル・システムでは、ファイルに書き出す時にOBJA.MBRの形式の名前が必要だからです。「名前、オブジェクト・タイプ」の要件を満たしていない場合には、パターン内で見つかったすべての名前は正常にコピーされません。

また、コピー・コマンドは、ディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容がコピーされるディレクトリー・ツリーのコピーにも使用することができます。サブツリー・コピーは、可能な限り多くの属性をオリジナル・オブジェクトから保存しようとします。これによって、1つのファイル・システムから他のファイル・システムにデータを移行することができます。

元のオブジェクトが読み取り専用ファイル(PC読み取り専用属性フラグがオンになっているファイル)で、SUBTREE(*NODIR)が指定されている場合には、新たに作成されるオブジェクトは読み取り専用にはなりません。これは、OS/2階層ファイル・システム(HFS)の規則に従います。

注: ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)パラメーターの値が*NONE または*ALLの場合には、PCの読み取り専用属性フラグがコピーされます。サブツリー・コピーは、可能な限り多くの属性をオリジナル・オブジェクトから保存することを目的としています。

TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが指定されている場合には、オブジェクトは同じ名前とそのディレクトリーにコピーされます。コピーされたオブジェクトは、元のオブジェクトと同じに認可されます。**所有者 (OWNER)**パラメーターの値が*NEWの場合には、このコマンドを出したユーザーがコピーされたオブジェクトを所有します。

SUBTREE(*NODIR)を指定したファイルをルート(/), QOPENSYS, QDLS,およびUDFSファイル・システムにコピーすると、最終アクセス日付/時刻とデータ変更日付/時刻は新しいファイルに保存され、属性変更日付/時刻は現在の時刻に更新されます。元のファイルの最終アクセス日付/時刻は現在の時刻に更新されます。QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システム内のデータベース・ファイル・メンバー(*MBR)にコピーすると、データの変更日付/時刻も更新されます。

注: パラメーターSUBTREE(*YES)が指定されている場合には、作成日付/時刻も更新されます。

このコマンドは、オブジェクトのコピー (CPY)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CPY

コピー・コマンドの他に、ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)およびストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF)コマンドを使用して、ストリーム・ファイルとデータベース・メンバー・ファイルまたは保管ファイルの間でコピーすることができます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項：

1. コピー・コマンドは、サポートされている場合にオブジェクトの共通および専用認可をコピーします。

注：このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

- 別のオブジェクト・タイプからデータベース・ファイル・メンバーにコピーする場合、または現行ジョブのライブラリー名スペースにないメンバー相互間でコピーする場合には、一部の属性がコピーされません。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。
- データベース・メンバーを同じライブラリー名スペース内の別のメンバーにコピーする場合には、属性はファイル・コピー (CPYF) コマンドと同じように処理されます (これが適用されるのは、**データ形式 (DTAFMT)**パラメーターが*BINARYの場合だけです)。
- コピーされるその他のオブジェクト・タイプは、複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ)コマンドで属性が処理されるのと同様に処理されます (これが適用されるのは、DTAFMTパラメーターが*BINARYの場合だけです)。
- REPLACE(*YES)オプションは、ターゲット・オブジェクトが存在する時にファイル・メンバー、ユーザー・スペース、および保管ファイルでのみサポートされます。他のすべてのオブジェクト・タイプでは、ターゲット・オブジェクトが存在すると失敗します。

QOPTファイル・システムの相違点

- QOPTファイル・システム内のファイルをコピーしている場合には、作成日付/時刻は常に現在時刻に更新されます。

QNETWAREファイル・システムの相違点

- ファイルまたはディレクトリーを同一サーバー上のロケーションにコピーする場合には、ターゲット・オブジェクトの所有者は常にこのコマンドの呼び出し元であり、PC読み取り専用フラグはコピーされません。
- スキャン関連属性はコピーされません。

QFILESVR.400ファイル・システムの相違点

- OWNER(*KEEP)パラメーターは、オブジェクトのQFILESVR.400ファイル・システムへのコピー時にはサポートされません。コピーはエラー・メッセージCPFA0ADで失敗します。

- スキャン関連属性はコピーされません。

ネットワーク・ファイル・システム(NFS)の相違点

- OWNER(*KEEP)パラメーターは、マウントされたネットワーク・ファイル・システム(NFS)ディレクトリーとの間で相互にオブジェクトをコピーする時はサポートされません。コピーはエラー・メッセージ CPFA0ADで失敗します。
- スキャン関連属性はコピーされません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
TODIR	TOディレクトリー	パス名, .	オプション, 定位置 2
TOOBJ	TOオブジェクト	パス名	オプション
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO , *YES	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, *OBJ , *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, *OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
DTAFMT	データ形式	*BINARY , *TEXT	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NODIR , *NONE, *ALL	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*NO , *YES	オプション
OWNER	所有者	*NEW , *KEEP	オプション
FROMCODPAG	FROMコード・ページ	1-32767, *OBJ , *PCASCII	オプション
TOCODEPAGE	TOコード・ページ	1-32767, *OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

オブジェクトのパス名, またはコピーされるオブジェクトの名前を突き合わせるためのパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は, 単純名, またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ, 疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか, あるいはパターンを含んでいる場合には, パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については, ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: オブジェクト名のパターンを使用して複数のオブジェクトをコピーできるのは, **TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターが指定されている場合だけです。

トップ

TOディレクトリー (TODIR)

オブジェクトがコピーされる先のディレクトリーのパス名を指定します。このパラメーターを使用すると、コピーされたオブジェクトは**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定されている名前と同じ名前を持ちます。

。 オブジェクトは、既存のオブジェクトと同じ名前で行ディレクトリーにコピーされます。

ディレクトリー・パス名

オブジェクトをコピーする先の既存のディレクトリーのパス名を指定してください。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

TOオブジェクト (TOOBJ)

コピーされたオブジェクトの名前を指定します。これはパスまたは相対パスを含めて、新しいオブジェクトの名前です。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

シンボリック・リンク (SYMLNK)

オブジェクトとシンボリック・リンクのどちらをオブジェクトにコピーするかを指定します。

***NO** オブジェクトへのシンボリック・リンクではなく、オブジェクトがコピーされます。

***YES** コピーするオブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクがポイントするオブジェクトがコピーされる代わりに、シンボリック・リンクがコピーされます。

注: サブツリーのコピー中にシンボリック・リンクが見つかったら、シンボリック・リンクがポイントするオブジェクトがコピーされます。そのシンボリック・リンクがディレクトリーに指示されている場合には、そのディレクトリーがコピーされますが、その内容はコピーされません。ディレクトリー・ツリーの最上位ディレクトリーがディレクトリーへの事実上のシンボリック・リンクの時も、これと同様です。

トップ

変換元CCSID (FROMCCSID)

コピー操作のソースでコード化文字セット識別コード(CCSID)を取得するメソッドを指定します。必要であれば、このCCSIDがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。

*PCASCI

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを計算するには、コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるCCSIDとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのCCSID が使用されます。

1-65533

CCSID値を指定してください。

[トップ](#)

変換先CCSID (TOCCSID)

コピー操作のターゲットでデータのコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*CALC

コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、ファイル・システムに別のCCSIDを判別させてコピーを続行してください。

*STDASCI

ソース・ファイルのCCSIDに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のCCSIDを計算します。このCCSIDをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*PCASCI

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを、ソース・ファイルのCCSID (MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95ロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)に基づいて計算します。このCCSIDをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用しま

す。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWS適用業務で使用することができます。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからのCCSID が使用されます。

1-65533

CCSID値を指定してください。

[トップ](#)

データ形式 (DTAFMT)

コピーするファイルのデータ形式を指定します。

***BINARY**

ファイルにはデータが2進数形式で入っています（たとえば実行可能ファイル）。

コピー時にデータを変換しないでください。ただし、コピーするオブジェクトにソース・オブジェクトとは別のCCSIDがある場合には、設定される前に、すべての拡張属性が新しいオブジェクトのCCSIDに変換されます。

***TEXT** ファイルにはデータがテキスト形式で入っています。コピー時にデータを新しいオブジェクトのCCSIDに変換します。データはコピー時にはテキストとして処理されます。

データベース・メンバーがストリーム・ファイルにコピーされる場合には、行形式設定文字（改行、タブ、ファイルの終わりなど）は、一方のCCSIDから別のCCSIDに変換されるだけです。

ストリーム・ファイルをデータベース・メンバーにコピーする場合には、ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っていないければ、コピーは失敗します。入っていないとコピーは正常に実行されません。ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っている場合には、データベース・ファイルへのコピー時に、次の処置が実行されます。

- 行の終わり文字を除去します。
- レコードを、ブランク（ソース物理ファイル・メンバーの場合）またはヌル（データ物理ファイル・メンバーの場合）で埋め込みます。
- タブ文字を、適切な数のブランクで次のタブ位置まで置き換えます。

[トップ](#)

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (**OBJ**)で指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合には、ディレクトリー・サブツリーをコピーするかどうかを指定します。

***NODIR**

OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。オブジェクトがディレクトリーの場合には、コピーは失敗します。

***NONE**

OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。ディレクトリー・オブジェクトがコピーされますが、これらの内容はコピーされません。

***ALL** OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。ディレクトリー・オブジェクトがそれらの内容、およびすべてのサブディレクトリーの内容と同様コピーされます。

OBJパラメーターのパターン・マッチングは、第1レベルのオブジェクトに適用されるだけです。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、オブジェクトごとの個々の完了メッセージは出されません。成功したコピー数および失敗数を示す最終メッセージが出されます。オブジェクトがコピーに失敗した場合には、このコマンドにより、失敗したコピーごとに診断メッセージが出されます。

省略時値のSUBTREE(*NODIR)の代わりにSUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている時には、属性のコピー方法に2, 3の違いがあります。ディレクトリー・サブツリー・コピーは、可能な限り多くのオリジナル・オブジェクトの属性を保存します。

- PC読み取り専用属性フラグは、コピーされたオブジェクトではオフになっています。SUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、このフラグがコピーされます。
- SUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、作成日付/時刻がコピーされます（省略時にはこれは現在時刻に変更されます）。

注: ターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトのサブディレクトリーであるか、あるいはターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトと一致する場合には、コピーは失敗します。

トップ

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合にこれを置き換えるかどうかを指定します。

***NO** ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合には、これを置き換えません。

***YES** ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。REPLACE(*YES)がディレクトリー・オブジェクトで指定されている場合には、既存のターゲット・ディレクトリーの属性は変更されますが、そのディレクトリーにあるオブジェクトは除去されません。

トップ

所有者 (OWNER)

新しく作成されたオブジェクトの所有者を指定します。

***NEW** 新規オブジェクトの所有者は、ジョブの現行ユーザー・プロファイルです。ターゲット・オブジェクトがすでに存在していて、ジョブの現行ユーザー・プロファイル以外の誰かによって所有されている場合でも、ターゲット・オブジェクトの所有者はジョブの現行ユーザー・プロファイルに変更されます。

***KEEP**

新しいオブジェクトの所有者は、コピーする元のオブジェクトの所有者と同じです。

ファイル・システムの中には、あるオブジェクト・タイプの所有者の変更がサポートされていないものがあります。たとえば、QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システム中の*MBRオブジェクトの所有者は、それらがコピーされる先の*FILEオブジェクトの所有者によって決定されます。

[トップ](#)

FROMコード・ページ (FROMCODPAG)

コピー操作のソース用コード・ページを入手するための方法を指定します。必要であれば、このコード・ページがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換元CCSID (FROMCCSID)**と置き換えられますが、FROMCODPAGはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならFROMCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。

DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるコード・ページとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

1-32767

コード・ページの値を指定してください。

[トップ](#)

TOコード・ページ (TOCODEPAGE)

コピー操作の行き先のデータ・コード・ページを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換先CCSID (TOCCSID)**と置き換えられますが、TOCODEPAGEパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならTOCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*CALC

コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、ファイル・システムに別のコード・ページを判別させてコピーを続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページを計算します。このコード・ページをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのコード・ページを使用します。コピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*PCASCII

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページを計算します。このコード・ページをコピー操作のターゲットと関連付けし、DTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのコード・ページを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWS適用業務で使用することができます。コピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

1-32767

コード・ページの値を指定してください。コピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

トップ

COPYの例

COPYの代替コマンド名はCPYです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、COPYはそれらすべてで直接CPYに置き換えることができます。

例1: ファイルのコピー

```
CPY OBJ('DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE') TOOBJ('PAY')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルの複製であるPAYという名前の別のファイルを作成します。

例2: 別のディレクトリーへのファイルのコピー

```
CPY OBJ('PAY') TODIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRにPAYという名前の別のファイルを作成します。

例3: シンボリック・リンクのコピー

```
CPY OBJ('SL1') TOOBJ('YOURDIR/SL2') SYMLNK(*YES)
```

SL1がシンボリック・リンクの場合には、新しいオブジェクトYOURDIR/SL2もシンボリック・リンクです。SYMLNK(*NO)が指定されている場合には、新しいオブジェクトは、それがコピー機能の正当な候補であれば、SL1がポイントしているもののコピーとなります。

例4: 変換によるコピー

```
CPY OBJ('/DATAFB')  
    TOOBJ('/QSYS.LIB/APP1.LIB/DATA.FILE/DATAFB.MBR')  
    TOCCSID(*CALC) DTAFMT(*TEXT)
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル'DATAFB'をデータベース・ファイル'DATAFB.MBR'にコピーします。TOCCSID(*CALC)を指定することにより、（この場合にはQSYS.LIBファイル・システムに）コピーさ

れるファイル・システムは、'/DATAFB'と同じコード化文字セット識別コード(CCSID)で新しいメンバーを作成しようとしています。これが失敗すると（この場合には、'DATA.FILEが'DATAFB'と同じCCSIDでない）、ファイル・システムは適切なCCSIDの選択を許可されて、コピーを完了します。DTAFMT(*TEXT)を指定することにより、'DATAFB'のデータはテキストとして処理され、新しいファイル'DATAFB.MBR'用に選択したCCSIDに変換されます。

例5: ディレクトリーのサブツリーのコピー

```
CPY OBJ('/QDLS/MYINFO') TODIR('/MYFOLDER') SUBTREE(*ALL)
    OWNER(*KEEP) REPLACE(*YES)
```

*FLRオブジェクト(QDLSファイル・システムのフォルダー)は、"ルート" (/)ファイル・システムの'/MYFOLDER'ディレクトリーにパス名'/MYFOLDER/MYINFO'で作成されます。その内容もコピーされます。OWNER(*KEEP)が指定されているので、作成された新しいオブジェクトは前のオブジェクトと同じプロファイルに属します。REPLACEパラメーターを*YESに設定して、ターゲット・ファイルがすでに存在していれば、それらが上書きされます。

トップ

エラー・メッセージ: COPY

*ESCAPEメッセージ

CPFA082

所有者のユーザー・プロファイルに対する*ADD権限が必要である。

CPFA083

オブジェクトを置き換えるための権限が不十分。オブジェクトは&1です。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超過している。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BB

&1オブジェクトはコピーされた。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

CPFA0DA

オブジェクトはディレクトリーです。オブジェクトは&1です。

CPFB41E

オブジェクト・タイプは置き換えるオブジェクト・タイプと一致しなければならない。

[トップ](#)

著作権 (COPYRIGHT)

実行可能場所:

- バッチ ILE CL モジュール (*BMOD)
- 対話式 ILE CL モジュール (*IMOD)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

著作権(COPYRIGHT)コマンドは、CLモジュールに追加される著作権ステートメントのテキストを定義します。

制約事項:

- COPYRIGHTコマンドが有効となるのはILE CLモジュールの中だけです。
- 使用する場合には、COPYRIGHTコマンドはPGMコマンドの後で他のコマンド(DCLおよびDCLFを除く)より前になければなりません。
- CLコンパイラーは1つのCOPYRIGHTコマンドしか使用しません。複数個指定した場合には、最初に見つかったものだけが使用され、追加のCOPYRIGHTステートメントに対して警告メッセージが出されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TEXT	著作権テキスト	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

著作権テキスト (TEXT)

このモジュールに挿入する著作権テキストを指定します。

'著作権テキスト'

著作権ステートメントに使用するテキストを指定してください。このテキストは指定通りに正確に使用されます。指定できる最大長は256桁です。

[トップ](#)

COPYRIGHTの例

例1: CLモジュールの著作権テキストの設定

```
COPYRIGHT TEXT('COPYRIGHT ACME CORP. 1995. ALL RIGHTS RESERVED.')
```

このコマンドは、作成しているモジュールの著作権テキストを指定します。このテキストは、ユーザーが当該モジュールに対して、DETAIL(*COPYRIGHT)を指定したモジュール表示(DSPMOD)コマンドを実行した時に表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： COPYRIGHT

なし

[トップ](#)

オブジェクトの圧縮 (CPROBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト圧縮(CPROBJ)コマンドによって、プログラム、パネル・グループ、メニュー、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、モジュール、およびサービス・プログラムを圧縮することができます。

- 圧縮されたオブジェクトとは圧縮解除されたオブジェクトより記憶域スペースを少ししか占有しないオブジェクトのことです。圧縮されたオブジェクトが使用されるか、あるいは圧縮されたプログラムが呼び出される時には、圧縮解除されたバージョンのオブジェクトが自動的にユーザーに使用可能になります。
- 圧縮解除されたオブジェクトは、それに割り振られたシステム記憶域スペースを使用し、最終的な使用可能状態になります。
- 一時的に圧縮解除したオブジェクトは圧縮済みオブジェクトの一時的な圧縮解除されたコピーです。システムまたはユーザーが一時記憶域スペースを再利用する必要があると判断するまで、システムは一時コピーに記憶域スペースを割り振ります。

次の場合に、一時記憶域は自動的に再利用されます。

- RCLTMPSTGコマンドが実行されます。
- 次の初期プログラム・ロード(IPL)が実行された。
- オブジェクトが頻繁に使用され、システムがそのオブジェクトを永続的に圧縮解除するようになる。

オブジェクトが永続的に圧縮解除された場合には、そのオブジェクトのすべての一時形式の他にオブジェクトの圧縮バージョンも破棄されます。しかし、圧縮済みバージョンは、そのオブジェクトが一時的な圧縮解除である限り元のまま残ります。

制約事項:

1. 指定されたオブジェクトに対する*OBJMGT権限およびオブジェクトが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
2. 記憶域を解放して保管されたオブジェクトを圧縮または圧縮解除することはできません。
3. 圧縮されたオブジェクトを、OS/400システムのバージョン2リリース1より前のリリースで保管することはできません。
4. 有効な妥当性検査値のないプログラムは圧縮されません。
5. OS/400システムのバージョン1,リリース3以前に作成され、(プログラム変更(CHGPGM)コマンドを使用して)再変換されていないプログラムは、妥当性検査値が生成されていないために圧縮することはできません。
6. バージョン3リリース6より前に作成されたプログラム、サービス・プログラム、またはモジュールは、オブジェクトを圧縮する前に再翻訳しなければなりません。オブジェクトはCHGPGM、CHGSRVPGM、またはCHGMODコマンドを使用して再翻訳してください。
7. システム・プログラムを圧縮するためには、すべての活動サブシステムを終了しなければなりません。
8. プログラムの異常終了を防止するためには、圧縮時にプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	値 (最大 6 回の繰り返し): *ALL, *FILE, *MENU, *MODULE, *PGM, *PNLGRP, *SRVPGM	必須, 定位置 2
DAYS	未使用の日数	1-366, *NONE	オプション
PGMOPT	プログラム・オプション	*ALL, *OBS	オプション

オブジェクト (OBJ)

圧縮するオブジェクトの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定したライブラリー中の、**オブジェクト・タイプ**プロンプト (OBJTYPE パラメーター) で指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが圧縮されます。

総称*オブジェクト名

圧縮するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

オブジェクト名

圧縮するオブジェクトの名を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGGL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

圧縮するオブジェクトのタイプを指定します。*ALLを指定することができるし、あるいはその他の1つまたは複数の使用できる値を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前およびライブラリーのすべてのメニュー、パネル・グループ、表示装置および印刷装置ファイル、プログラム、モジュール、およびサービス・プログラムが圧縮されます。

***FILE** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つ表示装置および印刷装置ファイルが圧縮されます。

***MENU**

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つメニューが圧縮されます。

***MODULE**

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前およびライブラリーのモジュールが圧縮されます。

***PNLGRP**

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つパネル・グループが圧縮されます。

***PGM** オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) で指定された名前およびライブラリーを持つプログラムが圧縮されます。

***SRVPGM**

オブジェクトプロンプト (OBJパラメーター) に指定された名前およびライブラリーのサービス・プログラムが圧縮されます。

トップ

未使用の日数 (DAYS)

オブジェクトが使用または変更されていない日数を指定します。オブジェクトは、指定された日数より多くの日数の間、使用または変更されていない場合には圧縮されます。使用または変更された場合には、圧縮解除のままになっています。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

オブジェクトが使用または変更されていない日数に関係なく圧縮されます。

1-366 日数を指定してください。有効な値の範囲は1から366です。

トップ

プログラム・オプション (PGMOPT)

プログラムまたはサービス・プログラムの全体を圧縮するのか、それともプログラム識別情報テーブルだけを圧縮するのかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** プログラムまたはサービス・プログラムの全体 (命令ストリームおよびプログラム識別情報テーブル) が圧縮されます。

***OBS** プログラム識別情報テーブルだけが圧縮されます。

トップ

CPROBJの例

CPROBJ OBJ(QGPL/*ALL) OBJTYPE(*FILE)

このコマンドは、ライブラリーQGPL中のすべての表示装置および印刷装置ファイルを圧縮します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CPROBJ

*ESCAPE メッセージ

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF3B01

&2のオブジェクト&1を圧縮または圧縮解除することはできない。

CPF3B02

&2のファイル&1を圧縮または圧縮解除することはできない。

CPF3B03

圧縮されたオブジェクトはない。

CPF3B04

&1個のオブジェクトが圧縮された。&3個は圧縮されなかった。&8個は含まれなかった。

CPF3B08

&2のオブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF3B09

終了していないサブシステムがある。

CPF3B10

&2タイプ*&3のオブジェクト&1を圧縮することはできない。

CPF3B11

&2タイプ*&3のオブジェクト&1を圧縮することはできない。

CPF8108

&9の装置ファイルまたは保管ファイル&4に損傷がある。

CPF812E

&9のモジュール&4に損傷がある。

CPF8129

&9のプログラム&4に損傷がある。

CPF813D

&9のサービス・プログラム&4に損傷がある。

CPF8150

&9のパネル・グループ&4に損傷がある。

CPF8151

&9のメニュー&4に損傷がある。

CPF9570

デバッグ・データの作成またはアクセス中にエラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

オブジェクトのコピー (CPY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトのコピー (CPY)コマンドは、単一オブジェクトまたはオブジェクト・グループをコピーします。

省略時では、ターゲット・オブジェクトがすでに存在している場合には、その個々のオブジェクトのコピーは失敗します。REPLACE(*YES)パラメーターが指定されている場合には、ターゲット・オブジェクトが書きされます。新しく作成されたオブジェクトを元のオブジェクトと同じディレクトリーに記憶する場合には、そのオブジェクトの名前を変更しなければなりません。元のオブジェクトが入っているディレクトリーとは別のディレクトリーに保管する場合には、元のオブジェクトの名前で保存することができます。

オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループをコピーすることができます。元の名前がターゲットのファイル・システムの要件を満たしていない場合には、パターンを使用してオブジェクトのグループを1つのファイル・システムから別のファイル・システムにコピーすることはできません。たとえば、QOPENSYSの/OBJAという名前のファイルはディレクトリー/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/FILEA.FILEにコピーすることはできません。QSYS.LIBファイル・システムでは、ファイルに書き出す時にOBJA.MBRの形式の名前が必要だからです。「名前、オブジェクト・タイプ」の要件を満たしていない場合には、パターン内で見つかったすべての名前は正常にコピーされません。

また、コピー・コマンドは、ディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容がコピーされるディレクトリー・ツリーのコピーにも使用することができます。サブツリー・コピーは、可能な限り多くの属性をオリジナル・オブジェクトから保存しようとします。これによって、1つのファイル・システムから他のファイル・システムにデータを移行することができます。

元のオブジェクトが読み取り専用ファイル(PC読み取り専用属性フラグがオンになっているファイル)で、SUBTREE(*NODIR)が指定されている場合には、新たに作成されるオブジェクトは読み取り専用にはなりません。これは、OS/2階層ファイル・システム(HFS)の規則に従います。

注: ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)パラメーターの値が*NONE または*ALLの場合には、PCの読み取り専用属性フラグがコピーされます。サブツリー・コピーは、可能な限り多くの属性をオリジナル・オブジェクトから保存することを目的としています。

TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが指定されている場合には、オブジェクトは同じ名前とそのディレクトリーにコピーされます。コピーされたオブジェクトは、元のオブジェクトと同じに認可されます。**所有者 (OWNER)**パラメーターの値が*NEWの場合には、このコマンドを出したユーザーがコピーされたオブジェクトを所有します。

SUBTREE(*NODIR)を指定したファイルをルート(/), QOPENSYS, QDLS,およびUDFSファイル・システムにコピーすると、最終アクセス日付/時刻とデータ変更日付/時刻は新しいファイルに保存され、属性変更日付/時刻は現在の時刻に更新されます。元のファイルの最終アクセス日付/時刻は現在の時刻に更新されます。QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システム内のデータベース・ファイル・メンバー(*MBR)にコピーすると、データの変更日付/時刻も更新されます。

注: パラメーターSUBTREE(*YES)が指定されている場合には、作成日付/時刻も更新されます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- COPY

CPYコマンドの他に、ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)およびストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF)コマンドを使用して、ストリーム・ファイルとデータベース・メンバー・ファイルまたは保管ファイルの間でコピーすることができます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項：

1. コピー・コマンドは、サポートされている場合にオブジェクトの共通および専用認可をコピーします。

注：このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

- 別のオブジェクト・タイプからデータベース・ファイル・メンバーにコピーする場合、または現行ジョブのライブラリー名スペースにないメンバー相互間でコピーする場合には、一部の属性がコピーされません。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。
- データベース・メンバーを同じライブラリー名スペース内の別のメンバーにコピーする場合には、属性はファイル・コピー (CPYF) コマンドと同じように処理されます (これが適用されるのは、**データ形式 (DTAFMT)**パラメーターが***BINARY**の場合だけです)。
- コピーされるその他のオブジェクト・タイプは、複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ)コマンドで属性が処理されるのと同様に処理されます (これが適用されるのは、DTAFMTパラメーターが***BINARY**の場合だけです)。
- REPLACE(*YES)オプションは、ターゲット・オブジェクトが存在する時にファイル・メンバー、ユーザー・スペース、および保管ファイルでのみサポートされます。他のすべてのオブジェクト・タイプでは、ターゲット・オブジェクトが存在すると失敗します。

QOPTファイル・システムの相違点

- QOPTファイル・システム内のファイルをコピーしている場合には、作成日付/時刻は常に現在時刻に更新されます。

QNETWAREファイル・システムの相違点

- ファイルまたはディレクトリーを同一サーバー上のロケーションにコピーする場合には、ターゲット・オブジェクトの所有者は常にこのコマンドの呼び出し元であり、PC読み取り専用フラグはコピーされません。
- スキャン関連属性はコピーされません。

QFILESVR.400ファイル・システムの相違点

- OWNER(*KEEP)パラメーターは、オブジェクトのQFILESVR.400ファイル・システムへのコピー時にはサポートされません。コピーはエラー・メッセージCPFA0ADで失敗します。
- スキャン関連属性はコピーされません。

ネットワーク・ファイル・システム(NFS)の相違点

- OWNER(*KEEP)パラメーターは、マウントされたネットワーク・ファイル・システム(NFS)ディレクトリーとの間で相互にオブジェクトをコピーする時はサポートされません。コピーはエラー・メッセージ CPFA0ADで失敗します。
- スキャン関連属性はコピーされません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
TODIR	TOディレクトリー	パス名, .	オプション, 定位置 2
TOOBJ	TOオブジェクト	パス名	オプション
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO , *YES	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, *OBJ , *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, *OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
DTAFMT	データ形式	*BINARY , *TEXT	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NODIR , *NONE, *ALL	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*NO , *YES	オプション
OWNER	所有者	*NEW , *KEEP	オプション
FROMCODPAG	FROMコード・ページ	1-32767, *OBJ , *PCASCII	オプション
TOCODEPAGE	TOコード・ページ	1-32767, *OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

オブジェクトのパス名、またはコピーされるオブジェクトの名前を突き合わせるためのパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: オブジェクト名のパターンを使用して複数のオブジェクトをコピーできるのは、**TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターが指定されている場合だけです。

トップ

TOディレクトリー (TODIR)

オブジェクトがコピーされる先のディレクトリーのパス名を指定します。このパラメーターを使用すると、コピーされたオブジェクトは**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定されている名前と同じ名前を持ちます。

： オブジェクトは、既存のオブジェクトと同じ名前で現行ディレクトリーにコピーされます。

ディレクトリー・パス名

オブジェクトをコピーする先の既存のディレクトリーのパス名を指定してください。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

[トップ](#)

TOオブジェクト (TOOBJ)

コピーされたオブジェクトの名前を指定します。これはパスまたは相対パスを含めて、新しいオブジェクトの名前です。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

[トップ](#)

シンボリック・リンク (SYMLNK)

オブジェクトとシンボリック・リンクのどちらをオブジェクトにコピーするかを指定します。

***NO** オブジェクトへのシンボリック・リンクではなく、オブジェクトがコピーされます。

***YES** コピーするオブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクがポイントするオブジェクトがコピーされる代わりに、シンボリック・リンクがコピーされます。

注: サブツリーのコピー中にシンボリック・リンクが見つかると、シンボリック・リンクがポイントするオブジェクトがコピーされます。そのシンボリック・リンクがディレクトリーに指示されている場合には、そのディレクトリーがコピーされますが、その内容はコピーされません。ディレクトリー・ツリーの最上位ディレクトリーがディレクトリーへの事実上のシンボリック・リンクの時も、これと同様です。

[トップ](#)

変換元CCSID (FROMCCSID)

コピー操作のソースでコード化文字セット識別コード(CCSID)を取得するメソッドを指定します。必要であれば、このCCSIDがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。

***PCASCI**

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを計算するには、コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるCCSIDとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されません。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからのCCSID が使用されます。

1-65533

CCSID値を指定してください。

[トップ](#)

変換先CCSID (TOCCSID)

コピー操作のターゲットでデータのコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。**オブジェクト(OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

***CALC**

コピーするオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、ファイル・システムに別のCCSIDを判別させてコピーを続行してください。

***STDASCI**

ソース・ファイルのCCSIDに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のCCSIDを計算します。このCCSIDをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

***PCASCI**

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを、ソース・ファイルのCCSID(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95ロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)に基づいて計算します。このCCSIDをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWS適用業務で使用することができます。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのCCSIDを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからのCCSID が使用されます。

1-65533

CCSID値を指定してください。

データ形式 (DTAFMT)

コピーするファイルのデータ形式を指定します。

***BINARY**

ファイルにはデータが2進数形式で入っています (たとえば実行可能ファイル)。

コピー時にデータを変換しないでください。ただし、コピーするオブジェクトにソース・オブジェクトとは別のCCSIDがある場合には、設定される前に、すべての拡張属性が新しいオブジェクトのCCSIDに変換されます。

***TEXT** ファイルにはデータがテキスト形式で入っています。コピー時にデータを新しいオブジェクトのCCSIDに変換します。データはコピー時にはテキストとして処理されます。

データベース・メンバーがストリーム・ファイルにコピーされる場合には、行形式設定文字 (改行、タブ、ファイルの終わりなど) は、一方のCCSIDから別のCCSIDに変換されるだけです。

ストリーム・ファイルをデータベース・メンバーにコピーする場合には、ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っていなければ、コピーは失敗します。入っていないとコピーは正常に実行されません。ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っている場合には、データベース・ファイルへのコピー時に、次の処置が実行されます。

- 行の終わり文字を除去します。
- レコードを、ブランク (ソース物理ファイル・メンバーの場合) またはヌル (データ物理ファイル・メンバーの場合) で埋め込みます。
- タブ文字を、適切な数のブランクで次のタブ位置まで置き換えます。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (**OBJ**)で指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合には、ディレクトリー・サブツリーをコピーするかどうかを指定します。

***NODIR**

OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。オブジェクトがディレクトリーの場合には、コピーは失敗します。

***NONE**

OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。ディレクトリー・オブジェクトがコピーされますが、これらの内容はコピーされません。

***ALL** OBJで指定されたオブジェクトがコピーされます。ディレクトリー・オブジェクトがそれらの内容、およびすべてのサブディレクトリーの内容と同様コピーされます。

OBJパラメーターのパターン・マッチングは、第1レベルのオブジェクトに適用されるだけです。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、オブジェクトごとの個々の完了メッセージは出されません。成功したコピー数および失敗数を示す最終メッセージが出されます。オブジェクトがコピーに失敗した場合には、このコマンドにより、失敗したコピーごとに診断メッセージが出されません。

省略時値のSUBTREE(*NODIR)の代わりにSUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている時には、属性のコピー方法に2, 3の違いがあります。ディレクトリー・サブツリー・コピーは、可能な限り多くのオリジナル・オブジェクトの属性を保存します。

- PC読み取り専用属性フラグは、コピーされたオブジェクトではオフになっています。SUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、このフラグがコピーされます。
- SUBTREE(*NONE)またはSUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、作成日付/時刻がコピーされます（省略時にはこれは現在時刻に変更されます）。

注: ターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトのサブディレクトリーであるか、あるいはターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトと一致する場合には、コピーは失敗します。

トップ

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合にこれを置き換えるかどうかを指定します。

- *NO** ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合には、これを置き換えません。
- *YES** ターゲット・オブジェクトがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。REPLACE(*YES)がディレクトリー・オブジェクトで指定されている場合には、既存のターゲット・ディレクトリーの属性は変更されますが、そのディレクトリーにあるオブジェクトは除去されません。

トップ

所有者 (OWNER)

新しく作成されたオブジェクトの所有者を指定します。

- *NEW** 新規オブジェクトの所有者は、ジョブの現行ユーザー・プロファイルです。ターゲット・オブジェクトがすでに存在していて、ジョブの現行ユーザー・プロファイル以外の誰かによって所有されている場合でも、ターゲット・オブジェクトの所有者はジョブの現行ユーザー・プロファイルに変更されます。

- *KEEP**

新しいオブジェクトの所有者は、コピーする元のオブジェクトの所有者と同じです。

ファイル・システムの中には、あるオブジェクト・タイプの所有者の変更がサポートされていないものがあります。たとえば、QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システム中の*MBRオブジェクトの所有者は、それらがコピーされる先の*FILEオブジェクトの所有者によって決定されます。

トップ

FROMコード・ページ (FROMCODPAG)

コピー操作のソース用コード・ページを入手するための方法を指定します。必要であれば、このコード・ページがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換元CCSID (FROMCCSID)**と置き換えられますが、FROMCODPAGはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならFROMCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。
DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるコード・ページとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

1-32767

コード・ページの値を指定してください。

[トップ](#)

TOコード・ページ (TOCODEPAGE)

コピー操作の行き先のデータ・コード・ページを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換先CCSID (TOCCSID)**と置き換えられますが、TOCODEPAGEパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならTOCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*CALC

コピーするオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、ファイル・システムに別のコード・ページを判別させてコピーを続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページを計算します。このコード・ページをコピー操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのコード・ページを使用します。コピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

*PCASCII

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページを計算します。このコード・ページをコピー操作のターゲットと関連付けし、DTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのコード・ページを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWS適用業務で使用することができます。コピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

1-32767

コード・ページの値を指定してください。コピー先ファイル・システムがこのコード・ページを使用できない場合には、コピー操作は失敗します。

[トップ](#)

CPYの例

例1: ファイルのコピー

```
CPY OBJ('DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE') TOOBJ('PAY')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルの複製であるPAYという名前の別のファイルを作成します。

例2: 別のディレクトリーへのファイルのコピー

```
CPY OBJ('PAY') TODIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRにPAYという名前の別のファイルを作成します。

例3: シンボリック・リンクのコピー

```
CPY OBJ('SL1') TOOBJ('YOURDIR/SL2') SYMLNK(*YES)
```

SL1がシンボリック・リンクの場合には、新しいオブジェクトYOURDIR/SL2もシンボリック・リンクです。SYMLNK(*NO)が指定されている場合には、新しいオブジェクトは、それがコピー機能の正当な候補であれば、SL1がポイントしているもののコピーとなります。

例4: 変換によるコピー

```
CPY OBJ('/DATAFB')
    TOOBJ('/QSYS.LIB/APP1.LIB/DATA.FILE/DATAFB.MBR')
    TOCCSID(*CALC) DTAFMT(*TEXT)
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル'DATAFB'をデータベース・ファイル'DATAFB.MBR'にコピーします。TOCCSID(*CALC)を指定することにより、（この場合にはQSYS.LIBファイル・システムに）コピーされるファイル・システムは、'/DATAFB'と同じコード化文字セット識別コード(CCSID)で新しいメンバーを作成しようとします。これが失敗すると（この場合には、'DATA.FILE'が'DATAFB'と同じCCSIDでない）、ファイル・システムは適切なCCSIDの選択を許可されて、コピーを完了します。DTAFMT(*TEXT)を指定することにより、'DATAFB'のデータはテキストとして処理され、新しいファイル'DATAFB.MBR'用に選択したCCSIDに変換されます。

例5: ディレクトリーのサブツリーのコピー

```
CPY OBJ('/QDLS/MYINFO') TODIR('/MYFOLDER') SUBTREE(*ALL)
    OWNER(*KEEP) REPLACE(*YES)
```


*FLRオブジェクト(QDLSファイル・システムのフォルダー)は, "ルート" (/)ファイル・システムの '/MYFOLDER'ディレクトリーにパス名'/MYFOLDER/MYINFO'で作成されます。その内容もコピーされます。OWNER(*KEEP)が指定されているので, 作成された新しいオブジェクトは前のオブジェクトと同じプロファイルに属します。REPLACEパラメーターを*YESに設定して, ターゲット・ファイルがすでに存在していれば, それらが上書きされます。

トップ

エラー・メッセージ: CPY

*ESCAPEメッセージ

CPFA082

所有者のユーザー・プロファイルに対する*ADD権限が必要である。

CPFA083

オブジェクトを置き換えるための権限が不十分。オブジェクトは&1です。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超過している。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BB

&1オブジェクトはコピーされた。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

CPFA0DA

オブジェクトはディレクトリーです。オブジェクトは&1です。

CPFB41E

オブジェクト・タイプは置き換えるオブジェクト・タイプと一致しなければならない。

[トップ](#)

構成リスト・コピー (CPYCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト・コピー(CPYCFGL)コマンドにより、既存の構成リストのコピーとして構成リストが作成されます。

注: 非同期ネットワーク・アドレス・リストだけが、コピーすることのできる唯一のタイプの構成リストです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMCFGL	取り出し構成リスト	名前	必須, 定位置 1
CFGL	構成リスト	名前	必須, 定位置 2
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	*CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

取り出し構成リスト (FROMCFGL)

コピー元になる構成リストを指定します。

コピー元構成リスト

コピー元にした構成リストを指定してください。

[トップ](#)

構成リスト (CFGL)

構成リストの名前を指定します。

作成リスト

作成したい構成リストを指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

[トップ](#)

CPYCFGLの例

```
CPYCFGL FROMCFGL(CONFIG01) CFGL(CONFIG02)
```

このコマンドは、CONFIG01という名前の構成リストを新しいCONFIG02という名前の構成リストにコピーします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CPYCFGL

*ESCAPEメッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF260D

構成リスト&1はすでに存在している。

CPF260E

構成リスト&1は作成されなかった。

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF2612

リスト・タイプ&1はコピー操作には正しくない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

[トップ](#)

文書コピー (CPYDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書コピー(CPYDOC)コマンドによって、あるフォルダーから別のフォルダーに文書をコピーするか、あるいはフォルダー内にない文書をフォルダーにコピーすることができます。

文書コピーは、元の文書が索引付きであるかどうかに関係なく索引付けされません。文書コピーがすでに存在していて、すでに索引付きの場合には、文書は再索引付けされないので、索引項目は文書コピーの新しい内容と一致しません。文書コピーの索引付けまたは再索引付けが必要な場合には、コピーを行なった後で、テキスト索引項目追加(ADDTXTIDX)コマンドを使用してください。

制約事項:

1. フォルダー内の文書を置き換える場合には、その文書に対して*CHANGE権限が必要です。
2. フォルダー内に新しい文書を作成する場合には、そのフォルダーに対して*CHANGE 権限が必要です。新しい文書は、コピー元の文書と同じ権限をもつこととなります。
3. コピー元の文書に対して*USE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMDOC	取り出し文書	文字値, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FROMFLR	取り出しフォルダー	文字値, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 2
TODOC	受け取り文書	文字値, <u>*FROMDOC</u>	オプション, 定位置 3
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値, <u>*FROMFLR</u>	オプション, 定位置 4
REPLACE	文書置き換え	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

[トップ](#)

取り出し文書 (FROMDOC)

コピー中の文書の名前を指定します。

注: FROMDOC (文書名) が指定された場合には、FROMFLRにフォルダー名を指定しなければなりません。FROMDOC(*SYSOBJNAM)が指定された場合には、SYSOBJNAMにシステム・オブジェクト名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

文書名 コピーされる文書の名前を指定してください。

***SYSOBJNAM**

コピーされる文書を識別するために、システム・オブジェクト名が使用されます。

[トップ](#)

取り出しフォルダー (FROMFLR)

コピーされる文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

***NONE**

文書のフォルダー名は指定されません。文書がフォルダー内にない場合には、FROMFLR(*NONE)を指定しなければなりません。FROMDOC (文書名) が指定された場合には、FROMFLR(*NONE)を指定することはできません。

フォルダー名

コピーされる文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

受け取り文書 (TODOC)

出力文書名を指定します。

注: ユーザーは、TODOC(*FROMDOC)とTOFLR(*FROMFLR)の両方を指定して、コピーされる文書をそれぞれのフォルダーに指定することはできません。

***FROMDOC**

出力文書名は、**取り出し文書 (FROMDOC)**パラメーターに指定されたものと同じです。

文書名 出力文書名を指定します。

注: 出力文書およびその各フォルダーを指定するために、*FROMDOCおよび*FROMFLR の両方を指定することはできません。

[トップ](#)

受け取りフォルダー (TOFLR)

出力文書をコピーするフォルダーを指定します。

***FROMFLR**

フォルダー名は**取り出しフォルダー (FROMFLR)**パラメーターに指定されたものと同じです。すなわち、文書は同じフォルダーにコピーされます。

フォルダー名

文書がコピーされるフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書置き換え (REPLACE)

TODOCに指定された文書を置き換えることができるかどうかを指定します。

- *NO** 出力文書は、**受け取りフォルダー (TOFLR)**パラメーターに指定されたフォルダー内に作成された新しい文書です。フォルダー内に同じ名前の文書がすでに存在している場合には、コピーは行われません。
- *YES** 出力文書は、**受け取りフォルダー (TOFLR)**パラメーターに指定されたフォルダー内の同じ名前の既存の文書と置き換えられます。フォルダー内に同じ名前の文書が存在していない場合には、新しい文書が作成されます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

システム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、DLO(*SYSOBJNAM)またはDOCL(*SYSOBJNAM)が指定された時だけです。10桁全部を指定しなければなりません。

システム・オブジェクト名

コピーされる文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

[トップ](#)

CPYDOCの例

例1:文書のコピー

```
CPYDOC FROMDOC(MYDOC) FROMFLR(MYFLR)
      TODOC(MYDOC2) TOFLR(MYFLR2)
      REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内にある文書MYDOCをフォルダーMYFLR2内にある文書MYDOC2にコピーします。文書MYDOC2がMYFLR2内にすでにある場合は、システムはその文書を文書MYDOCのコピーによって置き換えます。そうでない場合は、MYDOC2がMYFLR2内にMYFLR内のMYDOCのコピーとして作成されます。

例2:文書のコピーおよびソース文書名の保持

```
CPYDOC FROMDOC(*SYSOBJNAM) SYSOBJNAM(AMBT133080)
      TODOC(MYDOC4) TOFLR(MYFLR)
```

このコマンドは、システム・オブジェクト名で識別された文書を、フォルダーMYFLR内にある文書MYDOC4にコピーします。文書名はソース文書の名前と同じになります。

例3:文書の同一フォルダー内の文書へのコピー

```
CPYDOC FROMDOC(XYZ) FROMFLR('MYFLR/TEST') TODOC(NEW)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR/TEST内にある文書XYZを同じフォルダー内の文書NEWにコピーします。文書NEWが存在している場合は、エラー・メッセージが送信されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CPYDOC

*ESCAPEメッセージ

CPF8A12

フォルダー&1の文書&2はコピーされなかった。

[トップ](#)

ファイル・コピー (CPYF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル・コピー(CPYF)コマンドは、すべてまたは一部のファイルをデータベースまたは外部装置からデータベースまたは外部装置にコピーします。このコマンドは次のことを行なうことができます。

- データベース・ファイル相互間でデータ・ファイルおよびソース・ファイルをコピーします。レコードは、物理ファイルまたは論理ファイル から コピーすることができます。ただし、レコードは、物理ファイル へ だけコピーすることができ、論理ファイル へ コピーすることはできません。
- データおよびソース・ファイルを、ディスクまたはテープなどの外部装置からデータベースにコピーします。
- データおよびソース・ファイルを、データベースから外部装置へコピーします。
- データ・ファイルおよびソース・ファイルを、外部装置から他の外部装置にコピーします。
- データ・ファイルおよびソース・ファイルをインライン・データ・ファイルからデータベースまたは外部装置へコピーします。

制約事項:

- CPYF要求の実行中には、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに指定されたファイルは、アクセスが可能でなくなるようにロックされることがあります (タイムアウトのない*EXCLロックと類似している)。
- CRTFILE(*YES)パラメーターが指定され、コピーされるファイル (FROMFILEパラメーター) が関連したトリガーをもつ時には、作成されるファイル (TOFILEパラメーター) は関連したトリガーをもちません。物理ファイル・トリガー追加(ADDPFTRG)コマンドを使用して、ファイルにトリガーを追加しなければなりません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、複数のデータベース・ファイル・メンバー、装置ファイル(SPOOL(*YES)印刷ファイル)、分散ファイル、またはSNAタイプのDDMファイルとのコピー時に、このコマンドはスレッド・セーフではありません。このコマンドは、*SNAタイプのリレーショナル・データベースおよび*SNAタイプのDDMファイルを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。スレッド・セーフであるのは、単一のデータベース・ファイル・メンバー (ローカルまたは*IPタイプのDDM)あるいはSPOOL(*YES)印刷ファイルとのコピー時だけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション, 定位置 3
TOMBR	TOメンバーまたはラベル	名前, *FIRST, *FROMMBR, *ALL	オプション, 定位置 4
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*NONE, *ADD, *REPLACE, *UPDADD	オプション, 定位置 5
CRTFILE	ファイル作成	*NO, *YES	オプション, 定位置 6
OUTFMT	印刷形式	*CHAR, *HEX	オプション
PRINT	印刷するレコード	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *EXCLD, *COPIED, *ERROR	オプション
RCDFMT	論理ファイルのレコード様式	名前, *ONLY, *ALL	オプション
FROMRCD	コピー開始レコード番号	符号なし整数, *START	オプション
TORCD	コピー終了レコード番号	符号なし整数, *END	オプション
FROMKEY	コピー開始レコード・キー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: キー・フィールドの数	整数, *BLDKEY	
	要素 2: キーの値	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	
TOKEY	コピー終了レコード・キー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: キー・フィールドの数	整数, *BLDKEY	
	要素 2: キーの値	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	
NBRRCD	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション
INCCHAR	文字テストによるレコード組込	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド	名前, *RCD, *FLD	
	要素 2: 文字位置	整数	
	要素 3: 比較演算子	*EQ, *GT, *LT, *NE, *GE, *NL, *LE, *NG, *CT	
	要素 4: 値	文字値	
INCREL	フィールド・テストでレコードの組込	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 関係	*IF, *AND, *OR	
	要素 2: フィールド	名前	
	要素 3: 比較演算子	*EQ, *GT, *LT, *NE, *GE, *NL, *LE, *NG	
	要素 4: 値	文字値, *NULL	
FMTOPT	レコード様式フィールドのマッピング	単一値: *NONE, *NOCHK, *CVTSRC その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *MAP, *DROP, *CVTFLOAT, *NULLFLAGS	オプション
SRCOPT	ソース更新オプション	単一値: *SAME その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *SEQNBR, *DATE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SRCSEQ	ソース・ステートメントの順序番号付け	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始順序番号	0.01-9999.99, 1.00	
	要素 2: 増分番号	0.01-9999.99, 1.00	
ERRLVL	許容エラー	符号なし整数, 0 , *NOMAX	オプション
COMPRESS	削除済みレコードの圧縮	*YES , *NO	オプション

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

コピーされるレコードが入っているデータベース・ファイルまたは装置ファイルを指定します。データベース・ファイルは物理ファイルまたは論理ファイルとすることができます。装置ファイルはディスク・ファイルまたはテープ・ファイルとすることができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: FROMファイル

名前 コピーするレコードが入っているデータベース・ファイルまたは装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

データベース・ファイルまたは装置ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: 装置ファイルはディスク・ファイル、テープ・ファイル、または印刷出力ファイルとすることができますが、(1)取り出しファイルと受け入れファイルの両方がディスク・ファイルである場合には、受け入れファイルはスプールされなければなりません (ディスク装置ファイル作成(CRTDKTF)コマンド、ディスク装置ファイル変更(CHGDKTF)コマンド、またはディスク装置ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンドにSPOOL(*YES)が指定されていなければならない)。(2)外部記述印刷装置ファイルを指定することはできません。

装置ファイルが印刷ファイルの場合、あるいはTOFILE(*PRINT)が指定された場合には、シフト・アウトおよびシフト・イン(SO-SI)文字は図形データには追加されません。OUTFMT(*HEX)を指定して、16進数形式でデータを印刷することができます。

単一値

*PRINT

データは、システム印刷装置ファイル(QSYSPRT)にコピーされ、印刷形式 (**OUTFMT**)パラメーターに指定された値にしたがって様式設定されます。

修飾子1: TOファイル

名前 コピーされるレコードを受け入れる物理ファイルまたは装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

物理ファイルまたは装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

FROMメンバー (FROMMBR)

コピーされる取り出しファイル中のデータベース・ファイル・メンバー、あるいはディスクット・ファイル・ラベルまたはテープ・ファイル・ラベルを指定します。

*FIRST

データベース取り出しファイルの最初のメンバーがコピーされます。ディスクットの場合には、装置ファイルまたはディスクット・ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンドにラベル識別コードを指定しなければなりません。取り出しファイルがインライン・ファイルである場合には、指定できる値は*FIRSTだけです。

***ALL** データベース取り出しファイルのすべてのメンバー、あるいはディスクット取り出しファイルのすべてのファイル・ラベル識別コードがコピーされます。テープ・ファイルまたはインライン・ファイルの場合には、*ALLは正しくありません。

名前 コピーされるデータベース取り出しファイル・メンバーの名前、あるいはファイル・メンバーのディスクット取り出しファイル・ラベルまたはテープ取り出しファイル・ラベルを指定してください。

総称名 同じ接頭部の名前をもつすべてのデータベース・ファイル・メンバー、あるいは同じ接頭部ラベル識別コードをもつすべてのディスクット・データ・ファイルをコピーするためには、総称名を指定してください。多くの取り出しファイル・メンバーまたはラベル識別コードのコピーの詳細については、FROMMBR(*ALL)の説明を参照してください。

[トップ](#)

TOメンバーまたはラベル (TOMBR)

コピー済みデータ・レコードを受け取る受け入れファイル・メンバーのデータベース・ファイル・メンバー名、あるいはディスク・ファイルまたはテープ・ファイルのラベル識別コードを指定します。 **TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTを指定した場合には、このパラメーターに*FIRSTまたは*FROMMBRのいずれかを指定しなければなりません。

***FIRST**

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

***FROMMBR**

対応する取り出しファイルおよび受け入れファイルのメンバー名または装置ラベル識別コードが使用されます。

***ALL** データは区画に分割されたテーブルの適切な受け入れメンバーにコピーされます。*ALLが有効となるのは、区画に分割されたテーブルの場合だけです。

名前 物理受け入れファイル・メンバーの名前、またはコピー済みレコードを受け取るディスクまたはテープ装置受け入れファイルのラベル識別コードを指定してください。

トップ

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

注: レコードが既存の物理ファイルにコピーされている場合には、このパラメーターに*ADD、*UPDADD、または*REPLACEを指定しなければなりません。受け入れファイルは存在しないが、CRTFILE(*YES) が指定された場合には、コピー操作では、このパラメーターに指定された値とは関係なく、それが作成された後にそのファイルにコピーされるすべてのレコードに対してMBROPT(*ADD) と見なされます。

*ADDまたは*UPDADDが指定され、FROMファイルが空であった（レコードが含まれていない）場合には、コピー操作は正常に完了します。*REPLACEが指定され、FROMファイルが空であった場合には、コピー操作は異常終了します。

***NONE**

パラメーターはこのコピー操作には適用されません。受け入れファイルが既存の物理ファイルである場合には*NONEは使用できません。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***UPDADD**

システムは、キーが重複しているレコードを更新し、新しいレコードを既存のレコードの終わりに追加します。使用可能な詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックにあります。

トップ

ファイル作成 (CRTFILE)

このコマンドを物理ファイルまたは論理ファイルからのコピーに使用する時に、指定した受け入れファイルが存在していない場合にデータを受け取る物理ファイルを作成するかどうかを指定します。受け入れファイルが、存在していないリモート・ファイルを識別する分散データ管理(DDM)ファイルの場合には、受け入れファイルはターゲット・システム上に作成されます。

***NO** このコマンドが開始される時には、受け入れファイルが存在していなければなりません。データを受け取るための物理ファイルは作成されません。

***YES** 受け入れファイルが存在していない場合には、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに指定された名前の物理ファイルが作成されます。取り出しファイルがSQLテーブル、ビュー、または索引であり、ユーザー定義のタイプ、データ・リンク、またはLOBフィールド・タイプが入っている場合には、作成された物理ファイルがSQLテーブルになります。他のすべてのインスタンスでは、作成された受け入れファイルはSQLテーブルではないデータベース物理ファイルになります。コピー操作で受け入れファイルを作成するには、通常のコピー操作の妥当性検査に加えて、次の特殊な条件がすべて満たされなければなりません。

- 取り出しファイルは物理ファイルまたは論理ファイルでなければなりません。
- **TOファイル (TOFILE)**パラメーターにライブラリー名を指定しなければなりません。省略時の値*LIBLは使用することはできません。
- 別のファイル名またはライブラリー名への一時変更があってはなりません。受け入れファイルについては、このコマンドに指定した値を使用しなければなりません。
- このコマンド実行するユーザーは、ファイルを受け入れファイル・ライブラリーに追加するための権限とともに、物理ファイル作成(CRTPF)コマンドに対する操作権限が必要です。
- 取り出しファイルでは単一のレコード様式が使用されていなければなりません。取り出しファイルが複数様式の論理ファイルである場合には、**論理ファイルのレコード様式 (RCDFMT)**パラメーターにレコード様式名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

印刷形式 (OUTFMT)

レコードを文字形式で印刷するか、あるいは文字および16進数形式の両方で印刷するかどうかを指定します。このパラメーターが使用されるのは、*PRINTが**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに指定された場合、あるいは*EXCLDまたは*COPIEDが**印刷するレコード (PRINT)**パラメーターに指定された場合だけです。

***CHAR** レコードは文字形式で印刷されます。

***HEX** レコードは、文字形式および16進数形式の両方で印刷されます。

[トップ](#)

印刷するレコード (PRINT)

コピーされたレコードを印刷するか、除外されたレコードを印刷するか、あるいはその両方を印刷するかを指定します。

単一値

***NONE**

コピーされたレコード、除外されたレコード、またはエラー・レコードは印刷されません。

その他の値（最大3回の反復）

***EXCLD**

文字テストによるレコード組込 (**INCCHAR**)パラメーターおよび フィールド・テストでレコードの組込 (**INCREL**)パラメーターによるコピー操作から除外されたレコードが印刷されます。

***COPIED**

コピーされたレコードが印刷されます。

***ERROR**

許容エラー (**ERRLVL**)パラメーターに指定された数の回復可能な出力エラー・レコードが印刷されます。

[トップ](#)

論理ファイルのレコード様式 (RCDFMT)

データベース・ファイルからのコピーの場合にかぎり、コピーされるレコードのレコード様式名を指定します。取り出しファイルが論理ファイルまたはまたは物理ファイルでない場合には、指定できる値は*ONLYだけです。論理ファイルのレコード様式が1つだけの場合には、レコード様式名は任意指定ですが、取り出しファイルに複数のレコード様式がある場合には、様式名または*ALLを指定しなければなりません。

***ONLY**

取り出しファイルの唯一のレコード様式がコピーされます。取り出しファイルが論理ファイルである場合には、この値が使用できるのはそのファイルにレコード様式が1つしかない場合だけです。

***ALL** 取り出し論理ファイル内のすべてのレコード様式が使用されます。

名前 取り出しファイルが論理ファイルまたは物理ファイルである時には、コピーされるレコード様式の名前を指定してください。

[トップ](#)

コピー開始レコード番号 (FROMRCD)

コピーを開始するレコードのレコード番号を指定します。*NONE以外の値が**コピー開始レコード・キー (FROMKEY)**パラメーターまたは**コピー終了レコード・キー (TOKEY)**パラメーターに指定された場合には、レコード番号は有効ではなく、また、取り出しファイルがキー付き論理ファイルである場合にも、これは使用できません。

***START**

コピー操作は、ファイルの最初のレコードから始められます。

1-4294967288

取り出しファイルからコピーする最初のレコードのレコード番号を指定します。

[トップ](#)

コピー終了レコード番号 (TORCD)

取り出しファイル（あるいは各取り出しファイル・メンバー）中で最後にコピーされるレコードのレコード番号を指定します。*NONE以外の値が**コピー開始レコード・キー (FROMKEY)**パラメーターまたは**コピー終了レコード・キー (TOKEY)**パラメーターに指定された場合、*END以外の値が**コピーするレコードの数 (NBRRCD)**パラメーターに指定された場合、あるいは取り出しファイルがキー付き論理ファイルである場合には、レコード番号は有効ではありません。

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

1-4294967288

取り出しファイルからコピーする最後のレコードのレコード番号を指定します。

[トップ](#)

コピー開始レコード・キー (FROMKEY)

キー・フィールドつきファイルをコピーする時に、コピーされる取り出しファイル（または各取り出しファイル・メンバー）の最初のレコードのキーの値を指定します。このパラメーターが有効となるのは、キー付きデータベース・ファイルである取り出しファイルの場合だけであり、レコード番号の値が**コピー開始レコード番号 (FROMRCD)**パラメーターまたは**コピー終了レコード番号 (TORCD)**パラメーターに指定された場合には、それは使用できません。

単一値

***NONE**

コピーする最初のレコードをキーにより選択しません。

要素1: キー・フィールドの数

***BLDKEY**

キー・フィールド（キーのすべてのフィールドの単一の文字ストリング値ではなく）の値のリスト（それぞれ、最大256文字）が提供されます。リスト内のいずれかの値がヌル値可能キー・フィールドに対応している場合には、*BLDKEYは無効です。

要素2に指定した値のリストは、FROMファイルのキーの中の対応するフィールドに（その順序で）適用されます。文字フィールドの場合には、文字ストリングは現行ジョブのCCSIDからFROMファイルのフィールドのCCSIDに変換されます。日付、時刻、またはタイム・スタンプ・フィールドの場合には、対応する入力値はFROMファイルのフィールドの形式および区切り記号の形式に変換されます。可変長フィールドの場合には、2バイト長の部分でなく、文字データだけを入力してください。DBCS図形フィールドを指定する時には、入カストリング(DBCSデータ)はシフトアウト(SO)文字とシフトイン(SI)文字で囲まなければなりません。SO-SI文字は入カストリングから除去されて、残りのDBCSデータが現行ジョブの対応するDBCSのCCSIDからDBCS図形フィールドのDBCSのCCSIDに変換されます。

整数 コピーする最初のレコードを見つけるために使用するキー・フィールドの数を指定します。

要素2: キーの値

文字値 最初の要素で指定されたキー・フィールド数の実際のキーの値を指定する文字ストリングを指定します。このキー・ストリング値は、ブランクまたは特殊文字が入っている場合には引用符で囲んで指定しなければならず、また16進数形式で指定することもできます。16進数形式は、キーにパック

10進数または2進数字フィールドが入っている場合、あるいはキーが可変長の文字フィールドである場合に有用です。単一のストリングが指定された時には、文字フィールドでCCSID変換は実行されません。

トップ

コピー終了レコード・キー (TOKEY)

キー・フィールドつきファイルをコピーする時に、コピーされる取り出しファイル（または各取り出しファイル・メンバー）の最終レコードのキーの値を指定します。このパラメーターが有効となるのは、取り出しファイルがキー付きデータベース・ファイルの場合だけであり、また、レコード番号の値が**コピー開始レコード番号 (FROMRCD)**パラメーターまたは**コピー終了レコード番号 (TORCD)**パラメーターに指定された場合、あるいはレコード数が**コピーするレコードの数 (NBRRCD)**パラメーターに指定された場合には、これは使用できません。

単一値

*NONE

コピーされる最後のレコードはキーにより選択されません。

要素1: キー・フィールドの数

*BLDKEY

キー・フィールド（キーのすべてのフィールドの単一の文字ストリング値ではなく）の値のリスト（それぞれ、最大256文字）が提供されます。リスト内のいずれかの値がヌル値可能キー・フィールドに対応している場合には、*BLDKEYは無効です。

要素2に指定した値のリストは、FROMファイルのキーの中の対応するフィールドに（その順序で）適用されます。文字フィールドの場合には、文字ストリングは現行ジョブのCCSIDからFROMファイルのフィールドのCCSIDに変換されます。日付、時刻、またはタイム・スタンプ・フィールドの場合には、対応する入力値はFROMファイルのフィールドの形式および区切り記号の形式に変換されます。可変長フィールドの場合には、2バイト長の部分でなく、文字データだけを入力してください。DBCS図形フィールドを指定する時には、入カストリング(DBCSデータ)はシフトアウト(SO)文字とシフトイン(SI)文字で囲まなければなりません。SO-SI文字は入カストリングから除去されて、残りのDBCSデータが現行ジョブの対応するDBCSのCCSIDからDBCS図形フィールドのDBCSのCCSIDに変換されます。

整数 コピーする最後のレコードを見つけるために使用するキー・フィールドの数を指定します。

要素2: キーの値

文字値 最初の要素で指定されたキー・フィールド数の実際のキーの値を指定する文字ストリングを指定します。このキー・ストリング値は、ブランクまたは特殊文字が入っている場合には引用符で囲んで指定しなければならず、また16進数形式で指定することもできます。16進数形式は、キーにパック10進数または2進数字フィールドが入っている場合、あるいはキーが可変長の文字フィールドである場合に有用です。単一のストリングが指定された時には、文字フィールドでCCSID変換は実行されません。

トップ

コピーするレコードの数 (NBRRCDS)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

***END** TOKEYまたはTORCDパラメーターが指定されていない限り、取り出しファイルにファイルの終わり条件が示されるまで、レコードがコピーされます。

1-4294967288

受け入れファイルにコピーするレコード数を指定します。

トップ

文字テストによるレコード組込 (INCCHAR)

文字ストリング値と、レコード内のフィールドまたはレコード全体の中の所定の位置にあるデータとの比較に基づいて、レコードをコピーすることを指定します。

単一値

***NONE**

コピーするレコードを選択するために比較を使用しません。

比較値

どのレコードをコピーするかを判別するための比較を指定するには、4つの値を入力しなければなりません。まず、*RCDまたはフィールド名を入力し、その後に、比較を制御する3つの値、すなわち、開始位置、演算子、文字ストリング値を入力しなければなりません。この関係を満足するすべてのレコードが受け入れファイルにコピーされます。

要素1: フィールド

***RCD** 文字ストリング値が、取り出しファイル内にある各レコードの中の指定された開始位置にあるデータと比較されます。

***FLD** この値は*RCD値と同じです。

名前 比較を行なうために使用されるレコード様式中のフィールド名を指定してください。フィールドは、取り出しファイルについてのデータ記述仕様(DDS)で文字フィールドとして定義されていなければなりません。

要素2: 文字位置

開始桁 フィールドまたはレコード内の比較が開始される開始位置を指定してください。可変長フィールドの場合には、この位置は可変長フィールドのデータ部分の位置です。DBCS図形フィールドの場合には、この位置はDBCS文字部分です。*CT以外の演算子の場合には、指定した文字ストリング値の長さ（最大256桁）に対して比較が行なわれます。*CT演算子の場合には、フィールドまたはレコードは、指定した開始位置からそのフィールドまたはレコードの終わりまで走査され、指定された文字ストリングが入っているかどうか判別されます。

要素3: 比較演算子

レコードまたはフィールドと指定した文字ストリングとの間に存在しなければならない関係を示す演算子を指定してください。

***EQ** 等しい

- *GT より大
- *LT より小
- *NE 等しくない
- *GE より大きいか等しい
- *NL より小さくない
- *LE より小さいか等しい
- *NG より大きくない
- *CT 含む

要素4: 値

文字値 指定したフィールドまたはレコードと比較する文字ストリング（最大256桁の長さ）を指定します。この文字ストリング値は、ブランクまたは特殊文字が入っている場合にはアポストロフィで囲んで指定しなければならず、また16進数形式で指定することもできます。フィールド名を指定した場合には、文字ストリング値は比較を実行する前に現行ジョブのCCSIDからフィールドのCCSIDに変換されます。可変長フィールドのフィールド名を指定する場合には、2バイト長の部分でなく、比較する文字データだけを指定しなければなりません。フィールド名を指定した場合には、ヌル値であるフィールド値との**いずれの**比較でも偽についてテストされます。DBCS図形では、シフトアウトとシフトイン(SO-SI)内に入力(DBCSデータ)ストリングを指定します。SO-SI文字は入力ストリングから除去されて、残りのDBCSデータが現行ジョブの対応するDBCSのCCSIDからDBCS図形フィールドのDBCSのCCSIDに変換されます。

[トップ](#)

フィールド・テストでレコードの組込 (INCREL)

レコード中の一定のフィールドに指定した関係を満たすデータがあるかどうかに基づいてレコードがコピーされることを指定します。このパラメーターは、複数のレコード様式をもつ論理ファイルのすべてのレコード様式からのコピーでは無効です。

単一値

*NONE

コピーするレコードを選択するためにフィールド値の比較を使用しません。

関係値

コピーするレコードの条件を指定するために、各条件についてそれぞれ1セットの値を指定します。最大50セットの値を指定することができます。各セットには、必ず次の4つの値が含まれていなければなりません。

1. 論理演算子
2. 比較されるフィールドの名前
3. 関係演算子
4. 比較値

要素1: 関係

*IF これは比較のセットの最初の値として指定しなければなりません。

- *AND** *AND値の両側のフィールド値比較グループは、レコードがコピーされる前にすべて満たされなければなりません。
- *OR** *OR値のどちらかのフィールド値比較グループが満たされた場合には、そのレコードはコピーされます。

要素2: フィールド

名前 比較されるフィールド名を指定してください。このフィールドは、取り出しファイルのレコード様式になければならず、ファイルについてのデータ記述仕様(DDS)中に文字または数字として定義することができます。

要素3: 比較演算子

レコード内のフィールドと指定したフィールド値との間に存在していなければならない関係を示す演算子を指定します。

- *EQ** 等しい
- *GT** より大
- *LT** より小
- *NE** 等しくない
- *GE** より大きいか等しい
- *NL** より小さくない
- *LE** より小さいか等しい
- *NG** より大きくない

要素4: 値

*NULL

*NULLは、レコード中のフィールドの値がヌル値であるかどうかをテストする値として使用することができます。*NULLを指定した場合には、演算子*EQおよび*NEだけを使用することができます。"*EQ *NULL"関係が真となるのは、レコード中のフィールド値がヌル値の場合だけです。"*NE *NULL"関係が真となるのは、レコード中のフィールド値がヌル値でない場合だけです。

文字値 指定したフィールドの内容と比較される値（最大256桁）を指定します。指定される値を別のフィールド名とすることはできません。フィールド値は、ブランクまたは特殊文字が入っている場合にはアポストロフィで囲んで指定しなければならず、また16進数形式で指定することもできます。ヌルであるレコード中のフィールド値と*NULL以外の比較は、使用する演算子に関係なく偽についてテストされます。可変長フィールドの場合には、2バイト長の部分でなく、値のデータ部分だけを指定してください。文字フィールドの場合には、このデータはデータとフィールド・データとの比較の前に、現行ジョブのCCSIDからフィールドのCCSIDに変換されます。DBCS図形フィールドを指定する時には、入力ストリング(DBCSデータ)はシフトアウトとシフトイン(SO-SI)の文字で囲まなければなりません。SO-SI文字は入力ストリングから除去されて、残りのDBCSデータが現行ジョブの対応するDBCSのCCSIDからDBCS図形フィールドのDBCSのCCSIDに変換されます。

トップ

レコード様式フィールドのマップ (FMTOPT)

物理または論理取り出しファイルを物理受け入れファイルにコピーする時に、どのフィールド・レベル・レコード様式処理（ある場合）を実行するかを指定します。取り出しファイルおよび受け入れファイルが異なったファイル・タイプ（一方は*SRCで、他方は*DATA）のデータベース・ファイルである場合には、*CVTSRCを指定しなければなりません。

単一値

*NONE

コピー操作の実行中には、フィールドのマッピングまたは除外は行なわれません。この値が有効なのは、取り出しファイルと受け入れファイルの両方がデータベース・ファイルでない場合、または両方ともデータベース・ファイルでレコード様式が同じ場合だけです。レコード様式が同じになるのは、取り出しファイルと受け入れファイルの両方の形式にすべてのフィールドが存在する場合で、両方のレコードの開始位置と属性が同じ場合だけです。属性には、フィールドがヌル値可能であるかどうかと、日付/時刻の形式および区切り記号（フィールドが日付/時刻フィールドの場合）が含まれます。ヌル値がコピーされるのは、*NONEが有効な場合だけです。

*NOCHK

データベース・ファイルのレコード様式が異なる場合には、コピー操作は、その相違点にかかわらず、続行されます。レコード・データは、1つのファイルから他のファイルに（左から右へ）直接コピーされます。すべてのレコード様式を複数の様式の論理ファイルから取り出しファイルと同じタイプ（ソースまたはデータ）の物理ファイルにコピーする場合には、*NOCHKが必要です。この値が指定された場合には、ヌル値は無視されて、日付/時刻データの変換は行なわれません。

*CVTSRC

データベース・ファイル相互間、ソース・ファイルからデータ・ファイルへ、またはデータ・ファイルからソース・ファイルへのコピーのためには、この値が使用されます。これが有効なのは、取り出しファイルと受け入れファイルが異なったタイプ（ソースとデータ）の時だけです。ファイル・タイプの変換は次の通り行なわれます。

- 受け入れファイルがデータ・ファイルである場合には、取り出しファイルの順序番号および日付フィールドが除去され、取り出しファイルの各レコードのソース・データ部分が受け入れファイルにコピーされます。
- 受け入れファイルがソース・ファイルである場合には、順序番号と日付フィールドが追加され、取り出しファイルのレコード・データがそれぞれの受け入れファイルのレコードのソース・データ部分にコピーされます。ヌル値は無視されて、日付/時刻データの変換は行なわれません。
- 取り出しファイルまたは受け入れファイルがデータベース・ファイルでない時には、ソース・ファイルからデータ・ファイルへのコピーあるいはデータ・ファイルからソース・ファイルへのコピーではFMTOPT(*CVTSRC)は必要ありません。ファイル・タイプによって、自動的に順序番号および日付フィールドが加えられるか、あるいは除外されます。受け入れファイルがソース物理ファイルである場合には、受け入れファイルにコピーされたレコードに作成される順序番号を制御するためにSRCOPTパラメーターおよびSRCSEQパラメーターを使用することができます。

その他の値（最大2回の反復）

***MAP** 取り出しファイルと受け入れファイルのレコード様式中で同じ名前のフィールドがコピーされ、取り出しファイルの様式中に存在しない受け入れファイル中のフィールドは、受け入れファイルのデータ記述仕様(DDS)のDFTキーワードに指定された省略時の値に設定されるか、あるいは数字フィールドの場合にはゼロ、文字フィールドの場合にはブランク、日付/時刻フィールドの場合には現在の日付/時刻、またヌル値可能フィールドの場合にはヌル値に設定されます。

*MAPが指定されている場合には、*DROPも指定することができます。マップされたフィールドは、取り出しファイルと受け入れファイルのレコード様式で開始位置が異なる場合があります。

*MAPが指定されていて、取り出しファイル・フィールドのCCSIDおよび受け入れファイル・フィールドのCCSIDの間に正しい変換が定義されている場合には、文字データは受け入れファイル・フィールドのCCSIDに変換されます。しかし、取り出しファイル・フィールドのCCSIDまたは受け入れファイル・フィールドのCCSIDのいずれかが65535である場合には、文字データは変換されません。

*MAPによって、日付/時刻データの変換とヌル値のコピーができるようになります。

***DROP**

受け入れファイルのレコード様式中に取り出しファイルのレコード様式のフィールド名が存在しない場合には、フィールド・レベルのマッピングでこの値を指定しなければなりません。*DROPが指定されている場合には、*MAPも指定することができます。*DROPが指定されている場合には、両方のレコード様式中に存在するフィールド名はすべて取り出しファイルおよび受け入れファイルのレコード様式中で同じ属性と相対位置を備えていなければならない、あるいは*MAPも指定しなければなりません。ヌル値はコピーされます。

***CVTFLOAT**

出力データベース物理ファイルの外部記述によって識別される各浮動小数点フィールドを処理し、それをシステム/370の16進数形式からAS/400によって使用されるIEEE形式に変換するためには、CPYFを指定します。

***NULLFLAGS**

出力ファイルの外部記述によってヌル値可能と識別されるそれぞれのフィールドの後のバイトを使用して、対応する入力フィールドがヌルであるかどうかを示すフラグとして使用するためには、CPYFを指定します。このバイトがブランク('40'X)であるかまたは'00'Xが入っている場合には、データはヌル値でないと見なされます。このフラグにその他の値が入っていると、対応する入力フィールドのデータは無視されて、出力値がヌル値に設定されます。

注: *CVTFLOATまたは*NULLFLAGSが指定されていて、入力ファイルが外部記述の場合には、その入力ファイルの外部記述はコピーされたデータのマッピングには使用されません。*CVTFLOATまたは*NULLFLAGSが指定されている場合には、他の値は（両方が指定されていない限り）すべて無視されます。TOFILEは外部記述物理データ・ファイルでなければなりません。*CVTFLOATまたは*NULLFLAGSが指定されている場合には、次のパラメータ値を指定することはできません。

- 取り出しファイルが複数様式論理ファイルである場合のRCDFMT(*ALL)
- CRTFILE（すでにTOFILEが存在していて*YESが無視される場合を除く）、FROMKEY, TOKEY, INCCHAR, INCREL, SRCOPT,およびSRCSEQの省略時値以外の値。

***** 注意 *****

*CVTFLOATおよび*NULLFLAGSが使用されるのはOS/400形式にデータを変換する場合だけ、データが損傷する可能性を避けるために正しく使用しなければなりません。

トップ

ソース更新オプション (SRCOPT)

ソース物理ファイルへのコピーの場合にだけ、順序番号フィールドに新しい順序番号が挿入されるかどうか、および日付フィールドがゼロにセットされるかどうかを指定します。*SEQNBRと*DATEの両方を指定することができます。

単一値

*SAME

受け入れファイルにコピーされるレコードの中で、ソース順序番号は挿入されず、ソース日付フィールドはゼロにセットされません。受け入れファイルがソース物理ファイルでない場合には、*SAMEを指定しなければなりません。

その他の値 (最大 2 回の反復)

*SEQNBR

受け入れファイルにコピーされるレコードに、新しい順序番号が挿入されます。新しい順序番号は、ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)パラメーターの値により制御されます。

*DATE

受け入れファイルにコピーされるレコードの中で、ソース日付フィールドがゼロにセットされます。

[トップ](#)

ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)

*SEQNBRがソース更新オプション (SRCOPT)パラメーターに指定された時にかぎり、受け入れファイルにコピーされた最初のレコードに指定する順序番号、およびコピーされた他のすべてのレコードの番号を付け直すために追加される値を指定します。

要素1: 開始順序番号

1.00 受け入れファイルにコピーされた最初のソース・レコードは、0001.00という順序番号をもちます。

0.01-9999.99

受け入れファイルにコピーされる最初のソース・レコードの順序番号を指定します。

要素2: 増分番号

1.00 受け入れファイル中のコピーされたソース・レコードは、整数の増分値 1 で番号が付け直されます。

0.01-9999.99

最初のレコードの後にコピーされるすべてのソース・レコードの番号を付け直すために追加される値を指定します。

[トップ](#)

許容エラー (ERRLVL)

データベース取り出しファイル・メンバーまたはテープ取り出しファイルのラベル識別コードに対するコピー操作の実行中に、容認されるファイルの回復可能な読み取りまたは書き込みエラーの最大数を指定します。

0 回復可能エラーが1つでも起こると、そのエラーが起こったファイル・メンバーでコピー操作は終了します。

***NOMAX**

エラーの最大数が指定されず、すべての回復可能エラーは容認されます。

整数 コピーされる各取り出しファイル・メンバーまたはラベルで許される回復可能エラーの最大数を指定します。

トップ

削除済みレコードの圧縮 (COMPRESS)

受け入れファイルに圧縮形式の取り出しファイルが入るかどうかを指定します。圧縮は、取り出しファイルの削除済みレコードが受け入れファイルにコピーされなかった時に起こります。***NO**は、取り出しファイルと受け入れファイルが両方とも物理ファイルである時にすべてのレコードをコピーするために使用されます。取り出しファイルが削除可能で、受け入れファイルが削除可能でない場合には、***YES**を指定しなければなりません。

***YES** 受け入れファイルにコピーされたレコードは圧縮されます。取り出しファイルに存在する削除済みレコードは受け入れファイルにコピーされません。

***NO** 削除されたレコードと削除されないレコードの両方が受け入れファイルにコピーされます。

トップ

CPYFの例

例1: 物理ファイルから物理ファイル

```
CPYF FROMFILE(PERSONNEL/PAYROLL) TOFILE(TESTPAY/PAYROLL)
      MBROPT(*ADD) CRTFILE(*YES) ERRRLVL(10)
```

このコマンドは、PERSONNELライブラリー中のPAYROLLの名前の物理ファイル中のすべてのレコードを、TESTPAYライブラリー中のファイルPAYROLLにコピーします。取り出しファイルに複数のメンバーが含まれている場合には、最初のメンバーだけがコピーされます。TESTPAY/PAYROLLが存在しない場合は、レコードのコピーの前にそれが作成されて、コピーされたレコードを受け取るために、取り出しファイルと同じ名前のメンバーがTESTPAY/PAYROLLに追加されます。

MBROPT(*ADD)が指定されたために、コピーされたレコードは受け入れファイル・メンバー中の既存レコードのいずれかに追加されます。RCDFMT(*NONE)が想定されるために、受け入れファイルTESTPAY/PAYROLLは、取り出しファイルと同じレコード・フォーマットでなければなりません。受け入れファイル(TESTPAY/PAYROLL)がコピー操作で作成される場合は、これは、取り出しファイル(PERSONNEL/PAYROLL)と同じレコード・フォーマットおよびアクセス・パスをもつことになります。コピー操作中に10個以上の回復可能エラーが起こった場合には、操作は終了します。

また、FROMMBR(*ALL)およびTOMBR(*FROMMBR)も指定された場合には、取り出しファイルのすべてのメンバーが受け入れファイルの対応するメンバー（同じ名前をもつ）にコピーされます。対応する受け入れメンバーがないそれぞれの取り出しメンバーでは、メンバーが受け入れファイルに追加されて、取り出しメンバー中のすべてのレコードが新規メンバーにコピーされます。すでに存在するそれぞれの取り出しメンバーでは、新規のレコードだけがメンバーに追加されます。どのタイプのコピー操作でも、既存のレコードへ

の更新が行われません。取り出しファイル中で対応するメンバーがないメンバーが受け入れファイルに含まれている場合には、コピー操作の後、受け入れファイルには、取り出しファイルより多いメンバーが含まれます。

コピー中のメンバー内で10個以上の回復可能エラーが起こった場合には、その操作はその時点で終了して、残りのメンバーはコピーされません。すべての回復可能エラーを許容するためにERRLVL(*NOMAX)を指定できるので、特定のファイル・メンバーで回復可能エラーがいくつ起こっても、コピー操作は終了しません。

例2: 物理ファイルから物理ファイル

```
CPYF FROMFILE(PERSONNEL/EMP1) TOFILE(PERSONNEL/VACLEFT)
      FROMMBR(VAC) MBROPT(*REPLACE)
      FROMKEY(1 X'0008872F') TOKEY(1 X'0810199F')
      INCREL((*IF VAC *GT 5.0)) FMTOPT(*MAP *DROP)
```

この例では、受け入れファイル(VACLEFT)が既存の物理ファイルであるが、そのレコード・フォーマットはコピーしているEMP1の名前の物理ファイルのフォーマットと異なります。両方のファイルはPERSONNELライブラリー中にあります。取り出しファイルには従業員レコードが含まれていて、キー（従業員番号）をもっています。取り出しファイルで選択したレコードは、008872から810199の範囲の従業員番号をもっています。5日以上以上の休暇(VAC)をもつ従業員のレコードだけが受信ファイルにマップされます。レコードはメンバーVACから選択されて、これらはファイルVACLEFTの最初のメンバー中の既存レコードを置き換えます。

ファイルのキーがパック10進数であるために、FROMKEYおよびTOKEYの値は16進数ストリングとして指定する必要があります。値には先行ゼロおよび16進数符号が必要となります。同じキーの値の範囲を指定するもう1つの方法は次の通りです。

```
FROMKEY(*BLDKEY 8872) TOKEY(*BLDKEY 810199)
```

*BLDKEYを指定すると、コピー操作はそれぞれの数値を、ファイル・キー定義に必要な形式に変換します。単一値だけが指定されるので、使用されるキー・フィールドは1つだけです。FROMKEYおよびTOKEYパラメーターの*BLDKEY形式によって、キーが数値の時の先行ゼロおよび肯定符号は省略できます。

ファイルのキーが複数フィールドの複合の場合には、*BLDKEYフォームは、FROMKEYおよびTOKEYパラメーターの値のリストとともに使用されます。たとえば、ファイルのキー・フィールドが販売領域(10桁)で、最終月の販売（小数点以下の2桁の7桁のパック10進数）の場合には、完全なキーは次のいずれかの方法で指定されます。

```
FROMKEY(*BLDKEY (GEORGIA 99.50))
- あるいは -
FROMKEY(2 X'C7C5D6D9C7C9C14040400009950F')
```

*BLDKEY形式を使用する時には、それぞれの文字フィールドにブランクが埋め込まれて、それぞれの数字フィールドは小数点を正しく位置合わせするためには、左または右に桁移動された値の実際のキー形式に変換されます。

例3: 物理データ・ファイルから物理ソース・ファイル

```
CPYF FROMFILE(MYLIB/DATAFILE) TOFILE(QIDU/QXTXSR)
      FROMMBR(A1) TOMBR(*FROMMBR) MBROPT(*REPLACE)
      FMTOPT(*CVTSRC)
```

このコマンドは、FILETYPE(*DATA)として定義される、ライブラリーMYLIB中の物理ファイルDATAFILEから、FILETYPE(*SRC)として定義される、ライブラリーQIDU中の物理ファイルQTXTSRCにレコードをコピーします。この2つのデータベース・ファイルは異なったタイプのものなので、FMTOPT(*CVTSRC)を指定しなければなりません。レコードはメンバーA1にコピーされて、取り出しファイル・メンバーと同じ名前をもちます。ソース・ファイルにコピーされるレコードの順序実行ソース・フィールドに値が割り当てられて、これは1.00で始まり、1.00で増分されます。SRCOPT(*SEQNBR)を指定した場合には、SRCSEQパラメーターを使用して、作成される順序実行を制御します。日付ソース・フィールドは常にゼロに設定されます。

例4: 論理ファイルから物理ファイル

```
CPYF FROMFILE(DEPTS/SALES) TOFILE(DEPTS/YTDSALES)
      FROMMBR(TOTSALES) TOMBR(MARCH) RCDfmt(AA)
      NBRRCDS(5) MBROPT(*REPLACE)
```

このコマンドは、（ライブラリーDEPTS中の）論理ファイルSALESのメンバーTOTSALESから、（ライブラリーDEPTS中の）物理ファイルYTDSALESのメンバーMARCHに5個のレコードをコピーします。メンバーMARCHが存在しない場合には、コピー操作によってそれが作成されて、受け入れファイルに自動的に追加されます。レコード様式AAを使用するライブラリーDEPTS中の論理ファイルSALESからのレコードだけがコピーされて、同じ様式をもつYTDSALESにこれらがコピーされます。コピー操作の後、そのメンバーのすべてのレコードが最初に作成されて、次にTOTSALESメンバーの最初の5つのレコード（キー・シーケンスの）のデータだけをそれらにコピーするので、MARCHメンバーには5個の非削除レコードだけが含まれています。

例5: 装置ファイルから物理ファイル

```
CPYF FROMFILE(QDKT) TOFILE(QGPL/QCLSRC) FROMMBR(PAY*)
      TOMBR(*FROMMBR) MBROPT(*REPLACE)
      SRCOPT(*SEQNBR) SRCSEQ(1 .25)
```

このコマンドは、文字PAYで始まる名前のディスク・ラベルの汎用セットからレコードをコピーします。これらは、QGPLライブラリー中のソース・ファイルQCLSRCの同名のメンバーにコピーされます。受け入れファイルがソース・ファイルであっても、QDKTはFILETYPE(*SRC)として定義された装置ファイルよりも効率的であるために、FILETYPE(*DATA)と定義されたディスク・ファイル(QDKT)が取り出しファイルとして使用されます。コピーされる各ラベルでは、最初のレコードの順序実行は1.00であり、その後続くレコードは.25が増分されます。ソースの日付フィールドは自動的にゼロに設定されます。

例6: 物理ファイルから印刷装置

```
CPYF FROMFILE(TEMPFILE) TOFILE(*PRINT) FROMMBR(EMP1)
      FROMKEY(1 448762) NBRRCDS(20) OUTFMT(*HEX)
```

このコマンドは、TEMPFILEの名前のファイルのメンバーEMP1からレコードをコピーします。レコードは従業員レコードです。1つのキー・フィールド、従業員番号がレコード・キーの探索に使用されます。従業員番号448762で開始して、20個のレコードがIBM提供印刷装置ファイルQSYSPRTにコピーされて、文字と16進形式の両方でリストされます。IBM提供印刷装置ファイルはTOFILE(*PRINT)のコーディングによって指示されます。

例7: 物理ファイルから装置ファイル

```
CPYF FROMFILE(PERSONNEL/PAYROLL) TOFILE(DISK1)
      FROMMBR(VAC1) INCCHAR(NAME 1 *CT SMITH)
```

```
INCREL((*IF VAC *GT 10.5)(*AND HOLIDAYS *EQ 0))
```

このコマンドは、その姓がSMITHで、10.5日以上の上の累積休暇（休日ではない）をもつ従業員のすべての従業員レコードを、PERSONNELライブラリーのPAYROLLファイルからディスクにコピーします。コピーされるファイル・メンバー名はVAC1です。休暇(VAC)と休日(HOLIDAYS)のフィールドはパック10進数として定義されますが、INCRELパラメーターには値は文字形式で指定されます。使用されるディスク装置ファイルはDISK1であり、これには、コピー先のファイルのラベル、および位置やボリュームIDなどのその他のディスク属性が入っています。

例8: 物理ファイルから装置ファイル

```
CPYF FROMFILE(PERSONNEL/PAYROLL) TOFILE(DISK1)
      FROMMBR(*ALL) TOMBR(*FROMMBR)
```

このコマンドは、PERSONNELライブラリー中のファイルPAYROLLのすべてのメンバーを、ディスク（装置ファイルDISK1）のデータ・ファイルにコピーします。それぞれの取り出しファイルのメンバー名は有効なディスク・ラベルIDでなければなりません。そうでない場合は、コピーする前に、RNMM（メンバーの名前変更）コマンドを使用して、取り出しファイルのメンバーの名前を変更してください。

トップ

エラー・メッセージ： CPYF

*ESCAPEメッセージ

CPF2807

メッセージ&7に取り消し応答を受け取った。

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2818

TOMBRパラメーターに*FROMMBR値を使用することはできない。

CPF2835

INCCHARの開始桁および長さが長すぎる。

CPF2857

一時変更で、複数のメンバーまたはラベルのコピーを使用することはできない。

CPF2858

印刷出力のファイル属性が正しくない。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2864

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2883

ライブラリー&2にファイル&1を作成中にエラー。

CPF2888

エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。

CPF2904

複数のラベル・コピーのディスクット・ラベルが正しくない。

CPF2906

INCRELフィールドの値が正しくない。

CPF2909

&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2968

&2のファイル&1のコピー中に位置指定エラーが起こった。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF2975

キー付きファイルからの読み取り中にエラー。

CPF2976

エラーの数がERRLVL値より大きい。

CPF3140

メンバー&2の初期設定またはコピーが取り消された。

CPF3143

メンバー&2に増分値を使用することはできない。

CPF3148

新しいレコードのためにメンバー&2に必要なスペースが多すぎる。

CPF3150

メンバー&2のデータベース・コピーが正常に行なわれなかった。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

[トップ](#)

コピー元ディレクトリー (CPYFRMDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーからのコピー(CPYFRMDIR)コマンドは、システム配布ディレクトリー・データをローカル・システムから磁気テープまたはディスク装置にコピーするために使用されます。この後、このディレクトリー・データは、リモート・システムでディレクトリーへのコピー(CPYTODIR)コマンドを使用して、他のリモート・システムにコピーすることができます。この機能により、リモート・システムは、ディレクトリー・データに対してローカル・システムから行なわれた変更をシャドー処理して、ローカル・システムでディレクトリーのシャドー処理環境を開始することができます。

注意: データを回復するためにディレクトリーのデータを保管および復元するバックアップ・ユーティリティーとして、このコマンドを使用してはいけません。バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)に説明されている通常のバックアップおよび回復の手順の指針に従ってください。

制約事項: このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LABEL	ファイル・ラベル	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
SYSNAME	システム名	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *END	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション

トップ

ファイル・ラベル (LABEL)

コピーされるテープまたはディスクの装置ファイルのラベルを識別する名前を指定します。テープ装置には最大17桁、ディスク装置には最大8桁を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置 (DEV)

コピー操作に使用されるテープまたはディスク装置の名前を指定します。それぞれのテープまたはディスク装置名は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。

ディスク装置名

コピー操作に使用するディスク装置の名前を指定してください。

テープ装置名

コピー操作に使用する1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置名を指定してください。複数のテープ・ボリュームを使用する場合には、複数のテープ装置を使用することで、1つのテープ・ボリュームを巻き戻しあるいは取り外している時に別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理することができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

システム名 (SYSNAME)

このコマンドによって作成された磁気テープまたはディスクからシステム配布ディレクトリー・データをコピーするリモート・システムの名前を指定します。このパラメーターのリモート・システムの名前は、ローカル・システムからのディレクトリー・データに対する変更を収集するシステム名のリストに追加されます。

注: 通常のシャドー処理セッション中にディレクトリー・データに対するすべての変更がリモート・システムに送られるように、このコマンドによって作成されたテープまたはディスクを使用するすべてのリモート・システムの名前を含めなければなりません。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリューム識別コードを指定してください。

*NONE

ファイルのボリューム識別コードが指定されていません。ボリューム識別コードは検査されません。

ボリューム識別コード

装置に取り付ける順序で、複数のボリュームの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

処理されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号を指定します。データ・ファイルの最初の見出しラベルから、4桁のファイル順序番号が読み取られます。

***END** コピー操作は、テープ・ボリュームの最後の順序番号の後で開始されます。

ファイル順序番号

使用されるファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は0001-9999 です。

[トップ](#)

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリウムに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリウムが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリウムだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリウムは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

満了日を指定します。ファイルは満了日まで上書きすることはできません。満了日は、現在日付と等しいかまたはそれより後でなければなりません。

*PERM

データ・ファイルは永続的に保護されます。999999の満了日が割り当てられます。

満了日 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

[トップ](#)

CPYFRMDIRの例

```
CPYFRMDIR  DEV(TAP01)  SYSNAME(CHICAGO NEWYORK)
```

このコマンドはディレクトリー・データのすべてをローカル・システムから磁気テープ装置TAP01にコピーします。CHICAGOおよびNEWYORKは、ディレクトリー・データに対する変更をローカル・システムから収集するシステムのリストに追加します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CPYFRMDIR

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF90FB

エラーのためにディレクトリー・データはコピーされなかった。

[トップ](#)

ディスクからのコピー (CPYFRMDKT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスクからのコピー(CPYFRMDKT)コマンドは、1つまたは複数のデータ・ファイルをディスクから出力ファイルまたは印刷装置にコピーします。取り出しファイルはディスク・ファイルでなければなりません。受け入れファイルは物理ファイル、DDMファイル、ディスク・ファイル、テープ・ファイル、プログラム記述印刷装置ファイルとすることができます。 **TOファイル**プロンプト (TOFILEパラメーター) に*PRINTを指定して、IBM提供の印刷装置ファイルQSYSPRT を使用してレコードを印刷することができます。

注: DDMファイルの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「分散管理」情報を参照してください。

このコマンドは、ファイル・コピー(CPYF)コマンドで使用可能なパラメーターのサブセットを提供します。CPYFRMDKTコマンドで使用できないパラメーターが必要な場合には、取り出しファイルまたは受け入れファイルの一時変更を使用するか、あるいは CPYFコマンドまたはファイル一時変更とファイル・コピー(CPYF)コマンドの組み合わせを使用してください。

1つのラベル、いくつかのラベルの総称セット、またはすべてのラベルが、ディスクからコピーされません。ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックには、使用可能な組み合わせの完全な説明およびその指定方法が示されています。

CPYFRMDKTコマンドを開始する場合には、受け入れファイルが存在しなければなりません。このコマンドは受け入れファイルを作成しませんが、その受け入れファイルにメンバーがまだ存在しない場合に、既存の物理ファイルにメンバーを追加します。

注: 保管/復元タイプのファイルをコピーするために、このコマンドを使用することはできません。

制約事項: ファイルのオープン・データ・パス(ODP)は、コピー操作中にジョブ (経路指定ステップ) の他のプログラムと共用することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	ディスク・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディスク・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMLABEL	ディスケット・ラベル	文字値, *DKTF, *ALL	オプション, 定位置 3
TOMBR	メンバー	名前, *FROMLABEL, *FIRST	オプション, 定位置 4
FROMDEV	ディスケット装置	名前, *DKTF	オプション
FROMVOL	ボリューム識別コード	単一値: *DKTF, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*NONE, *ADD, *REPLACE	オプション
NBRRCDS	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション
OUTFMT	印刷形式	*CHAR, *HEX	オプション

トップ

ディスケット・ファイル (FROMFILE)

コピーするレコードが入っているディスケット・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

トップ

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

装置ファイルはディスケット・ファイル、テープ・ファイル、またはプログラム記述印刷装置ファイルとすることができます。このパラメーターにディスケット・ファイルを指定した場合には、ディスケット・スプール書き出しプログラムが活動状態であってはならず、ディスケット・ファイル作成(CRTDKTF)コマンドのデータのスパールプロンプト (SPOOLパラメーター) に*YESを指定してディスケット・ファイルを定義しなければなりません。

*PRINT

データは、システム印刷装置ファイル(QSYSVRT)にコピーされ、印刷形式 (OUTFMT)パラメーターに指定された値にしたがって様式設定されます。

受け入れファイル名

コピーされるレコードを受け入れる物理ファイルまたは装置ファイルの名前を指定してください。

トップ

ディスケット・ラベル (FROMLABEL)

コピーする1つのディスケット・データ・ファイルのラベル識別コード、またはコピーするいくつかのディスケット・データ・ファイルのグループの総称識別コードを指定します。

***DKTF**

ディスク上のコピーされるファイルを識別するために、ディスク・ファイル記述のデータ・ファイル・ラベル識別コードが使用されることを指定します。(また、これは取り出しファイルの一時変更指定することもできます。)

***ALL** ディスク・ボリューム上のすべてのデータ・ファイルがコピーされます。受け入れファイルがスプール・ディスクまたはデータベース物理ファイルのいずれかである場合には、レコードは受け入れファイルの対応するディスク・ラベルまたは物理ファイル・メンバーに、同じ名前でもコピーされる (TOMBR(*FROMLABEL)を指定することによって) か、あるいはディスクからコピーしたすべてのデータ・ファイルから、すべてのレコードの連結が入っている単一ラベルまたはメンバーにコピーすることができます。受け入れファイルが印刷装置ファイルである場合には、各データ・ファイルは別個のスプール・ファイルにコピーされます。TOFILE(*PRINT)が指定された場合には、ディスク上のすべてのデータ・ファイルは単一の印刷出力ファイルにコピーされ、コピーされる各データ・ファイルのレコードは、新しい印刷ページで開始されます。

FROMLABEL(*ALL)が指定されて、さらに、LABELパラメータ値がディスク・ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンドにも指定された場合には、一時変更指定された単一ファイル・ラベル識別コードだけがコピーされます。

データ・ファイル識別コード

コピーされるデータ・ファイルのラベル識別コードを指定してください。異なったLABELパラメータ値がOVRDKTFコマンドに指定された場合には、OVRDKTFコマンドに指定されたラベル識別コードが、このパラメータに指定された値の代わりに使用されます。

総称*データ・ファイル識別コード

ディスクからコピーされるデータ・ファイルの総称ラベル識別コードを指定してください。

総称識別コードがFROMLABELパラメータに指定されて、LABELパラメータもOVRDKTFコマンドに指定された場合には、一時変更指定された単一ファイル・ラベル識別コードだけがコピーされます。

ディスクからコピーするファイルが別のボリュームに続いていて、FROMLABEL(*ALL)または総称ラベル識別コードが指定された場合には、続きのボリューム上のすべてのファイルが処理されます。システムは、別のボリュームに続いていて、コピーするファイルがないディスクの処理を完了するまで、すべてのディスクからファイルをコピーしようとします。

トップ

TOメンバーまたはラベル (TOMBR)

コピー済みレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定します。

注: TOFILEがディスクまたはテープ・ファイルである場合には、TOMBRは、レコードをコピーする先のデータ・ファイルのラベル識別コードです。TOFILEが印刷装置ファイルまたは*PRINTの場合には、*FROMLABELまたは*FIRSTを指定しなければなりません。物理ファイル・メンバーが存在していない場合には、このパラメータによって指定された名前 (*FROMLABELによって暗黙指定された名前も含む) で物理ファイル・メンバーが追加されます。

考えられる値は次の通りです。

***FROMLABEL**

FROMFILEパラメータに指定されたデータ・ファイル識別コードで識別されるすべてのファイルが、物理受け入れファイルの対応するメンバーまたはディスクまたはテープ・ラベルにコピー

されることを指定します。対応する名前のメンバーまたはファイルが受け入れファイルに存在しない場合には、その名前のメンバーまたはファイルが物理受け入れファイルに追加されます。

FROMLABELパラメーターの値として1つのデータ・ファイル識別コードが指定された場合には、同じ名前の受け入れファイルのメンバーがコピーされるレコードを受け取ります。FROMLABELパラメーターの値として総称データ・ファイル識別コードまたは*ALL が指定された場合には、取り出しファイルの各ファイル・ラベルが受け入れファイルの対応するメンバーまたはラベルにコピーされます。受け入れファイルがテープ・ファイルであり、*FROMLABELを指定した場合には、単一のデータ・ファイル識別コードまたは*DKTFをFROMLABELパラメーターに指定しなければなりません。受け入れファイルがテープまたはディスク装置ファイルである場合には、その装置ファイル記述が使用されます。

***FIRST**

データベース物理受け入れファイルの（作成日で）最初のメンバーにはコピーされたレコードが受け取られます。

受け入れメンバー名

コピー済みレコードを受け取る物理受け入れファイル・メンバーの名前、あるいはディスクまたはテープ・ラベル識別コードを指定してください。テープ・ファイルのラベル識別コードが10桁より長い、特殊文字が入っている場合には、テープ装置ファイル作成(CRTTAPF)コマンド、テープ装置ファイル変更(CHGTAPF)コマンド、またはテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドにこれを指定しなければなりません。

[トップ](#)

ディスク装置 (FROMDEV)

コピーされるディスク取り出しファイルのディスク装置の名前を指定します。

***DKTF**

ディスク・ファイルに指定した装置が使用されることを指定します。

装置名 取り出しファイルからレコードをコピーするために使用されるディスク装置の名前を指定してください。指定される装置名の順序は、装置のテープを読み取る順序です。各装置名は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (FROMVOL)

使用されるディスクを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

***DKTF**

コピーされるディスク・ファイルを識別するためにディスク・ファイル中のディスク・ボリューム識別コードが使用されることを指定します。（また、これは取り出しファイルの一時変更指定することもできます。）

***NONE**

ボリューム識別コードの検査は行われません。

ボリューム識別コード

コピーするディスクを識別するために使用するボリューム識別コードを50個までの範囲内で指定してください。各識別コードは6桁またはそれ以下の英数字とすることができます。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

注: 受け入れファイルが装置ファイルである場合には、このパラメーターは無視されます。受け入れファイルが物理ファイルである場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

パラメーターはこのコピー操作には適用されません。受け入れファイルが既存の物理ファイルである場合には*NONEは使用できません。

***ADD** レコードは、使用する受け入れファイルの各メンバーの中の既存のレコードに追加されます。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

コピーするレコードの数 (NBRRCDs)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

レコード数

受け入れファイルにコピーされるレコード数を識別する、レコード数を1-4294967288の範囲で指定します。指定されたレコード数がコピーされる前にファイルの終り条件が起こった場合には、コピーされるレコード数が少なくなります。

[トップ](#)

印刷形式 (OUTFMT)

レコードを文字形式で印刷するか、あるいは文字および16進数形式の両方で印刷するかどうかを指定します。このパラメーターは、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTが指定されている時にだけ使用されます。

***CHAR**

レコードは文字形式で印刷されます。

***HEX** レコードは、文字形式および16進数形式の両方で印刷されます。

CPYFRMDKTの例

例1: データベース・ファイルへのレコードのコピー

```
CPYFRMDKT FROMFILE(QDKT) TOFILE(MASTER/PAYROLL)
          FROMLABEL(MONTH1) MBROPT(*REPLACE)
```

このコマンドは、ディスク装置ファイルQDKTを使用してディスクからレコードをコピーします。QDKTファイル記述に指定されたディスク装置が作成されます。コピーされたディスク上のデータ・ファイルはラベルMONTH1で識別されます。レコードはライブラリーMASTERの物理データベース・ファイルにコピーされて、メンバーMONTH1の既存のレコードを置き換えます(TOMBR(*FROMLABEL)のパラメーターの省略時の値によって暗示されます)。

例2: コピーされたレコードの印刷

```
CPYFRMDKT FROMFILE(QDKT) TOFILE(*PRINT) FROMDEV(DKT2)
          FROMLABEL(MONTH*) FROMVOL(PAY1)
```

このコマンドは、ディスク装置ファイルQDKTおよびディスク装置DKT2を使用してディスクから、文字MONTHで始まるラベルの汎用セットをコピーします。ディスク・ボリュームIDがコマンドに指定され、これは、別個の指定変更コマンドが必要でなくなります。レコードはIBM提供の印刷装置ファイルQSYSPRTを使用して印刷装置にリストされて、OUTFMTパラメーターの省略時の値である文字形式で印刷されます。

エラー・メッセージ: CPYFRMDKT

*ESCAPEメッセージ

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2818

TOMBRパラメーターに*FROMMBR値を使用することはできない。

CPF2857

一時変更で、複数のメンバーまたはラベルのコピーを使用することはできない。

CPF2858

印刷出力のファイル属性が正しくない。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2888

エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。

CPF2904

複数のラベル・コピーのディスク・ラベルが正しくない。

CPF2909

&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

[トップ](#)

インポート・ファイルからのコピー (CPYFRMIMPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

インポート・ファイルからのコピー(CPYFRMIMPF)コマンドは、インポート・ファイルのすべてまたは一部をTOFILEにコピーします。インポート・ファイル という用語は、異なるデータベース間でデータをコピーする目的で作成されるファイルを説明するために使用します。このコマンドでは、インポート・ファイル(FROMSTMFまたはFROMFILEパラメーター)は 取り出しファイル と呼ばれます。

このコマンドの重要な局面は、データを並行してコピーする機能です。QUERY属性変更(CHGQRYA)コマンドを使用して、コピーを実行するために使用されるタスクの数は、CHGQRYAコマンドのDEGREEパラメーターによって判別されます。このコマンドを実装する際に最良のパフォーマンスを得るためには、タスクの数はCPU数+ 1に設定されていなければなりません。

たとえば、システムに2つのCPUがある場合には、CHGQRYA DEGREE(*NBR TASKS 5)を指定します。

複数のタスクを使用するには、対称型マルチプロセッシング・プロダクト(SMP)機能がシステムにロードされていなければなりません。

磁気テープ・ファイル、ライブラリーQTEMPの任意のファイル、配布ファイル、または論理ファイルからのコピー時には、使用されるタスクは1つだけです。詳細については、CHGQRYAコマンドを参照してください。

CPYFRMIMPFコマンドによって実行できる特定機能の一部には、次が含まれています。

- 外部記述物理ファイルへの取り出しファイルのコピー。コピーを行なう前に、取り出しファイルがシステム上に存在していなければなりません。
- 開始および終了相対レコード番号を基にしたコピー・レコード範囲の限定。
- 既存のファイル・メンバーへのレコードの追加または受け取りファイル・メンバー (MBROPTパラメーター) の内容の置き換え。

エラーの処理: コピー操作中に発生することがある多くの異なるエラー条件の場合にエスケープ・メッセージCPF2817が送られます。常に、エスケープ・メッセージの前に、特定のエラー条件を示す診断メッセージが少なくとも1つは出されます。エラー処理の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックに記載されています。

一時変更: 一時変更はすべてのファイルについて処理されます。

状況メッセージ: CPYFRMIMPFコマンドの実行中に、コピー操作が実行中であることを対話式ユーザーに通知するメッセージCPI2801が状況メッセージとして送られます。状況メッセージが表示されないようにする方法の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックに記載されています。

パフォーマンス: コピーのパフォーマンスを向上させる場合:

1. 取り出しファイルの基礎になっている論理キー付きファイルをすべて削除します。
2. 取り出しファイルの制約およびトリガーをすべて除去します。
3. すべてのレコードをコピーする前に、FROMRCDおよびレコード数オプションを使用して、レコードを何件かコピーしてみることで、取り出しファイルのレコードが正しくコピーされることを確認します。
4. データを正しくコピーすることができることがわかった後で、ERRLVL(*NOMAX)パラメーターを使用します。
5. ERRLVL(*NOMAX)パラメーターが使用された場合には、パフォーマンスを向上させるためにレコードのブロック化が実行されます。レコードのブロック化中にレコードの書き込みでエラーが起こった場合には、コピーされているものとして完了メッセージCPC2955 にリストされるレコードの数は正確でないことがあります。

区切られたデータに関する注釈

1. 区切り文字を空白(' ')文字とすることはできません。
2. 数字フィールドに空白(' ')を入れることはできません。
3. 受け入れファイル中の対応のフィールドより長い取り出しファイル内のフィールドは（右端が）切り捨てられます。
4. 取り出しファイルのデータが受け入れファイルのフィールドのすべてを表していない場合には、その受け入れファイルのフィールドはヌルに設定されます。これが起こって、受け入れファイルのフィールドにヌル値が使用できない場合には、エラーが起こり、レコードは受け入れファイルにコピーされません。
5. 取り出しファイルのヌル・フィールドは、2つの隣接したフィールド区切り文字、2つの隣接したストリング区切り文字、フィールド区切り文字とそれに続くレコード区切り文字、またはすべて空白のフィールドで指定することができます。

固定データでの注: 固定形式ファイルの各フィールドに関する情報は、次の順序になっていなければなりません。

フィールド名	開始位置	終了位置	ヌル文字位置
フィールド 1	1	10	11
フィールド 2	12	15	16
*END			

このフィールド定義ファイルの情報は次のようになります。

1. フィールド 1 は、受け入れファイル中のフィールドの名前です。
2. 開始位置は、コピーされるデータが入っている取り出しファイル中のバイトです。
3. 終了位置は、コピーされるデータが入っている取り出しファイル中のバイトです。
4. ヌル文字位置は、取り出しファイル中のバイトであり、そのフィールドがヌルであるかどうかを示します。「Y」値はフィールドがヌルであることを意味します。「N」の値はフィールドがヌルでないことを意味します。この値が 0 の場合には、ヌル文字は指定されません。
5. *ENDは、フィールド定義ファイルの終わりのための標識です。

上の例のフィールド定義ファイルは次のようになります。

フィールド 1	1	10	11
フィールド 2	12	15	16

*END

制約事項:

- 取り出しファイルと受け入れファイルを同じファイルにすることはできません。
- コピーの前に、受け入れファイルが存在していなければなりません。
- 受け入れファイルは、取り出しファイルと同じ相対レコード番号をもちません。
- 取り出しファイルは、ソース・ファイル、または数値データ・タイプでないフィールドを1つもつ有効なファイルとしなければなりません。
- 取り出しファイルがSHARE(*YES)オプションで定義されているファイルの場合には、予測できない結果が起こることがあります。したがって、ファイルがSHARE(*YES)を指定して定義されている場合には、ユーザーは、コピーの前に、そのファイルがなにかのプロセスでオープンされていないことを確認する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMSTMF	FROMストリーム・ファイル	パス名	オプション、定位置 2
FROMFILE	FROMファイル	要素リスト	オプション、定位置 3
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *ALL	
TOFILE	TO データベース・ファイル	要素リスト	必須、定位置 1
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *FROMMBR, *ALL	
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE, *UPDADD	オプション
STMFLN	STREAM FILEレコード長	整数, *TOFILE	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, *FILE	オプション
RCDDL	レコード区切り文字	文字値, *ALL, *CRLF, *LF, *CR, *LFCR, *EOR	オプション
DTAFMT	インポート・ファイルのレコード様式	*DLM, *FIXED	オプション
STRDLM	ストリング区切り文字	文字値, ", *NONE	オプション
RMVBLANK	ブランクの除去	*NONE, *LEADING, *TRAILING, *BOTH	オプション
FLDDL	フィールド区切り文字	文字値, ,, *TAB	オプション
FLDDFNF	フィールド定義ファイル	要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *ALL	
DECPNT	小数点	*PERIOD, *COMMA	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DATFMT	日付の形式	*ISO , *USA, *EUR, *JIS, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL, *YYMD	オプション
DATSEP	日付区切り記号	/, -, ., ,, *BLANK	オプション
TIMFMT	時刻形式	*ISO , *USA, *EUR, *JIS, *HMS	オプション
TIMSEP	時刻区切り記号	:, ., *BLANK	オプション
FROMRCD	コピー開始レコード番号	要素リスト	オプション
	要素 1: コピー開始レコード番号	符号なし整数, *FIRST	
	要素 2: コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	
ERRLVL	許容エラー	符号なし整数, *NOMAX	オプション
ERRRCDFILE	エラー・レコード・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST , *ALL	
ERRRCDOPT	レコードの置き換えまたは追加	*ADD , *REPLACE	オプション
RPLNULLVAL	ヌル値の置き換え	*NO , *FLDDFT	オプション
IDCOL	列の識別	*GEN , *FROMFLD	オプション

トップ

FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)

データのコピー元のストリーム・ファイルのパス名を指定します。このパラメーターまたはFROMFILEパラメーターのいずれか一方が必要です。

注: ストリーム・ファイルがQSYS.LIBファイル・システムに入っていない場合には、ストリーム・ファイルのデータを入れるために一時物理ファイルが作成されます。この一時ファイルはQRECOVERYに作成されてQACPXXXXXXという名前になります。ここで、XXXXXXはシステムによって生成される名前です。その後で、データは一時ファイルから受け入れファイルにコピーされます。コピーが完了した後に、一時ファイルは削除されます。

パス名 入力ストリーム・ファイルのパス名を指定してください。

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

コピーされたレコードを入れる取り出しファイルおよびファイル・メンバーを指定します。このパラメーターまたはFROMSTMFパラメーターのどちらかが必要です。

取り出しファイルは次のファイル・タイプのいずれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- DDMファイル

- 分散物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 単一形式の論理ファイル
- 1つの（非数値）フィールドがある物理ファイル
- テープ・ファイル。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 コピーされるレコードが入っているファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

*FIRST

取り出しファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。

取り出しファイルのOVRDBF（データベース・ファイル一時変更）コマンドにメンバー名が指定されていない限り、取り出しファイルにメンバーがない場合には、*FIRSTの指定は許されません。

***ALL** 指定された取り出しファイルのすべてのメンバーがコピーされます。磁気テープ・ファイルでは、*ALLは無効です。

名前 使用するファイル・メンバーの名前を指定してください。

トップ

TO データベース・ファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取る出力データベース・ファイルおよびメンバーを指定します。また、出力ファイルは 受け入れファイル としても参照されます。

受け入れファイルは次のファイル・タイプのいずれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- DDMファイル
- 分散物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル

- 外部記述物理ファイル。

これは必須パラメーターです。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 コピーされたレコードを受け取るファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

出力ファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。

受け入れファイルのOVRDBF（データベース・ファイル一時変更）コマンドにメンバー名が指定されていない限り、受け入れファイルにメンバーがない場合には、*FIRSTの指定は許されません。

***ALL** データは区画に分割されたテーブルの適切な受け入れメンバーにコピーされます。*ALLが有効となるのは、区画に分割されたテーブルの場合だけです。

***FROMMBR**

対応する取り出しファイルおよび受け入れファイルのメンバー名が使用されます。

名前 コピーされるレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。指定された名前のメンバーがまだファイル内に存在しない場合には、そのメンバーが作成されます。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

指定された名前のメンバーがすでに存在している場合に、コピー操作でデータベース・ファイル・メンバー内のレコードを置き換えるか、追加するか、あるいは更新するかを指定します。メンバーが存在していない場合には、そのメンバーが作成されてデータベース・ファイルに追加されます。

注: *ADDまたは*UPDADDが指定されて、受け入れファイルにレコードが入っていない場合には、コピー操作は正常に完了します。*REPLACEが指定され、受け入れファイルにレコードが入っていない場合には、コピー操作は異常終了します。

***ADD** コピーされるレコードは既存のメンバー・レコードの終わりに追加されます。

***REPLACE**

コピーされるレコードが既存のメンバー・レコードを置き換えます。

***UPDADD**

システムは、キーが重複しているレコードを更新し、新しいレコードを既存のレコードの終わりに追加します。使用可能な詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックにあります。

トップ

STREAM FILEレコード長 (STMFLLEN)

*DLMがインポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)パラメーターに指定された時には、ストリーム・ファイルのどれかのレコードの最大レコード長であるか、あるいは*FIXFLDがDTAFMTパラメーターに指定された時には、ストリーム・ファイルのすべてのレコードの実際のレコード長です。

***TOFILE**

受け入れファイル・レコードのレコード長が使用されます。

レコード長

ストリーム・ファイルの各レコードに使用される長さを指定します。

トップ

変換元CCSID (FROMCCSID)

取り出しファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***FILE** 取り出しファイルCCSIDが使用されます。取り出しファイルがテープ・ファイルの場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

1-65533

取り出しファイルのCCSIDが65535である時、あるいは取り出しファイルがテープ・ファイルの場合に使用されるCCSIDを指定します。取り出しファイルのCCSIDが65535でないか、あるいは取り出しファイルがテープ・ファイルでない場合には、エラー・メッセージが送信されます。

トップ

レコード区切り文字 (RCDDLML)

取り出しファイルのレコード区切り文字を指定します。

***EOR** レコードの終わり。

***ALL** 改行および行送りの任意の単一文字または2つの文字の組み合わせ。

***CRLF**

改行とそれに続く行送り。

***LF** 行送り。

***CR** 改行。

***LFCR**

行送りとそれに続く改行。

文字値 単一レコードの終わりを指示する単一文字を指定してください。

[トップ](#)

インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)

取り出しファイル内のデータの形式を指定します。

***DLM** データには区切り文字が入っています。ストリング、フィールド、およびレコード区切り文字については、STRDLM、FLDDLML、およびRCDDLMLのパラメーターの説明を参照してください。

***FIXED**

データ形式は固定です。各レコードのデータは固定欄に入っています。データの形式の記述は、FLDDFNFILEパラメーターによって識別されるファイル・メンバーに入っています。

[トップ](#)

ストリング区切り文字 (STRDLM)

コピー元のフィールドのデータについてのストリング区切り文字を指定します。この文字は、取り出しファイル内の文字、日付、時刻、およびタイム・スタンプ・ストリングの開始と終了を指示します。取り出しファイルの作成に使用されるユーティリティによっては、一部のタイプのストリングがストリング区切り文字なしで取り出しファイル内に現れることがあります。

'" 2重引用符(")がストリング区切り文字として使用されます。

***NONE**

区切り文字はストリング区切り文字として不要です。空白文字()は*NONE 値を表します。

文字値 ストリング区切り文字の文字値を指定してください。

[トップ](#)

空白の除去 (RMVBLANK)

空白を除去するのか、あるいは保存するのかを指定します。

***LEADING**

先行空白は除去されます。

***TRAILING**

後書き空白は除去されます。

***BOTH**

先行および後書き空白は除去されます

***NONE**

先行および後書き空白はすべて保存されます。

[トップ](#)

フィールド区切り文字 (FLDDLM)

コピー元レコードのフィールド区切り文字を指定します。この値は、あるフィールドの終わりと次のフィールドの始めを判別するために使用されます。

’; コマ文字はフィールド区切り文字の省略時の名前です。

文字値 フィールド区切り文字の文字値を指定してください。

[トップ](#)

フィールド定義ファイル (FLDDFNFILE)

*FIXFLDが:インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)パラメーターに指定された時に、データの形式を定義するフィールド定義ファイルを指定します。DTAFMT(*FIXFLD)が指定されている場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

フィールド定義ファイルは次のファイル・タイプのどれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- DDMファイル
- 分散物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 1つのフィールドをもつ外部記述物理ファイル。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 固定長フィールド定義が入っているファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

フィールド定義ファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。

名前 使用するフィールド定義ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

小数点 (DECPNT)

取り出しファイルから数字データをコピーする時に使用される小数点文字を指定します。

***PERIOD**

ピリオド(.)が小数点文字として使用されます。

***COMMA**

コンマ(,)が小数点文字として使用されます。

[トップ](#)

日付の形式 (DATFMT)

取り出しファイルから日付フィールドをコピーする時に使用される日付形式を指定します。

***ISO** 国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

***USA** 米国日付形式MM/DD/YYYYが使用されます。

***EUR** 欧州日付形式DD.MM.YYYYが使用されます。

***JIS** 日本工業規格(JIS)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

***MDY** 日付形式MM/DD/YYが使用されます。

***DMY** 日付形式DD/MM/YYが使用されます。

***YMD** 日付形式YY/MM/DDが使用されます。

***JUL** 年間通算日形式YY/DDDが使用されます。

***YYMD**

日付形式YYYYMMDDが使用されます。

[トップ](#)

日付区切り記号 (DATSEP)

日付形式の日付区切り記号を指定します。DATFMTが *ISO, *USA, *EUR,および*JISの場合は固定の日付区切り記号をもつので、区切り記号は無視されます。

'/' 日付区切り文字としてスラッシュが使用されます。

'-' 日付区切り文字としてハイフンが使用されます。

'.' 日付区切り文字としてピリオドが使用されます。

',' 日付区切り文字としてコンマが使用されます。

***BLANK**

日付区切り文字としてブランクが使用されます。

[トップ](#)

時刻形式 (TIMFMT)

取り出しファイルから時刻フィールドをコピーする時に使用される時刻形式を指定します。

- *ISO** 国際標準化機構(ISO)時刻形式**HH.MM.SS**が使用されます。
- *USA** 米国時刻形式**HH:MMXX**が使用されます。ここで、**XX**はAMまたはPMです。
- *EUR** 欧州時刻形式**HH.MM.SS**が使用されます。
- *JIS** 日本工業規格(JIS)時刻形式**HH:MM:SS**が使用されます。
- *HMS** **HH:MM:SS**形式が使用されます。

[トップ](#)

時刻区切り記号 (TIMSEP)

時刻形式の時刻区切り記号を指定します。これらの時刻形式が必要な時刻区切り文字を定義するので、**時刻形式 (TIMFMT)**パラメーターに***ISO**、***USA**、***EUR**、または***JIS**が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

- ':'** 時刻区切り文字としてコロンが使用されます。
- ','** 時刻区切り文字としてピリオドが使用されます。
- *BLANK** 時刻区切り文字としてブランクが使用されます。

[トップ](#)

コピー開始レコード番号 (FROMRCD)

取り出しファイルからどのレコードをコピーするかを指定します。

要素1: コピー開始レコード番号

***FIRST**

コピー操作は、取り出しファイルの最初のレコードから始められます。

1-4294967288

取り出しファイルからコピーする最初のレコードのレコード番号を指定します。

要素2: コピーするレコードの数

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

1-4294967288

取り出しファイルからコピーするレコード数を指定します。このレコード数をコピーする前にファイルの終わり条件に達した場合には、エラー・メッセージは出されず、コピー操作は正常に終了します。

[トップ](#)

許容エラー (ERRLVL)

コピー操作の実行中に許容される、受け入れファイルでの回復可能な読み取りまたは書き込みエラーの最大数を指定します。

***NOMAX**

エラーの最大数が指定されず、すべての回復可能エラーは容認されます。コピー操作は、見つかった回復可能なエラーの数とは無関係に続行されます。

エラー数

許容される回復可能エラーの最大数を指定します。ここで指定された値より1つだけ多い回復可能エラーが起こった場合には、コピー操作は終了します。

[トップ](#)

エラー・レコード・ファイル (ERRRCDFILE)

エラーのレコードを書き込むデータベース・ファイルを指定します。

エラー・レコード・ファイルは、次のファイル・タイプのどれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- DDMファイル
- 分散物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 外部記述物理ファイル。

単一値

***NONE**

エラー・レコード・ファイルを指定しません。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 エラー・レコード・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

エラー・ファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。

名前 エラーが含まれている取り出しファイル・レコードを含めるために使用するエラー・ファイル・メンバーを指定します。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (ERRRCDOPT)

エラー・レコードをエラー・レコード・ファイルに追加する方法を指定します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーをすべて削除し、新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

ヌル値の置き換え (RPLNULLVAL)

インポート・ファイル・レコードのコピー時にヌル・フィールド値を置き換えるかどうかを指定します。

***NO**ヌル値は置き換えられません。インポート・ファイル・レコードの構文解析時にヌル値が検出されると、エラー・メッセージが送られ、コピー操作は失敗します。

***FLDDFT**

インポート・ファイル・レコードの構文解析時にヌル値が検出されると、データベース・ファイル・レコード内の対応するフィールドに、フィールド・タイプに基づいた省略時の値またはDDSの省略時の値が割り当てられます。

[トップ](#)

列の識別 (IDCOL)

欄の値がシステムによって生成されるか、あるいは省略時の値が使用されるかのいずれにしても、受け入れファイルがIDENTITY属性をもつ欄、またはROWIDデータ・タイプをもつ欄が含まれているSQLテーブルであるかどうかを指定します。

***GEN** システム生成の値が「識別」欄または「ROWID」欄に挿入されます。

***FROMFLD**

値がFROMFILEの「識別」欄または「ROWID」欄に存在している場合は、この値がTOFILEの「識別」欄に挿入されます。

[トップ](#)

CPYFRMIMPFの例

例1: 物理ファイルのインポート・ファイルのコピー

```
CHGQRYA  DEGREE(*NBRTASKS 3)
:
CPYFRMIMPF  FROMFILE(IMPFILE)  TOFILE(DB2FILE)
           FLDDL(';')  RCDDL(X'07')
```

DATFMT(*JIS) TIMFMT(*JIS)

照会属性変更(CHGQRYA)は、3つのタスクの平行実行によってコピー処理の実行を可能にするためには、CPYFRMIMPFの前に実行されます。

ファイルIMPFILEのすべてのレコードは外部記述の物理ファイルDB2FILEにコピーされます。取り出しファイルのフィールドはセミコロン(;)文字で区切られます。取り出しファイルの各レコードは16進'07'文字によって区切られます。入力の日付フィールドはYYYY-MM-DD形式です。入力の時刻フィールドはHH:MM:SS形式です。

例2: 磁気テープ・ファイルのインポート・ファイルのコピー

```
OVRTAPF FILE(QTAPE) DEV(TAP02) SEQNBR(3)
:
CPYFRMIMPF FROMFILE(QTAPE) TOFILE(DB2WHS) ERRFILE(IMPERR)
```

磁気テープ・ファイルの指定変更(OVRTAPF)パラメーターは、磁気テープ装置TAP02をコピーの実行に使用する必要があることを指示するためには、CPYFRMIMPFの前に実行されます。取り出しファイルは、TAP02に取り付ける磁気テープの3番目のファイルでなければなりません。

取り出しファイル中のすべてのレコードが外部記述物理ファイルDB2WHSにコピーされます。取り出しファイルのフィールドはコンマ(,)文字で区切られます。入力の日付フィールドはYYYY-MM-DD (ISO)形式です。入力の時刻フィールドはHH.MM.SS (ISO)形式です。エラーを含むことが検出されて、ファイルDB2WHSに追加できない取り出しファイルのレコードはエラー・ファイルIMPERRに追加されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CPYFRMIMPF

*ESCAPEメッセージ

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

[トップ](#)

PC文書からのコピー (CPYFRMPCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PC文書からのコピー(CPYFRMPCD)コマンドは、PC文書のデータをシステム・データベース・ファイルにコピーします。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

エラー・メッセージ: CPYFRMPCD

*ESCAPE メッセージ

IWS1603

PC文書は&6レコードが切り捨てられてファイルにコピーされた。

IWS1611

PC文書&1はコピーされなかった。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFLR	取り出しフォルダー	文字値	必須, 定位置 1
TOFILE	受け入れファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 受け入れファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMDOC	取り出し文書	文字値	必須, 定位置 3
TOMBR	受け入れメンバー	名前, *FIRST, *FROMDOC	オプション, 定位置 4
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	オプション, 定位置 5
TRNTBL	変換テーブル	単一値: *DFT, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 変換テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TRNFMT	PCデータの形式	*TEXT, *NOTEXT	オプション
TRNIGC	DBCSコード・ページ	*DFT, *JPN, *CHT, *BG5, *CHS, *KOR, *KSC, *SCGS, *NONE	オプション
IGCSOSI	SO/SIの挿入	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

取り出しフォルダー (FROMFLR)

コピーするPC文書が入っているフォルダーの名前を指定します。また、このパラメーターは次の形式のフォルダーのパスの名前も指定することができます。

- フォルダー1 / フォルダー2 / フォルダー3 / ... / フォルダーn

パス名の長さは、63桁以内で指定することができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

受け入れファイル (TOFILE)

PC文書をコピーする先の物理データベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

このファイルがソース・ファイルで、PC文書の変換を選択した場合には、ファイルへコピーされる時に順序番号およびゼロのシステム日付が追加されます。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** データベース・ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

取り出し文書 (FROMDOC)

コピーされるPC文書の名前を指定します。名前は次の形式となります。

- ファイル名 . エクステンション

ファイル名は1-8文字で、エクステンションは1-3文字とすることができます。エクステンションは必須ではありません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

受け入れメンバー (TOMBR)

コピーされるPC文書を入れるメンバーの名前を指定します。メンバーが指定されない場合には、ファイルの最初のメンバーが複写されるメンバーとなります。メンバーが存在していない場合には、そのメンバーが作成されます。

***FIRST**

PC文書が最初のメンバーにコピーされます。

***FROMDOC**

コピー中のメンバーはPC文書と同じ名前となります。(PC文書名は正しいシステム・メンバー名でなければなりません。)

メンバー名

PC文書がコピーされるメンバー名を指定します。

トップ

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

コピーされるレコードを物理ファイルに追加するか、または物理ファイルの既存のレコードと置き換えるかを指定します。

***REPLACE**

コピーされるレコードは物理ファイル・メンバーの既存のレコードと置き換えられます。

***ADD** コピーされるレコードは物理ファイル・メンバーの既存のレコードに追加されます。

トップ

変換テーブル (TRNTBL)

変換を実行するかどうか、実行する場合には、ASCIIからEBCDICにデータを変換するために使用する変換テーブルの名前を指定します。

注: ユーザー定義の2バイト文字セットでは、このパラメーターは変換を実行するかどうか、実行する場合には、単一バイト変換に使用する変換テーブルも指定します。

***DFT** 省略時の変換テーブルが使用されます。

変換テーブル名

変換テーブルの名前およびライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** テーブルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

テーブルが入っているライブラリーを指定します。

***NONE**

ASCIIからEBCDICへの変換は行われません。データはバイトごとにコピーされます。

トップ

PCデータの形式 (TRNFMT)

PC文書のレコードの様式を指定します。

変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) に*NONEが指定された場合には、このパラメーターは無効です。

***TEXT** 標準DOS ASCII可変長形式のPC文書レコードは、データベース・ファイルの固定長形式に変換されます。復帰、改行、およびファイルの終わりの各文字は除去されます。組み込みタブ文字は空白に展開され、固定長形式を満たすためにレコードにEBCDIC空白が埋め込まれます。

***NOTEXT**

PC文書のレコードは、コピーされる先の物理データベース・ファイル・レコードと同じ長さの固定長レコードと見なされます。

トップ

DBCSコード・ページ (TRNIGC)

変換に使用される2バイト文字セットを指定します。変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) によって一時変更されないかぎり、このパラメーターも単一バイト変換テーブルを指定します。

***DFT** 省略時の国または地域の2バイト文字セット。

***JPN** IBM日本語。

***CHT** IBM中国語 (繁体字)。

***BG5** 台湾工業規格(BIG-5)。

***CHS** IBM中国語 (簡体字)。

***KOR** IBM韓国語(KS)。

***KSC** 韓国工業規格。

***SCGS**

中華人民共和国国家規格(GB)。

***NONE**

2バイト変換は実行されません。

トップ

SO/SIの挿入 (IGCSOSI)

変換時にシフト・アウトとシフト・イン文字が挿入されるかどうかを指定します。このパラメーターは、2バイト文字セット・ユーザーの場合にだけ有効です。変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) に*NONEが指定された場合には、このパラメーターは無効です。

***YES** 変換時にシフト・アウト文字およびシフト・イン文字が挿入されます。

***NO** 変換時にシフト・アウト文字およびシフト・イン文字は挿入されません。

トップ

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CPYFRMPCD

***ESCAPE** メッセージ

IWS1603

PC文書は&6レコードが切り捨てられてファイルにコピーされた。

IWS1611

PC文書&1はコピーされなかった。

[トップ](#)

PCFファイルからコピー (CPYFRMPCFF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ポータブル・コンパイル済み形式ファイルからのコピー(CPYFRMPCFF)コマンドは、ポータブル・コンパイル済み形式(PCF)ファイルに入っているすべてのユーザー定義のDBCS文字フォントをDBCS文字セット(DBCS)フォント・テーブルにコピーします。コピー操作の実行中に、ドット・マトリックス変換が自動的に実行されます。

次の表にはサポートされるドット・マトリックス変換をリストしています。

変換前DBCS フォント・テーブル	変換後PCFファイル
-----	-----
24 X 24	16 X 16
24 X 24	24 X 24
24 X 24	32 X 32
24 X 24	48 X 48
32 X 32	16 X 16
32 X 32	24 X 24
32 X 32	32 X 32
32 X 32	48 X 48

DBCSフォント・テーブルとPCFファイルの間にはサポートされるユーザー定義DBCS文字の数に差があります。

次の表にはDBCSフォント・テーブルのタイプごとにコピーできるユーザー定義のDBCS文字フォントの最大数をリストしています。

DBCS フォント・テーブル	最大 数	最初の DBCS コード	最後の DBCSコード
-----	-----	-----	-----
日本語	1880	6941	72EA
韓国語	1880	D441	DDEA
中国語 (繁体字)	2660	D041	DDFE
中国語 (簡体字)	1880	7641	7FEA

制約事項: 次の権限が必要です。

1. CPYIGCTBL, CRTPF, CHKIN,およびCHKOUTコマンドに対する*USE権限。
2. 漢字フォント・テーブルに対する*CHANGE権限。
3. PCFファイルのパス名接頭部のディレクトリーに対する*X権限。
4. PCFファイルに対する*RW権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMPCFF	コピー元PCFファイル	パス名	必須, 定位置 1
TOIGCTBL	コピー先漢字フォント・テーブル	QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	必須, 定位置 2
RPLFNT	フォントの置き換え	*NO, *YES	オプション

トップ

コピー元PCFファイル (FROMPCFF)

ユーザー定義のDBCS文字フォントのコピー元のPCFファイルのパス名を指定します。PCFファイルはストリーム・ファイル・オブジェクトであり、UCS-2エンコードを用いたユーザー定義の文字セットでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トップ

コピー先漢字フォント・テーブル (TOIGCTBL)

ユーザー定義のDBCS文字フォントのコピー先のDBCSフォント・テーブルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

QIGC2424

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される日本語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424C

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語（繁体字） DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424K

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される韓国語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424S

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語（簡体字） DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232

32 X 32ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される日本語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232S

32 X 32ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語（簡体字） DBCSフォント・テーブル。

QIGCRRCL

コピーされるDBCSフォント・テーブルの名前は常にQIGCRRCLという形式になっていなければなりません。ここで、RRはテーブル行のマトリックス・サイズで、CCはテーブル列のマトリックス・サイズで、英字Lは任意選択の言語識別コードです。

トップ

フォントの置き換え (RPLFNT)

指定されたDBCSフォント・テーブルのユーザー定義のDBCS文字フォントが、指定されたPCFファイルからのDBCS文字フォントで置き換えられるかどうかを指定します。

***NO** システムは、指定されたDBCSフォント・テーブルのユーザー定義のDBCS文字フォントを指定されたPCFファイルからのDBCS文字フォントで置き換えません。

***YES** システムは、指定されたDBCSフォント・テーブルのユーザー定義のDBCS文字フォントを指定されたPCFファイルからのDBCS文字フォントで置き換えます。

トップ

CPYFRMPCFFの例

例1:既存のフォントを置き換えずにコピー

CPYFRMPCFF

```
'/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF/IBM_JPN17.PCF'  
TOIGCTBL(QIGC2424) RPLFNT(*NO)
```

このコマンドは、ディレクトリー/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF中のIBM_JPN17.PCFという名前の日本語PCFファイル(24 X 24ドット・マトリックス・フォント)に入っているすべてのユーザー定義DBCS文字フォントを日本語DBCS フォント・テーブルQIGC2424 (24 X 24ドット・マトリックス・フォント)にコピーします。DBCSフォント・テーブルで見つからないユーザー定義DBCS文字フォントだけがコピーされます。

例2:ユーザー定義DBCS文字フォントをDBCSフォント・テーブルからPCFファイルにコピーして、既存のフォントを置き換え

```
CPYFRMPCFF '/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF/CHTPC17.PCF'  
TOIGCTBL(QIGC2424C) RPLFNT(*YES)
```

このコマンドは、ディレクトリー/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF中のCHTPC17.PCFという名前の中国語(繁体字)PCFファイル(24 X 24ドット・マトリックス・フォント)に入っているすべてのユーザー定義DBCS文字フォントを中国語(繁体字)DBCSフォント・テーブルQIGC2424C (24 X 24ドット・マトリックス)にコピーします。DBCSフォント・テーブル中のユーザー定義DBCS文字フォントは、PCFファイル中に見つかったものによって置き換えられます。

トップ

エラー・メッセージ: CPYFRMPCFF

*ESCAPEメッセージ

CPFB7A7

&1コマンドがエラーのために終了した。

[トップ](#)

QUERYファイルからのコピー (CPYFRMQRYP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERYファイルからのコピー(CPYFRMQRYP)コマンドは、QUERYファイル・オープン(OPNQRYP)コマンドによってオープンされたファイルの全部または一部を物理プログラム記述印刷装置ファイル、ディスクット・ファイル、DDMファイル、またはテープ・ファイルにコピーし、弊社提供の印刷装置ファイルQSYSVRTを使用し、TOFILEパラメーターに*PRINTを指定することにより、レコードを印刷することができます。

注: DDMファイルの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「分散管理」情報を参照してください。

このコマンドによって、次を行なうことができます。

- MBROPTパラメーターを使用して、レコードを既存の物理ファイル・メンバーに追加するか、あるいは受け取り物理ファイル・メンバーの内容を置き換えます。
- 受け入れファイルのレコード様式と異なるオープンされているQUERYファイルの様式からレコードをコピーし、ソース物理ファイルにコピーする時にレコードを変換します。この様式が異なる場合には、コピー操作によって次を行なうことができます。
 - オープンされているQUERYファイルの様式および受け入れファイルのレコード様式と同じ名前をもつフィールドをマップします。
 - オープンされているQUERYファイルの様式から、受け入れファイルのレコード様式に存在しないフィールドを除去します。
 - オープンされているQUERYファイルの様式と受け入れファイルのレコード様式との相違に関係なく、レコードを直接コピーします。
- TOFILE(*PRINT)が指定された時の印刷出力の形式を選択します。レコードは文字形式または文字形式と16進数形式の両方でリストすることができます (OUTFMTパラメーター)。
- コピー操作の前に受け入れファイルが存在していない場合には、そのファイルがオープンされているQUERYファイルと同じ形式となるように、ファイルを作成します (CRTFILEパラメーター)。オープンされているQUERY様式の各フィールドの名前、タイプ、長さ、および小数点以下の桁数だけが使用されます。
- NBRRCDS(*END)が指定されたか、NBRRCDSパラメーターに特定の数値が指定されたかによって、指定された数のレコードまたはすべてのレコードをオープンされているQUERYファイルからコピーします。

CPYFRMQRYPの詳細説明については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックおよびISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報に示されています。

制約事項:

1. CPYFRMQRYPコマンドによって使用されたQUERYファイル・オープンでは、DDMファイル（OPNQRYPコマンドのFILEパラメーターに指定）を使用してはなりません。
2. メンバーをそれ自身にコピーすることができません。この制約事項は、CPYFRMQRYPコマンドのTOFILEパラメーターおよびTOMBRパラメーターによって指定されたメンバーがOPNQRYPコマンドのFILEパラメーターに指定されたメンバーと同じ名前を持つことができないこと、あるいはメンバーがOPNQRYPコマンドのFILEパラメーターの論理ファイルによって使用される物理ファイル・メンバーと同じ修飾名もつことができないことを意味します。
3. CRTFILE(*YES)パラメーターが指定され、FROMOPNIDパラメーターが関連したトリガーをもつQUERYファイルを識別している時には、作成されるファイル（TOFILEパラメーター）は関連したトリガーをもちません。物理ファイル・トリガー追加(ADDPFTRG)コマンドを使用して、ファイルにトリガーを追加しなければなりません。
4. マルチスレッド・ジョブでは、OPNQRYPコマンドがスレッド・セーフの方法で実行されていない場合、あるいは複数のデータベース・メンバー、装置ファイル（SPOOL(*YES)印刷ファイルを除く）、分散ファイル、または*SNAタイプのDDMファイルにコピーする場合には、このコマンドはスレッド・セーフではありません。このコマンドは、*SNAタイプのリレーショナル・データベースおよび*SNAタイプのDDMファイルを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。スレッド・セーフであるのは、単一のデータベース・ファイル・メンバー（ローカルまたは*IPタイプのDDM）あるいはOPNQRYPコマンドが指定されるSPOOL(*YES)印刷ファイルへのコピーが、スレッド・セーフの方法で実行される時だけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMOPNID	FROM オープン・ファイル識別コード	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOMBR	TOメンバーまたはラベル	名前, *FIRST	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*NONE, *ADD, *REPLACE	オプション
CRTFILE	ファイル作成	*NO, *YES	オプション
OUTFMT	印刷形式	*CHAR, *HEX	オプション
NBRRCDS	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション
FMTOPT	レコード様式フィールドのマッピング	単一値: *NONE, *NOCHK, *CVTSRC その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *MAP, *DROP	オプション
ERRLVL	許容エラー	符号なし整数, 0, *NOMAX	オプション

トップ

FROM オープン・ファイル識別コード (FROMOPNID)

QUERYファイルのオープン識別コードを識別するためにOPNQRYFコマンドで使用された名前を指定します。オープンされていて、OPNQRYFコマンドのOPNIDおよびOPTION パラメーターに指定された入力、更新、またはすべての操作を可能にするQUERYファイルに関連したオープン識別コードを指定しなければなりません。

[トップ](#)

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

注: 装置ファイルはディスクット・ファイル、テープ・ファイル、またはプログラム記述印刷装置ファイルにすることができます。

考えられる値は次の通りです。

*PRINT

データは、システム印刷装置ファイル(QSYSPRT)にコピーされ、印刷形式 (**OUTFMT**)パラメーターに指定された値にしたがって様式設定されます。

弊社提供の印刷装置ファイルQSYSPRTは、別のファイル名に一時変更することはできません。またRPLUNPRT(*YES)およびCTLCHAR(*NONE)属性をもっていなければなりません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

物理ファイルまたは装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

物理ファイルまたは装置ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名

コピーされるレコードを受け取る物理ファイルまたは装置ファイルの名前およびライブラリーを指定してください。ライブラリー修飾子を指定しない場合には、ファイルを見つけるために*LIBLが使用されます。しかし、CRTFILE(*YES)が指定されて、指定されたファイルが見つからない場合には、そのファイル名はライブラリー名で修飾されていなければなりません。物理受け入れファイルが作成された場合には、これは指定したライブラリーに入れられます。

[トップ](#)

TOメンバーまたはラベル (TOMBR)

コピー済みレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定します。

受け入れファイルが印刷装置ファイルの場合には、**TOメンバーまたはラベルプロンプト** (TOMBRパラメーター) に*FIRSTを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

レコードを受け取る物理受け入れファイル・メンバーの名前、あるいはディスク受け入れファイルまたはテープ受け入れファイルのラベル識別コードを指定してください。指定された名前のメンバーが物理受け入れファイルにまだ存在しない場合、コピー操作では、指定された名前のメンバーをそのファイルに追加しようとしています。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

注: コピーが既存の物理ファイルに対するものである場合には、このパラメーターは*ADDまたは*REPLACEのいずれかを指定しなければなりません。受け入れファイルは存在しないが、CRTFILE(*YES)が指定された場合には、コピー操作では、このパラメーターに指定された値とは関係なく、それが作成された後にそのファイルにコピーされるすべてのレコードに対してMBROPT(*ADD) と見なされます。コピーされるレコードは常に、データベース・ファイル・メンバーの終りに追加されます。これはオープンされたQUERYファイルから検索された順序になります。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

パラメーターはこのコピー操作には適用されません。受け入れファイルが既存の物理ファイルである場合には、*NONEを指定することはできません。すなわち、使用される各受け入れファイル・メンバーのレコードの追加または置き換えのいずれかを示すために、*ADDまたは*REPLACEを指定しなければなりません。

***ADD** コピーされたレコードは、使用された各受け入れファイル・メンバーの既存レコードに追加されます。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

ファイル作成 (CRTFILE)

受け入れファイルが存在していない場合に、データを受け取るために物理ファイルが作成されるかどうかを指定します。このコマンドの開始時に受け入れファイルがすでに存在している場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***NO** このコマンドが開始される時には、受け入れファイルが存在していなければなりません。データを受け取るための物理ファイルは作成されません。

***YES** 受け入れファイルが存在していない場合には、**TOファイル**プロンプト(TOFILEパラメーター)で指定された名前の物理ファイルが作成されます。オープンQUERYファイル形式にユーザー定義のタイプ、データ・リンク、またはLOBフィールド・タイプが入っている場合には、作成された物理ファイルがSQLテーブルになります。他のすべてのインスタンスでは、作成された受け入れファイルはSQLテーブルではないデータベース物理ファイルになります。コピー操作で受け入れファイルを作成するには、通常のコピー操作の妥当性検査に加えて、次の特殊な条件がすべて満たされなければなりません。

- **TOファイル**プロンプト (TOFILEパラメーター) にライブラリー名を指定しなければなりません。省略時の値*LIBLは、使用することはできません。
- 別のファイル名またはライブラリー名への一時変更があってはなりません。受け入れファイルについては、このコマンドに指定した値を使用しなければなりません。
- このコマンドを実行するユーザーは、ファイルをTOFILEライブラリーに追加する権限とともに、物理ファイル作成(CRTPF)コマンドに対する操作権限が必要です。

[トップ](#)

印刷形式 (OUTFMT)

レコードを文字形式で印刷するか、あるいは文字および16進数形式の両方で印刷するかどうかを指定します。このパラメーターは、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTが指定されている時にだけ使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***CHAR**

レコードは文字形式で印刷されます。

***HEX** レコードは、文字形式および16進数形式の両方で印刷されます。

[トップ](#)

コピーするレコードの数 (NBRRCDs)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

レコード数

受け入れファイルにコピーされるレコード数を識別する、レコード数を1-4294967288の範囲で指定します。指定されたレコード数がコピーされる前にファイルの終り条件が起こった場合には、コピーされるレコード数が少なくなります。

[トップ](#)

レコード様式フィールドのマッピング (FMTOPT)

オープンされているQUERYファイルが物理受け入れファイルにコピーされる時に実行されるフィールド・レベルのレコード様式処理（それがあった場合）を指定します。受け入れファイルがソース物理ファイルの場合には、このパラメーターに*CVTSRCを指定しなければなりません。オープンされているQUERY様式の文字およびDBCSフィールドの場合のCCSIDは、QUERYファイル・オープン(OPNQRYF)コマンドが実行されるジョブのCCSIDによって決まります。65535以外のすべてのCCSIDは、OPNQRYFコマンドのジョブのCCSIDにリセットされます。ただし、OPNQRYFジョブのCCSIDが65535である場合には、CCSIDは変わりません。オープンされているQUERYファイルの様式が受け入れファイルのレコード様式と同じで、受け入れファイルがデータ物理ファイルである場合には、コピー操作を実行するために、*CVTSRCを除く任意のFMTOPT値を指定することができます。

注: CPYFRMQRYFコマンドを使用する計画がある場合には、OPNQRYFコマンドの実行前にジョブのCCSIDを65535に変更してください。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

コピー操作の実行中にフィールドのマッピングまたは除外は行なわれません。この値は、オープンされているQUERYファイルと受け入れファイルが同じレコード様式をもっている場合か、あるいは受け入れファイルがデータベース・ファイルでない場合にだけ有効です。レコード様式が同じになるのは、すべてのフィールドがオープンされているQUERYファイルと受け入れファイルの両方の様式に存在し、しかもすべてのフィールドが両方の様式で同じ開始桁と属性をもっている場合だけです。属性には、CCSID、フィールドが空値可能であるかどうか、それに日付/時刻の形式および区切り記号（フィールドが日付/時刻フィールドの場合）があります。*NONEが有効で、両方のファイルがデータベース・ファイルである場合には、空値がコピーされます。

***NOCHK**

オープンされているQUERYファイルと受け入れファイルのレコード様式が異なる場合には、その相違を無視してコピー操作が続行されます。レコード・データは、1つのファイルから他のファイルに（左から右へ）直接コピーされます。

***CVTSRC**

この値はソース・ファイルをコピーするために使用されます。この値は受け入れファイルがソース・ファイルの時にだけ有効です。受け入れファイルがソース・ファイルの場合には、順序番号および日付フィールドが追加され、オープンされているQUERYファイルのレコード・データが受け入れファイルの各レコードのソース・データ部分にコピーされます。空値は無視され、日付/時刻データの変換は行なわれません。

***MAP**

オープンされているQUERYファイルと受け入れファイルのレコード様式に同じ名前をもつフィールドはコピーされ、オープンされているQUERYファイルのレコード様式に存在していない受け入れファイルのフィールドは受け入れファイルのデータ記述仕様(DDS)のDFTキーワードに指定された省略時の値（あるいは数字フィールドの場合はゼロ、文字フィールドの場合ブランク、日付/時刻フィールドの場合は現在の日付/時刻、または空値可能フィールドの場合は空値）に設定されます。*MAPが指定されている場合には、*DROPも指定することができます。マップされたフィールドの開始桁は、オープンされているQUERYファイルのレコード様式と受け入れファイルのレコード様式で異なることがあります。

***DROP**

オープンされているQUERYファイルのレコード様式にあるフィールド名で受け入れファイルのレコード様式にないものがある場合には、フィールド・レベルのマッピングでこの値を指定しなければなりません。*DROPが指定されている場合には、*MAPも指定することができます。*DROPが指

定されている時には、両方のレコード様式に存在するすべてのフィールド名がオープンされている QUERYファイルと受け入れファイルのレコード様式で同じ属性および相対位置をもつようにするか、あるいは*MAPも指定しなければなりません。

トップ

許容エラー (ERRLVL)

コピー操作の実行中にファイルで許される回復可能な読み取りエラーまたは書き出しエラーの最大数を指定します。回復可能なエラー・カウントがCPYFRMQRYPFの各操作の始めにリセットされます。扱われる回復可能なエラー数がERRLVLパラメーターに指定された数より大きい場合には、コピー操作が終了して、メッセージが送信されます。

考えられる値は次の通りです。

0 回復可能エラーが起こった場合には、コピー操作は終了します。

*NOMAX

エラーの最大数が指定されません。すべての回復可能エラーは受け入れられます。コピー操作は、見つかった回復可能なエラーの数とは無関係に続行されます。

エラー数

コピー操作で許される回復可能エラーの最大数を示す値を指定してください。1つのエラーまたはここに指定された値より多いエラーが起こった場合には、コピー操作が終了します。

トップ

CPYFRMQRYPFの例

例1: レコードのサブセットがあるファイルの作成

```
OPNQRYPF FILE(CUSTOMER/ADDRESS) QRYSLT('STATE *EQ "TEXAS"')
:
CPYFRMQRYPF FROMOPNID(ADDRESS) TOFILE(TEXAS/ADDRESS)
          CRTFILE(*YES)
```

これらのコマンドは、STATEフィールドでTEXASの値をもつ、レコードが含まれるCUSTOMER/ADDRESSファイルからファイルを作成します。

例2: 選択ベースのレコードの印刷

```
OPNQRYPF FILE(FILEA) QRYSLT('CITY *EQ "CHICAGO"')
:
CPYFRMQRYPF FROMOPNID(FILEA) TOFILE(*PRINT)
```

これらのコマンドは、CITYフィールドの値がCHICAGOであるFILEAからすべてのレコードを印刷します。

例3: ディスケットへのレコードのサブセットのコピー

```
OPNQRYPF FILE(FILEB) QRYSLT('FIELD B *EQ "10"') OPNID(MYID)
:
CPYFRMQRYPF FROMOPNID(MYID) TOFILE(DISK1)
```


これらのコマンドは、FIELD Bの値が10であるFILE Bからのすべてのレコードをディスク・ファイルにコピーします。

例4: 動的結合からの出力のコピーの作成

ユーザーがFILE AおよびFILE Bの形式とデータをもつ物理ファイルを作成したいものとします。このファイルには、次のフィールドが含まれているものとします。

```
FILEA      FILEB      JOINAB
-----      -----      -
CUST       CUST       CUST
NAME       AMT        NAME
ADDR                      AMT
OPNQRYF   FILE(FILEA FILEB)  FORMAT(JOINAB)
          JFLD((FILEA/CUST FILEB/CUST))
          MAPFLD((CUST 'FILEA/CUST'))  OPNID(QRYFILE)
:
CPYFRMQRYF FROMOPNID(QRYFILE)  TOFILE(MYLIB/FILEC)
          CRTFILE(*YES)
```

これらのコマンドはFILE AとFILE Bを結合して、その結果のコピーを、新規の物理ファイルMYLIB/FILE Cに保管します。ファイルの形式はJOIN ABと類似しています。このファイルには、CUSTフィールドを使用したFILE AとFILE Bの結合からのデータが含まれます。ライブラリーMYLIBのファイルFILE Cは、CLコマンド（たとえば、物理ファイル・メンバーの表示(DSPPFM))およびユーティリティー（たとえば、QUERY/400)によって他の物理ファイルと同じように処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ: CPYFRMQRYF

*ESCAPEメッセージ

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2858

印刷出力のファイル属性が正しくない。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2864

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2883

ライブラリー&2にファイル&1を作成中にエラー。

CPF2888

エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。

CPF2909

&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF2975

キー付きファイルからの読み取り中にエラー。

CPF2976

エラーの数がERRLVL値より大きい。

CPF3140

メンバー&2の初期設定またはコピーが取り消された。

CPF3143

メンバー&2に増分値を使用することはできない。

CPF3148

新しいレコードのためにメンバー&2に必要なスペースが多すぎる。

CPF3150

メンバー&2のデータベース・コピーが正常に行なわれなかった。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

[トップ](#)

ストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ストリーム・ファイルからのコピー (CPYFRMSTMF)コマンドは、ストリーム・ファイルのデータをデータベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルにコピーします。データベース・ファイル・メンバーをコピーする時に、任意選択のデータの変換および形式変更が実行されます。このコマンドを使用して、リモート・システムとの間でデータベース・ファイル・メンバーをコピーすることはできません。データベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルに有効な指定変更は、このコマンドでは使用されません。

このコマンドは、通常のファイルおよび/DEV/NUL文字特殊ファイルで操作することができます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

注: 作成されたデータベース・ファイル・メンバーの順序番号が違っている場合があります。順序番号の順序づけが必要な機能を使用する場合には、SRCOPT(*SEQNBR)パラメーターを指定して、メンバーの物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)コマンドを使用してください。

制約事項:

1. データベース・メンバーのパス名は、**名前.オブジェクト・タイプ**の形式でなければなりません。たとえば、**/QSYS.LIB/LIBA.LIB/FILEA.FILE/MBRA.MBR**は、QSYS.LIBファイル・システムに必要な形式です。
2. 保管ファイルのパス名は**名前.オブジェクト・タイプ**の形式でなければなりません。たとえば、**/QSYS.LIB/LIBA.LIB/SAVEFILEA.FILE**はQSYS.LIBファイル・システムに必要な形式です。
3. 次の権限が必要です。
 - データベース・ファイル、保管ファイル、ストリーム・ファイル、または変換テーブルの、パス名接頭部のディレクトリーに対する実行(*X)権限。
 - ストリーム・ファイルに対する読み取り(*R)権限。
 - データベース・ファイルに対する次の権限のいずれか。
 - MBROPT(*ADD)を実行する*Xおよび追加(*ADD)
 - MBROPT(*REPLACE)を実行する*X,オブジェクト管理(*OBJMGT), *ADD,および削除(*DLT)
 - データベース・ファイルに新しいメンバーを作成するためには、次の権限が必要です。
 - データベース・ファイルに対する*X, *OBJMGT,および*ADD。
 - データベース・ファイルが入っているディレクトリーに対する*Xおよび*ADD。
 - 保管ファイルがすでに存在する場合の保管ファイルに対する読み取り、実行(*RX), *OBJMGT,および*ADD。
 - 保管ファイルがまだ存在しない場合の保管ファイルの親ディレクトリーに対する*RXおよび*ADD。
 - 変換テーブルが指定されている場合には、その変換テーブルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMSTMF	FROMストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 1
TOMBR	TO ファイル・メンバーか保管ファイル	パス名	必須, 定位置 2
MBROPT	メンバー・オプション	<u>*NONE</u> , *ADD, *REPLACE	オプション
CVTDTA	データ変換オプション:	<u>*AUTO</u> , *TBL, *NONE	オプション
STMFCODPAG	ストリーム・ファイル・コード・ページ	1-32767, <u>*STMF</u> , *PCASCII	オプション
DBFCCSID	データベース・ファイル CCSID	1-65533, <u>*FILE</u>	オプション
TBL	変換テーブル	パス名	オプション
ENDLINFMT	行の終わり文字	<u>*ALL</u> , *CRLF, *LF, *CR, *LFCR, *FIXED	オプション
TABEXP	タブ拡張文字	<u>*YES</u> , *NO	オプション

トップ

FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)

データのコピー元のストリーム・ファイルのパス名を指定します。このコマンドは、タイプ*STMFおよび/DEV/NUL文字特殊ファイルで操作することができます。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

TO ファイル・メンバーか保管ファイル (TOMBR)

データベース・ファイル・メンバーまたはデータがコピーされる保管ファイルのパス名を指定します。パス名のすべてのディレクトリーが存在しなければなりません。

保管ファイルにコピーする時に、存在しない場合には保管ファイルが作成されます。

データベース・ファイル・メンバーにコピーする時には、データベース・ファイルが存在しなければなりません。メンバーが存在しない場合には作成されます。ファイルはソース物理ファイルまたはプログラム記述物理ファイルのいずれかになります。複数のデータ・フィールドをもつソース物理ファイルはサポートされていません。

データベース・ファイルがソース物理ファイルであった場合には、レコードがデータベース・ファイル・メンバーにコピーされた時に、順序番号およびゼロの日付が各レコードに追加されます。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

[トップ](#)

メンバー・オプション (MBROPT)

TO ファイル・メンバーか保管ファイル (TOMBR)パラメーターで指定されたオブジェクトがすでに存在している場合には、コピー操作で置き換えるか、追加するか、あるいは失敗させるかを指定します。オブジェクトが存在していない場合には、これが作成されます。

***NONE**

オブジェクトが存在している場合には、レコードはコピーされず、操作は失敗します。

***ADD** コピーされたレコードは、既存のレコードの終わりに追加されます。

***REPLACE**

コピーされたレコードは、既存のレコードを置き換えます。

[トップ](#)

データ変換オプション： (CVTDTA)

データをストリーム・ファイルからデータベース・ファイル・メンバーに変換するための処理を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

***AUTO**

データは、コピー操作の実行中に、ストリーム・ファイルのコード化文字セット識別コード (CCSID)およびデータベース・ファイルのCCSIDを使用して変換されます。1バイト、2バイト、および混合文字セットがサポートされています。ストリーム・ファイル・データのコード・ページは **ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)**パラメーターで指定しなければならず、データベース・ファイルのCCSIDは**データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)**パラメーターで指定しなければなりません。

***TBL** データは、変換テーブルを使用して変換されます。1バイト文字セットだけがサポートされています。変換テーブルは、**変換テーブル (TBL)**パラメーターで指定しなければなりません。

***NONE**

ソース物理ファイルへの順序番号および日付の挿入と、指定された行形式設定文字のストリーム・ファイルからの任意選択の除去だけが実行されます。その他の文字のストリーム・ファイルのコード・ページからデータベース・ファイルのCCSIDへの変換は実行されません。

[トップ](#)

ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)

ストリーム・ファイルのコード・ページを入手する方法を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

***STMF**

ストリーム・ファイルと関連したコード・ページが使用されます。

***PCASCII**

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、コピーするファイルに関連したコード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT, およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。データ変換が必要な場合には、このコード・ページが使用されます。データがMICROSOFT WINDOWSを使用して作成された場合には、このオプションによりデータを適切に変換できます。

たとえば、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページが37の場合には、ストリーム・ファイル・データはデータ変換のコード・ページ1252にあると見なされます。

1-32767

ストリーム・ファイルのコード・ページを指定してください。

トップ

データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)

データベース・ファイルのCCSIDを入手する方法を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

***FILE** データベース・ファイルのCCSIDが65535でなければ、それが使用されます。データベース・ファイルのCCSIDが65535で、ファイルがプログラム記述ファイルでない場合には、操作は失敗します。データベース・ファイルのCCSID が65535であり、そのファイルがプログラム記述ファイルである場合には、省略時のジョブCCSIDが使用されます。

1-65533

データベース・ファイルのコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定してください。このオプションは、データベース・ファイルのCCSIDが65535であるか、または指定されたCCSIDと同じであった場合にだけ有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

トップ

変換テーブル (TBL)

ストリーム・ファイルからデータベース・ファイル・メンバーへのデータの変換に使用される変換テーブルのパス名を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターは必須であり、有効となるのはCVTDTA(*TBL)が指定された場合だけです。このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

トップ

行の終わり文字 (ENDLINFMT)

レコードのコピー時にストリーム・ファイル内で認識される行の終わり文字を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

レコードがデータベース・ファイルにコピーされた時には、すべてのレコードが固定長様式に変換されます。この固定長は、レコードがコピーされる先のデータベース・ファイル・レコードの長さと同じになります。行の終わり文字の1つのオプションが選択された (ENDLINFMT(*FIXED)が指定されない) 場合には、ストリーム・ファイルはその文字の最初のオカレンスまで読み取られます。行の終わり文字はレコードから取り除かれます。レコードの残りの部分には空白が埋め込まれます。データは、宛先データ形式に変換され (それが指定された場合)、データベース・ファイル・メンバーにコピーされます。レコードが長すぎて固定長様式では入り切れない場合には、切り捨てられてから、コピーされます。

***ALL** 改行および行送りの単一または二重文字の組み合わせが各行の終わりに付加されます。

***CRLF**

改行に続いて行送りが各行の終わりに付加されます。

***LF** 行送りが各行の終わりに付加されます。

***CR** 改行が各行の終わりに付加されます。

***LFCR**

行送りに続いて改行が各行の終わりに付加されます。

***FIXED**

ストリーム・ファイルのテキスト行は、コピー先のデータベース・ファイルのレコードと同じ長さの固定長レコードとみなされます。見つかったCR, LF,またはEOF文字は、いずれもストリーム・ファイルからは取り除かれませんが、**タブ拡張文字 (TABEXPN)**パラメーターは無効です。ストリーム・ファイルの最後のレコードでデータベース・ファイル・レコードが充てんされない場合には、そのレコードに空白が埋め込まれます。

このオプションには、結果としてデータのレコード長を拡張させることのない、互換性のあるエンコード・スキームをもったストリーム・ファイルおよびデータベース・ファイルだけが有効です。互換性のないエンコード・スキームの組み合わせが検出された場合には、操作は正常に実行されません。

次のエンコード・スキームの組み合わせがサポートされています。

- 1バイトから1バイト
- 2バイトから2バイト
- 混合ASCIIから混合ASCII
- 混合EBCDICから混合EBCDIC

[トップ](#)

タブ拡張文字 (TABEXPN)

組み込みタブ文字を次の8文字のタブ位置まで空白で拡張するかどうかを指定します。

このパラメーターは、保管ファイルにコピーする時には無視されます。

***YES** タブ文字は、データベース・ファイル・メンバーにコピーされません。見つかったタブ文字は、すべて次のタブ位置まで空白で拡張されます。

注: ENDLINFMT(*FIXED)を指定した場合には、*YESはこのパラメーターに有効な値ではありません。

*NO タブ文字は、データベース・ファイル・メンバーにコピーされません。タブ拡張は起こりません。

トップ

CPYFRMSTMFの例

例1: 自動変換を使用したストリーム・ファイルからデータベース・ファイルへのデータのコピー

```
CPYFRMSTMF FROMSTMF('STMF.TXT')
           TOMBR('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBR')
```

このコマンドは、現行作業ディレクトリーのストリーム・ファイルSTMF.TXTに入っているデータをデータベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBRにコピーします。データの自動変換は、ストリーム・ファイル・データのコード・ページとデータベース・ファイルのCCSIDを使用して行われます。CRとLFの1バイトまたは2バイト文字の組み合わせは、ストリーム・ファイルの行の終わりとして認識され、組み込みタブは次のタブ位置まで空白を埋めて拡張されます。これらが省略時の値であるためです。メンバーMYMBR.MBRがファイルに存在しない場合には、それが作成されます。メンバーMYMBR.MBRが存在する場合には、MBROPT(*NONE)が省略時の値であるため、レコードはコピーされません。

例2: 変換テーブルを使用したストリーム・ファイルからデータベース・ファイルへのデータのコピー

```
CPYFRMSTMF FROMSTMF('FINANCE.NEW')
           TOMBR('/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR')
           CVTDTA(*TBL) STMF CODPAG(437)
           TBL('/QSYS.LIB/QUSRSYS.LIB/TBL1.TBL')
           ENDLINFMT(*CRLF) TABEXP(*NO)
```

このコマンドは、現行作業ディレクトリーのストリーム・ファイルFINANCE.NEWに入っているデータをデータベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR にコピーします。ストリーム・ファイルのデータは、ディレクトリー/QSYS.LIB/QUSRSYS.LIBに入っているユーザー指定の変換テーブルTBL1.TBLを使用して変換されます。CRとLFの2バイト文字の組み合わせは、ストリーム・ファイルの行の終わりとして認識されます。組み込みタブは、空白で拡張されません。行形式設定文字は、STMF CODPAG パラメーターで指定されたコード・ページ437から認識されます。

例3: データ変換なしのストリーム・ファイルからデータベース・ファイルへのデータのコピー

```
CPYFRMSTMF FROMSTMF('FINANCE.NEW')
           TOMBR('/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR')
           CVTDTA(*NONE) ENDLINFMT(*FIXED)
```

このコマンドは、現行作業ディレクトリーのストリーム・ファイル'FINANCE.NEW'に入っているデータを、データ変換なしでデータベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBRにコピーします。ストリーム・ファイル・データの各行は、データベース・レコードと同じ長さの固定長のレコードとみなされます。TABEXP(*NO)が指定されているので、見つかったタブ文字はコピー中に空白には拡張されません。ストリーム・ファイルとデータベース・ファイルのエンコード・スキームが異なる場合には、コピーは終了してエラー・メッセージが出されます。

例4: ストリーム・ファイルから保管ファイルへのデータのコピー

```
CPYFRMSTMF FROMSTMF('/MYDIR/SOFTWARE')  
           TOMBR('/QSYS.LIB/PACKAGE.LIB/SOFTWARE.FILE')
```

このコマンドは、ストリーム・ファイル/MYDIR/SOFTWAREに入っているデータを保管ファイル/QSYS.LIB/PACKAGE.LIB/SOFTWARE.FILE にコピーします。ストリーム・ファイル・データは、長さが528の固定長レコードとしてコピーされます。行形式設定文字は挿入されず、データ変換も実行されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CPYFRMSTMF

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA095

ストリーム・ファイルはコピーされなかった。

[トップ](#)

テープからのコピー (CPYFRMTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープからのコピー(CPYFRMTAP)コマンドは、テープ・ファイルから出力ファイルまたは印刷装置にレコードをコピーします。

取り出しファイルはテープ・ファイルでなければなりません、受け入れファイルは物理ファイル、ディスクセット・ファイル、テープ・ファイル、またはプログラム記述印刷装置ファイルとすることができます。ファイル中のレコードの印刷リストを作成するためには、**TOファイルプロンプト** (TOFILEパラメーター) に*PRINT を指定することができます。

このコマンドは、ファイル・コピー(CPYF)コマンドで使用可能なパラメーターのサブセットをよりテープに限定されたパラメーターと一緒に提供します。

このコマンドで使用できないパラメーターが必要になった場合には、取り出しファイルまたは受け入れファイルに対する一時変更を使用するか、あるいはファイル・コピー(CPYF)コマンドを使用することができます。

このコマンドの1回の呼び出しで、テープ・ファイルを1つだけ (順序番号1つ分) をコピーすることができます。

コマンドの開始時には、受け入れファイルが存在しなければなりません。このコマンドは受け入れファイルを作成しませんが、その受け入れファイルにメンバーがまだ存在しない場合に、既存の物理ファイルにメンバーを追加します。

制約事項:

1. ファイルのオープン・データ・パス(ODP)は、コピー操作中にジョブ (経路指定ステップ) の他のプログラムと共用することはできません。
2. ラベルなしテープは、1/4インチまたは8MMカートリッジ装置に複写することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	テープ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テープ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMSEQNBR	順序番号	1-16777215, *TAPF, *NEXT	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FROMLABEL	テープ・ラベル	文字値, *TAPF , *NONE	オプション
TOMBR	メンバー	名前, *FROMLABEL , *FIRST	オプション
FROMDEV	装置	単一値: *TAPF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
FROMREELS	コピー元リール	要素リスト	オプション
	要素 1: ラベル処理タイプ	*TAPF , *SL, *NL, *NS, *BLP, *LTM	
	要素 2: リールの数	1-255, *TAPF	
FROMRCLEN	レコード長	整数, *TAPF , *CALC	オプション
FROMENDOPT	テープ終了オプション	*TAPF , *REWIND, *UNLOAD, *LEAVE	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*NONE , *ADD, *REPLACE	オプション
OUTFMT	印刷形式	*CHAR , *HEX	オプション
FROMVOL	ボリューム識別コード	単一値: *TAPF , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
FROMBLKLEN	ブロックの長さ	1-524288, *TAPF , *CALC	オプション
FROMRCDBLK	レコード・ブロックのタイプ	*TAPF , *F, *FB, *V, *VB, *D, *DB, *VS, *VBS, *U	オプション
NBRRCDS	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション

トップ

テープ・ファイル (FROMFILE)

コピーされるレコードが入っているテープ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

トップ

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

受け入れファイル名

コピーされるレコードを受け入れる物理ファイルまたは装置ファイルの名前を指定してください。

トップ

順序番号 (FROMSEQNBR)

コピーされたテープ・ファイルの順序番号を指定します。

取り出しファイルのテープが標準ラベルをもつ時には、ファイル順序番号は、データ・ファイルの最初の見出しラベルから読み取られます。ラベル迂回処理が取り出しファイルに指定される（すなわち、FROMREELS(*BLP)がこのコマンドに、あるいはテープ・ファイルを記述するために使用されるコマンドに指定される）時、あるいは標準ラベルのテープが使用されていない場合には、システムはこのパラメーターに指定されたテープ・マークおよび値を使用して、コピーされる正しいデータ・ファイルを検出します。

***TAPF** コピーされるファイルを指示するために、テープ・ファイルまたは一時変更に指定された順序番号が使用されます。

*NEXT

テープ上の次のファイルが処理されます。テープが現在最初のファイルより前に位置づけられている場合には、テープ上の最初のファイルが処理されます。

順序番号

テープ上のコピーされるファイルの順序番号を指定します。ラベル付きテープの場合には、FROMLABELで指定されたラベルがこの順序番号で見つかる必要があります。有効な順序番号の範囲は1から16777215までです。

[トップ](#)

テープ・ラベル (FROMLABEL)

テープからコピーするファイルのデータ・ファイル識別コードを指定します。指定されたファイル識別コードは、FROMSEQNBRパラメーターに指定された順序番号で検出されなければなりません。

***TAPF** コピーされるテープ・ファイルを識別するために、テープ・ファイル記述または一時変更中のファイル識別コードが使用されます。

*NONE

ファイル識別コードを指定しません。どのラベル識別コードも受け入れられます。

データ・ファイル識別コード

取り出しテープ・ファイルからコピーされるファイル・ラベルの名前を指定してください。ラベルは、最大17文字の長さにすることができます。

総称*データ・ファイル識別コード

テープ取り出しファイルからコピーされるファイル・ラベルの総称名を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (TOMBR)

コピー済みデータ・レコードを受け取る受け入れファイル中のデータベース・ファイル・メンバー名、あるいはディスクまたはテープ・ファイルのラベル識別コードを指定します。 **TO**ファイルプロンプト (TOFILEパラメーター) に*PRINTを指定した場合には、このパラメーターに*FIRSTまたは*FROMLABELを指定しなければなりません。

***FROMLABEL**

FROMLABELおよびFROMSEQNBRパラメーターによって指定されたファイルは、受け入れファイルの対応するメンバーまたはラベルにコピーされます。

取り出しファイル・テープ・ラベル識別コードの名前は、物理受け入れファイル、ディスク受入れファイル、またはテープ受け入れファイルのメンバーまたはラベル識別コードとして使用されます。受け入れファイルがディスクまたはテープ・ファイルである場合には、取り出しファイルのラベル識別コードは変更なしで使用されます。

受け入れファイルがデータベース・ファイルである場合には、取り出しファイル・ラベルのすべての連続ブランクの前に現われる最後の10桁が、受け入れファイルのメンバー名として使用されます。すべての連続ブランクの前に現われる最後の10桁が正しくない場合には、最後のピリオド(.)の右側の文字が受け入れファイルのメンバー名に使用されます。

取り出しファイルがラベルなしテープ・ファイルである場合には、テープの取り出しファイルのデータ・ファイルと対応した受け入れファイル・メンバーまたはラベル名がCPYNNNNの形式で作成されます。ここでNNNNはデータ・ファイルのテープ順序番号です。受け入れファイルがテープまたはディスク装置ファイルである場合には、装置ファイル記述または一時変更のラベルが使用されます。

***FIRST**

物理受け入れファイルの最初のメンバーがコピー済みレコードを受け取ります。

受け入れメンバー名

コピーされるレコードを受け取る物理受け入れファイルの名前またはディスクまたはテープ受け入れファイルのラベル識別コード名を指定してください。テープ・ラベル識別コードが10桁より長い、あるいは特殊文字が入っている場合には、CPYFRMTAP コマンドの開始の前に、CRTTAPF、CHGTAPF、またはOVRTAPFコマンドにこれを指定しなければなりません。

トップ

装置 (FROMDEV)

テープ取り出しファイルのコピー元の、最大4つのテープ装置または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定します。

***TAPF** 使用される装置を指示するために、テープ・ファイルに指定された値が使用されます。

装置名 取り出しファイルからのレコードのコピー時に使用する、最大4つのテープ装置または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。装置名を指定する順序は、装置上のテープが連続して読み取られる順序です。それぞれの装置は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。

トップ

コピー元リール (FROMREELS)

取り出しファイルが入っているテープ・リールで使用されるラベル付けのタイプを指定します。このパラメーターに指定されるテープ・リール数の値は標準ラベルのテープの限定値ではありません。標準ラベル・テープの場合、テープのラベルは、処理されるボリュームの数を制限するファイルの終り条件を指示します。リール数の情報が使用されるのは、指定されたボリューム識別コードのリストがない場合、および取り出しファイルが*NL、*NSまたは*BLPのいずれかである場合だけです。リール数の値が使用される時には、ラベ

ル付きのテープに取り出しファイルが存在する場合に、その装置に入っているボリューム上のボリューム識別コードは無視されます。その場合には、操作員はそのリールが装置に入っている順序を検査しなければなりません。

ラベル・タイプに使用できる値は次の通りです。

- *TAPF** 取り出しファイル用にテープ・ファイルまたは一時変更指定された値がラベル・タイプ値に使用されます。
- *SL** 各テープ・ボリュームに標準ラベルが付いています。
- *NL** どのテープ・ボリュームにもラベルはありません。テープ上の各データ・ファイルの終りを示すためにテープ・マークが使用されます。
- *NS** 各テープ・ボリュームに標準外ラベルが付いています。標準外テープ・リール（ボリューム）には、1つのデータ・ファイルしか存在することはできません。
- *BLP** 取り出しファイルのボリュームのコピーの際に、標準ラベル処理は省略されます。
- *LTM** 取り出しファイルのボリュームにはラベルがありませんが、テープの最初のファイルの前に、1つの先行テープ・マークがあります。

リールの数に使用できる値は次の通りです。

- *TAPF** 使用されるリール数の値は、取り出しファイル用にテープ・ファイルまたは一時変更指定された値です。

リール数

使用されるリールの最大数を指定してください。テープの終りに達した時に次のリールが装置にならない場合には、装置に次のテープを取り付けるように要求するメッセージが操作員に送られます。

トップ

レコード長 (FROMRCLEN)

テープの取り出しファイルに入っているレコードの長さ（バイト数）を指定します。*NS、*NL、*BLP、または*LTMテープの場合、またはHDR2ラベルなしテープの場合には、このコマンドまたはテープ・ファイル・コマンドにこのパラメーターを指定しなければなりません。*SLテープの場合には、レコード長はそのラベル自身から取り出されます。

- *TAPF** テープ・ファイルまたは一時変更で定義されたレコード長が使用されます。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

レコード長

テープ取り出しファイルのレコード長として使用される1-32767の範囲の値を指定してください。レコード長は、ブロックの長さおよびレコードのブロック形式パラメーター値と矛盾しないものでなければなりません。

トップ

テープ終了オプション (FROMENDOPT)

テープ・ファイルがクローズされる時に取り出しファイル・テープの最後のボリュームに対して自動的に実行される位置指定操作を指定します。複数ボリューム・テープの取り出しファイルの場合には、このパラメーターは最後のリール（ボリューム）にだけ適用されます。中間にあるボリュームはすべて位置指定属性として*UNLOADでコピーされます。

***TAPF** テープの位置設定は、装置ファイルまたは一時変更で指定された値にしたがって行なわれます。

***REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

***NONE**

パラメーターはこのコピー操作には適用されません。受け入れファイルが既存の物理ファイルである場合には*NONEは使用できません。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

印刷形式 (OUTFMT)

レコードを文字形式で印刷するか、あるいは文字および16進数形式の両方で印刷するかどうかを指定します。このパラメーターは、**TOファイル (TOFILE)**パラメーターに*PRINTが指定されている時にだけ使用されます。

***CHAR**

レコードは文字形式で印刷されます。

***HEX** レコードは、文字形式および16進数形式の両方で印刷されます。

ボリューム識別コード (FROMVOL)

(テープ) 取り出しファイルからレコードをコピーする際に使用するテープのボリューム識別コード (1つまたは複数) を指定します。これらのボリュームは、識別コードが指定されたのと同じ順序 (および装置名がFROMDEVパラメーターに指定されたのと同じ順序) で装置に入れなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数の値を入力するために追加の入力フィールドが必要な場合には、「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

***TAPF** テープ・ファイルまたは一時変更に指定された値が使用されます。

*NONE

このファイルにはテープ・ボリューム識別コードは指定されません。正しいラベル・タイプのボリュームがテープ装置に入れられたことを検査する以外のボリュームのチェックは実行されません。

ボリューム識別コード

テープ・ファイルのコピー元となる最大50個のボリューム識別コードを指定してください。ボリュームの識別コードは、装置にある順序と同じ順序で入力しなければなりません。

トップ

ブロックの長さ (FROMBLKLEN)

テープ取り出しファイルから転送されるデータ・ブロックの長さ (バイト数) を指定します。標準外またはラベルなしテープの場合、ラベル処理が迂回されたテープの場合、あるいはHDR2ラベルなしテープの場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。標準ラベルのテープの場合には、ブロックの長さはそのラベル自身から取り出されて、このパラメーターは無視されます。

***TAPF** テープ・ファイルまたは一時変更からのブロック長の値が使用されます。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

ブロック長

テープの取り出しファイルの各ブロックの長さを指定する18-524288の範囲の値を指定します。ブロックの長さは、レコードの長さおよびレコードのブロック形式の値と矛盾するものであってはいけません。

トップ

レコード・ブロックのタイプ (FROMRCDBLK)

取り出しテープ・ファイルの中のレコード・ブロック形式およびレコードの属性が使用されます。

***TAPF** テープ・ファイルまたは一時変更からのレコード・ブロック形式の値が使用されます。

***F** EBCDIC形式またはASCII形式の固定長非ブロック化レコードが使用されます。

***FB** EBCDIC形式またはASCII形式の固定長ブロック化レコードが使用されます。

***V** EBCDIC形式の可変長非ブロック化レコードが使用されます。

- *VB EBCDIC形式の可変長ブロック化レコードが使用されます。
- *D ASCIIタイプD形式の可変長非ブロック化レコードが使用されます。
- *DB ASCIIタイプD形式の可変長ブロック化レコードが使用されます。
- *VS 可変長スパン・レコードが使用されます。
- *VBS 可変長スパン・ブロック化レコードが使用されます。
- *U 未定義の形式のレコードが使用されます。

[トップ](#)

コピーするレコードの数 (NBRRCDS)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

***END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

レコード数

受け入れファイルにコピーされるレコード数を識別する、レコード数を1-4294967288の範囲で指定します。指定されたレコード数がコピーされる前にファイルの終り条件が起こった場合には、コピーされるレコード数が少なくなります。

[トップ](#)

CPYFRMTAPの例

例1: コピーされたレコードの既存レコードへの追加

```
CPYFRMTAP FROMFILE(QTAPE) TOFILE(DEPT/YTDSALES)
          FROMSEQNBR(3) FROMLABEL(DAILY)
          FROMDEV(QTAPE1) MBROPT(*ADD)
```

このコマンドは、磁気テープ装置ファイルQTAPEを使用して磁気テープからレコードをコピーします。装置QTAPE1でDAILYのラベルをもつ順序番号3のデータ・ファイルがコピーされます。レコード長やレコード・ブロック形式などのデータ・ファイルの特定の属性は、そのテープ上のラベルからシステムによって判別されます。レコードはメンバーDAILY中の既存のレコードに追加され、これは、ファイルYTDSALES中の、パラメーターの省略時の値(TOMBR(*FROMLABEL))によって暗示され、これはライブラリーDEPT中にあります。

例2: 既存レコードの置き換え

```
CPYFRMTAP FROMFILE(QTAPE) TOFILE(MYLIB/KEN) FROMSEQNBR(2)
          FROMDEV(QTAPE1) FROMREELS(*NL 1) FROMRCDLEN(100)
          FROMBLKLEN(1000) FROMRCDBLK(*FB) TOMBR(*FIRST)
          MBROPT(*REPLACE)
```

このコマンドは、磁気テープ装置ファイルQTAPEを使用して磁気テープからレコードをコピーします。1000バイト（または10レコード）を1ブロックにブロック化する固定長レコードの、磁気テープ装置QTAPE1上でラベルのない磁気テープ・ファイルの順序実行2のデータ・ファイル中のレコードがコピーされて、ライブラリーMYLIB中にあるファイルKENの最初のメンバー中の既存のレコードを置き換えます。

エラー・メッセージ： CPYFRMTAP

*ESCAPEメッセージ

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2818

TOMBRパラメーターに*FROMMBR値を使用することはできない。

CPF2858

印刷出力のファイル属性が正しくない。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2888

エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。

CPF2909

&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用权を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan